2023年度（令和５年度）
教育・研究業績書

奈良学園大学

別記様式第４号（その２）

教　育　研　究　業　績　書

令和６年４月30日

氏名　大　西　　雅　博

研　究　分　野	研　究　内　容　の　キ　ー　ワ　ー　ド
器楽合奏・器楽演習（打楽器）・マーチング	マーチング、器楽合奏、打楽器、アンサンブル

教　育　上　の　能　力　に　関　す　る　事　項

事　　項	年月日	概　　要
１　教育方法の実践例		
・器楽演習（パーカッション）	平成26年４月～平成29年３月	奈良学園大学において、マーチングバンド部の監督を務める傍ら、非常勤講師として「器楽演習（パーカッション）」の授業を行う。アンサンブルを中心に打楽器の技術を習得し、幼稚園の演奏会、オープンキャンパス等で演奏を披露した。
２　作成した教科書、教材		
・「ドラムトレーニング Vol.1～4」作曲		名古屋芸術大学音楽学部演奏学科の非常勤講師として、「器楽特殊研究」(1～4年生　21人）において、自作の「ドラムトレーニング Vol.1～4」を使用。
・ドラムライン in NUA 作曲		ドラムラインのオリジナル楽曲を作曲。
・アルメニアンダンス NUA オリジナルマーチングコンテ制作		名古屋芸術大学アンサンブルフィラルモニク・ア・ヴァン第11回定期演奏会ステージマーチングのために、オリジナルのドリルデザインを作成。
・ボレロ NUA オリジナルマーチングコンテ制作		名古屋芸術大学アンサンブルフィラルモニク・ア・ヴァン第12回定期演奏会ステージマーチングのために、オリジナルのドリルデザインを作成。
・メリーウィドゥ NUA オリジナルマーチングコンテ制作		名古屋芸術大学アンサンブルフィラルモニク・ア・ヴァン第13回定期演奏会ステージマーチングのために、オリジナルのドリルデザインを作成。
・ジャグラーNUA オリジナルマーチングコンテ制作		名古屋芸術大学アンサンブルフィラルモニク・ア・ヴァン第14回定期演奏会ステージマーチングのために、オリジナルのドリルデザインを作成。

3　教育上の能力に関する大学等の評価		
・名古屋芸術大学における授業評価	平成 22 年 4 月 ～平成 29 年 3 月	当初 3 年間のシラバス、及び学生の反応が評価され、4 年目より選択授業にも関わらず、演奏学科弦管打コースの新入生は全員履修する運びとなった。そしてその後毎年、名古屋芸術大学アンサンブルフィラルモニク・ア・ヴァンの定期演奏会において、オープニングステージを任されることとなる。
・奈良学園大学における授業評価	平成 30 年 4 月～	人間教育学部教授に就任。 「器楽演習」「器楽合奏」「合奏指揮法」「基礎ゼミナール」「人間教育学ゼミナール」等の授業とともに、マーチングバンド部顧問を務める。
4　実務の経験を有する者についての特記事　　項		
・愛媛県吹奏楽連盟マーチング講習会講師	平成 19 年～ 現在に至る	平成 19 年 9 月より毎年２回、愛媛県吹奏楽連盟主催のマーチング講習会が開催されている。中学校・高等学校を中心に 2 校から 3 校が選択され受講の対象となる。基本動作からフォーメーションまで、各団体の希望に応じた指導を行う。
・愛知県吹奏楽連盟マーチング講習会講師	平成 25 年～ 現在に至る	平成 25 年 7 より毎年、愛知県吹奏楽連盟主催のマーチング講習会が開催されている。中学校・高等学校を中心に、基本動作からフォーメーションまで、各団体の希望に応じた指導を行う。
・日本マーチングバンド協会関西支部 ３D 講習会講師	平成 29 年～ 現在に至る	兵庫県立総合体育館において、マーチン協会関西支部主催３D 講習会の講師を務める。
・愛知県吹奏楽連盟 愛知県マーチングコンテスト特別アドバイザー	平成 25 年～ 現在に至る	日本ガイシホールにおいて、愛知県マーングコンテストの特別アドバイザーを務め全団体の DVD にアドバイスを録音する。
・姫路市高等学校吹奏楽連盟 アンサンブルコンサート審査員	平成 16 年～ 現在に至る	姫路パルナソスホール。及びたつの市総文化会館において、毎年１月にアンサンブコンサートの審査と講評を務める。
5　その他		なし

職　務　上　の　実　績　に　関　す　る　事　項		
事　　項	年月日	概　　要
1　資格、免許		
・中学校教諭一級普通免許（音楽）	昭和 57 年 3 月 31 日	昭五六中一普第 4678 号(愛知県教育委員会)
・高等学校教諭二級普通免許（音楽）	昭和 57 年 3 月 31 日	昭五六高二普第 5413 号(愛知県教育委員会)
2　特許等		なし

3　実務の経験を有する者について特記事項 「指導実績」		
・大阪市立菫中学校マーチング講師	平成２６年 11 月 23 日	全日本吹奏楽連盟・朝日新聞社主催、 第 27 回全日本マーチングコンテストにおいて、金賞受賞。
・奈良学園大学マーチングバンド部監督	平成 27 年 2 月 14 日	日本マーチングﾊﾞﾝﾄﾞ協会主催、 第 14 回マーチングステージ全国大会優秀受賞。
・大阪市立菫中学校マーチング講師	平成 27 年 11 月 22 日	全日本吹奏楽連盟・朝日新聞社主催、 第 28 回全日本マーチングコンテストにおいて、金賞受賞。
・奈良学園大学マーチングバンド部監督	平成 28 年 2 月 21 日	日本マーチングﾊﾞﾝﾄﾞ協会主催、 第 15 回マーチングステージ全国大会講評特別賞受賞。
・奈良学園大学マーチングバンド部監督	平成 28 年 12 月 18 日	日本マーチングﾊﾞﾝﾄﾞ協会主催、 第 44 回全国大会において、大編成の部銀賞受賞。
・大阪市立菫中学校マーチング講師	平成 29 年 11 月 19 日	全日本吹奏楽連盟・朝日新聞社主催、 第 30 回全日本マーチングコンテストにおいて、金賞受賞。
・奈良学園大学マーチングバンド部監督	平成 29 年 12 月 17 日	日本マーチングﾊﾞﾝﾄﾞ協会主催、 第 45 回全国大会において、大編成の部銀賞受賞。
・奈良学園大学マーチングバンド部顧問	平成 30 年 12 月 16 日	日本マーチングﾊﾞﾝﾄﾞ協会主催、 第 46 回全国大会において、大編成の部銀賞受賞。
・奈良学園大学マーチングバンド部顧問	令和元年 12 月 15 日	日本マーチングﾊﾞﾝﾄﾞ協会主催、 第 47 回全国大会において、大編成の部銀賞受賞。
・奈良学園大学マーチングバンド部顧問	令和 2 年 12 月 19 日	日本マーチングﾊﾞﾝﾄﾞ協会主催、 第 48 回全国大会おいて、「グッド・パフォーマンス賞」受賞
・大阪市立堀江中学校マーチング講師	令和 3 年 11 月 21 日	全日本吹奏楽連盟・朝日新聞社主催、 第 34 回全日本マーチングコンテストにおいて、金賞受賞。
・奈良学園大学マーチングバンド部顧問	令和 3 年 12 月 12 日	日本マーチングﾊﾞﾝﾄﾞ協会主催、 第 49 回全国大会において、大編成の部金賞受賞。
・奈良学園大学マーチングバンド部顧問	令和 4 年 12 月 11 日	日本マーチングﾊﾞﾝﾄﾞ協会主催、 第 50 回全国大会おいて、大編成の部銀賞受賞。

・奈良学園大学マーチングバンド部顧問	令和５年 12 月 10 日	日本マーチングﾊﾞﾝﾄﾞ協会主催、 第 51 回全国大会おいて、大編成の部金賞受賞。
４　その他		
・愛知県吹奏楽連盟 愛知県マーチングコンテスト特別アドバイザー	平成 26 年 9 月 20 日	日本ガイシホールにおいて、愛知県マーチングコンテストの特別アドバイザーを務め、全団体の DVD にアドバイスを録音する。
・愛媛県吹奏楽連盟 マーチング講習会講師	平成 26 年 9 月 28 日	川之江体育館において、愛媛県吹奏楽連盟主催のマーチング講習会の講師を務める。
・兵庫県吹奏楽連盟 マーチング講習会講師	平成 26 年 11 月 8 日	武庫川樹脂大学において、兵庫県吹奏楽連盟主催のマーチング講習会の講師を務める。
・愛知県吹奏楽連盟 マーチング講習会講師	平成 27 年 8 月 19 日	愛知県吹奏楽連盟主催のマーチング講習会において、講師を務める。
・愛知県吹奏楽連盟 愛知県マーチングコンテスト特別アドバイザー	平成 27 年 9 月 21 日	日本ガイシホールにおいて、愛知県マーチングコンテストの特別アドバイザーを務め、全団体の DVD にアドバイスを録音する。
・愛媛県吹奏楽連盟 マーチング講習会講師	平成 28 年 8 月 29 日	川之江体育館において、愛媛県吹奏楽連盟主催のマーチング講習会の講師を務める。
・愛知県吹奏楽連盟 愛知県マーチングコンテスト特別アドバイザー	平成 28 年 ９月 19 日	日本ガイシホールにおいて、愛知県マーチングコンテストの特別アドバイザーを務め、全団体の DVD にアドバイスを録音する。
・愛媛県吹奏楽連盟 マーチング講習会講師	平成 28 年 ９月 24 日	西条市体育館において、愛媛県吹奏楽連盟主催のマーチング講習会の講師を務める。
・日本マーチングバンド協会関西支部 ３D 講習会講師	平成 29 年 3 月 5 日	兵庫県立総合体育館において、マーチング協会関西支部主催３D 講習会の講師を務める。
・愛媛県吹奏楽連盟 マーチング講習会講師	平成 29 年 8 月 24～25 日	川之江体育館において、愛媛県吹奏楽連盟主のマーチング講習会の講師を務める。
・愛知県吹奏楽連盟 マーチング講習会講師	平成 29 年 8 月 27 日	愛西市立佐織体育館において、マーチング講習会の講師を務める。
・愛知県吹奏楽連盟 愛知県マーチングコンテスト特別アドバイザー	平成 29 年 9 月 18 日	日本ガイシホールにおいて、愛知県マーチングコンテストの特別アドバイザーを務め、全団体の DVD にアドバイスを録音する。
・日本マーチングバンド協会関西支部 ３D 講習会講師	平成 29 年 11 月 4 日	奈良学園大学体育館において、マーチング協会関西支部主催３D 講習会の講師を務める。
・日本マーチングバンド協会関西支部 ３D 講習会講師	平成 30 年 ７月 1 日	アミティーホールにおいて、マーチング協会関西支部主催３D 講習会の講師を務める。
・平成 30 年度全国高等学校総合体育大会「東海総体」開会式のマーチングステージを演出する。	平成 30 年 7 月 30 日	三重県営サンアリーナで開催された、全国高校総体開会式のマーチングステージにおいて、メインステージの演出を務める。
・愛知県吹奏楽連盟 マーチング講習会講師	平成 30 年 8 月 19 日	愛西市立佐織体育館において、マーチング講習会の講師を務める。

・愛媛県吹奏楽連盟 マーチング講習会講師	平成 30 年 9 月 1 日	川之江体育館において、愛媛県吹奏楽連盟主のマーチング講習会の講師を務める。
・愛知県吹奏楽連盟 愛知県マーチングコンテスト特別アドバイザー	平成 30 年 9 月 24 日	日本ガイシホールにおいて、愛知県マーチングコンテストの特別アドバイザーを務め、全団体の DVD にアドバイスを録音する。
・愛媛県吹奏楽連盟 マーチング講習会講師	令和元年 7 月 13 日	松前町体育館において、愛媛県吹奏楽連盟主のマーチング講習会の講師を務める。
・愛知県吹奏楽連盟 マーチング講習会講師	令和元年 8 月 18 日	愛西市立佐織体育館において、マーチング講習会の講師を務める。
・愛知県吹奏楽連盟 愛知県マーチングコンテスト特別アドバイザー	令和元年 9 月 22,22 日	春日井市体育館において、愛知県マーチングコンテストの特別アドバイザーを務め、全団体の DVD にアドバイスを録音する。
・日本マーチングバンド協会関西支部 ３D 講習会講師	令和元年 11 月 9 日	福島区民センターにおいて、マーチング協会関西支部主催３D 講習会の講師を務める。
・兵庫県高等学校文化連盟 高等学校総合文化祭の講評	令和元年 11 月 16 日	ベイコム総合体育館において、高校総文祭マーチングバンド部門の講評を務める。
・愛知県吹奏楽連盟 マーチング講習会講師	令和 2 年 8 月 30 日	初の試みである、オンラインでのマーチング講習会を開催し、講師を務める。
・愛知県吹奏楽連盟 マーチング講習会講師	令和 2 年 9 月 21 日	８月に引き続き、オンラインでのマーチング講習会を開催し、講師を務める。
・愛知県吹奏楽連盟 愛知県マーチングコンテスト特別アドバイザー	令和 3 年 10 月 3 日	日本ガイシホールにおいて、愛知県マーチングコンテストの特別アドバイザーを務め、全団体の DVD にアドバイスを録音する。
・愛媛県吹奏楽連盟 マーチング講習会講師	令和 4 年 8 月 23 日	松前町体育館において、愛媛県吹奏楽連盟主のマーチング講習会の講師を務める。
・愛知県吹奏楽連盟 愛知県マーチングコンテスト特別アドバイザー	令和 4 年 9 月 19 日	日本ガイシホールにおいて、愛知県マーチングコンテストの特別アドバイザーを務め、全団体の DVD にアドバイスを録音する。
・愛知県吹奏楽連盟 愛知県マーチングコンテスト特別アドバイザー	令和 5 年 9 月 18 日	日本ガイシホールにおいて、愛知県マーチングコンテストの特別アドバイザーを務め、全団体の DVD にアドバイスを録音する。
・愛知県吹奏楽連盟 マーチング講習会講師	令和 5 年 10 月 7 日	大高中学校、及び春日井西高校において、東海大会へ向けての講習会の講師を務める。
・第 38 回国民文化祭、いしかわ百万石文化祭出演	令和 5 年 11 月 19 日	第 38 回国民文化祭、いしかわマーチングバンドの祭典に奈良学園大学マーチングバンド部が出演し、好評を得た。
・ローズパレード出演引率 （奈良学園大学有志）	令和 5 年 12 月 28 日	アメリカ合衆国最大級のローズパレードに奈良学園大学の有志メンバー20 名が出演した。一週間に渡り、パレードやコンサートの企画・運営・演出、及び引率を務めた。

「各大会の審査員」		
・姫路市高等学校吹奏楽連盟 アンサンブルコンサート審査員	平成 26 年 1 月 12 日	姫路パルナソスホールにおいて、アンサンブルコンサートの審査と講評を務める。
・福岡県吹奏楽連盟 福岡県マーチングコンテスト審査員	平成 26 年 6 月 15 日	サンパレス福岡において、福岡県マーチングコンテストの審査員を務める。
・沖縄県吹奏楽連盟 沖縄県マーチングコンテスト審査員	平成 26 年 9 月 15 日	沖縄コンベンションセンターにおいて、沖縄県マーチングコンテストの審査員を務める。
・姫路市高等学校吹奏楽連盟 アンサンブルコンサート審査員	平成 27 年 1 月 12 日	たつの市総合文化会館において、アンサンブルコンサートの審査と講評を務める。
・福岡県吹奏楽連盟 福岡県マーチングコンテスト審査員	平成 27 年 6 月 14 日	サンパレス福岡において、福岡県マーチングコンテストの審査員を務める。
・姫路市高等学校吹奏楽連盟 アンサンブルコンサート審査員	平成 27 年 1 月 10 日	たつの市総合文化会館において、アンサンブルコンサートの審査と講評を務める。
・福岡県吹奏楽連盟 福岡県マーチングコンテスト審査員	平成 28 年 6 月 12 日	サンパレス福岡において、福岡県マーチングコンテストの審査員を務める。
・沖縄県吹奏楽連盟 沖縄県マーチングコンテスト審査員	平成 28 年 9 月 10 日	沖縄コンベンションセンターにおいて、沖縄県マーチングコンテストの審査員を務める。
・姫路市高等学校吹奏楽連盟 アンサンブルコンサート審査員	平成 28 年 1 月 8 日	たつの市総合文化会館において、アンサンブルコンサートの審査と講評を務める。
・沖縄県吹奏楽連盟 沖縄県マーチングコンテスト審査員	平成 29 年 9 月 9 日	沖縄コンベンションセンターにおいて、沖縄県マーチングコンテストの審査員を務める。
・姫路市高等学校吹奏楽連盟 アンサンブルコンサート審査員	平成 30 年 1 月 7 日	たつの市総合文化会館において、アンサンブルコンサートの審査と講評を務める。
・四国吹奏楽連盟 四国マーチングコンテスト審査員	平成 30 年 10 月 8 日	西条市体育館において、四国マーチングコンテストの審査員を務める。
・姫路市高等学校吹奏楽連盟 アンサンブルコンサート審査員	平成 31 年 1 月 13 日	たつの市総合文化会館において、アンサンブルコンサートの審査と講評を務める。
・日本マーチングバンド協会北陸支部 マーチングバンド北陸大会審査員	令和元年 11 月 4 日	福井県民体育館において、マーチングバンド北陸大会の審査員を務める。
・姫路市高等学校吹奏楽連盟 アンサンブルコンサート審査員	令和 2 年 1 月 12 日	たつの市総合文化会館において、アンサンブルコンサートの審査と講評を務める。
・日本マーチングバンド協会北陸支部 マーチングバンド北陸大会審査員	令和 2 年 10 月 28 日	オンラインで、マーチングバンド北陸大会の審査員を勤める。
・三重県吹奏楽連盟 三重県マーチングコンテスト審査員	令和 3 年 11 月 3 日	上野市ゆめドームにおいて、三重県マーチングコンテストの審査員を務める。
・姫路市高等学校吹奏楽連盟 アンサンブルコンサート審査員	令和 4 年 1 月 9 日	たつの市総合文化会館において、アンサンブルコンサートの審査と講評を務める。
・兵庫県吹奏楽連盟 兵庫県マーチングコンテスト審査員	令和 4 年 9 月 11 日	グリーンアリーナ神戸において、兵庫県マーチングコンテストの審査員を務める。

・姫路市高等学校吹奏楽連盟 アンサンブルコンサート審査員	令和５年 １月８日	たつの市総合文化会館において、アンサンブルコンサートの審査と講評を務める。
・愛媛県吹奏楽連盟 愛媛県マーチングコンテスト審査員	令和５年 ９月９日	松前町体育館において、愛媛県マーチングコンテストの審査員を務める。
・日本マーチングバンド協会石川県支部 マーチングバンド石川県大会審査員	令和５年 ９月 10 日	加賀市スポーツセンターにおいて、石川県マーチングコンテストの審査員を務める。

研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（機関誌投稿）				
1　どうなる？今後の部活動	単著	平成26年10月21日	教育PRO	自らの経験を基に、今後の部活動のあり方について考察する。
2　「勝つ」ということ	単著	令和3年11月	日本部活動学会会報第１２号	部活動に関わる様々な見地からの記事をリレー形式で掲載する～部活動古今東西～に、部活動の意義について提言する。
（学術論文）				
1　日本におけるマーチングの未来像	共著	平成 25 年 3 月	環太平洋大学研究紀要 2012 年度 vol.2 (第 7 号)	日本独自のマーチングにつて、今後の方向性を考察し、提言する。
2　新しい打楽器練習法	単著	平成 26 年 12 月 1 日	人間教育学研究第 2 号	教育現場における打楽器の技術を、より短時間に能率よく習得する方法を提言する。
3　新しいマーチング指導法	単著	平成 27 年 12 月 1 日	人間教育学研究第 3 号	日本におけるマーチングの現状を検証し、悪しき既成概念を排除するための指導法を考察する。
4　マーチングにおける基本動作の効率的練習法	単著	平成 28 年 3 月 19 日	奈良学園大学紀要第４集	従来の概念にとらわれず、教育現場における効率的な指導法について、検証し提言する。
5　スクールバンドにおける指揮法への一考察	単著	平成 28 年 12 月 1 日	人間教育学研究第 4 号	木管楽器・金管楽器・打楽器の短時間練習法と、合奏指導における効果的な指揮法を考察する。
6　演奏の妨げとなる過緊張（上がり）の軽減について	共著	平成 31 年 3 月 10 日	奈良学園大学紀要第 10 集	俗に言う「あがり症」について検証し、音楽の授業を通して、過緊張を軽減する方法を提言する。
7　意欲的に取り組むための音楽科指導法の一考察	共著	平成 31 年 3 月	奈良学園大学オンラインジャーナル第２巻第 2	音楽の授業における歌唱指導・合唱指導の難しさを検証し、生徒の自主性を高めるための指導法を考察する。
8　新しい時代に向かう鑑賞教育	共著	令和元年 9 月	奈良学園大学紀要第 11 集	鑑賞教育の実態について、問題提起と共に、今後の方向性について考察する。
9　音楽教科における実践的合奏指導法	共著	令和 2 年 3 月	奈良学園大学紀要第 12 集	基本練習を核とした、効率的な器楽指導のあり方について考察する。

（研究ノート） 1　部活動の経営に関する研究	単著	平成 29 年 3 月 10 日	奈良学園大学紀要第 6 集	中学校における部活動経営と、大学生の社会性を高めるための組織づくりを比較し、その関連性を研究する。
2　音楽科における合唱のための発声練習法	共著	令和元年 9 月	奈良学園大学オンラインジャーナル人間教育　第２巻第８号	短期間で効果的な指導法について、実践結果をもとに提言する。
（オリジナルマーチングコンテ制作） 1.　松山市立津田中学校吹奏楽部	単著	平成24年6月	松山市立津田中学校吹奏楽部	アメリカングラフィティーをテーマにマーチングを構成・演出。37 名を対象にオリジナルのマーチングコンテを制作。全日本吹奏楽連盟・朝日新聞社主催、第 25 回全日本マーチングコンテストにおいて、銀賞受賞。
2.　大阪市立菫中学校吹奏楽部	単著	平成25年～29年	大阪市立菫中学校吹奏楽部	ジャズをテーマに構成演出。 全日本吹奏楽連盟・朝日新聞社主催、全日本マーチングコンテストに 4 回出場し、優秀な成績を収める。
3.　平成30年度全国高等学校総合体育大会「東海総体」開会式	単著	平成30年7月	三重県高等学校合同バンド	平成 30 年度全国高等学校総合体育大会「東海総体」のメイン開会式において、マーチングコンテを作成し、ステージの演出を務める。
4.　大阪市堀江中学校吹奏楽部	単著	令和 3 年 11 月	大阪市堀江中学校吹奏楽部	アフリカをテーマにマーチングを構成・演出し、全国大会初出場を果たす。全日本吹奏楽連盟・朝日新聞社主催、第 34 回全日本マーチングコンテストにおいて、金賞受賞。
5.　大阪市堀江中学校吹奏楽部	単著	令和 5 年 11 月	大阪市堀江中学校吹奏楽部	全日本吹奏楽連盟・朝日新聞社主催、第 36 回全日本マーチングコンテストにおいて、金賞受賞。
6.　松山東雲高等学校吹奏楽部	単著	令和 6 年 2 月	松山東雲高等学校吹奏楽部	全日本吹奏楽連盟・朝日新聞社主催、第22回マーチングステージ全国大会に出場。

様式２

教　育　研　究　業　績　書

令和6年3月31日

氏名　　岡 村　季 光　　印

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
１　教育方法の実践例		
1.　初歩の心理統計学を用いたデータ分析処理の実践	平成28年4月～現在に至る	奈良学園大学にて平成28年度より開講した「人間教育学ゼミナールⅠ（基礎）」において，高校の数学Ⅰの知識を利用した初歩の心理統計学を用い，調査や実験を通して取得したデータを分析することで，心理学研究法を学んだ。その結果，心理学研究論文に記載されているデータの意味を理解し，卒業研究に必要な文献購読の初歩的スキルが向上した。
2.　調査及び統計解析に基づく卒業論文の指導	平成29年4月～現在に至る	奈良学園大学にて平成29年度より開講した「人間教育学ゼミナールⅡ（応用）」「卒業研究」において，文献による先行研究の概観，仮説に基づく調査や実験の実施，統計解析における実証的検討及び考察を通して卒業論文の執筆指導を行った。その結果，平成29年度は4名，平成30年度は3名，平成31（令和元）年度は1名，令和3年度は1名の学生が卒業論文を完成し，いずれの学生もデータに基づき現象の把握及び考察を行うアカデミックスキルの育成を行うことができた。
２　作成した教科書，教材		
1.　教育心理学テキスト共同執筆 『改訂版 教育心理学入門－心理学による教育方法の充実－』（再掲）	平成21年10月～平成28年９月	『改訂版 教育心理学入門－心理学による教育方法の充実－』を共同執筆した。帝塚山大学で担当する「教育心理学」（教職科目，２年次配当，半期，必修２単位）にて当該教科書を使用した。
2.　教育心理学テキスト共同執筆 『よくわかる！教職エクササイズ　教育心理学』（再掲）	平成30年４月，令和５年４月～現在に至る	『よくわかる！教職エクササイズ　教育心理学』を共同執筆した。奈良学園大学で担当する「発達・教育心理学」（教職科目，２年次配当，半期，必修２単位）及び帝塚山大学で担当する「教育心理学」（教職科目，２年次配当，半期，必修２単位）にて当該教科書を使用している。
3.　教育相談テキスト共同執筆 『コンパス 教育相談』（再掲）	令和４年３月	『コンパス 教育相談』を共同執筆した。
３　教育上の能力に関する大学等の評価		
1.　奈良学園大学における授業満足度アンケート結果	令和５年度	前期は講義内容・方法に関して全体平均3.75～4.24に比し当該教員の平均は3.55～3.97であった。 後期は講義内容・方法に関して全体平均3.72～4.12に比し当該教員の平均は3.74～4.45であった。
2.　帝塚山大学における授業満足度アンケート結果	令和４年度	「総合的に判断して，この授業はあなたにとって意義のあるものですか。」の質問に対し，“意義がある”52%，“ある程度意義がある”462%，“あまり意義がない”1%，“意義がない”0%という結果であった。
４　実務の経験を有する者についての特記事項		
1.　奈良学園大学における学生支援センターのケース会議に参加	平成26年４月～平成31年３月	奈良学園大学で，高校からの環境の激変や発達障害等による学生問題行動事象に対して，医療機関と連携して，学生のカウンセリングを継続的定期的に担当した。また該当学生にかかわる教員全員に対し「学生指導上の配慮の手紙」を発行するなどして，カウンセリング効果を組織的に実効あるものにするよう指導的役割を果たした。また，関係者が集まり該当学生につき論議するケース会議を月に1回の割合で定期的に主催した。

事項	年月日	概要
５　その他 1.　帝塚山大学現代生活学部食物栄養学科・居住空間デザイン学科における教育実績	平成22年４月～現在に至る	「教育心理学」（平成22年４月～現在に至る） 帝塚山大学 現代生活学部食物栄養学科・居住空間デザイン学科の「教育心理学」（教職科目，２年次配当，半期，必修２単位）において教育現場で起こる出来事を心理学の視点から解説・捉え直しをする基礎的な内容の授業を行い，それによって，学生に教育における心理学の位置づけについて理解させる教育効果があった。 「教育相談」（平成22年10月～現在に至る） 帝塚山大学 現代生活学部食物栄養学科・居住空間デザイン学科の「教育相談」（教職科目，３年次配当，半期，必修２単位）において教育相談に関する理論及び実践に関する内容の授業を行い，それによって，学生に教育相談の意義とカウンセリング・マインドの必要性について理解させる教育効果があった。 「発達心理学」（令和４年４月～現在に至る） 帝塚山大学 現代生活学部食物栄養学科・居住空間デザイン学科の「発達心理学」（一般科目，２年次配当，半期，選択２単位）において人間の様々な諸側面の生涯発達に関する内容の授業を行い，それによって，学生に人間のライフサイクルや発達段階及び発達課題について理解させる教育効果があった。
2.　帝塚山大学教育学部こども教育学科における教育実績	令和２年10月～現在に至る	「教育相談」（令和２年10月～現在に至る） 帝塚山大学 現代生活学部こども学科（令和４年度から教育学部こども教育学科）（教職科目，４年次配当，半期，必修２単位）において教育相談に関する理論及び実践に関する内容の授業を行い，それによって，学生に教育相談の意義とカウンセリング・マインドの必要性について理解させる教育効果があった。
3.　奈良学園大学人間教育学部人間教育学科における教育実績	平成26年４月～現在に至る	「基礎ゼミナールⅠ」「基礎ゼミナールⅡ」（平成26年４月～現在に至る） 奈良学園大学 人間教育学部人間教育学科の「基礎ゼミナールⅠ」「基礎ゼミナールⅡ」（いずれも専門科目，１～２年次配当，通年，必修２単位）において，大学生として，高度な専門知識と確かな学士力を身につけるためのアカデミックスキルを身につけることを目指し，上述のスキルの基礎となる文献研究の方法やレポート作成法などを教授し，スキル育成の教育効果があった。 「教職表現力演習Ⅰ」（平成26年４月～平成29年３月まで） 奈良学園大学 人間教育学部人間教育学科の「教職表現力演習Ⅰ」（専門科目，１年次配当，通年，選択２単位）において，新聞記事や評論文等を参照する，あるいは講話を聴き文章を作成する授業を展開した。それによって，学生に言語活動の聴く・読む・話す・書く能力のうち特に「書く力」である「文章表現力」の基礎を身につける教育効果があった。 「教職表現力演習Ⅱ」（平成27年４月～平成29年３月まで） 奈良学園大学 人間教育学部人間教育学科の「教職表現力演習Ⅱ」（専門科目，２年次配当，通年，選択２単位）において，アカデミックな文章を読み，書くためのトレーニングを行った。具体的には，文章の論理性の理解，データの読み方，書籍輪読，内容発表およびディスカッションである。それらの取り組みによって，学生に言語活動の聴く・読む・話す・書く能力が養われ，特に「書く力」である「文章表現力」を身につける教育効果があった。

事項	年月日	概要
奈良学園大学人間教育学部人間教育学科における教育実績（続き）		「発達・教育心理学Ａ（初等）」（平成27年４月～令和５年９月。令和元年度までは「教育心理学Ａ（初等）」） 奈良学園大学 人間教育学部人間教育学科の「発達・教育心理学Ａ（初等）」（専門科目，２年次配当，半期，選択２単位）において，就学前・初等教育現場で起こる出来事を心理学の視点から解説・捉え直しをする基礎的な内容の授業を行い，それによって，学生に就学前・初等教育における心理学の位置づけについて理解させる教育効果があった。 「発達・教育心理学Ｂ（中等）」（平成27年４月～令和５年９月。令和元年度までは「教育心理学Ｂ（中等）」） 奈良学園大学 人間教育学部人間教育学科の「発達・教育心理学Ｂ（中等）」（専門科目，２年次配当，半期，選択２単位）において，中等教育現場で起こる出来事を心理学の視点から解説・捉え直しをする基礎的な内容の授業を行い，それによって，学生に中等教育における心理学の位置づけについて理解させる教育効果があった。 「人間教育学ゼミナールⅠ（基礎）」（平成28年４月～現在に至る） 奈良学園大学 人間教育学部人間教育学科の「人間教育学ゼミナールⅠ（基礎）」（専門科目，３年次配当，通年，必修４単位）において，ライフステージにおいて特に重要視されている青年期を中心とした発達の理論を学習するとともに，青年期の諸側面について心理学の視点から理解を深めるた。また，卒業論文を視野に入れ，パソコン操作技能及び統計の基礎的知識習得にも取り組んだ。その結果，心理学研究論文に記載されているデータの意味を理解し，卒業研究に必要な文献購読の初歩的スキルが向上した。 「教育相談の理論と方法Ａ（初等）」（平成28年10月～現在に至る） 奈良学園大学 人間教育学部人間教育学科の「教育相談の理論と方法Ａ（初等）」（専門科目，３年次配当，半期，選択２単位）において，初等教育現場における教育相談の活動並びにカウンセリングに関する基礎的な知識を学んだ。それによって，学生に初等教育における教育相談の理論と方法について理解させる教育効果があった。 「教育相談の理論と方法Ｂ（中等）」（平成28年10月～現在に至る） 奈良学園大学 人間教育学部人間教育学科の「教育相談の理論と方法Ｂ（中等）」（専門科目，３年次配当，半期，選択２単位）において，中等教育現場における教育相談の活動並びにカウンセリング及び心理教育に関する基礎的な知識を学んだ。それによって，学生に中等教育における教育相談の理論と方法について理解させる教育効果があった。 「保育相談支援」（平成28年10月～平成31年３月） 奈良学園大学 人間教育学部人間教育学科の「保育相談支援」（専門科目，３年次配当，半期，選択２単位）において，幼児教育現場における保育相談の活動並びにカウンセリングに関する基礎的な知識を学んだ。それによって，学生に初等教育における保育相談の理論と方法について理解させる教育効果があった。 「人間教育学ゼミナールⅡ（応用）」（平成29年４月～現在に至る） 奈良学園大学 人間教育学部人間教育学科の「人間教育学ゼミナールⅡ（応用）」（専門科目，４年次配当，通年，必修４単位）において，卒業論文執筆に向けた先行研究の渉猟及び文献の読解に取り組んだ。その結果，卒業論文執筆に必要な序論構成を組み立てる力を養う教育効果があった。

事項	年月日	概要
奈良学園大学人間教育学部人間教育学科における教育実績（続き）		「卒業研究」（平成29年10月～現在に至る） 奈良学園大学 人間教育学部人間教育学科の「人間教育学ゼミナールⅡ（応用）」（専門科目，４年次配当，通年，選択４単位）において，仮説に基づく調査や実験の実施，統計解析における実証的検討及び考察を通して卒業論文の執筆指導を行った。その結果，平成29年度は4名，平成30年度は3名，平成31（令和元）年度は1名，令和３年度は1名の学生が卒業論文を完成し，いずれの学生もデータに基づき現象の把握及び考察を行うアカデミックスキルの育成を行うことができた。 「人間教育実践力開発演習Ⅰ」（平成30年４月～平成31年３月） 奈良学園大学 人間教育学部人間教育学科の「人間教育実践力開発演習Ⅰ」（専門科目，１年次配当，通年，選択２単位）において，教育・保育実践力を高めるために，地域園・学校へのボランティアに参加するための事前学習や行事参加を通して，幼児教育・保育における今日的課題について理解を深め，ボランティアに参加するまでの課題を各自が明確にすることができた。 「人間教育実践力開発演習Ⅱ」（平成30年４月～平成31年３月） 奈良学園大学 人間教育学部人間教育学科の「人間教育実践力開発演習Ⅱ」（専門科目，２年次配当，通年，選択１単位）において，教育・保育実践力を高めるために，地域園・学校へのボランティアに週１回継続的に参加することで，幼児教育・保育における今日的課題について理解を深め，教育・保育実習に向けた課題を各自が明確にすることができた。 「保育の心理学Ⅰ」（平成30年４月～平成30年９月） 奈良学園大学 人間教育学部人間教育学科の「保育の心理学Ⅰ」（専門科目，３年次配当，半期，保育士資格必修２単位）において人間の様々な諸側面の生涯発達に関する内容の授業を行い，それによって，学生に人間のライフサイクルや発達段階及び発達課題について理解させる教育効果があった。 「保育の心理学Ⅱ」（平成30年10月～平成31年３月） 奈良学園大学 人間教育学部人間教育学科の「保育の心理学Ⅱ」（専門科目，３年次配当，半期，保育士資格必修１単位）において幼児の心的理解の方法に関する内容の授業を行い，それによって，学生に子どもの発達や知的能力，性格に関するアセスメント及び保育への貢献について理解させる教育効果があった。 「保育相談」（令和元年10月～令和２年３月） 奈良学園大学 人間教育学部人間教育学科の「保育相談」（専門科目，４年次配当，後期，保育士資格必修１単位）において，現場における保育相談の活動並びに子育て支援に関する基礎的な知識及び実践を学んだ。それによって，学生に保育相談の理論と方法について理解させる教育効果があった。 「子ども家庭支援論」（令和３年４月～現在に至る） 奈良学園大学 人間教育学部人間教育学科の「保育相談」（専門科目，３年次配当，前期，保育士資格必修２単位）において，現場における子ども家庭支援に関する基礎的な知識及び実践を学んだ。それによって，学生に子ども家庭支援の理論と方法について理解させる教育効果があった。

事項	年月日	概要
奈良学園大学人間教育学部人間教育学科における教育実績（続き）		「子どもの理解と援助」（令和４年９月～現在に至る） 奈良学園大学 人間教育学部人間教育学科の「保育相談」（専門科目，３年次配当，後期，保育士資格必修２単位）において，現場における子どもの理解と援助に関する基礎的な知識及び実践を学んだ。それによって，学生に子どもの能力における諸側面と援助について理解させる教育効果があった。 「発達・教育心理学」（令和５年４月～現在に至る） 奈良学園大学 人間教育学部人間教育学科の「発達・教育心理学」（専門科目，２年次配当，半期，選択２単位）において，就学前・初等・中等教育現場で起こる出来事を心理学の視点から解説・捉え直しをする基礎的な内容の授業を行い，それによって，学生に就学前・初等・中等教育における心理学の位置づけについて理解させる教育効果があった。
7. 平成26年度奈良学園大学公開講座の登壇	平成26年７月12日	平成26年度奈良学園大学公開講座に登壇し，講演を行った。 本講演の内容は，1)様々な学際領域から「居場所」をどのように捉えられているのか，2)実証的研究から見えてくる「居場所」とは何なのか，3)「居場所」づくりにはどのような視点が重要なのか，の３点であった。
8. 奈良女子大学文学部人間科学科における教育実績	平成27年10月～平成28年３月	「青年心理学特殊研究」（平成27年10月～平成28年３月） 奈良女子大学文学部の「青年心理学特殊研究」（専門科目，２年次配当，半期，選択２単位）において，生涯発達に関する理論を理解し，青年期のライフスタイルならびにアイデンティティの発達に重きをおいた諸側面について授業を行い，それによって，学生に自らのライフを振り返り展望しながら論理的に思考する教育効果があった。
9. 大和高田市立看護専門学校看護学科における教育実績	平成28年４月～現在に至る	「人間の心・精神」（平成28年４月～現在に至る） 大和高田市立看護専門学校看護学科の「人間の心・精神」（１年次配当，半期，１単位）において，多岐にわたる心理学の領域，研究及び歴史についての基礎的知識を学んだ。本講義によって，心の働きやシステムについて理解を深め，心理学の歴史や研究における知識を得られる教育効果があった。
10. 三郷町立西部保育園の新任研修講師	平成28年10月３日	三郷町立西部保育園の新任研修講師として，「子ども理解を深める」という演題で講義を行った。具体的には，「神戸少年の街版 コモンセンス・ペアレンティング」を紹介し，大人が子どもにどのようにかかわるのが適切な方法か，ロールプレーも交えた実践的な演習課題に取り組んだ。本講義によって，子どもへの適切なかかわり方の方法論を獲得する教育効果がみられた。
11. 一般社団法人日本精神科看護協会品川研修センターにて教育理論研修会（講義内容：「教育心理－青年心理－」）の講師	平成28年11月15日	一般社団法人日本精神科看護協会品川研修センターにて教育理論研修会「教育心理－青年心理－」の講師を務めた。内容は，青年期のライフスタイルならびにアイデンティティの発達に重きをおいた諸側面について理解を深めた。本講義によって，青年期の諸側面について深い知識を得られる教育効果があった。
12. 奈良県看護協会実習指導者講習会「教育心理」の講師	平成29年９月５日	奈良県看護協会にて実習指導者講習会「教育心理」の講師を務めた。内容は，青年期を中心とした生涯発達理論，認知発達過程，学習理論，学習意欲と動機づけ，カウンセリング概論及び演習であった。本講義によって，指導対象となる看護学生の年代である青年期の諸側面について深い知識を得られる教育効果があった。

事項	年月日	概要
13. 一般社団法人日本精神科看護協会京都研修センターにて教育理論研修会（講義内容：「教育心理－青年心理－」）の講師	平成29年９月25日	一般社団法人日本精神科看護協会京都研修センターにて教育理論研修会「教育心理－青年心理－」の講師を務めた。内容は，青年期のライフスタイルならびにアイデンティティの発達に重きをおいた諸側面について理解を深めた。本講義によって，青年期の諸側面について深い知識を得られる教育効果があった。
14. 三郷町立西部保育園の新任研修講師	平成29年10月３日	三郷町立西部保育園の新任研修講師として，「子ども理解を深める」という演題で講義を行った。具体的には，「神戸少年の街版 コモンセンス・ペアレンティング」を紹介し，大人が子どもにどのようにかかわるのが適切な方法か，ロールプレーも交えた実践的な演習課題に取り組んだ。本講義によって，子どもへの適切なかかわり方の方法論を獲得する教育効果がみられた。
15. 教員免許更新講習（選択領域）講師	平成30年８月16日	奈良学園大学にて幼稚園教諭対象の教員免許更新講習において，「環境を踏まえた子どもの育ちと保育内容の充実」の小テーマとして，幼稚園の終わりまでに育ってほしい「10の姿」と児童期以降のつながりについて，発達心理学の観点から講義を行った。園児に現在どのような力が育ち，今後伸びていくのかを「10の姿」から考えるワークを行い，乳幼児期の学びが児童期以降の発達につながることを理解するという教育効果がみられた。
16. 奈良県看護協会実習指導者講習会「教育心理」の講師	平成30年９月３日	奈良県看護協会にて実習指導者講習会「教育心理」の講師を務めた。内容は，青年期を中心とした生涯発達理論，認知発達過程，学習理論，学習意欲と動機づけ，カウンセリング概論及び演習であった。本講義によって，指導対象となる看護学生の年代である青年期の諸側面について深い知識を得られる教育効果があった。
17. 三郷町立西部保育園の新任研修講師	平成30年10月４日	三郷町立西部保育園の新任研修講師として，「子ども理解を深める」という演題で講義を行った。具体的には，「神戸少年の街版 コモンセンス・ペアレンティング」を紹介し，大人が子どもにどのようにかかわるのが適切な方法か，ロールプレーも交えた実践的な演習課題に取り組んだ。本講義によって，子どもへの適切なかかわり方の方法論を獲得する教育効果がみられた。
18. 教員免許更新講習（選択領域）講師	令和元年８月16日	奈良学園大学にて幼稚園教諭対象の教員免許更新講習において，「環境を踏まえた子どもの育ちと保育内容の充実」の小テーマとして，幼稚園の終わりまでに育ってほしい「10の姿」と児童期以降のつながりについて，発達心理学の観点から講義を行った。園児に現在どのような力が育ち，今後伸びていくのかを「10の姿」から考えるワークを行い，乳幼児期の学びが児童期以降の発達につながることを理解するという教育効果がみられた。
19. 奈良県看護協会実習指導者講習会「教育心理」の講師	令和元年９月２日	奈良県看護協会にて実習指導者講習会「教育心理」の講師を務めた。内容は，青年期を中心とした生涯発達理論，認知発達過程，学習理論，学習意欲と動機づけ，カウンセリング概論及び演習であった。本講義によって，指導対象となる看護学生の年代である青年期の諸側面について深い知識を得られる教育効果があった。
20. 一般社団法人日本精神科看護協会京都研修センターにて教育理論研修会（講義内容：「教育心理－青年心理－」）の講師	令和元年９月30日	一般社団法人日本精神科看護協会京都研修センターにて教育理論研修会「教育心理－青年心理－」の講師を務めた。内容は，青年期のライフスタイルならびにアイデンティティの発達に重きをおいた諸側面について理解を深めた。本講義によって，青年期の諸側面について深い知識を得られる教育効果があった。

事項	年月日	概要
21. 三郷町立西部保育園の新任研修講師	令和元年10月３日	三郷町立西部保育園の新任研修講師として，「特別支援における保護者対応について」という演題で講義を行った。具体的には，「（発達）障害の理解」「発達障害の対応」「保護者を「支える」ということ」という流れに沿って講義を行った。本講義によって，特別支援における子どもへの見方，適切なかかわり方の方法論を獲得する教育効果がみられた。
22. 奈良県看護協会実習指導者講習会「教育心理」の講師	令和２年８月24日	奈良県看護協会にて実習指導者講習会「教育心理」の講師を務めた。内容は，青年期を中心とした生涯発達理論，認知発達過程，学習理論，学習意欲と動機づけ，カウンセリング概論及び演習であった。本講義によって，指導対象となる看護学生の年代である青年期の諸側面について深い知識を得られる教育効果があった。
23. 奈良県看護協会実習指導者講習会「教育心理」（一般領域）の講師	令和３年７月29日・７月30日・８月３日	奈良県看護協会にて実習指導者講習会「教育心理」の講師を務めた。内容は，青年期を中心とした生涯発達理論，認知発達過程，社会性の発達，学習理論，性格と適応，知能，学習意欲と動機づけ，教授学習理論，カウンセリング概論及び演習であった。本講義によって，指導対象となる看護学生の年代である青年期の諸側面について深い知識を得られる教育効果があった。
24. 大阪音楽大学音楽学部音楽学科・大阪音楽大学短期大学部音楽科における教育実績	令和３年９月～現在に至る	大阪音楽大学音楽学部音楽学科・大阪音楽大学短期大学部音楽科「青年心理学」の講師を務めた。内容は，青年期を中心とした生涯発達理論，身体発達とその認知，思考感情発達過程，対人関係，アイデンティティ形成，キャリア発達であった。本講義によって，中等教育教員免許取得を目指す学生に青年期の本質について理解させる教育効果があった。
25. 奈良県看護協会実習指導者講習会「教育心理」（特定領域）の講師	令和３年11月27日	奈良県看護協会にて実習指導者講習会「教育心理」（特定領域）の講師を務めた。内容は，教育心理（生涯発達理論，学習理論，学習意欲と動機づけ），教育原理（教育の意義と目的），教育方法（教育の基本的な方法や技術，評価方法）であった。本講義によって，指導対象となる看護学生の年代である青年期の諸側面について深い知識を得られる教育効果があった。
26. 奈良県看護協会実習指導者講習会「教育心理」（一般領域）の講師	令和４年８月２日～４日	奈良県看護協会にて実習指導者講習会「教育心理」の講師を務めた。内容は，青年期を中心とした生涯発達理論，認知発達過程，社会性の発達，学習理論，性格と適応，知能，学習意欲と動機づけ，教授学習理論，カウンセリング概論及び演習であった。本講義によって，指導対象となる看護学生の年代である青年期の諸側面について深い知識を得られる教育効果があった。
27. 奈良県看護協会実習指導者講習会「教育心理」（特定領域）の講師	令和４年10月１日	奈良県看護協会にて実習指導者講習会「教育心理」（特定領域）の講師を務めた。内容は，教育心理（生涯発達理論，学習理論，学習意欲と動機づけ），教育原理（教育の意義と目的），教育方法（教育の基本的な方法や技術，評価方法）であった。本講義によって，指導対象となる看護学生の年代である青年期の諸側面について深い知識を得られる教育効果があった。
28. 奈良県看護協会実習指導者講習会「教育心理」（一般領域）の講師	令和５年６月24日，７月６日，７月８日	奈良県看護協会にて実習指導者講習会「教育心理」の講師を務めた。内容は，青年期を中心とした生涯発達理論，認知発達過程，社会性の発達，学習理論，性格と適応，知能，学習意欲と動機づけ，教授学習理論，カウンセリング概論及び演習であった。本講義によって，指導対象となる看護学生の年代である青年期の諸側面について深い知識を得られる教育効果があった。

事項	年月日	概要
29. 奈良県看護協会実習指導者講習会「教育心理」（特定領域）の講師	令和５年８月17日	奈良県看護協会にて実習指導者講習会「教育心理」（特定領域）の講師を務めた。内容は，教育心理（生涯発達理論，学習理論，学習意欲と動機づけ），教育原理（教育の意義と目的），教育方法（教育の基本的な方法や技術，評価方法）であった。本講義によって，指導対象となる看護学生の年代である青年期の諸側面について深い知識を得られる教育効果があった。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1　資格，免許		
1. 修士（教育学）	平成13年３月	奈良教育大学　第817号 「修士論文題名：自己及び他者との関係における『居場所』の個人差」
2. 教員免許	平成13年３月	中学校教諭専修免許状（社会）取得（学校心理学付記）（平12中専修第20号，奈良県教育委員会）
3. 学校心理士	平成16年11月	第82689号 （令和元年12月更新，令和６年12月まで有効）
4. 公認心理師	令和４年９月	第56166号（令和４年９月14日登録）
2　特許等		（な　し）
3　実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 広報委員会における活動	平成26年４月～平成27年３月	奈良学園大学にて広報委員会に所属し，委員として大学案内の内容，オープンキャンパスの内容企画，今後の広報活動及び戦略について検討を行った。
2. 教務委員会における活動	平成26年４月～平成30年３月，平成31年４月～令和２年３月	奈良学園大学にて教務委員会に所属し，委員としてＧＰＡ基準，試験要領の検討，追・再試験に関する取り扱い，入学前他大学等既修得単位の認定，保育士資格取得に関する整備，卒業論文にかかる諸規定の整備について体制を築いた。
3. 教職・保育課程委員会における活動	平成30年４月～平成31年３月	奈良学園大学にて教職・保育課程委員会に所属し，委員として介護等体験の指導，教育実習の訪問指導を行った。
4. 入学試験委員会における活動	令和２年４月～令和４年３月	奈良学園大学にて入学試験委員会に所属し，委員として入試要項の改訂並びに入試日の検討を行った。また，入学試験日当日には試験監督や面接官を務めた。
5. 共通教育委員会における活動	令和３年４月～令和４年３月	奈良学園大学にて共通教育委員会に所属し，（副）委員長としてキャンパス統合に伴う開講期の検討，共通教育科目履修登録者数及び不開講科目報告，次年度開講科目及び科目担当者の検討，特別聴講生開放科目の検討に加え，「数理・データサイエンス・AIに対応した科目」の検討を行った。
6. IR情報活用推進委員会における活動	令和３年４月～令和５年３月，令和５年10月～現在に至る	奈良学園大学にてIR情報活用推進委員会に所属し，委員として学内のさまざまな学生情報の収集及び分析について検討を行った。加えて，令和５年10月より委員長に就任し，委員会運営を行っている。
7. 評議会における活動	令和５年４月～現在に至る	奈良学園大学にて評議会に所属し，委員として学内の運営に必要な事項について審議を行っている。

事項	年月日	概要
4　その他		
1. 関西心理学会事務局及び常任委員会活動	平成25年４月～現在に至る	関西心理学会事務局及び常任委員に任命され，平成29年３月まで学会事務局及び常任委員会の運営に携わった。また，平成27年４月より幹事に就任し，平成29年３月まで事務局の取りまとめを行った。また，平成29年４月より監事に就任し，会計監査に携わっている。
2. 奈良文化高等学校第三者評価委員会活動	令和２年４月～現在に至る	奈良文化高等学校にて第三者評価委員会委員に任命され，当該校の本科課程及び専攻科課程の学校経営計画，学校自己評価及び学校関係者評価報告書を受理した。上述の報告書に対し，それぞれの課程に高等学校相当として十分認められる旨評価を行うとともに，所見として評価の概要について意見を述べた。
3. 奈良県生駒郡三郷町子ども・子育て会議活動	令和３年１月28日～令和４年６月30日	奈良県生駒郡三郷町子ども・子育て会議にて議長に任命され，三郷町子どもの実態調査実施に向けて項目選定に携わった。
4. 日本学校心理士会奈良支部役員活動	令和３年６月19日～現在に至る	日本学校心理士会奈良支部役員に任命され，支部活動に携わっている。
5. 御所市いじめ防止対策委員会委員活動	令和４年４月～現在に至る	御所市いじめ防止対策委員会委員に任命され，御所市内の小中学校いじめに関する現況の報告を受けている。

研究業績等に関する事項				
著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) 1. 教育フォーラム第55号「実践的思考力・課題解決力を鍛える：PISA型学力をどう育てるか」	共著	平成27年２月	金子書房	実践的な諸課題に向けての解決をどう図っていくのか，そのために必要となる思考力や問題解決力をどのような形で鍛えていくか，実りある着実な学習活動の展開を具体的に提案している。 Ａ５判　全160頁 編　者：梶田叡一 共著者：伊崎一夫・井上信子・大内善一・岡村季光・梶田叡一・加藤　明・金澤孝夫・鎌田首治朗・蔵あすか・萩原憲二・藤井幸一・藤田英治・宮岸　洋（50音順） 本人担当部分：「一人ひとりの「居場所」をどうつくるか」（pp.111-121）の部分を単著。 これまでの先行研究から居場所を「個人性－社会性」「主観性－客観性」の軸で捉えることが可能であることを示した。また，実証的研究の知見から「居場所がない」と感じる者に精神的な安定・安心を感じるような経験を提供すること，居場所感を毎日感じられる経験を積み重ねること，大人や仲間の支えにより成長・自立を図ることが重要であることを示唆した。
2. 教育フォーラム第60号「深い学びのために：アクティブ・ラーニングの目指すもの」	共著	平成29年８月	金子書房	学習指導要領にある「深い学び」は，いまだ焦点が拡散している印象がある。実践的な指導を提案しながら，基本ポイントを押さえ明確にしている。 Ａ５判　全148頁 編　者：梶田叡一 共著者：伊崎一夫・石森広美・大畑健実・岡村季光・梶田叡一・鎌田首治朗・金山憲正・後藤紗貴・菅井啓之・善野八千子・瀧明知惠子・古川　治・松井典夫・湯峯　裕（50音順） 本人担当部分：「震災における教員の役割を考える」（pp.125-134）の部分を執筆。 本稿では避難所と学校の関係，避難所に携わる教員に焦点をあて，考察を行った。具体的には，震災時における避難所で教員は責任感や使命感をもって活動している一方，自らを省みず活動することによる教員自身の心身不調の問題を指摘した。また，熊本地震において被災した学校に勤務する教員と非災害地域の教員を比較した調査を実施した。その結果，熊本の教員が一連の熊本地震に対する長期のストレス状況にあり，エネルギーの枯渇に伴う意欲低下，自らの存在価値を見出せない教員が少なからずいることを指摘した。最後に，提言として，1)学校が平時より地域と連携することの重要性，2)避難所における教員のリーダーシップの発揮と自治組織への移譲，3)教員のメンタルヘルスへの支援を挙げた。
3. よくわかる！教職エクササイズ　教育心理学	共著	平成30年４月	ミネルヴァ書房	簡潔な解説で，教育心理学の基礎理論からその教育実践への応用まで学べる。授業で使いやすいよう，ディスカッション課題やワークなどの演習課題，資料図版を豊富に掲載。ノートページには書き込みの課題を提示しており，学生が自ら考え，つくりあげることができる。各講の最後は教員採用試験を掲載している。 Ｂ５判　全216頁 編　者：田爪宏二 共著者：今林俊一・梅本貴豊・岡村季光・下木戸隆司・滝口圭子・立元 真・原口 恵・増田優子・森田健宏（50音順） 本人担当部分：「第４講 心身の発達③青年期以降」（pp.50-60.）部分を単著。青年期における身体発達，対人関係の発達，発達主題（アイデンティティの統合）についてそれぞれ説明を行った後，成人期以降の発達について紹介した。また，「青年期」の誕生についても，歴史的背景を中心に説明を行った。

著書，学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所，発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概要
4. コンパス 教育相談	共著	令和４年３月	建帛社	教育相談の総論的内容から，子どもの問題行動に着目した実践的内容，教育相談を担う教師・保育者が必要となる内容までを網羅し，解説。子どもが抱える問題やその背景を理解するための理論，最新の知見を学べる。 B5判　全144頁 編　者：住本克彦 共著者：赤松久美子・新井 肇・磯部美良・荆木まき子・岡村季光・加島ゆう子・片山則昭・加藤由美・門原眞佐子・上地玲子・小泉令三・阪中順子・坂中尚哉・定金浩一・清水里香・高橋彩・高橋千香子・高橋典久・立浪朋子・崔 回淑・葉山貴美子・原 志津・深津久美子・福森護・藤田由起・古川 治・松田文春・南 雅則・山口裕毅（50音順） 本人担当部分：「第１章 教育相談の意義 ３ 教育・保育に求められる臨床的な視点」（pp. 7-9）部分を単著。本項では，第１に心理臨床で求められる視点を取り上げ，教育・保育に求められる臨床的な視点との異同を比較した。第２に心理学における対象をとらえる視点について触れた。上述の検討を行うことで，教育・保育に求められる臨床的な視点において，子どもの様子をよく観察し，信頼関係を築くことの重要性を指摘した。また，これまでの経験・知識と教育・保育で見いだされた知見の両面を参照しながら子どもと関わることを指摘した。

著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（学術論文） 1. 「居場所」（安心できる人）とひとりで過ごす感情・評価の関係	単著	平成26年９月	奈良学園大学研究紀要第１号 pp. 191-197.	安心できる人の評定とひとりで過ごすことに関する感情・評価の関係を検討した。その結果，“自分ひとり”の安心感を高く評定するものは，ひとりで過ごすことに肯定的な捉え方をしていることが示唆され，ひとりで過ごす感情・評価との関係が明らかになった。これはひとりで過ごすことに必ずしもネガティブな感情を抱いていないことを示唆するものであった。
2. 保育学生におけるコラージュ作品の形式分析及び作品印象に関する基礎的研究	共著	平成26年12月	奈良保育学院研究紀要第16号 pp. 103-110.	本研究の目的は，コラージュ作品の表現特徴を多方面にわたり分析し，さらに作品印象に関してテキストマイニングを用いて定量的に検討することであった。保育専門学校に所属していた１回生367名を対象に検討した結果，先行研究とほぼ合致する結果が得られ，コラージュ療法における表現特徴が，心理臨床のアセスメントに有益な指標をもたらすであろうことが示唆された。 共著者：岡村季光・吉野さやか 本人担当部分：データ収集・分析・結果・考察部分を担当
3. コラージュ作品と性格特性の関係：表現特徴とエゴグラムパターンの検討 （査読付）	共著	平成26年12月	人間教育学研究第２号 pp. 157-162.	本研究の目的は，性格特性とコラージュ作品の関連を検討することであり，387名の専門学校生にエゴグラム（TEGII）及びコラージュ作品制作を実施した。その結果，エゴグラムパターンにより切片数，余白，作品の満足度に違いがみられることが明らかになった。すなわち，1)切片数が多い者は心的エネルギーが高い性格特徴である可能性が，2)余白が多い者は心的エネルギーが低く，依存的で気分・感情の不安定さを伴う性格特徴である可能性が，3)満足度が低い者は自己否定の構えを持っている可能性が，それぞれ示唆された。 共著者：岡村季光・吉野さやか 本人担当部分：データ収集・分析・結果・考察部分を担当
4. 青年期後期における新旧の同性友人への安心感と学校適応感の関連	単著	平成27年９月	奈良学園大学研究紀要第３号 pp. 229-233.	本研究の目的は友人関係機能の「安定化機能」に着目し，一緒にいて「安心できる」という本人の主観的感情を手がかりにして友人を想起させ，新旧の同性友人の選択有無と現在の学校適応感との関連を検討することであった。新旧の同性友人の選択有無により群分けを行い，学校適応感との関連を検討した結果，新友人を選択した者が，旧友人のみを選択した者あるいはいずれも選択しなかった者に比して，現在の学校適応感は高かった。本研究結果は新旧友人関係が学校適応感に影響を及ぼす可能性を示唆するもので，今後の学校適応を考える上で意義のあるものと考えられた。
5. 「居場所」（安心できる人）を規定する要因―成人愛着スタイルによる検討― （査読付）	共著	平成27年12月	人間教育学研究第３号 pp. 175-180.	本研究は対人関係の表象として挙げられる愛着スタイルに着目し，安心できる人の程度の評定に与える影響を検討した結果，男子において安定型とアンビバレント型が，女子においてアンビバレント型と回避型が予測変数として有意であることが明らかとなった。本研究の結果は，居場所によって愛着スタイルが安心できる程度に及ぼす効果が異なることを示している。それ故，安心できる程度を適応の指標とした場合には，愛着スタイルが適応に及ぼす効果に対して，居場所が調整変数として機能したことが示唆された。 共著者：岡村季光・豊田弘司 本人担当部分：データ収集・分析・結果・考察部分を担当

著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
6. 「居場所」（安心できる人）を規定する要因―ひとりで過ごす感情・評価及び成人愛着スタイルによる検討―	共著	平成28年11月	奈良教育大学紀要第65巻１号（人文・社会） pp. 27-34.	本研究は，対人関係の表象として挙げられるアタッチメントのパターンである愛着スタイルに着目し，「居場所」における安心できる程度の評定値，ひとりで過ごすことに関する感情・評価及び成人愛着スタイルの関連を検討した。その結果，安心できる人を規定する要因として，男女ともに“自分ひとり”は“孤独・不安”，“母親”は“見捨てられ不安”がそれぞれ予測変数として有意であった。また，“現学校以降の友人”は男子が“親密性の回避”，女子は“見捨てられ不安” がそれぞれ予測変数として有意であった。 共著者：岡村季光・豊田弘司 本人担当部分：データ収集・分析・結果・考察部分を担当
7. 保育者の子育てに関する一考察　―わが子の子育ての悩みに注目して―	共著	平成29年３月	奈良学園大学研究紀要第６号 pp. 115-124.	本研究では，第１に，現代の保育者がどのような子育ての悩みがあるのかを明らかにすること，第２に，保育者の子育てに関する悩みと，保育者としてのアイデンティティ形成，パーソナリティ，職務についての認識，職業観との要因との関連について検討した。その結果，各変数は年齢及び保育者歴による影響が考えられたため，両者の要因を統制した偏相関係数を子の有無別で算出し検討した。子のいない者は，子育ての経験のなさが自信のなさにつながっている可能性がある一方，保育者として誇りを持っている者は，他者から認められることが支えになっていることが考えられた。また，子のいる者は，子育て経験が自らの子育て経験が保育者としての誇り等とつながっていることが考えられる一方，保育者であることに迷いや戸惑いを感じている者は，アイデンティティの揺らぎを感じていることがうかがえた。 共著者：岡村季光・間井谷容代・谷本一榮 本人担当部分：データ分析・結果・考察部分を担当
8. 対人関係が「居場所」（安心できる人）に及ぼす影響　―友人関係及び家族関係による検討―	共著	平成29年３月	奈良教育大学次世代教員養成センター紀要第３号 pp. 83-87.	家族並びに友人への親和欲求が，居場所（安心できる人）評定に及ぼす影響を検討した。その結果，1)男女ともに，“父親”，“母親”及び“きょうだい”と家族との親密性は中程度の正の相関であった。2)男子において，“現学校以前の友人”“現学校以降の友人”と家族との親密性，“父親”“きょうだい”及び“現学校以前の友人”と友人との親密性はいずれも中程度の正の相関であった。一方，友人との親密性において，男子は“現学校以前の友人”と中程度の正の相関であったのに対し，女子は“現学校以降の友人”と中程度の正の相関であった。3)“父親”，“母親”及び“きょうだい”は男女ともに，家族との親密性が予測変数として有意であった。友人においては，“現学校以前の友人”において，男女ともに友人との親密性が予測変数として有意であった。一方，“現学校以降の友人”においては，女子のみ有意であった。 共著者：岡村季光・豊田弘司・多根井重晴 本人担当部分：データ収集・分析・結果・考察部分を担当
9. 英語スピーキングに対する不安尺度作成－小学校英語の教科化に向けて－	共著	平成29年９月	奈良学園大学研究紀要第７号 pp. 67-74.	大学生を対象とした英語スピーキング不安の尺度作成を行った。教職課程生の英語力でも特に必要とされているのがスピーキング力だと考えられるからである。Horwitzetal (1986) の FLCAS (the Foreign Language Classroom Anxiety Scale) からスピーキング不安に関係する項目を抜粋し，情動的反応などの日本人の特性を踏まえた項目を筆者らが付け加えた。結果として，現在のスピーキング不安では13項目が，将来の小学校教員としてのスピーキング不安では15項目が，信頼性と妥当性を得た尺度として残された。また，英語スピーキング不安尺度の妥当性を検討する段階において，英語学習者が英語スピーキング時の「情動的反応性」を克服し，英語スピーキングに対する「自信」をつける英語授業の必要性が示唆された。 共著者：熊田岐子・岡村季光 本人担当部分：データ収集・分析・結果・考察部分を担当

著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
10. 学生の外的要因と内的要因に着目する「外国語の理解」「外国語指導法」に関する一考察	共著	平成30年３月	奈良学園大学研究紀要第８号 pp. 115-124.	本研究は，小学校に「外国語活動」・「外国語」が導入されることを見据え，学生の外的要因（英語運用力・授業力）だけでなく，内的要因（自尊感情の低さ・他者理解の必要性・情動的反応性の克服）にも着目した研究である。本稿では，熊田・岡村（2017）において示唆された英語スピーキング不安と自尊感情の関連について検討を行った。結果として，対人不安傾向尺度の下位尺度である「情動的反応性」が現在の英語スピーキング不安に有意に影響を及ぼしていることが明らかになった。また，将来の英語スピーキング不安得点については「情動的反応性」に加え，「自尊感情」も有意に影響を及ぼしていることが明らかになった。さらに，「自尊感情」と将来の英語スピーキング不安には「情動的反応性」が媒介する間接効果も見出された。上述の事象を克服するために，近藤（2010）の「基本的自尊感情を育む共有体験」に着目すること，大学カリキュラムマネジメントにより他教科と連携することを提案した。 共著者：熊田岐子・岡村季光 本人担当部分：データ収集・分析・結果・考察部分を担当
11. 「居場所」（安心できる人）を規定する媒介要因の検討ー”自分ひとり”ですごす居場所に注目してー	単著	平成30年３月	奈良学園大学研究紀要第８号 pp. 115-124.	本研究の目的は，居場所（安心できる人）の評定とひとりで過ごすことに関する感情・評価を測定し，安心できる人を規定する要因に媒介要因が介在している可能性を検討することであった。大学生260名に調査を行った結果，自分ひとりの居場所を志向する要因は，ひとりで過ごすことによる充実感や満足感によって規定されており，さらに両者の関係にはひとりで過ごすことへの孤独感や不安感のなさが媒介していることが明らかになった。
12. 大学における教学支援体制の運営に関する一考察―キャリア教育とキャリア支援の連携に着目して―	共著	平成30年７月	人間教育第1巻第5号 pp. 123-141.	本稿では，大学における教学支援体制の運営について，特にキャリア教育とキャリア支援の教学支援の連携がどのように行われているかに着目し，3大学（学習院大学，文教大学，昭和女子大学）の視察を手掛かりとして考察することを目的としている。結果として，学習院大学では，教学部門と支援部門の連携体制の確立はされていなかったが，大学の教育理念や方針を取り入れたキャリアセンター事業計画があり，また，就職活動に関し，OB・OGによる在学生支援体制が確立されていることが特徴であった。文教大学では，中期経営計画を立て，教学部門と経営部門がビジョンを共有し，計画→実行→評価→改善のPDCAサイクルの確立が行われていた。昭和女子大学ではキャリアデザイン委員会を設置し，全学横断型組織を確立し，教学部門と支援部門の有機的連携が確立されていた。 共著者：岡野聡子・岡村季光・オチャンテ 村井ロサ メルセデス 本人担当部分：上述の内，文教大学に関する部分（pp. 127-132）を担当
13. 育成したい「学生像」の明確化，能力指標構築の試み―奈良学園大学人間教育学部を事例として―	共著	平成30年９月	人間教育第1巻第7号 pp. 185-198.	本稿では，我が国における「これから求められる力」に関する能力概念の整理をした上で，奈良学園大学人間教育学部を事例として，「育成したい学生像」の能力指標を提示することを目的としている。新学習指導要領の完全実施や大学入学共通テストの導入などにより，2020年に向けた教育改革が粛々と進行する中，大学教育にも大きな影響があると予想される。本稿では，第１に，社会から求められる能力概念の整理と学部特性を整理し，第２にAP，CP，DPから育成したい学生像の能力項目の抽出を行い，第３に能力指標を提示した。能力指標作成にあたっては，①測定される側の発達水準を考慮すること，②人間教育のあり方や目指す方向性を能力指標に反映させること，③能力の「芽生え」（ショプラー；2007）に注目するという観点を提示した。 共著者：岡野聡子・岡村季光・伊﨑一夫 本人担当部分：上述の内「奈良学園大学人間教育学部における「育成したい学生像」の能力指標の構築」に関する部分（pp. 192-196）を担当

著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
14. 災害時における教師の職業的役割―「使命感」と「多忙感」に着目して― （査読付）	共著	平成30年９月	教師学研究第21巻第2号 pp. 13-21.	本研究では，災害時において，その教師の「職業的使命感」は統制の効かない状況における「多忙感」を凌駕するのではないかという仮説を立てた。そして，熊本地震において教員が果たした役割をモデルとし，非災害地域の教員の「使命感」「多忙感」との比較調査を行うことによって，災害時における教師の職業的使命感の実態を明らかにすることを目的とした。そこで本研究では，熊本地震において被災した学校に勤務する教員26名と，非災害地域として，関西圏の小学校教員47名の計73名との比較アンケート調査を実施した。その結果，使命感に関しては，被災の有無にかかわらず高い使命感を有している反面，被災を経験した教員において，多忙感や内的統制感の高さが，自らの存在価値や意欲の高まりにつながっていない実態が明らかになった。 共著者：松井典夫・岡村季光 本人担当部分：データ収集・分析・結果・考察部分を担当
15. ドリンク剤パッケージにおける色イメージに関する探索的研究―健康不安及び体調の差異による検討―	共著	平成31年３月	人間教育第2巻第2号 pp. 45-50.	本研究では，健康不安及び体調の差異によるドリンク剤パッケージの色イメージについて検討を行うことを目的であった。大学生及び登録販売者を対象に調査を行った結果，以下の点が明らかになった。すなわち，1)健康不安に関する調査では，大学生と登録販売者間に回答の差異は見いだせなかったが，直近1か月の体調に関する調査では，総じて大学生の方が登録販売者と比して体調不良を示す得点が高かった。2)ドリンク剤色イメージ評定において，目を引く色は青色，滋養強壮は金色，美容及び食物繊維は黄色において有意な差を見いだし，いずれも健康不安のない群がある群と比して選択率が高かった。3)直近1か月の体調を独立変数，各項目における色選択を従属変数とする判別分析を行った結果，大学生において，眠気覚ましは体調不安，体調の悩み，ストレス，疲れの変数が黒色の選択に，登録販売者において，美容は体調不安，体調の悩み，ストレス，疲れの変数が青色の選択に，それぞれ有意な影響を及ぼしていた。 共著者：岡村季光・多根井重晴・増田善昭 本人担当部分：データ分析・結果・考察部分を担当
16. 英会話授業における「自尊感情を高める共有体験」に関する調査－学生の内的要因に着目して－	共著	平成31年３月	奈良学園大学研究紀要第10号 pp. 55-61.	本稿では，熊田・岡村（2018）で着目した「基本的自尊感情を育む共有体験」（近藤，2010）を応用し，英語スピーキングの共有体験に関する調査を行った。「自尊感情を育む共有体験」として，英語スピーキングを場面と定め，他者とのコミュニケーションにおける英語スピーキング不安を検証した。具体的には，ペアワーク，グループワーク，クラス発表を場面として設定した。考案した項目を因子分析した結果，ペアワーク，グループワークにおいては「肯定承認」，「安心」，「忌避」，クラス発表においては「肯定承認」，「不得意」の構造を見いだした。さらに，英語スピーキング不安，対人不安傾向，自尊感情，自己受容，他者受容との関連を検討し，他者からのフィードバックが得られるグループワークが有効である可能性が示唆された。今後の展望として，他者からのフィードバックとして，信頼する人，すなわち教師がすべきフィードバックについて検討することが課題として残された。 共著者：熊田岐子・岡村季光 本人担当部分：データ収集・分析・結果・考察部分を担当

著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
17. 居場所（安心できる人）の評定と自己ー他者認識：協同作業認識との関連	単著	平成31年３月	奈良学園大学研究紀要第10号 pp.55-61.	居場所（安心できる人）の評定とひとりで過ごす感情・評価，友人との関係の取り方及び協同作業認識との関連を検討した。「居場所」における安心できる程度の評定をクラスター分析によって自分群，全体高群，全体低群の３群に分け，安心できる人の評定による群ごとに，ひとりで過ごすことに関する感情・評価尺度，友人関係尺度と協同作業認識尺度の各尺度得点の相関係数を算出し検討を行った。その結果，１）安心できる人の評定が全体的に低い者は，協同作業への肯定的な認識が低く，他者と一緒にいることに苦痛を感じ回避する者は，協同作業の必要性を低く感じている傾向にあった。２）相関係数の同等性の検定において，友人関係尺度における“傷つけることの回避”と協同作業認識尺度の“協同効用因子”及び“互恵懸念因子”に有意差がみられた。Ryan法による多重比較の結果，“協同効用因子”において全体高群と比して全体低群の方が“傷つけることの回避”との正の相関が強く，“互恵懸念因子”において全体高群と比して全体低群及び自分群の方が負の相関が強かった。
18. 特集「職業としての心理学」	共著	平成31年３月	追手門学院大学心理学論集第27号 pp.35-64.	「心理学総合科目ー職業としての心理学」は，追手門学院大学卒業生による「職業人講話」を中心に展開される「心理学総合科目」であり，心理学部の特色ある教育の一つとして位置づけられてきた科目である。本稿では，12名の卒業生によって提供される12の「職業人講話」が展開された。 共著者：三川俊樹・天野宏美・東 摩耶・藤田裕一・萩原マリコ・橋本尚子・板橋裕子・木村泰子・好田史尚・森迫宏幸・長井裕司・西川晶・岡村季光 本人担当部分：上述の内「大学教員になるまでに出会った“人との縁”」の項目（pp.62-64）を担当
19. 居場所（安心できる人）の評定と貢献感の関連	単著	令和元年９月	奈良学園大学研究紀要第11号 pp.29-34.	本研究の目的は，居場所（安心できる人）の評定と自身の存在が他者のウェル・ビーイングに役に立っている（貢献している）感覚との関連を検討することであった。安心できる程度の評定に男女差がみられたことから，評定を男女別にZ得点に変換後，クラスター分析によって全体高群，全体低群，平均群の３群に分けた。安心できる人の評定による群ごとに，貢献感との関連を検討した結果，全体低群が他の群と比して貢献感得点が低かった。最後に，「貢献感」をめぐる言説について，Adler（1932）のそれとの異同について，議論を行った。
20. 青年期後期のSNSアカウント保有数と自己隠蔽傾向の関連	共著	令和２年３月	奈良学園大学研究紀要第12号 pp.23-28.	本研究は，各SNSにおけるアカウント保有数に着目し，自己隠蔽傾向との関連を検討することを目的とした。SNSにおけるアカウント保有数について，Twitterは約40％の者が複数アカウントを保有していることが明らかとなった。各SNSアカウント保有数と自己隠蔽傾向の関連を検討した結果，Twitterと自己隠蔽は有意傾向の正の相関，Facebookとは有意の正の相関が認められた。青年期のSNSの利用において，アカウントを複数所持する者ほど，アカウントを使い分けながら，本当の自分は見せないようにふるまっている可能性が示唆された。 共著者：岡村季光・多根井重晴 本人担当部分：データ収集・分析・結果・考察部分を担当

著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
21. Country and Gender Differences in the Color Association with Energy Drinks: A Survey in Taiwanese and Japanese Students（国及び性別エナジードリンクと色の連想の差異：台湾及び日本の大学生対象調査より）（査読付）	共著	令和２年11月	Foods, 9(11), 1670.（全11ページ）	本研究では，異なる文化である台湾及び日本の大学生におけるエナジードリンクと色の連想の差異について検討した。その結果，国を問わず黄色は滋養強壮及びビタミン，黒色は眠気覚まし，緑色は食物繊維，赤は鉄分補給とそれぞれ関連していた。一方，台湾のみ白と美容（コラーゲンなど）の関連がみられた。本研究結果から，エナジードリンクの機能に関する情報を伝えるには，消費者の環境や文化的背景を考慮した色の選択が重要であることが示唆された。 共著者：Shigeharu TANEI, Wen-Tseng CHU, Toshimitsu OKAMURA, Fu-Shih CHEN and Yukinori NAGAKURA 本人担当部分：データ収集・分析・結果部分を担当
22. 食品の色彩に対する許容度と嗜好性に関する探索的検討―青色の水餃子を事例に―	共著	令和３年３月	人間教育第4巻第3号 pp. 23-32.	本研究は，食品の色彩に対する許容度や嗜好性の程度を探索的に検討した。具体的には，近年増加しつつある「青色に着色した食品」に着目した。実験では，試料として水餃子を採用し，試料の青色着色有無及び提供順序を操作することにより試料の許容度や嗜好性等の程度を試料摂取の前後で比較検討した。その結果，試料摂取前は青色着色の試料にネガティブな印象評定がなされたが，摂取後はネガティブな印象が緩和されたことが明らかになった。 共著者：大淵裕美・岡村季光 本人担当部分：データ収集・分析・結果・考察部分を担当
23. 居場所（安心できる人）評定の地域間及び性別比較－日台大学生調査から－	共著	令和３年12月	奈良学園大学研究紀要第14号 pp. 35-41.	本研究では，居場所（安心できる人）の日台比較及び男女差を検討することが目的であった。日本大学生134名（男性61名，女性73名）及び台湾の大学生92名（男性37名，女性55名）を対象に検討した結果，“自分ひとり”，“父親”，“きょうだい”において国間の主効果が有意であり，いずれも日本に比して台湾の得点が高かった。また，“現学校以降の友人”において性の主効果が有意であり，男性に比して女性の得点が低かった。さらに，“自分ひとり”は交互作用も有意であったため，単純主効果検定を行った結果，女性において日本に比して台湾の得点が高かった。 共著者：岡村季光・林 伯修・朱 文増・鍾 慧于・陳 福士・新井一郎・多根井重晴 本人担当部分：データ収集・分析・結果・考察部分を担当
24. 幼稚園実習を通して学生の自己成長を促すルーブリックの開発と活用―実習への意識向上とスキルアップに着目して―	共著	令和５年３月	奈良学園大学研究紀要第15号 pp. 155-164.	本研究では，「楽しい」だけの実習として終える学生の状況を打開するために，学生自身の現在の意識状況を知り，更なる学びに繋げるための自己評価としてルーブリック評価を考案し，実習前・実習中・実習後の学生の学びの意識について確認した。さらに，学生の質向上としてアクティブラーニングを取り入れた授業方法を振り返り，授業の再構成を図った。ルーブリックを活用し，学生が質の高い保育者像を一層意識して学びを深めていくことが，保育の質の向上と幼児教育に対する意識改革に繋げられることが期待された。 共著者：間井谷容代・石原由貴子・高岡昌子・岡村季光 本人担当部分：ルーブリック項目考案・データ集計部分を担当

著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
25. 保育所・認定こども園等の研修体系の形成に関する研究	共著	令和５年３月	保育科学研究第12巻 pp. 120-174.	様々な自治体が公表している幼稚園教員等の育成指標，保育所保育指針等，西村ら（2015）などを参考に育成指標案を作成した。その案の妥当性を質問紙調査とヒアリング調査で検証した。その結果，園長・管理職の視点でも，０歳児，１・２歳児，３歳以上児担当の保育者の視点でも，主任保育士・主幹保育教諭の視点でも，経験年数が増えるにつれていずれの資質も段階が上がること，いずれの資質も段階を上げるのに研修が有効であることが明らかになり，案がある程度妥当であることが示された。自治体では育成指標の妥当性の検証は実施されていないことも示唆された。総合考察では，本研究で開発した育成指標の活用と育成指標に関する研究の今後について以下のように議論した。 共著者：千葉武夫・西村重稀・清水益治・森 俊之・碓氷ゆかり・成田朋子・吉岡眞知子・波田埜英治・水上彰子・青井夕貴・中島 一・岡村季光 本人担当部分：研究2内の分析結果に基づく考察部分（pp. 128-148）を担当
26. 衛生マスクにおける着用行動と色イメージの関連	共著	令和６年２月	人間教育第7巻第1号 pp. 1-7.	近年は感染予防対策以外の用途でも衛生マスク（以下マスク）が使用されるようになり，マスクの需要が高まっている。また，着色が施されたマスクが多数販売されるようになり，従前とは異なる色の印象の可能性が考えられる。そこで，本研究では，マスク着用行動と背景要因及び着用したマスクの色イメージの関連について検討することを目的とした。大学生を対象に調査を行った結果，以下の点が明らかになった。すなわち，1)女性において，公的自意識が高いほど外出時のマスク着用において自分の姿を隠蔽しようとする傾向がみられた。2)自身が着用するマスクの色イメージにおいて，男女間に差異がみられた。3)外出時のマスク着用と色イメージの関連において，黒は本音を隠すというイメージ，白は自身の姿自体を隠すというイメージとして，両者を弁別してとらえている可能性が示唆された。 共著者：岡村季光・多根井重晴 本人担当部分：データ分析・結果・考察部分を担当
（その他） 「学会抄録」 1. 青年期女子における「居場所」（安心できる人）の評定－抑うつに耐える力との関連－	単著	平成26年11月	日本教育心理学会第56回総会発表論文集 p. 486. （神戸国際会議場）	「居場所」（安心できる人）における危機的場面の安心できる程度の評定と抑うつに耐える力の関連を検討した。その結果，“自分ひとり”の評定を高くつけた者は“孤独に耐える力”が高く，“現学校以前の友人”“現学校以降の友人”の評定を高くつけた者は“不安に向き合う力”が高かった。ひとりの時間を志向しつつ，友人に安心感を持つことで自身の問題を直視し不安に向き合うことが示唆された。
2. 中年期・老年期における「居場所」（安心できる人）の基礎的研究―ひとりで過ごす感情・評価の関係から―	単著	平成27年３月	日本発達心理学会第26回大会発表論文集 P5-045. （東京大学）	中年期・老年期における「居場所」（安心できる人）の評定とひとりで過ごすことに関する感情・評価の関係を検討した。その結果，平常時において“自分ひとり”，“子ども”，“孫”といる場面において評定を高くつけた者は，“孤独・不安”において，得点が高かった。また，危機的状況においては“自分ひとり”でいる場面で評定を高くつけた者のみ“孤独・不安”得点が高かった。特に中年期以降においては，“自分ひとり”のみならず，“子ども”“孫”の存在が「居場所」に影響を及ぼす可能性が示唆された。

著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
3. 「自分ひとりの居場所」の志向に関する検討 ―「安心できる人」評定，ひとりで過ごす感情・評価及び協同作業認識尺度の関係から―	単著	平成27年８月	日本教育心理学会第57回総会発表論文集 p.683. （朱鷺メッセ（新潟コンベンションセンター））	居場所（安心できる人）の評定，ひとりで過ごすことに関する感情・評価及び協同作業認識との関連を検討した。その結果，ひとり感情・評価尺度の“孤絶願望”と協同作業認識尺度の“協同効用因子”に弱い負の相関関係がみられた。また，安心できる人の評定が全体的に低い者は他者との協同作業への肯定的な認識が低く，他者と一緒にいることに苦痛を感じ回避する者は協同作業の必要性を低く感じている傾向にあることを見いだした。
4. Relationship between Ibasho “Person who eases your mind” and sense of contribution in late adolescence （青年期後期における居場所（「安心できる人」）と貢献感の関係）	単著	平成28年７月	Poster presented at 31st International Congress of Psychology, Yokohama, Japan （パシフィコ横浜）	大学生に「安心できる人」の評定をクラスター分析により検討した結果，安心できる評定の高低により４群に分類できることを見いだした。さらに，安心できる人の評定が低い群は所属している集団への貢献感が他の群と比べて有意に低かった。
5. The effects of power and grit on satisfaction and apathy in academic settings （影響力，grit及びアパシーが大学生活に与える影響）	共著	平成28年７月	Poster presented at 31st International Congress of Psychology, Yokohama, Japan （パシフィコ横浜）	本研究は，影響力，grit及びアパシーが大学生活にどのような影響を与えているのかを検討した。将来展望を明確に持っているか否かで群分けを行い，重回帰分析を行った結果，将来展望を明確に持っている者において影響力，grit及びアパシーが大学生活に影響を与えていることが明らかとなった。 共同発表者：高木悠哉・赤間健一・岡村季光 本人担当部分：データ分析結果・考察部分を担当
6. 「居場所」（安心できる人）を規定する媒介要因の検討 ―“自分ひとり”の居場所に注目して―	単著	平成28年10月	日本教育心理学会第58回総会発表論文集 p.451. （サンポートホール高松・かがわ国際会議場）	本研究は，安心できる人を規定する要因に媒介要因が介在している可能性を検討することを目的とした。自分ひとりの居場所を志向する要因は，ひとりで過ごすことによる充実感や満足感によって規定されており，さらに両者の関係にはひとりで過ごすことへの孤独感や不安感のなさが媒介していることを明らかにした。
7. 居場所（安心できる人）の評定と貢献感の関連	単著	平成30年３月	日本発達心理学会第29回大会発表論文集 p.655. （東北大学川内北キャンパス）	大学生に「安心できる人」の評定をクラスター分析により検討した結果，安心できる評定の高低により３群に分類できることを見いだした。さらに，安心できる人の評定が低い群は所属している集団への貢献感が他の群と比べて有意に低かった。本研究における「安心できる人」分類において，特に家族に関するクラスター得点差は他と比して顕著であったことから，家族に対する安心できる感覚の差が貢献感の得点差に影響を及ぼしている可能性が考えられた。
8. 保育者の子育てに関する探索的研究	共著	平成30年５月	日本保育学会第第71回大会発表要旨集 p.659. （宮城学院女子大学）	本研究では，保育者の子育てについて自由記述により探索的に検討することを目的とした。子育てをしながら仕事をすることについて，「大変」「ポジティブ」「時間」「協力」の出現頻度が高く，保育者と子育ての両立が大変である一方，ポジティブに受けとめていることがうかがえた。また，他者の協力により，子育てと仕事の両立が維持されていることが推察された。子の担任やママ友に自身が保育者である旨を積極的に告知することはないという回答が多く，条件付で告知をする姿勢がうかがえた。 共同発表者：岡村季光・間井谷容代 本人担当部分：データ分析・結果・考察部分を担当

著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
9. ドリンク剤における色イメージに関する探索的研究	共著	平成30年９月	日本心理学会第82回大会発表論文集 p.555. （仙台国際センター）	本研究では，健康不安及び体調の差異によるドリンク剤の色イメージについて検討を行うことを目的とした。その結果，ドリンク剤色イメージ評定において，目を引く色は青色，滋養強壮は金色，美容及び食物繊維は黄色において有意な差を見いだし，いずれも健康不安のない群がある群と比して選択率が高かった。また，体調と属性が色の選択に有意な影響を及ぼしていた。 共同発表者：岡村季光・多根井重晴・増田善昭 本人担当部分：データ分析・結果・考察部分を担当
10. 居場所と「個」及び「関係性」の観点にもとづくアイデンティティの関連	単著	平成31年３月	日本発達心理学会第30回大会発表論文集 p.305. （早稲田大学戸山キャンパス）	本研究では，居場所と「個」及び「関係性」の観点にもとづくアイデンティティとの関連を検討することを目的とした。その結果，全般的には「個」のアイデンティティよりも「関係性」のそれの方が居場所尺度との関連は強い傾向であった。また，男女間で相関係数の差の検定を行った結果，社会的居場所のうち，誰かから承認されている感覚が，「関係性」のアイデンティティ形成につながることが示唆されたが，その傾向は特に男子において顕著であった。
11. 青年期後期のSNSアカウント保有数と自己隠蔽傾向の関連	共著	令和元年９月	日本心理学会第83回総会発表論文集 p.241. （立命館大学大阪いばらきキャンパス（OIC））	本研究は，各SNSにおけるアカウント保有数に着目し，自己隠蔽傾向に着目し検討することを目的とした。その結果，複数のアカウントを所有している者が多かったTwitterと自己隠蔽傾向には弱い正の相関がみられ，アカウントを複数保有する者は，アカウントを使い分けることで本来の自分を隠蔽するように振る舞っていることがうかがえた。また，各SNSのアカウント保有率，複数アカウント保有率，重要度に統計的に有意な差異を見いだし，1)世代による影響，2)複数アカ保有諾否という仕様上の問題，3)インフラとしてのSNSニーズ有無，などがあることが推察された。 共同発表者：岡村季光・多根井重晴 本人担当部分：データ収集・分析・結果・考察部分を担当
12. 座席位置とエゴグラム及び情動知能の関係	共著	令和元年９月	日本教育心理学会第61回総会発表論文集 p.637. （日本大学文理学部３号館）	本研究では，同じ仮想場面における座席選択とエゴグラム及び情動知能の関係を検討することを目的とした，その結果，エゴグラムACにおいて，仮想場面で座席数が多い方を選択した者の座席数が少ない方を選択した者のそれよりも得点が高かった。リーダーシップに関する研究（Hare & Bales, 1963）より，リーダーとフォロアーの関係が順応的自我状態に反映していると解釈された。なお，情動知能尺度（J-WLEIS）と座席選択との関連は見いだせなかった。 共同発表者：多根井重晴・岡村季光・豊田弘司・陳 福士・安西和紀 本人担当部分：データ収集・考察部分を担当
13. 居場所（安心できる人）と貢献感，特性的自己効力感及び生活満足感の関係	共著	令和２年３月	日本発達心理学会第31回大会発表論文集 p.291. （大阪国際会議場（グランキューブ大阪）で開催の予定だったが，参集しての開催は行われなかった）	本研究では，居場所（安心できる人）と貢献感，特性的自己効力感及び生活満足感の関係を検討することを目的とした。その結果，特に女子の方が各尺度間得点に中程度の正の相関があった。また，安心できる人評定群のうち，いずれも他者低群が全体高群，他者高群，全体低群と比して貢献感，特性的自己効力感及び生活満足感の得点が低かった。他者への安心感の低さが，貢献感，対人関係における満足感の低さにつながっていることが明らかとなった。 共同発表者：岡村季光・多根井重晴 本人担当部分：データ収集・分析・結果・考察部分を担当

著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
14. 社会不安及び生活満足感が居場所（安心できる人）の評定に及ぼす効果	単著	令和２年９月	日本教育心理学会第62回総会発表論文集 p.315. （アクトシティ浜松で開催の予定だったが，参集しての開催は行われなかった）	本研究では，自他への安心感の評定と社会不安(FNE）及び生活満足感の関連について検討することを目的とした。安心できる人評定，FNE及び生活満足感の関連を検討した結果，自分ひとりの評定及び全般的生活満足感とFNEは有意な負の相関であった。また，性，FNE短縮版及び生活満足感を予測変数，安心できる人評定を目的変数とする重回帰分析を安心できる人ごとに行った結果，安心できる人評定の対象が自分または他者により影響を及ぼす変数が異なることが明らかとなった。
15. 薬学生の学習習得度と自己評価式モラルシンキング尺度の関係	共著	令和２年９月	日本教育心理学会第62回総会発表論文集 p.167. （アクトシティ浜松で開催の予定だったが，参集しての開催は行われなかった）	薬学教育では，6年制課程を修了した者を対象とした新薬剤師国家試験制度の導入にともない，薬学部生には膨大な専門知識及び技能の習得が必須とされ，効率的な学習が求められるようになった。一方，池田ら（2018），文部科学省中央教育審議会（2011）の指摘を踏まえ，薬学生の学習習得度と自己評価式モラルシンキング尺度の関係を検討した。その結果，キャリア尺度得点と演習試験との間に正の相関を認めた。 共同発表者：多根井重晴・岡村季光・豊田弘司 本人担当部分：データ分析・考察部分を担当
16. 薬学生におけるキャリア基礎力支援のあり方に関する基礎的研究	共著	令和２年９月～11月	日本心理学会第84回総会発表論文集 p.200. （東洋大学白山キャンパスで開催の予定だったが，Webサイト内（https://www.jpa2020toyo.com/）で開催された）	本研究は，多根井ら（2020）続報として，キャリア基礎力をより詳細に検討するため，薬学部４年生を対象に，キャリア基礎力と正の関連が予想される批判的思考（クリティカルシンキング，CT），薬学に携わる者としての倫理観（モラルシンキング，MT），自他の情動理解（J-WLEIS）及び負の関連が予想されるセルフハンディキャッピング（SH）との関連を検討した。その結果，キャリア基礎力尺度とCT間，MT間は全て正の相関，J-WLEIS間は他者の情動評価や情動の利用・調節で正の相関，SH間は「やれない因子(can't）」で全て負の相関であった。キャリア基礎力育成には，自他理解や自己有用感に関わる支援を行う必要性が示唆された。 共同発表者：岡村季光・多根井重晴 本人担当部分：データ分析・結果・考察部分を担当
17. 居場所（安心できる人）の評定とプライバシー意識の関連	共著	令和３年８月	日本教育心理学会第63回総会発表論文集 p.350. （オンライン）	本研究では居場所（安心できる人）とプライバシー意識の関連を検討した。各場面における「安心できる人」評定得点を用いて，クラスター分析（K-means法）により“平均群”，“他者低群”，“他者高群”に分類し，プライバシー意識尺度の各下位尺度得点について，2（性）×3（居場所分類各群）の分散分析を行った。その結果，自己意識／維持行動得点において男性のみ“他者高群”が“平均群”に比して得点が低かった。また，他者維持行動得点において，“他者高群”が“他者低群”に比して得点が高かった。 共同発表者：岡村季光・多根井重晴 本人担当部分：データ収集・分析・結果・考察部分を担当
18. エゴグラムと学習動機及びメタ認知の関係	共著	令和３年８月	日本教育心理学会第63回総会発表論文集 p.355. （オンライン）	本報では，エゴグラムと学習動機及びメタ認知の関係について検討した。その結果，自己成長エゴグラム（SGE）の“A”とメタ認知ならびに学習方略の“意味理解方略”が正の弱い相関関係であった。また，SGEの“CP”と学習動機の“取り入れ的調整”，“外的調整”及びメタ認知が正の弱い相関関係であった。さらに，SGEの“AC”と学習動機の“外的調整”が正の弱い相関関係であった。エゴグラムは，自己変容が期待できる尺度であることからも，教育的な側面で考えると主に“CP”及び“A”を伸ばすことが，主体的学び育成の一環として有益である可能性が示唆された。 共同発表者：多根井重晴・岡村季光 本人担当部分：データ収集・分析・結果・考察部分を担当

著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
19. 居場所（安心できる人）とプライバシー意識の関係：日台大学生調査から	共著	令和３年９月	日本心理学会第85回総会発表論文集 p.11. （Webサイト内（https://confit.atlas.jp/guide/event/jpa2021/top?lang=ja）で開催された）	本研究では，居場所（安心できる人）とプライバシー意識の関係を日台別に検討することが目的であった。日本大学生134名（男性61名，女性73名）及び台湾の大学生92名（男性37名，女性55名）を対象に検討した。第1に，各場面における「安心できる人」評定得点を用いて，国別にクラスター分析（K-means法）を行った結果，両国とも同様の傾向であった。具体的には，安心できる人の評定が全体的に平均的であった群を“平均群”，他者の評定が低かった群を“他者低群”，他者の評定が高かった群を“他者高群”と命名し居場所（安心できる人）評定による分類（以下，居場所分類）を行った。第2に，プライバシー意識尺度の各下位尺度得点について，2（国）×3（居場所分類各群）の分散分析を行った結果，自己のプライバシー意識／維持行動得点において日本に比して台湾の方が得点は高く，日本において“他者低群”が“他者高群”に比して得点が高かった。他者のプライバシー意識得点において“他者高群”が他群と比して得点が低かった。他者のプライバシー維持行動得点において台湾に比して日本の方が得点は高く，“他者高群”が他群と比して得点が高かった。 共同発表者：岡村季光・林 伯修・李 鵬遠・鍾 慧于・陳 福士・新井一郎・多根井 重晴 本人担当部分：データ収集・分析・結果・考察部分を担当
20. 保育者におけるワーク・ライフ・バランスと保育者効力感の関係	共著	令和４年５月	日本保育学会第第75回大会発表論文集 pp.P-879-P-880. （聖徳大学で開催の予定だったが，オンラインで開催された）	本研究では，保育者におけるワーク・ライフ・バランスと保育者効力感の関係を検討した。奈良県内にある保育所に勤務する保育者123名（男性４，女性119）を対象に検討した結果，子のいない者においては，保育者として期待に応えることに仕事のやりがいを見いだし，地域の様々な住民との交流や参加に保育者としての効力感を持ちやすい傾向が伺えた。一方，子のいる者においては，保育所における社会的立場を意識しつつ，保育者の仲間を支援し，さらに保育者自身が人とかかわる基盤となり子ども同士の関係を育てることが，仕事のやりがいにつながっていることがみられた。また，仕事とプライベートの切り替えについては，子のいない者が出来ている一方，子のいる者はうまく切り替えが図れていない可能性が示唆された。 共同発表者：岡村季光・間井谷容代 本人担当部分：データ分析・結果・考察部分を担当
21. 衛生マスクにおける着用行動と色イメージの関連	共著	令和４年９月	日本心理学会第86回大会発表論文集 p.3EV-013-PC. （日本大学文理学部）	本研究では，マスク着用行動と背景要因及び着用したマスクの色イメージの関連について検討することを目的とした。近畿圏に在住の大学生120名（男性76名，女性44名）を対象に調査を行った結果，女性において“公的自意識”と外出時マスク着用における“自分の姿を隠蔽”に弱い正の相関がみられた。また，着用したマスクの色イメージにおいて，“似合っている”において青，“魅力的”において金はそれぞれ男性の方が女性に比して有意に選択が多かった。さらに，外出時マスク着用行動とマスクの色イメージの関連において，“自分の姿を隠蔽”の回答と色イメージの選択の関係を検討した結果，“本音を隠せる”の色イメージにおいて，白は自分の姿を隠蔽できると回答した者が隠蔽できないと回答した者と比して有意に選択が多かった。黒は本音を隠すというイメージ，白は自身の姿自体を隠すというイメージとして弁別してとらえている可能性が示唆された。 共同発表者：岡村季光・多根井重晴 本人担当部分：データ分析・結果・考察部分を担当

著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
22. 大学生における色イメージとパーソナリティの関連	共著	令和５年９月	日本心理学会第87回大会発表論文集 p. 2A-005-PB. （日本大学文理学部）	本研究では色彩選好及び自身のイメージカラーとパーソナリティの関係について検討した。具体的には，関東圏に在住の薬学部大学生204名に，自己隠蔽尺度，自意識尺度短縮版，自尊感情尺度， TIPI-J（各心理尺度）及び自身の色イメージを尋ねた。各心理尺度の下位尺度得点を平均点で2分し，色イメージと各心理尺度の関係をフィッシャーの正確確率検定で検討した結果，自尊感情とTIPI-Jの下位尺度である“外向性”において，“あてはまる色”との関連がみられた。 共同発表者：岡村季光・多根井重晴 本人担当部分：データ分析・結果・考察部分を担当
23. 自我状態が学習動機及びメタ認知に及ぼす効果	共著	令和６年１月	日本人間教育学会第９回大会研究発表要旨集 pp. 17-18. （奈良学園大学）	近年の学校教育においては，“自ら学ぶ力”として自己調整学習が注目され，メタ認知，動機づけ，行動といった心理的な側面での調整が重要とされている。一方，メタ認知と各自我状態の相関が見いだされており，自我状態がメタ認知及び自己調整学習に関連する学習動機，学習行動を表す学習方略に与える効果を検証する価値があると考えられた。そこで，本研究では自我状態とメタ認知，学習動機，及び学習方略について検討した。近畿圏に在住の大学生・専門学校生111名に調査をした結果，自我状態が学習動機における“取り入れ的調整”，“外的調整，メタ認知，学習方略における“暗記・反復方略”，“意味理解方略”に有意の影響をみいだした。交流分析は，自己分析による行動の変容を目指しており，本研究は，自我状態の変容がメタ認知，学習動機，及び学習方略に及ぼす可能性について示唆される結果となった。 共同発表者：岡村季光・多根井重晴 本人担当部分：データ収集・分析・結果・考察部分を担当
24. 就学前の自然体験と後年の自己肯定感との関係について	共著	令和６年３月	日本発達心理学会第35回大会発表論文集 p. 361. （大阪国際交流センター）	本研究では，親の養育態度に左右されない，幼稚園や保育所等で体験できるような身近な自然体験（植物や動物を育てる活動，芋ほり経験，植物の水やり等）が後年の自己肯定感と関係があるかどうかを調べた。その結果，就学前における幼稚園や保育所等で体験できるような身近な自然体験とその後の自己肯定感との間に明確な相関はみられなかったが，国立青少年教育振興機構青少年教育研究センター（2021）の研究における図示方法を参考に，自己肯定感の高得点群と中得点群，低得点群とに分けて表したところ，先行研究の結果ほど明確ではないが，身近な自然体験が豊富な群ほど，自己肯定感の高得点群の割合が大きくなる傾向と可能性が感じられた。 共同発表者：高岡昌子・岡村季光・岡野聡子・石原由貴子 本人担当部分：データ収集・考察部分を担当
25. 担当制保育の理念と現実ギャップに関する研究～保育現場アンケート調査を通して～	共著	令和６年３月	日本保育者養成教育学会第8回研究大会プログラム p. 39 （オンライン）	2018年に保育所保育指針の改定により，「緩やかな担当制」（担当制保育）が記され，保育方法に関する議論が盛んになっている一方，保育現場では従前の保育の少人数体制と変わりはないと理解する保育者も多い。本研究では，保育者が保育所保育指針改定内容をどれだけ理解・意識しながら担当制保育として取り組まれているのかを目的とした。奈良県の各公私立の保育所・認定こども園に勤務する保育者69名に調査を行った結果，“知っているがあいまい”“言葉だけは知っている”の回答が全体の半数弱みられた。また，自由記述の分析から，担当制保育のメリットについて理解されている一方，勤務体制や従前の保育方法からの変更に戸惑いがある様子がうかがえた。 共同発表者：間井谷容代・岡村季光 本人担当部分：データ収集・分析・結果・考察部分を担当

著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
「学会発表」				
1. 「自分ひとりの居場所」を志向する要因の検討―「安心できる人」の評定とひとりで過ごす感情・評価及び満たされない自己との関係から―	―	平成26年11月	関西心理学会第126回大会発表論文集 p. 36. （大阪市立大学）	「居場所」における安心できる程度の評定をクラスター分析によって３群に分け，ひとりで過ごすことに関する感情・評価及び満たされない自己との関係を検討した。その結果，“自分ひとり”に安心できる評定を高くつけた者の中にも，他者への評定を比較的低くつけている者は対人関係に苦痛を感じ，対人交渉の逃避をしていることが示唆された。また，自分だけ，または一部の者のみに安心感の評定を高くつけた者は自他共に安心感の評定が高い者と比して日常生活においての目標に喪失感や停滞感を感じていた。 共同発表者：岡村季光・高木悠哉 本人担当部分：データ収集・分析・結果・考察部分を担当
2. 心理学を学び，研究し，実践する－ライフステージとキャリアパス－ （シンポジウム話題提供）	―	平成27年11月	関西心理学会第127回大会発表論文集 p. 9. （関西学院大学）	本シンポジウムでは，心理学関連の大学教員として勤めている話題提供者が，これまでにどのようなキャリアパスを経てきたのか，また，自らのライフステージにおいて，どのような歩みがあったのかをそれぞれ発表した。その後，心理学のキャリアパスとライフステージとの兼ね合いについて率直な意見が交わされた。 話題提供者：大竹恵子・岡村季光・杉若弘子・土肥伊都子 指定討論：小椋たみ子・荘厳舜哉
3. 「居場所（安心できる人）の評定と他者認識―友人との関係の取り方と共同作業認識の関連から―	―	平成27年11月	関西心理学会第127回大会発表論文集 p. 42. （関西学院大学）	居場所（安心できる人）の評定，友人との関係の取り方及び協同作業認識との関連を検討した。「居場所」における安心できる程度の評定をクラスター分析によって自分群，全体高群，全体低群の３群に分け，安心できる人の評定による群ごとに，友人関係尺度と協同作業認識尺度の各尺度得点の相関係数を算出した。相関係数の同等性の検定を行った結果，友人関係尺度における“傷つけることの回避”と協同作業認識尺度の“協同効用因子”及び“互恵懸念因子”に有意差がみられた。Ryan法による多重比較の結果，“協同効用因子”において全体高群よりも全体低群の方が“傷つけることの回避”との正の相関が強く，“互恵懸念因子”において全体高群よりも全体低群及び自分群の方が負の相関が強かった。
4. 「自分ひとりの居場所」の志向に関する検討　―「安心できる人」評定，ひとりで過ごす感情・評価及び孤独感との関連―	―	平成28年11月	関西心理学会第128回大会発表論文集 p. 35. （京都大学）	本研究では，居場所（安心できる人）の評定，ひとりで過ごすことに関する感情・評価及び他者とのつながりが感じられているか否かを測定するために孤独感を測定し，三者の関連を検討した。「居場所」における安心できる程度の評定をクラスター分析によって全体高群，親群，恋人群，他者低群の４群に分け，さらに，ひとり感情・評価尺度の“孤独・不安”得点をもとに，得点の中央値を上回った群を高群，中央値以下を低群に分類した。孤独感尺度得点について，４（居場所）×２（ひとり感情・評価尺度“孤独・不安”得点高群・低群）の分散分析を行った結果，ひとり感情・評価尺度の“孤独・不安”得点低群において，“他者低群”が他の群に比して孤独感得点が高かった。
5. 災害時における教員の職業的役割　―「使命感」と「多忙感」」に着目して―	―	平成29年３月	日本教師学学会第18回大会発表要旨集 pp. 30-31. （早稲田大学所沢キャンパス）	現代の学校教育に関連する諸課題に対する教育現場への期待や責任の増大に伴い，教員の「多忙化」が指摘されている。その一方で，地震災害時に教師は，「多忙感」の一要因である残業の多寡に関わらず，避難所運営に携わるなどの例がある。そこで本研究では，教員の「使命感」と「多忙感」の相関性について，熊本地震において教員が果たした役割をモデルとして，教員への意識調査をもとに検討した。その結果，他群の教員は多忙感や内的統制感が高まることで自らの存在価値や意欲の高まりがみられるのに対し，熊本自身で被災した教員群にそれらがみられないことから，一連の熊本地震に対する対応の疲労感が高まっていることが背景因子として懸念された。 共著者：松井典夫・岡村季光 本人担当部分：データ収集・分析・結果・考察部分を担当

著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
6. 居場所（安心できる人）の評定と社会不安及び生活満足感の関連	―	平成29年11月	関西心理学会第129回大会発表論文集 p.52. （京都橘大学）	本研究では，居場所（安心できる人）の評定，他者からの否定的な評価による不安及び生活満足感を測定し，三者の関連を検討することを目的とした。各場面における「安心できる人」評定得点を用いて，クラスター分析を行った結果，各評定の高低により４群に分類することができた。さらに，FNE短縮版得点（社会的不安得点）をもとに，平均値を上回った群を高群，平均値以下を低群に分類し，4（居場所）×2（社会的不安得点高・低）の分散分析を行った結果，社会的不安得点低群において“全体高群”及び“家族高群”が他群に比して全般的生活満足感得点が高かった。特に，家族への安心感と他者への否定的評価への不安のなさが全般的生活満足感の高さにつながったと言え，アタッチメントの影響が示唆された。
7. ありのままの自分を求めて：グローバル社会と「居場所」（日本心理学会第82回公募シンポジウムSS-082）	―	平成30年９月	日本心理学会第82回大会発表論文集 p.220. （仙台国際センター）	「居場所（Ibasho）」は日本固有の概念であるが，さまざまな心理学的概念と密接に関係していると考えられる。たとえば，アイデンティティ（Erikson, 1950）は「居場所」との関係性が示唆される。多様な人々が生活する複雑な現代社会において，ありのままの自分を表現でき，ありのままの自分でいられる「居場所」を我々はどのように見つけ出していけるのだろうか。また，アイデンティティと「居場所」はどのような関係にあるのだろうか。本シンポジウムでは，多文化環境のなかで生育・生活する人々を中心に，ありのままでいられる「居場所」をめぐって，（文化的）アイデンティティや「居場所」について議論を行った。 話題提供者：鈴木一代・岡村季光・植松晃子・石橋道子 指定討論：佐野秀樹
8. 新旧友人関係及び学校への認知が現在の居場所感に及ぼす影響―コミュニティ・アイデンティティ及びトポフィリアの視点から―	―	平成30年10月	関西心理学会第130回大会発表論文集 p.59. （甲南大学）	本研究の目的として，新旧友人関係及び学校への認知が現在の居場所感に及ぼす影響について検討を行った。特に，学校への認知はコミュニティ・アイデンティティ（CI）（野波・加藤，2009）及びトポフィリア（TP）（Tuan, 1974）に着目して検討を行った。その結果，高等学校までの友人が“親友”として認知されやすい傾向にあり，過去に所属していたCI及びTPを重視する傾向がみられた。特に現在の“承認的居場所”の感覚は，新旧友人及び過去・現在CIが規定因として認められ，過去とのつながりが居場所を感じる要因として重要であることが考えられた。
9. 自己－他者関係及び特性的自己効力感が現在の居場所感に及ぼす影響―自分ひとり，新旧友人関係への安心感を手がかりに―	―	令和元年11月	関西心理学会第131回大会発表論文集 p.35. （大阪教育大学天王寺キャンパス）	本研究の目的は，自分ひとり，あるいは新旧友人と過ごす安心感及び特性的自己効力感が現在の居場所感に及ぼす影響について検討することであった。社会的居場所及び個人的居場所を目的変数，自分ひとり・新旧友人への各安心感評定，特性的自己効力感を予測変数とする重回帰分析を男女別に行った結果，男女とも特性的自己効力感が社会的居場所・個人的居場所，新友人の安心感が社会的居場所を予測することが認められた。
10. 大学生における居場所（安心できる人）の日台比較	―	令和３年３月	日本発達心理学会第32回大会発表論文集 p.99. （Webサイト内（http://www.jsdp.jp/jsdp2021/）で開催された）	本研究では，居場所（安心できる人）の日台比較及び男女差を検討することを目的とした。日本在住の大学生134名と台湾在住の大学生92名を対象に検討した結果，自分ひとり，父親，きょうだいにおける安心感はいずれも日本に比して台湾の得点が高かった。父親やきょうだいへの安心できる評定は，文化の違いが反映されたものであることがうかがえた。 共同発表者：岡村季光・林伯修・朱文増・陳福士・多根井重晴 本人担当部分：データ収集・分析・結果・考察部分を担当

著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
11. 「居場所」は多文化背景をもつ人々にとって有用な概念か？（会員企画 ラウンドテーブル 6AM1-D-RT05　話題提供）	ー	令和４年３月	日本発達心理学会第33回大会発表論文集（Webサイト内 https://www.jsdp.jp/jsdp2022/）で開催された）	本ラウンドテーブルでは，「居場所」という日本固有の概念が，日本人や日本だけではなく，多文化環境にある人々を初め，外国人やほかの国にとっても有用な概念になりうるかどうかについて議論した。 第２話題提供者からは，日本ー台湾間による“安心できる人”　の評定差異及びその背景について考察した。 その後，指定討論者よりバーチャル，またはイマジナリーの「心理的居場所」の存在と重要性について指摘があった。 企画：鈴木一代 話題提供者：石橋道子・岡村季光・鈴木一代 指定討論者:新田文輝
「その他」 1. 災害時における教師たちのノブレス・オブリージュ～そこにある「使命感」と「多忙感」～ 第４回　実証的研究からみえる教師の災害時における「使命感」と「多忙感」の関連	ー	平成29年８月	教育PRO 第47巻第17号 通巻1842号 pp. 8-9.	教員の「使命感」と「多忙感」の相関性について，熊本地震において教員が果たした役割をモデルとして，教員への意識調査をもとに検討した。その結果，他群の教員は多忙感や内的統制感が高まることで自らの存在価値や意欲の高まりがみられるのに対し，熊本自身で被災した教員群にそれらがみられないことから，一連の熊本地震への対応の長期のストレス状況にあることが推察された。一方，教員からの聞き取り調査では，教員は自らよりも児童生徒を優先して心のケアに努める利他行動が認められた。
2. 災害時における教師たちのノブレス・オブリージュ～そこにある「使命感」と「多忙感」～ 第８回　ベトナムにおける「保護」の根底にあるもの	ー	平成29年10月	教育PRO 第47巻第22号 通巻1847号 pp. 8-9.	ベトナムは様々な天災に見舞われているものの，災害の大きさに比して，被害が思いのほか小さい。そこには，災害等非常時における「保護」の主体が関連しているという示唆を得られた。本稿では，その「保護」意識の根底について考察した。その結果，ベトナムにおいては，近年の経済成長における都市化現象が核家族化を進展させたものの，家族を重要視するという観点も根強く残っている一方，知らない人への警戒心は非常に強いことが伺えた。上述の「警戒心の強さ」は「保護」意識の規定因である可能性が示唆された。
3. 災害時における教師たちのノブレス・オブリージュ～そこにある「使命感」と「多忙感」～ 第12回　取り戻す日常と薄れゆく震災の記憶～防災教育が持つ価値の提言～	ー	平成29年12月	教育PRO 第47巻第27号 通巻1852号 pp. 6-7.	本稿では，日常を取り戻そうとする「復興のベクトル」と，震災の記憶のうち「想起のベクトル」が減少していくという相反する状況の中で，防災教育が果たす役割について考察を行った。古くから「津波てんでんこ」などの教訓として後世に伝えられてきた事象を検討した結果，防災教育の根幹は，残された「教訓」の活性であることを見出した。 共著者：松井典夫・岡村季光 本人担当部分：先行研究収集・考察部分を担当

別記様式第４号（その２）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　研　究　業　績　書

令和６年３月３１日
氏名　住本　克彦

研究分野	研究内容のキーワード
生徒指導論、教育学	生徒指導、心理学、教育学、道徳指導、教育相談、学校カウンセリング、進路指導、いのちの教育　等

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
１　教育方法の実践例 環太平洋大学における授業実践	平成 21 年度～平成 27 年度	映像機器活用による教育プログラムの実践や、構成的グループ・エンカウンター等のグループ活動の導入を図り、学生の理解力が向上するように工夫した。また、参加型・体験型の授業展開を中心とし、また毎時間、具体的な事例を通して考えさせる学習形態を取り入れることで、学生の実践力を高め、理解力を深めることができるように工夫した。さらに、毎時間学生に授業の感想を含む、小テストを実施し、学生全員にコメントをフィードバックし、学生一人一人に適した双方向での個別指導も実践した。
新見公立大学における授業実践	平成 28 年度～平成 31 年度	ＩＣＴ機器活用による教育プログラムの実践や、筆者が専門である（「構成的グループ・エンカウンター公認リーダー」の有資格者）構成的グループ・エンカウンターのグループ活動を活用し、学生の理解力やコミュニケーション能力が向上するように工夫を重ねた。このような参加型・体験型の授業展開を中心とする学習形態を取り入れることや具体的事例を基に考えさせる実践的授業展開を心がけることで、学生の実践力や理解力を深めることができた。さらに、毎時間学生に授業の感想を含む、小テストやレポートを実施し、次の週には学生全員に教師のコメントをフィードバックすることで、学生一人一人に適した双方向での個別指導も重ねた。
奈良学園大学における授業実践	令和２年度～現在に至る	ＩＣＴ機器活用による教育プログラムの実践（オンライン授業と対面式授業の併用）や、構成的グループ・エンカウンターのグループ活動を活用し、学生の理解力等が深まるように工夫を重ねた。コロナ禍ではあったが、可能な限り参加型・体験型の授業展

		開を中心とする学習形態を取り入れることや具体的事例を基に考えさせる実践的授業展開を心がけることで、学生の実践力・理解力を深めることができた。さらに、今まで継続してきた、毎時間学生に授業の感想を含む、小テストやレポートを実施し、次の週には学生全員に教師のコメント等の評価をフィードバックすることで、学生一人一人に適した双方向での個別指導も重ねている。
２　作成した教科書、教材 健康ふしぎ発見ニュース（全学年用）「折れない心ってなに？」【再掲】	平成 30 年 3 月	「折れない心」について、クイズ形式で、わかりやすくイラストで表示した。（Ｂ２判：解説 8 頁も単著）健学社　学校保健教育研究会（監修）健康ふしぎ発見三月号ニュース　第 27 巻第 3 号　通巻 892 号・壁新聞⑴
健康ふしぎ発見ニュース（全学年用）「折れない心はどうすれば育つの？」【再掲】	平成 30 年 3 月	「折れない心」の育成について、ソーシャルサポートの重要性等、わかりやすくイラストで表示した。（Ｂ２判：解説 8 頁も単著）健学社　学校保健教育研究会（監修）健康ふしぎ発見三月号ニュース　第 27 巻第 3 号　通巻 892 号・壁新聞⑵
健康ふしぎ発見ニュース（全学年用）「見方を変えれば短所も長 所」【再掲】	平成 30 年 3 月	「リフレーミング技法」（短所を長所に読み替え）について、わかりやすくイラストで表示した。（Ｂ２判：解説 8 頁も単著）健学社　学校保健教育研究会（監修）健康ふしぎ発見三月号ニュース　第 27 巻第 3 号　通巻 893 号・壁新聞⑶
健康ふしぎ発見ニュース（全学年用）「悩んでいることがあれば、どうすればいいの？」【再掲】	平成 31 年 12 月	「相談する力」の育成をめざして、クイズ形式で、わかりやすくイラストで表示した。（Ｂ２判：解説 8 頁も単著）健学社学校保健教育研究会（監修）健康ふしぎ発見十二月号ニュース　第 27 巻第 12 号　通巻 918 号・壁新聞⑴
健康ふしぎ発見ニュース（全学年用）「心の声は聞こえにくい。だから勇気を持って言葉にしよ う！」【再掲】	平成 31 年 12 月	「相談する力」の育成をめざして、クイズ形式で、わかりやすくイラストで表示した。回答編では、一人で抱え込まず、誰かに相談することを勧めている。（Ｂ２判：解説 8 頁も単著）健学社学校保健教育研究会（監修）健康ふしぎ発見十二月号ニュース　第 27 巻第 12 号　通巻 919 号・壁新聞⑵

健康ふしぎ発見ニュース（全学年用）「こんなときどうしたらいい？本音を話す勇気を持とう！」【再掲】	平成 31 年 12 月	「相談する力」の育成をめざして、クイズ形式で、わかりやすくイラストで表示した。「信頼できる友だちの見つけ方」では、回答として「自分からあいさつをすること」「共通の話題を見つけること」「私メッセージを送ること」を明示した。（Ｂ２判：解説 8 頁も単著）健学社学校保健教育研究会（監修）健康ふしぎ発見十二月号ニュース　第 27 巻第 12 号通巻 920 号・壁新聞(3)
「教育原理　事始め」（大学教育出版）【再掲】	平成 30 年 4 月	新見公立大学看護学科の授業、「教育相談の理解」「生徒指導・進路指導論」等で使用し、好評であった。
「新しい視点から見た教職入門」（大学教育出版）【再掲】	平成 31 年度（令和 3 年度第 2 版改訂・令和 5 年度第 3 版改訂）	「教職入門」の教科書を作成し、第 1 部第 6 章「教育制度の改革」(pp. 125-134)、「アクティブ・ラーニング」(pp. 135-136)、第 2 第 6 章「教員採用試験」(pp. 267-280)を執筆し、新見公立大学授業「教育学総論」「教育実習・事前事後指導」において使用した。奈良学園大学においても、「教職入門Ａ（初等)」、「教職入門Ｂ（中等)」の科目で使用し、好評であった。
「プロフェッショナルをめざす保育者論」（教育情報出版）【再掲】	平成 31 年度（令和 5 年度改訂）	新見公立大学健康保育学科の授業、「保育者論」等で参考書として使用した。『子どもの保健と安全』教育情報出版第 1 章・第 4 節：「地域における保健活動と子ども虐待防止」について執筆。虐待をいかに 防止し、早期に適切な対応をしていくかについて、そのシステム構築の重要性について詳述した。また、第 9 章・第 7 節：「子どもと悪性腫瘍」についても執筆。保育者・教育者が、子どもの病気についての知識を持つことの重要性について強調。がん教育の推進についても提唱した。実践的な内容で、理解しやすいと大変好評であった。
「エンカウンターでいじめ対応が変わる・教育相談と生徒指導のさらなる充実をめざして」（図書文化社）【再掲】	平成 31 年度	新見公立大学健康保育学科「教育学総論」・看護学科「教育相談」「生徒指導論」でテキストとして作成した。いじめ予防保育・教育展開の実践的著書である。住本は編著者である。序章１・２(pp. 10-21)、第 1 章第 3 項(pp. 38-41)、同第４項(pp. 42-47)、同コラム 2(pp. 56-57)、第２章第１項(pp. 70-75)、同第２項(pp. 76-79)、同第４項(pp. 84-113)、同コラム 4(pp. 114-115)、第３章第１項(pp. 118-123)も執筆。実践的内容のため、全国の教育現場からの問い合わせも多数ある。「学校園等で教育相談を充実させる手立て」「生徒指導実践におけるいじ

		め予防の実際」「いじめを起こさないクラスづくりの実際」等を詳述した。また、組織的対応の重要性、早期発見・早期対応のシステム作りの留意点についても具体的に解説した。奈良学園大学においても、「生徒指導・進路指導論Ａ（初等)」、「生徒指導・進路指導論Ｂ（中等)」の科目で使用している。
「健康不思議発見ニュース・ビジュアル教材 通巻第 921 号『相手も自分も大切にする話し方ってなに？』」（健学社）【再掲】	令和 2 年 11 月	開発的カウンセリング技法のアサーション・トレーニングの具体例（思いやりを持ったコミュニケーションの取り方）をビジュアル教材として示した。保健室（保健センター）等で、健康教育の一環として活用されている。（Ｂ２判）
「健康不思議発見ニュース・ビジュアル教材通巻第 922 号『声のかけ方、注意の仕方で伝わり方が変わる！』」（健学社）【再掲】	令和 2 年 11 月	開発的カウンセリング技法のアサーション・トレーニングの具体例（自他を大切にしたコミュニケーションの取り方）をビジュアル教材として示した。保健室（保健センター）等で、健康教育の一環として活用されている。（Ｂ２判）
「健康不思議発見ニュース・ビジュアル教材通巻第 923 号『自分に合ったストレス解消法を見つけよう』」（健学社）【再掲】	令和 2 年 11 月	開発的カウンセリング技法のストレス・マネジメント教育の具体例（リラクゼーション法の実践）をビジュアル教材として示した。保健室（保健センター）等で、健康教育の一環として活用されている。（Ｂ２判）
「健康不思議発見ニュース・ビジュアル教材 通巻第 933 号『自尊心を高めるってどういうこと？』」（健学社）【再掲】	令和 3 年 3 月	自尊感情を実感することの大切さ、それを育てるポイントについて、ビジュアル教材として示した。保健室（保健センター）等で、健康教育の一環として活用されている。（Ｂ２判）
「健康不思議発見ニュース・ビジュアル教材通巻第 934 号『自尊心を育てよう！』」（健学社）【再掲】	令和 3 年 3 月	自尊感情を育てるための実践例をビジュアル教材として示した。保健室（保健センター）等で、健康教育の一環として活用されている。（Ｂ２判）
「健康不思議発見ニュース・ビジュアル教材通巻第 935 号『リフレーミングをやってみよう！』」（健学社）【再掲】	令和 3 年 3 月	短所を長所に読み替えるリフレーミング技法について、ビジュアル教材として示した。保健室（保健センター）等で、健康教育の一環として活用されている。（Ｂ２判）

「健康不思議発見ニュース・ビジュアル教材 通巻第 956 号『怒りの気持ちどうしたらいい？』［小学校用］（健学社）【再掲】	令和４年１月	開発的カウンセリング技法のアンガーマネジメント法の具体例（怒りを感じた時の対処法について：別のものに視点を向ける・誰かに相談する等）をビジュアル教材（Ｑ＆Ａ方式）としてイラスト入りで示した。保健室（保健センター）等で、健康教育の一環として活用されている。（Ｂ２判）
「健康不思議発見ニュース・ビジュアル教材 通巻第 957 号『ルールがある意味とアサーティブな話し方』［小学校用］（健学社）【再掲】	令和４年１月	開発的カウンセリング技法のアサーション・トレーニングの具体例（ルールがある意味：廊下を走らない等についてについて「攻撃的な伝え方」・「受動的な伝え方」・「アサーティブな伝え方」それぞれどの伝え方が望ましいかを考えさせる例）をビジュアル教材としてイラスト入りで示した。保健室（保健センター）等で、健康教育の一環として活用されている。（Ｂ２判）
「健康不思議発見ニュース・ビジュアル教材 通巻第 958 号『怒りのコントロール方法』［中高校用］（健学社）【再掲】	令和４年１月	開発的カウンセリング技法のアンガーマネジメント法の具体例（怒りをコントロールする方法について：6 秒数えて深呼吸・その場を離れる・怒りを点数化する等）をビジュアル教材としてイラスト入りで示した。保健室（保健センター）等で、健康教育の一環として活用されている。（Ｂ２判）
「健康不思議発見ニュース・ビジュアル教材 通巻第 959 号『ルールがある意味とアサーティブな話し方』［中高校用］（健学社）【再掲】	令和４年１月	開発的カウンセリング技法のアサーション・トレーニングの具体例（ルールがある意味：食事中の黙食等について「攻撃的な伝え方」・「消極的な伝え方」・「アサーティブな伝え方」それぞれどの伝え方が望ましいかを考えさせる例）をビジュアル教材としてイラスト入りで示した。保健室（保健センター）等で、健康教育の一環として活用されている。（Ｂ２判）
「健康不思議発見ニュース・ビジュアル教材 通巻第 968 号『心と体の健康観察をしよう！』」［小学生用］（健学社）【再掲】	令和４年８月	「困ったことがあったとき、付箋に書き出して気持ちの整理をする」「一人で抱え込まないで誰かに相談してみよう（気の合う人探し等）」「やる気が起きないときは、深呼吸して『私がんばっているよ！』のメッセージを送る！」「プラス思考とスモールステップで乗り切ろう！」他、『心と体の健康観察をしよう！』のテーマで、小学生対象の保健教材を作成した。

「健康不思議発見ニュース・ビジュアル教材 通巻第 969 号『日頃からできる心の健康観察法』」［小学生用］（健学社）【再掲】	令和 4 年 8 月	「自分なりのストレス発散法を見つけよう！（音楽を聴く等)」「情報をコントロールしよう！」「食事をきちんと摂ろう」「自分が嫌になったとき、脱出可能だと自身を信じる（誰にでもあることだと脱出可能だと信じる等)」他、『日頃からできる心の健康観察法』のテーマで、小学生対象の保健教材を作成した。
「健康不思議発見ニュース・ビジュアル教材 通巻第 970 号『心と体の健康観察をしよう！』［中高校生用］（健学社）【再掲】	令和 4 年 8 月	「不安なときは、気晴らしスイッチを探してみよう！」「孤独感を感じたときは、『気の合う人探し』をしよう」「困ったことがあったとき、付箋に書き出して気持ちの整理をする」「一人で抱え込まないで誰かに相談してみよう」他、『心と体の健康観察をしよう！』のテーマで、中高校生対象の保健教材を作成した。
「健康不思議発見ニュース・ビジュアル教材通巻第 971 号『日頃からできる心の健康観察法』」［中高校生用］（健学社）【再掲】	令和 4 年 8 月	「しんどいときは、自分にプラスメッセージを送ろう！」「自分なりのストレス発散法を見つけよう」「食事は朝昼晩 3 食をきちんと摂ろう」「自分自身にプラスのメッセージを送ろう！」「人と繋がろう（話してみよう）！」他、『日頃からできる心の健康観察法』のテーマで、中高校生対象の保健教材を作成した。
『新しい視点からの教育社会学』大学教育出版：令和 4 年 3 月発刊【再掲】	令和 4 年 3 月発刊	令和 3 年度中の執筆と編集を終える〈テキストとしての活用予定・A5 判・200 頁〉第 1 章: 教育社会学のアプローチ　第 2 章: 教育社会学から見たカリキュラム　第 3 章: キャリア教育と教育社会学　第 4 章: 現代社会における高等教育　第 5 章: 福祉の視点から見た教育社会学　第 6 章: 多様化する家族のあり方　第 7 章: 不登校・いじめ問題　第 8 章: 子どもとメディア利用　第 9 章: 特別支援教育　第 10 章: マイノリティーとジェンダー　第 11 章: 自殺予防の視点から　第 12 章: 教育社会学の課題と展望　以上の 12 章立てで、住本は、7 章･12 章執筆担当予定。
『コンパス教育相談』建帛社：令和 4 年 3 月発刊【再掲】	令和 4 年 3 月発刊	「教育相談」テキストとしての活用・B5 判・200 頁〉第 1 章:教育相談の意義　第 2 章: カウンセリングの理論と実際　第 3 章: 子どもの発達と教育相談　第 4 章: 教育相談におけるアセスメント

		第 5 章: 子どもの問題行動と教育相談（事例から考える）　第 6 章: 開発的カウンセリング技法の活用　第 7 章: 保護者支援と教育相談　第 8 章: 校内システムと教育相談　第 9 章: 医学と教育の連携　第 10 章: 学校の危機対応　第 11 章: 教師のメンタルヘルスと教育相談　第 12 章: 専門機関との連携と教育相談　以上の 12 章立てで、住本は、1 章･4 章･6 章執筆担当。
『教職ライブラリ　教職入門－教育学のエッセンスから学ぶ－』建帛社：令和 5 年 3 月発刊【再掲】	令和 5 年 3 月発刊	「教職入門」テキストとしての活用・B5 判・132 頁〉第 1 章: 第 1 章：教育への基本的視座　第 2 章：日本教育史　第 3 章：西洋教育史　第 4 章：教員の身分と服務　第 5 章：教員の資質向上と研修　第 6 章：教育改革の現状　第 7 章：教員としての仕事と生きがい　第 8 章：学級経営・ホームルーム経営の基本　第 9 章：生徒指導の実際　第 10 章：教育実習，教育実習事前・事後指導，教職実践演習　第 11 章：教員採用試験について　第 12 章：教員のメンタルヘルス　以上の 12 章立てで、住本は、1 章･11 章･コラム（1 章・3 章・8 章・11 章）執筆担当。
「健康不思議発見ニュース・ビジュアル教材通巻第 992 号『誹謗中傷ってどんなこと？』」［小学生用］（健学社）【再掲】	令和 5 年 9 月	ＳＮＳの使い方について、「ＳＮＳ配信の際、まずは立ち止まって、確認すべき留意点の明示」等を子ども目線でわかりやすく解説した。」等、『誹謗中傷ってどんなこと？』のテーマで、小学生対象の保健教材を作成した。
「健康不思議発見ニュース・ビジュアル教材通巻第 993 号『自分や相手を大切にする関わり方』」［小学生用］（健学社）【再掲】	令和 5 年 9 月	ＳＮＳの使い方について、「困ったことがあれば、まず養護教諭等に相談すること」等を小学生目線でわかりやすく解説した。」等、『自分や相手を大切にする関わり方』のテーマで、小学生対象の保健教材を作成した。
「健康不思議発見ニュース・ビジュアル教材通巻第 994 号『誹謗中傷ってどんなこと？』」［中高生用］（健学社）【再掲】	令和 5 年 9 月	ＳＮＳ配信の際、『ワンクリック』する前に確認すべき留意点の明示」等を子ども目線でわかりやすく解説した。」等、『誹謗中傷ってどんなこと？』のテーマで、中高校生対象の保健教材を作成した。
「健康不思議発見ニュース・ビジュアル教材通巻第 995 号『自分や相手を大切にする関わり方』」	令和 5 年 9 月	ＳＮＳの使い方について、「リツイートも元ツイートと同様に責任を問われる」等を中高校生目線でわ

［中高校生用］（健学社）【再掲】		かりやすく解説した。」等、『自分や相手を大切にする関わり方』のテーマで、中高校生対象の保健教材を作成した。
「健康不思議発見ニュース・ビジュアル教材通巻第 1004 号『ストレスってどんなもの？』」［小学生用］（健学社）【再掲】	令和 6 年 3 月	ストレス反応について、「ストレスに対して反応〈不眠、食欲不振、やる気欠如等〉することって自然なことなんだよ」等を子ども目線でわかりやすく解説した。」等、『ストレスってどんなもの？』のテーマで、小学生対象の保健教材を作成した。
「健康不思議発見ニュース・ビジュアル教材通巻第 1005 号『ストレスにどう対処するか』」［小学生用］（健学社）【再掲】	令和 6 年 3 月	ストレス対処法について、「イメージ呼吸法でリラックス、友だちや家族に相談する」等を小学生目線でわかりやすく解説した。」等、『ストレスにどう対処するか』のテーマで、小学生対象の保健教材を作成した。
「健康不思議発見ニュース・ビジュアル教材通巻第 1006 号『ストレスってどんなもの？』」［中高生用］（健学社）【再掲】	令和 6 年 3 月	ストレス反応について、「ストレスに対して反応〈不眠、食欲不振、やる気欠如等〉することって自然なことなんだよ」等を子ども目線でわかりやすく解説した。」等、『ストレスってどんなもの？』のテーマで、中高生対象の保健教材を作成した。
「健康不思議発見ニュース・ビジュアル教材通巻第 1007 号『ストレスにどう対処するか』」［中高生用］（健学社）【再掲】	令和 6 年 3 月	ストレス対処法について、「趣味でリラックス、自分自身へのプラスメッセージ、友だちや家族に相談する」等を中高生目線でわかりやすく解説した。」等、『ストレスにどう対処するか』のテーマで、中高生対象の保健教材を作成した。
３　教育上の能力に関する大学等の評価 環太平洋大学における学生による授業評価アンケート結果	平成 26 年度	双方向授業や、事例を通して学ぶ学習形態、参加型・体験型学習形態等を取り入れ、全担当科目で９５点以上の得点を上げ、学生の満足度が非常に高い（『平成 25 年度 大学最優秀教員賞』受賞。『平成 26 年度　学生による授業評価「受講生 100 人以上の講義部門」最優秀教員賞』受賞）。

環太平洋大学採用時等における学長からの評価	平成 26 年度	心理士としての実務経験も豊富であり、兵庫県教育委員会の指導主事としての研修指導もあり、小学校教師としての具体的な学級経営力も高く、小学校教員を養成する学級経営学科の教員としては、教育力が高く、その活躍が期待できる。
環太平洋大学における次世代教育学部　教育経営学科長としての学長からの評価	平成 25 年度～平成 27 年度	教育経営学科長として、学科をまとめ、主に教員を目指す学生のために、「人間力」「教育力」「国際力」を高め、資質の高い教員を育成した。平成 25 年度 公立学校教員採用試験に 30 名を合格させるチーム力も備えている。
環太平洋大学理事長からの評価	平成 26 年度	教職センターを中心として、次世代教育学部をまとめ教員採用のための準備カリキュラム実施し、平成 26 年度教員採用試験の 1 次試験の採用者を、延べ人数で 100 人以上出した。リメディアル教育を構築してきた組織力を評価する。
公立大学法人　新見公立大学　新見公立短期大学理事長・学長からの評価	平成 28 年度～平成 31 年度	前任校からの学科長経験を生かし、幼児教育学科長として、学科運営で手腕を発揮している。平成 31 年度からの短大の 4 年制への移行でも本学組織の中核となって事業を進めた。兵庫県教育委員会の主任指導主事としての研修指導経験（行政・事務経験も豊富）もあり、公立学校教師としての学級経営力・生徒指導力・教育相談力も高く、保育教諭を養成する幼児教育学科長・健康保育学科長（両学科長兼務）として、当該教員採用以降の平成 28 年度～平成 30 年度も進路決定率 100%を達成した（例年ほぼ 100%が保育者採用）。組織運営力の高さはもちろんのこと、学生からの信頼も厚く、授業力も高く、本人担当の授業教科では、学生授業アンケートでは常に、80%以上が大変満足しており、平成 30 年度の「保育者論」では、「本授業内容については大変満足している」の回答 100%を達成している。平成三一年度、短期大学を四大化する中核となっての功績も評価したい。さらなる活躍が期待できる。

奈良学園大学における学生による授業評価アンケート結果	令和２年度 ～現在に至る	対面式とオンライン授業の併用の中においても事例から学ぶ学習形態や参加型・体験型学習形態、学生全員にコメントを書く双方向授業等を取り入れ、全担当科目で平均点以上の授業評価結果[5 点満点で、4.66 点以上の満足度得点。令和 2 年度後期 15 時間学生授業アンケート結果：82 人受講科目は、「4.66（「総合的に満足している」項目：5 段階評価)」]で学生の満足度も非常に高い。その後も、「4.66」～「4.85」で推移している。
奈良学園理事長からの評価	令和２年度 ～現在に至る	生徒指導、教育相談等の専門性を活かし「2020 年度 奈良学園 いじめ問題対応教員研修」講師等も担当、奈良文化高等学校、奈良学園中学校・高等学校、奈良学園小学校、奈良学園幼稚園、奈良学園登美ヶ丘中高等、学園全体の教育実践の充実に寄与できる得がたい人材である。令和 4 年度より「学園共同研究（「いじめ防止・対応等、教職員研修プログラム」の開発に関する研究－『学校法人奈良学園』における『教育相談活動（生徒指導含む)』のネットワーク強化－）も採択し、学園全体の研究教育活動も中心となってリードしている。
奈良学園大学学長からの評価	令和２年度 ～現在に至る	今までの専門職・役員等の経験（公立大学学科長・新見市教育委員等）を活かし、大学中期計画策定委員会　等において自主的に建設的意見を述べ、学部運営はもとより大学運営を支援している。人間教育学部人間教育学科員〈小学校専修のリーダー〉として、「人を支える人づくり」運営に全力で協力している。令和 3 年度より「大学評議会・評議員」、「小学校専修長」（人間教育学部運営委員)、令和 4 年度より「自己点検評価委員会・委員長」「教職・保育課程委員会・副委員長」「財務委員会・副委員長」として大いに活躍している。

４　実務の経験を有する者についての特記事項 兵庫県立上郡高等学校主催「文部科学省研究指定『社会人基礎力育成カリキュラム開発事業』に係るインターンシップ成果報告会・講評会及び研究協議（第３回運営指導委員会分科会）」「講師」	平成 24 年度～平成 26 年度	年度を追うごとに参加の生徒は、社会人として働く意味が理解できてきており、教職員からは「適切な指導助言により、昨年度より効果の上がったインターンシップができる」等の意見が出た。
日本教育新聞社主催「『教育セミナー関西 2013　－教師が変われば、子ども・学校・地域が変わる-』●分科会=特別支援・カウンセリング、支援するということを問う　●総括シンポジウム「姫路の教育から日本の教育を考える-学校間連携の在り方を探る-」「講師」（会場：姫路市市民会館）	平成 26 年度	分科会=特別支援・カウンセリング、支援するということを問う　総括シンポジウム「姫路の教育から日本の教育を考える-学校間連携の在り方を探る-」において講師を務めた。「特別支援教育において実践できそうな手立てを紹介してもらい大変参考になった」等の感想が多く、高評価を得た。
明石市教育委員会主催事業「平成２６年度　教科用図書明石地区協議会」「委員」	平成 26 年度～平成 31 年度	「委員」として、教科用図書の採択を進めた。適正かつ公正な採択の確保ができたと高評価を得た。
岡山県立東岡山工業高等学校主催「いじめ対策委員会」「学識経験者・委員」：対象：岡山県立東岡山工業高等学校教職員	平成 26 年度	「学識経験者・委員」として、生徒指導事例に対して助言・指導した。「道徳教育と関連した予防的な取り組みを理解した」等の感想が多くあった。
公益財団法人　私立大学通信教育協会　平成 26 年度運営委員会「運営委員」	平成 26 年 1 月	テーマ「授業・試験並びに成績」を中心にして、計 12 大学の企画・運営・進行・助言・報告書を作成した。特に住本は、専門領域から、クレームの対応事例への助言を行った。
兵庫県立上郡高等学校主催「文部科学省研究指定『社会人基礎力育成カリキュラム開発事業』に係る職員研修会」「講師」	平成 26 年 1 月	高校生活で適切な進路を選択できる社会人基礎力をつけるための、実現可能なカリキュラム開発を中心になって進めた。
兵庫教育大学大学院「学校教育研究科心の教育実践コース専門科目：キャリア教育実践プログラムの開発『開発したプログラムの発表・指導助言』」非常勤講師　［①現職院生対象授業、②夜間コース対象授業（サテライト）］担当	平成 26 年 1 月	キャリア教育実践プログラムの開発を実践した院生に対して、指導助言をした。キャリア教育を就職指導と狭くとらえがちな院生からは、「最新の研究成果を盛り込んだわかりやすい助言だった」と、大変好評であった。
鳥取県教育委員会主催「『子どもたちの社会性を育む事業』地区別研修会」に係る「講師」（会場：①鳥取市立桜ヶ丘中学校～②鳥取市立若葉台小学校～③鳥取市立津ノ井小学校～④鳥取市立米里小学校～白兎会館）	平成 26 年 2 月	各校を視察・授業観察後、それを踏まえ、講演会場（白兎会館）で、心理テストＱ－Ｕを活用した学級づくり・学校づくりについての講演をし、「児童生徒の実態を的確に把握し、具体的な手立ても明示された」と受講者から、高評価を得ることができた。
兵庫県加東市連合 PTA・加東市教育委員会主催「PTA　PTCA 活動支援事業実践発表大会：私たちの子供は私たちの手で！－家庭・地域・学校のコミ	平成 26 年 2 月	PTA、PTCA 活動の実践発表「私達の子供は私たちの手で！－家庭・地域・学校のコミュニケーションで見守り育む－」について助言をし、家庭・地域・学

ュニケーションで見守り育むー」「講師」（会場：兵庫県加東市滝野文化会館　対象：教職員、保護者等 300 名）		校、三者の連携の取り方のポイント、留意点について話し、受講者からは「三者の立場に立ち、共感をキーワードに助言をもらった」と好評であった。
兵庫県立上郡高等学校主催「文部科学省研究指定『社会人基礎力育成カリキュラム開発事業』に係る研究発表会及び学習成果発表会」「講師」	平成 26 年 2 月	生徒の研究発表会及び学習成果発表会の講師として助言、講演をした。生徒からは「研究を評価され、次のステップも明示され、参考になった」と、好評で、その内容は、報告書にまとめた。
兵庫県加東市立滝野南小学校主催「『学級集団アセスメント』事業に係る研修会：学級集団づくり QU テストの活用について」「講師」	平成 26 年 2 月	年間 2 回実施した心理テストの分析と解説をした。「次年度の学級づくりに生かせる内容の講演だった」と、受講した教職員から高い評価を得た。
尼崎市立教育総合センター主催「平成 25 年度 教育研究部会」「講師」	平成 26 年 2 月	教育総合センターのアドバイザーとして、研究発表者の教育相談事例発表への指導助言を担当した。
兵庫県稲美町教育委員会主催「稲美町生きる力を育むための小・中連絡推進委員会」「講師：副委員長」（会場：兵庫県稲美町いきがい創造センター）	平成 26 年 3 月	各校の校長、生徒指導担当者より 1 年間の取組の発表に対して、助言した。参加者からは「各事例に対して的確な助言と感想があった。
兵庫県立但馬やまびこの郷主催「不登校推進に係る研修員の研修成果発表会」に係る「指導助言講師」	平成 26 年 5 月	不登校推進に係る研修員の研修成果発表に対して、指導助言講師を務めた。
兵庫県加古川市立加古川北公民館主催「『山手寿大学（高齢者大学)』: カウンセリング技法を活用した人間関係づくり」「講師」（対象 200 名）	平成 26 年度	「高齢者大学」で講演。「カウンセリング技法を活用することで、人間関係が好転することを指導した。受講した高齢者からの評価が高かった。
岡山県立東岡山工業高等学校主催事業「『思春期サポート事業』」講師　年間 12 回	平成 26 年 5 月	「キャンパスカウンセラー」を務めた。不登校生の面談では 100%再登校へと支援することができた
兵庫県加東市立滝野中学校主催「『学級集団アセスメント』事業に係る研修会：学級集団づくり QU テストの活用について」「講師」	平成 26 年 6 月	5 月に実施した心理テストの分析と解説をした。受講者からは「明日からの学級づくりに生かせる」と、受講した教職員から高い評価を得ることができた。
ＴＶ朝日「ナニコレ珍百景『割れない？生タマゴ』」【珍百景 No. 1912】※心理学の立場から解説	平成 26 年 6 月	「人間にはある行動がどのような結果を生み出すかを予期・予見する予期機能があり、タマゴを強く握ると割れてしまうかもということを想像して無意識のうちに割れないようにブレーキをかけているため、タマゴが割れにくくなる」と論じた（ＴＶ朝日ＨＰより）

稲美町教育委員会主催「第１回稲美町生きる力を育むための小・中連絡推進委員会：「小中学校における問題行動の状況」「講師（副委員長）」（会場：兵庫県稲美町役場コミュニティセンター）	平成 26 年度	問題行動の状況について中学校区ごとによる話し合いがあり、講師（副委員長）として助言した。各校の校長、生徒指導担当者から、今後の指導に生かせる等、高評価を得た。
ＪＣＩ龍野青年会議所主催講演会：「講師」「演題：子どもの心みつめていますか」（会場：兵庫県揖保郡太子町あすかホール　対象は学校関係者等、約 250 名）	平成 26 年 7 月	演題は、「子どもの心みつめていますか」で、対象は主に学校関係者であったが、講演後、多くの保護者が残られ、それぞれの相談に応じた。受講者からは専門家による講演会を継続の要望が出た。
兵庫教育大学大学院「学校教育研究科心の教育実践コース専門科目：キャリア教育実践プログラムの開発『エンカウンターによるキャリア教育』」非常勤講師　①[ストレート対象授業（1 限目）　②現職院生対象授業（2 限目）　夜間コース対象授業（7 限目）（サテライト）]担当	平成 26 年 7 月	キャリア教育実践プログラムの開発において、開発的カウンセリング技法を生かしたプログラム開発について研修を行った。「とてもわかりやすく、実践的に学べた」と、現職教諭の受講者からも高評価を得た。
兵庫県立上郡高等学校主催事業「心のサポート事業研究開発校『コミュニケーションの在り方実践研究』：i-check データからみるクラス経営」「講師」	平成 26 年 7 月	『コミュニケーションの在り方実践研究』の一環で、各クラスの i-check データを分析し、担任へ助言した。「実際の学級指導に生かせる」と高い評価を得た。
明石市教育研究所主催事業「明石市教育委員会スーパーバイザー派遣事業」「講師」（場所：明石市教育研究所、対象：明石市立中崎小学校教職員）	平成 26 年 7 月	スーパーバイザーとして、「子どもの人間関係を円滑にする取組の理論と実際」のテーマで講演。「双方向形式で楽しく学べた」と、受講者から高評価を得た。
兵庫県西宮市教育委員会主催「学級経営研修」「講師」（会場：兵庫県西宮市立総合教育センター）	平成 26 年 7 月	「カウンセリング技法を活用した学級づくり」研修会の講師を務めた。
倉敷市立福田中学校主催「研修会」「講師」（会場：ライフパーク倉敷）	平成 26 年 8 月	「『総合質問紙調査「アイチェック」を活用した学級づくり 』研修会の講師を務めた。
鳥取市小学校長会主催事業「鳥取市小学校長会第 1 回自主研修会」「講師」（場所：白兔会館、対象：鳥取市立小学校校長 45 名）	平成 26 年 8 月	「教員の授業力・学級経営力向上をめざす校長の役割」の研修会で講師を務めた。「とても実践的な内容で参考になった」と、受講者から高評価を得た。
伊丹市立総合教育センター主催事業「生徒指導研修：積極的な生徒指導の推進―いじめ、不登校等、児童生徒の問題行動の未然防止のために―」「講師」	平成 26 年 8 月	生徒指導研修：積極的な生徒指導の推進―いじめ、不登校等、児童生徒の問題行動の未然防止のために―」研修会の講師を務めた。「参加型・体験型の形式の研修だった。

岡山市教育研究研修センター主催「 岡山市教職員研修講座」「講師」（場所：岡山市教育研究研修センター）（対象：岡山市立小中高等学校　教職員 50 名）	平成 26 年 8 月	「学級集団アセスメント研修講座」の講師を務めた。「とても実践的な内容で、昨年度同様、大変参考になった」と、受講者から高い評価を得た。
「赤磐市 高陽中学校ブロック研修会」「講師」（場所；赤磐市立中央図書館・対象：高揚中学校区教職員 150 名）	平成 26 年 8 月	「自己肯定感の育成をもとに学力向上を図る－役割・期待・承認－2 年目研究の進め方・成果と課題」で講師を務めた。研究の振り返りを指導した。
日本生徒指導学会主催「日本生徒指導学会関西地区研究会第７回大会」「講師」（場所：京都教育大学）	平成 26 年 8 月	分科会『学級経営』」の講師を務めた。生徒指導の新たな在り方を、一般的に理解されない等の悩み等が率直に出され、助言を行った。
鳥取県教育委員会主催事業研究会「講師」（場所：倉吉体育文化会館、対象：県内高等学校教職員 40 名）	平成 26 年 8 月	「hyper-QU 活用研修会：hyper-QU を活用した学級づくり」の講師を務めた。「とても実践的な内容で、昨年度に引き続き参考になった」と、高い評価を得た。
兵庫県宝塚市光ガ丘中学校主催事業「校内研修会」「講師」	平成 26 年度	「校内研修会（学級づくり）：開発的カウンセリング技法を活用した学級づくり」の講師を務めた。
鳥取県岩美町立岩美南小学校主催事業「鳥取県教育委員会・岩美町立岩美南小学校：学校外部評価・指導講評・研修」「外部評価委員」「講師」（場所：岩美町立岩美南小学校　対象：教職員 50 名）	平成 26 年度	「カウンセリング技法を活用した学級づくり」の外部評価委員・講師を務めた。校長から「教職員を元気づける外部評価であり、実践的な内容の研修あり次年度も依頼したい」と、評価を得た。
尼崎市立武庫小学校主催事業「『こころの教育推進事業：体験、〈いのちの教育〉』「講師」（場所：尼崎市立武庫小学校、対象：小学５、６年児童 140 名と保護者）	平成 26 年 10 月	体験、〈いのちの教育〉の道徳授業で生命尊重項目を担当した。授業を受けた高学年児童は「命は一つだから大切にしたいと強く思った」、保護者は「親子や家族の絆について考える」等の感想を述べた。
赤磐市立高陽中学校主催「高陽中ブロック授業研究会：授業参観と指導助言」「講師」（場所；赤磐市立高揚中学校・対象：高揚中学校区教職員 100 名）	平成 26 年 11 月	「自己肯定感の育成をもとに学力向上を図るための効果的な取組について：授業参観と指導助言」を行った。
兵庫教育大学大学院「学校教育研究科心の教育実践コース専門科目：非常勤講師（兵庫教育大学）	平成 26 年 12 月	学校における『心の教育』と道徳指導の実践研究」の講師を務めた。
鳥取県教育委員会主催「hyper-QU 活用研修会」「講師」対象：鳥取県立高等学校学校長、生徒指導主事等 40 名：会場；鳥取県立倉吉総合産業高等学校	平成 27 年 1 月	「学級づくりにおいて生徒指導の果たす役割やその推進の実践的な内容で、第 1 回に引き続き、大変参考になった」と、受講者から高い評価を得た。

兵庫教育大学大学院「学校教育研究科心の教育実践コース専門科目：「キャリア教育実践プログラムの開発」非常勤講師※昼間クラス：夜間クラス）担当	平成 27 年 1 月	「キャリア教育実践プログラムの開発」の講師を務めた。「キャリア教育の専門家の貴重な助言をいただき、大変参考になった」と、受講者から評価を得た。
赤磐市立山陽小学校主催「赤磐市立山陽小学校校内研修会」「講師」：対象：高陽中学校区教職員	平成 27 年 1 月	「自己肯定感の育成をもとに学力向上を図る―役割・期待・承認―」で講師を務めた。
明石市教育委員会「スーパーバイザー派遣事業」・明石市立鳥羽小学校主催「明石市立鳥羽小学校校内研修会」講師：対象：明石市立鳥羽小学校教職員	平成 27 年 1 月	明石市教育委員会主催の研修会「講師」を務めた。学級経営と学力向上について、参加型・体験型研修のため実践的に学べたと受講者から評価を得た。
兵庫県稲美町教育委員会主催「稲美町生きる力を育むための小・中連携推進委員会：問題行動の状況、小中連携等」「講師」対象：稲美町教育委員会職員・町内小中校長、生徒指導担当者	平成 27 年 2 月	委員会の副委員長として講話を行った。各校の小中校長、生徒指導担当者より 1 年間の取組の事例発表に対して、助言をした。参加者からは「次年度からの指導に生かせる」等の感想を得た。
鳥取市教育委員会・鳥取市公立学校教頭会主催「管理職としての『いじめ未然防止・早期発見・早期対応』」「講師」	平成 27 年 2 月	「管理職としての『いじめ未然防止・早期発見・早期対応』」において学校づくりと生徒指導教員育成の視点で講師を務めた。
伊丹市立伊丹高等学校主催　「教員研修会：生徒が主体的に活動する学級経営について」「講師」対象：教職員 56 名	平成 27 年 3 月	受講者からは「高校生独特の事例についての紹介も多く、大変分かりやすく、とても実践的な内容であった」と、高評価を得た。
兵庫県立上郡高等学校主催事業「心のサポート事業研究開発校『コミュニケーションの在り方実践研究』：i-check データからみるクラス経営」「講師」	平成 27 年度	前回に引き続き、各クラスの i-check データを分析し、担任へ助言した。1 学期との比較が受講者に好評だった。
岡山県立東岡山工業高等学校主催事業『思春期サポート事業』」講師（スクールカウンセラー）年間 12 回	平成 27 年度	「キャンパスカウンセラー」を務めた。不登校生の面談では、昨年度に引き続き、100％再登校へと支援することができた。
東広島市いじめ問題調査委員会参加	平成 27 年 5 月	いじめ問題調査委員会設置条例に基づき、教育委員会から、「学識経験者」として委嘱され、会議等では、専門的知見から、助言等し実効を上げている。
兵庫県稲美町教育委員会主催「第 1 回稲美町生きる力を育むための小・中連絡推進委員会：問題行動の状況」「講師（副委員長）」（会場：稲美町役場コミュニティセンターホール）	平成 27 年 6 月	平成 26 年度の小・中学校における問題行動の状況について、中学校区ごとに、話し合いがあり、講師（副委員長）として助言をした。

兵庫教育大学大学院「学校教育研究科心の教育実践コース専門科目：キャリア教育実践プログラムの開発『エンカウンターによるキャリア教育』」非常勤講師　①[ストレート対象授業（1 限目）　、②現職院生対象授業（2 限目）、夜間コース対象授業（8 限目）（サテライト）]担当	平成 27 年度	キャリア教育実践プログラムの開発において、開発的カウンセリング技法（構成的グループエンカウンター）を生かしたプログラム開発について研修を進めた。「キャリア教育の要は、人間関係づくりであると確信できたし、たくさん実践のヒントを得た」と、受講者からも高評価であった。
岡山市教育委員会主催「適応指導教室　職員研修会」「講師」（会場：岡山市適応指導教室　対象：岡山市適応指導教室職員）	平成 27 年 7 月	不登校児童生徒の支援にとって、心的エネルギーをいかに高めるか、その手立てについて研修を進めた。研修後も市内から、たくさん問い合わせがあった。
赤磐市立高陽中学校主催「赤磐市立高陽中学校校内研修会：自己肯定感の育成をもとに学力向上を図る―役割・期待・承認―：i-check データからみる研究推進効果」講師：対象：高陽中学校区教職員	平成 27 年度	「自己肯定感の育成をもとに学力向上を図るための効果的な取組について：授業参観と指導助言」で講師を務めた。受講者からは「エビデンスが明確で、実践がスムーズにできる」と意見が出た。
岡山県教育委員会主催「明るい学校づくり支援事業における活用力向上（指導者派遣）：心理検査の分析活用による学級集団の実態把握、課題の明確化、いじめ、暴力行為、不登校等の未然防止等による学校づくり指導助言」「指導者」：津山市立津山西中学校②笠岡市立笠岡東中学校③津山市立勝北中学校	平成 27 年 8 月	心理検査を活用し、暴力行為等、特に問題行動が多発している県下中学校を年間複数回訪問し、指導助言をする事業の指導者を担当。「具体的でわかりやすい研修内容であった」「教師自身が、一息つける研修内容であった」等の、研修後の声が多く、各校２学期以降も助言することになった。
滋賀県立学校いじめ問題調査委員会「不登校支援の在り方を考える －「学級づくり」をテーマとしてー」対象：小中高等学校生徒指導・教育相談担当教員 500 名	平成 27 年 8 月	不登校児童支援の具体的手立てについて研修を進めた。「不登校を予防する学級づくりこそ大切だと実感した」「事例についても相談したい」と、研修後も問い合わせが多かった。
鳥取県教育委員会主催　「hyper-QU 活用研修会」「講師」（場所：倉吉体育文化会館、対象：県内高等学校教職員 70 名）	平成 27 年 8 月	「hyper-QU 活用研修会：hyper-QU を活用した学級づくり」の講師を務めた。「実践的な内容で、本年度はさらに深まった」と、高い評価を得た。
滋賀県立学校いじめ問題調査委員会「委員（学識経験者）」（会場：滋賀県庁）	平成 27 年 8 月	いじめ問題調査委員会条例に基づき、教育委員会から、「学識経験者」として委嘱された。
三木市教育センター専門研修講座「『カウンセリングで高める教師力』－カウンセリング技法を活用した学級づくりー』「講師」（対象：小中教職員 30 名　会場：三木市教育センター）	平成 27 年 8 月	「教師力」を高めるため、カウンセリングの技法を研修してもらうことを目的とした研修の講師を務めた。「２学期から早速活用したい」「学級経営に即生かせる内容だった」と、評価も高かった。
兵庫県多可町立加美中学校主催「専門研修会：Q-U を活用した学級づくり」「講師」（対象：多可町教職員 50 名　会場：加美中学校体育館）	平成 27 年 9 月	生徒指導には教師の観察だけでは、不十分で、それに加え、心理検査が必要であるとの趣旨から、研修会が開催された。

明石市教育委員会「スーパーバイザー派遣事業」・明石市立貴崎小学校主催「校内研修会：学級経営をベースにした学力向上について」講師	平成 27 年 9 月	明石市立貴崎小学校教職員を対象に講師を務めた。「学級経営と学力向上について、実習形式で、実践的に学べた」と、受講者から高い評価を得た。
鳥取県教育委員会主催「認め合い、高め合う豊かな学級集団づくり」研修：カウンセリング技法を活用した学級づくり」「講師」（会場：琴浦町生涯学習センター　対象：小中教職員 50 名）	平成 27 年 9 月	学級づくりのポイントとして、①児童生徒理解の工夫　②カウンセリング技法の活用　以上２点を中心に、参加型・体験型での研修を進めた。心を育てる道徳教育を基本にすることが重要と強調した。
石川県教育委員会・石川県教育センター主催「初任者研修「生徒理解Ⅳ」：いじめ・非行等問題行動とその対応や未然防止」「講師」（会場：石川県教育センター　対象：中学校 52 名、高等学校 68 名）	平成 27 年 9 月	①学級経営をベースにした取組②学級づくりの中心には道徳教育や特別活動を活用した「心の教育」「命の教育」を据える③カウンセリング技法の活用、以上３点を中心に参加型体験型での研修を進めた。
明石市教育委員会２７年度「スーパーバイザー派遣事業」・明石市立王子校主催「明石市教育委員会・明石市立王子小学校校内研修会：認め合い、高め合う豊かな学級集団づくり」研修　①カウンセリング技法を活用した学級づくり　②ユニバーサルデザインの視点からの学級づくり」講師	平成 27 年 10 月	「認め合い、高め合う豊かな学級集団づくり」のテーマで研修を進めた。特に，「ユニバーサルデザインの視点からの学級づくり」では，質疑応答が活発であった。
鳥取県教育委員会・岩美町立岩美南小学校主催事業「平成２７年度　鳥取県教育委員会・岩美町立岩美南小学校：学校外部評価・指導講評」「講師」（場所：岩美町立岩美南小学校　対象：教職員 30 名）	平成 27 年 10 月	外部評価委員として，学校評価を実施した。改善点を具体的に話した上で，教職員研修も実施し，学級経営，学年・学校運営のポイントを示したので，次回も派遣依頼を受けた。
兵庫教育大学大学院「学校教育研究科心の教育実践コース専門科目：学校における『心の教育』の実践研究」非常勤講師（兵庫教育大学神戸サテライト）	平成 27 年 11 月	「『心の教育』の実践事例」について、特に不登校対策支援の手立てについて講義を進めた。「不登校支援の様々な実践方法を学べた」と、受講者からも高い評価であった。
滋賀県教育委員会主催「平成 27 年度　生徒指導上の課題解決に係る管理職等研修会：いじめ・不登校問題への対応－『いのちの教育』の実践より－」「講師」14:50～16:10　会場：栗東芸術文化会館さきら　大ホール　対象：滋賀県教育委員会管轄　管理職 300 名）	平成 27 年度	管理職を対象にした研修で、管理職の立場で，どう生徒の問題行動と向き合うかについて研修を進めた。「事例についても直接相談したい」と、研修後も問い合わせが多くあった。
岡山県教育委員会「明るい学校づくり支援事業における活用力向上「指導者」（H27.3.23 付委嘱）。	平成 27 年度～平成 29 年度	岡山県教育委員会より「道徳を視点に置いた学級集団の課題等を明確にして対応や指導等を検討し、望ましい学級集団育成」専門家の委嘱を受けた。

東広島市教育委員会 「東広島市いじめ問題調査委員会」「委員」(H27.3.24 付委嘱)。	平成 27 年度～現在に至る	日本教育カウンセラー協会事務局の推薦により「東広島市いじめ問題調査委員会」「委員（学識経験者)」として委嘱された。
滋賀県教育委員会「滋賀県立学校いじめ問題調査委員会」「委員（学識経験者)」(H27.3.24 付委嘱)	平成 28 年度～平成 31 年度	日本生徒指導学会の推薦により「滋賀県立学校いじめ問題調査委員会」「委員（学識経験者)」として委嘱された。
岡山県いじめ問題対策連絡協議会「会長」	平成 28 年度～平成 31 年度	岡山県教育委員会より「岡山県いじめ問題対策連絡協議会」「会長」として委嘱された。
「大学コンソーシアム岡山」運営委員会「運営委員」	平成 28 年度	「大学コンソーシアム岡山」運営委員会「運営委員」として委嘱された。
岡山県保育士養成協議会「理事」(平成２９年３月まで)	平成 28 年度～平成 31 年度	岡山県保育士養成協議会「理事」として委嘱された。
新見市子ども・子育て支援事業「新見市子ども・子育て支援会議」「委員長」	平成 28 年度～平成 31 年度	新見市より，新見市子ども・子育て支援事業「新見市子ども・子育て支援会議」「委員長」として委嘱された。
新見市教育委員会「教育委員」(平成３２年３月まで)	平成 28 年度	新見市教育委員会「教育委員」として委嘱された。
岡山県教育カウンセラー協会主催（NPO 日本教育カウンセラー協会主管・岡山県教育委員会後援･岡山市教育委員会後援・倉敷市教育委員会後援・岡山いのちの電話協会後援)、2016 年教育カウンセラー養成講座（岡山会場)「構成的グループ・エンカウンター」「講師」(会場：岡山国際交流センター）3 時間　対象：保育所･幼稚園･小･中･高等学校教職員･カウンセラー･福祉･保健･医療･教育関係者･学生等　80 名	平成 28 年度	対象が、保育所･幼稚園･小･中･高等学校教職員･カウンセラー･福祉･保健･医療･教育関係者･学生等で、計 100 名の受講者であった。受講者からは、「実践的な内容で、すぐに現場で、子ども支援、保護者支援に活用したい」「専門性はもちろん、自分自身の実践や生き方を見つめ直すことができ、自身の人間性を高めることができる講座内容であった」等の意見が多く、好評であった。
NPO 日本教育カウンセラー協会主管・愛媛県教育カウンセラー協会主催「教育カウンセラー養成講座基礎コース「対話あのある授業ー『いのちを育てる関わり方』指導者の必要なカウンセリング能力とはー」「講師」(会場：松山市総合コミュニティセンター)	平成 28 年度	教育カウンセラー養成講座の講師を務めた。幼稚園教諭、保育士、小中高特別支援学校教員等、９５名の参加者からは、「参加型・体験型研修で、深い学びができた」「双方向で、交流しながら、めあてに迫ることができた」等の意見が多く、高い評価を得た。

NPO 日本教育カウンセラー協会主管・富山県教育カウンセラー協会主催「教育カウンセラー養成講座（富山会場）「基礎講座：保護者対応の心理学ー信頼される教師であるためにー」「講師」（会場：サンシップ富山）・「グレードアップ講座：事例研究・スーパービジョンー事例研究の方法と進め方ー」「講師」（会場：サンシップ富山）	平成 28 年 2 月	対象が、保育所･幼稚園･小･中･高等学校教職員･カウンセラー･福祉･保健･医療･教育関係者･学生等で、各講座、50 名ずつ、計 100 名の受講者であった。受講者からは、「実践的な内容で、すぐ子ども支援、保護者支援に活用したい」「専門性、人間性を高めることができる講座内容であった」等の意見が多く、好評であった。
石川県教育委員会・石川県教育センター主催「平成 27 年度　カウンセラー教員養成研修（講義・演習）児童生徒の心の理解と問題行動の未然防止のためにーいじめ・不登校防止,『いのちの教育』の教育実践よりー」「講師」（会場：石川県教育センター　対象：全県　高等学校教員・特別支援学校教員 250 名）	平成 28 年 2 月	「児童生徒の心の理解と問題行動の未然防止」について、特に、いじめ・不登校対策の手立てについて講義を進めた。「いじめ、不登校対策の様々な実践方法を学べた」と、受講者からも高い評価であった。
鳥取県教育委員会・岩美町立岩美南小学校主催事業「平成２７年度　鳥取県教育委員会・岩美町立岩美南小学校：学校外部評価・指導講評」「講師」（場所：岩美町立岩美南小学校）	平成 28 年 3 月	「学校外部評価・指導講評」の「講師」を務めた。「次年度に活かせる、具体的な話だった」と、教育委員会、小学校管理職、教職員からも好評であった。
兵庫県教育委員会・兵庫県立上郡高等学校主催事業「平成２７年度　心のサポート事業研究開発校『コミュニケーションの在り方実践研究』: i-check データからみるクラス経営」「講師」	平成 28 年 4 月	心のサポート事業研究開発校で、「コミュニケーションの在り方実践研究ーi-check データからみるクラス経営ー」のテーマで、講演をした。「個への向き合い、集団への向き合いのバランスを意識しようと思った。有益であった」等の意見が多く、高い評価を得た。
兵庫県東播磨カウンセリング研究会主催　平成 28 年度研修会「『いのちの教育』をどう進めるかー悩み相談やアンケート結果から見えてきたものー」「講師」	平成 28 年 5 月	「実践的な内容で、すぐに活用できるものばかりだった」などの感想が多く、好評だった。
赤磐市教育委員会　赤磐市立山陽東小学校ＰＴＡ・青少年育成協議会　主催　研修会「多様な子ども達に自信や意欲を持たせる関わり方ー自己肯定感を高める関わりを持つためにー」「講師」（会場：赤磐市立山陽東小学校）	平成 28 年 5 月	「大人が変われば子どもも変わる、を実感できる講演内容であった」などの感想が多く、研修終了後も問い合わせが多数あり、好評であった。
鳥取県教育委員会・鳥取県立智頭農林高等学校主催　職員研修会「開発的カウンセリング技法を活用した学級づくりーグループアプローチをクラスづくりに生かす際のポイントー」「講師」（会場：鳥取県立智頭農林高等学校）	平成 28 年度	「明日から早速、実践したい」「この技法を活用して学級経営に取り組みたい」等の意見が多くあり、受講の教職員から高い評価を得た。

岡山県教育委員会・岡山県立東岡山工業高等学校主催事業「平成２８年度　『思春期サポート事業』」講師（スクールカウンセラー）（年間 12 回）	平成 28 年 6 月	岡山県教育委員会・岡山県立東岡山工業高等学校主催事業「平成２８年度　『思春期サポート事業』」講師（スクールカウンセラー）を委嘱された。
明石市教育委員会・明石市教育研究所主催事業「平成２８年度　明石市教育委員会スーパーバイザー派遣事業：道徳教育から考える子どもの人間関係づくり」「講師」（場所：明石市教育研究所、対象：明石市立鳥羽小学校教職員）	平成 28 年 6 月	「大変実践的な内容で、明日からでも活用できるものばかりだった」などの感想が多く、高評価だった。
兵庫県教育委員会・兵庫県立相生産業高等学校主催事業「平成２８年度　心のサポート事業研究開発校アサーションで人間関係づくりーカウンセリング技法を活用したコミュニケーション力の育成ー」「講師」	平成 28 年 7 月	心のサポート事業研究開発校で、「アサーションで人間関係づくりーカウンセリング技法を活用したコミュニケーション力の育成ー」のテーマで、講演をした。「実践的な内容と、的確なアドバイスに感激した」等の意見が多く、好評だった。
神港学園神港高等学校主催「平成 28 年度　神港学園神港高等学校　校内研修会： hyper-QU を活用した学級づくり」「講師」（対象：神港学園神港高等学校　教職員 50 名　会場：神港学園神港高等学校）	平成 28 年 7 月	「hyper-QU を活用した学級づくりの手法について具体的に理解できた」などの感想が多く、教職員から高い評価だった。
兵庫教育大学大学院「学校教育研究科心の教育実践コース専門科目：キャリア教育実践プログラムの開発『エンカウンターによるキャリア教育』」「講師」	平成 28 年 7 月	「キャリア教育実践に活かせる技法を教えてもらいすぐ活用したい」「実践的内容でよかった」などの感想が多く、高評価だった。
兵庫県教育委員会・兵庫県立但馬やまびこの郷主催「平成 28 年度不登校に関する研修会：不登校の未然防止・課題対処型のＳＧＥ－構成的グループ・エンカウンターの理論と実際ー」「講師」（会場：兵庫県立但馬やまびこの郷　対象：兵庫県下小中学校教職員 70 名）	平成 28 年 7 月	主に「不登校児童生徒の未然防止・課題解決型手立て」について講演をした。「不登校対策の様々な未然防止法などを学べた」「大変実践的に学べた」と、受講者からも高い評価であった。
鳥取県教育委員会主催　「平成 28 年度第１回 hyper-QU　活用研修会」「講師」（対象：鳥取県立高等学校、生徒指導主事等 40 名：会場；鳥取県倉吉体育文化会館）	平成 28 年 7 月	「hyper-QU についてはもちろん、これを活用した学級づくりの手立てについて具体的に理解することができた」などの感想が多く、教職員から高い評価だった。
兵庫県明石市教育委員会・明石市教育研究所主催「平成 28 年度　事務職員研修会：自他を大切にした自己表現ーカウンセリング技法を活用したコミュニケーション力の育成ー」「講師」（会場：明石市教育研究所）	平成 28 年 7 月	「カウンセリング技法を活用したコミュニケーション力の育成がいかに大切か、演習を通して具体的に理解できた」などの感想が多く、研修終了後も問い合わせがあり、好評であった。

新見公立大学　看護学部　教員研修「大学におけるアクティブ・ラーニングを取り入れた授業展開の試み」「講師」	平成 28 年 8 月	「わかりやすい内容なので、次回もお願いしたい」「アクティブ・ラーニング型授業についてよくわかった」と、受講者からも高い評価であった。
新見市教育委員会主催　「平成 28 年度　新見市全教職員研修会：幼小中の連携をふまえて進める『心の教育』の実際」「講師」（会場：新見市哲多総合センター　対象：保・幼・認定こども園・小・中学校教職員　250 名）	平成 28 年 8 月	「幼小中の連携をふまえて進める『心の教育』の大切さ、その実践の仕方が、よく理解できた」などの感想が多く、研修が終了して後も、多くの問い合わせがあり好評であった。
明石市教育委員会平成２８年度「スーパーバイザー派遣事業」・明石市立朝霧中学校主催「明石市教育委員会・明石市立朝霧中学校校内研修会：今、求められるコミュニケーションスキルーストレス・マネジメント教育の実際ー」「講師」（対象：明石市教育委員会・明石市立朝霧中学校教職員　会場：明石市立朝霧中学校）	平成 28 年 8 月	「自他を大切にしたコミュニケーション力の育成がどれほど大切かよくわかった」「実習を通して具体的に理解できた」などの感想が多く、大変好評であった。
明石市魚住東地区人権教育研究協議会・魚住東地区青少年愛護協議会共催「平成 28 年度　夏季リーダー研修会：今、求められるコミュニケーションスキル　ー自分も相手も大切にした自己表現ー」「講師」	平成 28 年 8 月	「自分も他者も大切にしたコミュニケーション力を育成することが、いかに大切かが、実習を通して具体的に理解できた」等の意見が多く寄せられた。
岡山県国公立幼稚園・こども園教育研究会　道徳教育部会　研修会「幼児期にこそ育てる子どもたちの『心の根っこ』ー「心の教育」「いのちの教育」の実践を通してー」「講師」（対象：部会関係園長・保育教諭 90 名　会場：ライフパーク倉敷）	平成 28 年 8 月	「幼児期にこそ育てる子どもたちの『心の根っこ』ー「心の教育」「いのちの教育」の実践を通してー」のテーマで講演をした。「次はぜひ、私の所属する園で講演を依頼したい」などの感想が多く、大変好評であった。
岡山県立東岡山工業高等学校主催「平成２８年度高校生対象学習会　部活動夏季学習会：バレーボール部・野球部員７０名対象　ストレス・マネジメント学習会：体験、ストレス・マネジメント教育の実際」「講師」（会場：岡山県立東岡山工業高等学校）	平成 28 年 8 月	高校生を対象に授業をした。「ぜひ日常に取り入れたい」「部活動に活かしたい」などの意見が多く、次年度も依頼を受けた。
兵庫県西宮市教育委員会主催「平成２８年度　学級経営研修：カウンセリング技法を活用した学級づくり：　―構成的グループ・エンカウンターの理論と実際―」「講師」（10:00～12:00　対象：西宮市教職員 80 名　会場：兵庫県西宮市立総合教育センター）	平成 28 年 8 月	ほとんどが初任者での研修であった。「ぜひ学級づくりに活かしたい」などの感想が多く、センター課長からは次年度も依頼を受けた

岡山県国公立幼稚園・こども園研究会備北支部研修会「幼児期にこそ求められる『心の教育』『いのちの教育』の実践－幼児期における『心の教育』『いのちの教育』の進め方－」（対象：岡山県備北地区　国公立幼稚園こども園長・保育教諭 70 名　会場：新見公立大学　学術交流センター）	平成 28 年度	「幼児期にこそ求められる『心の教育』『いのちの教育』の実践－幼児期における『心の教育』『いのちの教育』の進め方－」のテーマで講演を進めた。「次はぜひ、私の所属する幼稚園で講演をお願いしたい」などの感想が多く、大変好評であった。
明石市教育委員会平成２８年度「スーパーバイザー派遣事業」・明石市立花園幼稚園主催「明石市教育委員会・明石市立花園幼稚園園内研修会：個の育ちを支える援助を考える－幼児期のおける「心の教育」「いのちの教育」の進め方－」「講師」（対象：明石市教育委員会・明石市立花園幼稚園教職員　会場：明石市立花園幼稚園）	平成 28 年 9 月	「個の育ちを支える援助を考える－幼児期のおける「心の教育」「いのちの教育」の進め方－」のテーマで講演を進めた。子どもが死にどう向き合ったらいいか、等の事例についての質問もあり、大変深まった研修であった。
高大連携授業実践・岡山県立新見高等学校「体・いのちの教育」　1 年生・2 年生 45 名対象（会場：岡山県立新見高等学校）	平成 28 年 9 月	「体験・いのちの教育」のテーマで講演を進めた。「実践的内容で、進路の具体的なイメージもできてよかった」などの感想が多く、大変好評であった。
石川県教育委員会・石川県教育センター主催「初任者研修「生徒理解Ⅳ」：いじめ・非行等問題行動とその対応や未然防止」「講師」（会場：石川県教育センター　対象：中学校 60 名、高等学校 70 名　合計 130 名）	平成 28 年 9 月	「いじめ・非行等問題行動とその対応や未然防止」のテーマで初任者に講演した。「教師としての心構えをしっかりと持てた」などの感想が大半を占め、質疑応答も多かった。
岡山県教育委員会・岡山県立東岡山工業高等学校主催いじめ対策会議「ＳＮＳ・プロフによるいじめの予防と対応」「講師」対象：教職員 70 名	平成 28 年 9 月	事例についての内容が多く、とてもわかりやすかった」「生徒指導実践に役立てたい」等の意見が多く、好評であった。
鳥取県教育委員会・岩美町立岩美南小学校主催事業「平成２８年度　鳥取県教育委員会・岩美町立岩美南小学校：学校外部評価・指導講評」「講師」（場所：岩美町立岩美南小学校　対象：教職員 30 名）	平成 28 年 10 月	「教職員が元気になる指導講評であった」「PDCA サイクルに則った評価で、学校組織がチームとして次に生かせる内容であった」などの感想が多く、大変好評であった。
岡山県高等学校教育研究会教育相談部会・岡山県学校教育相談研究会高等学校部会主催「平成２８年度　岡山高教研教育相談部会秋季研修会：カウンセリング技法を生かしたクラスづくり－構成的グループ・エンカウンターの理論と実際－」「講師」会場：岡山県立津山東高等学校　対象：教職員 70 名）	平成 28 年 10 月	「カウンセリング技法を生かしたクラスづくり」のテーマで講演を進めた。「実践的内容でよかった」「質疑応答においても、具体的手立てのアドバイスもあり、参加してよかった」などの感想が複数あり、参加者から高い評価を得た。

吉備中央町立津賀幼稚園主催　「すこやかセミナー:『生き抜く力』を育てる子育て十カ条」　対象：教職員２０名・保護者２０名）	平成 28 年 10 月	「子どもにいかに『生き抜く力』を育てるか」のテーマで保育者や、保護者に講演した。「教師として、こどもへの関わり方の留意点やヒントをたくさんもらった」などの感想が大半を占め、質疑応答も多かった。
兵庫教育大学大学院「学校教育研究科心の教育実践コース専門科目:「教育相談の理論と技能開発」(教育実践高度化専攻：心の教育実践コース専門科目)「非常勤講師」３限　13:10～14:40　社会棟 526 号室　対象：大学院生 20 名	平成 28 年 10 月	「教育相談や生徒指導、さらにはキャリア教育実践に活かせる技法を教えてもらいすぐ活用したい」「開発的カウンセリング技法の実践法が理解できた」などの感想が多く、高評価だった。
兵庫教育大学大学院「学校教育研究科心の教育実践コース専門科目:「教育相談の理論と技能開発」(教育実践高度化専攻：心の教育実践コース専門科目)「非常勤講師」現職院生対象授業（7 限目）夜間コース院生５名対象授業　18:30～20:00　神戸ハーバーランド・キャンパス（サテライト）]	平成 28 年 10 月	「心の教育の実践について具体的に学ぶことができた」「管理職としての心構えの参考になった」「カウンセリング技法の実践的な方法が理解できた」などの感想が多く、高い評価を得ることができた。
平成 28 年度にいみ子育てカレッジ「子育て支援者に対する専門研修」「幼児教育におけるいのちの教育の理論と実践Ⅰ」・「幼児教育におけるいのちの教育の理論と実践Ⅱ」・「幼児教育におけるいのちの教育の理論と実践Ⅲ」「講師」	平成 28 年度（10 月・11 月・12 月）	「保育者・教育者としてどう子どもの心を育て、子どもの命に向き合うか、その方向性が見えた」「いのちに関わる絵本を紹介してもらったのがよかった」「次年度も楽しみにしたい」などの感想が多かった。
兵庫県教育委員会・兵庫県立相生産業高等学校主催事業「平成２８年度　心のサポート事業研究開発校『アサーションで人間関係づくりⅡ－カウンセリング技法を活用したコミュニケーション力の育成－：定時制」「講師」対象：県立高校教職員８０名	平成 28 年 11 月	「生徒指導・教育相談、進路指導に活かせる技法を教えてもらった。すぐ活用したい」「開発的カウンセリング技法の実践法（アサーショントレーニング技法）が理解できた」などの感想が多く、高評価だった。
石川県教育委員会　教職員課主催「平成 28 年度子どもの心を育てる教師のコミュニケーション力向上研修：子どもの心を育てる教師のコミュニケーション能力の育成－教師自身が自他を大切にした自己表現を！－」9:30～12:00　会場：石川県地場産業振興センター　対象：石川県内教職員 300 名	平成 28 年 11 月	「子どもの心を育てる教師のコミュニケーション能力の育成－教師自身が自他を大切にした自己表現を！－」のテーマで初任者に講演した。「教師としての初心に返ることができた」「教職にある者としての心構えを再確認できた」などの感想が大半を占め、質疑応答も多かった。
滋賀県立学校いじめ問題調査委員会「委員（学識経験者)」(会場：滋賀県庁)	平成 28 年 11 月	いじめ問題調査委員会条例に基づき、教育委員会から、「学識経験者」として委嘱された。
兵庫県教育委員会・兵庫県立上郡高等学校主催事業「平成２８年度　心のサポート事業研究開発校①『授業：アサーション・トレーニング、小中学	平成 28 年 11 月	「①『授業：アサーション・トレーニング、小中学生にアサーションを伝えるためのプログラム作り』の課題と成果，②『「i-check」を活用した学級づく

生にアサーションを伝えるためのプログラム作り』の課題と成果，②『「i-check」を活用した学級づくり』「講師」13:00～17:00		り』」のテーマで講演をした。「教育相談や生徒指導の教育実践に活かせる内容で、すぐに活用したい」「開発的カウンセリング技法の実践方法が理解できてよかった」などの感想が多く、高評価だった。
吉備中央町教育委員会主催・吉備中央町教育研修所幼稚園部　全体研修会「幼児期にこそ『心の教育』『いのちの教育』をベースにした実践を！」（対象：吉備中央町内、保育所、幼稚園、小学校等、教職員。会場：吉備中央町立津賀幼稚園） 鳥取県教育委員会・鳥取県立日野高等学校主催「学級経営に活かす hyper-QU 研修会」「講師」13:00～17:00	平成 28 年 12 月 平成 28 年 12 月	「幼児期にこそ『心の教育』『いのちの教育』をベースにした実践を！」のテーマで保育者や、保護者に講演した。「教師として、こどもへ関わる際のポイントをたくさん教えてもらった」などの感想が大半を占め、質疑応答も多く、高い評価を得た。 「学級経営に活かす hyper-QU 研修会」のテーマで講演をした。「教師自身が元気になる内容であった」「次年度もお願いしたい」などの感想が多かった。
兵庫県教育委員会・兵庫県立姫路別所高等学校主催事業　「学級経営に活かす hyper-QU 研修会」「講師」13:00～17:00 岡山県教育委員会・岡山県立東岡山工業高等学校主催「いじめ対策会議：ＳＮＳ・プロフによるいじめの予防と対応」「講師」（会場：岡山県立東岡山工業高等学校　対象：高等学校教職員５０名） 岡山市教育委員会・適応指導教室　ラポート牧山主催「適応指導教室　不登校生支援授業」「講師」（会場：岡山市適応指導教室　ラポート牧山　対象：適応指導教室　ラポート牧山　職員）13:00～15:00	平成 29 年 1 月 平成 29 年 1 月 平成 29 年 1 月	「学級経営に活かす hyper-QU 研修会」の演題で教職員に講演した。「クラスづくりの手立てについて具体的に理解できた」等の感想が多く、質疑応答も活発であった。 「いじめ対策会議：ＳＮＳ・プロフによるいじめの予防と対応」のテーマで当該高校教職員に講演した。「ＳＮＳ・プロフによるいじめ予防の大切さが実感できた」等の感想が多く、質疑応答も活発であった。 「不登校事例への具体的手立てが明確につかめた」「当該事例への介入法が具体的に理解できた」等の感想が多く、高評価であった。
鳥取県教育委員会・岩美町立岩美南小学校主催事業「平成２８年度　鳥取県教育委員会・岩美町立岩美南小学校：学校外部評価・指導講評」「講師」（場所：岩美町立岩美南小学校） 吉備中央町・にこにこふたば保育園主催「平成 28 年度　にこにこふたば保育園講演会『生き抜く力』を育てる子育て十ヵ条ー子どもの悩みから見えてくるものー」13:00～15:00	平成 29 年 2 月 平成 29 年 2 月	「前回同様、教職員や保護者、ひいては子ども達が元気になる指導講評であった」「学校組織がチームとして次年度に生かせる内容であった」などの感想が多く、大変好評であった。 「保育者としてどう子どもの『生き抜く力』を育て、子どもの命に向き合うかの方向性が見えた」「いのちに関わる絵本を紹介を紹介してもらったのがうれしかった」などの感想が多かった。

兵庫県稲美町教育委員会主催「平成２８年度第２回稲美町生きる力を育むための小・中連絡推進委員会：本年度小中学校における問題行動の状況・振り返り」「講師（副委員長）」（会場：兵庫県稲美町役場コミュニティセンターホール）	平成 29 年 2 月	平成 28 年度の小・中学校における問題行動の状況について、中学校区ごとにグループディスカッションがあり、講師（副委員長）として助言をした。
岡山市教育委員会・適応指導教室　すまいる瀬戸主催「適応指導教室　不登校生支援授業」「講師」（会場：岡山市適応指導教室　すまいる瀬戸　対象：適応指導教室　すまいる瀬戸　職員）14:00～15:00	平成 29 年 3 月	「今回検討した不登校事例への具体的な手立てが明確につかめてよかった」「各事例への介入法が具体的に理解できた」等の感想が多く、高評価であった。
岡山県教育委員会主催「平成 28 年度　第２回　岡山県いじめ問題対策連絡協議会」「会長」（10:00～12:00　会場：岡山県庁分庁舎）	平成 29 年 3 月	岡山県教育委員会からの委嘱を受け、岡山県いじめ問題対策連絡協議会会長として、組織を企画運営した。
岡山県教育委員会・岡山県立岡山東商業高等学校主催「平成 29 年度　高大接続研修：i-check データからみるクラス経営」「講師」	平成 29 年 3 月	「クラスの実態が明確に把握でき、明日からどう取り組めばいいかのヒントももらえた」などの感想が多く、大変好評であった。
平成 28 年度　第 1 回「新見市総合教育会議」（教育委員出席・発表「新見公立大学・短大と連携した教育によるまちづくり」）	平成 29 年 3 月 16 日	住本は、新見市教育委員として出席し、新見公立大学健康保育学科長・教授の立場からも「新見公立大学・短大と連携した教育によるまちづくり」のテーマで提案した。
平成 29 年度教科用図書（小学校道徳）新見市・高梁市選定委員会「委員」	平成 29 年度	「委員」として、教科用図書の採択を進めた。適正かつ公正な採択の確保ができたと高い評価を得た。
兵庫県小野市市民安全部ヒューマンライフグループ主催「平成 29 年度小野市いじめ防止市民会議」「有識者・委員」	平成 29 年度～平成 31 年度	「平成 29 年度小野市いじめ防止市民会議」「有識者・委員」（平成 31 年度まで）として、小野市長より委嘱された。
兵庫県明石市教育委員会「平成 29 年度　教科用図書明石地区選定委員会」「会長」	平成 29 年度	「会長」として、教科用図書の採択を進めた。適正かつ公正な採択の確保ができたと高評価を得た。
学校法人美作学園美作高等学校（学校長　早瀬直紀氏）「平成 29 年度　進路ガイダンス・模擬授業」2 年生・3 年生 15 名参加「講師」	平成 29 年 4 月	「体験・いのちの教育」のテーマで模擬授業を進めた。「とてもわかりやすく、実践的内容で、進路の具体的なイメージもできてよかった」などの感想が多く、大変好評であった。
岡山市立岡山後楽館高校工大接続事業「模擬授業」（3 年生 45 名対象）	平成 29 年 4 月	「とてもわかりやすい内容で、自身の進路についての具体的なイメージもできてよかった」などの感想が多く、大変好評であった。

兵庫県加古川市平岡公民館主催事業「平成29年度平岡シニアカレッジ：仲間作りワークショップ」「講師」（加古川市平岡公民館　9:00～12:00、対象カレッジ生80名）	平成29年5月	「他者とのふれあいの素晴らしさが実感できた」「絆づくりの手法を体験を通して学べた」などの感想が多く、高評価だった。
岡山県教育委員会・岡山県立東岡山工業高等学校主催事業「平成29年度　『思春期サポート事業』」講師（スクールカウンセラー）（年間12回）	平成29年度	岡山県教育委員会・岡山県立東岡山工業高等学校主催事業「平成29年度　『思春期サポート事業』」講師（スクールカウンセラー）を委嘱された。
岡山県作陽高等学校（学校長：野村雅之氏）主催事業「平成29年度　高大接続研修　：i-checkデータからみるクラス経営の在り方」「講師」	平成29年5月	「自分のクラスの実態が明確に把握でき、担任として明日からの生徒指導にどう取り組めばいいかのヒントももらえた」などの感想が多く、大変好評であった。
兵庫県教育委員会・兵庫県立相生産業高等学校主催『高大接続事業』「平成29年度　心のサポート事業研究開発校『アサーションで人間関係づくりⅠ－カウンセリング技法を活用したコミュニケーション力の育成－』」「講師」	平成29年6月	「教育相談や生徒指導、学級経営の教育実践に活かせる内容で、明日からでもすぐに活用したい」「開発的カウンセリング技法の実践方法が理解できてよかった」などの感想が多く、高評価だった。
兵庫県教育委員会・兵庫県立姫路別所高等学校主催「平成29年度　高大接続事業：hyper-QUを活用したクラス経営」「講師」	平成29年7月	「学級の実態が的確に把握でき、明日からの生徒指導にどう取り組めばいいかのヒントももらえた」などの感想が多く、大変好評であった。
神戸星城高等学校　「進路ガイダンス・模擬授業」「講師」高校3年生7名（男1・女6）=看護希望1・地福希望1・幼児教育希望5	平成29年7月	「模擬授業がわかりやすい内容で、自分の進路についての具体的なイメージもでき、よかった」などの感想が多く、好評であった。
岡山県立備前緑陽高等学校（学校長：萩原康正氏）主催事業「平成29年度　高大接続研修　：i-checkデータからみるクラス経営の在り方」「講師」	平成29年7月	「担任として自分のクラスの実態が明確に把握でき、明日からの生徒指導にどう取り組めばいいかのヒントももらえた」などの感想が多く、大変好評であった。
兵庫教育大学大学院「学校教育研究科心の教育実践コース専門科目：キャリア教育実践プログラムの開発『エンカウンターによるキャリア教育』」非常勤講師　①[ストレート対象授業（1限目）　9:00～10:30　B（ストレート学生47名）、共通講義棟204、②現職院生対象授業（2限目）　10:40～12:10　A（現職教員学生22名）共通講義棟204、　③夜間コース対象授業（7限目）20:10～21:40　夜間学生1名　神戸ハーバーランド・キャンパス（サテライト）講義室２]	平成29年7月	「心の教育（キャリア教育）の実践について具体的に学ぶことができた」「教職に就く前に興味深い実践法を学べてよかった」「管理職としての心構えの参考になった」「カウンセリング技法（エンカウンター）の実践的な方法が理解できた」「体験を通して学ぶことができた」などの感想が多く、高い評価を得ることができた。

兵庫県稲美町教育委員会主催「平成 29 年度第１回稲美町生きる力を育むための小・中連絡推進委員会：昨年度小中学校における問題行動の状況・中学校区ごとによる話し合い」「講師（副委員長）」（会場：兵庫県稲美町役場コミュニティセンターホール）	平成 29 年 7 月	平成 29 年度の小・中学校における問題行動の状況について（前半）、中学校区ごとにグループディスカッションがあり、講師（副委員長）として助言をした。
滋賀県立学校いじめ問題調査委員会「委員（学識経験者）」（会場：滋賀県庁）	平成 29 年 7 月	県立学校におけるいじめ問題について、委員（学識経験者）として議論した。
鳥取県教育委員会・鳥取県立米子白鴎高等学校主催『高大接続事業』「クラス作りに生かす hyper-qu 研修会」「講師」10:00～12:00	平成 29 年 7 月	「クラス作りに生かす hyper-qu 研修会」の演題で教職員に講演した。「クラスづくりの手立てについて具体的に理解できた」等の感想が多く、質疑応答も活発であった。
岡山県教育委員会主催「平成 29 年度　第１回　岡山県いじめ問題対策連絡協議会」「会長」（13:30～16:00　会場：岡山県立図書館）	平成 29 年 7 月	岡山県いじめ問題対策連絡協議会会長として、いじめ問題への対策について協議し、県の方針をまとめた。
鳥取県教育委員会主催　「平成 29 年度第１回 hyper-QU　活用研修会」「講師」（対象：鳥取県立高等学校、生徒指導主事等 40 名：会場；鳥取県倉吉体育文化会館）	平成 29 年 7 月	「クラス作りに生かす hyper-qu 研修会」の演題で鳥取県内教職員に講演した。「クラスづくりの手立てについて具体的に理解できた」「本校の研修講師をお願いしたい」等の感想が多く、質疑応答も活発であった。
平成 29 年度西日本公立保育士養成所長会議　担当校　企画・運営・会議進行・報告書作成	平成 29 年 8 月	「平成 29 年度西日本公立保育士養成所長会議」の担当校として（幼児教育学科長）、企画・運営・会議進行・報告書作成を担当した。
岡山県総社市教育委員会　小学校研究部会研修会「学級作りに生かすカウンセリング技法」「講師」対象：総社私立小学校校長会校長・教育相談担当者・生徒指導担当者 50 名　9:30～12:00	平成 29 年 8 月	「学級作りに生かすカウンセリング技法」の演題で総社市教育委員会　小学校研究部会教職員を対象に講演をした。「学級作りに生かすカウンセリング技法について具体的に理解できた」等の感想が多く、高評価であった。
明石市教育委員会平成２９年度「スーパーバイザー派遣事業」・明石市立松が丘幼稚園主催「明石市教育委員会・明石市立松が丘幼稚園園内研修会：カウンセリング・マインドを大切にした保護者との関わりについて」「講師」（対象：明石市教育委員会・明石市立花松が丘稚園教職員　会場：明石市立松が丘幼稚園）	平成 29 年 8 月	「カウンセリング・マインドを大切にした保護者との関わりについて」のテーマで明石市立松が丘稚園教職員を対象に講演をした。「効果的な保護者との連携の仕方について具体的に理解できた」等の感想が多く、高い評価を得た。
鳥取県教育委員会・岩美町立岩美南小学校主催事業「平成 29 年度　鳥取県教育委員会・岩美町立岩	平成 29 年 9 月	「毎回講評にしてもらうと、課題が明確に把握できる」「課題解決法まで指導してもらえるため次につ

美南小学校：学校外部評価・指導講評」「講師」（場所：岩美町立岩美南小学校　対象：教職員 30 名）		ながる評価である」「指導講評は学校組織がチームとして次に生かせる内容であった」などの感想が多く、大変好評であった。
兵庫県教育委員会・兵庫県立但馬やまびこの郷主催研修会「講義・演習：クラスの中での人間関係づくりー構成的グループエンカウンター（SGE）の演習を取り入れてー」「講師」丹波の森公苑 10:00～15:00　兵庫県下教職員 100 名	平成 29 年 9 月	「講義・演習：クラスの中での人間関係づくりー構成的グループエンカウンター（SGE）の演習を取り入れてー」のテーマで兵庫県教育委員会教職員を対象に講演をした。「実践的な内容を体験を通して学べた」等の感想が多く、高評価を得た。
岡山県立新見高等学校高大接続模擬授業・進路ガイダンス「講師」①進路ガイダンス・模擬授業 13:30～14:40　岡山県立新見高校生 1 年生 15 名 2 年生 15 名　計 30 名（幼児教育学科志望者）　②【内容】ガイダンス　学科の特色　入試に概略等生徒の希望による模擬授業実施	平成 29 年 9 月	「アクティブ・ラーニング型授業風景動画の視聴（住本担当授業）や模擬授業を受けて、幼児教育学科の特色がよくわかった」「大学の授業が、具体的にイメージできた」「針路のデザインが具体的に描けた」等の感想が多く、高い評価を得ることができた。
石川県教育委員会・石川県教育センター主催「平成 29 年度　初任者研修（講義）『いじめ・非行等問題行動とその対応や未然防止ーいじめ・不登校防止【いのちの教育】の教育実践よりー」「講師」（会場：石川県教員総合研修センター　対象：平成 29 年度　初任小・中・高・特別支援学校　教員 300 名　9:30～12:15）	平成 29 年 9 月	「いじめ・非行等問題行動とその対応や未然防止ーいじめ・不登校防止【いのちの教育】の教育実践よりー」のテーマで石川県教育委員会初任者に講演した。「『教師』としての心構えをしっかりと持てた」「保護者との連携の仕方や生徒指導の具体的方法の理解が深まった」などの感想が大半を占め、質疑応答も多く高評価であった。
第 14 回新見千屋温泉いぶきの里経営諮問委員会（千屋温泉いぶきの里）「諮問委員」	平成 29 年 10 月	「新見千屋温泉いぶきの里経営諮問委員会（千屋温泉いぶきの里）」「諮問委員」として地方創生に関する協議を深めた。
新見市教育委員会・新見市小学校校長会主催「平成 29 年度　第 2 回　小学校校長会議　研修会：『新見市における保幼小中連携：保・幼・小連携に関する一考察ー接続プログラムの開発を通してー』9:30～11:00　新見市阿新教育会館　対象；新見市小学校校長 17 名	平成 29 年 10 月	「新見市における保幼小中連携：保・幼・小連携に関する一考察ー接続プログラムの開発を通してー」の演題で新見市小学校校長を対象に講演をした。「実践的な内容について体験を通して学べた」等の感想が多く、高い評価を得た。
岡山県教育委員会主催「平成 29 年度　第 2 回　岡山県いじめ問題対策連絡協議会」「会長」（9:00～12:00　会場：岡山県庁分庁舎）	平成 29 年 10 月	岡山県いじめ問題対策連絡協議会会長として、いじめ問題への対策について協議し、県の年間報告書にまとめた。
岡山県教育委員会生徒指導室長からの依頼を受けての助言「学校における危機対応・心のケア」（生徒の交通事故死　高校生 3 名）	平成 29 年 10 月	教職員、関係生徒（クラス、部活動等）、遺族等への心のケアの体制づくりを、中心になって企画し、実施した。

平成 29 年度にいみ子育てカレッジ「子どもの『いのち』を育む保育経営の実際⑴－保・幼・小連携の視点からー」・「子どもの『いのち』を育む保育経営の実際⑵－保・幼・小連携の視点からー」新見公立大学　学術交流センター　18:30～19:30「講師」	平成 29 年度（10 月・11 月）	「保育者や教育者として、どう子どもの心を育て、子ども達のいのちに向き合うかの方向性が見えた」「いのちに関わる絵本を紹介してもらったのがよかった」「次回も楽しみである」などの感想が多かった。
岡山県・岡山吉備高原学園高等学校主催　講演会「体験、いのちの教育」「講師」 会場：吉備高原学園高等学校 対象：生徒 300 名、保護者・教職員 100 名　計 400 名	平成 29 年 10 月	「体験・いのちの教育」のテーマで、生徒 300 名、保護者・教職員 100 名　計 400 名を対象に講演をした。「とてもわかりやすく、プラス思考で今後生活したい」「我が子の良さを見つめ直したい」「これからよりカウンセリング・マインドを持って子ども達に向き合いたい」などの感想が多く、大変好評であった。
岡山市教育委員会・適応指導教室　ラポート牧山主催「適応指導教室　不登校生支援授業」「講師」	平成 29 年 11 月	「事例提供した不登校事例への具体的な手立てが明確につかめてよかった」「スタッフとしての各事例への介入法が具体的に理解できた」等の感想が多く、高評価であった。
岡山市教育委員会・適応指導教室　ラポート牧山主催「適応指導教室　不登校生支援授業」「講師」（会場：岡山市適応指導教室　ラポート牧山　対象：適応指導教室　ラポート牧山　職員）13:00～15:00	平成 29 年 12 月	「今回検討した事例への手立てが明確に理解できよかった」「事例への介入方法が具体的に理解できた」「講師には専門家として定期的に指導してほしい」等の感想が多く、高評価であった。
岡山県立備前緑陽高等学校（学校長：萩原康正氏）主催事業「平成 29 年度　高大接続研修　：i-check データから分析するクラス経営の在り方」「講師」14:00～17:00	平成 29 年 12 月	「クラス担任として、自分のクラスの実態が明確に把握でき、明日からの生徒指導にどう取り組めばいいかについてのヒントももらえた」などの感想が多く、大変好評であった。
岡山県教育委員会・岡山県立東岡山工業高等学校主催「いじめ対策会議：SNS によるいじめの予防と対応」「講師」対象：高等学校教職員 50 名	平成 29 年 12 月	事例についての内容、その手立てについての話が多く、とてもわかりやすかった」「生徒指導や教育相談実践に役立てたい」等の意見が多く、好評であった。
新見市教育委員会「プログラミング教育　小・中学生実践発表会」「審査委員長」13:30～17:00　新見市役所南庁舎	平成 29 年 12 月	新見市教育委員会主催の「プログラミング教育　小・中学生実践発表会」の「審査委員長」として各発表にコメントをし、発表した生徒からは「意欲を持てるコメントを受け、一層頑張りたい」等の感想が多く、次年度以降も「審査委員長」の依頼を受けた。

石川県教育委員会・石川県教育センター主催「平成30年度　カウンセラー教員養成研修（講義・演習）絆づくりー教育カウンセリングの視点からー」「講師」（会場：石川県教員総合研修センター対象：全県　教職員　9:30～16:00）	平成30年1月	「（講義・演習）絆づくりー教育カウンセリングの視点からー」について、特に、いじめ・不登校対策の手立てについて講義を進めた。「教育カウンセリングの理論や技法について、体験的に学べた」と、受講者からも高い評価であった。
岡山県立備前緑陽高等学校（学校長：萩原康正氏）主催事業「平成30年度　高大接続研修：i-checkデータから分析するクラス経営の在り方」「講師」14:00～17:00	平成30年1月	「担任としてクラスの実態が的確に把握でき、明日からの教育相談や生徒指導に生かせる」などの感想が多く、好評であった。研修後には複数の教員からの質問があった。
兵庫県教育委員会・兵庫県立千種高等学校主催『高大接続事業』・高校生心のサポートシステム事業「講師」場所：兵庫県立千種高等学校	平成30年1月	「開発的カウンセリング技法のアサーション・トレーニングについて理解を深めることができよかった」等の意見が多く、好評であった。
岡山市教育委員会・適応指導教室　すまいる瀬戸主催「適応指導教室　不登校生支援授業」「講師」対象：岡山市不登校児童・生徒・支援スタッフ	平成30年1月	「事例への介入方法が具体的に理解できた」「検討した事例への手立てが明確に理解できよかった」「今後も講師には定期的に指導してほしい」等の感想が多く、高評価であった。
岡山県教育委員会・岡山県立東岡山工業高等学校主催事業「平成30年度　『思春期サポート事業』」講師（スクールカウンセラー）（年間12回）	平成30年度	岡山県教育委員会・岡山県立東岡山工業高等学校主催事業「平成30年度　『思春期サポート事業』」講師（スクールカウンセラー）を委嘱された。
新見市教育委員会「学校における危機対応・心のケア」緊急支援チーム・学識経験者　新見市内小学生・保護者・教職員対象	平成30年度	市内で起きた児童の交通事故死に対して、「心のケア」学識経験者として、助言。
第29回新見公立大学「鳴滝塾」『看護と保育と福祉の統合』　シンポジウム「シンポジスト」会場：新見市学術交流センター	平成30年5月	健康保育学科長として、本学が四大化し、1学部3学科体制をとり、その一つの健康保育学科の特性について概略を説明した。
兵庫県朝来市「保育士等キャリアアップ研修会」「講師」　会場：朝来市ジュピターホール（2018.5.12）	平成30年5月	「【乳児保育の環境】保育所・幼稚園・認定こども園における子どもを座標軸にした環境構成ー「心の教育」「いのちの教育」の実践を通してー」のテーマで研修講師を務めた。
岡山県作陽高等学校主催事業「平成30年度　高大接続研修：i-checkデータからみるクラス経営の在り方」「講師」	平成30年6月	「個別指導の参考になった」「担任としてクラスの実態が的確に把握でき、明日からの教育相談や生徒指導に生かせる」などの感想が多く、好評であった。
岡山県教育委員会・岡山県立瀬戸高等学校主催事業「平成30年度　高大接続研修：i-checkデータからみるクラス経営の在り方」「講師」	平成30年6月	「担任として全体指導はもちろん、個別指導の参考になった」「今後の学級経営に役立つ」などの感想が多く、高評価を得た。

岡山県教育委員会・岡山県立邑久高等学校主催事業「平成30年度　高大接続研修：i-checkデータからみるクラス経営の在り方」「講師」	平成30年6月	「生徒一人一人の背景がよく分かり個別指導の参考になった」「クラスの実態が正確に把握できた」などの感想が多く、好評であった。
岡山県美作高等学校主催事業「平成30年度　高大接続研修：i-checkデータからみるクラス経営の在り方⑴」「講師」	平成30年6月	「学級づくりの参考になった」「２学期も是非お願いしたい」等の感想が多く、研修後も複数の教員からの質問があった。
岡山市教育委員会・倉敷市立倉敷委翔南高等学校主催事業「平成30年度　高大接続研修：i-checkデータからみるクラス経営の在り方」「講師」	平成30年6月	「講師のコメントは、担任として全体指導や個別指導の参考になった」「今後の学級経営に役立つ」などの感想が多く、高い評価を得た。
岡山県教育委員会・岡山県立新見高等学校（南校地）主催事業「平成30年度　高大接続研修：i-checkデータからみるクラス経営の在り方」「講師」	平成30年6月	「個別指導の参考になった」「担任としてクラスの実態が把握でき、明日からの学級づくりに生かせる」などの感想が多く、好評であった。
岡山県美作高等学校主催事業「平成30年度　高大接続研修：i-checkデータからみるクラス経営の在り方⑵」「講師」	平成30年6月	「２回に分けてもらうとより詳細な助言がもらえうれしい」「２学期か３学期も、是非同じ講師にお願いしたい」等の感想が多く、研修後も複数の教員からの質問があった。
岡山県教育委員会・岡山県立岡山城東高等学校主催事業「平成30年度　高大接続研修：i-checkデータからみるクラス経営の在り方」「講師」	平成30年7月	県内有数の進学校であったが「学級づくりの参考になった」「講師の助言は、生徒指導の参考になった」等の感想が多く、研修後も多数の質問もあった。
岡山県教育委員会・岡山県立岡山東商業高等学校主催「平成30年度　高大接続研修：i-checkデータからみるクラス経営」「講師」	平成30年7月	「生徒一人一人への個別指導の参考になった」「担任としてクラスの実態が把握でき、すぐに学級づくりに生かせる」などの感想が多く好評であった。
兵庫教育大学大学院客員教員　授業講師「構成的グループ・エンカウンターの理論と実際」（会場：兵庫教育大学・神戸サテライト）	平成30年7月	「構成的グループ・エンカウンターの理論と実際」のテーマで講師を務めた。「学級づくりの人間関係づくりの参考になった」「実践的な内容でよかった」等の感想が多く、高い評価を得た。
鳥取県教育委員会主催　「平成30年度hyper-QU活用研修会（2018.7.30）会場：鳥取県県中部総合事務所	平成30年7月	「クラス作りに生かすhyper-qu研修会」のテーマで鳥取県内の教職員に講演した。「クラスづくりの手立てについて具体的に理解できた」等の感想が多く、質疑応答も活発であった。
兵庫県稲美町教育委員会主催「平成30年度第１回稲美町生きる力を育むための小・中連絡推進委員会：昨年度小中学校における問題行動の状況・中学校区ごとによる話し合い」「講師（副委員長）」	平成30年7月	平成30年度の小・中学校における問題行動の状況について（前半）、中学校区ごとにグループで協議した。住本は、講師（副委員長）として助言をした。（会場：兵庫県稲美町役場コミュニティセンターホール）

岡山県・岡山商科大学附属高等学校主催事業「平成30年度　高大接続研修：i-checkデータからみるクラス経営の在り方(1)」「講師」	平成30年7月	「子ども一人一人への個別指導の参考になった（全体指導は勿論)」「担任としてクラスの実態が把握でき、すぐに学級づくりに生かせる」などの感想が多く大変好評であった。
鳥取県教育委員会　平成30年度　hyper-QU　活用研修会「講師」会場：倉吉体育文化会館　大研修室	平成30年7月	「学級づくりに生かすhyper-qu研修会」のテーマで鳥取県内の教職員（対象：全県悉皆研修：鳥取県立高等学校，管理職・生徒指導主事等40名）に講演した。「クラスづくりの手立てについて具体的に理解できた」等の感想が多く、質疑応答も活発であった。
岡山県立　健康の森学園　支援学校　平成30年度夏季研修会「不登校の理解と支援について」「講師」(2018.8.7)（会場：岡山県立　健康の森学園支援学校）	平成30年8月	「不登校の理解と支援について」のテーマで講師を務めた。「不登校の理解と支援方法についてわかりやすく理解できた」「エンカウンターについてもっと学びたいと思った」「実践的な内容でよかった」等の感想が多く、高評価であった。
岡山県いじめ問題対策連絡協議会「会長」	平成30年8月	岡山県教育委員会からの委嘱を受け、岡山県いじめ問題対策連絡協議会会長として、組織を企画運営した。
岡山県立東岡山工業高等学校主催「平成３０年度部活動夏季学習」ストレス・マネジメントー体験、ストレス・マネジメント教育の実際ー　対象：部活動生徒50名（2018.8.17　会場：岡山県立東岡山工業高等学校）	平成30年8月	「すぐに実践してみたい」「体験しながら学べたのでよかった」「試合で実践してみたい」などの感想が多く大変好評であった。
兵庫県加東市立滝野中学校「hyper-QUを活用した学級づくり-要支援群の生徒へのかかわりを中心にして-」「講師」	平成30年8月	「学級づくりの参考になった」「次回も是非お願いしたい」等の感想が多く、研修後も複数の教員からの質問があった。
岡山県教育委員会・岡山県立玉野高等学校主催「平成30年度　高大接続研修：i-checkデータからみるクラス経営」「講師」	平成30年8月	「生徒への個別指導の参考になった」「担任として学級の実態が把握でき、すぐに学級づくりに生かせる」などの感想が多く大変好評であった。
子育てカレッジ「平成30年度 専門研修「子どもの『いのち』を育む保育経営の実際ーストレス・マネジメント教育の実際を体験から学ぶー」「講師」18:30～19:30	平成30年10月	「保育者や教育者として、どう子どもの心を育て、子ども達のストレスと向き合うかの方向性が見えた」「次回も楽しみにしたい」などの感想が多かった。
岡山県教育委員会・岡山県立備前緑陽高等学校主催「平成30年度　人権・教育相談講演会：『いのちの教育』ー今、あらためて『命の大切さ』につ	平成30年10月	「『いのちの教育』ー今、あらためて『命の大切さ』について考えるー」のテーマで、生徒・保護者・教職員500名を対象に講演をした。「『プラス思

いて考えるー」講師（対象：生徒・保護者・教職員 500 名　会場：岡山県立備前緑陽高等学校体育館） 平成 30 年度　第 1 回「新見市総合教育会議」（教育委員出席・発表「地域資源・人材を活かした新見らしい教育についてー『塩から子』という人づくりについてー」16:00～17:00　新見市役所南庁舎 1F　1C 会議室 平成 31 年度高梁・新見地区教科用図書（小学校：国語・書写・社会・地図・算数・理科・生活・音楽・図画工作・家庭・保健・英語・道徳）採択市教育委員会協議会「委員」・「役員：監事」	 平成 30 年 10 月 16 日 平成 30 年度	考』で今後は生活したい」「我が子の長所や頑張りを見つめ直したい」などの感想が多く、大変好評であった。 住本は、新見市教育委員として出席し、新見公立大学健康保育学科長・教授の立場からも「地域資源・人材を活かした新見らしい教育についてー『塩から子』という人づくりについてー』」のテーマで提案した。 「委員」・「役員：監事」として、教科用図書の採択を進めた。適正かつ公正な採択の確保ができたと高評価を得た。
岡山県作陽高等学校主催事業「平成 30 年度　高大接続研修：i-check データからみるクラス経営の在り方」「講師」 新見市教育委員会「プログラミング教育　小・中学生実践発表会」「審査委員・全体講評」13:30～17:00　新見市役所南庁舎 赤磐市立ひかり幼稚園 PTA 講演会「心を育む子育て 10 ヶ条」10:00～11:30 平成 30 年度　新見市婦人連合協議会・新見市民運動推進協議会大会「『折れない心』のつくり方」－「いのちの教育」「心の教育」の視点からー」2018.1202※婦人会講演会　「講師」　会場：新見まなび広場　大ホール　対象：新見市会員他一般市民 500 名 石川県教員総合研修センター　平成 30 年度　初任者研修（中・高）（講義・演習）「いじめ・非行等の理解ーいじめ・不登校防止等，『いのちの教育』	平成 30 年 11 月 平成 30 年 11 月 平成 30 年 11 月 平成 30 年 12 月 平成 30 年 12 月	「講師からの実践的助言は、とても参考になりうれしい」「次年度も、是非同じ講師にお願いしたい」等の感想が多く、研修後も複数の教員からの質問があった。 昨年度に引き続き、新見市教育委員会主催の「プログラミング教育　小・中学生実践発表会」の「審査委員長」として各発表にコメントをし、発表した生徒からは「意欲を持てる助言をもらって、さらに頑張りたい」等の感想が多く、教育長から次年度以降も「審査委員長」の依頼を受けた。 「保育者や教育者として、どう子どもの心を育て、子ども達の心やいのちと向き合うかについて、その方向性が見えた」「また次回も楽しみにしたい」などの感想が多く、好評であった。 「『折れない心』のつくり方」－「いのちの教育」「心の教育」の視点からー」のテーマで講演をした。新見市長はじめ、多数の来賓をお迎えしての講演であったが、講演後は「大切なテーマで、しかもわかりやすい内容で聞いてよかった」「すぐ実践できる内容で参考になった」等の感想が多く好評であった。なお、講演の様子はケーブルＴＶで放映された。 （講義・演習）「いじめ・非行等の理解ーいじめ・不登校防止等，『いのちの教育』の教育実践よりー」のテーマで石川県教育委員会初任者に研修を進め

の教育実践よりー」2018.12.6 9:30～16:30　会場：石川県教員総合研修センター		た。「『教師』として子どもに向き合う心構えをしっかりと持つことができた」「保護者との連携の仕方や生徒指導・教育相談の具体的な手法の理解を深めることができた」などの感想が多くを占め、質疑応答も多数あり、高い評価を得た。
岡山県立高松農業高等学校主催事業「平成 30 年度高大接続研修：i-check データからみるクラス経営の在り方」「講師」	平成 30 年 12 月	「講師からの助言は、とても参考になった」「次回も是非同じ講師にお願いしたい」等の感想が多く、研修後も教員からの質問が多かった。
鳥取県私立学校　「平成 30 年度 hyper-QU 活用研修会」講師	平成 30 年 12 月	「クラス作りに生かす hyper-qu 研修会」のテーマで鳥取県内の私立学校の教職員に講演をした。「学級づくりの手立てについて具体的に理解できた」等の感想が多く、質疑応答も活発であった。
兵庫県稲美町教育委員会主催「平成 30 年度第 2 回稲美町生きる力を育むための小・中連絡推進委員会：昨年度小中学校における問題行動の状況・中学校区ごとによる話し合い」「講師（副委員長）」（会場：兵庫県稲美町役場コミュニティセンターホール）	平成 31 年 1 月	平成 30 年度の小・中学校における問題行動の状況について（年間）、中学校区ごとにグループで協議した。住本は、講師（副委員長）として助言をした（年度総括・助言）。
石川県教育委員会・石川県教育センター主催「平成 30 年度　カウンセラー教員養成研修（講義・演習）絆づくりー教育カウンセリングの視点からー」「講師」（会場：石川県教員総合研修センター　対象：全県　教職員　9:30～16:00）	平成 31 年 1 月	（講義・演習）絆づくりー教育カウンセリングの視点からー」について、特に、いじめ・不登校対策の手立てについて講義を進めた。「教育カウンセラーとして、その理論や技法について、体験的に学べた」と、受講者からも高評価であった。
児童虐待対応専門アドバイザー事業による研修会「不登校児童・生徒への支援の在り方を考えるー子どもの悩みから見えてくるものー」「講師」平成 31 年 3 月 4 日（月）午後 2 時 00 分～午後 4 時 00 分　やぶ保健センター	平成 31 年 3 月	「不登校児童・生徒への支援の在り方を考えるー子どもの悩みから見えてくるものー」について、不登校事例が複数出され、事例検討を進めた。「具体的な手立てについての助言があり、とても参考になった」と、受講者からも高い評価であった。
岡山市教育委員会・適応指導教室　ラポート牧山主催「適応指導教室　不登校生支援授業」「講師」（会場：岡山市適応指導教室　ラポート牧山　対象：適応指導教室　ラポート牧山　職員）14:00～15:30	平成 31 年 3 月	「検討した事例への手立てが明確に理解できよかった」「事例への介入法が具体的に理解できた」「今後も講師には定期的に指導してほしい」等の感想が多く、高い評価であった。
兵庫県教育委員会　兵庫県立夢前高等学校主催特別授業「望ましい人間関係づくり」ー「心の教育」「いのちの教育」の視点からー」「講師」（兵庫県教育委員会「特別非常勤講師」）	令和 1 年 5 月	兵庫県教育委員会「特別非常勤講師」として「望ましい人間関係づくりー「心の教育」「いのちの教育」の視点からー」のテーマで授業を担当した。10:50～12:40

岡山県教育委員会・岡山県立東岡山工業高等学校主催事業「平成 31 年度　『思春期サポート事業』」講師（スクールカウンセラー）（年間 12 回）	平成 31 年度	岡山県教育委員会・岡山県立東岡山工業高等学校主催事業「平成 31 年度　『思春期サポート事業』」講師（スクールカウンセラー）を委嘱された。
岡山県作陽高等学校主催事業「平成 31 年度　高大接続研修：i-check データからみるクラス経営の在り方」「講師」13:30～17:30	令和 1 年 6 月	「全体指導は勿論、子ども一人一人への個別指導の参考になった」「担任としてクラスの実態が把握でき、すぐに学級づくりに生かせる」などの感想が多く大変好評であった。
岡山県立備前緑陽高等学校主催事業「平成 31 年度高大接続研修：i-check データからみるクラス経営の在り方」「講師」14:00～17:30	令和 1 年 7 月	「担任として、学級の実態や生徒一人一人の状況が正確に把握でき、すぐに学級づくりに生かせる」などの感想が多く好評であった。
岡山県立美作高等学校主催事業「平成 31 年度　高大接続研修：i-check データからみるクラス経営の在り方⑴」「講師」14:00～17:30	令和 1 年 7 月	「クラス担任として学級の実態が的確に把握でき、すぐに学級づくりや生徒指導に生かせる」などの感想が多かった。
宝塚医療大学「非常勤講師」「教育相談」授業「構成的グループ・エンカウンターの理論と実際」2019.7.6（会場：宝塚医療大学）1 限･2 限　9:00～10:30　10:40～12:10　50 名	令和 1 年 7 月	宝塚医療大学の「教育相談」授業の「非常勤講師」を委嘱され、「構成的グループ・エンカウンターの理論と実際」のテーマで授業を担当した。学生による授業評価では、8 割以上が「大変満足している」の評価であった。
兵庫県稲美町教育委員会主催「平成 31 年度第 1 回稲美町生きる力を育むための小・中連絡推進委員会：昨年度小中学校における問題行動の状況・中学校区ごとによる話し合い」「講師（副委員長）」（会場：兵庫県稲美町役場コミュニティセンターホール）	令和 1 年 7 月	平成 30 年度の小・中学校における問題行動の状況について（前半）、中学校区ごとにグループで協議した。住本は、講師（副委員長）として助言をした。
岡山県立東岡山工業高等学校主催事業「平成 31 年度　高大接続研修：i-check データからみるクラス経営の在り方」「講師」14:00～17:30	令和 1 年 7 月	「クラス担任として学級の実態が的確に把握でき、すぐに学級づくりや教育相談に生かせる」などの感想が多かった。
岡山県立美作高等学校主催事業「平成 31 年度　高大接続研修：i-check データからみるクラス経営の在り方⑵」「講師」14:00～17:30	令和 1 年 7 月	「担任として学級の実態がしっかり把握でき、すぐに教育相談・生徒指導に生かせる」などの感想が多く、好評であった。
滋賀県立学校いじめ問題調査委員会（会場：滋賀県庁）	令和 1 年 7 月	県立学校におけるいじめ問題について、委員（学識経験者）として議論した。
兵庫県立上郡高等学校主催事業「平成 31 年度　高大接続研修：i-check データからみるクラス経営の在り方⑵」「講師」13:45～17:30　1/2 年生	令和 1 年 7 月	「講師からの助言は、とても参考になった」「次回も是非講師をお願いしたい」等の感想が多く、研修後も教員からの質問が多かった。

岡山県立岡山東商業高等学校主催事業「平成31年度　高大接続研修：i-checkデータからみるクラス経営の在り方⑵」「講師」13:00～17:30	令和１年７月	「コメントにより担任として学級の実態がしっかり把握できた。すぐに教育相談や生徒指導に生かしたい」「具体的な手立てについての助言はいつもありがたいと実感している」などの感想が多く、大変好評であった。
鳥取県教育委員会・鳥取県立日野高等学校主催「学級経営に活かすhyper-QU研修会」「講師」13:00～17:00	令和１年７月	「講師の助言により、学級の実態が的確に把握できた。すぐに生徒指導、教育相談、学級経営に活用したい」などの感想が多く、好評であった。
岡山県教育委員会主催「平成31年度　第１回　岡山県いじめ問題対策連絡協議会」「会長」(14:00～16:30　会場：岡山県庁)	令和１年７月	岡山県教育委員会からの委嘱を受け、岡山県いじめ問題対策連絡協議会会長として、組織を企画運営した。
新見市教育委員会養護教諭部会主催夏季研修会「『折れない心』のつくり方ー「いのちの教育」「心の教育」の視点からー」「講師」2019.8.2 10:00～12:00　新見市正田ふれあいセンター	令和１年８月	新見市内の小・中学校の養護教諭が一堂に会した研修会。「『折れない心』のつくり方ー「いのちの教育」「心の教育」の視点からー」のテーマで研修を進めた。
岡山県立東岡山工業高等学校主催「令和元年度 部活動夏季学習」「講師」「ストレス・マネジメントー体験、ストレス・マネジメント教育の実際ー」（2019.8.16　10:00～12:00　岡山県立東岡山工業高等学校　運動部活部員70名）	令和１年８月	「体験しながら学べたのでわかりやすかった」「すぐに実践してみたい」「試合で緊張したときに今日学んだことを実践してみたい」などの感想が多く大変好評であった。
新見市教育委員会生徒指導部会主催夏季研修会「『いのちの教育』の視点からみた人権教育の推進についてーいじめ問題を中心にしてー」「講師」日時： 2019.8.20　10:00～11:40　　会場：阿新教育会館	令和１年８月	新見市内の小・中学校の生徒指導担当者が集まった研修で、「『いのちの教育』の視点からみた人権教育の推進についてーいじめ問題を中心にしてー」のテーマで研修会講師を務めた。
兵庫県東条中学校主催　「学級経営に活かすhyper-QU研修会」「講師」13:30～16:00	令和１年８月	「講師からの助言は、大変参考になった」「次回も是非講師をお願いしたい」等の感想が多く、研修後も教員からの質問が多かった。
平成31年度　新見千屋温泉いぶきの里第16回経営諮問委員会「講師」「カウンセラー、転んで学んだ『子育て十か条』ー子どもの悩みから見えてくるものー」2019.8.29　16:00～19：00	令和１年８月	「カウンセラー、転んで学んだ『子育て十か条』ー子どもの悩みから見えてくるものー」のテーマで講師を務めた。
岡山市教育委員会・適応指導教室　ラポート牧山主催「適応指導教室　不登校生支援授業」「講師」（会場：岡山市適応指導教室　ラポート牧山　対象：適応指導教室　ラポート牧山　職員）	令和１年９月	「事例への手立てが明確に理解できよかった」「事例への介入法が具体的に理解できた」「同じ講師で定期的に指導をお願いしたい」等の感想が多く、高い評価であった。13:00～16:00

岡山県立新見高等学校　高大接続模擬授業・進路ガイダンス「講師」①進路ガイダンス・模擬授業 13:55～14:40　岡山県立新見高校生 1 年生 15 名 2 年生 25 名　計 40 名（健康保育学科志望者）②【内容】ガイダンス　学科の特色　入試の概略等 生徒の希望による模擬授業実施、アクティブ・ラーニング型授業風景動画の視聴	令和 1 年 9 月	【生徒の感想】「学科の特色がよくわかった」「大学の授業が、具体的にイメージできた」「進路についてのイメージがより明確になった」等、大学にとっても、地元高校への広報活動の場として大変よい機会であった。
岡山県教育委員会主催「令和元年度心理検査活用リーダー研修講座」（岡山県立学校人権教育サポート事業）『i-check』の活用について ー『i-check』の活用のポイントと 具体的な手立てについてー「講師」2019.9.27　13:45～15:45 会場：岡山県生涯学習センター	令和 1 年 9 月	岡山県下に i-check を活用する学校が増加しており、この度岡山県教育委員会主催による研修会がもたれ、講師を務めた。
岡山県教育委員会・岡山県立備前緑陽高等学校主催「いじめ対策会議：いじめの予防と対応」「講師」（会場：岡山県立備前緑陽高等学校　対象：高等学校教職員５０名）14:00～17:00	令和 1 年 10 月	いじめの事例について検討した。「的確な助言をもらって方向性が見えた」「これからも定期的に指導助言をお願いしたい」等の意見が出、好評であった。
岡山県作陽高等学校主催事業「平成 31 年度　高大接続研修：i-check データからみるクラス経営の在り方」「講師」10:30～13:30	令和 1 年 10 月	「講師からの助言が参考になった」「次回も是非講師をお願いしたい」等の感想が多く、研修後も教員からの質問が多かった。
平成 31 年度にいみ子育てカレッジ「子育て支援者に対する専門研修」「保育カウンセリング技法の実際」「講師」	令和 1 年 10 月	「保育者や教育者として、どう保護者とつながり子どもの心を育てていくか、その方向性が見えた」「次年度も楽しみにしたい」などの感想が多かった。
岡山県教育庁　福利課　公立学校共済組合　岡山支部主催「テーマ：職場の健康づくり研修会支援事業『学校園現場における健康増進の推進について』」「講師」15:00～16:30　会場：美作市民センター　対象：公立学校共済岡山支部内　養護教諭 50 名	令和 1 年 10 月	公立学校共済岡山支部内　養護教諭　50 名を対象に、具体的事例を中心に指導助言をしながら進めた。「具体的でわかりやすかった」「実践的な内容でよかった」等の感想が多く、大変好評であった。
兵庫県明石市教育委員会スーパーバイザー事業「講師」明石市立松ケ丘幼稚園 「子どもの自己肯定感を育てる保育実践の在り方を探るー子どもや保護者の心に寄り添った教育実践のためにー」 2019.11.1　9:00～12:00 保育参観　13:00～16:00 講演･指導・助言（2020.1.17、2020.2.4、2020.3.9）	平成 31 年度	「子どもの自己肯定感を育てる保育実践の在り方を探るー子どもや保護者の心に寄り添った教育実践のためにー」のテーマで講師を務めた。次年度 11 月の研究発表予定である。

新見市教育委員会「プログラミング教育　小・中学生実践発表会」「審査委員長」13:30～17:00　新見市役所南庁舎	令和１年 11 月	一昨年度、昨年度に引き続き、新見市教育委員会主催の「プログラミング教育　小・中学生実践発表会」の「審査委員長」として各発表にコメントをし、発表した生徒からは「意欲を持てる助言をもらって、一層努力を重ねたい」等の感想が大半を占めた。
神戸新聞取材（2019.11.15）「神戸市立東須磨小学校　教師によるいじめ・暴力事案へのコメント」	令和１年 11 月	2019 年 12 月 17 日兵庫県全域判　掲載「リレーシリーズ：先生はいま」。
岡山県立岡山東商業高等学校主催事業「平成 31 年度　高大接続研修　：i-check データからみるクラス経営の在り方」「講師」15:55～17:30	令和１年 11 月	「講師からの助言が参考になった」「次年度も是非講師をお願いしたい」等の感想が多く、研修後も教員からの個別の質問が多かった。
滋賀県立学校いじめ問題調査委員会（会場：滋賀県庁）13:00～16:30	令和１年 12 月	県立学校におけるいじめ問題について、委員（学識経験者）として議論した。
岡山県立美作高等学校主催事業「平成 31 年度　高大接続研修：i-check データからみるクラス経営の在り方⑵」「講師」14:00～17:30	令和１年 12 月	「講師からの助言が参考になった」「講師が認めてくれるので意欲的に取り組める」等の感想が多く、研修後も教員からの質問が重なった。
兵庫県教育委員会　兵庫県立夢前高等学校主催特別授業兵庫県立夢前高等学校主催講演会「講師」2019.12.16「『折れない心』を持って見つめる私の『将来の夢』－「心の教育」「いのちの教育」の視点から－」10:50～12:40	令和１年 12 月	兵庫県教育委員会「特別非常勤講師」として「『折れない心』を持って見つめる私の『将来の夢』－「心の教育」「いのちの教育」の視点から－」のテーマで授業を担当した。
岡山県教育委員会・岡山県立東岡山工業高等学校主催事業「令和元年度　『思春期サポート事業』」講師（スクールカウンセラー）15:00～18:00 岡山県立東岡山工業高等学校	令和２年１月	スクールカウンセラーとして、スクールソーシャルワーカーとも連携しながら、不登校事例等を支援し、好転に導くことができた。また、教職員へのコンサルテーションの重要性が増してきたように感じる。
兵庫県明石市「スーパーバイザー」：明石市教育委員会・2019/2020 年度 明石市立松が丘幼稚園研究への助言・「スーパーバイザー」　11:00～16:30 明石市立松が丘幼稚園【「令和元年度・令和２年度兵庫県明石市教育委員会指定　幼稚園教育研究実践　『幼児期における〔自尊感情〕育成の方途を探る』」】	令和２年度	2 年間の研究で、研究テーマは『幼児期における〔自尊感情〕育成の方途を探る』であった。幼児教育実践に臨床の視点を持つ等の取組が効果を上げることが確認され、報告書にまとめ、発表会も盛会であった。
兵庫県小野市市民安全部ヒューマンライフグループ主催「小野市いじめ防止市民会議」「有識者・委員」	令和２年度	小野市のいじめ等防止に関連した有識者としての助言を重ねた。

石川県教育委員会・石川県教育センター主催「令和元年度　カウンセラー教員養成研修（講義・演習）児童生徒の心の理解と問題行動の未然防止のためにーいじめ・不登校防止，『いのちの教育』の教育実践よりー」「講師」（会場：石川県教育センター、対象：全県　高等学校教員・特別支援学校教員　9：:30～16:30　石川県教育センター	令和２年１月	（講義・演習）児童生徒の心の理解と問題行動の未然防止のためにーいじめ・不登校防止，『いのちの教育』の教育実践よりー」のテーマで講師を務めた。受講者からは、「理論と実践療法の学びを深めることができた」「明日からすぐに活用したい」等の意見が多く、高評価を得た。
兵庫県稲美町教育委員会主催「平成 30 年度第２回稲美町生きる力を育むための小・中連絡推進委員会：昨年度小中学校における問題行動の状況・中学校区ごとによる話し合い」「講師（副委員長）」（会場：兵庫県稲美町役場コミュニティセンターホール）	令和２年１月	平成 31 年度の小・中学校における問題行動の状況について（年間）、中学校区ごとにグループで協議した。住本は、講師（副委員長）として助言をした（年度総括・助言）。
岡山県教育委員会主催「令和２年度　第２回　岡山県いじめ問題対策連絡協議会」「会長」（14:30～16:30　会場：岡山県庁）	令和２年２月	令和元年度の岡山県いじめ問題への取組について総括をした。
滋賀県立学校いじめ問題調査委員会「委員」（学識経験者：日本生徒指導学会 推薦）15:00～17:30 滋賀県庁	令和２年２月	教育学の立場から、いじめ問題についての意見を述べ、令和元年度の総括をした。
令和元年度 新見市子ども・子育て会議　「会長」14:00～16:00　新見市南庁舎	令和２年３月	令和元年度の新見市子ども・子育て会議の取組について総括をした。
令和２年度　高梁・新見地区教科用図書採択市教育委員会協議会委員（新見市教育委員会委員・監事）新見市南庁舎（中学校全教科）15:30～17:30	令和２年４月	当該委員として、高梁・新見地区教科用図書採択について協議した。
新見公立大学　非常勤講師　健康科学部　健康保育学科２年生　47 名『教育学総論』（幼稚園教諭養成課程履修生必修科目・保育士養成課程履修生必修科目）２限～4 限・２限～5 限・２限	令和２年６月６日・６月 20 日・８月１日	非常勤講師として授業を担当した。アクティブ・ラーニング型の授業展開により、学生の理解度は高かった（評価高得点）。
新見公立大学　非常勤講師　健康科学部　健康保育学科１年生　57 名『保育者論』（幼稚園教諭養成課程履修生必修科目・保育士養成課程履修生必修科目）２限～3 限・２限～4 限・３限～4 限集中講義授業担当	令和２年６月 27 日・７月 11 日	非常勤講師として授業を担当した。参加型・体験型、ＩＣＴ教育活用等の授業展開により、学生の理解度は高かった（評価高得点）。特に、グループワークを通して、目指す保育者像を探る体験が印象深かったようで、当該活動で、科目目標に迫ることができたと感じた。

「2020 年度 奈良学園 いじめ問題対応教員研修」「講師」※奈良文化高等学校(奈良県大和高田市東中 127)：7/27（月）13:30～15:00	令和 2 年 7 月 27 日	「いじめ防止」「初期対応」「早期発見」等のテーマについて講演をした。研修内容については、大学紀要にまとめた。
岡山県新見市立新見保育所「ロボホンと園児のふれあい活動」の平成 31 年度の活動の振り返り[管理職への聞き取り調査] ※新見公立大学学長配分研究採択 300,000 円 【日時】2020/8/1　17:00～17:30（ロボホン・クラブ部員同席） 【場所】：新見市立新見保育所（新見市哲多町蚊家 4296－1・新見市教育委員会管轄） 【対象】：新見保育所園児 3･4･5 歳児 25 名	令和 2 年 8 月 1 日	ア）ロボホンの動き：挨拶・歌唱・ダンス。イ）園児の反応：挨拶⇒挨拶で返事 95%（満面の笑顔 60%・笑顔 40%）・歌唱⇒ロボホンと一緒に歌う（満面の笑顔）・ダンス⇒ハミングしながら一緒に踊る 25%・ロボホンの周りに笑顔で見守る 73%・その他 2%　ウ）保育者より：ロボホンの愛らしさ、人に近い動き（大きさ・表情・しぐさ・二足歩行・音楽が流れる点　等）に親近感を高め、ほとんど、園児がロボホンの側を離れていなかった。子どもの表情が皆朗らかでうれしそうだった。コミュニケーションが普段とれない園児が興味を示していた。新見公立大学年報にて報告。
兵庫県明石市「スーパーバイザー」：明石市教育委員会・2019/2020 年度 明石市立松が丘幼稚園研究への助言・「スーパーバイザー」　10:00～17:00 明石市立松が丘幼稚園【「令和元年度・令和２年度 兵庫県明石市教育委員会指定　幼稚園教育研究	令和 2 年 8 月 4 日	研究テーマは、『幼児期における〔自尊感情〕育成の方途を探る』。参観後、教師の質問に対してケースカンファレンスで助言をした。参加者は特に、エビデンス・ベースド・エデュケーションの大切さを再確認することができた。
奈良学園大学　人間教育学部　オープンキャンパス模擬授業担当「体験『いのちの教育』の実際」高校生・保護者計 30 名参加	令和 2 年 8 月 8 日	オープンキャンパス模擬授業を担当した。模擬授業のタイトルは「体験『いのちの教育』の実際」で、高校生・保護者計 30 名が参加した。
兵庫県教育委員会・兵庫県立上郡高等学校主催「総合質問紙調査『アイチェック』を活用した学級づくり研修会」「講師」14:00～18:00 兵庫県立上郡高等学校	令和 2 年 8 月	「総合質問紙調査『アイチェック』を活用した学級づくり研修会」の研修テーマで講師を務めた。全担任と面談を進めた。
「2020 年度 奈良学園 いじめ問題対応教員研修」「講師」※奈良学園中学校・高等学校（奈良県大和郡山市山田町 430）：8/27（木）15:40～17:10	令和 2 年 8 月 27 日	「ネット上のいじめ」「いじめ防止」「初期対応」「早期発見」等のテーマについて講演をした。研修内容については、大学紀要に掲載した。
「2020 年度 奈良学園 いじめ問題対応教員研修」「講師」※奈良学園小学校、奈良学園幼稚園（奈良県奈良市中登美ヶ丘 3-15-1）：9/7（月）15:50～17:20	令和 2 年 9 月 7 日	「ネット上のいじめ」「いじめ防止」「初期対応」「早期発見」等のテーマについて講演をした。重大事態の案件事例についても説明した。研修内容については、大学紀要に掲載。
兵庫県稲美町教育委員会主催「令和 2 年度第 1 回稲美町生きる力を育むための小・中連絡推進委員会：本年度小中学校における問題行動の状況」「講師（副委員長）」	令和 2 年 9 月	兵庫県稲美町における小中学生の問題行動の現況について事務局から報告があり、専門家の立場から助言をした。(会場：兵庫県稲美町役場コミュニティセンターホール)

「2020 年度 奈良学園 いじめ問題対応教員研修」「講師」※奈良学園登美ヶ丘中高（奈良県奈良市中登美ヶ丘 3-15-1）：9/10（木）16:00～17:30	令和 2 年 9 月 10 日	「いのちの教育」をベースにしたいじめ防止教育プログラムの実践等について講演をした。研修内容については、大学紀要にまとめて報告をした。
兵庫県明石市「スーパーバイザー」：明石市教育委員会・2019/2020 年度 明石市立松が丘幼稚園研究への助言・「スーパーバイザー」　9:00～16:30 明石市立松が丘幼稚園【「令和元年度・令和２年度 兵庫県明石市教育委員会指定　幼稚園教育研究実践　『幼児期における〔自尊感情〕育成の方途を探る』」】	令和 2 年 9 月 15 日	研究テーマは、『幼児期における〔自尊感情〕育成の方途を探る』。参観後、教師の個別の質問に対してケースカンファレンスで助言を重ねた。回を重ねる度に、参加者の質問に深まりを感じる。特に、事例から学ぶ教師としての姿勢や事実からの子供の内面の動きの読み取りが深くなってきていた。
岡山県教育委員会・岡山県立津山高等学校主催「総合質問紙調査『アイチェック』を活用した学級づくり研修会」「講師」15:30～18:00 岡山県立津山高等学校	令和 2 年 9 月	「総合質問紙調査『アイチェック』を活用した学級づくり研修会」の研修テーマで講師を務めた。全員のホームルーム担任と面談をっし、手立て等について助言をした。
岡山県教育委員会主催「令和２年度心理検査活用リーダー研修講座（岡山県　県立学校人権教育サポート事業）『ｉ－ｃｈｅｃｋ』の活用について－『ｉ－ｃｈｅｃｋ』の活用のポイントと具体的な手立てについて－」「講師」13:45～17:00 岡山県総合教育センター対象：岡山県立学校生徒指導・教育相談担当者 20 名	令和 2 年 9 月	昨年度に引き続き、『ｉ－ｃｈｅｃｋ』の活用のポイントと具体的な手立てについて」講師を務めた。ほぼ全員の参加者より質問があり、実践例を紹介しながら応答した。
兵庫県明石市「スーパーバイザー」：明石市教育委員会・2019/2020 年度 明石市立松が丘幼稚園研究への助言・「スーパーバイザー」　13:30～16:30 明石市立松が丘幼稚園【「令和元年度・令和２年度 兵庫県明石市教育委員会指定　幼稚園教育研究実践　『幼児期における〔自尊感情〕育成の方途を探る』」】	令和 2 年 10 月 6 日・10 月 27 日	2 年間の研究で、研究テーマは『幼児期における〔自尊感情〕育成の方途を探る』であった。教師自身が自尊感情を高めておくことの大切さ等が確認され、報告書にまとめ、発表会も盛会であった。
新見公立大学　非常勤講師　健康科学部　健康保育学科 2 年生　47 名『教育相談』（幼稚園教諭養成課程履修生必修科目・保育士養成課程履修生必修科目）・1 限～3 限・1 限～4 限・1 限～4 限・1 限～4 限集中講義 授業担当集中講義 授業担当	令和 2 年 10 月 31 日・12 月 12 日・令和 3 年 1 月 23 日・2 月 13 日	非常勤講師として授業を担当した。参加型・体験型の双方向授業展開により、学生の理解度は高かった「事例についての話しが多かったので具体的に学ぶことができた」「カウンセリング・マインドを持った保育者を目指そうと強く思った」等の感想も多かった（評価高得点）。
新見市教育委員会・新見市教育研究部会 養護教諭部会研究打合会　15:30～17:30　新見公立大学	令和 2 年 12 月	総合質問紙を活用した教育実践のテーマで助言をした。

大阪府立狭山高等学校２年生16名への校内ガイダンス・模擬授業「〈教育学〉体験『いのちの教育』の実際」「講師」　教育学志望生徒16名にガイダンス・模擬授業実施。	令和２年11月５日	熱心に取り組み、２年生であったが、本学に大変興味を持ってもらった。（男子３・女子13）グループワーク・発表形式の授業実施。13:00～15:10　大阪府立狭山高等学校。「命の大切さについて深く考えることができた」「大学の授業がイメージできて良かった」「命や人生について考える機会を持てて良かった」等の意見が多く好評であった。
兵庫県明石市「スーパーバイザー」:「令和元年度・令和２年度　兵庫県明石市教育委員会指定幼稚園教育研究実践研究発表会　『幼児期における〔自尊感情〕育成の方途を探る』」全体講演「講師」11:00～16:30明石市立松が丘幼稚園	令和２年11月24日	２年間の研究の集大成となる研究発表会であった。『幼児期における〔自尊感情〕育成の方途を探る』の演題で、全体講演の講師を務めた。研究会出席者の感想からも、高評価であった（コロナ禍により、参加者数を限定せざるを得なかったが、出席者は、「得るものが多かった」「事例を取り上げていただいたので、とても具体的で理解しやすかった」等の意見が多かった)。研究成果は研究紀要にまとめた。
兵庫県但馬地区県立高等学校PTA連合会PTCA研究大会「発達から見た高校生の心理とかかわり方ー高校生との親子関係について考えるー」「講師」13:00～14:30　豊岡赤穂当学校和魂百年館　対象：但馬地区県立高等学校PTA連合会会員200名	令和２年11月28日	兵庫県但馬地区県立高等学校PTA連合会PTCA研究大会の全体会講師を務めた。コロナ禍の影響で500名参加のところを200名に絞られていたが、参加者からは「子供の立場で考えることの大切さを再確認できた」「発達を踏まえて子供と向き合うことが大切だと実感した」等の感想が多くあった。
鳥取県教育委員会・鳥取県立日野高等学校主催2020年度教職員研修会「hyperQUを活用した学級経営の在り方」「講師」13:00～15:30	令和２年12月	昨年度に引き続き「hyperQUを活用した学級経営の在り方」のテーマで質問紙調査の分析依頼と手立てについての助言を求められた。
兵庫県教育委員会・兵庫県立夢前高等学校主催 特別授業（対象：高校１年生74人）「兵庫県立夢前高等学校主催講演会 2020.12.1510:50～12:40兵庫県立夢前高等学校	令和２年12月15日	昨年度に引き続き『折れない心』を持って見つめる私の『将来の夢』－『心の教育』『いのちの教育』の視点からー」のテーマで高校生を対象に授業の講師を務めた。「はじめて命について真剣に考える場になった」等の意見が多く好評であった。

新見公立大学「非常勤講師」「教育相談（幼)」の科目を担当第1限～第4限（9：20～16:30）新見公立大学	令和3年1月23日	新見公立大学非常勤講師として、「教育相談（幼)」の科目を担当する。健康保育学科2年57人が受講し、「実践的内容だった」と好評であった。
岡山県教育カウンセラー協会研修会「コロナ禍における『心のケア』について考える―『心の教育』『いのちの教育』の視点から―」「講師」	令和3年2月7日	岡山県教育カウンセラー協会研修会「コロナ禍における『心のケア』について考える―『心の教育』『いのちの教育』の視点から―」のテーマで、講師を務めた。オンラインでの講演であったが、本学の学生も8名参加し、受講者の方は熱心に参加された。
兵庫県小野市市民安全部ヒューマンライフ・グループ主催「小野市いじめ防止市民会議」「有識者・委員」小野市役所	令和2年度	「有識者・委員」として、年度のまとめをした（総括：2/9・3/10)。
岡山県新見市立新見保育所「ロボホンと園児のふれあい活動」の平成31年度の活動の振り返りと本年度の総括[管理職への聞き取り調査Ⅱ] ※新見公立大学学長配分研究採択300,000円 【日時】2021/2/12　15:30～16:00（ロボホン・クラブ部員同席） 【場所】：新見市立新見保育所（新見市哲多町蚊家4296－1・新見市教育委員会管轄） 【対象】：新見保育所園児3･4･5歳児25名	令和3年2月12日	保育所長より、「保育者のかかわりでは反応しない園児が、ロボホンには反応していた」「人型ロボットペッパーに対しては、威圧感から、恐怖を感じた園児が複数名いたが、ロボホンに対しては、ほとんどの園児が親近感を高めていた。それは笑顔の多さから推測できた」「特別支援保育の可能性を強く感じた」等の聴取を総括とし、新見公立大学年報で報告した。
新見公立大学「非常勤講師」「教育相談（幼)」第1限～第4限新見公立大学	令和3年2月13日	新見公立大学非常勤講師として、「教育相談（幼)」（幼稚園教諭養成課程履修生必修科目・保育士養成課程履修生選択科目）の科目を担当する（集中講義)。健康保育学科2年47人が受講し、「保育現場で活用できる内容だった」と好評であった。
兵庫県稲美町教育委員会主催「令和2年度第2回稲美町生きる力を育むための小・中連絡推進委員会：本年度小中学校における問題行動の状況」「講師（副委員長)」『講演：ネット上のいじめ対応と自殺予防教育プログラムについて』「講師」（会場：兵庫県稲美町役場コミュニティセンターホール)	令和3年2月15日	コロナ禍の状況から、「本年度小中学校における問題行動の状況」については、書面での報告がなされた。その後、『講演：ネット上のいじめ対応と自殺予防教育プログラムについて』の講師を務めた。参加の先生方からは、「ネット上のいじめ対応の具体的手立てがわかりやすかった」等の意見や「自殺への初動対応の実際が理解できてよかった」等の感想が多かった。

兵庫県明石市「スーパーバイザー」研究の振り返り「講師」15:00～16:30 明石市立松が丘幼稚園	令和３年３月９日	明石市教育委員会・2019/2020 年度 明石市立松が丘幼稚園研究への助言・「スーパーバイザー」【「令和元年度・令和２年度　兵庫県明石市教育委員会指定　幼稚園教育研究実践　『幼児期における〔自尊感情〕育成の方途を探る』」】関係者で反省会を実施し、2 年間の実践を振り返った。
岡山県いじめ問題対策連絡協議会「会長」	令和３年度	2021 年度の岡山県教育委員会取組の集約をした。
岡山県教育委員会　いじめ対策委員会「委員（学識経験者）」	令和３年度	2021 年度の取組の集約。各事例へのコンサルテーションを実施した。
兵庫県稲美町教育委員会主催事業「稲美町生きる力を育む小・中連携推進委員」『副委員長』	令和３年度	2021 年度 不登校、いじめ等問題行動への助言・研修会講師を務めた。
滋賀県立学校いじめ問題調査委員会「委員（学識経験者：日本生徒指導学会 推薦）	令和３年度	2021 年度 滋賀県立学校におけるいじめ重大事態の調査報告書（概要版は HP 掲載）を作成した。
兵庫県教育委員会　県立高等学校「特別非常勤講師」	令和３年度	兵庫県立高等学校での生徒対象にキャリア教育授業実践。年 2 回実施した。
兵庫県教育委員会・兵庫県立夢前高等学校主催[兵庫県教育委員会　県立高等学校「特別非常勤講師」10:50～12:40 兵庫県立夢前高等学校	令和３年４月13 日	兵庫県教育委員会・兵庫県立夢前高等学校主催[兵庫県教育委員会　県立高等学校「特別非常勤講師」として、特別授業（対象：高校１年生 85 人）「望ましい人間関係づくり」－『心の教育』『いのちの教育』の視点から－」を実施、「自分や身近な人の命について考えるいい機会であった」等の意見が多く、高評価であった。
新見公立大学「非常勤講師」『教育学総論』第１限～第４限、新見公立大学	令和３年４月24 日	『教育学総論』（幼稚園教諭養成課程履修生必修科目・保育士養成課程履修生必修科目）の科目を担当する（集中講義）。健康科学部　健康保育学科２年 57 人が受講し、「保育現場で活用できる内容だった」と好評であった。

新見公立大学「非常勤講師」『保育者論』第 1 限～第 3 限、新見公立大学	令和 3 年 5 月 1 日	『教育学総論』（幼稚園教諭養成課程履修生必修科目・保育士養成課程履修生必修科目）の科目を担当する（集中講義）。健康科学部　健康保育学科 2 年 57 人が受講し、「今回も保育現場で実践できる内容だった」と好評であった。
新見公立大学非常勤講師として、『保育者論』第 1 限～第 5 限、新見公立大学	令和3年5月8日	『保育者論』（幼稚園教諭養成課程履修生必修科目・保育士養成課程履修生必修科目）の科目を担当する（集中講義）。健康科学部　健康保育学科 1 年 53 人が受講し、「保育現場で活用できる内容で、体験的に学ぶことができた」と好評であった。
新見公立大学非常勤講師として、『保育者論』第 4 限～第 5 限（オンライン）、新見公立大学	令和 3 年 6 月 15 日	『保育者論』（幼稚園教諭養成課程履修生必修科目・保育士養成課程履修生必修科目）の科目を担当する（集中講義）。健康科学部　健康保育学科 1 年 53 人が受講し、「保育現場で活用できる内容で、参加型・体験型で学ぶことができた」と好評であった。
岡山県教育委員会主催研修会「講師」15:00～17:00 岡山県立東岡山工業高等学校（オンライン形式）	令和 3 年 7 月 6 日	岡山県教育委員会・岡山県立東岡山工業高校主催「総合質問紙調査『アイチェック』を活用した学級づくり研修会：特別支援教育事例検討会」で「講師」を務めた。「具体的手立てを理解でき、有益であった」と好評であった。
岡山県教育委員会主催研修会「講師」15:30～18:00 岡山県立津山高等学校	令和 3 年 7 月 13 日	岡山県教育委員会・岡山県立津山高等学校主催「総合質問紙調査『アイチェック』を活用した学級づくり研修会」で「講師」を務めた。「具体的な指導法まで助言していただき、有益であった」と好評であった。
兵庫県小野市市民安全部ヒューマンライフ・グループ主催「小野市いじめ防止市民会議」打ち合わせ会議 13:00～14:00　小野市役所	令和 3 年 7 月 13 日	兵庫県小野市市民安全部ヒューマンライフ・グループ主催「小野市いじめ防止市民会議」13:00～14:00。打ち合わせ会議出席。「有識者・委員」として、人権に関する課題について打ち合わせをした。
兵庫県稲美町教育委員会主催「令和３年度第１回稲美町生きる力を育むための小・中連絡推進委員会（15:00～17:00 会場：兵庫県稲美町役場コミュ	令和 3 年 7 月 20 日	兵庫県稲美町教育委員会主催「令和３年度第１回稲美町生きる力を育むための小・中連絡推進委員会：本年度小中学校における問題行動の状況・振り返

ニティセンターホール)		り」「講師（副委員長)」として、様々な児童生徒の問題行動に対して指導助言をした。「具体的手立てについて専門的な視点からの助言は有難かった」と好評であった。
兵庫県小野市市民安全部ヒューマンライフ・グループ主催「小野市いじめ防止市民会議」15:00～17:00。小野市役所	令和３年７月27日	兵庫県小野市市民安全部ヒューマンライフ・グループ主催「小野市いじめ防止市民会議」に「有識者・委員」として出席し、主に人権課題に対して指導助言をした。
新見公立大学「非常勤講師」『教育学総論』第１限・『生徒指導論』第２限～第４限、新見公立大学	令和３年７月31日	『教育学総論』(幼稚園教諭養成課程履修生必修科目・保育士養成課程履修生必修科目）の科目を担当する（集中講義)。健康科学部　健康保育学科１年57人が受講し、「全体総括によって、理論と実際のまとめができてよかった」と好評であった。その後、『生徒指導論』: 健康科学部　看護学科３年８人：前期『生徒指導論』(2021年度 前期・養護教諭養成課程 履修生 必修科目前期：2.0単位　時間数：30時間　３年８人）の科目を担当する（集中講義)。健康科学部　看護学科３年８人が受講し、「理論と実践の区別ができ、わかりやすく理解できた」と好評であった。
新見公立大学「非常勤講師」『教育相談』第１限～第３限、新見公立大学	令和３年８月14日	『教育相談』: 健康科学部　看護学科３年８人：前期『教育相談』(2021年度 前期・養護教諭養成課程 履修生 必修科目前期：2.0単位　時間数：30時間　３年８人）の科目を担当する（集中講義)。健康科学部　看護学科３年８人が受講し、「実践的でわかりやすかった」と好評であった。
兵庫県教育委員会主催研修会「講師」13:00～18：00上郡高等学校	令和３年８月30日	兵庫県教育委員会・兵庫県立上郡高等学校主催事業「i-checkデータからみるクラス経営」の研修テーマで「講師」を務めた。全クラス担任と面談をし、個別にデータ分析結果を伝え、担任ごとに指導助言をした。「エビデンスに基づいた助言だったので、とても説得力があった」等の意見が多く、高評価であった。
新見公立大学「非常勤講師」『生徒指導論』第１限～第４限、新見公立大学	令和３年８月31日	『生徒指導論』: 健康科学部　看護学科３年８人：前期『生徒指導論』(2021年度 前期・養護教諭養成課程 履修生 必修科目前期：2.0単位　時間数：30時間　３年８人）の科目を担当する（集中講義)。健康科学部　看護学科３年８人が受講し、「実践的な内容の講義で、教育現場ですぐ活用できるものだった」と好評であった。

新見公立大学「非常勤講師」『生徒指導論』第１限～第４限、新見公立大学	令和３年９月１日	『生徒指導論』：健康科学部　看護学科３年８人：前期『生徒指導論』(2021 年度 前期・養護教諭養成課程 履修生 必修科目前期：2.0 単位　時間数：30 時間　３年８人）の科目を担当する（集中講義)。健康科学部　看護学科３年８人が受講し、「理論を踏まえた実践的内容だった」と好評であった。
新見公立大学「非常勤講師」『教育相談』第１限～第４限、新見公立大学	令和３年９月７日	新見公立大学非常勤講師として、『教育相談』：健康科学部　看護学科３年８人：前期『教育相談』（2021 年度 前期・養護教諭養成課程 履修生 必修科目前期：2.0 単位　時間数：30 時間　３年８人）の科目を担当する（集中講義)。健康科学部　看護学科３年８人が受講し、「グループワークも取り入れ、楽しく学ぶことができた」と高評価であった。
新見公立大学「非常勤講師」『教育相談』第１限～第４限、新見公立大学	令和３年９月８日	新見公立大学非常勤講師として、『教育相談』：健康科学部　看護学科３年８人：前期『教育相談』（2021 年度 前期・養護教諭養成課程 履修生 必修科目前期：2.0 単位　時間数：30 時間　３年８人）の科目を担当する（集中講義)。健康科学部　看護学科３年８人が受講し、「実践的で理解しやすかった」と好評であった。
岡山県教育委員会主催「令和３年度心理検査活用リーダー研修講座（岡山県　県立学校人権教育サポート事業）13:45～17:00 岡山県総合教育センター対象：岡山県立学校生徒指導・教育相談担当者 30 名	令和３年９月 16 日	『i-check』の活用について－『i-check』の活用のポイントと具体的な手立てについて－」のテーマで「講師」を務めた。参加者からは「専門家から具体的な手立てを助言してもらい参加してよかった。すぐに実践したい」等の意見が多く、好評だった。
兵庫県小野市市民安全部ヒューマンライフ・グループ主催「小野市いじめ防止市民会議」打ち合わせ会議 13:00～14:00 小野市役所	令和３年９月 21 日	兵庫県小野市市民安全部ヒューマンライフ・グループ主催「小野市いじめ防止市民会議」。打ち合わせ会議出席。「有識者・委員」として、ハラスメントに関する課題について打ち合わせをした。
新見公立大学非常勤講師として、『教育相談（保)』第１限～第５限、新見公立大学	令和３年 10 月２日	新見公立大学非常勤講師として、『教育相談（保)』（幼稚園教諭養成課程履修生必修科目・保育士養成課程履修生必修科目）の科目を担当する（集中講義)。健康保育学科２年 57 人が受講し、「保育現場で活用できる実践的な内容だった」と好評であった。

兵庫県小野市市民安全部ヒューマンライフ・グループ主催「小野市いじめ防止市民会議」「有識者・委員」15:00～17:00。小野市役所	令和３年10月５日	兵庫県小野市市民安全部ヒューマンライフ・グループ主催「小野市いじめ防止市民会議」に「有識者・委員」として出席し、主にハラスメント防止に関して指導助言をした。
新見公立大学非常勤講師として、『教育相談（保)』(オンライン・第５限)、新見公立大学	令和３年10月12日	新見公立大学非常勤講師として、『教育相談（保)』（幼稚園教諭養成課程履修生必修科目・保育士養成課程履修生必修科目）の科目を担当する。健康保育学科２年57人が受講し、「教育現場で実践できる具体的な内容だった」と好評であった。(オンライン・第５限)
新見公立大学非常勤講師として、『教育相談（保)』(オンライン・第５限)、新見公立大学	令和３年10月17日	新見公立大学非常勤講師として、『教育相談（保)』（幼稚園教諭養成課程履修生必修科目・保育士養成課程履修生必修科目）の科目を担当する。健康保育学科２年57人が受講し、「理論の説明でも具体例を挙げての解説もあり、理解しやすかった」と好評であった。(オンライン・第５限)、新見公立大学
新見公立大学非常勤講師として、『教育相談（保)』(オンライン・第５限)、新見公立大学	令和３年10月26日	新見公立大学非常勤講師として、『教育相談（保)』（幼稚園教諭養成課程履修生必修科目・保育士養成課程履修生必修科目）の科目を担当する。健康保育学科２年57人が受講し、「保育現場で実践できるとても参考になる内容で、理解しやすかった」と好評であった。(オンライン・第５限)、新見公立大学
令和３年度　インターネット上の人権侵害の解消推進事業：大学との共同研究に係るシンポジウム（大阪府研究成果発表会)「指導者参加」(共同研究：大阪府人権局人権擁護課）大阪産業創造館 14:00～17:00	令和３年11月27日	令和３年度　インターネット上の人権侵害の解消推進事業：大学との共同研究に係るシンポジウム（大阪府研究成果発表会)：『インターネット上の人権侵害をどう防ぐか～教師をめざす学生として、意識改革から行動変容へ～』奈良学園大学　人間教育学部３回生：○プロジェクトリーダー（住本ゼミ）伊藤美香・早川千世・横山菜摘　○プロジェクトメンバー（住本ゼミ）岩永健汰・尾川涼夏・奥井秋穂・新里成哉・乗松貴大/「指導者」として助言指導。
滋賀県立学校いじめ問題調査委員会に「委員」(学識経験者：日本生徒指導学会 推薦）13:30～17:30 滋賀県庁	令和３年11月30日	滋賀県立学校いじめ問題調査委員会に「委員」(学識経験者：日本生徒指導学会 推薦）として出席。学識経験者として、知見を述べた。

岡山県新見市教育委員会主催「養護教諭中学校部会研修会」「講師」13:30～16:00 新見公立大学	令和３年12月７日	岡山県新見市教育委員会主催「養護教諭中学校部会研修会」の委員５名に「i-check を活用した保健指導」について指導助言をした。
新見公立大学非常勤講師として、『教育相談（保)』(第５限)、新見公立大学	令和３年12月７日	新見公立大学非常勤講師として、『教育相談（保)』（幼稚園教諭養成課程履修生必修科目・保育士養成課程履修生必修科目）の科目を担当する。健康保育学科２年57人が受講し、「保育現場ですぐに実践できるとても参考になる内容であった」と好評であった。
鳥取県教育委員会主催研修会「講師」13:00～15:00　鳥取県立日野高等学校	令和３年12月21日	鳥取県教育委員会・鳥取県立日野高等学校主催の「2021年度教職員研修会「hyperQU を活用した学級経営の在り方」のテーマで「講師」を務めた。「専門的な助言をもらって参考になった」「実践を支持してもらい自信がついた」等の意見が多く高評価であった。
新見公立大学非常勤講師として、『教育相談（保)』(第５限)、新見公立大学	令和３年12月21日	新見公立大学非常勤講師として、『教育相談（保)』（幼稚園教諭養成課程履修生必修科目・保育士養成課程履修生必修科目）の科目を担当する。健康保育学科２年57人が受講し、「教育現場で活用できる内容でよかった」と高評価であった。
兵庫県稲美町教育委員会主催「令和３年度第２回稲美町生きる力を育むための小・中連絡推進委員会：本年度小中学校における問題行動の状況・振り返り」「講師（副委員長)」(15:00～17:00　会場：兵庫県稲美町役場コミュニティセンターホール)	令和４年１月18日	兵庫県稲美町教育委員会主催「令和３年度第２回稲美町生きる力を育むための小・中連絡推進委員会：本年度小中学校における問題行動の状況・振り返り」で「講師（副委員長)」を務めた。「いじめ調査報告書から考えるいじめ防止教育プログラム開発の可能性」で講師も務め、「実践的内容だったので理解しやすかった」と好評であった。
兵庫県教育委員会・兵庫県立夢前高等学校主催[兵庫県教育委員会　県立高等学校「特別非常勤講師」10:50～12:40 兵庫県立夢前高等学校 13:25～15:15 兵庫県立夢前高等学校	令和４年１月19日	兵庫県教育委員会・兵庫県立夢前高等学校主催[兵庫県教育委員会　県立高等学校「特別非常勤講師」として、特別授業（対象：高校１年生85人)「将来の進路を見据えて」－『心の教育』『いのちの教育』の視点から－」を実施、「自分自身の自己理解が進んだ」「将来について考えるいい機会になった」等の意見が多く、高評価であった。

新見公立大学非常勤講師として、『教育相談（保)』(第 1 限～第 5 限)、新見公立大学	令和 4 年 1 月 22 日	新見公立大学非常勤講師として、『教育相談（保)』（幼稚園教諭養成課程履修生必修科目・保育士養成課程履修生必修科目）の科目を担当する。健康保育学科 2 年 57 人が受講し、「保育現場ですぐに実践できるとても参考になる内容で、本年度の本科目の総括ができて良かった」と好評であった。
滋賀県立学校いじめ問題調査委員会に「委員」(学識経験者：日本生徒指導学会 推薦）13:30～17:30 滋賀県庁	令和 4 年 1 月 31 日	滋賀県立学校いじめ問題調査委員会調査業務を執行した。16:00～20:00（滋賀県立八幡工業高校）
滋賀県立学校いじめ問題調査委員会に「委員」(学識経験者：日本生徒指導学会 推薦）オンライン会議	令和 4 年 2 月 22 日	滋賀県立学校いじめ問題調査委員会オンライン会議に参加し協議。19:00～21:00
滋賀県立学校いじめ問題調査委員会に「委員」(学オンライン会議	令和 4 年 3 月 12 日	滋賀県立学校いじめ問題調査委員会オンライン会議に参加し協議。19:00～21:00
兵庫県教育委員会・兵庫県立夢前高等学校主催[兵庫県教育委員会　県立高等学校「特別非常勤講師」10:50～12:40 兵庫県立夢前高等学校兵庫県教育委員会・兵庫県立夢前高等学校主催[兵庫県教育委員会	令和 4 年 4 月 19	兵庫県教育委員会・兵庫県立夢前高等学校主催 特別授業（対象：高校 1 年生 74 名。兵庫県立夢前高等学校主催講演会 ⑴「望ましい人間関係づくり」10:50～12:40 兵庫県立夢前高等学校　⑵「『折れない心』を持って見つめる私の『将来の夢』－『心の教育』『いのちの教育』の視点からー」で実施、「大切な自他の命について考えるいい機会であった」等の意見が多く、高評価であった。兵庫県立夢前高等学校
新見公立大学非常勤講師として、『教育学総論』（第 1 限～第 3 限)、新見公立大学	令和 4 年 4 月 23 日	新見公立大学非常勤講師として、『教育学総論』(幼稚園教諭養成課程履修生必修科目・保育士養成課程履修生必修科目）の科目を担当する。健康保育学科 2 年 52 人が受講し、「保育現場ですぐに実践できる内容で、わかりやすい内容だった」と好評であった。
新見公立大学非常勤講師として、『教育学総論』（第 1 限～第 4 限)、新見公立大学	令和 4 年 4 月 30 日	新見公立大学非常勤講師として、『教育学総論』(幼稚園教諭養成課程履修生必修科目・保育士養成課程履修生必修科目）の科目を担当する。健康保育学科 2 年 52 人が受講し、「実践的で、理論と実践で活かせる内容であった」と高評価を得た。

新見公立大学非常勤講師として、『保育者論』（第1限～第4限）、新見公立大学	令和4年5月14日	新見公立大学非常勤講師として、『教育相談（保）』（幼稚園教諭養成課程履修生必修科目・保育士養成課程履修生必修科目）の科目を担当する。健康保育学科1年54人が受講し、「保育者として参考になる内容ばかりで、すぐに実践できる資料も頂き今後活用したい」と好評であった。
兵庫県小野市市民安全部ヒューマンライフ・グループ主催「小野市いじめ防止市民会議」「有識者・委員」15:00～17:00。小野市役所	令和4年5月31日	兵庫県小野市市民安全部ヒューマンライフ・グループ主催「小野市いじめ防止市民会議」。打ち合わせ会議出席。「有識者・委員」として、グローバル社会の実現対策の課題について話し合った。
新見公立大学非常勤講師として、『保育者論』（第1限～第3限）、新見公立大学	令和4年6月11日	新見公立大学非常勤講師として、『保育者論』（幼稚園教諭養成課程履修生必修科目・保育士養成課程履修生必修科目）の科目を担当する。健康保育学科 1年54人が受講し、「保育現場ですぐに実践できるとても参考になる内容で、本年度の本科目の前半の総括ができて良かった」と好評であった。
姫路市教育委員会　姫路市立総合教育センター：研修会-幼稚園選択研修「講師」	令和4年6月23日	姫路市教育委員会　姫路市立総合教育センター：研修会15:00～16:40「講師」幼稚園選択研修「カウンセリング・マインドを生かした保護者への対応について」場所：姫路市立総合教育センター　対象：姫路市立幼稚園・保育所・こども園の教職員70人「カウンセリング・マインドを生かした保護者への対応について」の演題で講演をした。「保護者連携のポイントについて具体的な方法がわかり、明日からの実践に活かしたい」等、好評であった。
兵庫県教育委員会・県立上郡高等学校主催研修会「講師」兵庫県立上郡高等学校	令和4年7月5日	兵庫県教育委員会・兵庫県立上郡高等学校主催「総合質問紙調査『アイチェック』を活用した学級づくり研修会」において、「講師」を務めた。「学級の実態に応じた明確な手立てを提示頂きとても参考になった」等の意見が多く、高評価を得た。14:00～18:00 上郡高等学校
神戸市「今後の不登校支援のあり方に関する検討委員会」①7月12日・場所：神戸市総合教育センター	令和4年7月12日	当該年度第1回目の会議開催。「委員長」の立場で参加した。①7月12日・場所：神戸市総合教育センター　内容：委員委嘱・神戸市における不登校の現状・検討事項の確認 等

令和４年度 岡山県中学校養護教諭夏期研修会【研究・実践発表】保健室からつながる笑顔の輪～コミュニケーションスキル向上のための養護教諭の支援のあり方～	令和４年７月28日	令和４年度 岡山県中学校養護教諭夏期研修会 【研究・実践発表】保健室からつながる笑顔の輪 ～コミュニケーションスキル向上のための養護教諭の支援のあり方～ 備北ブロック（新見支部）【14:15～14:40】○主 催 岡山県学校保健会養護教諭部会中学校部会 岡山県中学校教育研究会養護部会 ○共 催 岡山県教育委員会 ○主 管 岡山県中学校教育研究会備前ブロック養護部会 ○日時：2022．7．28（木） ○研修形式：オンライン研修 14:40～14:55 「講師」として、指導講評を行った。
新見公立大学非常勤講師として、『教育学総論』（第１限）、新見公立大学	令和４年７月30日	新見公立大学非常勤講師として、『教育学総論』（幼稚園教諭養成課程履修生必修科目・保育士養成課程履修生必修科目）の科目を担当する。健康保育学科2年52人が受講し、「実践的内容でとても参考になった」等の意見が多く、好評であった。
新見公立大学非常勤講師として、『生徒指導論』（第２限～第４限）、新見公立大学	令和４年７月30日	新見公立大学非常勤講師として、『生徒指導論』（2022年度 前期・養護教諭養成課程 履修生 必修科目 前期：2.0単位 時間数：30時間）の科目を担当する。健康科学部　看護学科3年生10名が受講し、「実践的な内容で参考になり、よかった」等の意見が多く、好評価であった。
新見公立大学非常勤講師として、『教育相談（養）』（第１限～第４限）、新見公立大学	令和４年８月22日	新見公立大学非常勤講師として、『教育相談（養）』（2022年度 前期・養護教諭養成課程 履修生 必修科目前期：2.0単位　時間数：30時間）の科目を担当する。健康科学部　看護学科3年生10名が受講し、「すぐに活用できる実践的な内容でとても参考になった」等の意見が多く、好評価であった。
新見公立大学非常勤講師として、『教育相談（養）』（第１限～第４限）、新見公立大学	令和４年８月23日	新見公立大学非常勤講師として、『教育相談（養）』（2022年度 前期・養護教諭養成課程 履修生 必修科目前期：2.0単位　時間数：30時間）の科目を担当する。健康科学部　看護学科3年生10名が受講し、「前日に続き、実践的な内容がとても参考になった」等の意見が多く、高評価を得た。

新見公立大学非常勤講師として、『教育相談（養)』(第１限～第５限)、新見公立大学	令和４年８月24日	新見公立大学非常勤講師として、『教育相談（養)』（2022年度 前期・養護教諭養成課程 履修生 必修科目前期：2.0単位　時間数：30時間）の科目を担当する。健康科学部　看護学科３年生　８名が受講し、「全体的に理論と実践が整理されており、明確に理解できた。実践的な内容が学べてとても参考になった」等の意見が多く、好評価であった。
令和４年度 岡山県新見市養護研究部研修会「今こそ『折れない心』の育成を！－「いのちの教育」の視点からー」「講師」	令和４年８月25日	令和４年度 岡山県新見市養護研究部研修会「今こそ『折れない心』の育成を！－「いのちの教育」の視点からー」のテーマで講師を務めた。10:00～12:00・正田ふれあいセンター主催は、新見市教育委員会。参加者は、新見市内容語教諭等25名。「実践できるヒントを沢山頂いた」等の意見が多く、好評であった。
新見公立大学非常勤講師として、『生徒指導論』（第１限～第４限)、新見公立大学	令和４年８月30日	新見公立大学非常勤講師として、『生徒指導論』（2022年度 前期・養護教諭養成課程 履修生 必修科目前期：2.0単位　時間数：30時間）の科目を担当する。健康科学部　看護学科３年生　８名が受講し、「体験も取り入れ、実践的な内容が学べてとても参考になった」等の意見が多く、好評価であった。
新見公立大学非常勤講師として、『生徒指導論』（第１限～第４限)、新見公立大学	令和４年８月31日	新見公立大学非常勤講師として、『生徒指導論』（2022年度 前期・養護教諭養成課程 履修生 必修科目前期：2.0単位　時間数：30時間）の科目を担当する。健康科学部　看護学科３年生　８名が受講し、「前日に続いて、体験学習形式で、実践的な内容が学べてとても参考になった」等の意見が多く、好評価であった。
新見公立大学非常勤講師として、『生徒指導論』（第１限～第４限)、新見公立大学	令和４年９月7日	新見公立大学非常勤講師として、『生徒指導論』（2022年度 前期・養護教諭養成課程 履修生 必修科目前期：2.0単位　時間数：30時間）の科目を担当する。健康科学部　看護学科３年生　８名が受講し、「毎回取り入れて頂く、体験学習形式で、実践的な内容が学べて、とても参考にった」等の意見が多く、好評価であった。

新見公立大学非常勤講師として、『教育相談（養）』（第1限～第2限）、新見公立大学	令和4年9月8日	新見公立大学非常勤講師として、『教育相談（養）』（2022年度 前期・養護教諭養成課程 履修生 必修科目前期：2.0単位　時間数：30時間）の科目を担当する。健康科学部　看護学科3年生　8名が受講し、「全体的に理論と実践が明確で、しっかりと理解することができた。実践的な内容がとても参考になった」等の意見が多く、高評価を得た。
岡山医療専門職大学非常勤講師として、『人間形成論』（第1限～第4限）、岡山医療専門職大学	令和4年9月10日	岡山医療専門職大学非常勤講師として、「人間形成論」（理学療法学科23人・作業療法学科10人・3年必修科目・後期集中：2.0単位・30時間1クラス33人）の科目を担当した。理学療法学科 23 人・作業療法学科 10 人・計 33 名の 3 年生が受講し、「全体的に理論と実践が明確で、しっかりと理解することができた。実践的な内容がとても参考になった」等の意見が多く、好評価であった。
神戸市「今後の不登校支援のあり方に関する検討委員会」②9月14日・場所：神戸市総合教育センター	令和4年9月14日	当該年度第2回目の会議開催。「委員長」の立場で参加した。②9月14日・場所：神戸市総合教育センター　内容：臨時の委員からのヒアリング・検討事項 「登校しやすい環境整備と不登校の早期支援」等
岡山医療専門職大学非常勤講師として、『人間形成論』（第1限～第4限）、岡山医療専門職大学	令和4年9月17日	岡山医療専門職大学非常勤講師として、「人間形成論」（理学療法学科23人・作業療法学科10人・3年必修科目・後期集中：2.0単位・30時間1クラス33人）の科目を担当した。理学療法学科23人・作業療法学科10人・計33名の3年生が受講し、「実践的な内容で、現場で活かすことができるものばかりだった」等の意見が多く、好評価であった。
岡山県教育委員会主催「令和4年度心理検査活用リーダー研修講座「講師」	令和4年9月20日	岡山県教育委員会主催「令和4年度心理検査活用リーダー研修講座で「講師」を務めた。（岡山県　県立学校人権教育サポート事業）『i-check』の活用について－『i-check』の活用のポイントと具体的な手立てについて－」「講師」13:00～15：30オンライン　対象：岡山県立学校生徒指導・教育相談担当者15名。「学級の実態を正確に把握できる手法と実践の手立てを学ぶことができ有益な研修であった」等の意見が多く、好評価であった。
兵庫県小野市市民安全部ヒューマンライフ・グループ主催「小野市いじめ防止市民会議」「有識者・委員」15:00～17:00。小野市役所	令和4年9月27日	兵庫県小野市市民安全部ヒューマンライフ・グループ主催「小野市いじめ防止市民会議」。会議出席。「有識者・委員」として、グローバル社会の実現対策の課題【『兵庫県小野市国際交流センター主催「にほん語であそぼう！」外国人の子ども達との交

		流会 13:30～15:30　小野市エクラ』を踏まえて】について話し合った。
岡山医療専門職大学非常勤講師として、『人間形成論』（第 1 限～第 4 限）、岡山医療専門職大学	令和 4 年 10 月 1 日	岡山医療専門職大学非常勤講師として、「人間形成論」（理学療法学科 23 人・作業療法学科 10 人・3 年必修科目・後期集中：2.0 単位・30 時間 1 クラス 33 人）の科目を担当した。理学療法学科 23 人・作業療法学科 10 人・計 33 名の 3 年生が受講し、「わかりやすく、実践的な内容で、現場で活かすことができるものばかりだった」等の意見が多く、好評価であった。
神戸市「今後の不登校支援のあり方に関する検討委員会」③10 月 12 日・場所：神戸市立青少年育成センター	令和 4 年 10 月 12 日	当該年度第 3 回目の会議開催。「委員長」の立場で参加した。③10 月 12 日・場所：神戸市立青少年育成センター　内容：臨時の委員からのヒアリング・検討事項　「不登校児童生徒への支援の充実」等
岡山医療専門職大学非常勤講師として、『人間形成論』（第 1 限～第 3 限）、岡山医療専門職大学	令和 4 年 10 月 22 日	岡山医療専門職大学非常勤講師として、「人間形成論」（理学療法学科 23 人・作業療法学科 10 人・3 年必修科目・後期集中：2.0 単位・30 時間 1 クラス 33 人）の科目を担当した。理学療法学科 23 人・作業療法学科 10 人・計 33 名の 3 年生が受講し、「実践的な内容で、現場で活用できる学修ができよかった」等の意見が多く、好評価であった。
姫路市医師会看護専門学校非常勤講師として、『教育学』（第 1 限～第 3 限）、姫路市医師会看護専門学校	令和 4 年 10 月 25 日	姫路市医師会看護専門学校非常勤講師として、『教育学』（看護学科 2 年生　1 単位　30 時間、83 名）の科目を担当した。「実践的な内容で、現場で活用できる学修ができうれしい」等の意見が多く、好評価であった。
神戸市「今後の不登校支援のあり方に関する検討委員会」④11 月 2 日・場所：神戸市総合教育センター	令和 4 年 11 月 2 日	当該年度第 4 回目の会議開催。「委員長」の立場で参加した。④11 月 2 日・場所：神戸市総合教育センター　内容：臨時の委員からのヒアリング・検討事項　「不登校児童生徒への支援の充実」等
新見公立大学非常勤講師として、『教育相談』（第 1 限～第 4 限）、新見公立大学	令和 4 年 11 月 5 日	新見公立大学非常勤講師として、『教育相談』（幼稚園教諭養成課程履修生必修科目　後期 2.0 単位・時間数 30 時間）の科目を担当する。健康科学部　健康保育学科 2 年生　52 名が受講し、「毎回取り入れて頂く、体験学習形式で、実践的な内容が学べて、とても参考になった」等の意見が多く、高評価を得た。

姫路市医師会看護専門学校非常勤講師として、『教育学』（第 1 限～第 4 限）、姫路市医師会看護専門学校	令和 4 年 11 月 8 日	姫路市医師会看護専門学校非常勤講師として、『教育学』（看護学科 2 年生　1 単位　30 時間、83 名）の科目を担当した。「大変実践的な内容で、医療現場等で活用できる学修ができ、良い学びであった」等の意見が多く、好評価であった。
新見公立大学非常勤講師として、『教育相談』（第 1 限～第 4 限）、新見公立大学	令和 4 年 11 月 19 日	新見公立大学非常勤講師として、『教育相談』（幼稚園教諭養成課程履修生必修科目　後期 2.0 単位・時間数 30 時間）の科目を担当する。健康科学部　健康保育学科 2 年生　52 名が受講し、「毎回導入の体験学習形式で、実践的な内容を学ぶことができ、参考になった」等の意見が多く、高い評価を得た。
神戸市「今後の不登校支援のあり方に関する検討委員会」⑤11 月 30 日・場所：神戸市総合教育センター	令和 4 年 11 月 30 日	当該年度第 5 回目の会議開催。「委員長」の立場で参加した。⑤11 月 30 日・場所：神戸市総合教育センター　内容：臨時の委員からのヒアリング・検討事項　「不登校児童生徒への支援の充実」等
姫路市医師会看護専門学校非常勤講師として、『教育学』（第 1 限～第 4 限）、姫路市医師会看護専門学校	令和 4 年 12 月 6 日	姫路市医師会看護専門学校非常勤講師として、『教育学』（看護学科 2 年生　1 単位　30 時間、83 名）の科目を担当した。「本日は総括であったが、全体を振り返ってみても、大変実践的な内容で、医療現場等で活用できる学修ができよかった」等の意見が多く、好評価であった。
兵庫県教育委員会・兵庫県立夢前高等学校主催[兵庫県教育委員会　県立高等学校「特別非常勤講師」10:50～12:40 兵庫県立夢前高等学校兵庫県教育委員会・兵庫県立夢前高等学校主催[兵庫県教育委員会	令和 4 年 12 月 6 日	兵庫県教育委員会・兵庫県立夢前高等学校主催 特別授業（対象：高校 1 年生 74 名。県立夢前高等学校主催講演会 ⑴「望ましい人間関係づくり」10:50～12:40 兵庫県立夢前高等学校　⑵「『折れない心』を持って見つめる私の『将来の夢』－『心の教育』『いのちの教育』の視点から－」で実施、「今までの人生を振り返る得がたい機会であった」「将来のことについて、真剣に考える時間であった」「自身の今までとこれからを考える真剣な時間だった」等の意見が多く、高評価であった。兵庫県立夢前高等学校
姫路市医師会看護専門学校 看護教員内部研修会「学生を守るハラスメント対応」「講師」	令和 4 年 12 月 21 日	「学生を守るハラスメント対応」のテーマで「講師」を務めた。「ハラスメント体制構築の重要性を再確認できた」「学生との関係の作り方の具体的な事例を学ぶことができた」「すぐに実践できそうな内容だったので、すぐに実践したい」「学生への向き合い方が明確に理解できた」等、大変好評であった。

兵庫県稲美町教育委員会主催「令和４年度第２回稲美町生きる力を育むための小・中連絡推進委員会：本年度小中学校における問題行動の状況」「講師（副委員長）」（会場：兵庫県稲美町役場コミュニティセンターホール）	令和５年１月17日	協議後、「講師」として、「教育相談で活用できる新たな手法について」のテーマで、「講師」を務めた。「本町の実態に合わせた講演内容で、わかりやすかった」「実践的内容で良かった」等の高い評価を得た。対象：小中生徒指導担当教員・小中学校長
新見公立大学非常勤講師として、『教育相談』（第1限～第３限）、新見公立大学	令和５年１月21日	新見公立大学非常勤講師として、『教育相談』（幼稚園教諭養成課程履修生必修科目　後期 2.0 単位・時間数 30 時間）の科目を担当する。健康科学部　健康保育学科２年生　52 名が受講し、「体験を通して学ぶことができ、とても参考になった」等の意見が多く、高評価を得た。
神戸市「今後の不登校支援のあり方に関する検討委員会」「報告書」手交式	令和５年１月25日	当該年度第５回の会議で議論した内容を「報告書」にまとめ、住本（「委員長」）が神戸市教育長に手交した。
岡山県いじめ問題対策連絡協議会『会長』として、会議議長進行	令和５年１月31日	岡山県いじめ問題対策連絡協議会『会長』として、会議議長進行した。岡山県内の令和４年度のいじめ対策の取組について、協議し、年間の総括をした。
NPO 日本教育カウンセラー協会研修会『講師』：テーマ「教育カウンセリング概論」	令和５年２月19日	NPO 日本教育カウンセラー協会研修会の『講師』を務めた。研修テーマは「教育カウンセリング概論」で、参加者からは、「実践的内容でわかりやすかった」「教育カウンセリングについて、概観することができた」等、好評であった。13:30－16:30（オンライン zoom）
新見公立大学非常勤講師として、『教育相談』（第1限～第４限）、新見公立大学	令和５年２月22日	新見公立大学非常勤講師として、『教育相談』（幼稚園教諭養成課程履修生必修科目 後期 2.0 単位・時間数 30 時間）の科目を担当する。健康科学部　健康保育学科２年生　52 名が受講し、「全体総括であったが、毎回の体験学習形式で、実践的な内容を学ぶことができ、とても参考になった」等の意見が多く、高評価を得た。
兵庫県小野市市民安全部ヒューマンライフ・グループ主催「小野市いじめ防止市民会議」「有識者・	令和５年２月28日	兵庫県小野市市民安全部ヒューマンライフ・グループ主催「小野市いじめ防止市民会議」。打ち合わせ

委員」15:00～17:00。小野市役所		会議出席。「有識者・委員」として、グローバル社会の実現対策の課題について総括し、協議後、「不登校支援のあり方」について「講師」を務めた。
奈良芸術文化高校入学式祝辞	令和５年４月８日	奈良県私学第三者評価委員として、評価後、来賓出席し、祝辞を述べた。
新見公立大学非常勤講師として、『教育学総論』（第１限～第３限)、新見公立大学	令和５年４月15日	新見公立大学非常勤講師として、『教育学総論』(幼稚園教諭養成課程履修生必修科目・保育士養成課程履修生必修科目　前期2.0単位・時間数30時間）の科目を担当する。健康科学部　健康保育学科２年生　54名が受講し、「体験学習形式で、実践的な内容を学ぶことができ参考になった」等の意見が多く、高い評価を得た。
兵庫県教育委員会・兵庫県立夢前高等学校主催[兵庫県教育委員会　県立高等学校「特別非常勤講師」10:50～12:40兵庫県立夢前高等学校兵庫県教育委員会・兵庫県立夢前高等学校主催[兵庫県教育委員会	令和５年４月18日	兵庫県教育委員会・兵庫県立夢前高等学校主催 特別授業（対象：高校１年生75名。県立夢前高等学校主催講演会 ⑴「望ましい人間関係づくり」10:50～12:40兵庫県立夢前高等学校　⑵「『折れない心』を持って見つめる私の『将来の夢』－『心の教育』『いのちの教育』の視点から－」で実施、「『いのち』について考える、得がたい良い機会であった」等の意見が多く、高い評価であった。兵庫県立夢前高等学校
新見公立大学非常勤講師として、『保育者論』(第１限～第３限)、新見公立大学	令和５年５月13日	新見公立大学非常勤講師として、『保育者論』(幼稚園教諭養成課程履修生必修科目・保育士養成課程履修生必修科目）の科目を担当する。健康保育学科 1年54人が受講し、「保育者として参考になる内容が多く、実践に活用できる資料も配付され現場で活かしたい」と好評であった。
兵庫県丹波の森公苑 高齢者大学 講師として、「令和５年度「丹波OB大学」健康福祉コース講演、兵庫県丹波の森公苑	令和５年５月24日	兵庫県丹波の森公苑 高齢者大学で『講師』を務めた。「令和５年度『丹波OB大学』健康福祉コース講演：健康づくりはコミュニケーションから」～アサーション・トレーニングの実際～」の研修テーマで、「対人関係スキルを磨くことの大切さを演習を通して学ぶことができた」等の感想が多く、高評価であった。10:30-12:00

新見公立大学非常勤講師として、『保育者論』（第1限～第4限）、新見公立大学	令和5年5月27日 」	新見公立大学非常勤講師として、『保育者論』（幼稚園教諭養成課程履修生必修科目・保育士養成課程履修生必修科目）の科目を担当する。健康保育学科 1年54人が受講し、「前回に続き、保育者として参考になる内容が多く、実践に活用できる資料も配付され現場で活かしたい」と高い好評を得た。
新見公立大学非常勤講師として、『教育学総論』（第1限～第4限）、新見公立大学	令和5年6月10日	新見公立大学非常勤講師として、『教育学総論』（幼稚園教諭養成課程履修生必修科目・保育士養成課程履修生必修科目　前期2.0単位・時間数30時間）の科目を担当する。健康科学部　健康保育学科2年生　54名が受講し、「前回同様（昨年度の『保育者論』同様）、体験学習形式で、実践的な内容を学ぶことができ、とても参考になった」等の意見が多く、高評価を得た。
新見公立大学非常勤講師として、『生徒指導論』（第1限～第4限）、新見公立大学	令和5年6月24日	新見公立大学非常勤講師として、『生徒指導論』（2023年度 前期・養護教諭養成課程 履修生 必修科目 前期：2.0単位 時間数：30時間）の科目を担当する。健康科学部　看護学科 3年生 10名が受講し、「養護教諭として実践的な内容でとても参考になり、次回も楽しみである」等の意見が多く、高い評価であった。
兵庫県稲美町教育委員会主催「令和5年度第1回稲美町生きる力を育むための小・中連絡推進委員会：本年度小中学校における問題行動の状況」「講師（副委員長）」（会場：兵庫県稲美町役場コミュニティセンターホール）	令和5年6月27日	協議後、「講師」として、「いじめ予防の教育プログラムについて」のテーマで、「講師」を務めた。「本町の実態を踏まえた講演内容で良かった」等の高い評価を得た。対象：小中生徒指導担当教員・小中学校長
奈良学園大学共同研究研修会（研究代表者として研究企画）オンライン15:00－16:30	令和5年7月24日	昨年度に続き、学園の共同研究「「いじめ防止・対応等、教職員研修プログラム」の開発に関する研究Ⅱ－『学校法人奈良学園』における『教育相談活動（生徒指導含む）』のネットワ ーク強化－」の研究テーマで学園内、幼稚園から大学までの生徒指導・教育相談担当者が事例検討、テキスト研修を実施。住本は、研究代表者として、研修会の企画、運営を担当した。

新見公立大学非常勤講師として、『生徒指導論』（第 1 限～第 4 限）、新見公立大学	令和 5 年 8 月 21 日	新見公立大学非常勤講師として、『生徒指導論』（2023 年度 前期・養護教諭養成課程 履修生 必修科目 前期：2.0 単位 時間数：30 時間）の科目を担当する。健康科学部　看護学科 3 年生 10 名が受講し、「前回に続き、今回も養護教諭として実践的な内容で参考になった」等の意見が多く、高評価を得た。
新見公立大学非常勤講師として、『生徒指導論』（第 1 限～第 4 限）、新見公立大学	令和 5 年 8 月 22 日	新見公立大学非常勤講師として、『生徒指導論』（2023 年度 前期・養護教諭養成課程 履修生 必修科目 前期：2.0 単位 時間数：30 時間）の科目を担当する。健康科学部　看護学科 3 年生 10 名が受講し、「心理検査の体験等、大変実践的な内容でとても参考になった」等の意見が多く、高評価を得た。
新見公立大学非常勤講師として、『生徒指導論』（第 1 限～第 3 限）、新見公立大学	令和 5 年 8 月 23 日	新見公立大学非常勤講師として、『生徒指導論』（2023 年度 前期・養護教諭養成課程 履修生 必修科目 前期：2.0 単位 時間数：30 時間）の科目を担当する。健康科学部　看護学科 3 年生 10 名が受講し、「今回は総括であったが、全体として、大変実践的な内容で、養護教諭となったら是非活用したい」等の意見が多く、高い評価を得ることができた。
岡山医療専門職大学非常勤講師として、『人間形成論』（第 1 限～第 4 限）、岡山医療専門職大学	令和 5 年 10 月 7 日	岡山医療専門職大学非常勤講師として、「人間形成論」（理学療法学科 25 人・作業療法学科 15 人・3 年必修科目・後期集中：2.0 単位・30 時間 1 クラス 40 人）の科目を担当した。理学療法学科 58 人・作業療法学科 18 人・計 76 名の 3 年生が受講し、「全体的に理論と実践が明確で、実践的な内容がとても参考になった」等の意見が多く、高い評価を得た。
新見公立大学非常勤講師として、『教育相談』（第 1 限～第 3 限）、新見公立大学	令和 5 年 10 月 14 日	新見公立大学非常勤講師として、『教育相談』（幼稚園教諭養成課程履修生必修科目 後期 2.0 単位・時間数 30 時間）の科目を担当する。健康科学部　健康保育学科 2 年生　54 名が受講し、「体験学習形式が新鮮で、実践的な内容が学べ、とても参考になった」等の意見が多く、高評価を得た。

岡山医療専門職大学非常勤講師として、『人間形成論』（第 1 限～第 4 限）、岡山医療専門職大学	令和 5 年 10 月 21 日	岡山医療専門職大学非常勤講師として、「人間形成論」（理学療法学科 25 人・作業療法学科 15 人・3 年必修科目・後期集中：2.0 単位・30 時間 1 クラス 40 人）の科目を担当した。理学療法学科 58 人・作業療法学科 18 人・計 76 名の 3 年生が受講し、「前回同様、実践的な内容がとても参考になった」等の意見が多く、高評価を得た。
奈良学園大学共同研究研修会（研究代表者として研究企画）オンライン 15:00－16:30	令和 5 年 10 月 26 日	本年度 2 度目の研修会で、学園の共同研究「「いじめ防止・対応等、教職員研修プログラム」の開発に関する研究Ⅱ－『学校法人奈良学園』における『教育相談活動（生徒指導含む)』のネットワ ーク強化－」の研究テーマで学園内、幼稚園から大学までの生徒指導・教育相談担当者が事例検討、テキスト研修を実施。住本は、研究代表者として、研修会の企画、運営、研修会進行、コメントを担当した。
兵庫県小野市市民安全部ヒューマンライフ・グループ主催「小野市いじめ防止市民会議」「有識者・委員」15:00～17:00。小野市役所	令和 5 年 10 月 31 日	兵庫県小野市市民安全部ヒューマンライフ・グループ主催「小野市いじめ防止市民会議」。「有識者・委員」として、いじめ防止等の本年度の活動についてコメントし、協議後、「不登校支援のあり方」について「講師」を務めた。
※『公益財団法人日本高等教育評価機構 大学機関別認証評価　評価員』(2023 年度実地調査担当)	令和 5 年 11 月 15 日～11 月 18 日	※『公益財団法人日本高等教育評価機構　大学機関別認証評価　評価員』として実地調査実施。
岡山県いじめ問題対策連絡協議会『会長』として、会議議長進行	令和 5 年 11 月 21 日	岡山県いじめ問題対策連絡協議会『会長』として、会議議長進行した。岡山県内の令和 5 年度のいじめ対策の取組について、協議し、年間の総括をした。

岡山医療専門職大学非常勤講師として、『人間形成論』（第 1 限～第 4 限）、岡山医療専門職大学	令和 5 年 11 月 25 日	岡山医療専門職大学非常勤講師として、「人間形成論」（理学療法学科 25 人・作業療法学科 15 人・3 年必修科目・後期集中：2.0 単位・30 時間 1 クラス 40 人）の科目を担当した。理学療法学科 58 人・作業療法学科 18 人・計 76 名の 3 年生が受講し、「毎回の実践的な内容がとても参考になる」等の意見が多く、高い評価を得た。
兵庫県教育委員会・兵庫県立夢前高等学校主催[兵庫県教育委員会　県立高等学校「特別非常勤講師」10:50～12:40 兵庫県立夢前高等学校兵庫県教育委員会・兵庫県立夢前高等学校主催[兵庫県教育委員会	令和 5 年 12 月 12 日	兵庫県教育委員会・兵庫県立夢前高等学校主催 特別授業（対象：高校 1 年生 75 名。県立夢前高等学校主催講演会 ⑴「望ましい人間関係づくり」10:50～12:40 兵庫県立夢前高等学校　⑵「『折れない心』を持って見つめる私の『将来の夢』－『心の教育』『いのちの教育』の視点から－」で実施、「将来のことについて、真剣に考える時間であった」等の意見が多く、高い評価を得た。兵庫県立夢前高等学校
新見公立大学非常勤講師として、『教育相談』（第 1 限～第 4 限）、新見公立大学	令和 5 年 12 月 23 日	新見公立大学非常勤講師として、『教育相談』（幼稚園教諭養成課程履修生必修科目 後期 2.0 単位・時間数 30 時間）の科目を担当する。健康科学部　健康保育学科 2 年生　54 名が受講し、「バウムテスト等の心理テストの体験学習形式が中心で、実践的な内容が学べて参考になっている」等の意見が多く、高い評価を得た。
新見公立大学非常勤講師として、『教育相談』（第 1 限～第 4 限）、新見公立大学	令和 6 年 1 月 20 日	新見公立大学非常勤講師として、『教育相談』（幼稚園教諭養成課程履修生必修科目 後期 2.0 単位・時間数 30 時間）の科目を担当する。健康科学部　健康保育学科 2 年生　54 名が受講し、「コラージュ療法等、体験型での実践的な内容が多くとても参考になる」等の意見が多く、高評価を得た。

新見公立大学非常勤講師として、『教育相談』（第1限～第3限）、新見公立大学	令和6年1月27日	新見公立大学非常勤講師として、『教育相談』（幼稚園教諭養成課程履修生必修科目 後期2.0単位・時間数30時間）の科目を担当する。健康科学部　健康保育学科2年生　54名が受講し、「今回がまとめだったが、保育者として実践できる内容が中心で、とても良い学びができた」等の意見が多く、良い総括ができた。
令和５年度北播磨ブロック民生委員児童委員協議会会長・主任児童委員等連絡会議『講師』	令和6年2月9日	令和５年度北播磨ブロック民生委員児童委員協議会会長・主任児童委員等連絡会議で『講師』を務めた。演題は「小さな困りごとによりそってー保護者とつながり方のポイントと留意点ー」で、「保護者連携のポイントについて、わかりやすい内容であった」「すぐ明日からの実践に活かすことができる内容で良かった」等の意見が多く、次回講師も依頼された。（講演：14:10～15:10 ）場所：小野市うるおい交流館エクラ　大会議室　⑶対象者：北播磨管内の民生委員児童委員協議会の会長及び主任児童委員50名
奈良芸術文化高校卒業式祝辞	令和6年2月23日	奈良県私学第三者評価委員として、評価後、来賓として式に出席し、祝辞を述べた。
兵庫県小野市市民安全部ヒューマンライフ・グループ主催「小野市いじめ防止市民会議」「有識者・委員」15:00～17:00。小野市役所	令和6年2月27日	兵庫県小野市市民安全部ヒューマンライフ・グループ主催「小野市いじめ防止市民会議」。「有識者・委員」として、いじめ防止等の本年度の活動について総括し、協議後、「不登校支援の理論と実際」について「講師」を務めた。
５　その他 特になし		

職　務　上　の　実　績　に　関　す　る　事　項		
事項	年月日	概　　要
１　資格、免許 中学校教諭１級免許状（社会）	昭和53年3月	昭 52 中 1 普第 2995 号（大阪府教育委員会）
高校教諭２級免許状（社会）	昭和53年3月	昭 52 高 2 普第 3298 号（大阪府教育委員会）
小学校教諭 2 級免許状	昭和54年3月	昭 53 小 2 普第 2201 号（京都府教育委員会）
小学校教諭１級免許状	昭和55年3月	昭 54 小 1 普第 614 号（京都府教育委員会）
「社会教育主事」免許取得	昭和60年3月	神戸大学 H1.9.25 ：No.27
「学校心理士」資格取得	平成10年4月	No.98227（日本教育心理学会認定）
「上級教育カウンセラー」資格取得	平成11年4月	No.3023012（日本教育カウンセラー協会認定）
「学校カウンセラー」資格取得	平成12年4月	No.545 号（日本学校教育相談学会認定）
「心理検査士」資格取得	平成12年4月	No.353（日本教育評価研究会）
「認定カウンセラー」資格取得	平成16年4月	No.753（日本カウンセリング学会認定）
「認定スーパーバイザー」資格取得 〔現「カウンセリング心理士（スーパーバイザー）」〕	平成 19 年 4 月	SV-0065 号（日本カウンセリング学会）
「SGE（構成的グループ・エンカウンター）公認リーダー」資格取得	平成20年4月	第 3 期認定（NPO 法人日本教育カウンセラー協会認定）
「ガイダンスカウンセラー」資格取得	平成21年4月	No.11040021（一般社団法人スクールカウンセリング推進協議会認定）
「ガイダンスカウンセラー・スーパーバイザー」資格取得	令和 5 年 4 月	No.11040021（一般社団法人スクールカウンセリング推進協議会認定）
２　特許等 特になし		
３　実務の経験を有する者について特記事項 環太平洋大学における活動	平成 24 年度～平成 27 年度	環太平洋大学　次世代教育学部　学級経営学科　教授として、「ＦＤ実施推進委員」「教務委員会委員」「図書館運営委員会委員」「図書館長」「図書館運営委員長」「教務部長」「教務委員長」「学生相談室長」「学生相談委員会委員長」「生活支援センター長」「自己点検評価委員」「次世代教育学部　教育経営学科長」「大学認証評価『リエゾン・オフィサー』（平

		成 25 年度)」「入試委員会委員」「危機管理委員会委員」「大学推薦選考委員会」「大学個人評価委員会」「キャリアセンター・センター長補佐」「衛生委員会委員」「学術倫理委員会委員」等を務めた。 また、その間、兵庫教育大学非常勤講師として、「大学院学校教育研究科：教育実践高度化専攻：心の教育実践コース：『キャリア教育実践プログラムの開発』、「大学院学校教育研究科：共通基礎科目：『教育相談の理論と技能開発』、『学校における心の教育の実践研究』等の科目を担当した。
新見公立大学における活動	平成 28 年度～平成 31 年度	新見公立短期大学幼児教育学科・健康保育学科　教授として、「幼児教育学科長」「健康保育学科長（幼児教育学科長・兼務）」「評価・将来構想委員会委員」「人権委員会委員」「ＦＤ委員会委員」「ハラスメント委員会・調査委員」「学生等選抜委員会委員」「入試委員会委員」「入試課題検討委員会委員」「公立大学法人　新見公立大学　教育研究審議会委員」「公立大学法人　新見公立大学　個人情報保護委員会委員」等を務めている。また、その間、兵庫教育大学非常勤講師として、「大学院学校教育研究科：教育実践高度化専攻：心の教育実践コース：『キャリア教育実践プログラムの開発』、「大学院学校教育研究科：共通基礎科目：『教育相談の理論と技能開発』、『学校における心の教育の実践研究』等の科目を担当した。
奈良学園大学における活動	令和 2 年度～現在に至る	人間教育学部人間教育学部・学部運営委員会委員〈令和 3 年度からは「小学校専修長」・専修員 12 名〉として、「人を支える人づくり」「教員養成」等の業務の企画運営に取り組んだ。また、「自己点検・評価委員会」委員長、「大学評議会」委員、「財務委員会」委員、「人間教育学部研究倫理審査委員会」副委員長、「人間教育学部研究倫理審査委員会」副委員長として、学部学科に限らず、大学の企画・運営に尽力した。さらに、「中期計画策定委員会」委員として、その企画にもかかわった。担当科目としては、『教職入門Ａ（初等）『教職入門Ｂ（中等）『生徒指導・進路指導論Ｂ（中等）『人間教育学ゼミナールⅠ（基礎）『教育実習事前事後指導（小）『教育実習Ⅰ（小）』『教育実習Ⅱ（小）』『教職実践演習（幼・小）』『生徒指導・進路指導論Ａ（初等）』『教育社会学Ａ（初等）』『教育社会学Ｂ（中等）』また、その間、新見公立大学非常勤講師として、『保育者論』（健康保育学科 1 年）『教育学総論』（健康保育学科 2

		年)『教育相談（幼)』(健康保育学科２年)『教育相談（養)』(看護学科 3 年)『生徒指導論』(看護学科 3 年）等の科目を担当した。
※「認証評価」評価員としての社会貢献活動	令和５年度	※『公益財団法人日本高等教育評価機構　大学機関別認証評価　評価員』(2023 年度)
４　その他 環太平洋大学「平成２６年度　教員免許状更新講習」「講師」	平成 26 年 8 月	「今、求められる小学校教育(2)―①子どもの現状と課題　②教育相談の充実」の講義をした。
環太平洋大学「平成２７年度　教員免許状更新講習」「講師」	平成 27 年 8 月	子どもの現状と課題　と教育相談の充実について講義を行った。
日本カウンセリング学会第 48 回大会研修会「研修プログラム：グループアプローチの実際『グループアプローチをクラスづくりに生かす際のポイント』」「講師」(会場：環太平洋大学)	平成 27 年 8 月 28 日	教師の立場、またカウンセラー（主として、スクールカウンセラー）の立場で、グループアプローチをクラスづくりに生かす際のポイントについて実習をとおして研修を進めた。
岡山県教育委員会「『思春期サポート事業』」講師（スクールカウンセラー）(年間 12 回)	平成 27 年度～現在に至る	岡山県教育委員会「平成 27 年度　『思春期サポート事業』」講師（スクールカウンセラー）を委嘱された。
甲南大学教職教育センター「平成 28 年度教員免許状　更新講習」「講師」	平成 28 年 8 月	「教育の最新事情 道徳教育における『いのちの教育』をどう進めるかー「『命の大切さ』を実感させる教育プログラム」の展開・小学生・中学生・高校生の「いのち」に対する意識の実態調査結果をとおしてー」の講義をした。
岡山県警察本部　警務部　県民応接課　主催　岡山県警察学校授業「『心のケア』の理論と実際－学校カウンセリングの立場からー」「講師」14:10-15:30　会場：岡山県警察学校	平成 28 年 11 月	岡山県警察本部の依頼で「『心のケア』の理論と実際－学校カウンセリングの立場からー」のテーマで講師を務めた。
奈良県私立高等学校第三者委員会「評価委員」	平成 30 年度～現在に至る	奈良県私立高等学校第三者委員会「評価委員」を委嘱された。
兵庫県教育委員会・県立高等学校「特別非常勤講師」	平成 31 年度～現在に至る	兵庫県教育委員会・県立高等学校「特別非常勤講師」を委嘱された。
岡山県教育委員会・岡山県総合教育センター主催初任者研修（小・中・高・特　悉皆研修)「学級経営における指導技術向上（人間関係づくり）「カウンセリング技法を活用した学級づくりー「心の教育」「いのちの教育」の視点からー」「講師」	平成 31 年度	岡山県教育委員会・岡山県総合教育センター主催初任者研修（小・中・高・特　悉皆研修）の講師を務めた。日時：2019.5.16　13:15～14:45（90 分）会場：岡山県総合教育センター

岡山県教育委員会・岡山県総合教育センター主催中堅教諭等資質向上研修　共通研修Ⅰ「カウンセリング技法を活用した学級づくりー「心の教育」「いのちの教育」の視点からー」「講師」対象：県内中堅教員（小・中・高・特・幼・こども園・養護・栄教・学栄）450 名	平成 31 年度	岡山県教育委員会・岡山県総合教育センター主催中堅教諭等資質向上研修　共通研修Ⅰの講師を務めた。日時：2019.5.28　14:00～15:30（90 分）会場：岡山県総合教育センター
神戸市「今後の不登校支援のあり方に関する検討委員会」「委員長」・神戸市における不登校の現状・検討・報告書作成	令和 4 年度	本検討委員会では、⑴「登校しやすい環境整備と不登校の早期支援」　⑵「不登校児童生徒への支援の充実」　⑶「保護者サポート及び民間施設等との連携推進」この３点を中心に検討を重ねた。特筆すべきは、不登校の経験者やその保護者、また、不登校に関する親の会の運営に携わる方々を臨時委員として、検討委員会でヒアリングを行ったこと。さらには、先進事例として、広島県及び横浜市の教育支援センター、岐阜市及び香川県三豊市の不登校特例校をそれぞれ訪問し、その取組を踏まえて議論を進めてきた。このように、何より不登校の経験者や保護者に基軸におき、不登校児童生徒に対する支援の目標である「社会的自立」の視点から好転に結びつけている実践事例を踏まえながら議論し、本報告としてまとめ、報告書は、手交式で住本が、神戸市教育長へ手交実施した。場所：神戸市教育委員会：令和 5 年 1 月 25 日。
令和４年度　岡山県中学校養護教諭夏期研修会【研究・実践発表】保健室からつながる笑顔の輪～コミュニケーションスキル向上のための養護教諭の支援のあり方～　備北ブロック（新見支部）主 催 岡山県学校保健会養護教諭部会中学校部会 岡山県中学校教育研究会養護部会「講師」（指導講評）	令和 4 年度	「保健室からつながる笑顔の輪 ～コミュニケーションスキル向上のための養護教諭の支援のあり方～」のテーマで、備北ブロック（新見支部）で 5 年間の取り組みを成果発表した。開発的カウンセリング技法実践の有効性、総合質問紙調査（i-check:住本克彦、東京書籍）活用による実態把握・教育効果測定の有効性等が確認された。【研究・実践発表】保健室からつながる笑顔の輪 ～コミュニケーションスキル向上のための養護教諭の支援のあり方～ 備北ブロック（新見支部）〇主 催 岡山県学校保健会養護教諭部会中学校部会 岡山県中学校教育研究会養護部会 〇共催：岡山県教育委員会 〇主管：岡山県中学校教育研究会備前ブロック養護部会「講師」（指導講評）。
【科研費等外部資金】 ⑴科学研究費助成事業･基盤研究（C） 課題番号 18K03163　2018～2022 研究課題名「人間関係力を育む保育者養成教育のあり方に関する実践的研究」 研究代表者：加藤由美　研究分担者：住本克彦他	平成 30 年度～令和 4 年度	

⑵科学研究費助成事業･基盤研究（C） 課題番号 22K02716　2022～2025 研究課題名：「教育研究組織を基盤とした予防的・開発的学生支援モデルの開発的研究」 研究代表者：杉田郁代　研究分担者：住本克彦 森一弘　他	令和４年度～ 令和７年度	

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
1．子どもたちが輝くクラスづくりのための総合質問紙調査「i-check	共著	平成 24 年 7 月～現在に至る ※毎年度改訂版を発刊 ※令和 3 年度版からは、住本克彦が監修者・編著者	東京書籍株式会社	学級の児童生徒の実態を正確に測り、学級経営の方途を探る実践的総合質問紙の説明書 監修者：梶田叡一 編著者：住本克彦 ※令和 3 年度版からは、住本克彦が監修者・編著者 小学校 1・2 年生判　pp. 1-8，小学校 3・4 年生判　小学校 pp. 1-12，小学校 5・6 年生判 pp. 1-12，中学校判　pp. 1-12，高等学校判 pp. 1-12）（1・2 年生判　　Ａ４判　全 47 問 全８頁）（小学校 3・4 年生判　　Ａ４判 全 73 問 全 12 頁）（小学校 5・6 年生判 Ａ４判　全 94 問 全 12 頁）（中学校判　　Ａ４判　全 94 問 全 12 頁）（高等学校判　　Ａ４判　全 110 問 全 12 頁） 【本人担当部分】本質問紙全体の企画、構成、編集　質問紙項目・解説書執筆を担当
2．教育原理事始め 【再掲】	共著	平成 30 年 4 月	大学教育出版	教員を目指す大学生を対象に、教育原理の理論と実践を解説したもの。 Ａ５判 全頁数　２０１， 編著者：中田正浩　執筆者：中田正浩　住本克彦　他４名） 【本人担当部分】 (pp. 101-118 を単著)第 6 章「生徒指導と教育相談」を執筆。 生徒指導と教育相談の関係や学校組織の中での企画運営の仕方について詳述した。

3．新しい視点から見た教職入門 【再掲】	共著	平成 30 年 4 月（令和 3 年度第 2 版改訂・令和 5 年度第 3 版改訂）	大学教育出版	教職を目指す学生が教職課程で最初に学ぶ「教職入門」のテキスト。 Ａ５判　全頁数２８２， 編著：中田正浩 執筆者：中田正浩　住本克彦　他７名） 【本人担当部分】第 1 部理論編　第 5 章「『教育制度改革』の現況把握」（pp. 125-134 を単著）、「アクティブ・ラーニング」（pp. 135-136 を単著）。第 2 部実践編　第 6 章「教員採用試験」（pp. 267-280 を単著）を執筆。 『教育制度改革』の現況について詳述し、教員採用試験の実際や対策等についても詳述した。
4．エンカウンターでいじめ対応が変わる-教育相談と生徒指導のさらなる充実をめざして- 【再掲】	単著（編著）	平成 31 年 6 月	図書文化社	従来の不登校対策と異なったエンカウンターを用いたいじめ防止・早期対応等の具体的な手立てを示し、教育相談・生徒指導の理論や実際も示した著書 Ｂ5 判　　全頁数１９０， 監修　國分康孝・國分久子 編集　住本克彦 執筆者：住本克彦・國分康孝・國分久子・新井浩一・石原義行　他 26 名） 【本人担当部分】 単著部分（pp. 10-13，pp. 14-21，pp. 56-57，pp. 70-75，pp. 76-79，pp. 84-113）・共著部分（pp. 38-41・pp. 114-115）（共著者：住本克彦、仁八潔）・（pp. 42-47）（共著者：住本克彦、梅本剛雄）・（pp. 118-123）（共著者：住本克彦、植田律子・小藤信子・森本章代・山本眞由美） エンカウンターを生かしたいじめ問題への対応の仕方等、今まで実践報告がほとんどなかった領域において、幼児教育段階からの取組や精神科医の論述等を編集し、対処法の具体例を挙げながら論述した。 住本が編著者として、序章：教師としてのいじめへ取り組む心構え、第１章：いじめ対応の基本姿勢、第２章：いじめ対応に活かすエンカウンター、第３章：エンカウンターを活かしたいじめ対応の実際、第４章：さまざま

				な場におけるいじめ対応の取り組み、保育・教育現場の教師はもちろん、将来、保育者や教師をめざす学生にとっても、教育相談や生徒指導についての理論や実際についても学べる教育実践書である。
5. 『新しい視点からの教育社会学』【再掲】	単著（編著）	令和４年３月	大学教育出版	教員を目指す大学生を対象に、教育社会学のテキストとして企画・発刊された。 第１章: 教育社会学へのアプローチ　第２章: 教育社会学から見たカリキュラム　第３章: キャリア教育と教育機会　第４章: 現代社会における高等教育　第５章: 子どもの福祉と教育　第６章: 多様化する家族のあり方　第７章: いじめ問題への対応　第８章: 不登校問題への対応　第９章: 子どもとメディア利用　第10章: 教育社会学と特別支援教育　第11章: マイノリティとジェンダーをめぐる諸課題　第 12 章: 大学教育の今　第13章: これからの教育社会学　以上の13章立て。 Ａ５判　全頁数２５０ 編著者：住本克彦 執筆者：住本克彦、坂中尚哉、小泉令三 他２０名） 【本人担当部分】①(pp. 118-131 を単著)第７章「いじめ問題への対応」②(pp. 131-145 を単著)第８章「不登校問題への対応」③(pp. 243-252 を単著)第１３章「これからの教育社会学」の項目を執筆。いじめ問題、不登校問題の現状と課題、対処法、共生社会の実現に向けて、教育社会学に今後求められるものについて論述した。また、(pp. 167-179 を共著)第 10 章「教育社会学と特別支援教育」第２節「インクルーシブ教育が目指すもの」を担当し、理論と実際について詳述した

6. 『コンパス教育相談』【再掲】	単著（編著）	令和４年３月	建帛社	教員を目指す大学生を対象に、教育相談の理論と実践を解説したもの。 『コンパス教育相談』建帛社。令和 4 年 3 月。教育相談のテキストとして企画・発刊された。 第１章:教育相談の意義　第２章:カウンセリングの理論　第３章:子どもの発達と教育相談　第４章:教育相談におけるアセスメント　第 5 章:子どもの問題行動と教育相談－事例から考える－　第６章:開発的カウンセリング技法の活用　第７章:保護者支援と教育相談　第８章:校内システムと教育相談　第９章:医学と教育の連携　第 10 章:学校・園の危機対応－心の危機対応と安全教育－　第 11 章:教師のメンタルヘルス対策と教育相談　第 12 章:専門機関との連携と教育相談　以上の 12 章立て。Ａ５判　全頁数１４４ 巻頭言：桃山教育大学　梶田叡一　学長執筆 編著者：住本克彦 執筆者：住本克彦、新井　肇、小泉令三　他１１名） 【本人担当部分】①(pp. 1-7 を単著)第１章「教育相談の意義」②(pp. 33-40 を単著)第４章「教育相談におけるアセスメント」③(pp. 53-56 を単著)第６章「開発的カウンセリング技法の活用」第１節「構成的グループ・エンカウンターの活用」④(pp. 97-99 を単著）第 10 章「学校・園の危機対応」第１節「学校・園における「心の危機」対応の基本」の項目を執筆。「いのちの教育」と教育相談の関係、求められる教育相談を活かした生徒指導の展開、教育相談におけるアセスメントの理論と実際、心の危機対応と安全教育等について論述した。
7. 『教職ライブラリ　教職入門－教育学のエッセンスから学ぶ－』【再掲】	単著（編著）	令和５年３月	建帛社	教員を目指す大学生を対象に、教育相談の理論と実践を解説したもの。 『教職ライブラリ　教職入門－教育学のエッセンスから学ぶ－』建帛社。令和５年３月。教職入門のテキストとして企画・発刊された。 第１章：教育への基本的視座　第２章：日本教育史　第３章：西洋教育史　第４章：教員の身分と服務　第５章：教員の資質向上と研修　第６章：教育改革の現状　第７章：教員としての仕事と生きがい　第８章：学級経

				営・ホームルーム経営の基本　第 9 章：生徒指導の実際　第 10 章：教育実習，教育実習事前・事後指導，教職実践演習　第 11 章：教員採用試験について　第 12 章：教員のメンタルヘルス　以上の 12 章立て。Ａ５判 全頁数１３２ 巻頭言：兵庫教育大学　加治佐哲也　学長執筆 編著者：住本克彦 執筆者：住本克彦、門原眞佐子、野﨑洋司他１３名） 【本人担当部分】①(pp. 1−９を単著)第 1 章「教育への基本的視座」②(pp. 109−117 を単著)第 11 章「教員採用試験について」③(p. 10 を単著)コラム「令和の日本型学校教育」④(p. 30 を単著)　コラム「不登校児童瀬戸への支援」⑤(p. 82 を単著)コラム「開発的カウンセリング」⑥(p. 118 を単著)コラム「子どもの自殺予防」を執筆。教育とは何か、教職を目指すことの意味、教育の現代的課題、教員採用試験の内容と、それに臨む心構えや対策、現代の教育時事に関する重要語等について、最新のデータを基に論述した。
（学術論文） 8.「いじめ防止教育プログラム」の開発研Ｉ」―総合質問紙『i-check』を活用した「いじめ防止教育プログラム」― （査読有）	共著	平成 26 年 3 月	環太平洋大学研究紀要第 8 号	いじめ被害、加害の実態を把握する目的で実施した「いじめに関するアンケート」から、いじめ被害体験者は、小学校で約 54%いること。中学校で約 60%いること。高等学校で約 43%いることがわかった。小・中・高校でのいじめ被害の内容は、①「冷やかしやからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言う」　②「仲間外れ、集団による無視をする」などが上位を占め、いじめに関する相談については，「学級担任に相談」か、「誰にも相談していない」（相談しない理由上位 2 項目：どうせ解決しない。よりエスカレートするから。）が多い。また、「いじめをなくしたり，減らしたりするにはどうすればいいか。」の質問へは、アンケート実施やいじめ防止教育の実践等いじめの予防教育の期待が大きかった。 これらを踏まえ、「いじめ防止教育プログラム」として，①児童生徒の実態把握（標準化された質問紙実施と教職員の観察）②児童生徒の人間関係づくりを意識した道徳教育実践③さらに，これら①②を含めた教職員研修の教職員自身の道徳性の涵養の重要性が示唆さ

				れた。本人(住本)は、本研究の企画、構成、アンケート調査・分析プログラム検証　論文執筆を担当した。(pp.100-113　Ａ４判)（共著者：住本克彦、安田従生、中本忠彦、仁八潔、粟生山貴子、山﨑一志、入江多喜夫、浅田栄里子、松﨑和則、柴田仁）
9.小学生・中学生・高校生の「いのち」に対する意識の実態―「いのちの教育」に関する質問紙調査結果をとおして―（科学研究費助成事業・基盤研究（B）課題番号24330254研究課題名「いのちの教育カリキュラムモデルの開発的研究」(2012～2014)（査読有）	単著	平成26年11月	環太平洋大学研究紀要第9号	本研究は、科学研究費助成業･基盤研究（B）課題番号24330254研究課題名「いのちの教育カリキュラムモデルの開発的研究」(2012～2014)に基づき進めたものである。小学生・中学生・高校生の「いのちに対する意識の実態を把握する目的で，質問紙を作成し予備調査，本調査を実施した。その結果より教育現場で実践可能で，効果的な「いのちの教育」カリキュラム開発の要諦を明示した。①自分自身に良いところがあると実感できる子は，いのちの大切さを実感できる。②周りの人に支えられていると実感できる子は，いのちの大切さを実感できる③得意なことがあると思える子は，いのちの大切さを実感できる。④努力すれば報われると認識している子は，いのちの大切さを実感できる。⑤新しいことに挑戦し，自分の可能性を広げたいと考えられる子は，いのちの大切さを実感できる。(pp.10-19　Ａ４判)
10. 中学校新入生の内的作業モデルと中学校入学後の学校適応感との関係 The Relationship between the Internal Working Model and the Freshmen’sadjustment to the Junior High School ： A school psychological study（査読有）	共著	平成26年11月	2015年度　学校心理士会年報　第7号	本研究の目的は，中学校新入生の内的作業モデル（Internal Working Model：以下IWM）を測定する尺度を再構成しその特徴をとらえることと，IWMと中学校新入生の学校適応感や学校生活への適応との関係を検討することであった。IWMは内的作業モデル尺度（詫摩･戸田，1998）に５項目が追加された23項目によって，また，学校適応感は学校生活適応感尺度（浅川・尾﨑・古川，2003）によって測定された。 研究協力者は，中学１年生265名（男子143名，女子122名）で，調査は４月と６月の２回にわたり実施された。主な結果と考察は以下の通りである。(1)分散分析の結果，「安定性」タイプでは学校生活適応感尺度のすべての下位領域でＬ群よりもＨ群の得点が高く，「安定性」の特性にみられるポジティブな認知や行動の選択は，友人関係や自らの進路に

				対する意識の高さにつながっていた。(2)家族との関係」得点は４月では男子群より女子群の方が高かったが，６月ではその差はなくなっており，アンカーポイントは家族から友人や教師へと移っていることが示唆された。以上の点から，IWM のタイプと学校適応感との関係が明らかとなり，IWM の面から中学生に対する支援をとらえることの重要性が示唆された。本人(住本)は、本研究の企画、構成、論文執筆を担当した。(pp. 13-19)南　雅則・住本克彦・古川雅文・三木澄代
11. 「『いのち』を実感的にとらえる道徳教育の在り方に関する一考察（査読有）	単著	平成 28 年 3 月	環太平洋大学研究紀要第 10 号	自分とのかかわりで道徳的価値がとらえられることが大切である。そうでなければ、自分の命は大切にできても、他者の命は大切にできない。そのために、「『いのち』を実感的にとらえる道徳教育の在り方に考察した。
12. 特別支援教育の視点に立った中学校区の連携の在り方に関する一考察―保育所・幼稚園・小学校・中学校を 10 年間連携させた教育実践モデルの提案―（査読有）	共著	平成 28 年 3 月	環太平洋大学研究紀要第 10 号	保・幼・小・中学校 10 年間の子どもたちの情報共有と個別支援の在り方を正しく理解し、一人一人の教育的ニーズに応じた適切な支援をすれば、子どもたちは様々な関わりを通して安心して園・学校生活を送り自己実現を図れるであろうとする仮説は立証された。特に、仮説具現化のための研究視点である①「つなげる」視点：特別支援教育の共通理解・情報共有・支援接続の強化・連携組織作り　②「かかわる」視点：園児・自動・生徒・教職員の体験交流事業の充実　以上二つの視点で、仮説を立証できた。(pp.107-116 Ａ４判)　（共著者：住本克彦、田村仁志）
13. 大学におけるアクティブ・ラーニングを取り入れた授業展開への試み－『保育原理』の授業実践を通して進める「主体的・対話的で深い学び」－（査読有）	単著	平成 28 年 3 月	新見公立大学紀要第 37 巻	本研究では，アクティブ・ラーニングに関するエキスパート（「ＳＧＥ<Structured GroupEncounter>公認リーダー」）による「アクティブ・ラーニングを取り入れた授業」の準備・展開・事後指導の実践内容，特に学生の授業後の感想の分析から，その授業モデルを提案した。当該授業の受講者の感想を分析することで，①グループワークが苦手な学生への支援の在り方，②主体的能動的学習を充実させる学習環境の整備（一層のＩＣＴ活用の充実等），③教職員の研修参加による教育実践力向上，④学級経営と主体的能動

				的学習の推進との関連性の研究，⑤体制づくり等の課題が確認された。(pp. 7-13　Ａ４判)
14. 生徒指導・教育相談における“S-７step 法”活用の有効性の検討－（査読有）	単著	平成 29 年 12 月	新見公立大学紀要第 38 巻	本稿では，アクティブ・ラーニングに関するエキスパートが講師を務めた『大学における学習過程の質的改善への手立て探る－アクティブ・ラーニングの導入で主体的・対話的で深い学びの実現をめざして』－の参加者の研修後のアンケート調査（自由記述）結果の分析から，“S-７step 法”の活用の有効性を検討した。その結果、以下の点での効果・可能性が確認された。①参加者間の親和度を高めるのに有効であること　②参加者、それぞれの立場の壁を越えた活発な議論が可能であったこと　③講師（リーダー）と研修参加者が双方向で研修を進められたこと　④今後の方向性（実践・手立て）が明確化したこと　⑥個人の発言機会が増えたこと　⑦多面的な視点にふれることができたこと　⑧新しい教育プログラムを、体験を通して学べたこと　⑨日頃の自他の実践を振り返る良い機会となったこと　⑩本プログラムの活用可能性を実感したこと等、ほぼ全ての点で“S-７step 法”の事例検討会等への活用の可能性が確認された。(pp. 65-70　Ａ４判)
15. 生徒指導・教育相談における実践課題に関する一考察－『保・幼・小連携』に焦点を合わせて－（査読有）	単著	平成 30 年 2 月	新見公立大学紀要第 38 巻第 2 号	教育現場，特に生徒指導・教育相談の領域において，『保・幼・小連携』による「小１プロブレム」解消が喫緊の課題の一つに挙げられている。本稿では，この「小１プロブレム」解消について検討した。さらに，「小１プロブレム」の有無にかかわらず，児童の安心感を醸成するためにも有効で，文部科学省も「幼稚園・保育所・認定こども園の教育課程と小学校教育課程との関係を明確にし，それを踏まえた教育方法を実践する必要がある。」（「幼児期の教育と小学校教育の接続について」）とする，「保幼小連携プログラム」のポイントに焦点を当て検討した。特にこの点では筆者が講師として，当該テーマで研究・研修を進めた「Ａ市小学校校長会議」

				での実践内容を基に考察を加えた。その結果，10 項目の申し送り表の活用等の重要性が示唆された。（pp. 71-76　Ａ４判）
16. 『保育原理』『教育原理』で，「急激に変化する社会を『生き抜く力』の育成」をどう教えるか－「第 3 期教育振興基本計画の策定に向けた基本的な考え方」を基本視座にして－（査読有）	単著	平成 30 年 2 月	新見公立大学紀要 第 38 巻第 2 号	文部科学省は，「第 3 期教育振興基本計画の策定に向けた基本的な考え方」（2017）において，2030 年以降の社会の変化を見据えた課題解決に向けた教育政策の基本的な方針を示している。言うまでもなく，保育・教育の施策の現況と課題について取り扱う大学教職課程科目は『保育原理』『教育原理』である。本稿では，「第 3 期教育振興基本計画の策定に向けた基本的な考え方」を基本視座に，大学教職課程『保育原理』『教育原理』で，「急激に変化する社会を『生き抜く力』の育成」（「第 3 期教育振興基本計画の策定に向けた基本的な考え方」における中核目標）をどう教えるかについて概観した。
17. いじめ問題にどう立ち向かうか（岡山県教育委員会　教育時報　巻頭論文）	単著	平成 30 年 3 月	岡山県教育委員会 教育時報　巻頭論文 平成 30 年 4 月号	いじめ防止教育プログラム実践の際の留意点等、教育現場における具体的実践方法について（①いじめ問題に立ち向かう学級・学校づくりのポイント　②「いじめ防止教育プログラム」実践時の留意点　③開発的カウンセリング技法の活用による「いじめ防止教育プログラム」の実際）詳述した。岡山県全県小・中・高・特別支援学校等　学校園関係施設に配布された。（pp. 4-7　Ａ４判） （2018. 3. 発刊）
18. 今，なぜ「学校カウンセリング」かⅠ－「教育相談」を活かした「生徒指導」の展開を-	単著	平成 30 年 3 月	平成 29 年度　研究紀要（新見公立短期大学）	問題行動が低年齢化、多様化、複雑化する中、開発的カウンセリング技法の実践による教育効果について強調し、その具体的実践方法についても詳述した。特に、構成的グループ・エンカウンターについては、住本は、公認リーダーの資格を有しており、國分エンカウンターのけ継承者として、その理念にまで触れている。Ａ４判全頁 p. 34 編集・執筆担当。（2018. 3. 発刊）

19. 体験活動を通した「『生き抜く力』育成教育プログラム」開発に関する一考察－「にいみ塩から子育成事業」での実践をとおして－ （査読有）	共著	平成 30 年 12 月	新見公立大学紀要 第 39 巻	文部科学省（2017)は，「第 3 期教育振興基本計画の策定に向けた基本的な考え方」において，2030 年以降の社会の変化を見据えた課題解決に向けた教育政策の基本的な方針を示している。そこでの目指すものとして「社会を生き抜く力の養成－多様で変化の激しい社会の中で個人の自立と協働を図るための主体的･能動的な力－」を育むこととしている。本稿では，新見市が主催する体験活動を中核に据え，たくましく生き抜く力を育成することを目的とする「にいみ塩から子育成事業」の成果と課題から，「急激に変化する社会を『生き抜く力』の育成」(「第 3 期教育振興基本計画の策定に向けた基本的な考え方」における中核目標）教育プログラム開発の方途を探った。（pp. 71-78　Ａ４判）（共著者：住本克彦、城井田二郎、竹元　渉）
20. 「命の教育」の一環としての「いじめ防止教育プログラム」開発に関する一考察－文部科学省のいじめ防止対策事業を踏まえて－（査読有）	単著	平成 30 年 12 月	新見公立大学紀要 第 39 巻	2013 年，「いじめ防止対策推進法」が制定･施行された。これをもって，各学校において「学校いじめ防止基本方針」を制定することが義務付けられた。その後 5 年が経過したが，今なお，いじめ問題は教育現場において大きな課題の一つである。本稿においては，文部科学省のいじめ防止対策の現況を概観し，「命の教育」の一環としての「いじめ防止教育プログラム」開発こそ，いじめ防止対策の中核に据えることが重要であることの方途を示したい。(pp. 79-84　Ａ４判)
21. 今，なぜ「学校カウンセリング」かⅡ-「教育相談」を活かした「生徒指導」の一層の展開を-	単著	平成 30 年 3 月	平成 30 年度　研究紀要（新見公立大学）	第 1 章：生徒指導と教育相談の関係　　第 2 章：求められる予防的・開発的な教育活動　　第 3 章：開発的カウンセリング技法の活用　　第 4 章：今後の学校カウンセリング実践のために　の構成から成り、問題行動が低年齢化、多様化、複雑化する昨今、開発的カウンセリング技法（構成的グループ・エンカウンター）の実践による教育効果について強調し、その具体的実践方法や留意点についても詳述した。 Ａ４判全頁 p. 32 編集・執筆担当。(2019. 3. 発刊)

22.『折れない心』の育成についての一考察－「いのちの教育」「心の教育」の視点から－（査読有）	単著	令和２年３月	新見公立大学紀要第 40 巻	住本は，公立学校教諭，県教育委員会指導主事，大学教員を歴任する中で，長く（42 年間）生徒指導，教育相談にかかわってきた。その間に「いのちの教育」や「心の教育」に関する研究も重ねてきた。そんな中で，『折れない心』の育成には，いくつかの要素が大きく影響していると実感しており，　Ａ県内県立高等学校教育相談担当者部会，Ｂ市内公立学校養護教諭研究部会の協力を得て，次の 10 項目に集約することができた。①揺るぎない自信を持たせること。　②揺るぎない自信を持っている人をイメージさせること。③勝ち負けにこだわり過ぎないようにさせること。　④プラス思考で物事をとらえることができるようにさせること。　⑤今の自分が好き（自尊感情）であると実感させること。　⑥感情のコントロールができるようにさせること。　⑦受け止めてくれる人を持つようにさせること。　⑧中立を保たせ，自己防衛ができるようにさせること。　⑨完璧を目指し過ぎないようにさせること。　⑩好きなこと（趣味）・没頭できるものを持たせること。（pp. 79-84　Ａ４判）
23. 保育現場における人型ロボットの活用可能性に関する研究（査読有）	共著	令和２年３月	新見公立大学紀要第 40 巻	保育現場での課題（保育士多忙化の解消）に対し，人型ロボット（ロボット型携帯電話）の活用による当該課題解消への可能性を探ることを目的に，幼稚園・認定こども園の管理職への半構造化面接を実施〈10 園・園長：保育現場における人型ロボット（ロボット型携帯電話）の活用可能性について〉し，その内容を整理・検討したところ，保育現場における人型ロボット（ロボット型携帯電話）の活用可能性として，以下の 10 点が確認された。①挨拶指導（顔認証機能による登園・降園管理）　②緊急対応の連絡　③行事の説明（「七夕の由来」，「餅つきの由来」等）　④窒息防止の機能（午睡時等の心拍数の把握）⑤園児の写真撮影（カメラ搭載・動画録画）⑥「園便り」メール配信　⑦園児との遊び（ダンス・歌・クイズ・絵本の読み聞かせ）⑧健康指導：歯磨き指導・検温等　⑨コミュニケーションツールとしての話し相手　⑩保

				育に生かせるアプリによる機能の拡大期待（pp. 71-78　Ａ４判）（共著者：住本克彦、加藤由美、金山時恵、岡　京子）
24. 進路指導の理論と実際－『生徒指導』との関連を中心にして－	単著	令和２年３月	平成元年度研究紀要第３号（新見公立大学）	本論文では、法律から見た進路指導とは　②進路指導の変遷　③進路指導とキャリア教育（ア：キャリア教育とは　イ：キャリア教育の意義　ウ：キャリア教育の理論）④キャリア教育の実際（生徒指導との関連を中心に）　⑤在り方生き方を問う進路指導の展開を　の内容で、人としての在り方・生き方をベースとして子どもに向き合う生徒指導、進路指導の在り方について明示した。(pp. 3-8)（Ａ４判　全頁数２６）
25. 道徳教育の現況と課題に関する一考察－『特別の教科　道徳』で『考え、議論する道徳』をどう進めるか－」	単著	令和２年３月	平成元年度研究紀要第３号（新見公立大学）	本論文では、①『特別の教科　道徳』でめざすもの　②問題解決型の道徳授業　③『考え、議論する道徳授業』の進め方　の内容で、『特別の教科　道徳』で『考え、議論する道徳』をどう進めるかについて、開発的カウンセリング技法の活用を提唱した。(pp. 8-13)（Ａ４判　全頁数２６）
26. 共生社会の実現のためのインクルーシブ教育システム構築をめざして－新見市における取組を中心にして－	共著	令和２年３月	平成元年度研究紀要第３号（新見公立大学）	本論文では、①『特別の教科　道徳』でめざすもの　②問題解決型の道徳授業　③『考え、議論する道徳授業』の進め方　の内容で、新見市における取組を中心に、共生社会の実現のためのインクルーシブ教育システム構築について検討した。住本克彦・城井田二郎・光島由忠（pp. 14-25）（Ａ４判　全頁数２６）
27. 「いじめ防止・対応教職員研修プログラム」の開発に関する一考察－学校法人奈良学園での実践を通して－	単著	令和２年12月	奈良学園大学紀要第13集	「いじめ防止・対応教職員研修プログラム」を実践し、研修会終了後、聞き取り調査を実施した（対象：高校３校190名・中学２校190名・小学校１校47名・幼稚園２園39名：計361名)。その結果、①「いのちの教育」からの教育実践　②開発的カウンセリング技法　③教師の観察力・感性向上と総合質問紙調査（アイチェックなど）等の活用　④チーム支援・関係機関との連携　⑤情報モラル教育・保護者との連携　⑥いじめ対応研修会や事例研修会等の定期的実施　等が要素で

				ある点がその有効性として確認された。 (pp. 157-175　Ａ４判)
28.「幼児期における〔自尊感情〕育成の方途を探る－子どもや保護者の心に寄り添った保育・教育実践のために－」	単著	令和３年３月	2019 年度・2020 年度明石市教育委員会指定・幼稚園研究実践研究報告書・奈良学園大学研究紀要別冊	2 年間の研究の総括として、幼児期における「自尊感情」育成のポイントとして、①「臨床の視点」「脳科学の視点」を持つことの大切さ　②保護者との連携を図ることの大切さ　①　認めるタイミングを逃さないこと　④「チーム学校」組織対応の大切さ　⑤エビデンス・ベースド・エデュケーション実践の大切さ　⑥「個」と「集団」の成長を共に進めること　⑦保育者・教育者自身の資質を伸ばすこと　⑧「4 歳の壁」を理解すること　⑨研究としての継続・広がりを考えること　⑩追跡調査を継続すること等が確認された。 (pp. 56-61　Ａ４判)
29.「幼児教育に求められる人間関係に関する一考察－保育における基本と領域『人間関係』との関連に注目して－」	共著	令和３年３月	令和２年度 研究紀要 第１巻（奈良学園大学）	保育における指導の中核にある『人間関係』領域において、子ども同士の人と関わる力、その他様々な人と関わる力形成の大きな要素として、教師と子どもの『人間関係』が大きく影響していることについて論述し、教師が、子ども達の『人間関係』を支え、広げ深める手立てとしても、家庭支援や子育て支援、さらには地域支援も視野に入れた取組が重要である事を示唆した。(pp. 3-6　Ａ４判) ※科学研究費助成事業･基盤研究（C）課題番号 18K03163 研究課題名「人間関係力を育む保育者養成教育のあり方に関する実践的研究」研究代表者：加藤由美　研究分担者：住本克彦　他
30.「『ネット上のいじめ』対策についての一考察Ⅱ－『正しい情報メディアの使い方』をどう教えるか－」	単著	令和３年３月	令和２年度 研究紀要 第１巻（奈良学園大学）	「ネット上のいじめ」の定義、「ネット上のいじめ」の事例と対策（小・中・高等学校の各事例と対策)、「ネット上のいじめ」対応の一層の充実のための方策（情報モラル教育の推進等）等の構成で、「ネット上のいじめ」対策のポイントを明示した。(pp.7-16　Ａ４判)
31.「心理検査活用リーダー研修プログラムの開発の試みⅡ－県立学校教職員対象心理検	単著	令和３年３月	令和２年度 研究紀要 第１巻（奈良学園大学）	2019 年度より継続の研究実践報告である。その構成は、①アイテェックのコンセプトについて　②カテゴリー構成とここの質問内容について　③結果帳票の種類とその見方につ

査活用リーダー研修講座（『i-check』の活用」実施を踏まえてー」				いて　④実際の分析例　個の 4 点である。実施後の質問紙調査（4 件法）の結果受講者全てが満足しており、自由記述では「学年団や生徒指導部会、教育相談部会等での検討する際の共通の資料になる」「生徒や保護者の話す際のエビデンスになる」等の当該検査の有効性等が報告された。(pp. 17-23　A４判)
32. 心理検査活用リーダー研修プログラムの開発－A県教育委員会主催研修講座「『i-check』の活用について」実施を踏まえてー	単著	令和 3 年 12 月	奈良学園大学紀要第 14 集	筆者が、A県・県立学校人権教育サポート事業として、講師を務めた際（「心理検査活用リーダー研修プログラム」:【プログラム構成】①i-check のコンセプトについて　②カテゴリー構成と個々の質問について　③結果帳票の種類とその見方について　④実際の分析例　【主催】A 県教育委員会　【事業名】20XX 年度心理検査活用リーダー研修講座【テーマ】『i-check』の活用についてー『i-check』の活用のポイントと具体的な手立てについてー）に、参加者への聞き取り調査後、以下の点が示唆された。⑴教師の観察だけではなく、心理検査の必要性を実感した（心理検査の活用が不可欠）。　⑵クラスの実態把握（学級経営）に有効　⑶学級の成員個々の実態が把握でき個人指導に活用できる。　⑷各「学校」「科」の実情に合った研修会（研修内容）実施を望む（専門家・講師の招聘）　⑸心理検査『i-check』の特徴・見方が理解できた（研修内容を具体的に提示、事例提示、双方向型、専門的視点からの手立ての提案等）　⑹生徒一人一人を多面的に理解することの大切さ　等。(pp. 221-233 A４判)
33. 「人権教育とパワーハラスメントー大学におけるハラスメント防止プログラムの提案ー」	単著	令和 4 年 3 月	令和３年度　研究紀要　第２巻（奈良学園大学）	①「パワーハラスメント」の定義　②「パワーハラスメント」の 6 類型　③企業に課せられる義務　④「人権」と「人権教育」（文部科学省）　⑤人権の擁護（法務省）　⑥いじめ問題（法務省）　⑦大学におけるハラスメント相談窓口設置事例　等の構成で、大学におけるハラスメント防止プログラムのポイントを明示した。（株）二鶴堂 2021(pp. 3-10 A４判)

34.「『コロナいじめ防止教育プログラム』について」	単著	令和４年３月	令和３年度　研究紀要　第２巻（奈良学園大学）	①日本赤十字社「新型コロナウイルスの３つの顔を知ろう！～負のスパイラルを断ち切るために～」について　②中学生版教育プログラム「新型コロナウイルスと向き合うために」等の構成で、『コロナいじめ防止教育プログラム』のポイントを明示した。（株）二鶴堂 2021(pp. 11-15　Ａ４判)
35.「いじめ調査報告書から考えるいじめ防止教育プログラム開発の可能性」	単著	令和４年３月	令和３年度　研究紀要　第２巻（奈良学園大学）	①「調査報告書」作成における留意点　②「調査報告書」（講評概要版）の内容　※提言（再発防止に向けて）　等の構成で、いじめ防止教育プログラム開発の可能性について論述した。（株）二鶴堂 2021(pp. 16-31　Ａ４判)
36.「いじめ防止・対応等、教職員研修プログラム」の開発に関する研究Ⅰ－『学校法人奈良学園』における『教育相談活動（生徒指導含む）』のネットワーク強化－	共著	令和５年３月	奈良学園大学紀要第15集	本研究は、2022 年度 学校法人奈良学園採択の共同研究の経過報告である。本研究では、「いじめ対応研修会や事例研修会等の研修会」を奈良学園全体で複数回実施した（各学校園の生徒指導、教育相談等の担当者各１名参加）。毎回⑴生徒指導、教育相談に関する事例報告・検討　⑵最新の「教育相談」テキストを活用した研修と、そこでの参加者の研修の振り返りを基に、カウンセラー有資格者複数名が、半構造化面接を実施し、ＫＪ法によって、その内容を整理、分析し、「いじめ防止・対応等、教職員研修プログラム」開発に資するものである。本稿ではその第１回研修会実施結果から得られた知見を報告した。そこでは、⑴【事例報告・検討】成功事例に学ぶ事例検討会の有効性（危機管理体制の充実による効果）　⑵【テキスト研修】教育実践（生徒指導・教育相談）する際に、裏付けとなる理論等をベースとすることの有効性⑶開発的カウンセリング技法の研修の必要性⑷同一学園内で同様の分掌担当者が定期的に意見交流することの有効性　⑸研修会に専門家が入ることの有効性等が確認された。【執筆者】住本克彦・高橋千香子・中山 健・橋本宗隆・池田大輔・益田美保・三笘康之・山田百代　(pp. 119-200　Ａ４判)
37.「いじめ防止・対応等、教職員研修プログラム」の開発に関する研究Ⅱ－『学校法人奈良学園』における『教育相談活動（生徒指導含む）』のネットワーク強化－	共著	令和５年 12 月 27 日	奈良学園大学紀要第16集	本研究は、2022 年度 学校法人奈良学園採択の共同研究の経過報告 part2 である。本研究では、「いじめ対応研修会や事例研修会等の研修会」を奈良学園全体で複数回実施した（各学校園の生徒指導、教育相談等の担当者各 1 名参加）。毎回⑴生徒指導、教育相談に関する事例報告・検討　⑵最新の「教育相談」テキストを活用した研修と、そこでの参加者の研修の振り返りを基に、カウンセラー

				有資格者複数名が、半構造化面接を実施し、ＫＪ法によって、その内容を整理、分析し、「いじめ防止・対応等、教職員研修プログラム」開発に資するものである。本稿ではその研修会実施結果から得られた知見を報告した。成果としては、⑴同一学園内でのネットワークづくり・強化の重要性　⑵同一学園内でのネットワークづくり・強化の有効性　⑶研修会に専門家が入り、助言等がもらえることの有効性　⑷成功事例に学ぶ事例検討会の有効性　⑸教育実践（生徒指導・教育相談）する際に、裏付けとなる理論（理論に基づくスキル含む）等をベースとすることの有効性⑹開発的カウンセリング技法の研修実施の必要性等が確認された。【執筆者】住本克彦・高橋千香子・中山 健・橋本宗隆・池田大輔・益田美保・三笘康之・山田百代　(pp. 165-174　Ａ４判)
（その他） 「辞典、事典、ハンドブック」				
（その他） 「調査研究報告書」 1. 平成 25 年度（第 3 年次）文部科学省指定研究開発社会人基礎力育成プログラム開発Ⅲ―１・２・３年次「社会人基礎Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の取組―	共著	平成 26 年 3 月	友野印刷（株）：兵庫県教育委員会・兵庫県立上郡高等学校 環太平洋大学　住本克彦	『３年間の研究開発（文部科学省指定研究開発「社会人基礎力育成プログラム開発：高校生に自立と共生の能力を兼ね備えた社会人の基礎を培うための教育課程開発に関する研究」）から見えてきたもの』を執筆。本研究は、高校生に自立と共生の能力を兼ね備えた社会人の基礎を培うことを目標に、実践研究を進めてきた。1 年生で「アサーション・トレーニング」、2 年生で「インターンシップ」、3 年生で「すーく上高」を中心にプログラム開発をした。効果測定としては、Q-U（河村）、「アイチェック」（梶田・住本）、自尊感情尺度、規範意識調査等を活用し、1 年生：「自己理解・自己管理能力」、2 年生：「キャリアプランニング能力」、3 年生「課題対応能力」に焦点化し、「心理教育」や「道徳教育」等を適切に配置し、包括的なプログラムを開発し、その結果は報告書として文部科学省へも報告した。 本人担当部分は報告書の編集と本研究のまとめである。(pp114～115 を単著)（Ａ４判

				全頁数１１５，編著者：兵庫県教育委員会兵庫県立上郡高等学校・環太平洋大学　住本克彦　　執筆者：住本克彦、兵庫県教育委員会・兵庫県立上郡高等学校）
2.子どもたちが輝くクラスづくりのためのアイチェック実践事例集Ⅱ（小・中学校判　）	共著	平成 26 年 5 月	東京書籍株式会社	「『質問紙調査』『カウンセリング技法』を活用した学級経営を―アイチェックを活用した学級づくりの事例集である。 本人担当部分は子ども達の生きる力を高める―」のテーマで、実践した小・中学校の１０事例の編集である。そして「アイチェックを活用した学級づくり」の進め方について巻頭言として執筆した。(p.1)（Ａ４判　全頁数３８，執筆者：住本克彦、他６名）
3.「いのちの教育」カリキュラム開発への取組―小・中・高校生を対象にした「いのちの教育」に関する質問紙調査結果をとおして― 科学研究費助成事業･基盤研究（B）課題番号 24330254	単著	平成 27 年 1 月	科学研究費助成事業･基盤研究（B）課題番号 24330254 研究課題名「いのちの教育カリキュラムモデルの開発的研究」研究成果報告書『いのちの教育カリキュラムモデルの開発と実践』	本研究は，小学生・中学生・高校生の「いのち」に対する意識の実態を把握する目的で、「いのちの教育」に関する質問紙を作成し、予備調査、本調査を実施した結果を踏まえた提言（「小学生・中学生・高校生の『いのち』に対する意識の実態―『いのちの教育』に関する質問紙調査結果をとおして―」住本,2014；The actual situation of the consciousness for the life with an elementary and junior and senior high school students as a target, through questionnaire survey in relation to “Education of the life”, 環太平洋大学研究紀要 No.9）と，先進校聞き取り調査から得られた効果的実践例を基に作成した『いのちの教育』のカリキュラム（2014，住本克彦，五百住満，三木澄代，瀧明知恵子，原実男，岡山心理学会第 62 回大会論文集）の両稿に加筆したものである。
4.「いのちの教育」カリキュラムモデル の開発的研究 ―小・中・高校生を対象にした「いのちの教育」に関する質問紙調査結果をとおして― 科学研究費助成事業･基盤研究（B）課題番号 24330254	共著	平成 27 年 2 月	平成 24 年度～平成 26 年度科学研究費補助金(基盤研究(B))課題番号 24330254 「いのちの教育カリキュラムモデルの開発的研究」研究成果報告書 別冊	本研究は，科学研究費助成事業･基盤研究（B）課題番号 24330254 研究課題名「いのちの教育カリキュラムモデルの開発的研究」(研究代表者：梶田叡一)に基づき進めたものであり，本稿は，小学生・中学生・高校生の「いのち」に対する意識の実態を把握する目的で、「いのちの教育」に関する質問紙を作成し、予備調査、本調査を実施した結果を踏まえた提言（「小学生・中学生・高校生の

				『いのち』に対する意識の実態―『いのちの教育』に関する質問紙調査結果をとおして―」住本,2014 と，先進校聞き取り調査から得られた効果的実践例を基に作成した『いのちの教育』のカリキュラム（2014，住本，五百住，三木，瀧明，原，岡山心理学会第 62 回大会論文集），さらに道徳をはじめとする各教科における「いのちの教育カリキュラム開発への取組」（2015，梶田叡一 いのちの教育カリキュラムモデルの開発と実践）の原稿に加筆したものである。「ヒヤリハットマップづくり」や「いじめ防止」のためのロールプレイなど、いのちの教育：カリキュラムⅡ（自他のいのちを守る）<小学校低学年>～<高等学校>の具体的実践例を明示した。本人担当部分は第 1 部：「いのちの教育」カリキュラムモデルの開発的研究―小・中・高校生を対象にした「いのちの教育」に関する質問紙調査結果をとおして―住本克彦（pp.3-25），第 2 部：資料編「心に関するアンケート」調査結果　住本克彦（pp.27-40）。本人(住本)は、本別冊の企画、構成、編集　論文執筆（カリキュラム開発）を担当した。（pp.27-40）（Ａ４判　全 40 頁）
5. 公益財団法人　私立大学通信教育協会「平成 26 年度　大学通信教育職員研修会報告書」	共著	平成 26 年度	公益財団法人　私立大学通信教育協会 平成 26 年度運営委員会	平成 26 年度　大学通信教育職員研修会に参加し、報告書をまとめた。 本人担当は、本研修会役員として、研修会の企画、報告書の編集　執筆である。第２グループの「運営委員」として、テーマ「授業・試験並びに成績」を中心にして、日本大学、慶應義塾大学、東洋大学、帝京平成大学、東京未来大学、神戸親和大学はじめ、計 12 大学の企画・運営・進行・助言・報告書を作成した。特に住本は、専門領域から、クレームの対応事例への助言において、参加者から「大変参考になった」各委員からも高評価を得、レポート・試験、スクーリング、インターネット授業、成績票・試験答案等の運用管理方法などの領域で、報告書にまとめた。（pp. 39-42）（Ａ４判　全頁数５８，共著者：住本克彦、梶　一夫、計１２名）

6.高陽中ブロック授業研究『自己肯定感の育成をもとに学力向上を図る効果的取組』Ⅰ―児童・生徒に「役割」「期待」「承認」を―	共著	平成 27 年 3 月	友野印刷（株）：赤磐市教育委員会環太平洋大学　住本克彦	赤磐市教育委員会との共同研究で、自己肯定感を高めれば、学力は向上する、という仮説を検証している。2 年目の報告書である。 本人担当は、本報告書の編著者で、「『自己肯定感の育成をもとに学力向上を図る効果的取組』その教育効果の検証」、「『自己肯定感の育成をもとに学力向上を図る効果的取組』その成果と課題」を執筆。 研究テーマは，『自己肯定感の育成をもとに学力向上を図る効果的取組―児童・生徒に「役割」「期待」「承認」を―』で，自己肯定感を基盤にして「学ぶ意欲」を高めていけば，児童・生徒に「確かな学力」が身に付くと考え，本研究主題を設定し，研究を進めていった。(pp11～12)（Ａ４判　全頁数１２，編著：岡山県赤磐市教育委員会・環太平洋大学　住本克彦　　執筆者：住本克彦、赤磐市教育委員会）
7.「2016 年度新見公立大学学長配分研究費採択研究報告書」幼児教育における『いのちの教育』カリキュラムモデルの開発的研究－N 市における幼児教育の実態を踏まえて－	共著	平成 29 年 3 月	二鶴堂：住本克彦	本研究では，「いのちの教育」実践園を調査した結果を参考にして，教育現場で実践可能で効果的な「いのちの教育」カリキュラム開発の要諦を提案した。研究１では、「いのちの教育」の領域が以下の７点あることが確認された。①動植物飼育・栽培活動の直接体験活動の実践（兎飼育・一人一鉢栽培　等）。②防災教育（避難訓練・災害時の引き渡し訓練・保護者との連携　等）。③自己肯定感の育成（称揚・成功体験　等）。④被害に遭わない・いのちを守る指導（交通安全指導　等）。⑤人権教育の推進（思いやり・共感性の育成　等）。⑥絵本の活用（「いのち」にかかわる絵本の読み聞かせ　等）。⑦食育（感謝の気持ちの育成　等）。研究 2 では、先進校視察により、①小学校低学年：自然を活かした「いのちの教育」の実践活動　②小学校中学年：小高連携による梨栽培の実践活動　③小学校高学年：赤ちゃんとの交流等を通した「いのちの教育」の実践活動　等の実践の効果を確認できた。（Ａ４判　全頁数 23，編著：住本克彦　　執筆者：住本克彦・斎藤健司・加藤由美）

8.「総合質問紙調査『i-check』（アイチェック）ハンドブックⅢ」	監修・編著	令和３年３月	東京書籍株式会社	「総合質問紙調査『i-check』（アイチェック）の改訂版（小・中・高等学校各版）を発刊した。それに伴い、ハンドブックも改訂し、巻頭言を執筆し、当該検査の学級経営への活かし方のポイント等を示した。(p.1　Ａ４判)
9. 「今後の不登校支援のあり方に関する検討委員会 意見のまとめ（報告書）」	編著	令和５年１月	神戸市教育委員会	「不登校児童生徒への支援の現状と課題を検証し、不登校児童生徒への支援の改善充実を図る観点から、今後の不登校対策の総合的かつ体系的な支援のあり方について検討するため、今後の 不登校支援のあり方に関する検討委員会を開催」(「今後の不登校支援のあり方に関する検討委員 会開催要綱」第 1 条（趣旨）令和４年７月７日付 神戸市教育長決定）することとなった。本検討委員会では、各委員がそれぞれの立場から、⑴「登校しやすい環境整備と不登校の早期支援」、⑵「不登校児童生徒への支援の充実」、⑶「保護者サポ ート及び民間施設等との連携推進」の３点を中心に検討を重ね、令和５年1月当該委員会「委員長」の立場で、報告書をまとめ〔「委員長総括」(p13）執筆（Ａ４判　全21頁)〕、当該報告書は、手交式にて、住本より神戸市教育長へ手交された（2023.1.25　神戸市教育委員会）本報告書において、特筆すべきは、不登校の 経験者やその保護者、また、不登校に関する親の会の運営に携わる方々を臨時委員として、検討委員会でヒアリングを行ったこと。さらには、先進事例として、広島県及び横浜市の教育支援セ ンター、岐阜市及び香川県三豊市の不登校特例校をそれぞれ訪問し、その取組を踏まえて議論を進めてきたことであり、このように当委員会では、何より不登校の経験者や保護者を基軸にし、不登校児童生徒に対する支援の目標である「社会的自立」の視点から好転に結びつけている実践事例を踏まえながら 議論し、その内容を、本報告（意見のまとめ）としてまとめたことが今後の不登校支援の大きな指針となった。

（その他）「口頭・ポスター発表」 1. 研究発表（発表番号22)「小･中･高等学校意識調査結果を踏まえた『いのちの教育』のカリキュラム開発への取組 科学研究費女性事業･基盤研究（B）課題番号24330254	共著	平成26年12月	岡山心理学会第６２回大会論文集	本研究は、科学研究費助成事業･基盤研究（B）課題番号24330254研究課題名「いのちの教育カリキュラムモデルの開発的研究」(研究代表者：梶田叡一)に基づき進めた。小学生・中学生・高校生の「いのちに対する意識の実態を把握する目的で、「いのちの教育」に関する質問紙を作成し、予備調査、本調査を実施（環太平洋大学研究紀要 No. 9「小学生・中学生・高校生の『いのち』に対する意識の実態―『いのちの教育』に関する質問紙調査結果をとおして―」住本，2014；The actual situation of the consciousness for the life with an elementary and junior and senior high school students as a target,through questionnaire survey in relation to“Education of the life”sumimoto,2014)。その結果と先進校聞き取り調査から得られた提言を基に作成した『いのちの教育』の道徳を中心とした各教科のカリキュラムを提案した。(p. 12) （共著者：住本克彦、五百住　満、三木澄代、瀧明知恵子、原　実男）
2. 研究発表（発表番号26)「小学校社会科教育におけるキャリア教育についての一考察Ⅰ」	共著	平成26年12月	岡山心理学会第６２回大会論文集	小学校社会科における主要目標である公民的資質の育成と、キャリア教育の重要な目標の、いずれにおいても、「社会」にいかに関わることができるかということが根底にある。すなわち、社会科の教育目標もキャリア教育の目標も「社会」をキーワードし、社会といかに関わり、その形成に参画していくかという社会形成能力の育成が共通の目標の一つと言える。このように考えると、社会科教育の役割は、キャリア教育にも重要な役割を果たして言える。本研究では、小学校社会科教育におけるキャリア教育の位置付けについて検討した。(p. 14) （共著者：八木達也、住本克彦）
3. 日本カウンセリング学会大会準備委員会企画シンポジウム（１）	共著	平成27年8月	日本カウンセリング学会第４８回大会論文集	「いじめ・自殺と向き合うカウンセリング」のテーマで、いじめ防止や自殺予防について、子どもたちとの心と向き合うカウンセリングや学校教育に何が求められているのかを探るため本シンポジウムを企画した。不登校支援のポイント、子どもの自尊感情を高めるヒント、教師が学級づくりで気をつけるべき

				ポイント、道徳での自殺予防の指導ポイント、学校教育での自殺予防教育の実践例等が提案された。本人（住本）は、企画と司会、執筆を務めた（p. 27）（共著者：新井肇、住本克彦、相馬誠一、伊藤美奈子、秋光恵子、阪中順子）
4. 保育現場における人型ロボット『Pepper』の活用可能性に関する一考察	単著	平成 28 年 12 月	岡山心理学会第 64 回大会論文集	人型ロボットの性能や、保育・教育の特性との関連性を鑑み、その保育・教育現場での今後の活用可能性について検討した。（p. 11）
5. 幼児教育における『いのちの教育』の課題に関する研究－A 市における幼児教育の実態を踏まえて－	共著	平成 28 年 12 月	岡山心理学会第 64 回大会論文集	本研究では，「いのちの教育」実践園を調査した結果を参考にして，「いのちの教育」の課題として、①動植物飼育・栽培活動の直接体験活動の実践　②防災教育　③自己肯定感の育成（称揚・成功体験　等）。　④被害に遭わない・いのちを守る指導　⑤人権教育の推進　⑥絵本の活用　⑦食育　以上が確認できた。（p. 14） （共著者：西岡日向・光成汐里・住本克彦）
6. 幼稚園における遊具を通してはぐくむ『生きる力』に関する一考察－A 市における幼児教育の実態を踏まえて－	共著	平成 28 年 12 月	岡山心理学会第 64 回大会論文集	本研究では，園で使用される遊具の安全活用のための留意点について検討し、定期点検や遊具の安全使用の指導の重要性等を明確に示した。（p. 16）（共著者：大原早貴・大車苑花・住本克彦）
7. 幼児教育における特別支援教育に関する一考察－A 市における幼児教育の実態を踏まえて－	共著	平成 28 年 12 月	岡山心理学会第 64 回大会論文集	本研究では，園における特別支援教育の重要性と具体的システムづくりの緊急性、保育者・教育者の特別支援教育に関する専門性をいかに高めるかについて検討した。（p. 21） （共著者：角南周・住本克彦）
8. 幼児期における『命の教育』カリキュラムモデルの開発的研究－A 市における幼児教育実践から－	単著	平成 29 年 9 月	日本カウンセリング学会第 50 回記念大会論文集	幼児期における『命の教育』カリキュラムモデルの開発的研究のテーマで、保育現場での発達に応じた「命に関わる絵本」を集約した。（p. 131）（跡見学園女子大学）
9. 保育現場における人型ロボット（ロボット型携帯電話）の活用可能性に関する研究	共著	平成 30 年 12 月	岡山心理学会第 66 回大会論文集	人型ロボット（ロボホン）の性能や、保育・教育の特性との関連性を鑑み、その保育・教育現場での今後の活用可能性について検討した。（pp. 12-13）（共著者：中川悠斗・上田実奈・住本克彦）

10.生徒指導・教育相談における実践課題に関する一考察－『保・幼・小連携』に焦点を合わせて－	単著	平成30年12月	岡山心理学会第66回大会論文集	教育相談を活かした生徒指導の展開をこそ目指すべきで、『保・幼・小連携』においてもその点を踏まえた実践こそ重要であることを明示した。(pp.14-15)
「その他」 1. 保育所・幼稚園・小学校・中学校を10年間連携させた教育実践モデルの提案	単著	平成28年8月	全国保育士養成協議会第55回研究大会研究発表論文集	子どもを10年間のスパンでその心身の成長を見守る教育プログラムを提案した。そこでは、連携する場の設定、保護者との連携の重要性、教職員の多忙感を極力抑えること（現状の研修をいかに精選するか等)、専門家の研修会への招聘等が明示された。
2.いのちの教育『いのちの教育』のカリキュラム開発のポイントを探る	単著	平成30年3月	健学社　心とからだの健康　第22巻　第3号	今こそ、幼児期から命のかけがえのなさ、命のつながりなどに気づかせ、生きることの素晴らしさや生きる喜びを実感させることが大切だとして、『いのちの教育』のカリキュラム開発のポイントについて詳述した。(pp. 76-82)（2018.3.発刊）
3.いのちの教育『折れない心』の育成―「いのちの教育」「心の教育」の視点から―	単著	平成30年3月	健学社　心とからだの健康　第23巻　第3号	『折れない心』を育成するためのポイントについて、①揺るぎない自信を持たせる指導　②揺るぎない自信を持った人をイメージさせる指導　③勝ち負けにこだわらない指導　④プラ市施行で物事を捉える指導　⑤自尊感情を育てる指導　等10項目について、その具体的育成法を詳述した。(pp. 81-85)（2019.3.発刊）
4.健康ふしぎ発見ニュース（全学年用）「折れない心ってなに？」【再掲】	単著	平成30年3月	健学社学校保健教育研究会（監修）健康ふしぎ発見三月号ニュース　第27巻第3号　通巻892号・壁新聞⑴	「折れない心」について、クイズ形式で、わかりやすくイラストで表示した。（Ｂ２判　解説8頁も単著）
5.健康ふしぎ発見ニュース（全学年用）「折れない心はどうすれば育つの？」【再掲】	単著	平成30年3月	健学社学校保健教育研究会（監修）健康ふしぎ発見三月号ニュース　第27巻第3号　通巻892号・壁新聞⑵	「折れない心」の育成について、ソーシャルサポートの重要性等、わかりやすくイラストで表示した。（Ｂ２判　　解説8頁も単著）

6.健康ふしぎ発見ニュース（全学年用）「見方を変えれば短所も長所」【再掲】	単著	平成30年3月	健学社学校保健教育研究会（監修）健康ふしぎ発見三月号ニュース　第27巻第3号　通巻893号・壁新聞⑶	「リフレーミング技法」（短所を長所に読み替え）について、わかりやすくイラストで表示した。（Ｂ２判　　解説8頁も単著）
7.プロとしての保育者、魅力的な保育者【再掲】	単著	平成31年1月	教育情報出版	プロフェッショナルとしての保育者の資質として、「人間性」「指導力」「専門性」の重要性について具体的事例を挙げ、詳述した。新見公立大学健康保育学科の授業、「保育者論」等で使用し、実践的な内容で、理解しやすいと大変好評であった。（上中修　編著）【本人単著部分】第1部・第3章・第4項「プロとしての保育者、魅力的な保育者」（pp.44-48）（Ｂ５判　全頁数190）
8.私の提言（巻頭論文）「いじめ防止」は「いのちの教育」の視点から向き合う	単著	平成31年12月	健学社　心とからだの健康　第23巻　第12号	教師がいじめ問題と向き合う視点を以下の３点挙げた。①教師は、いじめは人として決して許されない行為であるとの強い認識を持つ　②教師は、いじめ被害者を徹底して守り抜く姿勢を持つ　③教師は、「いのちの教育」の一環としての、いじめ問題への向き合う姿勢を持つ　各内容については、ポイントを明示した。（p.9）（2019.12.発刊）
9.健康ふしぎ発見ニュース（全学年用）「悩んでいることがあれば、どうすればいいの？」【再掲】	単著	平成31年12月	健学社学校保健教育研究会（監修）健康ふしぎ発見十二月号ニュース　第27巻第12号　通巻918号・壁新聞⑴	「相談する力」の育成をめざして、クイズ形式で、わかりやすくイラストで表示した。（Ｂ２判　解説8頁も単著）
10.健康ふしぎ発見ニュース（全学年用）「心の声は聞こえにくい。だから勇気を持って言葉にしよう！」【再掲】	単著	平成31年12月	健学社学校保健教育研究会（監修）健康ふしぎ発見十二月号ニュース　第27巻第12号　通巻919号・壁新聞⑵	「相談する力」の育成をめざして、クイズ形式で、わかりやすくイラストで表示した。回答編では、一人で抱え込まず、誰かに相談することを勧めている。（Ｂ２判　　解説8頁も単著）
11.健康ふしぎ発見ニュース（全学年用）「こんなときどうしたらいい？本音を話す勇気を持とう！」【再掲】	単著	平成31年12月	健学社学校保健教育研究会（監修）健康ふしぎ発見十二月号ニュース　第27巻第12号　通巻920号・壁新聞⑶	「相談する力」の育成をめざして、クイズ形式で、わかりやすくイラストで表示した。「信頼できる友だちの見つけ方」では、回答として「自分からあいさつをすること」「共通の話題を見つけること」等を明示した。（Ｂ２判　解説8頁も単著）

12.子どもの保健と安全	共著	令和２年２月（令和５年度改訂）	教育情報出版	第１章・第４節：「地域における保健活動と子ども虐待防止」について執筆。虐待をいかに防止し、早期に適切な対応をしていくかについて、そのシステム構築の重要性について詳述した。また、第９章・第７節：「子どもと悪性腫瘍」についても執筆。保育者・教育者が、子どもの病気についての知識を持つことの重要性について強調。がん教育の推進についても提唱した。（高内正子編著） 【本人担当部分】第１章・第４節（pp.34-40を単著）・第９章・第７節（pp.111-117を単著）（Ｂ５判　全１９２頁）以下の改訂版では、最新のデータを掲載した。【本人単著部分】第１章・第４節（pp.18-19を単著）・第９章・第７節（pp.92-93を単著）（Ｂ５判 全２１５頁）2020.3第１版発刊の改訂版（2023.3）
13.「総合質問紙調査『i-check』（アイチェック）令和２年度（改訂版）	監修・編著	令和２年３月	東京書籍株式会社	「総合質問紙調査『i-check』（アイチェック）の改訂版（小・中・高等学校各版Ａ４判）を発刊した。
14.『新型コロナウイルスの影響から考える心の健康』	単著	令和２年７月	健学社　心とからだの健康　７月号通巻第269号	コロナ禍における子供の「心のケア」の重要性を説き、具体的対処として、①子供のイライラは自然の反応であると捉えることの大切さ　②子供の睡眠・食事・遊びに注目することの大切さ　③日常的な運動量の確保の大切さ　④独りにさせないためのソーシャルサポートを実感させること　等についてわかりやすく詳述した。（pp.17-23　Ａ４判）
15.『コロナ禍における児童虐待防止』	単著	令和２年10月	健学社　心とからだの健康　10月号通巻第272号	コロナ禍における児童虐待防止の課題とその手立てについて論述した。「2020焦点 No.10 子どもの心」（p.9　Ａ４判）
16.『コロナ禍で考える〈心のケア〉〈児童虐待〉』	単著	令和２年11月	健学社　心とからだの健康　11月号通巻第273号	コロナ禍における「対面式授業」「オンライン授業」それぞれのメリット、デメリットを質問紙調査により明らかにした。その上で双方の利点を活かし、各課題を補い合う方途を明示した。また、潜在化する児童虐待への対応の具体例をその防止チェックシート（①子

				供の体や身なり　②保護者とのかかわり方　③友達とのかかわり方　④保護者の子供との接触の仕方　等の特徴）を示しながら防止法を探った。（pp. 23-31　Ａ４判）
17.『相手も自分も大切にする話し方ってなに？』【再掲】	単著	令和２年11月	健学社「健康不思議発見ニュース・ビジュアル教材 通巻第921号	開発的カウンセリング技法のアサーション・トレーニングの具体例（思いやりを持ったコミュニケーションの取り方）をビジュアル教材として示した。保健室（保健センター）等で、健康教育の一環として活用されている。（Ｂ２判）
18.『声のかけ方、注意の仕方で伝わり方が変わる！』【再掲】	単著	令和２年11月	健学社「健康不思議発見ニュース・ビジュアル教材 通巻第922号	開発的カウセリング技法のアサーション・トレーニングの具体例（自他を大切にしたコミュニケーションの取り方）をビジュアル教材として示した。保健室（保健センター）等で、健康教育の一環として活用されている。（Ｂ２判）
19.『自分に合ったストレス解消法を見つけよう』【再掲】	単著	令和２年11月	健学社「健康不思議発見ニュース・ビジュアル教材 通巻第923号	開発的カウンセリング技法のストレス・マネジメント教育の具体例（リラクゼーション法の実践）をビジュアル教材として示した。保健室（保健センター）等で、健康教育の一環として活用されている。（Ｂ２判）
20.『自殺予防と命の教育の重要性』	単著	令和３年３月	健学社　心とからだの健康　３月号通巻第273号	自殺予防教育プログラム（①自尊感情を育む　②体験活動の充実　③情報社会の影の部分への対応　④命を守る知恵と態度の育成　⑤教師自身が命の意味を問いかける）と自殺発生時の対応マニュアル（事実確認の仕方や事実を児童生徒や教職員へ伝える際の留意点等）を明示した。（pp. 16-26　Ａ４判）
21.『自尊心を高めるってどういうこと？』【再掲】	単著	令和３年３月	健学社「健康不思議発見ニュース・ビジュアル教材 通巻第933号	自尊感情を実感することの大切さ、それを育てるポイントについて、ビジュアル教材として示した。保健室（保健センター）等で、健康教育の一環として活用されている。（Ｂ２判）

22.『自尊心を育てよう！』【再掲】	単著	令和３年３月	健学社「健康不思議発見ニュース・ビジュアル教材 通巻第934号	自尊感情を育てるための実践例をビジュアル教材として示した。保健室（保健センター）等で、健康教育の一環として活用されている。（Ｂ２判）
23.リレーミングをやってみよう！』【再掲】	単著	令和３年３月	健学社「健康不思議発見ニュース・ビジュアル教材 通巻第935号	短所を長所に読み替えるリフレーミング技法について、ビジュアル教材として示した。保健室（保健センター）等で、健康教育の一環として活用されている。（Ｂ２判）
24.「総合質問紙調査『i-check』（アイチェック)令和２年度（改訂版）	監修・編著	令和３年３月	東京書籍株式会社	「総合質問紙調査『i-check』（アイチェック)の改訂版（小・中・高等学校各版Ａ４判）を発刊した。
25.「総合質問紙調査『History』（ヒストリー)令和３年度版	監修・編著	令和３年３月	株式会社教育工学デザイン	「総合質問紙調査『History』（ヒストリー)令和３年度版（大学生版Ａ４判）株式会社教育工学デザイン 2021.を発刊した。
26.健康不思議発見ニュース・ビジュアル教材 通巻第 956 号『怒りの気持ちどうしたらいい？』［小学校用］（健学社）【再掲】	単著	令和４年１月	健学社「健康不思議発見ニュース・ビジュアル教材 通巻第956号	開発的カウンセリング技法のアンガーマネジメント法の具体例（怒りを感じた時の対処法について：別のものに視点を向ける・誰かに相談する等）をビジュアル教材（Ｑ＆Ａ方式）としてイラスト入りで示した。保健室（保健センター）等で、健康教育の一環として活用されている。（Ｂ２判）
27.「健康不思議発見ニュース・ビジュアル教材通巻第 957 号『ルールがある意味とアサーティブな話し方』［小学校用］（健学社）【再掲】	単著	令和４年１月	健学社「健康不思議発見ニュース・ビジュアル教材 通巻第957号	開発的カウンセリング技法のアサーション・トレーニングの具体例（ルールがある意味：廊下を走らない等についてについて「攻撃的な伝え方」・「受動的な伝え方」・「アサーティブな伝え方」それぞれどの伝え方が望ましいかを考えさせる例）をビジュアル教材としてイラスト入りで示した。保健室（保健センター）等で、健康教育の一環として活用されている。（Ｂ２判）
28.「健康不思議発見ニュース・ビジュアル教材通巻第958号『怒りのコントロール方法』［中高校用］（健学社）【再掲】	単著	令和４年１月	健学社「健康不思議発見ニュース・ビジュアル教材 通巻第958号	開発的カウンセリング技法のアンガーマネジメント法の具体例（怒りをコントロールする方法について：6 秒数えて深呼吸・その場を離れる・怒りを点数化する等）をビジュアル教材としてイラスト入りで示した。保健室（保健センター）等で、健康教育の一環として活用されている。（Ｂ２判）

29.「健康不思議発見ニュース・ビジュアル教材通巻第 959 号『ルールがある意味とアサーティブな話し方』［中高校用］（健学社）【再掲】	単著	令和４年１月	健学社「健康不思議発見ニュース・ビジュアル教材 通巻第 959 号	開発的カウンセリング技法のアサーション・トレーニングの具体例（ルールがある意味：食事中の黙食等について「攻撃的な伝え方」・「消極的な伝え方」・「アサーティブな伝え方」それぞれどの伝え方が望ましいかを考えさせる例）をビジュアル教材としてイラスト入りで示した。保健室（保健センター）等で、健康教育の一環として活用されている。（Ｂ２判）
30. 人と関わり合う力を育てる』	単著	令和４年３月	健学社　心とからだの健康　３月号通巻第 289 号	コロナ禍によって、人との関わる力育成の重要性が一層注目されている。本稿では、小学校から高等学校までの各校での育成の仕方、その具体的実践例（自己主張訓練等）を挙げ、人と関わる中でのトラブルが発生した場合の「怒りの発散法（アンガーマネジメント）」や「ストレス解消法（ストレスマネジメント教育）」についても詳述した。（pp. 25-30　Ａ４判）
31.「健康不思議発見ニュース・ビジュアル教材通巻第 968 号『心と体の健康観察をしよう！』」［小学生用］（健学社）【再掲】	単著	令和４年８月	健学社「健康不思議発見ニュース・ビジュアル教材　通巻第 968 号	「困ったことがあったとき、付箋に書き出して気持ちの整理をする」「一人で抱え込まないで誰かに相談してみよう（気の合う人探し等）」「やる気が起きないときは、深呼吸して『私がんばっているよ！』のメッセージを送る！」「プラス思考とスモールステップで乗り切ろう！」他、『心と体の健康観察をしよう！』のテーマで、小学生対象の保健教材を作成し、クイズ形式を取り入れ、ビジュアル教材としてイラスト入りで示した。保健室（保健センター）等で、健康教育の一環として活用されている。（Ｂ２判）
32.「健康不思議発見ニュース・ビジュアル教材通巻第 969 号『日頃からできる心の健康観察法』」［小学生用］（健学社）【再掲】	単著	令和４年８月	健学社「健康不思議発見ニュース・ビジュアル教材　通巻第 969 号	「自分なりのストレス発散法を見つけよう！（音楽を聴く等）」「情報をコントロールしよう！」「食事をきちんと摂ろう」「自分が嫌になったとき、脱出可能だと自身を信じる（誰にでもあることだと脱出可能だと信じる等）」他、『日頃からできる心の健康観察法』のテーマで、小学生対象の保健教材を作成し、ビジュアル教材としてイラスト入りで示した。保健室（保健センター）等で、健康教育として活用されている。（Ｂ２判）

33.「健康不思議発見ニュース・ビジュアル教材通巻第 970 号『心と体の健康観察をしよう！』［中高校生用］（健学社）【再掲】	単著	令和４年８月	健学社「健康不思議発見ニュース・ビジュアル教材　通巻第 970 号	「不安なときは、気晴らしスイッチを探してみよう！」「孤独感を感じたときは、『気の合う人探し』をしよう」「困ったことがあったとき、付箋に書き出して気持ちの整理をする」「一人で抱え込まないで誰かに相談してみよう」他、『心と体の健康観察をしよう！』のテーマで、中高校生対象の保健教材を作成し、クイズ形式を導入し、ビジュアル教材としてイラスト入りで示した。保健室（保健センター）等で、健康教育の一環として活用されている。（Ｂ２判）
34.「健康不思議発見ニュース・ビジュアル教材通巻第 971 号『日頃からできる心の健康観察法』」［中高校生用］（健学社）【再掲】	単著	令和４年８月	健学社「健康不思議発見ニュース・ビジュアル教材　通巻第 971 号	「しんどいときは、自分にプラスメッセージを送ろう！」「自分なりのストレス発散法を見つけよう」「食事は朝昼晩３食をきちんと摂ろう」「自分自身にプラスのメッセージを送ろう！」「人と繋がろう（話してみよう）！」他、『日頃からできる心の健康観察法』のテーマで、中高校生対象の保健教材を作成し、ビジュアル教材としてイラスト入りで示した。保健室（保健センター）等で、健康教育の一環として活用されている。（Ｂ２判）
35.『「非認知能力」を育成するために、養護教諭ができること」』	単著	令和５年２月	健学社　心とからだの健康　２月号通巻第 300 号	社会を育抜く力の礎にあるものとして「非認知能力」が注目されている。その育成について、教職員の声かけの事例などを具体的に詳述した。(pp. 19-31　Ａ４判)
36.「現場の声とデータから見る i-check の教育的効果」	単著	令和５年３月	東京書籍「げんきの根っこ」第 11 号	『With コロナの時代を生きる子どもたち⑴』の特集で、「現場の声とデータから見る i-check の教育的効果」のタイトルで単著。2019 年度（コロナ流行前）、2020 年度（コロナ禍）、2021 年度（やや規制緩和）の i-check および標準学力調査の全国値を経年比較しながら、今を生きる子どもたちの人間関係、学習状況、自己肯定感などの心の状況の現状について論述した。①コロナ禍前後で数値に大きな変化はなかった。②ソーシャルスキル・友だち/家族/先生の支えの肯定回答が増加。③対人ストレスの肯定回答が減少。等が数値で確認された。

37.『自分や他人を大切にする人との関わり方』	単著	令和５年９月	健学社　心とからだの健康　第27巻　第9号通巻第307号	『自分や他人を大切にする人との関わり方』人とかかわる力を育てる「心の教育」の実際について、開発的カウンセリング技法の活用等、具体的に詳述した。(pp. 29-33　Ａ４判)
38.「健康不思議発見ニュース・ビジュアル教材通巻第992号『誹謗中傷ってどんなこと？』」［小学生用］（健学社）【再掲】	単著	令和５年９月	健学社「健康不思議発見ニュース・ビジュアル教材　通巻第992号	ＳＮＳの使い方について、「ＳＮＳ配信の際、まずは立ち止まって、確認すべき留意点の明示」等を子ども目線でわかりやすく解説した。」等、『誹謗中傷ってどんなこと？』のテーマで、小学生対象の保健教材を作成し、クイズ形式を取り入れ、ビジュアル教材としてイラスト入りで示した。保健室（保健センター）等で、健康教育の一環として活用されている。（Ｂ２判）
39.「健康不思議発見ニュース・ビジュアル教材通巻第993号『自分や相手を大切にする関わり方』」［小学生用］（健学社）【再掲】	単著	令和５年９月	健学社「健康不思議発見ニュース・ビジュアル教材　通巻第993号	ＳＮＳの使い方について、「困ったことがあれば、まず養護教諭等に相談すること」等を小学生目線でわかりやすく解説した。」等、『自分や相手を大切にする関わり方』のテーマで、小学生対象の保健教材を作成し、ビジュアル教材としてイラスト入りで示した。保健室（保健センター）等で、健康教育として活用されている。（Ｂ２判）
40.「健康不思議発見ニュース・ビジュアル教材通巻第994号『誹謗中傷ってどんなこと？』」［中高生用］（健学社）【再掲】	単著	令和５年９月	健学社「健康不思議発見ニュース・ビジュアル教材　通巻第994号	ＳＮＳ配信の際、『ワンクリック』する前に確認すべき留意点の明示」等を子ども目線でわかりやすく解説した。」等、『誹謗中傷ってどんなこと？』のテーマで、中高校生対象の保健教材を作成し、クイズ形式を導入し、ビジュアル教材としてイラスト入りで示した。保健室（保健センター）等で、健康教育の一環として活用されている。（Ｂ２判）
41.「健康不思議発見ニュース・ビジュアル教材通巻第995号『自分や相手を大切にする関わり方』」［中高校生用］（健学社）【再掲】	単著	令和５年９月	健学社「健康不思議発見ニュース・ビジュアル教材　通巻第995号	ＳＮＳの使い方について、「リツイートも元ツイートと同様に責任を問われる」等を中高校生目線でわかりやすく解説した。」等、『自分や相手を大切にする関わり方』のテーマで、中高校生対象の保健教材を作成し、ビジュアル教材としてイラスト入りで示した。保健室（保健センター）等で、健康教育として活用されている。（Ｂ２判）

42.『震災における「心のケア」のポイント―養護教諭としてできること―』	単著	令和６年３月	健学社　心とからだの健康　第28巻　第3号通巻第313号	『震災における「心のケア」のポイント―養護教諭としてできること―』震災時のストレス反応とそれに対するコーピングの実際について、ストレス・マネジメント教育や構成的グループ・エンカウンター等の技法を活用する実践についてその詳細を明示した。 (pp. 22-27　Ａ４判)
43.「健康不思議発見ニュース・ビジュアル教材通巻第1004号『ストレスってどんなもの？』」［小学生用］（健学社） 【再掲】	単著	令和６年３月	健学社「健康不思議発見ニュース・ビジュアル教材　通巻第1004号	ストレス反応について、「ストレスに対して反応〈不眠、食欲不振、やる気欠如等〉することって自然なことなんだよ」等を子ども目線でわかりやすく解説した。」等、『ストレスってどんなもの？』のテーマで、小学生対象の保健教材を作成し、クイズ形式を導入し、ビジュアル教材としてイラスト入りで示した。保健室（保健センター）等で、健康教育の一環として活用されている。（Ｂ２判）
44.「健康不思議発見ニュース・ビジュアル教材通巻第1005号『ストレスにどう対処するか』」［小学生用］（健学社） 【再掲】	単著	令和６年３月	健学社「健康不思議発見ニュース・ビジュアル教材　通巻第1005号	ストレス対処法について、「イメージ呼吸法でリラックス、友だちや家族に相談する」等を小学生目線でわかりやすく解説した。」等、『ストレスにどう対処するか』のテーマで、小学生対象の保健教材を作成し、ビジュアル教材としてイラスト入りで示した。保健室（保健センター）等で、健康教育として活用されている。（Ｂ２判）
45.「健康不思議発見ニュース・ビジュアル教材通巻第1006号『ストレスってどんなもの？』」［中高生用］（健学社） 【再掲】	単著	令和６年３月	健学社「健康不思議発見ニュース・ビジュアル教材　通巻第1006号	ストレス反応について、「ストレスに対して反応〈不眠、食欲不振、やる気欠如等〉することって自然なことなんだよ」等を子ども目線でわかりやすく解説した。」等、『ストレスってどんなもの？』のテーマで、中高生対象の保健教材を作成し、クイズ形式を導入し、ビジュアル教材としてイラスト入りで示した。保健室（保健センター）等で、健康教育の一環として活用されている。（Ｂ２判）

46.「健康不思議発見ニュース・ビジュアル教材 通巻第 1007 号『ストレスにどう対処するか』」［中高生用］（健学社）【再掲】	単著	令和 6 年 3 月	健学社「健康不思議発見ニュース・ビジュアル教材　通巻第 1007 号	ストレス対処法について、「趣味でリラックス、自分自身へのプラスメッセージ、友だちや家族に相談する」等を中高生目線でわかりやすく解説した。」等、『ストレスにどう対処するか』のテーマで、中高生対象の保健教材を作成し、ビジュアル教材としてイラスト入りで示した。保健室（保健センター）等で、健康教育として活用されている。（Ｂ２判）

別記様式第４号（その２）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　研　究　業　績　書

令和6年　5月　16日

氏名　　高岡　昌子

研究分野	研究内容のキーワード
教育心理学　発達心理学　保育心理学	心理　保育　教育　発達　記憶　教材　自然　動植物

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
１　教育方法の実践例		
（１）相愛大学において小学校教諭養成課程と保育者養成課程の教員としての実践（模擬保育・教育実践訓練・グループディスカッション、視覚教材の活用とフィードバック、小テストの実施など）	平成20年4月～平成26年3月	相愛大学で約8年間にわたり（「教育実習（幼稚園）」「教育実習の指導（幼稚園）」「保育原理」「保育内容C（人間関係）」「保育カウンセリング」「学校カウンセリング」「発達心理学」「インターンシップ実習A」「子ども学基礎演習」「保育総合演習」「卒業研究」など）指導した。実習準備段階から指導案そして模擬保育の指導、幼稚園採用試験にかかわる指導等行った。学生の模擬保育をビデオに撮ってフィードバックし、アクティブラーニングする中で、学生自身が省察し自ら気づくことができるように指導した。
（２）奈良学園大学奈良文化女子短期大学部において保育者養成課程の教員としての実践（模擬保育・教育実践訓練・グループディスカッション、視覚教材の活用、小テストの実施、学内・学外での実践体験、独自のリフレクションシートの活用など）	平成26年4月～平成31年3月	奈良学園大学奈良文化女子短期大学部で約５年間にわたり「乳幼児心理学」「保育の心理Ⅰ」「保育原理」「保育内容演習（人間関係）」「子ども学ゼミ」などで、保育者養成課程の教員としての実践教育（模擬保育、学内・学外での実践体験、独自のリフレクションシートの活用等々）を行い、学生の意欲向上と望ましい保育者養成をめざして指導することで、ほぼ全員の就職が決まり、多くの卒業生を保育者として送りだしてきた。また実習担当として、「実習の手引き～保育所・幼稚園・施設～」を作成し、円滑な実習指導が実現するように工夫した。
（３）奈良学園大学において保育者養成課程の教員としての実践（模擬保育・学内・学外での実践体験、独自のリフレクションシート、グーグルフォームを用いた自作の練習問題の活用など）	平成31年4月～現在	奈良学園大学で主に「保育の心理学」「子どもと人間関係」「子どもと人間関係の指導法」「保育原理」「保育内容Ⅰ（人間関係）」「教職実践演習」「教育実習事前事後指導（幼）」「教育実習（幼）」「人間教育学ゼミナール」「保育実践演習」（令和2～3年度）」「子どもの理解と援助（令和2～3年度）」等を担当し、令和2～4年度には幼稚園専修長を務めた。グーグルフォームで自作した練習問題を活用して、学生の学習の効率化を図ったり、ZOOMと対面の両方を用いたハイブリット形式で授業を行ったりしている。

2　作成した教科書，教材		
「教育心理学―保育・学校現場をよりよくするために―」嵯峨野書院	平成28年4月	［本人単独担当部分］第7章 適応支援と心理アセスメント　１．適応のしくみ　２．心理アセスメント　３．不適応支援と心理療法（P.60～68）保育・学校現場をよりよくするために必要な教育心理学的内容をまとめた一冊である。
「子どもと保育者でつくる人間関係　―「わたし」から「わたしたち」へ―」保育出版社	平成29年4月	［本人単独担当部分］第11章1節「協力して「わたしたち」でやりとげようとする6歳児」（P.133～136）第12章3節　「小学校への円滑な接続とは？」（P.152～155）小1プロブレムについても言及し、その原因や連携の必要性について伝える内容となっている。
「コンパクト版_保育内容シリーズ『保育の心理学Ⅰ』」一藝社	平成30年3月	［本人単独担当部分］第15章 「地域社会における子ども支援」（P.121～P.128）1. 「家庭・地域との連携」　2. 「子育て支援」　3. 「これからの子ども支援」現代社会における子育て支援の充実の必要性について伝える内容となっている。
「コンパクト版_保育内容シリーズ『保育の心理学Ⅱ』」一藝社	平成30年3月	［本人単独担当部分］第15章 「地域社会における子ども支援」（P.121～P.128）1. 「家庭・地域との連携」　2. 「子育て支援」　3. 「これからの子ども支援」現代社会における子育て支援の充実の必要性について伝える内容となっている。
「生活事例からはじめる―保育内容-人間関係」青踏社	平成30年3月	［本人単独担当部分］第８章 「遊びの中における学び」（P.65～P.72）　1. 「自発的な遊びに基づいた保育」　2. 「遊びと発達」　3. 「現代の子どもの遊びをめぐる問題」子どもにとっての遊びの重要性を指摘し、現代社会における子どもを取り巻く環境的な問題について述べている。
「保育の心理学」一藝社	平成30年3月	［本人単独担当部分］第６章「やさしさを育てる保育」（P.77～84）保育のなかで多様な人間関係を経験し、他者の思いに気づいて、思いやりをもてるように育まれていくことが必要である。
「子ども家庭支援の心理学」一藝社	令和2年3月	［本人単独担当部分］第14章「乳幼児期の学びの過程と特性」（P.113～120）乳幼児期の学びは主体的であるべきであることを指摘し、遊びの重要性について伝える内容となっている。
「子どもの理解と援助」一藝社	令和2年3月	［本人単独担当部分］　第6章 「子育てを取り巻く社会的状況」（P.49～56）現代社会における保育ニーズの多様化について述べ、子育てを取り巻く社会的状況について多角的に捉える必要性について述べている。
「コンパス保育の心理学」建帛社	令和6年3月	［本人単独担当部分］　第6章 「第3章　子どもの学びの理論　日々の経験から生まれる学び」（P.25～33）心理学的な学習理論と、学びと学習の成立と条件について説明し、学びと学習のために望ましい環境について示唆している。

3　教育上の能力に関する大学等の評価		
（1）相愛大学における授業評価	平成20年4月～ 平成26年3月	授業評価結果は、毎年すべての授業評価を行った授業において常に学内平均以上であった。
（2）奈良学園大学奈良文化女子短期大学部における授業評価	平成26年4月～ 平成31年3月	授業評価結果は、毎年すべての授業評価を行った授業において常に学内平均以上であった。平成28年度後期の授業評価においては、4点満点中、2Cクラスで3.81、2Dクラスで3.91と全体的に高く、レベル評価は、「知識・理解」、「技能・表現」、「思考・判断」、「関心・意欲・態度」のすべてにおいて目標値のレベル２以上の達成ができたとする学生は100%であった。
（3）奈良学園大学における授業評価	平成31年４月 ～令和3年3月	授業評価を行った授業の授業評価結果は、常に学内平均以上であった。
4　実務の経験を有する者についての特記事項		
特記事項なし		特記事項なし
5　その他		
（1）奈良学園大学奈良文化女子短期大学部公開講座	平成26年9月	地域の幼児と親を対象にして『英語で遊ぼう』と題して、公開講座を行った。
（2）幼稚園、小学校、特別支援学校（幼稚部・小学部）の教職員対象の奈良学園大学奈良文化女子短期大学部幼児教育講座	平成27年 9月	地域の幼稚園、小学校、特別支援学校（幼稚部・小学部）の教職員を対象にして、『保育者・教育者のネガティブな言動について考えよう！～子どもの各発達の時期によって～』という題目で公開講座を行った。
（3）地域の親子を招いて行うちびっこ広場	平成30年1月	地域の親子26組程を招いて行うちびっこ広場で『楽しく遊ぼう』という会を担当した。
（4）地域の親子を招いて行うちびっこ広場	平成30年11月	地域の親子25組程を招いて行うちびっこ広場で『楽しく遊ぼう』という会を担当した。
（5）京都府立木津高等学校で授業	令和3年11月	「保育者の仕事について～子どもたちの未来のために～」というテーマで授業を行った。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1　資格，免許		
	平成4年3月 平成4年3月 平成16年1月	小学校教諭1種免許状（平三小一め第238号） 中学校教諭1種免許状（国語）（平三中一め第569号） 学校心理士（第72362号）

２　特許等		特記事項なし
３　実務の経験を有する者についての特記事項		特記事項なし
４　その他 （１）研究費 平成24年度～平成27年度　科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）挑戦的萌芽研究 （２）研究費 平成24年度相愛大学学内研究申請個人割研究費 （３）研究費 平成29年度奈良学園大学奈良文化女子短期大学部学内共同研究申請共同研究費 （４）研究費 平成30年度奈良学園大学奈良文化女子短期大学部学内共同研究申請共同研究費 （５）奈良学園大学奈良文化女子短期大学部における学内業務 （６）奈良学園大学における学内業務 （７）奈良学園共同研究助成金	平成24年4月～平成28年3月 平成24年4月～平成24年3月 平成29年4月～平成30年3月 平成30年4月～平成31年3月 平成26年4月～平成31年3月 平成31年4月～現在 令和2年10月～現在 令和４年4月～3月	「子どもにおける３次元映像視聴に関する研究」（総額2,990,000円） 「子どもの発達を支える研究について」（230,000円） 「高等教育機関における女性のキャリア継続に必要な課題―保育者養成校としての短期大学の役割―」（600,000円）（高岡昌子・林悠子・高橋千香子・岩本健一） 「高等教育機関における保育者としてのキャリア継続に関わる課題―保育者養成校としての役割―」（200,000円）（高岡昌子・林悠子・高橋千香子・岩本健一） 入試広報委員(～平成28年度)，募集強化学内対策委員（オープンキャンパス委員）(～平成28年度)，学生就職委員会(平成29年度～)カリキュラム委員，研究推進委員，紀要編集委員，IR委員，実習担当，クラスAGH担任 共通教育委員（～令和3年3月末）キャリアセンター委員（～令和3年3月末），クラス担任（～令和3年3月末），キャンパス移転ワーキング委員，実習担当，事業推進グループ３委員（令和3年4月～現在），入学試験委員（令和3年4月～現在） 人間教育学部人間教育学科幼稚園専修における専修長 「幼児教育における栽培活動を通して育む心の研究」（80,000円）（高岡昌子・石原由紀子・間井谷容代・谷川具子・岡村季光）

研究業績等に関する事項				
著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書） 1. 教育心理学―保育・学校現場をよりよくするために―」嵯峨野書院	共著	平成28年4月	嵯峨野書院	【当該業績全体の概要】 保育・学校現場における子ども理解のために活用できる心理学的内容について述べている。 【本人の執筆部分の概要】 第7章 適応支援と心理アセスメント　問題行動が生じた場合における効果的な心理アセスメントや不適応支援について述べて、保育や教育における相談の在り方や関わり方について考えるための内容である。 著者：石上浩美、竹中美香、池田幸恭、芳田茂樹、水野正朗、高岡昌子、（他８名）
2. 「コンパクト版_保育内容シリーズ『保育の心理学Ⅰ』」一藝社	共著	平成30年3月	一藝社	【当該業績全体の概要】 保育者になり子どもを理解するために必要な心理学の基礎的な内容について説明している。 【本人の執筆部分の概要】 第15章 地域社会における子ども支援　ここでは、家庭との連携の中で、相談の重要性を述べて、相談室や保育カウンセラーの必要性等についても指摘している。 著者：谷田貝公昭、石橋哲成、西方毅、福田真奈、宮崎隆穂、長谷川直子、谷真弓、片岡祥、稲葉健、高岡昌子（他７名）
3. 「コンパクト版_保育内容シリーズ『保育の心理学Ⅱ』」一藝社	共著	平成30年3月	一藝社	【当該業績全体の概要】 保育者になって子どもを理解して対応するために必要な心理学的内容を応用的側面から説明している。 【本人の執筆部分の概要】 第8章 遊びの中における学び　子どもを理解するためには子どもたちの遊びを捉える必要がある。現代の子どもの遊びをめぐる問題と課題についても述べている。 著者：谷田貝公明、石橋哲成、西方毅、福田真奈、伊藤亮、小原倫子、川口めぐみ、高岡昌子、（他７名）
4. 子どもの社会の未来を拓く―保育内容―「人間関係」	共著	平成30年3月	青踏社	【当該業績全体の概要】 子どもを理解するために、子どもを取り巻く人間関係を把握し、子どもの人間関係の持ち方の発達的変化について理解していくことが必要である。そして子どもがより良い人間関係力を培っていけるように関わる保育者の役割等も説明している。 【本人の執筆部分の概要】 第7章「やさしさを育てる保育」保育の中で他者を思いやる心を育てるための保育者の役割等について論じた。また子どもを理解するためには子どもを取り巻く環境を多角的に捉えていく必要がある。 著者：徳安敦、阪上節子、林幸範、鶴宏史、末次有加、二見素雅子、杉岡幸代、高岡昌子（他７名）

5.「新・保育原理－すばらしき保育の世界へ－」［第3版］	共著	平成28年4月	株式会社みらい	【当該業績全体の概要】 保育の役割と意義について述べ、保育の場や環境、原理、安全や健康、保育関係の法律や指針、保育の歴史そして現状と課題について多角的に述べている。 【本人の執筆部分の概要】 第３版：第９章　保育者に求められる子育て家庭支援 子どもの理解のためには子どもを取り巻く環境についての理解も重要である。教育相談事項となる子育て中の家庭における問題についても述べて、子どもの最善の利益のために子育て家庭を支援していくことの重要性を述べている。 著者：三宅茂夫編，小川圭子，熊丸真太郎，佐藤和順，角野幸代，高岡昌子，豊田和子，浜野兼一，（他４名）
6.「新・保育原理－すばらしき保育の世界へ－」［第4版］	共著	平成30年4月	株式会社みらい	【当該業績全体の概要】 保育の役割と意義について述べ、保育の場や環境、原理、安全や健康、保育関係の法律や指針、保育の歴史そして現状と課題について多角的に述べている。（保育所保育指針の改訂により大幅に改訂した。） 【本人の執筆部分の概要】 第４版：第９章　保育者に求められる子育て支援　子どもの理解のためには子どもを取り巻く環境についての理解も重要である。教育相談事項となる子育て中の家庭における問題についても述べて、子どもの最善の利益のために子育て家庭を支援していくことの重要性を述べている。 著者：三宅茂夫編，小川圭子，熊丸真太郎，佐藤和順，角野幸代，高岡昌子，豊田和子，浜野兼一，（他４名）
7.「子どもと保育者でつくる人間関係　―「わたし」から「わたしたち」へ―」	共著	平成29年4月	保育出版社	【当該業績全体の概要】 子ども理解のために子どもを取り巻く人間関係について理解することは不可欠であり、教育相談事項となることにつながる人間関係力を育む保育の重要性について述べている。 【本人の執筆部分の概要】 第11章1節「協力して「わたしたち」でやりとげようとする6歳児」6歳の子どもを理解するために、人間関係に関わる事例を入れて説明し、保育所や幼稚園で多様な人間関係を経験することの重要性について述べた。 第12章3節「小学校への円滑な接続とは？」年長児の人間関係の領域の問題を取り上げて述べ、子ども理解を深められるように幼児教育機関においてすべき課題について研究して述べた。 著者：横山真貴子、尾島重明、串崎幸代、角田和也、岩崎桂子、朝木徹、檜垣久恵、小久保圭一郎、高岡昌子、（他14名）

８.保育の心理学（保育士を育てる）	共著	令和2年3月	一藝社	【当該業績全体の概要】 保育において子どもを理解するために必要な心理学的基礎的内容について述べている。 【本人の執筆部分の概要】 第14章　乳幼児期の学びの過程と特性　子どもの自発的な遊びについて述べ、子どもを理解するために発達につながる自発的遊びについて理解することが必要であることを述べた。 著者：福田真奈、宮崎隆穂、長谷川直子、谷真弓、片岡祥、稲葉健、伊藤亮、 瀧口綾、高岡昌子（他5名）
9.コンパス保育の心理学	共著	令和6年3月	建帛社	【当該業績全体の概要】 子どもの発達論、学びの理論と保育、各年齢別の発達特性と課題を解説し、現代の保育の現場で役立てられる可能性を示している。 【本人の執筆部分の概要】 第3章　子どもの学びの理論　日々の経験から生まれる学び 心理学的な学習理論と、学びと学習の成立と条件について説明し、学びと学習のために望ましい環境について示唆している。 編著者：寺見陽子　　著者：阿南寿美子、植田瑞穂、大塚穂波、隠岐厚美、片山伸子、金重利典、川谷和子、川村高弘、黒田博子、榊原久直、澤田真弓、鎮朋子、高岡昌子（他5名）
（学術論文） 1. 実習指導の効果を高める教育方法の研究（その３）―幼稚園、保育所での実習における学生の自己評価と現場評価の比較検討から―	共著	平成24年3月	相愛大学研究論集 第28巻	【当該業績全体の概要】 幼稚園実習や保育所実習のための指導の効果を高める教育方法の研究を行った。特に幼稚園、保育所での実習における学生の自己評価と現場評価の比較検討から検討した。 【本人の果たした役割】 共同研究者として調査を行う授業を共同で担当して行った。 （P.167～P.180［共著者名］中西利恵、大森雅人、曲田映世、高岡昌子、山口美智子）
2. 研究報告 変化の時代における保育者養成教育のあり方－特に学外実習のおける効果的な教育方法の検討－	共著	平成25年3月	相愛大学研究論集 第29巻	【当該業績全体の概要】 変化の時代における保育者養成教育のあり方について研究した。特に学外実習のおける効果的な教育方法の検討を行った。 （p.73～p.79　［共著者名］中西利恵、曲田映世、藤本麻子、山口美智子、岩口摂子、木村久男、細川速見、山本和明、渡部美穂子、川中美津子、高岡昌子）

3. 携帯型ゲーム機のグラスレス３D映像視聴による影響　［査読付き］	単著	平成26年11月	奈良学園大学奈良文化女子短期大学　紀要　第45巻	【当該業績全体の概要】 子ども達に身近な携帯型ゲーム機のグラスレス３D映像視聴による影響について研究した。（P.63～P.70（本研究はJSPS科研費24653187の助成を受けた研究である。）） 【本人の果たした役割】 主たる研究者として調査からデータ分析、執筆等を行った。 （共同研究により抽出不可：調査者による調査結果に基づき結果と考察を共同で執筆した。） 著者：高岡昌子、高橋千香子、林悠子、岩本健一
4. 幼少期におけるゲーム経験とゲーム体験による疲労感との関係 ［査読付き］	単著	平成27年11月	奈良学園大学奈良文化女子短期大学部　紀要 第46巻	【当該業績全体の概要】 幼少期におけるゲーム経験とゲーム体験による疲労感との関係について研究した。幼少期にゲーム体験をしているほうが、ゲームで疲れにくい傾向があった。（P.27～P.32（本研究はJSPS科研費 24653187の助成を受けた研究である。）） 【本人の果たした役割】 主たる研究者として調査からデータ分析、執筆等を行った。 （共同研究により抽出不可：調査者による調査結果に基づき結果と考察を共同で執筆した。） 著者：高岡昌子、高橋千香子、林悠子、岩本健一
5. 各発達の時期における「先生」のネガティブな言動について	共著	平成28年11月	奈良学園大学奈良文化女子短期大学部研究紀要47号	【当該業績全体の概要】 保育者養成課程の学生を対象にして、保育所・幼稚園・小学校低学年・小学校高学年・中学校・高等学校の各時期の「先生」の不快な言動で特に記憶に残っている内容について調査研究を行い、結果を報告し論じた。保育者になる者は、子どもの発達を捉え、一人ひとりを十分に理解し、自身の言動が子どもに及ぼす影響について理解を深めておくことが大切であると述べた。 【本人の果たした役割】 主たる研究者として調査からデータ分析、執筆等を行った。 （共同研究により抽出不可：調査者による調査結果に基づき結果と考察を共同で執筆した。） 著者：高岡昌子、高橋千香子、林悠子、岩本健一
6. 保育者養成に求められる保育者の資質について（２）―就職先へのアンケート調査の前回調査との比較から―［査読付き］	共著	平成28年11月	奈良学園大学奈良文化女子短期大学部　紀要 第47巻	【当該業績全体の概要】 幼稚園や保育所等の学生の就職先へのアンケート調査の前回調査との比較から、保育者養成に求められる保育者の資質について検討した。特に人間関係の重要性についても検討した。 【本人の果たした役割】 共同研究者として議論に加わったり文章推敲したりした。 （P.71～P.80［共著者名］林悠子、高橋千香子、高岡昌子、岩本健一）
7. 保育者養成校の学生の性格特性および進路状況との関連について［査読付き］	共著	平成28年11月	奈良学園大学奈良文化女子短期大学部　紀要 第47巻	【当該業績全体の概要】 保育者養成校の学生の性格特性および進路状況との関連について研究した。 【本人の果たした役割】 共同研究者として議論に加わったり文章推敲したりした。（P.41～P.48［共著者名］高橋千香子、 高岡昌子、林悠子、岩本健一）

9. 新人保育者に必要な資質について―新人保育者に対する総合的な評価につながる具体的な資質―［査読付き］	共著	平成29年11月	奈良学園大学奈良文化女子短期大学部　紀要 第48巻	【当該業績全体の概要】 幼稚園や保育所等での新人保育者に対する評価に関する質問紙調査の前年度の結果との比較を通して、新人保育者に求められる資質について検討した。 【本人の果たした役割】 主たる研究者として調査からデータ分析、執筆等を行った。（P.51～P.60［共著者名］高岡昌子、岩本健一、高橋千香子、林悠子）
10. 施設実習における学生の不安を軽減する事前学習についての研究 ［査読付き］	共著	平成29年11月	奈良学園大学奈良文化女子短期大学部　紀要 第48巻	保育者になるために必要な施設実習における学生の不安を軽減する事前学習についての研究を行った。 【本人の果たした役割】 共同研究者として議論したり文章推敲修正を行ったりした。（P.31～P.40［共著者名］岩本健一、 高岡昌子、 高橋千香子、林悠子）
11. 新人保育者に対する評価　～前年度との比較を通し て～［査読付き］	共著	平成30年11月	奈良学園大学奈良文化女子短期大学部　紀要 第49巻	【当該業績全体の概要】 幼稚園や保育所等に協力いただき行った質問紙調査の前年度の結果との比較を通して、新人保育者に対する評価について検討した。 【本人の果たした役割】 主たる研究者として調査からデータ分析、執筆等を行った。（P.49～P.59［共著者名］高岡昌子、飯田惠美子、岩本健一、小川純子、高橋千香子、林悠子）
12. 新人保育者に対する評価～前々年度と前年度との比較を通して～	共著	令和2年3月	奈良学園大学紀要　第12巻	【当該業績全体の概要】 幼稚園や保育所等にご協力いただき行った質問紙調査の前年度の結果との比較を通して、新人保育者に対する評価について検討した。特に「子ども学ゼミナール」という少人数で行う授業の成績と職場での評価に相関がみられたことについて論じている。 【本人の果たした役割】 主たる研究者として調査からデータ分析、執筆等を行った。（P.51～P.60［共著者名］高岡昌子、岩本健一、高橋千香子、林悠子）
13. 幼稚園実習を通して学生の自己成長を促すルーブリックの開発と活用 ー実習への意識向上とスキルアップに着目して-	共著	令和5年3月	奈良学園大学紀要　第15巻	【当該業績全体の概要】 幼稚園実習前・実習中・実習後の学生の学びの意識について調べ、意識の変容を捉えようとした。そして実習への意識向上とスキルアップを目指し、幼稚園実習を通して学生の自己成長を促すルーブリックの開発と活用を検討した。また、学生の質の向上としてアクティブラーニングを取り入れた授業の遂行の仕方を振り返り、授業の再構成を図った。 【本人の果たした役割】 共同研究者として調査実施や文章推敲修正等を行った。（P.155～P.164［共著者名］間井谷容代、石原由貴子、高岡昌子、岡村季光）

14. 幼児期における自然体験としての栽培活動を支えるために	単著	令和5年12月	奈良学園大学紀要　第16巻	幼児期における自然体験としての栽培活動を支えるために必要な連携について示唆している。（P.203～208）
（その他） （２）報告書本 教学報告 :	共著	平成31年3月	奈良学園大学奈良文化女子短期大学部	【当該業績全体の概要】 奈良学園大学奈良文化短期大学における幼児教育科の教育について一冊の本にまとめて報告した。 【本人の果たした役割】 共同研究者として分担執筆を行った。（磯辺ゆう、恒岡宗司、中田章子、高岡昌子、飯田惠美子、岩本健一、小川純子、高橋千香子、林悠子、吉田明史）

（注）

１ 最近１０年間の教育活動、研究活動について作成すること。
２「教育活動」については各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については就任年月日順に記入すること。
３「研究活動」については、下記の点に留意すること。
①著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入すること。
②著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付すこと。
③　共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載すること。
④　最近１０年間に著書･論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておくこと。
⑤　芸術分野や体育実技等の分野を担当する教員については、著書・論文等以外の競技会、展覧会または演奏会等での発表のうち、特に顕著な業績と認められるものについても記載すること。このほか、専門分野の特性を考慮し、顕著な業績と認められるものがある場合もこれに含めてもよい。

教　育　研　究　業　績　書

令和６年５月10日

氏名　辻井　直幸

研究分野	研究内容のキーワード
教育学	音楽科教育法、合奏、声楽、合唱、実習指導、作編曲

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
１．教育方法の実践例 (1) 新指導要領の効果的な展開への取り組み	平成13年7月～16年 / 平成17年7月～平成24年	指導要領が改訂されるたびに教科書も新しくなり、教える事柄も変化する。そこで、効果的に学習活動が行えるよう愛知県海部地域独自の年間計画表を編成し直し、これを基に実際の指導案づくりをすることにより地域の音楽科共通理解を向上させた。
(2) 生徒が意欲的に歌うことができる「簡易伴奏」の開発	平成14年4月～平成24年3月	教科書指導書には、歌唱の「本伴奏」と「簡易伴奏」は掲載され、何れも歌声が完成してから効果が上がるものが多い。初期段階では、メロディをしっかりと提示し、更にビート感を前面に打ち出した方が生徒に興味を持たせる指導できる。歌詞を覚えるために毎回歌うことが必至であるが、飽きない伴奏は即興的に毎回変化が必要である。独自の簡易伴奏（作編曲）法を確立した。(蟹江町立蟹江中学校での実践)
(3) より深く理解させるための鑑賞指導の在り方。－表現と鑑賞の一体化を目指して―	平成17年7月～平成24年3月	作品を正しく理解するためには、その曲の背景にある文化の理解が必要である。さらに楽曲を聴くだけでなく、実際に演奏をすることにより、より深くその曲を理解する方法を研究した。鑑賞後の感想等を言語活動と結び付け、より深い鑑賞教育の在り方を追求した(蟹江町立蟹江中学校での実践)
(4) 質の高い合唱曲の発掘と新しい合唱曲集の開発―ChorusAlbum「AmaSong」編集―	平成22年1月	よりよい教材を発掘し、愛知県海部・津島地区の音楽教師で構成される「海部津島音楽教育連盟」代表として、授業で活用するための合唱曲集「AmaSong」を編集し、副教材にして授業の効率化を図った。(蟹江町立蟹江中学校での実践)
(5) 変声期を伴う時期の発声指導の在り方 －ベルカント唱とファルセットの効果的な練習方法－の開発	平成25年10月～27年3月	音楽の楽曲(歌唱曲)は、声楽的な発声で歌うことを前提である。複数人で教室単位の授業を行なう上で、合唱が一番有効な音楽形態である。声が溶け合う必要性があり、地声では困難である。この意味を生徒に理解させ、楽曲によって声の質を変化させ、曲に合った歌い方ができる発声練習方法を開発し教材を準備した。(蟹江町立蟹江中学校での実践)
(6) 合唱指揮法のための指揮棒を使用した生徒の理解しやすい独自の合唱指揮の開発	平成26年2月～27年2月	音楽的に完成された合唱を目指すには前に立つ指揮者の役割が大きい。合唱指揮は声楽の特質上、表現を重視するため横の動きが多く、指揮棒なしで演奏されることが多い。その反面テンポやリズムの縦の線が甘くなる。指導の段階では指揮棒を使用し明確に打点を示す必要がある。生徒に指揮指導の際も「はりぼて指揮者」ならない仕方を示した。(蟹江町立蟹江中学校での実践)

(7)和楽器に興味をもって意欲的にとりくめる 説明とテキストの作成	平成 28 年 ～ 現在に至る	生田流師範を招き「お琴教室」を開催した。そのための授業時間の設定や使用する箏の奏法を研究し、ゲストティーチャーの専門的な知識を生徒用に解説した。授業用テキストを考案し、新しい箏曲のアレンジに取り組んだ。(津島市立藤浪中学校での実践)
(8)言葉(歌詞)を生かした合唱指導の取り組み - 楽語の本当の意味を感じた合唱指導―	平成 28 年 ～ 現在に至る	合唱曲は歌詞の内容を音楽であらわしていると言える。優れた合唱曲は歌詞の意味と音楽が一致している。その歌詞を音楽的に大切にし、楽譜に書かれている記号の本当の意味を理解し、機械的な演奏に陥らない合唱指導の在り方を追求した。(津島市立藤浪中学校での実践)
(9)裏拍を感じた合唱指導の開発 -ハンドクラップを使った合唱指導-	平成 28 年 ～ 現在に至る	フレーズの歌い方は低学年の指導ではオンビート(表拍)を感じるだけでよいが、音楽レベルが上がるほど、裏拍が必要である。しかし「裏拍を意識して歌う」を理解するのは困難で、８分音符を基準にして「ハンドクラップ」を使って行う「リズム唱」を考案し活用した。(津島市立藤浪中学校での実践)
２　作成した教科書，教材 (1) 合唱曲集「AmaSong」を編集・監修・執筆し副教材とする。共著 海部津島音楽教育連盟発行 【再掲】	平成 22 年 改訂第１刷 平成 24 年 第２刷	中学校での歌唱指導は変声期の影響もあり、難しい問題が多い。特に中学生が好む音楽はテレビラジオの影響もあり、教科書離れが著しい。そのため質の高い合唱曲の発掘が必要である。そこで海部地区独自の合唱曲集(AmaSong)を発行し地区の全部の中学校で使用した。
(2) 合唱指揮のための生徒に分かりやすい指揮図の作成	平成 23 年 10 月	指揮の基本図形を示し、さらにそれらが実際の楽曲のどの部分で使用するのかを、楽譜上に分かりやすい図形(○、△、□)で表記させ、より実践的な指揮が行えるような、特別楽譜を準備した。 （蟹江町立蟹江中学校で使用）
(3) ベルカントとファルセットを練習するための模範 DVD の編集	平成 25 年 5 月	声楽的な正しい発声法は、中学生にとって、とても難しいものである。そこで、分かりやすい発声の仕方を馴染み深い楽曲から精選し、DVD を編集して生徒に掲示した。 （津島市立藤浪中学校で使用）
(4) 教育実習要項の作成(実習の手引き)	平成 25 年 8 月	津島市立藤浪中学校での教育実習生受け入れの「手引き」をまとめた。特に音楽の実習生に特化したものなので、他の中学校にも活用された。
３　教育上の能力に関する大学等の評価 学生による自己評価委員会アンケート 奈良学園大学「器楽演習Ⅳ」の学生アンケート	令和元年 10 月	「器楽演習Ⅳ」本来はパーカッションのみの演習であるが、曲により他の楽器との調整が必要になる場合の具体的な配慮を指導した。そのため自由参加で履修学生以外の参加も認め合同での指導を行った。
４　実務の経験を有する者についての特記事項 (1) 津島市立藤浪中学校縦割りブロ合唱祭の合唱指導(選曲や伴奏者確定のためのオーディションも含む)を行う。 (2)	平成 24 年 ～令和元年	特別活動と音楽科を合科的に進めるため、合唱コンクールを縦割り活動にして、上級生がリーダーとなって練習を担い、良い声の見本を下級生に示した。途中段階ではブロックごとに指導を行い、当日は絶対評価で審査した。良好な人間関係を構築した。

(2)愛知県海部津島地区教育研究集会音楽部会の助言者 （愛知県海部地方現職教育委員会主催）	平成 27 年 10 月	新学習指導要領「共通事項」の研究助言を行った。海部津島地区の音楽教師全員が集まる中で、この地域の音楽教師のスキルアップに貢献した。
(3) 愛知県海部津島地区教育研究集会音楽部会助言者(愛知県海部地方現職教育委員会主催)	平成 28 年 10 月	「響き合える子」のテーマの基、「ICT を活用した音楽授業の在り方」について助言を行った。次期学習指導要領で扱われる「主体的な学び」について、目標が大切と、指導・助言した。
(4)教育研究集会音楽教育部会の共同研究の助言者(愛知県海部地方現職教育委員会主催)	平成 29 年 10 月	継続テーマの「響き合える子」について助言を行った。サブテーマの「思いが伝わる音楽活動」については、特に合唱曲の選定と楽曲について「何を教えたいのか」というねらいをしっかりと持つことが大切であると指導・助言した。
(5)教育研究集会音楽教育部会の共同研究の各校別発表者(愛知県海部地方現職教育委員会主催)	平成 30 年 10 月	あま市立甚目寺東小学校で開催された、教育研究会でテーマ「響き合える子」－思いが伝わる音楽活動－についての共同研究において、津島市立藤浪中学校での実践「走る川」を DVD に録画し「歌詞の意味と音楽は一致する」ことを証明し発表した。
(6)教育研究集会音楽教育部会の共同研究の各校別発表者(愛知県海部地方現職教育委員会主催)	令和元年10月	愛西市立市江小学校で開催された、教育研究会でテーマ「響き合える子」－思いが伝わる音楽活動－についての共同研究において、津島市立藤浪中学校での実践「君に届け」で「歌詞を大切にすることが音楽的理解に大きく繋がり、より良い合唱になること」を DVD 録画により証明し発表をした。
5　その他		
(1)地域ジュニアバンドの指揮・指導を通して 地域青少年教育活動指導	平成 11 年 ～ 平成 23 年	社会福祉課協力の下「海部地区のジュニアバンド」を組織しこの地域に住む小中学生が休日に自由に吹奏楽活動に参加できる場を原則、毎週日曜日に提供し、指導した。発表は三重県にある「志摩スペイン村」や、愛知県テーマパーク「ラグナシア」に参加。特に愛知万博『愛・地球博』会場では、来場者が全国に及び、吹奏楽の普及に寄与した。また東京ディズニーリゾートのオーディションに合格し、吹奏楽演奏を行った。
(2)マーチングの魅力の啓発のためトップ校で 編成する「メモリアルバンド」の教育活動	平成 21 年 ～令和元年	マーチング全国大会小編成の部で何度もグランプリを獲得した名古屋女子高等学校を中心に約 150 名でバンドを編成し「名古屋まつり」の吹奏楽連盟の行事等に積極的に参加した。特に愛知県吹奏楽連盟の主催する「動くコンサート」は、「名古屋ドーム」で行われ大規模である。また、名古屋駅地区振興会開催「ナゴヤ・エキトピアまつり」は平成 21 年から毎年参加し指揮・指導をした。延べ 10 万人観客にマーチングの魅力を広報することができた。
(3)指揮者としての教育活動	平成 22 年 ～令和元年	名古屋市の文化振興会企画、日本マーチングバンド協会東海支部と愛知県吹奏楽連盟が共催する「ナゴヤマーチング＆バトンウェーブ」では、2010 年より毎年、高校と合同バンドを組織し、その指揮・指導を行った。世界的なトランペッター「エリック・ミヤシロ」や「Blast」のドラマー石川直とトランペッターの米所大夢氏、「米米 CLUB」のサキソフォン奏者織田浩司氏、等の有名奏者と約 3000 人観客の前で共演。その後、市民吹奏楽団等や高校定期演奏会など、多くの団体から客演指揮の依頼がある。
(4)教職員の音楽教育活動の指導支援	平成 24 年 ～令和元年	教員で編成する「海部ディレクターズバンド」が海部津島現職教育委員会の主催する「教育講演会」でのアトラクションの依頼を受け、毎年演奏を行った。そのための練習指導を夏休み中に行い、本番は津島市文化会館にて地域の全学校の教師が集う中、指揮者として演奏に参加した。

(5)　ピアニストとしての地域貢献教育活動	平成 25 年～令和元年	地域ボランティア活動を、毎年ピアニストとして行っている。全てのジャンルの曲を瞬時にピアノ簡易伴奏に変換し初見演奏する独自の演奏法を身に着けている。その場の雰囲気やリクエストに応え楽しく演奏し老若男女問わず好評を博している。特に津島市の「六寿園」は、毎年訪問を続け、約 100 名の入園者に好評を得る。
(6) 吹奏楽・マーチング大会審査員としての教育活動	平成 25 年～令和元年	全日本吹奏楽連盟と朝日新聞社が共催する「全日本マーチングコンテスト」の三重県大会や愛媛県大会、また四国支部大会。また日本マーチング協会関西支部が主催する「マーチングバンド関西大会」など、全国大会への代表を決めるための審査員を務めた。
(7)　吹奏楽・マーチングの指導者養成教育	平成 28 年～令和元年	愛知県吹奏楽連盟主催のマーチング MM 講習会やコンテ講習会、海部地区小中学校吹奏楽連盟主催のバンドクリニックなどで指導講師を数多く務めた。
(8) マーチング技能検定員としての指導者教育	平成 30 年 6 月令和元年 8 月	2 年間、一般社団法人「日本マーチングバンド協会」の認定する 3 級・4 級の技能検定を愛西市佐織総合体育館で行い、150 名の試験官を担当した。
(9)　吹奏楽の指導者養成教育	令和 3 年 6 月 19 日	愛西市佐織公民館にて愛知県吹奏楽連盟西尾張支部に所属している「マーチング友の会」メンバーによる定例行事「マーチング講習会」が行われた。「楽曲アレンジ」担当の講師として、普通の吹奏楽曲をどのようにしてのマーチングで使用するのかについて、楽曲アレンジの仕方を講義した。地域の吹奏楽指導者 20 名程集まって、質問を受けながら、なるべく簡単で効果の上がる方法を紹介した。コロナ下での開催のため、生徒によるモデルバンドは使えず、指導者だけの会となった。
(10) マーチング技能検定員としての指導者教育	令和 4 年 5 月 28 日	一般社団法人「日本マーチングバンド協会」の認定する 3 級・4 級の技能検定が名古屋市中区スポーツセンターで開催された。そこで講師・試験管として、凡そ 150 名程の生徒の検定を行った。
(11) マーチング技能検定員としての指導者教育	令和 5 年 5 月 27 日	一般社団法人「日本マーチングバンド協会」の認定する 3 級・4 級の技能検定が名古屋市中区スポーツセンターで開催された。そこで講師・試験管として、凡そ 200 名程の生徒の検定を行った。
(12)　吹奏楽の指導者養成教育	令和 5 年 10 月 21 日	愛知県海部地区吹奏楽連盟主催の「のびゆくバンドクリニック」の指導者コースの講師を務めた。地域（70 校）の金管・吹奏楽顧問に対して、技術・運営面などを含めた効果的な指導のポイントをレクチャーした。

職　務　上　の　実　績　に　関　す　る　事　項

事　　項	年 月 日	概　　要
1　資格、免許		
・中学校教諭一種普通免許（音楽）	昭和 57 年 3 月	昭五六中一普第4682号（愛知県教育委員会）
・高等学校教諭一種普通免許（音楽）	昭和 57 年 3 月	昭五六高二普第5417号（愛知県教育委員会）
・日本マーチングバンド協会　公認指導員	平成 29 年 1 月	公認証M第207号（一般社団法人日本マーチングバンド協会任命）
・日本マーチングバンド協会技能検定講師資格	平成 29 年 1 月	技能検定の講師資格　No.02155 MM講師 （一般社団法人「日本マーチングバンド協会」）
・日本マーチングバンド協会技能検定員	平成 29 年 2 月	技能検定員資格　No.02155 MM技能 （一般社団法人「日本マーチングバンド協会」）
・日本マーチングバンド協会ライ		2020年指導ライセンスの検定員資格　No.02155 MM検定（一般社団法人「日本マーチングバンド協会」）

センス検定員	平成 31 年 2 月	
２　特許等 なし		
３　実務の経験を有する者について特記事項 (1)音楽科主任	昭和 58 年～令和元年	37 年間、音楽科主任を務めた。教科の目標と指導計画を綿密に立て、平素の授業や各行事などでは音楽科の特色を生かした企画・立案をした。日常生活の音楽、給食準備の音楽、清掃活動時の音楽、下校放送などの楽曲の選定や運用を行い、学校全体に音楽を活用した。学習指導要領に求められる目標に向かって、生徒の実態をつかみ、より良い指導の方策を企て授業にあたった。評定だけでなく、過程の活動の評価を大切にした。その評価は、自己の指導の振り返りとし、何よりも、「楽しい授業」を念頭におき、高度な技能を習得させることよりも生涯にわたり音楽を愛好する心情を培うことを主眼に置いた。
(2) 学級担任	昭和 58 年～平成 11 年 / 平成 14 年～23 年まで	30 年間、学級担任を務めた。基本的生活習慣の定着、その上で学習を大切にさせ、集団を生かした学習活動の展開を図った。特に、クラスの協力や団結力を高め、リーダーづくりにも力を入れた。そのために、それぞれの役割を考え、理解させて、生徒の主体的な活動を推進していった。
(3) 教育実習生指導教官	昭和 60 年～令和元年	各大学から数十名に及ぶ教育実習生を受け入れた。そこでは実習の心構え、音楽授業の実際を指導した。生徒理解、目標とそれを達成するため指導案作成と評価を指導した。最終の研究授業では、目標の達成度を計り、授業研究協議会でまとめをした。
(4) 学年主任	平成 11 年～平成 13 年 / 平成 24 年～平成 30 年	10 年間、学年主任として、学年全体の方向性を決定した。問題行動の解決や保護者への協力要請などを率先して行なった。学年集会は定期的に行うものと、時々に応じて必要な内容でタイムリーに開催するものなど、メリハリをつけて生徒への学年目標の定着を図った。
(5) 音楽科における特別支援教育の推進	平成 24 年～令和元年	生徒の個別支援計画を立て授業を担当した。自閉傾向にある生徒には、「こだわり」のある部分は尊重しながらも、なるべく幅広く興味・関心が持てる授業になるよう工夫した。
(6) 部活動顧問の指導 ○蟹江町立蟹江中学校での吹奏楽部顧問

4　その他 ○中部日本吹奏楽連盟　優秀指導者賞	平成16年　3月	蟹江中学校吹奏楽部を中部日本大会出場に導いた指導への功績
○愛知県津島市教育委員会表彰	平成31年　4月	多年にわたり津島市の音楽教育の振興に貢献した功績

研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書） (1) 合唱曲集「AmaSong」	共	平成 22 年改訂第 1 刷 平成 24 年第 2 刷	海部津島音楽教育連盟発行	中学校での歌唱指導は、変声期の影響もあり、難しい問題が多い。特に中学生が好む音楽はテレビラジオの影響もあり、学校の教科書離れが著しい。そのため質の高い合唱曲の発掘が必要である。そこで海部地区独自の合唱曲集(AmaSong)を発行し地区の全部の学校で使用した。 A4版　ｐｐ1―ｐｐ240 共著者：加藤利彦　(選曲担当) 他5名 本人担当部分：全体構成と20曲の解説執筆pp30―pp50
⑵ 次世代の音楽科指導－音楽教師に求められる資質・能力－	単	令和元年12月3日	ＥＲＰ出版	小学校から高等学校までの音楽科教育の目標・内容についての基本をおさえ、指導計画および指導案の作成・さらに評価を生かした授業づくりについて、実例を示して述べている。指導法では、発達段階に対応した指導・支援方法のポイントについて述べ、特に器楽演奏と合唱（日本の伝統的な歌唱法を含む）を中心として、共通教材にポイントを当てて述べている。最後に音楽科教育実習ならではの心得を掲載した。 Ｂ5版　pp１－pp83
⑶ simple is perfect による効率的なスクールバンド指導－管打楽器の SP 練習について－	単	令和5年3月7日	ＥＲＰ出版	昨今、働き方改革が叫ばれ、また新型の感染症の広がりも加担し、短い時間で効果の上がる音楽活動が求められている。しかし、器楽指導においては多種の楽器が存在し、一律に同じ指導ができないことが、この分野の難しい点であった。そこで、従来はその発音原理に基づく指導が主であったのに対し、本書では、楽器の構造上の音響的特徴を踏まえ、ポイント一つに絞りながら、短時間で効果の上がるトレーニング方法について述べていく。 Ｂ5版　pp１－pp89
(学術論文等) ⑴ 演奏の妨げとなる過緊張（あがり）の軽減について	共	平成31年3月	奈良学園大学紀要第10集（10頁）	優れた技能があるが、本番で実力を発揮できない生徒に配慮した指導法を論じた。過度の「あがり」のメカニズムを研究し、生徒アンケートを基に指導方法を示した。過去の失敗のイメージに向き合う、成功体験の積み重ね、あがっても演奏可能なメンタルの養成、集団演奏のメリットなどを提案した。実際に実践して、生徒の変化の過程と指導の効果を検証した。 本人担当部分：メカニズム研究と実践と検証部分を単著 pp99～pp108 共著者：辻井直幸、大西雅博、

⑵ 義務教育（中学校）における合唱指導の困難さとその打開策	共	平成31年3月	奈良学園大学「人間教育」第2巻第2号	歌唱指導について、音楽を巡る社会的背景と特に成長期の抱える問題点を明確にし、効果的な指導を論じた。特に日本人的発声から伝統的な西洋のベルカント唱法への移行指導、変声期の指導について具体的に論じた。発声指導とファルセット、楽曲に応じた歌い方、性別による指導などを中心に、実際の授業で楽曲を選定し、段階的に「良い声」を出せるように指導検証を行った。 本人担当部分：全本執筆、pp51～pp60 共著者：辻井直幸、大西雅博
(3) 音楽科における合唱のための発声練習法－短期間で効果的な指導法に視点を当てて－	共	令和元年9月	奈良学園大学「人間教育」第2巻第8号	生徒は日常的に、音楽的な発声を行う機会がないから声楽的発声は難しい。本稿では、まず生徒が「流行歌」と言われる曲を好む理由を考え、さらにNHK合唱コンクールの歴史に触れ、その曲の活用を論じる。合唱に向けての発声の短期間でも可能な効果的な指導方法（音階練習をする。美しく響く音を聴き取る。響きを記憶させて歌う。高い音の練習に入る。サイレンの練習。オクターブ上で歌う。）を提案する。これをセットで繰り返すと有効であることを実践的に論じた。 本人担当部分：全文執筆、pp183－pp192 共著者：大西雅博、辻井直幸
(4) 音楽教育で使用する「音」の理解－「楽典」の理解を効果的に支援する音楽指導法－	単	令和元年9月	奈良学園大学「人間教育」第2巻8号	楽譜は目に見えない音を、誰にでも見えるようにする試みである。器楽演奏にも合唱においても、楽譜の意味は大きく、最も音楽を形に表したものであるといえる。本稿では、楽譜に焦点を当て、その歴史的な成立の過程を記した。また生徒が、より興味を持って取り組む音楽指導の、特に楽典の指導方法を提案した。世界や日本の伝統的楽譜の歴史的な成り立ち、楽譜の見方（音の３要素、音の分類）、その他の日常音、「音」の表し方を、順を追って論じるたうえで、具体的な指導方法に導入して検証結果を述べた。 pp211～220
(5) 新しい時代に向かう鑑賞教育	共	令和元年9月	奈良学園大学紀要第11集	従来の鑑賞教育と言えば、鑑賞後に感想を書かせるだけのものが多かった。しかし、学習指導要領の変遷に沿って、その曲の背景となる地域や文化を研究させ、自分の言葉で根拠を持って説明できる鑑賞能力の育成を目指す必要性を論じた。新学習指導要領に求められる、言語教育やメディアと結びついた方向を示した。また、教科書に載っているという理由だけの鑑賞曲選曲にとどまらず、指導者の深い楽曲理解を伴う、新しい時代に合った作曲家の作品の選択視点を示し、鑑賞教育の在り方を具体的に例示して論じた。 本人担当部分：全文執筆　pp113－123 共著者：大西雅博、辻井直幸

(6) 教職の専門性と教育実習の意義	共	令和元年 9 月	奈良学園大学「人間教育」第 2 巻第 8 号	教職の専門性と教育実習の意義について、音楽科の立場から論じた。専門性を２つに分類し、批判的合理主義、職の特質の視点から、専門性を述べた。教育実習の意義は、教育現場の体験、教育理論と指導技術の獲得、自己の人間性の自覚にあるとした。教育実習生に求める資質は、学びへの意欲と謙虚さの両面、自分磨きの向上心であると示した。また、学校は社会の縮図と気づくことの大切さを記した。さらに音楽の教師独自に求められる資質能力と、そのために求められる指導法も論じた。 執筆担当部分：教育実習の意義、教育実習生に求める資質と指導法の部分を単著 pp193－pp200 著者：辻井直幸、松田智子
(7) 成長し続ける教師となるために ―「使命感」と「職務遂行力」と「自己統制力」に視点をあてて―	共	令和元年 10 月	奈良学園大学「人間教育」第 2 巻第 9 号	教師の成長とは何かを、「使命感」と「職務遂行力」と「自己統制力」に視点を当てて論じた。使命感は、師範学校の「教育学教科書」を参考に、「職務遂行力」については、まず教育実践力に焦点を当てて、教育課程編成、授業の展開における具体的配慮等について論じた。最後に、現在の「快楽原則」の価値環境において、自己統制力の必要性を述べ、教師として、自己の精神的内面をいかに自己統制するかが成長につながることを提案した。 執筆担当部分：教師の成長段階「守」「破」「離」の部分と自己統制力とまとめの部分単著 pp234―241 共著者：辻井直幸、松田智子
(8)「教育における守・破・離」－日本伝統音楽の修得を参考にして－ Ⅰ・Ⅱ	単	令和元年 11～12 月	教育プロ第 49 巻第 25 号 50 巻第 26 号	教師の成長を日本の伝統文化の習得を参考にして、「守・破・離」の学び方、時期になぞらえて、論じた。特に箏の習得の段階を詳細に説明して例示し、「守・破・離」の時期の意味するところを具体的に記した。この 3 段階はホップ・ステップ・ジャンプのような次々と階段状に上るものでなく螺旋状に向上するものであると記した。4 頁
(9)音楽教科における実践的合奏指導法－基本練習を核とした効率的な器楽指導のあり方－	共	令和 2 年 3 月	奈良学園大学紀要第 12 集	合奏や合唱指導を行なうとき、指導者は必ず指揮台に立つことになる。また、コンクールや発表会に出場するときは、「本番」という華やかな舞台の上で、指揮者として生徒と一体となって音楽を披露することになる。これは他教科の先生や運動部の顧問などとは決定的に違うことである。つまり音楽教師は教科の指導はもとより、さらに「本番」という、舞台上で指揮者として出演者（生徒）と同等に審査・評価され平素の指導を問われるという運命になる。そこで、今回は表現の領域にスポットを当て、我が国の音楽教育の中で、やや専門性が高く、指導が難しいとされる「器楽」の指導の仕方について、効果的な指導の在り方を追求し、また、それに伴う学校現場における「合奏指導」のあり方について、考察する。 共著者：大西雅博、辻井直幸

(10) 簡易伴奏のための合理的なピアノ（鍵盤楽器）演奏方法－コードネームを基にした即興伴奏へのアプローチ－	単	令和元年12月	奈良学園大学人間教育学部人間教育ジャーナル(ONLINE ISSN:2433-779X) 第2巻第11号	音楽を学ぶ者にとり、ピアノ演習は必修である。なぜなら、ピアノは鍵盤楽器という構造上、音楽を視覚的にも捉えやすく、また一人でメロディはもちろんのこと、和声やリズムまで演奏することができるからだ。さらに、音域が広く、殆どの楽器の音域をカバーしているからである。大変便利な楽器であるため、見方を変えるなら、「音楽研究装置」と言っても過言ではない。音楽史に残る大作曲家たちは、すべからくこの楽器の名手である。本稿では、この素晴らしい楽器を、音楽を学ぶ学生はもちろんのこと、一般の音楽愛好家のためにも、より身近に取り扱えるよう、コードネームを基にして単純で効果的な学習方法の開発を提案した。さらに、鍵盤楽器に苦手意識を感じている者にも、この楽器のメリットが活かせるように、誰にでも分かる単純な楽譜例を示しながら、この楽器の演奏上の仕組みを解き明かしつつ論じた。
(11) 演奏に直結する生きた楽典の学習 －楽曲アナリーゼを促進させる楽典の学習方法－	単	令和2年2月	奈良学園大学人間教育学部 Online Journal of Humanistic Education 3 (2), 33-43, 2020-02	音は目に見えないため、音楽を学ぶ上で、それを視覚化することは、とても有効な手立てである。そのため、特に楽譜の存在は大きく、今の段階では最も音楽を形に表したものであると言える。また、楽譜は読むだけでなく、音楽を形成する上で、「楽典」という音楽の仕組みを表す理論の基になっている。そのため、楽典は音楽大学等の入試において、専門的な知識を量る出題科目の一つである。しかし、一般学生にとっては、音を記号や図、又は言葉に表すことは、普段の生活には無い特別なロジックを使うことになるため、その学習はかなり難しいものになる。しかも、単に知識の増加だけでは、実際の音楽の理解には繋がらない。その打開のため、本論では、生きた楽曲を分析し、そこから必要とする楽典の知識を身につける学習プロセスの工夫を紹介する。この取り組みを通して、本物の知識と技能を身につける方法を論じる。
(12) 音楽科における ICT 機器の使用法についての考察 －その効率・効果的運用へのアプローチ－	単	令和5年12月（発行予定）	奈良学園大学紀要第16集	2016年改訂・2017年告示され、平成33年度(2021)より全面実施された文部科学省の新しい学習指導要領は、現在(2023年) 3年目となる。この学習指導要領の改定は、凡そ10年単位で見直され、「生きる力」の育成を主軸に残しつつ、昨今のグローバル化や情報化等への社会情勢の進展に伴い、時代の流れに合わせて教育の求める方向をしっかりと示している。最近、特に話題に上っているA・I技術の目覚ましい発達に伴い、私たちの社会は多大な利便性を獲得しながらも、それによって今まで常識的にあった「仕事」の多くが、コンピューター等の機械に代替されつつある。現在教育の目指す「生きる力」は、これからの社会を「生きぬく力」としても、これらの社会情勢をしっかりと見つめたものでなければならない。そこで今回、「GIGAスクール構想」をはじめとして、教育の現場にも浸透してきているこの「情報化の波」に焦点をあて、ICT 機器を効果的に活用することにより、波に流されることなく、この波を利用し、より良い音楽の学習に繋げていく方法を考察する。
(教育実践記録等) (1) 音楽実習ノート	単	平成24年5月	津島市立藤浪中学校音楽科	毎年教育実習生を指導し、その際使用した冊子をまとめた。教育実習生の心得、公務員として守るべき法律、学級担任としての仕事内容と校務分掌、教材研究と指導案作成の実際、生徒理解と授業の展開、研究授業への目標と評価等について具体的に記載して事前に学習することを指示した。 A4版10頁冊子

(2) ジュニアバンドと劇場の在り方	単	平成25年3月	「世界劇場会議 国際フォーラム2011」の報告・論文集	愛知県ジュニアバンド指導者の代表としてパネラーを務めた報告集である。「劇場の役割と進む道」－すべての人々に喜びを！－というテーマで劇場と演奏の在り方について論じた。Session-4 でパネラーとして討論に参加した様子と、日頃のジュニアバンドでの合奏指導と研究活動について報告した。p 245～p 262
(3) 教育実習要項作成（音楽科実習の手引き）	単	平成25年8月	津島市立藤浪中学校音楽科	津島市立藤浪中学校での教育実習生受け入れの「実習ノート」を再度見直してまとめたもの。特に音楽科の実習生に特化したものを作製し、市内の他の中学校でも活用された。 A4 版 10 頁冊子
(4)基本を大切にした合唱指導	単	平成 26 年 10 月	海部地方現職教育研究会発行	藤浪中学校の実践（今咲き誇る花たち）を DVD を使い、基本的な技術指導を大切にしながらも、意欲が音の支えに繋がる合唱の在り方を追求し論じた。 A4 版 4 頁冊子と DVD
(5)歌詞の意味と音楽の一致について	単	平成 30 年 10 月	海部地方現職教育研究会発行	継続研究[響き合える子－思いが伝わる音楽活動－］についての共同研究を藤浪中学校の実践（「走る川」）を DVD を使い、歌詞の意味と音楽は一致することを証明し発表した。 A4 版 4 頁冊子と DVD
(6)歌詞を大切にした音楽理解の深化	単	令和元年 10 月	海部地方現職教育研究会発行	継続研究［響き合える子－思いが伝わる音楽活動－］についての共同研究を藤浪中学校の実践（「君に届け」）を DVD を使い、歌詞を大切にすることが音楽的理解に大きく繋がり、より良い合唱になることを実践発表した。 A4 版 4 頁冊子と DVD
(その他・音楽作品等) (1)吹奏楽アレンジンジ 20 選	単	平成24年9月	WinDo（web 出版）	Music office Onishi よりペンネーム「斎宮八千代」としてロシアの大作曲家達の名曲を中心に吹奏楽用のアレンジ 20 曲（1 曲 3 分）を出版する。(スコア 300 頁)
(2)「ソアレコンサート」用アンサンブル曲アレンジ 12 種	単	平成 25 年 4 月	MAESTRO（web 公開）	「翼をください」をテーマとして、多様なアンサンブル形態で演奏できるようアレンジし 12 曲（1 曲 3 分の 12 ヶ月分）を「ソアレコンサート」のためにボランティア提供をした。(スコア 24 頁)
(3) Simple is Perfect ！による究極のバンド指導	単	平成 27 年 9 月	ジャパンライム株式会社	吹奏楽とマーチングのための指導用に DVD3 枚組 180 分を出版しそれぞれに指導のための解説をした。新任顧問やバンド指導初心者でも即実践できるように、実写映像と解説を一体化している。
(4)実践ドラムメジャー	共	平成 28 年 6 月	愛知県吹奏楽連盟発行	ドラムメジャー（指揮杖のテクニック）のための指導 DVD3 枚組 90 分を作成し出版した。内容は、パレードコンテストに初めて参加するバンドやドラムメジャーの指導に苦慮する吹奏楽部の実態に合わせて、見ればすぐ使えるような実践的指導 DVD となっている。 本人担当部分：監修者として、制作のための全体の台本全てを執筆した。 共著者：佐藤祐季（実技指導）、東邦高校マーチングバンド部（演技）
(5)「ラプソディインブルー」G.ガーシュイン作曲、辻井直幸 編曲	単	平成 29 年 6 月	WinDo（web 発行）	兵庫県双星高校吹奏楽部の依頼により有名なオーケストラ曲「ラプソディインブルー」のマーチングバンドで演奏できるようにアレンジし指導を行った。ジャズとロック、ポップスのティストをふんだんに使った豪華なアレンジで好評を得た。(バンドスコア 40 頁)

(6)「バッハロックブルー」 J.S.バッハ作曲 辻井直幸 編曲	単	平成 30 年 7 月	WinDo（web 発行）	愛知県春日井西高校吹奏楽部の依頼により有名なバッハの名曲を５曲織り交ぜ、マーチングバンドで演奏できるようにアレンジし指導を行った。バロック音楽の新たな可能性に聴くものを虜にする秀作。（バンドスコア 40 頁）
(7)「Canon」パッヘルベル作曲、辻井直幸 編曲	単	平成 30 年 7 月	WinDo（web 発行）	～和と洋が奏でる響き～「箏とピアノによるランチタイムコンサート」でパッヘルベル作曲の「カノン」(5 分) を 箏とピアノで演奏できるようにアレンジし演奏指導も行い、和楽器演奏の新しい可能性にチャレンジした。（スコア 5 頁）
(8)「春の海」宮城道夫作曲、 辻井直幸 編曲	単	平成 30 年 9 月	WinDo（web 発行）	第 21 回ミッドランドスクエア音楽祭（名古屋駅前）が開催され宮城道夫作曲の「春の海」を箏とピアノで演奏できるようアレンジした。8 分の演奏指導も行い、全く違う「和と洋」の新しい音楽の融合を実現した。（スコア 5 頁）
(9)「ラストタンゴインブルーＡ．ピアソラ作曲 辻井直幸 編曲	単	平成 31 年 2 月	WinDo（web 発行）	愛知県東邦高校マーチングバンド部の依頼により有名なピアソラの名曲を４曲織り交ぜ、マーチングバンドで演奏できるようにアレンジし指導を行った。タンゴの強烈なリズムとアコーディオンの音色を意識した他に類を見ない、エキゾティックな仕上がりとなっている。（バンドスコア 40 頁）
(10)「ホワイトロード」 パットメセニー、他作曲 辻井直幸 編曲	単	令和元年 6 月	WinDo（web 発行）	愛知県の一般マーチングバンド「インペリアルサウンズ・ドラムアンドビューグルコー」からの依頼によりゲーム音楽とポップスの融合した新たなマーチングバンドの可能性を追求する作品。使用曲は「Altal」「残月」「シングルアゲイン」「ミヌアノ」の４曲となっている。（バンドスコア 50 頁）
(11)「童歌幻想」 辻井直幸 作曲	単	令和元年 7 月	WinDo（web 発行）	愛知県東邦高校マーチングバンド部の依頼により、日本の童歌を題材に完全オリジナルで作曲した。有名な童歌を彷彿とさせる独自の作風は、マーチングバンドで演奏することにより、和と洋の斬新なコラボレーションを実現した。（バンドスコア 50 頁）
(12)「To Be Vivid Stars」 八木澤教司 作曲 辻井直幸 編曲	単	令和 2 年 10 月	WinDo（web 発行）	静岡県浜松市立高校吹奏楽部の依頼により、八木澤教司作曲の吹奏楽曲をマーチングバンド用にアレンジし指導を行った。中間部分にテーマをポップス調にアレンジしコラージュしたが原曲の作者（八木澤氏）より好評価をいただいた。（バンドスコア 40 頁）
(13)「天空のフーガ」 J.S.バッハ作曲 辻井直幸 編曲	単	令和 3 年 1 月	WinDo（web 発行）	愛知県春日井西高校吹奏楽部の依頼により、前回に引き続き、バッハの名曲を６曲織り交ぜ、マーチングバンドで演奏できるようにアレンジし指導を行った。コロナ禍のため大会（令和２年度）は開催されなかったが、名古屋マーチングバトンウェーブで初演し好評を博す。（バンドスコア 40 頁）
(14)「悪魔のトッカータ」 J.S.バッハ作曲 辻井直幸 編曲	単	令和 3 年 5 月	WinDo（web 発行）	静岡県浜松市立高校吹奏楽部の依頼により、J.S.バッハ作曲の有名なバロック曲「トッカータとフーガニ短調」をメインにマーチングバンド用にアレンジし指導を行った。 10 月 31 日に行われた東海マーチングコンテストで初演し金賞を受賞した。（バンドスコア 50 頁）
(15)「スーパーフライ・ライブ」 越智志帆 作曲 辻井直幸 編曲	単	令和 3 年 6 月	WinDo（web 発行）	愛知県東邦高校マーチングバンド部の依頼により、「NHK 紅白歌合戦」でも歌われた「愛を込めて花束を」を中心数曲をメドレーにしてマーチングバンドでも演奏できるようにアレンジし指導を行った。人気歌手のライブコンサートが開催されている様子をマーチングで表した。（バンドスコア 50 頁）

(16)「ジキルとハイド」 フランク・ワイルドホーン 作曲 辻井直幸 編曲	単	令和４年３月	WinDo（web 発行）	愛知県春日井西高校吹奏楽部の依頼により、ミュージカル曲「ジキルとハイド」をマーチングバンドでも演奏できるようにアレンジし指導を行った。一般的に使用されている版とは違い、依頼されたバンドの特性を活かした表現ができるようにアレンジをした。 10 月 15 日長野県ビッグハットで行われた東海マーチングコンテストで銀賞を受賞した。(バンドスコア 40 頁)
(17)「漢の戦い」 大西洋平 作曲 辻井直幸 編曲	単	令和４年５月	WinDo（web 発行）	愛知県の一般マーチングバンド「愛西ブローイング」からの依頼により、ゲーム音楽と和製ポップスを融合したアレンジで戦国武将「前田慶次」の半生をマーチングで描いてみた作品。 9 月 18 日に行われたマーチングコンテスト愛知県大会で金賞を受賞した。(バンドスコア 48 頁)
(18)「ノートルダムの鐘」 A.メンケン 作曲 辻井直幸 編曲	単	令和４年６月	WinDo（web 発行）	静岡県浜松市立高校吹奏楽部の依頼により、ディズニー映画作品で有名になった「ノートルダムの鐘」をマーチングバンド用にアレンジし指導を行った。吹奏楽の団体がマーチングショウにチャレンジするため、音楽的な部分（音色やニュアンス等）を大切にできるアレンジの工夫をした。(バンドスコア 48 頁)
(19)「美空ひばりショウ-愛燦燦-」 小椋佳 作曲 辻井直幸 編曲	単	令和４年７月	WinDo（web 発行）	愛知県東邦高校マーチングバンド部の依頼により、「NHK 紅白歌合戦」で話題になった AI による「美空ひばり」の新曲「あれから」を冒頭に、ヒット曲「愛燦燦」等、数曲をメドレーにしてマーチングバンドでも演奏できるようにアレンジし指導を行った。9 月 18 日に行われたマーチングコンテスト愛知県大会で金賞を受賞した。(バンドスコア 48 頁)
(19)「童唄幻想Ⅱ」 辻井直幸 作曲	単	令和５年５月	WinDo（web 発行）	愛知県春日井西高校吹奏楽部の依頼により、オリジナル曲「童唄幻想Ⅱ」を作曲し指導を行った。一般的に使用されている版とは違い、依頼されたバンドの特性を活かした表現ができるように作曲をした。 ９月に行われた県大会で愛知県代表に選ばれたため 10 月 14 日に長野県ビッグハットで行われる東海マーチングコンテストに出場する。(バンドスコア 39 頁)
(20)「坂本九メドレー」 中村八代 作曲 辻井直幸 編曲	単	令和５年８月	WinDo（web 発行）	愛媛県 高松市 東雲東校吹奏楽部の依頼により、坂本九のヒット曲４曲をメドレーにして吹奏楽用にジャズアレンジし指導を行った。この曲は来年度のステージドリルコンテストと高文祭で演奏する予定である。少人数のメンバーでも、しっかりと響くようにアレンジの工夫をした。(バンドスコア 37 頁)
(21)木管八重奏曲「風笛」 (22)大島ミチル 作曲 辻井直幸 編曲	単	令和５年９月	WinDo（web 発行）	愛知県あま市立甚目寺南中学校の依頼により、アンサンブルコンテストのための木管八重奏曲をアレンジした。この曲は NHK 連続テレビ小説『あすか』のテーマ曲であったが、平易で美しい旋律は、楽器初心者の多い中学で、音色づくりも兼ねて、とても良い教材となった。本番の演奏は 12 月になる予定である。（バンドスコア６頁）

別記様式第４号（その２）

教育研究業績書

2024/3/31

氏名　　中島　栄之介

研究分野	研究内容のキーワード
特別支援教育	教育課程、合理的配慮、病弱教育、重症心身障害教育、知的障害教育、肢体不自由教育、発達障害、ICT教育、知的障害におけるプログラミング教育

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
１　教育方法の実践例 教育課程の特色ある編成 (1)特別支援学校（病弱・身体虚弱）での教育課程の編成	平成19年4月～22年3月	病弱教育における準ずる指導、合わせた指導、自立活動中心の指導の教育課程の編成を行うとともに、訪問教育等による肢体不自由、重度・重複障害の教育課程の編成もあわせて行い、学校全体の調整も行った。（兵庫県立上野ヶ原特別支援学校での実践）
(2)特別支援学校（知的障害）での教育課程の編成	平成22年4月～平成31年3月	知的障害教育（普通科）における、合わせた指導、自立活動中心の課程、訪問教育の教育課程及び併せ有する肢体不自由、重度・重複障害の教育課程の編成。知的障害教育（高等部職業科）における教科中心の教育課程、専門学科の教育課程の編成。 （兵庫県立阪神昆陽特別支援学校、芦屋特別支援学校での実践）
２　作成した教科書，教材 (1)教育実習 ・教育実習の手引き（単著） 発行：兵庫県立芦屋特別支援学校	平成23年7月 平成30年	特別支援学校教育実習生の手引き。実習の日程と内容、障害、教育課程、授業研究、特別支援教育の歴史、特別支援教育と人権についてなど教育実習全般についてまとめ平成30年まで使用した。
・教育実習の心得（単著） 発行：兵庫県立阪神昆陽特別支援学校	平成24年5月～平成27年10月	特別支援教育実習生の手引き。実習の日程と内容、交流及び共同学習、専門学科（職業科）の教育課程の特色、授業研究について教育実習全般についてまとめ平成30年まで実習生対象に使用。
(2)介護等体験 ・介護等体験の手引き（単著） ・介護等体験講話資料（単著）	平成20年4月～25年4月	兵庫県立上野ヶ原特別支援学校、兵庫県立芦屋特別支援学校、兵庫県立阪神昆陽特別支援学校で作成し、平成30年まで実習生対象に使用中。
(3)医療関係者体験実習 ・特別支援教育とは（単著）	平成25年4月～平成31年3月	宝塚大学看護学部、神戸大学医学部、兵庫医科大学医学部の学生に対して、障害児と人権、特別支援学校の教育課程、合理的配慮と基礎的環境整備、ICFとICIDH、発達障害の臨床所見等、医師看護師になった際に必要な知識の指導冊子。
(5)特別支援教育総論（共著） 【再掲】	平成31年	入門者に対して特別支援教育の概要について、特別支援教育の理念、制度、歴史に加えて視覚、聴覚、知的、肢体不自由、病弱、発達障害、学習障害等について心理と生理、病理、教育課程と指導法等全般について記述した。また、特別支援教育について（理念と制度、歴史、自立活動と個別の教育支援計画及び個別の指導計画）、指導の実際（特別支援学校と特別支援学級等）、理解と指導（発達障害、学習障害、自閉症スペクトラム等）、課題と展望（センター的機能とコーディネーター、授業のユニバーサルデザイン化、ITCの活用、交流及び共同学習、インクルーシブ教育、障害の多様化と重度・重複化、医療的ケア、危機管理、地域や関連機関との連携、キャリア教育）など、現場に即した内容とした。
３　教育上の能力に関する大学等の評価		

(1)奈良学園大学人間教育学部の学生アンケート	平成30年6月	「人間教育学」の講義で特別支援教育概論、知的障害特別支援学校の実際、知的障害特別支援学校の教育課程、知的障害特別支援学校の指導の実際を話した。満足度は4点満点で3.7であった。
	平成31年6月	「現代教育課題B(特別支援)」において、講義内容に関するアンケートを行った。受講者13人全員より回答があり、講義内容については概ね理解できるなど、高評価であった。
	令和2年	「現代教育課題B（特別支援）」において、講義内容に関するアンケートを行った。受講者54人中44人より回答があり、講義内容については概ね理解できるなど、高評価であった。 現代教育課題B(特別支援) 中島 栄之介 54 44 81.4の回収率で1項目以外は5点満点中4.5以上であった。残り1項目は講義が難しかったかという質問で3. 9であった。
	令和5年	「特別支援教育総論」において，講義内容に関するアンケートを行った。55人より回答があり，総合的に見て3.98の評価であった。「現代教育課題B(特別支援)」については，総合的に見て4.67の高評価であった。
4　実務の経験を有する者についての特記事項 (1)特別支援教育における情報教育（ICT）の構築	平成6年4月～現在に至る	兵庫県阪神地区学校で特別支援教育情報教育担当者を務める。平成17年～18年は兵庫県教育委員会情報教育専門推進員。令和元年度は兵庫県立芦屋特別支援学校と共同でマイクロソフト社の支援を得て特別支援学校におけるプログラミング教育の在り方について検討してきた。
(2)障害別の教育課程の編成	平成19年4月～平成31年3月	特別支援教育における準じた指導、合わせた指導、自立活動中心の指導、訪問教育など教育課程の編成を行ってきた（知的障害、肢体不自由、病弱、重度・重複）
(3)特別支援学校における教育実習生の指導	平成19年4月～平成31年3月	毎年実習生を受け入れた。実習の日程と内容、障害、教育課程、授業研究、特別支援教育の歴史など教育実習全般について指導。
(4)特別支援学校における介護等体験の指導	平成19年4月～平成31年3月	介護等体験の学生を毎年約30大学より250名程度受け入れた。特別支援教育の意味について実践的に指導を行った。
(5)新任特別支援病弱学級担当教員等研修講師（兵庫県教育委員会主催）	平成24年4月～28年3月	阪神昆陽特別支援学校（新設校で高等学校との交流及び共同学習、職業科という特色を持つ）の視察者を対象教育課程の特色、交流及び共同学習について講話を行った。海外、大学（大学生大学院生含む）関係、教育委員会関係など16団体に対応。他に特別支援学校関係、研修関係などを加えると述べ約150件に実施。
(6)医療関係者体験実習等講師	平成19年4月～平成31年3月	宝塚大学看護学部、神戸大学医学部、兵庫医科大学医学部の3大学延べ60人の学生に対して、障害児と人権、特別支援教育概論、発達障害の臨床所見等について指導
(7)兵庫県立芦屋特別支援学校主催、阪神間特別支援学校研修会講師	令和元年8月	兵庫県立芦屋特別支援学校職員を対象として、高等部での共同研究の様子を紹介しながら、特別支援学校におけるプログラミング教育の進め方について講演した。次年度より開始されるプログラミング教育の進め方について、参考になったと好評であった。
(8)奈良県次世代教員養成塾第2回講座　講師	令和元年11月～令和3年11月	奈良県下の小学校教員を目指す高校2年生約40人に授業を行った。道徳を中心に、伝えることの難しさをコミュニケーションについてグループで討議したり、障害のある子どもたちについて考えたりしながら行った。奈良県教育委員会のメールマガジンなどにも取り上げられるなど非常に好評であった。

(9)兵庫県言語聴覚士会小児委員会　学習会講師	令和元年12月	障害のある子どもたちの就学先について、兵庫県下の小児を対象としている言語聴覚士に対して講演した。卒業後の生活等も含めた講演を行い好評であった。
(10)兵庫県立こやの里特別支援学校校内研修会講師	令和元年12月	プログラミング教育の推進に関する取組について～芦屋特別支援学校職業班の取組～と題して、特別支援学校におけるプログラミング教育の進め方について講演した。他校での共同研究の事例など具体的な内容を入れたので非常に分かりやすかったと言う評価を受けた。
(11)兵庫県特別支援教育諸学校長会　研修会講師	令和2年1月	特別支援学校におけるICT教育−プログラミング教育を始める決意−と題して兵庫県下の特別支援学校の校長先生方に講演を行った。次年度以降小学部で始まるプログラミング教育について背景となる考え方、取り組みの進め方などを講演した。講演後も質問が続くなど高評価であった。
(12)兵庫県特別支援学校知的障害教育研究協議会　研修会講師	令和2年11月	兵庫県下の知的障害教育特別支援学校教員等約120人を対象として、合理的配慮と交流及び共同学習について、阪神昆陽特別支援学校の初期の実践を踏まえて、講演、指導助言を行った。同校には開設準備室より勤務したこともあり参加者より好評であった。
(13)兵庫県立西宮甲山高校研修会講師	令和3年8月	「特別支援教育とＩＣＴ」と題して、同校教員を対象として研修会をオンラインで実施した。特別支援教育の基礎、ICT機器の活用、デジタル教科書の使用体験などを実施し好評であった。
(14)兵庫県立西宮香風高校	令和3年10月	「ＩＣＴを使った合理的配慮等」と題して在籍している生徒に対してICT機器を使った合理的配慮の方法などを検討した。
(15)国立特別支援教育総合研究所　令和3年度第三期特別支援教育専門研修　病弱教育専修プログラム　講師（小・中学校における病気のある子供の健康管理）	令和4年3月	国立特別支援教育総合研究所の研修生に対して、小中学校における病気のある子供の健康管理について講義を行った。主として心臓疾患について病理・保健、指導の実際、指導計画の作成等についてディスカッションを交えながら講義を行った。現場に即した内容であると好評であった。
(16)令和4年度国立特別支援教育総合研究所第二期特別支援教育専門研修　病弱教育専修プログラム　講師（小・中学校における病気のある子供の健康管理）	令和4年11月	国立特別支援教育総合研究所の特別支援学校所属の研修生に対して、小中学校における病気のある子供の健康管理について講義を行った。主として心臓疾患について病理・保健、指導の実際、指導計画の作成等についてディスカッションを交えながら講義を行った。現場に即した内容であると好評であった。
(17)令和3年度国立特別支援教育総合研究所第二期特別支援教育専門研修　病弱教育専修プログラム　講師（小・中学校における病気のある子供の健康管理）	令和5年7月	国立特別支援教育総合研究所の特別支援学校所属の研修生に対して、小中学校における病気のある子供の健康管理について講義を行った。主として心臓疾患について病理・保健、指導の実際、指導計画の作成等についてディスカッションを交えながら講義を行った。現場に即した内容であると好評であった。
５　その他		
(1)兵庫県立芦屋特別支援学校　学校評議員	令和元年6月～令和5年5月	兵庫県立芦屋特別支援学校の学校評議員として、評議員会に出席し、意見を述べた。
(2)兵庫県言語聴覚士会小児対策部　部員（令和3年度までは小児委員会　委員）	平成29年度6月～現在に至る	兵庫県言語聴覚士会小児委員会委員として、県内小児領域担当の言語聴覚士の研修を計画、運営している

職務上の実績に関する事項

事項	年月日	概要
１　資格，免許		
(1)養護学校教諭1級普通免許状	昭和59年3月	免許状番号：昭５８養学１普第８０号（大阪府教育委員会）
(2)小学校教諭1級普通免許状	昭和59年3月	免許状番号：昭５８小１普第１４８０号（大阪府教育委員会）

(3)幼稚園教諭2級普通免許状	昭和59年3月	免許状番号：昭５８幼２普第４５３１号（大阪府教育委員会）
(4)修士（学校教育学）	平成8年3月	兵庫教育大学大学院 論題「重症心身障害児・者のコミュニケーション手段の獲得についての研究－シンプルテクノロジーとパーソナルコンピューターを用いて－」
(5)養護学校教諭専修免許状	平成8年3月	免許状番号：平８養子等第１号（兵庫県教育委員会）
(6)小学校教諭専修免許状	平成8年3月	免許状番号：平８小等第２１号（兵庫県教育委員会）
(7)言語聴覚士	平成16年3月	登録番号第５５４９号
2　特許等 ・特になし		
3　実務の経験を有する者についての特記事項		県立特別支援学校で病弱、知的障害、肢体不自由、重度重複障害の児童生徒の指導に当たる
(1)兵庫県立上野ヶ原特別支援学校教諭として	平成21年4月～22年3月	病弱教育学級（肢体不自由・知的障害との重複クラス）担任をする。教務部副部長として、すべての教育課程編成を担当した。教科学習グループ長、病棟訪問（重症心身障害グループ）を担当。
(2)兵庫県立芦屋特別支援学校教諭として	平成22年4月～23年12月	知的障害学級担任、情報図書部長、教務部長　教育課程委員長を務め、教育課程の点検を行った。特別支援教育における準じた指導、合わせた指導、自立活動中心の指導、訪問教育など教育課程の編成を実践。
(3)兵庫県立阪神昆陽特別支援学校教諭として	平成24年1月～26年3月	総務部長、教育課程編成の担当・入学選考を担当した。ただし平成24年1月新設校開講のため1～3月は開校準備室を兼務した。
(4)兵庫県立阪神昆陽高等学校教諭兼務として	平成29年4月～28年3月	多部制単位制高等学校の兵庫県立阪神昆陽高等学校教諭を兼務し、特別支援学校との連絡調整を行った。
(5)兵庫県立阪神昆陽特別支援学校主幹教諭として	平成26年4月～28年3月	総務部長、教育課程の編成、入学選考業務、高等学校との連絡調整、情報教育、人権教育、PTAの設立、初任者研修等行った。
(6)兵庫県立こやの里特別支援学校主幹教諭として	平成28年4月～29年3月	教務部長、教育課程の編成、入学選考業務、人権教育、情報教育、初任者研修、教育実習等を担当
(7)兵庫県立芦屋特別支援学校教頭として	平成29年4月～平成31年3月	県立特別支援学校管理職としての業務（高等部、総務部、生徒指導部他）兵庫県立特別支援学校教頭会役員を務める。
(8)地域公開講座講師	平成30年７月	教諭30人を対象に、特別支援教育におけるICTの活用「教育課程と発達段階とICTの関係を再考する」をテーマに講話。
(9) 兵庫県特別支援学校知的障害教育研究協議会　研修会講師	令和2年11月	前掲
(10) 国立特別支援教育総合研究所　特別支援教育専門研修　病弱教育専修プログラム　講師（小・中学校における病気のある子供の健康管理）	令和4年3月～令和6年3月	前掲
4　その他 兵庫県言語聴覚士会小児対策部　部員 （令和3年度までは小児委員会　委員）	平成30年4月～現在に至る	兵庫県言語聴覚士会小児対策部が主催する年4回の主として小児領域の言語聴覚士を対象とした研修会の開催。主として学校と言語聴覚士の情報交換の連絡担当。 令和5年度、研修会は事例研究、教材教具の展示等を行った。

研究業績等に関する事項

著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				

1　特別支援教育総論 :	共著	平成31年3月	ERP出版	入門者に対して特別支援教育の概要について、特別支援教育の理念、制度、歴史に加えて視覚、聴覚、知的、肢体不自由、病弱、発達障害、学習障害等について心理と生理、病理、教育課程と指導法等全般について記述した。また、特別支援教育について（理念と制度、歴史、自立活動と個別の教育支援計画及び個別の指導計画）、指導の実際（特別支援学校と特別支援学級等）、理解と指導（発達障害、学習障害、自閉症スペクトラム等）、課題と展望（センター的機能とコーディネーター、授業のユニバーサルデザイン化、ITCの活用、交流及び共同学習、インクルーシブ教育、障害の多様化と重度・重複化、医療的ケア、危機管理、地域や関連機関との連携、キャリア教育）など、現場に即した内容とした。 著者：中島栄之介、岡野由美子 執筆部分：知的障害部分以外全てを単著
（学術論文） 1. 特別支援教育における人権教育 ー障害者差別を題材とするまでー	単著	平成30年9月	奈良学園大学ジャーナル「人間教育」第1巻第7号pp 211 - 219	兵庫県立Ａ特別支援学校での実践例を検討。特別支援学校では在籍生徒が差別を受けると同時に差別をする側にもなるという人権教育の特徴がある。生徒にとり障害者差別を認識することは過去に受けた差別と向き合うことであり、自身の障害と向き合うこと、さらに今後の差別、そして、自らの持つ差別性と向き合うことでもあると論じた。
2. 特別支援教育の視点を生かした授業改善（１） 発達障害の視点から見たユニバーサルデザイン化による授業の改善	単著	平成30年9月	教育PRO pp.14-15	特別支援教育の視点を生かした授業改善について述べた。障害特性（とくに発達障害）について、介護等体験に実習に来た学生への説明をもとに支援の方向性の確認を行った。障害特性に配慮した授業を行うことや教室環境などに支援などの手立てを行うことはそのまま誰にとってもわかりやすいユニバーサルデザイン化の授業となり授業改善につながることに言及した。
3. 特別支援教育におけるインクルーシブ教育システム構築について ーインクルーシブ教育システム構築と合理的配慮の実際ー	単著	平成30年10月	奈良学園大学研究紀要9集pp.111～118	特別支援教育において、インクルーシブ教育システムの構築や交流及び共同学習の推進、合理的配慮の提供は次期学習指導要領でも中心の課題である。兵庫県内に平成24年に同一敷地内に開校した高等部単独設置の特別支援学校と多部制単位制の高等学校は、設立準備段階より交流及び共同学習を念頭に置いて計画されており、次期学習指導要領の内容を先進的に取り組んできたといえる。今回、両校の開校当初に行われた発達障害の特性に着目した工夫を重ねることで授業改善や生徒理解につながってきた実践を検討し提案した。
4. 特別支援教育の視点を生かした授業改善（２） 合理的配慮と基礎的環境整備の方向と授業の改善	単著	平成30年10月	教育PRO pp.14-15	特別支援学校における合理的配慮と基礎的環境整備の方向性と具体例について述べた。障害特性（時間、音声言語、ルール・場の空気）をもとにしての対応事例（授業で使うスライド、卒業式で使うスライド、教室環境の整備）より子どもたちは何に困りどのように配慮すればよいかを検討した。障害特性を踏まえることですべての子どもにとって学びやすい授業や環境となることに言及した。

5.特別支援学校における感染性胃腸炎の集団発生の要因とその拡大予防に関する検討	共著	平成30年10月	奈良学園大学研究紀要第9集　PP119 - 126	特別支援学校において感染性胃腸炎の集団発生から終息までの欠席・学級閉鎖の状況、対応策等の記録を分析し、感染ルート、感染拡大の原因、対応策等について検討した。感染経路の特定できない広がりもあり、学校医の助言を受け消毒等を行った。一般的対応だけでは著効なく、全クラスが時期をずらして学級閉鎖となるほど感染拡大、保護者への感染があった。拡大の背景として、感染力の強さに加え、施設設備、児童生徒数の増大による過密化、種々の集団の形成など特別支援学校特有の要因が示唆された。また、保護者への情報提供は感染拡大にも有効であったと考えられた。 共著者：中島 栄之介、　森一弘 担当部分：全文執筆
6. 肢体不自由者教育における対象の変遷と教育的対応上の課題(1) ー脳性麻痺に着目してー	共著	平成31年1月	奈良学園大学ジャーナル「人間教育」第2巻第1号pp11-16	肢体不自由児への記載の変遷と肢体不自由の一因となる脳性麻痺について整理することを目的とした。近年の学習指導要領の改訂によって，脳性疾患に起因すると考えられる認知・行動上の特徴の考慮の必要性が協調されるに至った。今日の障害の重度重複化といった要因により，個々人の状態像や教育上のニーズの把握は簡単ではなくなっている。それが個のニーズに応じた指導計画作成の障壁となっている。 共著者：　松﨑泰・中島栄之介・荻布優子・川﨑聡大 担当部分：肢体不自由教育について学校現場の教育課程と指導の部分　、重度・重複障害の部分
7. 肢体不自由者教育における対象の変遷と教育的対応上の課題(2) 　ー重度・重複障害に着目してー	共著	平成31年1月	奈良学園大学ジャーナル「人間教育」第2巻第1号PP.17-27	肢体不自由者教育における対象の変遷と教育的対応上の課題を「重度・重複障害」という言葉に着目して定義とその変遷、学習指導要領上の位置づけを中心に教育課程や指導法を検討した。いわゆる「重度・重複障害」を有する子どもたちの教育は、戦後すでに問題になっており制度改革や学習指導要領の改訂にごとに課題なった。また、新学習指導要領の開始以降では「発達障害」が「重度・重複障害」を考える上でポイントになる。 共著者：　中島栄之介・松﨑泰 担当部分：全文執筆
8. 特別支援教育と不登校について ー「学業」「居場所」に対する特別支援教育の視点からの検討ー	単著	平成31年3月	奈良学園大学研究紀要第10集PP109 - 112	特別支援教育の視点から不登校について分析し、不登校の要因として考えられる発達障害、学習障害を視点に考察した。発達障害に関しては子どもたちの帰属する集団の少なさ、学習障害については学力の問題につながると考えられた。特別支援の視点を入れた、集団作り、学習への合理的配慮が必要とされた。

9. 肢体不自由者及び重度・重複障害者教育における教育課程と指導 －発達段階とICT機器の活用に着目して－	単著	平成31年3月	奈良学園大学ジャーナル「人間教育」第2巻第2号 PP.61 - 65	肢体不自由者教育及び重度・重複障害者教育における教育課程と指導について発達段階とICT機器の活用に着目して学習指導要領、ICT機器の発展及び発達段階を中心に検討した。肢体不自由者教育での電動タイプライターや専用のコミュニケーション機器などに始まったICTの導入は、近年のタブレット端末や視線入力などのICT機器の発達により重度・重複障害を有する子どもたちにも積極的に活用されるようになってきた。そこで、ICT機器の導入について学習指導要領、子どもたちの発達の段階や障害の程度と教育課程と機器の活用について着目して考察した。その結果、ICT機器以外にもシンプルテクノロジーと言われる方法を取り入れるほかコミュニケーションや自尊感情などとの関連性を検討することが肢体不自由者及び重度・重複障害者教育における教育課程と指導についてポイントになると考えられた。
10. 病弱教育における教育課程と指導 －対象疾患の変遷と病弱教育特別支援学校及び病弱教育特別支援学級に着目して－	単著	平成31年3月	奈良学園大学ジャーナル「人間教育」第2巻第2号 PP.67 - 74	病弱者教育における教育課程と指導について、対象疾患の変遷による病弱教育特別支援学校及び病弱虚弱特別支援学級における教育課程と指導の在り方の変化について検討した。病弱教育では医療の進歩等により①対象疾患が変化したことによる入院期間の多様化と②高等部卒業後も続くフォローアップという変化が現れた。このため、病弱教育特別支援学校に在籍する生徒の減少、病弱教育特別支援学級の増加、さらに病弱教育特別支援学校では複数障害種の受け入れなど学校の在り方にまで変化が見られた。しかし、このような変化は病弱教育を行う学校現場に教員の専門性の確保や教育課程の在り方をはじめとする新たな課題をもたらしていることが示唆された。共著者：中島栄之介、松田智子 担当部分：全文執筆
11. 特別支援学校におけるプログラミング教育の在り方を考える－高等部職業パソコン班によるプログラミングによるモノづくり、販売会を目指しての実践より－	単著	令和2年12月	奈良学園大学紀要,13,27-35（2020-12-21）	2020（令和２）年度より特別支援学校小学部でもプログラミング教育が始まった。高等部の職業科でプログラミング教育を利用した販売会の取り組みを行った。その結果、ゲーム、BGM等の作成を行い、名刺などの製品を販売することができた。生徒には、集中して授業に取り組むことができた他、学習に対して意欲的に取り組むなどの変化や、メモなど文字による指示が有効であることがわかったことで生活面の変化もみられた。プログラミングを利用したモノづくりでは、複製による利点が見られた他、授業形態にも一斉授業ではなく個人で調べプログラミングに取り組み教師に必要なことを質問するという変化が見られた。また、職員には研修会も行った。今後は、カリキュラムマネジメントにより学校全体としてプログラム教育への取り組みを教育課程上に位置付けることが課題であると考えられる。

12. リハビリテーションにおける相互の認識理解と主体的な行動促進の重要性－特別支援教育における自立活動との比較から－ :	共著	令和2年12月	奈良学園大学紀要,13,49-56（2020-12-21）	医療現場やリハビリテーションにおいて、患者教育が重要視されてきた。かつては専門家からの知識提供を主とした一方向の「指導型」であった教育の在り方が、今では対象者の十分な理解を図ったうえで、自己決定、自己管理の行動へとつながるよう促す「学習援助型」の教育へとパラダイムシフトしている。医療者と患者間でニーズや認識の違い、ギャップが存在している。一方、学校教育の現場では、さまざまな疾病や心身の障害などを抱える幼児児童生徒に対しての教育が、時代とともに工夫され変遷してきた。患者教育、学校教育のいずれにおいても、対象者との双方向のやり取りを十分行い目標ありきの指導法となって両者間でギャップを生じないよう、対象の主体的な行動を促進する工夫が重要であると考える。 共著者：中島栄之介、林真太郎 担当部分：Ⅳ. 特別支援教育における自立活動について(PP.52-55)担当
（その他） 1.教員養成における肢体不自由教育の心理・生理・病理について-自立活動との関係に着目して-	単著	令和元年9月	奈良学園大学紀要第11集 PP.193-198	教員養成における肢体不自由教育の心理・生理・病理について自立活動との関係に着目して教員養成におけるあり方を考察した。肢体不自由教育における自立活動は体の動きの改善、合理的配慮による効果的な（学習）活動、交流や進路などへの参加が中心となる。そのため、医療機関などからの情報を自立活動等の教育課程の編成に生かす必要がある。近年、遺伝子検査の発展などによる診断技術の進歩等によって診断名や情報は多様化複雑化するなどの実態がある。しかし、検査を中心とした心理、体の動きの改善や予後を考えた教育課程の編成のために生理・病理の基本的な知識を生かすという基本的なことを生かすことがあらためて必要であると考えられた。
2.特別支援学校におけるプログラミング教育の開始に当たって －学習指導要領の位置づけと条件整備を中心に－ :	単著	令和2年3月	奈良学園大学紀要第12集 PP.151-157	来年度より、小学校でプログラミング教育が始まる。特別支援学校小学部でも同様である。そこで、小学校学習指導要領と特別支援学校学習指導要領におけるプログラミング教育及び情報機器の取扱いについて整理した。特別支援学校学習指導要領では、支援技術の観点よりコンピュータ等の情報機器の取扱いについて積極的に使用することが示されている。しかし、知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の教育課程においては、プログラミング教育を行う教科等の具体的な例示がないため積極的にプログラミング教育を行うカリキュラムマネジメントによらなければいけないことが示唆された。また、プログラミング成立のための情報機器や通信ネットワークなどの環境、情報機器の基本的操作の習得など課題は大きいと考えらえた。

（注）

１ 最近１０年間の教育活動、研究活動について作成すること。
２「教育活動」については各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については就任年月日順に記入すること。
３「研究活動」については、下記の点に留意すること。
①著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入すること。
②著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付すこと。
③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載すること。
④ 最近１０年間に著書･論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておくこと。
⑤ 芸術分野や体育実技等の分野を担当する教員については、著書・論文等以外の競技会、展覧会または演奏会等での発表のうち、特に顕著な業績と認められるものについても記載すること。このほか、専門分野の特性を考慮し、顕著な業績と認められるものがある場合もこれに含めてもよい。

別記様式第４号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　研　究　業　績　書

令和６年　５月　13日

氏名　根岸　章

研究分野	研究内容のキーワード
数学、情報学、経済学	作用素論、量子ウォーク、グラフ理論、垂直軸風車、ジニ係数

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
1　教育方法の実践例		
（1）数学用ソフトウェアを用いた数学教育	平成19年9月～平成29年3月	奈良産業大学（現奈良学園大学）情報学部の専門科目「情報数学Ⅱ」において、KNOPPIX/MathのCDを配布し、フリーの数式処理ソフトウェアMaximaを用いた数学の学習活動を行った。これによって、関数のグラフをパラメータを使って動的に動かしたりが容易になり、関数の係数の意味を把握した理が容易になるなどの教育効果があった。 平成22年度からは、学内のパソコンがCDから起動できなくなり、Windows版のwxMaximaを利用するように変更した。 平成25年度からは新規科目「ゲーム数理」においても、3次元曲線のパラメータ表示などの視覚化に役立て、平成26年度からは、新課程科目「情報数学Ⅱ」でも、多変数関数の微積分の学習で活用するようになった。
（2）「基礎数学」の科目設置	平成23年4月～平成28年3月	奈良産業大学（現奈良学園大学）の全学共通の導入基礎科目「基礎数学Ⅰ」「基礎数学Ⅱ」を設置し、4月入学時に全学的に数学についてのプレースメントテストを行い「基礎数学Ⅰ」から履修、「基礎数学Ⅱ」から履修、「履修免除」にわけ、それぞれの科目を各学部で複数クラス開講して少人数教育にした。それによって、大部分の学生は数学力の向上が見られるなど教育効果があった。
（3）講義科目「情報数学I」と演習科目「情報数学演習I」の同時受講	平成24年4月～平成28年3月	奈良産業大学（現奈良学園大学）情報学部の平成23年度のカリキュラム改革で、主要科目において講義科目と演習科目を併設して同時受講させるようにした。平成24年度から2年次配当科目として「情報数学Ⅰ」と「情報数学演習Ⅱ」を同時受講させ、両科目を連携させることによって数学的内容の理解とともに計算力をつけさせるように工夫した。
（4）講義科目「解析学基礎」における問題作成演習	平成30年4月～現在に至る	奈良学園大学人間教育学部の講義科目「解析学基礎」において、中学・高等学校数学を範囲とした問題作成を行わせた。問題作成と同時に対象学年や難易度、解答と解説も行わせ、将来中学校や高等学校の数学教員になる際に必要とされる知識や考え方を学ばせた。
（5）「数学道場」における学び合いの実践	平成30年4月～現在に至る	奈良学園大学人間教育学部中等（数学・音楽）専攻数学専修の学生に対し、相互の学び合いを基本とする学習の場「数学道場」を開き、学生同士の学び合いを推進している。
（6）オンラインによる授業の実践	令和2年4月～令和5年3月	奈良学園大学人間教育学部の講義科目、ゼミナール等において、オンラインによるリアルタイムの講義を行うなどを実践した。
（7）復習のためのスライドショーの自動実行	令和4年4月～現在に至る	専門科目で作成したプレゼンテーションファイルを繰り返し自動実行できるように設定し、コモンズ7のモニターで表示することにより、いつでも復習できるような環境を整備した
2　作成した教科書，教材		

（1）「情報数学Ⅱ」	平成25年4月～ 平成29年9月	奈良産業大学（現奈良学園大学）情報学部の専任教員として、平成23年度から改革されたカリキュラムの「情報数学Ⅱ」（専門科目、３年次配当、半期、２単位）で配布したプリント。2変数関数の微積分を中心として、変数変換や近似計算も扱っている。Maximaの利用により、微積分の具体的な計算よりその意味を考えることに集中でき、また、2変数関数のグラフなどが視覚化されわかりやすくなるなどの教育効果があった。A4判全28頁。
（2）「ゲーム数理」	平成25年10月 ～ 平成29年3月	奈良産業大学（現奈良学園大学）情報学部の専任教員として、平成23年度から改革されたカリキュラムの「ゲーム数理」（専門科目、３年次配当、半期、２単位）で配布したプリント。平成23年度のカリキュラム改革で設置されたゲーム制作で現れる数学のうち、CGの変換の基礎となる数学事項に特化した内容を扱っている。授業中のプレゼンテーションではカラー化したものを用意し、より興味をひきやすいようにするとともに、配布プリントはモノ黒を基調として読みやすい物にしている。全111シートである。
（3）「数学の世界」	平成27年4月～ 平成30年9月	奈良学園大学において平成26年度から設置された「数学の世界」（共通教育科目、1年次配当、半期、２単位）で配布したプリント。幾何、代数、解析の3分野を中心に、「数の世界」、「量の世界」、「形の世界」、「計算の世界」、「変化の世界」と題して数学の諸分野の内容を紹介する。整数の集合など簡単な材料を用いることによって、高校までの数学ではでてこない比較的新しい数学の概念や考え方を、興味をもって学習できるように工夫した。全99シート。
4）「日常に数学をー文理をつなぐ数学教室からー」	平成27年4月～ 平成30年9月	同志社大学文化情報学部の非常勤嘱託として担当の「数学入門」（専門科目、１年次配当、半期、２単位）で使用していた教科書。日常生活に近い場面での数学の活用例を中心に、関数、数列、行列の基礎知識と学びながら応用方法も学んでいく。 物体の動きと微分や、金利と数列、人数の変化と行列などを結び付け、学習者の興味を引き出しながら学んでいけるように工夫している。大田靖氏（岡山理科大学総合情報学部准教授）との共著でA５全169ページで学術図書出版より発行された（ISBN978-4-7806-0464-1）。根岸の担当分は第2部101ページである
（5）「情報数学演習Ⅱ」	平成27年9月～ 平成28年3月	奈良産業大学（現奈良学園大学）情報学部の専任教員として、平成23年度から改革されたカリキュラムの「情報数学演習Ⅱ」（専門科目、３年次配当、半期、１単位）で配布したプリント。平成23年度のカリキュラム改革で設置された情報系で必要とされる数学内容のうち、グラフ理論を扱っている。演習中心に展開しつつ、グラフ理論の基礎用語の説明や、さまざまな定理の証明を実例を交えつつ行い、より興味をひきやすいようにするとともに、配布プリントはモノ黒を基調として読みやすい物にしている。全84シートである。
（6）「解析学基礎サプリメント」	平成30年4月～ 令和5年3月	奈良学園大学人間教育学部の講義科目「解析学基礎」で配布したプリント。集合論の基礎から微分のロピタルの定理までをほぼすべてに詳しい証明をつけて述べた。高校数学では単なる計算で終わりがちな微分を、実数の基礎から確認していくことを目的としている。A4で38ページである。
（7）「解析学A（テーラー展開）」	平成31年4月～ 現在に至る	奈良学園大学人間教育学部の講義科目「解析学A（テーラー展開）」用に作成したパワーポイントファイル。実数の性質から始め、関数の極限と微分、リーマン積分から線積分までを扱う。高校数学の微積分に現れる定理、性質を詳しい照明を含めて学び、理解することを目的とする。令和5年度は全164シートである。

（８）「確率・統計基礎」	平成31年4月～ 令和4年3月	奈良学園大学人間教育学部の講義科目「確率・統計基礎」用に作成したパワーポイントファイル。平均、分散等の統計量の意味とその性質、計算方法から確率の公理と2項分布、正規分布による確率計算までを扱う。統計ではグラフの読み取り、確率では種々の法則を公理から導くなど、概念の理解深めることを目的とする。全81シートである。
（９）「確率・統計応用」	令和2年4月～ 令和4年3月	奈良学園大学人間教育学部の講義科目「確率・統計応用」用に作成したパワーポイントファイル。標本分布の確率的な意味から統計的推定、検定の概論といくつかの方法を具体例を中心に学ぶ。全112シートである。
(10) 「解析学I（ルベーグ積分）」	令和2年9月～ 現在に至る	奈良学園大学人間教育学部の講義科目「解析学Ｉ（ルベーグ積分）」用に作成したプレゼンテーションファイル。リーマン積分の復習からその欠点を述べ、ルベーグ積分の必要性を学び、可測集合、可測関数を定義してルベーグ積分を導入し、その性質を学ぶ。令和5年度は全163シートである。
(11) 「数学入門 第４版」	令和2年4月	同志社大学文化情報学部の非常勤嘱託として担当の「数学入門」（専門科目、１年次配当、半期、２単位）で使用中の教科書。数の集合の拡張とそれぞれの関係から始め、初等的な方程式の解法や１変数関数の初歩的事項から、微積分、テーラー展開や数値積分までを扱っている。第２版では集合や命題と論理を付録として追加した。第３版では、数値積分を削り、複素数の扱いと数列を追加した。 自然数から有理数を導出する考え方と、指数が自然数のベキから小数のベキへの導出を対比させるなどして、いろいろな事項をなるべく関連させながら学習していくように工夫し、それによって、学生に１変数の解析を学習しやすくする教育効果があった。 A5全145ページで学術図書出版より発行された。 （ISBN978-4-7806-0788-8）
(12) 「解析学基礎」	令和3年9月～ 現在に至る	奈良学園大学人間教育学部の講義科目「解析学基礎」用に作成したプレゼンテーションファイル。初等関数の微積分の計算から、多変数関数の導入とその微積分である偏微分と重積分の概念と計算までを扱う。令和5年度は全98シートである。
(13) 「解析学B（複素関数）」	令和3年9月～ 現在に至る	奈良学園大学人間教育学部の講義科目「解析学B（複素関数）」用に作成したプレゼンテーションファイル。複素数とその計算から導入し、複素関数とその微分、積分の計算とその諸性質までを扱う。令和5年度は全129シートである。
(14) 「応用数学Ⅲ（微分方程式）」	令和5年9月～ 現在に至る	奈良学園大学人間教育学部の講義科目「解析学Ⅲ（微分方程式）」用に作成したプレゼンテーションファイル。微分方程式とは何かから1階正規形微分方程式の初等的解法や微分演算子を用いた定数係数線形微分方程式の解法について扱う。令和5年度は全126シートである。
３　教育上の能力に関する大学等の評価		

（1）学生の授業評価アンケートの結果	平成27年度前期	最高点4.00で、「数学の世界」の総合的満足度は2.85であり、全体平均の3.29よりだいぶ低い値となっていた。講義内容・方法についての項目の科目平均は2.31～3.92となり、全体平均と比べ低い項目も高い項目もあった。低かったのは、授業時間外の指導等で、高かったのは、授業中の私語対策などであった。その他の担当科目については受講生が10名未満だったため、アンケートの対象外だった。
	平成27年度後期	「生活の中の数学」の総合的満足度は3.33であり、全体平均の3.24より若干高い値となっていた。講義内容・方法についての項目の科目平均も3.33～3.56となり、どの項目も全体平均より高い値となっていた。その他の担当科目については受講生が10名未満だったため、アンケートの対象外だった。
	令和2年度前期	授業アンケートを行った3科目中、総合満足度が最もよかったのが「確率・統計応用」の4.23であり、この科目はすべての項目が4以上だった。逆に最も悪かったのは「解析学Ａ（テーラー展開）」の3.53であり、資料のわかりやすさ等の項目も3点台後半と若干低めであった。
	令和2年度後期	授業アンケートを行った2科目中、総合満足度が最もよかったのが「解析学基礎」の4.11であり、この科目はすべての項目が4以上だった。逆に最も悪かったのは「解析学Ｂ（複素関数）」の3.39であり、5項目で3点代前半、5項目で3点台後半とあまり良い評価が得られなかった。
	令和4年度前期	授業アンケートを行ったのは「解析学A」のみであった。学習時間以外のすべての項目で学部平均を下回る結果となっていた。とくに差が大きかったのは説明のわかりやすさの項目だった。
	令和4年度後期	授業アンケートを行った2科目中「解析学基礎」については、ほとんどの項目が学部平均と同等の数値となった。「解析学B」はアンケートの回収率が悪かったため、評価できない。
	令和5年度前期	授業アンケートを行ったのは「解析学A」のみであった。学習時間と学修量の適切さ以外の項目で学部平均を下回る結果となっていた。昨年度と比較して学部平均との差は縮まっているが、平均が4を超えるように事業改善を行っていく。
	令和5年度後期	授業アンケートを行った2科目中「解析学基礎」については、多くの項目が学部平均と同等の数値であったが、説明のわかりやすさや、提示された資料のわかりやすさといった項目で、学部平均より明らかに低い数値となった。「解析学B」はほとんどの項目で学部平均と同等より少し下の結果であった。「人間教育実践力開発演習Ⅱ」はオムニバスであるため、自己評価の対象外である。
4　実務の経験を有する者についての特記事項		
（1）「こどもICT講座」	平成29年2月	三郷町文化振興財団と奈良学園大学が共催した三郷町の小学生を対象にしたカルチャーサロン「こどもICT講座」において、プログラミング言語「スクラッチ」を用いたプログラミングの教室の講師を務めた。 （参加者は三郷町の小学4年生から6年生16名）

（２）「子どもICT講座」	平成30年2月	三郷町文化振興財団と奈良学園大学が共催した三郷町の小学生を対象にしたカルチャーサロン「子どもICT講座」において、プログラミング言語「スクラッチ」を用いたプログラミングの教室の講師を務めた。 （参加者は三郷町の小学1年生から5年生14名）
（３）「たつたクラブ」	平成30年3月～ 現在に至る	三郷町において、3月より月１回行われている小中学生向けのプログラミング教室にサポーターとして参加している。8月から12月までは月2回のロボットプログラミング教室、および平成31年1月に行われた、競技会に主催者の一員として参加した。以降は、月1回のプログラミング教室を中心に活動し、令和2年2月には、第2回の競技会を開催した。
（４）「AIと囲碁」	平成30年6月	奈良県王寺町りーべる王寺において、王寺町と奈良学園大学の主催で行われた「第27回大学と地域をつなぐ公開講座『り～べるカレッジ』」において標記のテーマで講師を務めた。AIとその発展史を概観し、近年のキーワードとしてディープラーニングを取り上げた。合わせて、囲碁AIの開発史を概観し、モンテカルロ法とディープラーニングにより、急速に強さが増していったことを見た。その後、Excel上で簡単なニューラルネットワークモデルを作成し、ソルバー機能を用いて最適化を行うディープラーニングの実例を取り上げた。 （聴衆は地域の高齢者の方を中心に15名程度）
（５）「数式処理ソフトの使い方」	平成30年10月	奈良県立高取国際等学校で行われた進路相談会の模擬講義において、標記のテーマで講師を務めた。導入としてAIの発達による各種の職業の将来性について、野村総合研究所の発表をもとに解説した。その後、高校1、2年の数学の内容を数式処理ソフトMaximaを使いながら概観し、数式処理ソフトを使った授業法について述べた。 （受講者は高取国際高校の2年生8名）
（６）2019年春期　奈良学園公開文化講座 「第31回　《小学生と学ぶロボットプログラミング》」	令和元年6月	志賀直哉旧居（奈良学園セミナーハウス）で行われている奈良学園公開文化講座の一環として行った講座。 2020年度の小学校の「プログラミング」必修化に向け、その経緯と在り方やプログラミングとは何かを概説し、ビジュアルプログラミング言語であるScratchの使い方や、ロボットプログラミングを説明し、参加者とともにロボットの作成、プログラミングを行った。 （受講者は地域の小学生やその保護者を中心に17名）

５　その他		
特記事項なし		

職　務　上　の　実　績　に　関　す　る　事　項		
事項	年月日	概　　要
１　資格，免許		
高等学校教諭第一種免許（数学）	############	平成高一め第四三六三号（京都府教育委員会）
２　特許等		
特記事項なし		
３　実務の経験を有する者についての特記事項		
（１）インターンシップ科目検討ワーキンググループ	平成23年8月～ 平成27年2月	インターンシップ実習の単位化にあたり、科目の内容、実施方法の検討を行った。その後、平成25年度は2年次生配当科目「インターンシップⅠ」
（２）情報学部長	平成27年4月～ 平成29年3月	奈良産業大学（現奈良学園大学）情報学部情報学科の学部長を務めた。
（３）情報センター長	平成29年4月～ 平成30年3月	奈良学園大学情報センター長を務めた。

（４）人間教育学部評議員	平成30年4月～令和3年3月	奈良学園大学人間教育学部の評議員を務めた。
（５）自己点検・評価委員会委員長	平成30年4月～令和4年3月	奈良学園大学自己点検・評価委員会の委員長を務めた。
（６）三郷町文化振興財団理事	平成30年6月～現在に至る	三郷町文化振興財団の理事を務めた。
（７）三郷町ICT学び推進協議会委員	平成30年7月～現在に至る	三郷町ICT学び推進協議会の委員を務めた。
（８）大学機関別認証評価　評価員候補者	令和2年4月～令和4年3月	公益財団法人日本高等教育評価機構の評価員候補者として登録された。
（９）奈良学園大学学長補佐	令和3年2月～令和4年3月	奈良学園大学学長補佐に任命された。
(10) 財務委員長	令和3年2月～現在に至る	奈良学園大学財務委員会の委員長を務めた。
(11) 人間教育学部学科長	令和3年4月～現在に至る	奈良学園大学人間教育学部人間教育学科の学科長を務めた。
４　その他		
特記事項なし		

研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項

著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　要
（著書）				
1 日常に数学を－文理をつなぐ数学教室から－	共著	平成27年3月	学術図書出版社	（再掲のため略）
2 数学入門（第4版）	単著	令和2年4月	学術図書出版社	（再掲のため略）
3				
:				
（学術論文）				
1 有限グラフ上の量子ウォークについてIII：Propagator Setの次元	単著	平成29年9月	奈良学園大学紀要第7集 pp.91-96	有限グラフ上の量子ウォークについて、量子ウォークのPropagator Set の定義を与え、実パラメータの自由度を次元として Propagator Set の次元を与える定理を示した。また、瀬川、鈴木両氏の"Generator of an abstract quantum walk."における定義と根岸の定義の違いについて考察した。
2				
3				
:				
（その他）				
1 奈良産業大学（現奈良学園大学）インターンシップ第2期実施報告 :研究ノート	共著	平成27年9月	奈良学園大学紀要第3集 pp.209-227	平成24年度から奈良産業大学で実施された単位化された科目としてのインターンシップについて、その導入の経緯から実習後の教育効果までを記述した研究ノート。山本英司氏（現金沢星稜大学経済学部教授）との共著で、根岸は主にデータの解析とその分析結果の記述を担当した。
2 奈良産業大学「基礎数学」の報告と分析 :研究ノート	単著	平成28年9月	奈良学園大学紀要第5集 pp.197-211	奈良産業大学（現奈良学園大学）で平成23年度から平成27年度にかけて実施した数学の導入教育について、科目の到達目標の設定段階の状況報告から実施後の学生の成績に基づく分析までをまとめた。
3 解析学における高大連携の私論（その１） :論考	単著	平成27年11月	教育PRO第45巻25号p.16-17	数学の高大連携において、解析学に重点を置くことの意味を示し、いくつかの数学用語についての高校と大学での違いを述べた。
4 解析学における高大連携の私論（その２） :論考	単著	平成27年12月	教育PRO第45巻27号p.16-17	数学の高大連携において、微分と積分において、高校段階で注意すべき点をいくつか示し、それらが大学でどのような意味を持つかを述べた。
5 トルク差を利用した垂直軸風車について :口頭発表		平成26年9月	2014年夏の作用素論シンポジウム　於：セミナー・カルチャーセンター臨湖	垂直軸風車において、羽の両面の形状の違いによるトルク差を利用するアイデアを提唱し、その数値計算例を与えた

6 垂直軸風車の周速比の計算例 :口頭発表		平成27年9月	2015年夏の作用素論シンポジウム　於：福井県フェニックスプラザ	トルク差を利用した垂直軸風車について、周速比の計算例を与えた。
7 量子ウォークの時間発展の次元について :口頭発表		平成28年9月	2016年夏の作用素論シンポジウム　於：米子コンベンションセンター BiG SHiP	U(2n)に属するユニタリ行列の中で、辺数nの有限グラフ上の量子ウォークの時間発展となりうる行列の集合の幾何学的次元とその条件を与えた。
8 量子ウォークのPropagator Setの次元について :口頭発表		平成29年7月	2017年夏の作用素論シンポジウム 於：伊勢市観光文化会館	量子ウォークのPropagator Set の定義を与え、U(2n)に属するユニタリ行列の中で、辺数nの有限グラフ上の量子ウォークのPropagator Setの幾何学的次元に関する定理を示した。
9 羽根と質点の衝突から導出される方程式 :口頭発表		平成30年9月	2018年夏の作用素論シンポジウム 於：徳島市シビックセンター	空気分子が風車の羽根に与える角運動量とエネルギーの保存則から風車の羽根の形状の運動方程式を導出した
10 Introduction to Open Quantum Walks :口頭発表		令和元年9月	2019年夏の作用素論シンポジウム 於：和歌山ビッグ愛	2000年代初期からのUnitary Quantum Walksの様々な定義を紹介し、その後Open Quantum Walksの定義を述べUQWとの違いを述べた。
:				

別記様式第４号（その２）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　研　究　業　績　書

令和６年３月31日

氏名　長谷川栄子

研究分野	研究内容のキーワード
教育学	国語科教育法、図書館教育、教員養成

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1　教育方法の実践例 （１）学校図書館を活用した国語科教育	平成元年～ 現在に至る	主体的に本を手に取り、作品や自分、他者と対話しながら読む読書行為ができるよう国語科の授業実践を検討した。各教科・領域における読書指導などとの関連を考慮した年間指導計画の作成教材と関連する資料を学校図書館に置くのか検討して図書館改革に取り組んだ。 （奈良学園大学における講義、、奈良県子ども読書推進事フォーラム講師）
(2) 主体的・対話的な国語科学習に生徒を誘う発問研究	令和２年～現在に至る	教育実習事前事後指導（中・高）、国語科教育法Ⅰにおいて、学生に思考を深める発問を考えさせ、模擬授業をさせる授業実践を行う。 発問づくりにおいては、①子どもたちを主体的な学習者として捉えること、②読書プロセスに応じ、単元全体で捉えること、③説明様式に応じることなどに留意して行った。 （奈良学園大学における授業実践、教育実習事前指導、国語科指導法Ⅰ）
(3) ICT を活用した国語科教育	令和４年～現在に至る	教育実習事前事後指導（中・高）、国語科教育法Ⅰにおいて、ロイロノート、Power Point、スプレッドシート、Jamboard を活用して模擬授業をさせる授業実践を行う。（奈良学園大学における授業実践、教育実習事前事後指導（中・高）、国語科教育法Ⅰ）
(4) 司書教諭免許取得科目に関わる授業実践	令和２年～現在に至る	司書教諭免許取得科目において、大学図書館と連携し、館内に展示コーナーを年２回設け、学生の読書への興味を喚起した。（奈良学園大学における授業実践、読書と豊かな人間性）
2　作成した教科書・教材 (1) 教育実習のための講話事例（単著） 芦屋市立潮見小学校発行	平成29年４月	芦屋市立潮見小学校の校長として教育実習生に分かりやすく話すための手引きを作成した。実習生の各担当教員が必ず指導しなければいけないことを講話というかたちでまとめ、実習を指導する教員に配布し使用した。
3　教育上の能力に関する大学等の評価 (1) 奈良学園大学学生アンケート	令和元年12月	「子どもと言葉」の指導（ゲストティチャー）
(2) 奈良学園大学学生授業アンケート	令和２年７月～ 現在に至る	担当科目において熱意のある授業としてポイント４以上の評価を受けた。
4　実務の経験を有する者についての特記事項		

(1)教頭として指導助言等	平成 25 年 4 月～ 28 年 3 月	・朝日ヶ丘小学校の教頭として毎年実施する自主的全国研究会の企画運営を行い、学校目標に基づいた各教員の研究テーマについて助言 ・朝日ケ丘小学校教頭として、教育実習生の手引きを修正作成 ・浜風小学校教頭として兵庫県公立学校・教育委員会女性管理職研修会において発表 テーマ「実践的指導力のある教職員の育成」
(2)校長としての指導助言等	平成 29 年 4 月～ 令和 2 年 3 月	・兵庫県小学校長会研究大会で研究発表 テーマ「震災の教訓を生かし、防災体制を充実する学校づくり」 ・潮見小学校校長として教育実習生のための講話集を編集し教職員で共通確認を行った
(3)准教授としての指導助言	令和 2 年 4 月～ 令和 3 年 10 月	・芦屋市立潮見小学校若手教員への指導助言 ・奈良県立五條高等学校職業人講話講師 ・芦屋市教科等小学校国語部会研修会講師
(4)教授としての指導助言	令和 4 年 7 月～令和 6 年 3 月 令和 4 年 7 月 令和 5 年 7 月 令和 5 年 2 月	・令和 4 年度、令和 5 年度奈良県読書水深事業企画運営委員会委員長 ・奈良県図書館担当者研修会講師 ・同上 ・奈良県子ども読書推進フォーラム講師
5　その他		

職　務　上　の　実　績　に　関　す　る　事　項

事項	年月日	概　　要
1　資格、免許 ・小学校教諭 1 級普通免許状 ・幼稚園教諭 1 級普通免許状 ・小学校教諭専修免許状 ・幼稚園教諭専修免許状	 昭和 57 年 3 月 昭和 57 年 3 月 平成 15 年 3 月 平成 15 年 3 月	 （昭 56 小一普第 710 号）兵庫県教育委員会 （昭 56 幼一普第 606 号）兵庫県教育委員会 （平 14 小専第 59 号）兵庫県教育委員会 （平 14 幼専第 22 号）兵庫県教育委員会
2　特許等 なし		
3　実務の経験を有する者について特記事項 ①教頭として	平成 23 年 4 月～ 28 年 3 月	・兵庫県芦屋市立朝日ケ丘小学校教頭として小学校国語科教育担当として研修会を実施 ・兵庫県芦屋市立浜風小学校・潮見小学校教頭として小学校教頭会理科教育担当として研修会を実施
②校長として	平成 29 年 4 月～ 令和元年 3 月	・芦屋市小学校校長会国語科教育、特別支援教育、学習評価担当校長として部会を開催し、研修会を実施、特に新学習指導要領の評価を巡り、研修会等何度も開催した。 ・芦屋市学力向上支援プラン研究校指定となり、新学習指要領の 3 つの柱について研究 ・芦屋市外国人に対するきめ細かな日本語指導研究校指定（～令和２年 3 月）外国籍の児童が多い学

		校なので、ユニバーサルの視点での国語科日本語の授業の試案を提案した ・芦屋市学力向上支援プラン研究校指定（～令和 2 年 3 月） ・芦屋市小学校校長会国語科教育、家庭科教育、特別支援教育、学習評価担当（～令和 2 年 3 月） ・芦屋市学力向上支援プラン指定授業研究発表会 ・兵庫県日本語初期指導研究校指定 ・芦屋市学力向上支援プラン指定授業研究発表会
4　その他 管理職としての役職	平成 28 年 4 月 平成 29 年 4 月 平成 29 年 8 月 平成 30 年 4 月 平成 31 年 4 月	 兵庫県芦屋市女性管理職等研修会会長 芦屋市特別支援教育教育支援委員会　副委員長 芦屋市特別支援教育教科用図書・一般図書採択　委員長 兵庫県阪神地区女性校長会副会長 兵庫県阪神地区女性学校運営研修会企画・運営 兵庫県阪神地区女性校長会会長 兵庫県阪神地区女性校長会幹事

研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
(著書) 1. 読解力を育てる！小学校国語　定番教材の発問モデル説明文編 アクティブ・ラーニング型授業づくりのヒント	共	平成27年7月	明治図書	学習者の主体性を尊重し、多様性を考慮し、相互に協働する学習になるよう国語科単元において発問を構想し、提案した著書である。 A4版　124頁 井上一郎編著、執筆者：長谷川栄子、上月敏子、古川元視　他合計24名 本人担当部分：第2学年の説明的文章を活用して、箇条書きやQ&Aによる言語活動を行い、説明力を育成することをねらい、発問を提案した。書き言葉から話し言葉に転用させて、コミュニケーション能力や説明力の向上をねらった。pp44-pp45
2. 小学校国語「汎用的能力」を高める！アクティブ・ラーニングサポートワーク	共	平成27年12月	明治図書	言語認識力、言語操作力、自己表現力、言語生活力などの汎用的能力を身に付けるためのサポートワークを考案した著書である。 A4判　174頁 井上一郎編著、執筆者：長谷川栄子、上月敏子、尾崎靖二　他合計33名 担当部分：国語力を高めることによって、人間関係力も高めることをねらった。第1学年において物語の構造を捉えること、第3学年において説明的文章の語彙構造を捉えること、第4学年において調査事項を新聞記事に書くことを執筆した。子どもたちが、主体的に学習に取り組めるようワークシートを工夫した。 pp30-pp31
3. 学校図書館を活用した国語科授業の創造 ―主体的・対話的な学びを目指	単	令和元年12月	ERP出版株式会社	国語科における、説明的文章に関わる思考語彙の指導について、詩の指導の在り方について、主体的対話的な国語科学習を成立させるための教師の発問について、新学習指導要領の求める資質能

して―				力を踏まえて、国語科教育を論じた。また、国語科教育に図書館教育を活用することの意義と、その方法を具体的に例示した。さらにコンピュータを活用した図書館教育を通して、児童の相互理解を深める具体的な例示をして指導を論じた。まとめとして、今後の図書館教育と国語科教育の在り方について提案した。 B5判　80頁
4. 国語科教育の基礎・基本教え方・学び方ポイントシート2「話すこと・聞くこと」「書くこと」編	共	令和3年1月	明治図書	国語科の基礎・基本を解説するとともに、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域における教材及びポイントシートを若手教員向けに構成した著書である。 A4版　117頁 井上一郎編著、執筆者：長谷川栄子、小木曽笑子、南理香他合計40名 担当部分：中学年の児童を対象に単元「不思議な出来事の物語―ファンタジーを書こう」を設定した。主人公が、不思議な世界に行って帰ってくるファンタジーを書くことを取り上げ、プロセスを3つの柱にしてまとめた。物語の組み立てに沿って内容を考えられるようにしたり、物語の冒頭部分を提示したりしてポイントシートを工夫した。pp92-pp93
(学術論文) 1. 学校図書館を活用した国語科授業の創造―ファンタジー作品を中心に―	共	令和元年5月	奈良学園大学「人間教育」第2巻第4号	主体的に本を手に取り、作品や自分、他者と対話しながら読む読書行為ができるよう国語科の授業実践を検討した。このような授業では、①必要な図書を再読する、②自分の体験と重ねながら、作品や作家、仲間と対話して読む、③音声言語による表現へ意欲を高める、というような児童の変容が見られた。各教科・領域における読書指導などとの関連を考慮した年間指導計画の作成教材と関連する資料をどの程度蔵書として学校図書館に置くのかが、課題となると論じた。 共著者：長谷川栄子、松田智子 本人担当部分：全文執筆　pp113-pp124
2. 工藤直子作品から広がる詩の指導―作品集を読むという読書行為を通して―	共	令和元年6月	奈良学園大学「人間教育」第2巻第5号	従来の指導方法からより多様な指導方法への視点を得て、主体的・対話的に他者や自分、詩と対話しながら学ぶことができるよう工藤直子の詩の作品集を丸ごと味わう読書行為を行った。子どもたちは、①作品世界に浸り、詩人について思いを馳せるようになる、②多様な音声表現や多様な作品集の創作を楽しむ、③自己を見つめる契機となるなどのこどもたちの姿が見て取れ、作品集を丸ごと味わう読書行為は、効果的な詩の指導方法であると考えられると提案した。 共著者：長谷川栄子、松田智子 本人担当部分：全文執筆　pp125-pp134
3. 主体的・対話的な国語科学習に誘う発問とは―説明的な文章を読むことに関して―	共	令和元年8月	奈良学園大学「人間教育」第2巻第7号	説明的な文章を読むことの学習過程において、内容主義に陥らないためには、一体どのような発問が考えられるだろうか。 そこで、学習過程に沿って主体的・対話的な学習になるよう発問モデルを試作した。発問づくりにおいては、①子どもたちを主体的な学習者として捉えること、②読書プロセスに応じた単元全体で捉えること、③説明様式に応じることなどに留意することが重要である。 共著者：長谷川栄子、松田智子 本人担当部分：全文執筆　pp155-164

4. 説明的文章に関わる思考語彙の指導	共	令和元年9月	奈良学園大学「人間教育」第2巻第8号	小・中学校国語科で取り扱われる「情報の扱い方に関する事項」と思考語彙の指導、及び思考力を育成の関連を探った。 思考操作を授業に取り入れ、言葉と操作を一致させる思考語彙の指導が思考力育成の上で重要となる。「情報の扱い方に関する事項」の内容により一層焦点化させ、系統化を図られた。学習基本語彙から思考語彙を選択し、語彙と操作レベルを一体化させて思考力を育成することが重要である。 共著者：長谷川栄子、松田智子 本人担当部分：全文執筆　pp201-pp210
5. 公立図書館と連携した小学校における学校図書館教育	共	令和元年9月	奈良学園大学紀要第11集	学校図書館教育を充実させ、子どもたちの読書推進を図るには、公立図書館と連携した取組が効果的だ。そこで、学びの場を広げ、公立図書館と連携した読書推進活動や学習指導を構想し、学校図書館教育の充実を図ろうと試みた。①子どもたち同士が交流できる学びの場を設定すること、②公立図書館と連携した学習単元を構想すること、③司書教諭や学校司書の力を引き出し、読書推進の活性化を図ることが重要である。以上のことを提案した。 共著者：長谷川栄子、松田智子 本人担当部分：全文執筆　pp125-pp134
6. 小学校と大学が連携して教育実習生を育成しよう１	単	令和元年10月	教育プロ 第４９巻２３号	教員志望の学生が減少している中で、教員を志望する学生に対して小学校と大学が連携して人材を育成する視点が必要だ。現職の後輩を育てようとする意欲や自己研鑽意欲に支えられて行われる教育実習である。今後求められる教員の資質・能力は何かを考えて指導に当たることが肝要だ。教育実習の準備や大学教員の巡回指導における留意点を記述した。 pp14-pp15
7. 小学校と大学が連携して教育実習生を育成しよう２	単	令和元年11月	教育プロ 第４９巻２４号	教育実習生を指導するにあたっての留意点として、児童理解の方法について、また特別な配慮を要する子どもから何を学ぶかを論じた。また授業の方法として主体的対話的な学びを生かす指導方法とは何かを具体的に示した。さらにこれら学校現場の要望に合わせた大学の講義の在り方の改革への提言を行った。 pp14-pp15
8. コンピュータを活用し、児童の相互交流が生まれる学校図書館をめざして	単	令和元年11月	奈良学園大学「人間教育」第2巻第10号	学校図書館は、読書センター、学習センター、情報センターとしての役割がある。学習指導要領が新しくなり、外国語が加わった。メディア構成も新しくなる。図書資料として英語のCD、DVDなども加わることから、どのようにそれらを閲覧できるように環境を整備するのかが、課題となる。課題の解決の一つの方法として、コンピュータをはじめとするメディアを配置することが考えられる。それによって、子どもたちの相互交流で作り上げる検索システムを整備することができる。子どもたちが、主体的に読みたい本を閲覧できるようにコンピュータを活用したい。 pp243-pp252
（その他）				

別記様式第４号（その２）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　研　究　業　績　書

令和　６年　３月　３１日

氏名　松井　典夫

研究分野	研究内容のキーワード
学校安全・安全教育・教師教育・カリキュラム論	反脆弱性の学校危機マネジメント

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
１　教育方法の実践例 「安全安心様相図」（日本セーフティプロモーション学会誌　第３巻１号 p62-66　松井）を用いた安全教育	平成 21 年度～現在に至る	安全教育で目指すべきところは、「安全で安心」であるＡのカテゴリーである。しかし、このカテゴリーに児童の状態がいれば、安全教育の役割が達成されたかと言えばそうではない。「安全・安心」の状態や児童の変容を客観的に測るマトリクスとして、「安全安心様相図」を考案した。
地震災害被災地の小学校における教育実践演習	平成 29 年～現在に至る	平成２９年４月に発生した熊本地震では、多くの学校も被災し、また避難所となった。避難所となった学校に訪問し、登校時の安全指導ボランティアや、授業補助の演習を行うことを目的として、奈良学園大学の教職志望の学生１０名を引率し、熊本県益城町立広安西小学校を訪れ、実践的演習を行った。また、毎年１月 17 日には阪神淡路大震災「1.17 の集い」に学生を引率して参加し、教員としての資質形成の目的とした学修を実践している。
２　作成した教科書，教材 授業プレゼンテーション及びワークシート	平成 26 年４月～現在に至る	その理論に伴った実際の児童の姿や授業の内容について、具体的に想起しながら学ぶことができるように、プレゼンテーションを作成して授業を行っている。また、その内容を復習しながら習熟していくことができるように、ワークシートに記入させ、１５回の講義後にワークシートを綴じ、テキストとして使用することができるようにしている。
３　教育上の能力に関する大学等の評価 大阪教育大学附属池田小学校　学校教育診断	平成 17 年度～平成 25 年度	大阪教育大学附属池田小学校においては、毎年４回にわたって、児童対象と保護者対象に分けて、学校教育診断を実施している。およそ３０項目の質問事項に対して、マークシート式で回答し、その他の要望等を記述式で回答する。結果はホームページにおいて公開され、授業参観時に全保護者が閲覧できるように冊子化もされる。その結果において、児童、保護者ともに、毎年度高い評価を得た。
奈良学園大学における学生の授業評価	平成 27 年度～現在に至る	授業担当科目において、求められる教師の姿や学校の組織としての姿、組織力に関して具体的に学ぶことができたと、高評価を得た。
４　実務の経験を有する者についての特記事項 岡山県備前市立三石小学校：ＰＴＡ人権教育小中合同研修会講師	平成 25 年６月	備前市立三石小学校において、午前の人権教育参観で第４学年において、「溺れかけた兄妹」という、作家の自伝的作品を題材にした安全教育（水難災害）の授業を行い、午後からＰＴＡ人権教育小中合同研修会で、「命を大切にする教育」と題し、安全教育と学校安全に関して、教員・保護者を対象に９０分の講演を行った。

守口市教育研究会　生活・総合部会：指導助言	平成 25 年 12 月	守口市教育研究会生活・総合部会において、「これからの学校安全と安全教育」と題し、６０分の講演を行った。ここでは、担当者の授業実践の内容を絡め、教科教育と安全教育の類似点と相違点について話し,児童にとって有効な安全教育の必要性について話した。
寝屋川市立第７中学校区「いのちの教育」研修会：講演	平成 26 年８月	寝屋川市の第７中学校校区である、第７中学校、南小学校、堀溝小学校の３校合同で開催された、「いのちの教育」研修会で、１２０分の講演を行った。「いのちの教育としての安全教育～“Smile School　“の提案～」と題し、大阪教育大学附属池田小学校において実践した研究授業「Smile School～『いじめと命』未来に向けて考えよう～」の実践内容と、授業実践時の児童の反応を中心として、いじめについて子供たちが向き合う方法について話した。
三郷町ひまわりセミナー：講師	平成 26 年 11 月	奈良県生駒郡三郷町における、一般向けのセミナーで９０分の講演を行った。当日は、三郷町の町長、教育長、地域の小学校校長、市民ボランティア団体、一般の町民等、様々な人が参加した。「子供たちの命を守る「安全・安心」～町と大人の役割～」と題し、事件や事故、災害の実例を挙げながら、どのようにして子供たちの命を守るのかという、地域の大人の役割について話した。
王寺町リーベルカレッジ：講演	平成 27 年８月	奈良学園大学社会連携センターと王寺町の共同による取り組み、王寺町リーベルカレッジにおいて、地域住民や子を持つ保護者を対象に、「子どもの安全を考える～大人と地域の役割～」と題した講演を行った。神戸市小１女児の連れ去り事件などを例に挙げ、地域の大人の目の大切さについて話した。
全国地域安全運動　泉大津・忠岡安全大会：講演	平成 27 年 10 月	忠岡町シビックセンターにおいて、泉大津・忠岡町の合同安全研修会で講演を行った。地域住民が２００名ほど集まり、「子どもの安全を考える　～大人と地域の役割～」として、2004 年の奈良小１女児殺害事件や、この年の夏に発生した奈良県香芝市の小６女児監禁事件を例に挙げ、「３つの死角」（場・地域住民・学校教育）について提案した
２０１５　なら講座：講演	平成 27 年 12 月	例年開催されているなら講座での講演。奈良県立医科大学で行われ、地域住民を対象に、「地域防犯の視点から」と題して講演を行った。地域の登下校見守り隊などのボランティア活動は高齢者頼みになっている実態を提示し、行政と地域が協同し、見守りなどの活動を活性化する必要性を提案した。
教職員自主研修事業　大学・専修学校等オープン講座　講演	平成 28 年７月	「事件・事故・災害の教訓から考えるこれからの学校安全と安全教育」と題し、９０分間の講演を行った。とくに連れ去り事件に焦点を置き、安全教育を実践する際の視点の置き方について話した。また、年代別防犯の方法について、幼・小学校低学年、小学校中学年、そして小学校高学年・中学生と、年代別にわけて提案した。
免許更新講習　講師	平成 28 年８月	保・幼稚園教諭を対象とする免許更新講習で、90 分の講義を担当した。「子どもの育ちを踏まえた保育内容の充実を考える」というテーマで行い、「表現領域（美術）」を担当した。図画工作科教室において、保育内容を充実させる授業内容をグループで考案し、ポスターセッションを行って実践例を共有する活動を行った。
熊本県益城町立広安西小学校　PTA 対象　講演	平成29 年4月	熊本地震が発生した平成28年4月14日（前震）の前日である4月13日の放課後に、甚大な被害を被った益城町の小学校ＰＴＡを対象に、「子どもの命を守る大人の役割」と題した講演を行った。
大阪市　資質向上研究会　講師	平成 29 年７月	「事件・災害の教訓に学ぶ学校安全と安全教育」として、大阪市の教員、管理職で構成される資質向上研究会で３時間の講演を行った。 学校で発生した児童が被害に遭う事件を教訓に、学校安全の方法、管理職の役割について話し、またそれらを教材にした安全教育の授業題材や授業方法、教授法について話した。

教員免許更新講習　講師	平成 29 年 8 月	「子どもの育ちを踏まえた保育内容の充実を考える－幼児期における造形表現活動の意義と役割―」 　保育、幼稚園教諭の教員免許更新講習の講師として、40名を対象に講義を行った。アクティブ・ラーニングとして、グループで造形活動実践の計画、ポスター作成、ポスターセッションを行った。
生駒地区小中学校管理職・事務職員研修会　講師	平成 29 年 9 月	「学校での事故・災害など、緊急事態に対する対応と予防」について、生駒地区の小中学校の管理職と事務職員に講演した。これまでの学校での事故や災害を例に挙げ、発生いたとき、あるいは予防方法について、教師の役割、管理職の役割について話した
第 67 次兵庫県教育研究集会（ひょうご教育フェスティバル）　指導助言	平成 29 年 11 月	西宮市で開催された本研究会で、「生きる力を育む教育」分科会の指導助言に行った。当分科会では、主に震災に関連した発表が多くあり、震災関連教育については、今後、児童生徒の生きる力としての「レジリエンス」の重要性について話した。
北海道の子育て、教育を支援する会　講演	平成 30 年 7 月	北海道の子育て、教育を支援する会が主催する講演会、ワークショップにおいて、講師を務めた。午前の部は講座１として、「どうすれば子どもたちの命は守れるのか」と題し、９０分の講演を行った。そこでは、過去における事件、事故、災害を教訓として、学校安全、安全教育の生かす必要性と、その実践方法について講演した。午後は講座２として、実際に安全教育のプログラムをグループで考案し、ポスターセッションで交流した。
大阪市中堅教員研修　講師	平成 30 年 9 月	大阪市の中堅教員研修の講師として、３回（延べ６００人）を対象に学校安全、安全教育に関する講演を行った。「事件、事故、災害の教訓に学ぶ学校安全と安全教育」について、実際の事件や災害の実例を紹介しながら、どうすれば防げたのか、学校ではどのような対応が必要だったか、という、中堅教員がこれから出会うであろう課題を想定して講演した。
カンボジア王国　王立プノンペン大学　招待講演	平成 30 年 9 月	カンボジアの日本人会による企画において招へいを受け、王立プノンペン大学において９０分の講演を行った。「日本における学校の安全と安全教育」と題し、およそ３０名のプノンペン大学生および教員に、日本の学校安全について話した。講演の中では質疑応答が活発に行われ、カンボジアと日本の文化、災害事情の相違などによる対策の方法の違いなどが確認され、双方において新たな知見が共有された。
奈良市「子ども安全の日の集い」講演	平成 30 年 11 月	2004 年 11 月に、奈良市内で発生した小１女児殺害事件に関して、奈良市が毎年開催している「子ども安全の日の集い」において、およそ３００人の教員、PTA、地域住民を対象に講演した。「子どもたちを守るために～危険個所を見える化するための一つの方策～」と出し、文部科学省の「登下校防犯プラン」に基づいて、集団下校の方法や見守り隊の役割について話した。
大阪市幼稚園主任者研修　講師	平成 30 年 12 月	大阪市の幼稚園主任者研修において、およそ４０名の幼稚園主任教諭を対象に、「子どもの安全のために必要なもの」と題して９０分の講演を行った。とくに、近年の略取誘拐事件の実態について、統計を例に挙げて話し、大人（教員）は事前にどのような対策をとればよいのかについて提案した。
奈良学園小学校　保護者対象講演会　講演	令和 1 年 6 月	奈良学園小学校の保護者を対象に、とくに入学後低学年段階における防犯意識の重要性と、家庭、学校における防犯教育の内容、方法について講演した。
奈良市教育委員会　少年指導員委嘱式　講演	令和 1 年 6 月	奈良市では、2004年11月に発生した小１女児連れ去り事件以後、教員、地域ボランティア、保護者を対象に毎年300人程度の「指導員」を委嘱し、児童生徒の安全対策を依頼している。その委嘱式において、300人を対象に学校安全について講演した。

大阪市教育委員会　中堅教員研修　講演	令和１年７月	大阪市の中堅教員研修の講師として、３回（延べ６００人）を対象に学校安全、安全教育に関する講演を行った。「事件、事故、災害の教訓に学ぶ学校安全と安全教育」について、実際の事件や災害の実例を紹介しながら、どうすれば防げたのか、学校ではどのような対応が必要だったか、という、中堅教員がこれから出会うであろう課題を想定して講演した。
宝塚市教育委員会　現職教員研修会　講演	令和１年８月	宝塚市の現職教員研修会において、学校安全と安全教育について講演した。参加者が幼稚園教諭、小学校教諭、及び管理職と多岐に渡ったため、それぞれの発達段階に合わせた内容で講演した。
令和元年度教員免許更新講習（保育士・幼稚園教員対象）講師	令和１年８月	「子どもの育ちを踏まえた保育内容の充実を考える－幼児期における造形表現活動の意義と役割―」 保育、幼稚園教諭の教員免許更新講習の講師として、40名を対象に講義を行った。保育内容の5領域と「表現」領域の関連性について講義を行い、その後、アクティブ・ラーニングとして、グループで造形活動実践の計画、ポスター作成、ポスターセッションを行った。
吹田市教育委員会　校長会研修　講師	令和１年10月	吹田市の校長会の研修で講演を行った。校長ということもあり、学校安全における学校長としてのリーダーシップと役割について、熊本地震における実践例などを取り上げて講演した。
奈良市教育委員会　「子ども安全の日の集い」講演	令和１年11月	２００４年１１月に、奈良市内で発生した小１女児殺害事件に関して、奈良市が毎年開催している「子ども安全の日の集い」において、およそ３００人の教員、PTA、地域住民を対象に講演した。「子どもたちを守るために～危険個所を見える化するための一つの方策～」と出し、文部科学省の「登下校防犯プラン」に基づいて、集団下校の方法や見守り隊の役割について話した。
奈良市教育委員会　「ストップいじめ　なら子どもサミット」講師	令和２年２月	奈良市が取り組んでいる「ストップいじめ　なら子どもサミット」において、２１校の中学校の代表生徒が3回集まり、デスカッションを行う上でコーディネーターを務め、2月のサミットで最終公演を行った。
宝塚市教育委員会　現職教員研修会　講演	令和２年10月	宝塚市教育委員会主催の現職教員研修会で「子供たちの命を守るための防災教育」として講演した。幼稚園教員から高校教員まで幅広い参加者だったため、それぞれの校種に合わせて内容を構成した。
奈良市教育委員会　「子ども安全の日の集い」講演	令和２年11月	2004年11月に、奈良市内で発生した小１女児殺害事件に関して、奈良市が毎年開催している「子ども安全の日の集い」において講演した。コロナ禍のため、例年の300人の参加を100人に縮小して行われた。「子供の安心・安全を守る学校と地域のあり方」として、３者協働の安全対策について話した。
奈良学園小学校　防犯教室講師	令和３年６月	奈良学園小学校で、小学校１年、３年、５年生を対象に防犯教室を実施した。
大阪市教育委員会　中堅教員研修　講演	令和３年６月	大阪市の中堅教員研修の講師として、教職10年前後の教員を対象に学校安全、安全教育に関する講演を行った。コロナ禍でオンデマンドとなり、講演録画をおよそ300人の教員が試聴した。「学校園における危機管理・安全管理」について、実際の事件や災害の実例を紹介しながら、どうすれば防げたのか、学校ではどのような対応が必要だったか、という、中堅教員がこれから出会う可能性のある課題を想定して講演した。
奈良市教育委員会　いじめ防止研修講座（エキスパート研修）講演	令和３年７月	奈良市教職員研修講座として、小中学校の教員50人を対象に「事件・事故・災害の教訓に学ぶ学校安全」として、いじめの事案と傾向、その対応について事例を紹介しながら講演した。
吹田市教育センター　課題別研修【安全教育】講演	令和３年９月	「事件の教訓に学ぶ学校安全と安全教育」として、吹田市の小中学校教員を対象に講演した。コロナ禍により、事前録画をおよそ200人の教員が試聴した。

奈良県教育委員会　学校安全教室推進事業　講演	令和３年９月	「事件の教訓に学ぶ学校安全と安全教育」として、奈良県の小中学校教員を対象に講演した。コロナ禍により、事前録画をおよそ 300 人の教員が試聴した。
奈良市教育委員会　「子ども安全の日の集い」講演	令和３年 11 月	2004 年 11 月に、奈良市内で発生した小１女児殺害事件に関して、奈良市が毎年開催している「子ども安全の日の集い」において講演した。コロナ禍のため、例年の 300 人の参加を 100 人に縮小して行われた。「過去の教訓をどう生かし、対策するのか」として、３者協働の安全対策について話した。
奈良市危機管理課令和３年度第１回「安全安心まちづくり懇話会」座長	令和３年 11 月	奈良市危機管理課「安全安心まちづくり懇話会」に出席し、座長を務めた。
石川県教育委員会　中能登教育事務所　学校安全ボランティア講習会　講演	令和３年 12 月	石川県中能登教育事務所の主催で、地域の小中学校教員、及び学校安全ボランティア（スクールガード）を対象に「子どもの安心・安全を守る学校と地域のあり方」として約 100 人を対象に講演した。
石川県教育委員会　奥能登教育事務所　学校安全ボランティア講習会　講演	令和３年 12 月	石川県奥能登教育事務所の主催で、地域の小中学校教員、及び学校安全ボランティア（スクールガード）を対象に「子どもの安心・安全を守る学校と地域のあり方」として約 100 人を対象に講演した。
生駒市小中学校教頭研修会　講演	令和４年１月	生駒市の小中学校教頭研修会において、「学校安全のリスクマネジメント～事件・災害の教訓から～」として講演した。
奈良市危機管理課令和３年度第２回「安全安心まちづくり懇話会」座長	令和４年２月	奈良市危機管理課「安全安心まちづくり懇話会」に出席し、座長を務めた。
石川県教育委員会　学校安全ボランティア養成講習会　講演	令和４年５月	「効果的な学校での防犯教育，防犯体制の確立について」と題して講演した。教員、スクールサポーター等 100 名が対象となった。
吹田市スクールリーダー研修　講演	令和４年６月	「事件・事故・災害を事例にした学校の危機管理について」と題して講演した。管理職等 30 人が対象となった。
大阪市教育委員会　中堅教員研修　講演	令和４年６月～	大阪市の中堅教員研修の講師として、教職 10 年前後の教員を対象に学校安全、安全教育に関する講演を行った。コロナ禍でオンデマンドとなり、講演録画をおよそ 300 人の教員が試聴した。
奈良県次世代教員養成塾　講師	令和４年 11 月	およそ 100 名の高校生を対象に「命の価値について考えよう」というタイトルで講義を行った。
奈良学園小学校　保護者対象　防犯教室講演会	令和４年 12 月	およそ 30 名の保護者を対象に、「命の教訓をその先の教育へ」というタイトルで講演した。
大阪私学生徒指導連盟　中学校部会　講演	令和５年１月	およそ 80 名の中学校教員を対象に、「過去の災禍を教訓にした学校危機マネジメント」と題して講演した。
公益社団法人京都市児童館学童連盟 第３回京都市児童館・学童保育所職員研修会	令和５年５月	第3回京都市児童館・学童保育所職員研修会において講演を実施。「施設管理における子供の安全」というテーマで約50名が参加した。
大阪市教育委員会 令和５年度中堅教員研修３【学校園安全管理・危機管理】	令和５年６月～	オンデマンドで講演を実施。300人が視聴する。 テーマは「学校園の安全管理・危機管理」
高槻市教育委員会 令和５年度学校安全研修〈兼〉学校経営・教務主任等研修〈兼〉幼稚園・認定こども園研修	令和５年７月	令和5年度学校安全研修〈兼〉学校経営・教務主任等研修〈兼〉幼稚園・認定こども園研修において講演。50名が参加した。テーマは「学校における安全教育について」

文部科学省、奈良県教育委員会事務局　健康・安全教育課　令和５年度学校安全教室推進事業（防犯教室講習会）	令和５年７月	「学校安全への教訓を継承し、次代の命へつなぐ学校危機マネジメント」のテーマで講演。70名が参加した。
大和郡山市教育委員会 大和郡山市立学校園管理職研修会	令和５年９月	「三者協働のリスクコミュニケーション」をテーマに講演を実施。50名が参加した。
奈良市・奈良市教育委員会 令和５年度「子ども安全の日の集い」	令和５年11月	「学校安全の教訓を伝承し、次代の命へとつなぐ学校危機マネジメント」というテーマの講演を実施。180名が参加した。
奈良県高等学校等生徒指導連絡協議会 第２回奈良県高等学校等生徒指導連絡協議会	令和５年９月	「学校における防犯活動」をテーマに講演を実施。100名が参加した。
奈良学園小学校 保護者対象講演会	令和５年10月	児童が安心・安全に登下校するとともに、子どもを誘拐などの犯罪から守るための安全啓発をテーマに講演会を実施。30名が参加した。
追手門学院大手前中高等学校 追手門学院大手前中高等学校教員研修	令和５年10月	「過去の災禍を教訓にした学校危機マネジメント」をテーマに講演を実施。80名が参加した。
奈良市教育委員会・NEC	令和５年８月	ICTを活用した防犯・侵入対策のための実証実験―ゲートレス顔認証入退技術検証―に学識経験者として参加、助言
日本安全教育学会　第24回奈良大会	令和５年９月	当学会について、年次学会長として運営、年次学会長講演、シンポジウム等を実施した。２日時間で全国からのべ200名が参加した。
奈良市通学路安全推進協議会　防犯分科会	令和６年２月	座長として会議を進行し、「見守りのトランジション」と題して講演を行なった。

職　務　上　の　実　績　に　関　す　る　事　項

事項	年月日	概　　要
１　資格，免許 小学校教諭一種免許状 平８小一第２３７８号	平成９年３月	大阪府教育委員会
２　特許等 特記事項なし		
３　実務の経験を有する者についての特記事項		

大阪教育大学附属池田小学校教諭 ・図画工作科主任 ・第６学年主任 ・第４学年主任 ・第２学年主任 ・学校安全主任 ・学校安全主任	平成 17 年度～平成 21 年度 平成 21 年度 平成 22 年度 平成 23 年度 平成２２年度 平成２３年度	大阪教育大学附属池田小学校における、主たる校務分掌を記した。着任後すぐに、５年間図画工作科主任になり、教科論を記した。また、その後４年間学年主任の業務においては、新任指導も含め、円滑な学年経営に努め、成果を残してきた。学校安全主任は、当該校の要とも言える。その任に就き、学校安全の推進、保持、発信、また、安全教育の推進と、責務を果たしてきた。
４　その他 ［外部資金の獲得状況］ １．科学研究費補助金　奨励研究（研究代表者） 独立行政法人日本学術振興会 『児童の発達段階に応じた安全教育プログラムの開発に関する実証的研究』 （研究課題番号２２９０８００５） ２．日本教育弘済会教育論文　奨励賞受賞 『安全教育のレリバンスに関する研究』 ３．科学研究費補助金　奨励研究（研究代表者） 独立行政法人日本学術振興会 『安全教育のレリバンスに関する実証的研究』 （研究課題番号２６９０８０４０） ４．ＪＲ西日本あんしん社会財団研究助成（研究代表者） 「児童の発達段階を考慮した『有効な』安全教育プログラムの構築に関する実証的研究」 ５．科学研究費補助金　基盤研究Ｃ（研究代表者） 独立行政法人日本学術振興会 『小学生の学年に応じた安全教育プログラムの開発』 （研究課題番号１６ｋ０４７９１の研究代表者として、研究分担者１名体制で研究を率いた）	 平成 25 年４月～平成 26 年３月 平成 25 年３月 平成 26 年４月～平成 27 年３月 平成 27 年４月～平成 28 年３月 平成 28 年度～平成 30 年度	 安全教育における、発達段階についての研究はまだ未開発である。しかし、発達段階を考慮しなければ、真に効果的な安全教育はなされない。本研究では、公立小学校の協力校等で授業実践を行い、そのデータをもとに、発達段階を考慮した安全教育カリキュラムを作成することを目的とする。 大阪教育弘済会の教育論文に応募したところ、個人部門で上部団体の主催する日本教育弘済会の教育賞に推薦され、奨励賞を受賞した。 １つの授業を低、中、高学年で実施し、安全教育と児童の発達段階の妥当性を検証した論文である。 これまでの安全教育の現状と課題として、小学校６か年というスパンにおける、児童の学齢の差異を考慮した安全教育プログラムの開発がされてこなかった。また、日常の山積する課題対応に追われる多くの公立学校において、年間で実施可能で、かつ有効な安全教育プログラムの開発がされてこなかった。そこで本研究課題では、安全教育内容の有効性の検証と開発、児童の学齢による安全教育内容の有効性の検証、年間で実施する安全教育プログラムの開発を目指した。 これまでの研究の中で、申請者が考案した「安全安心様相図」（日本セーフティプロモーション学会誌（第３巻第１号）P62-66　2010　松井）を用いて実践、検証した結果、学年に応じた有効な安全教育内容が明らかになってきた。そこで本研究課題においては、安全教育内容の有効性の検証と開発・複数小学校を対象にした児童の学齢による安全教育内容の有効性の検証・児童、教職員、学校に応じた安全教育プログラムの開発を行う。 本研究は、小学校６ヵ年というスパンにおける小学生の学年を考慮し、低・中・高学年それぞれにおいて、その学年に妥当で有効な安全教育プログラムを開発することを目的とするものである。本研究課題では、これまでの事件や災害で失われた幼い命が残した教訓を生かした教材開発を行い、その妥当性と有効性を調査、検証し、全国の学校において実施可能な、有効で汎用性の高い安全教育プログラムを開発する。本研究は、安全で安心な社会の構築の一助となることはもとより、児童の命を守るための研究である。

６．科学研究費補助金　基盤研究Ｃ（研究代表者） 独立行政法人日本学術振興会 『「有効性」と「持続性」を持つ包括的な学校安全プログラムの開発』 （研究課題番号 19K02694 の研究代表者として、研究分担者１名体制で研究を率いている）	令和１年度～	これまでの学校安全に関する取組や研究は、事件や事故、災害が発生し、社会的な要求が高まった時期に進められてきた 。内容に関しても、社会的な関心や要求に呼応して取組まれてきており、包括的な学校安全に関して継続的に取組まれていないという課題がある。 要因として、これまでの学校安全に関する取組や研究が、学校や児童生徒の安全にとって「有効性」を持っていたのかという検証がされてこず 、成果の曖昧さから「持続性」を持って取組まれてこなかった。そこで本研究課題は、学校や児童生徒の安全において「有効性」を持ち、「持続性」を持って取り組まれる、「包括的な学校安全プログラム」を開発することを目的とする。
７．JR 西日本あんしん社会財団研究助成（研究代表者） 「事件・災害の未体験教員による語り継ぎのジレンマ研究」	令和２年度	本研究課題では、学校教育現場で関連のある事件を知らない、あるいは被災体験のない教員が、児童や学校内外において「語り継ぎ」の責務を背負った時、そこに生じる可能性のあるジレンマについて、モデルとなる教員へのインタビューと「環状島」をモデルに研究する。そして教員が、ジレンマを乗り越えて行う「語り継ぎ」は、その対象（児童や教員）に対してどのような有効性を持つのかを明らかにすることを目的とする。
８．奈良学園共同研究助成金（研究代表者） 「小学校における探究型防犯学習カリキュラムの開発」 （研究代表者として、共同研究者３名体制で研究を率いた）	令和３年度	本研究課題では「子供の視点（必要性）を出発点とした探究型防犯学習」のカリキュラムデザインについて開発、実践、検証することによって、子どもたちの安全・安心な日々（ウェルビーイング）に結びつく研究とすることを目的とした。本研究で開発しようとする探究型防犯学習では、図２における探究型学習のプロセスによって、児童がいかなる場所においても自ら判断することができる危険予知・回避力を身につけることができるカリキュラムモデルを作成し、実践、検証を行なった。
9. 奈良学園大学学部共同研究（研究代表者） 「教員志望学生の資質形成に資する Global Perspective の有効性に関する研究」 （研究代表者として共同研究者３名体制で研究を率いた）	令和４年度	本研究課題では、これからを生きる子供たち、そして子供の教育に携わる教師の視点（perspective)は、国籍や人種、文化、言語、習慣の枠にとらわれない（Global)ものでなければならない。これが、本研究で教育に関連したグローバル・パースペクティブの必要性と有効性を探究しようとすることを目的とした。そこで、Global Perspective 調査用紙を作成し、フィールドワークを中心として研究を推進した。

研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書，学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所，発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
（著書） 1　「いのちの教育」	共著	平成 21 年 10 月	東洋館出版	平成１３年６月８日に発生した児童殺傷事件。それ以来、安全教育と道徳を中心として、児童の安全と安心のために取り組んできた８年間の教育・授業実践を２６例載せた。教育関係者がすぐにでも実践できるように、指導計画や板書例を掲載し、授業による児童の変容についても、具体的に記述した。 Ｂ５判　全１２４頁 編者：大阪教育大学附属池田小学校 共著者：藤田大輔・佐々木靖・浅田正志・井上伸一・岩井伸夫・岩井陽介・江原悦子・小原愛子・垣内幸太・鎌田菜絵・岸本卓也・坂下剛・佐藤学・田中毅・竹本和也・辻匡美・冨田有香・長野純子・中村晶子・西江なお子・西村恭美・能川正人・土師尚美・林美恵子・孕石泰孝・平田葵・升村誠志・松井典夫・松浦恵・松原梨沙・薬師寺美江・矢藤学・柳井友裕・山崎聡・龍神美和 本人担当部分： 「いのちをつなぐ機器ＡＥＤ」 （１１５頁－１１８頁）を単著 「命のバイスタンダー」 （１１９頁－１２２頁）を単著

2　「学校安全　３６のナラティブ」	共著	平成 26 年 3 月	教育出版	子供たちの命を守り、安全で安心できる生活のために、学校は何ができ、また、何をすべきかという命題のもとに、学校安全に関わる著者陣が原稿を寄せてできた本。この安全・安心に関する問いかけに対しては、すでに多くの解説書や教材集、マニュアル本等が刊行されている。しかしそれらは、ともすれば上からの押し付けのような論が多い。そこで本書では、各著者が「私はこう考えている」「私はこんな体験をした」という、お話風の「語り（ナラティブ）」として編集された。 Ｂ５版　全１５７頁 編者：長尾彰夫 共著者：小林忠三・浜條信彦・松井典夫・若狭孝太郎・神田英幸・前馬晋策・丸山涼子・植木美佳・砂田信夫・中井尚人・佃繁・松田智子・伊原正俊・藤田大輔・諏訪清二・村川雅弘・立田慶裕 本人担当部分： 「スリッパとＩＤカード」（pp14-15） 「安全な公園は危険な公園？」（pp18-19） 「わるい人とはどんな人？」（pp25－27） 「いかのおすしとおはしも」（pp48－49） 「休み時間に地震が起きたらどうしよう」（pp54－57） 「いろいろな不審者対応訓練」（pp62－65） 「火災現場に戻らない、は正解か」（pp74－77） 「命のバイスタンダーの授業から」（pp82－87） 「溺れかけた兄妹を教材にして」（pp108－111）
3 「教育フォーラム５６ アクティブ・ラーニングとは何か」	共著	平成 27 年 8 月	金子書房	本書は、アクティブ・ラーニングのために必要な、課題意識の喚起のさせ方、多様な発想・アプローチへの目の開かせ方、粘り強い課題取り組みへの支援、課題解決の結論の検討や再吟味の促しといった、さまざまな働きかけ、指導の実際を具体的に提示したものである。 Ａ５判　全１６９ページ 共著者（執筆順）：溝上慎一、加藤明、伊崎一夫、鎌田首治朗、前田洋一、岸周吾、芝池宗克、米川雅士、武谷嘉之、松井典夫、瀧明知恵子、井上信子、梶田叡一 本人担当部分：「児童にとって『有効な』安全教育プログラムに関する一考察」（pp.105-114）

4 「どうすれば子どもたちのいのちは守れるのか －事件・災害の教訓に学ぶ学校安全と安全教育」	単著	平成 29 年 2 月	ミネルヴァ書房	本書は，著者が、大阪教育大学附属池田小学校において、同僚とともに実践してきた不審者対応訓練や ID カード等による学校安全対策，様々な「いのちの教育」の授業の事例などを通じて，これまで当たり前とされてきた「安全」についての考え方や方法を根本的に見直し，これからの学校安全と安全教育のあり方をさぐることを目的とした書である。その中で、学校の安全を担う教師の役割、職責、使命感、資質能力について記述した。 Ａ５判　全２１６ページ
5 教育フォーラム ６０ 「深い学びのために　－アクティブ・ラーニングの目指すもの」	共著	平成 29 年 8 月	金子書房	アクティブ・ラーニングの中で提唱される「深い学び」については、一定の教授・学習活動のパターンに関わるものではない。本書では、どのようにすれば「深い学び」になり、実現できるのかを、具体的、かつ実践的な提案で記している。 Ａ５判　全１４５ページ 共著者（執筆順）：梶田叡一、古川治、鎌田首治朗、伊崎一夫、湯峯裕、大畑健美、菅井啓之、後藤紗貴、金山憲正、石森広美、善野八千子、瀧明知恵子、岡村季光、松井典夫 本人担当部分：「震災における教師の役割を考える」（pp. 125-134）を共著（岡村季光、松井典夫）

6「教師のための教育法規・教育行政入門」	共著	平成 30 年 3 月	ミネルヴァ書房	本書は教職入門、教職概論、教職行政論、教員採用試験対策のテキストを目的として著述された。初学者にむけて学校教育のしくみを法的に理解できるよう、事例などをまじえ具体的に解説している。また、巻末に「主な教育法規」を収録した。 Ａ５判　全２１０ページ 共著者：古川治、五百住満、八木眞由美、今西幸蔵、松井典夫、藤本裕人、藤田敏和、冨江英俊、中村豊、岡邑衛 本人担当部分： 「教育職員免許法」（pp14-15） 「校務分掌」（pp38-39）を単著 「校長と教諭の職務」（pp40-41） 「司書教諭の職務」（pp42-43） 「教員免許の更新制」（pp108-109） 「学校保健・安全と法規」（pp152-153） 「学校保健安全法」（pp154-155） 「安全点検と安全教育」（pp156-157） 「災害安全・防災教育」（pp158-159） 「養護教諭の職務」（pp160-161） 「学校事故と国家賠償法」（pp162-163） 「食育基本法」（pp164-165） 「学校給食法」（pp166-167）	

7 「３年目教師　勝負の図工授業づくり」	編著	令和１年７月	明治図書	本書は図工科指導法のテキストを目的として、また、新任から３年目の教師をターゲットに、図工における有効な実践と、教師力向上を目的として著述された。改訂学習指導要領とも対応させ、カリキュラムマネジメント、ICT の活用、チームとしての学校等を関連させて授業実践ができるように構成した。 Ａ５判　全 127 ページ 編著者：松井典夫 共著者：松井典夫、森治健太 本人担当部分： 「はじめに」（p3） 「第１章とびら」（pp8-9） 「第１章-1 授業に役立つ学習指導要領の読み方」（pp10-11） 「第１章-2 材料との対話が授業を決める」（pp12-13） 「第１章-3 用具は『創造的な技能』への架け橋」（pp14-15） 「第１章-4　題材による柔軟で効果的な場の設定」（pp16-17） 「第１章-5　鑑賞活動と技能の融合」（pp18-19） 「第１章-8　「『安全』は信頼への架け橋」（pp24-25） 「第１章-10　活動過程を評価する」（pp28-29） 「第２章とびら」（pp30-31） 「第２章-1　学級開きでクラス旗づくり」（pp32-33） 「第２章-2　けがのない彫刻刀の授業で一致団結」（pp34-35） 「第２章-3　サイレント美術館でルールを守れるクラスに」（pp36-37） 「第２章-5　図工の時間のあいさつとルールで集中力」（pp40-41） 「第２章-6　個を高める指導で自尊感情の高いクラスに」（pp42-43） 「第２章-7　教室に遠足を再現しよう」（pp44-45） 「第２章-10　全校図工で１年生歓迎会を作ろう」（pp50-51） 「第２章-13　６年国語科　『やまなし』で場面を想像しよう」（pp56-57） 「第２章-14　４年算数科　立方体を考えて作ろう」（pp58-59） 「第２章-15　６年理科　月と太陽で宇宙を作ろう」（pp60-61） 「第２章-16　４年社会科　地形図模型を作って国土の理解」（pp62-63） 「第２章-17　６年外国語活動　世界の名産を調べて作ってギャラリートーク」（pp64-65） 「第２章-18　５年道徳科　資料に自己投影絵画」（pp66-67） 「第２章-19　地域の人材を生かしてチーム学校」（pp68-69） 「第２章-20　地域の伝統文化を図画工作で」（pp70-71） 「第２章-21　異学年交流で共同制作」（pp72-73） 「第２章-22　教師の専門性を生かしてチーム図工」（pp74-75）

					「第２章-24　小中と美術館連携でアートカフェを開こう」（pp78-79） 「第２章-25　災害時のメンタルケアアートプロジェクトの実践」（pp80-81） 「第２章-26　校内の安全標識を作ろう」（pp82-83） 「第２章-27　看板で防犯対策」（pp84-85） 「第２章-28　立体安全マップを作ろう」（pp86-87） 「第２章-29 災害の教訓を絵本で伝えよう」（pp88-89） 「第２章-30 『安全かるた』で知識と意識を高めよう」（pp90-91） 「第２章-37 ブラックライトと蛍光塗料でルミナリエ」（pp104-105） 「第２章-38 アルミ板でミラーワールド」（pp106-107） 「第２章-39 技能を集結して食品サンプルづくり」（pp108-109） 「第２章-40 紙テープの変身」（pp110-111） 「第２章-41 砂でサンドアート」（pp112-113） 「第２章-42 名画が「わたしだけの名画」に」（pp114-115） 「第３章　とびら」（pp116-117） 「第３章-1 ワークシートは『夢への扉』」（pp118-119） 「第３章-3 即時評価と情報共有の画用紙」（pp122-123） 「第３章-4 身の回りのグッズの『第２利用』」（pp124-125） 「第３章-5 『想いの履歴』で児童把握
8 2019年改訂　新学習指導要領　記入文例集」	共著	令和２年２月	文溪堂	監修：梶田叡一、編著：古川治、南山晃生、共著者：今宮信吾、盛田恭平、長野純子、松井典夫、栫井大輔、五十川昌宏、龍神美和、西江なお子、瀧本哲弘　全159頁 本人担当部分： 低学年　各教科の学習に関する所見図画工作、18頁－19頁 中学年　各教科の学習に関する所見図画工作、60頁－61頁 高学年　各教科の学習に関する所見図画工作、112頁－113頁	
9 小学校１年の 絶対成功する授業技術	共著	令和６年３月	明治図書	本書は、コロナ禍以降、変容する学校教育、授業に焦点を当て汎用性のある授業を各教科ごとに示したものである。 Ａ５判　全142ページ 共著者：多賀一郎、丸岡慎弥、川上康則、樋口綾香、三笠啓司、黒瀬梨帆、黒川孝明、安藤浩太、土師尚美、松井典夫、夏苅崇嗣、飯村友和 本人担当部分：図工 ・見立てから作る「破いた形からの製作」（pp100-101） ・絵画の用具を発展的に活用する「クレヨンの技法」（pp102-103） ・連想から表現につなげる「お日さま、にこにこ」（pp104-105） ・お話から絵を描く「おはなしからうまれたよ」（pp106-107）	

				・心象風景を絵にする「あの日、あのときの気持ち」(pp108-109) ・初めての粘土を楽しむ「ごちそうぱあてぃ　はじめよう」(pp110-111) ・生活科と結びつけて季節の行事を理解できる「ハロウィンパーティー」(pp112-113)
10 小学校３年の 絶対成功する授業技術	共著	令和６年３月	明治図書	本書は、コロナ禍以降、変容する学校教育、授業に焦点を当て汎用性のある授業を各教科ごとに示したものである。 Ａ５判　全 142 ページ 共著者：多賀一郎、佐々木陽子、若松俊介、川上康則、坂本亜姫奈、古賀太一郎、小川辰巳、宋亶直樹、佐野陽平、小谷宗、三井寿哉、土師尚美、松井典夫、垣内幸太、澤田崇明、広山隆行、竹下志穂 本人担当部分：図工 ・正しく活用的な絵の具の使い方を身につける「道具のルールと色塗りの工夫」（pp108-109） ・奥行きの出し方を身につける「わたしの６月の絵」（pp110-111） ・他教科の学習を図工で活用する「マグネットマジック」（pp112-113） ・彫刻刀を安全に使い、技能を高める「彫って絵を描こう」（pp114-115） ・鑑賞を広げるきっかけづくりになる「鑑賞カードの活用方法」（pp116-117）
11 小学校４年の 絶対成功する授業技術	共著	令和６年３月	明治図書	本書は、コロナ禍以降、変容する学校教育、授業に焦点を当て汎用性のある授業を各教科ごとに示したものである。 Ａ５判　全 142 ページ 共著者：多賀一郎、南恵介、若松俊介、川上康則、坂本亜姫奈、古賀太一郎、小川辰巳、宋亶直樹、中田大晴、荒井勉、土師尚美、松井典夫、垣内幸太、澤田崇明、広山隆行、竹下志穂 本人担当部分：図工 ・空想力の風景を描くために身に付ける「絵の奥行きを描くスキル」（pp106-107） ・自分自身を見つめ直しながら取り組む「自画像制作のポイント」(pp108-109) ・材料の固定概念を覆す「テープの特徴を活かした作品づくり」(pp110-111) ・ダイナミックな作品へチャレンジする「自然と人工物を融合した作品づくり」（pp112-113） ・砂や土の色で表現する「壁画をイメージした作品づくり」(pp114-115)

12 小学校５年の 絶対成功する授業技術	共著	令和６年３月	明治図書	本書は、コロナ禍以降、変容する学校教育、授業に焦点を当て汎用性のある授業を各教科ごとに示したものである。 Ａ５判　全 142 ページ 共著者：多賀一郎、松下崇、川上康則、土居正博、宋亶直樹、澤田康介、樋口万太郎、佐藤洋一、土師尚美、松井典夫、佐藤翔、垣内幸太、澤田崇明、広山隆行、竹下志穂 本人担当部分：図工 ・絵と言葉で情報と思いを伝える「思い出手紙」(pp94-95) ・愛着あるファイル背表紙をデザインするレタリング制作「私のファイル」(pp96-97) ・一風変わった技法で手軽に版画表現ができる「メディウム版画で名画模写」(pp98-99) ・紙粘土で自己表現「マイマスク～もう一人の自分～」(pp100-101)
13 小学校６年の 絶対成功する授業技術	共著	令和６年３月	明治図書	本書は、コロナ禍以降、変容する学校教育、授業に焦点を当て汎用性のある授業を各教科ごとに示したものである。 Ａ５判　全 142 ページ 共著者：多賀一郎、古賀良純、川上康則、土居正博、眞島良太、佐野陽平、吉川秀一、小林靖隆、宋亶直樹、土師尚美、松井典夫、佐藤翔、垣内幸太、澤田崇明、広山隆行、竹下志穂 本人担当部分：図工 ・白と黒だけで構成、表現できる「切り絵～白と黒の世界に挑戦～」(pp94-95) ・自分のキャラクターを掴むことができる「名前の漢字のレタリング」(pp96-97) ・平和への想いを具現化する「平和な焼き物」(pp98-99) ・鑑賞力とトーク力を高める「ギャラリートーク体験」(pp100-101)
（学術論文） 1.「大阪教育大学附属池田小学校『安全科』のカリキュラムに関する一考察　－『安全安心様相図』を用いて-」 Human education and The dynamic of Art － Art experience and education at schools － （査読論文）	単著	平成 26 年３月	大阪教育大学大学院学校教育専攻　教育学コース　修士論文	大阪教育大学附属池田小学校においては、「安全科」を設置し、安全教育の研究と推進に努めてきた。しかしながら、その系統的な安全教育も十分ではない点がある。特に附小「安全科」においては、カリキュラムを作成する際に、１つの授業をどの学年に配当するかは、実証的な根拠が十分あってのことではなかったことが挙げられる。そこで本研究においては、児童の安全に対するレリバンスRelevance（知識・技能・行動・情緒面における妥当性）を検証し、そのことで児童の学年を考慮した系統的な安全教育カリキュラム編成に関して考察した。

2.「人間教育と美術の力－美術体験と学校教育－ Human education and The dynamic of Art －Art experience and education at schools －」 （査読論文）	単著	平成 26 年 4 月	人間教育学会誌 「人間教育学研究」 創刊号ｐｐ８９－９５	図画工作・美術教育において、学習指導要領などに随所に現れる「自由」「創造的」「個性的」「喜び」という用語から教科としての特性と課題が見える。それらの用語は，図画工作・美術の他教科にはない特性を表すと同時に，捉えようによると教科としての「ゆるみ」に繋がりかねない。そこで本稿では、図画工作・美術教育の課題を歴史的背景から紐解くと同時に、図画工作・美術科が持つ教科としての特性を、鑑賞教育を中心とした特徴的な実践から論じた。
3.「小学校美術教育の方法と技術に関する実践研究Ⅰ　～ＩＣＴを活用した絵画教育の可能性～ Practical Research of Methods and Techniques of Elementary School Art Education -Possibility of Painting Education Using ICT-」	単著	平成 26 年 9 月	奈良学園大学研究紀要 第１集 ｐｐ１０９－１１５	戦後の美術教育史の中で、絵画教育が敬遠され、衰退してきた感は否めない。その理由として、絵画教育は、「上手」「下手」と2局的に、即時的に、そして結果的に評価されるため、授業者にとっても児童にとっても、それぞれの理由で積極的に取り組む関心・意欲・態度を逸してきたのだと考えられる。 そこで本稿では、新たな絵画教育の方法として、ＩＣＴ機器を活用した動画による鑑賞活動を取り入れた授業実践を紹介し、その授業の方法から、新たな絵画教育の方法や、美術教育の価値について論じた。
4.「小学校美術教育の方法と技術に関する実践研究Ⅱ　－小中連携教育の意義と課題－ Practical Research of Methods and Techniques of Elementary School Art Education ― Significance and Problems of elementary and junior high education cooperation ―」 （査読論文）	単著	平成 26 年 12 月	人間教育学会誌 「人間教育学研究」 第２号 ｐｐ１２１－１２９	小学校と中学校の義務教育期における教育の役割は、人間教育の観点での土台を築くものである。その重要性から、学校教育活動は小学校と中学校の連携を念頭に置き、共に理解し、共に手を携えた教育を実践する試みが多くなされている。 本稿においては、大阪教育大学附属池田地区合同研究会における具体的な取り組みから、小中連携の課題と意義について考察した。
5.「学校安全・安全教育」	単著	平成 27 年 1 月	平成２４年度～平成２６年度科学研究費補助金（基盤研究(Ｂ)課題番号24330254「いのちの教育カリキュラムモデルの開発的研究」研究成果報告書「いのちの教育カリキュラムモデルの開発と実践」 ＰＰ７７－９５	本稿は、平成２４年度～平成２６年度科学研究費補助金「いのちの教育カリキュラムモデルの開発的研究」の研究成果報告書「いのちの教育－カリキュラムモデルの開発と実践－」の中の、第４章学校安全・防災部会の報告、第１節学校安全（PP77-81）と第２節安全教育（PP82-95）の部分を単著したものである。主に大阪教育大学附属池田小学校における学校安全の取り組みや、「安全科」において取り組んだ安全教育の方法と実践内容について述べた。
6.「児童の発達段階を考慮した安全教育プログラムの開発に関する研究　－「児童の安全意識尺度（SASC)」の開発に関する基礎的研究－ A study on the development of safety education program in consideration of the developmental stage of the children -Basic research on the development of “Safety Awareness Scale of Children (SASC)”-」(査読論文)	単著	平成 27 年 12 月	人間教育学会 「人間教育学研究」 第３号 ｐｐ９７－１０６	本研究においては、より汎用性の高い安全教育プログラムの開発を念頭に、児童の発達段階を考慮した安全教育プログラムの開発に関する研究における、「児童の安全意識尺度(SASC)」の開発に関する基礎的研究を行うことを目的とした。調査結果を質問内容に着目した考察と、授業時の児童の様子に着目した考察を行った。その結果、本研究で取り上げた実践例である「知らない人にはついていってはいけません」という教えを題材とした安全教育内容は、低学年が最もその妥当性が高いと見なすことが可能となった。

7.「学校安全の課題と展望に関する一論考　～教訓と教材と教師について～」	単著	平成 28 年 2 月	大阪教育大学附属池田小学校研究紀要・雑誌「とごころ」pp。56-60	平成２７年７月に、奈良県香芝市で小学校６年の女児が誘拐された事件は世間を震撼させた。2004 年の奈良小１女児殺害事件や 2014 年に発生した神戸女児遺体遺棄事件、2015 年の和歌山小５殺害事件など、これらの連れ去り事件では、未来のある小学生の児童が命を失うという、最悪の結末を迎えている。防犯に関して、具体的な事件を想起しながら、教訓と教材と教師、という３つの視点で記述した。
8.「事件 ・事故・災害時における学校対応と児童の安全・安心に関する研究 A Study of school`s response to incidents ,accidents , disasters , and safety and security of children.」（査読論文）	共著	平成 29 年 12 月	奈良学園大学人間教育学研究会「人間教育研究」第1号（創刊号）PP.55－71	これまで、児童生徒が被害に遭った事件・事故・災害において、その犯罪機会や動機、あるいは自己の発生原因や災害による被災状況については多く語られ、研究されてきた。本研究では、それら事件・事故・災害において、学校はどのように対応し、その対応は適切だったのかについて、過去の事例研究をもとに論考した。 著者／松井典夫・古田浩大・竹中遙一郎・中本将馬・池上紗耶・森高千晶・戸川理夏 本人(松井)は、本研究の企画、構成、授業実践、論文執筆を担当した。
9.「被災地小学校での絵画によるケアの実践 －熊本地震復興アートプロジェクトの児童と教師たち－ Practice of care by painting at elementary school in disaster area －Kumamoto earthquake reconstruction art project and children and teachers -」	単著	平成 30 年 3 月	奈良学園大学紀要第８集 PP.87-95	本研究は、災害時における学校、教師、児童生徒に関連して２つの課題を見出した。一つは、災害時における「教師」を主体として見たとき、その多忙感を超えた使命感で避難所を運営する教師の姿は当たり前なのではないという認識の必要性である。もう1点は、防災教育のありかたとして、それは次に来たる災害への準備、対応のための教育という意義は認められるものの、その視点を災害後の心のケアに着目した教育に置き、その方法を構築していく必要性があるということである。 これら課題の着眼から、本研究では熊本地震において、学校再開直後に実践された復興アートプロジェクトに注目した。そして、「心の復興」を目的とする教育活動の有効性を、児童、教師、教材の３つの視点から検証した。
10.「教師教育の視座における国際理解教育の必要性への考察　－教職志望学生の開発途上国研修におけるテキストマイニングから－ A study on the necessity of international understanding education in the viewpoint of teacher education. -From text mining in developing country training for teacher aspiring students-」	単著	平成 30 年 9 月	奈良学園大学紀要第９集 PP.137-146	近年我が国において、日系人を含む外国人の滞日が増加している。それに伴い、ニューカマーの児童生徒への教育や対応、社会的問題として、経済的危機（貧困）、学校不適応、母国への郷愁、それらが複合的に混在した結果によるいじめ等など、多くの問題が指摘されている。本研究では、それらニューカマーへの教育をはじめ、国際理解は教師にとって重要な資質能力であるにもかかわらず、教師教育の視座において、その認識や対応が進んでいないことを課題とした。ターゲットとした開発途上国研修は、教職志望学生の国際理解を進め、有効であることは明確となったが、グローバルパースペクティブや教員の資質能力向上に関しては、さらなる研究が必要であることが示唆された。

11.「災害時における教師の職業的役割　－「使命感」と「多忙感」に着目して－ Occupational role of teacher in case of disaster -Focusing on “sense of mission” and “busy feeling”-」 （査読論文）	共著	平成 30 年 9 月	日本教師学学会誌 「教師学研究」 第 21 巻　第 2 号 PP. 13－21	本研究では，災害時において，その教師の「職業的使命感」は統制の効かない状況における「多忙感」を凌駕するのではないかという仮説を立てた。そこで熊本地震において被災した学校に勤務する教員，非災害地域として，民間主催の研究会に参加した小学校教員，及び関西圏の小学校教員との比較アンケート調査と熊本群の小学校教師６名に非構造化インタビューを実施した。その結果，使命感に関しては，被災の有無にかかわらず高い使命感を有している反面，被災を経験した教員において，多忙感や内的統制感の高さが，自らの存在価値や意欲の高まりにつながっていない実態が明らかになった。 著者／松井典夫・岡村季光 　本人(松井)は、本研究の企画、構成、調査、論文執筆を担当した。 論文については、1．本研究の背景　4．まとめと考察を担当した。
12.「教職志望学生が危機管理意識の国際的な相違を認識することの有効性に関する考察 －『学校安全』における留学生と日本人学生の学びの比較から－」	単著	平成 31 年 3 月	奈良学園大学紀要 第１０集 pp. 113－122	本研究では、北海道地震における訪日外国人が直面した課題がこれからの時代において看過できない課題であり、また、昨今の学校教育における外国籍児童生徒の増加に伴い、これから教職を志す学生が「何を学ぶのか」という視点に立ったとき、諸外国の危機管理意識やその方法について学ぶことの必要性について考察した。「学校安全」の授業における中国人留学生と日本人学生の学びについて比較検討した。テキストマイニングによって分析を行った結果、危機管理において「命」というものに最大の重きを置き、「人の命も大切であり、できれば救いたい」という感覚においても中国人留学生と日本人学生は同様の質を示すことが示唆された。
13.「教員による「語り継ぎ」のジレンマに関する研究－事件・事故・災害の未体験教員と『環状島』をモデルとして－」	単著	令和 1 年 9 月	奈良学園大学紀要 第１１集 pp. 135－142	本研究では、被災体験のない、あるいは学校教育現場に関連した事件について、「事件を知らない」教員が「語り継ぎ」の責務を負った時、そのジレンマについて明らかにすることを目的としてきた。その中で、「語り継ぎ」のジレンマは、環状島（宮地,2007）のポイントとインタビューによって明らかになった。また、それぞれのモデルがそのジレンマを乗り越えるきっかけとして、立場の変化や他者からの評価が強く働いたことがわかった。
14.「教職志望学生の『学校安全』に関する体験的学修の有効性」	単著	令和 2 年 1 月	全国私立大学教職課程協会　「教師教育研究」 第３２号 pp. 63－74	本研究では、教員の資質能力としての学校安全の必要性の認識と実行力は、教員になる前の段階、教職志望学生の学修の中で育まれることが有効なのではないかという仮説を立てた。そのような中、2017 年、教職課程コアカリキュラムにおいて、「学校安全への対応」が必修項目とされた。これまでの課題の経緯を踏まえ、教職志望学生がいかに「学校安全」を学び、それが教職への資質能力へとどのように結びつけることができるのか、計画と実践、評価と検証が必要になってくる。 　本研究においては、教職志望学生が学校安全を学ぶひとつのモデルとして、体験的学修が、教員の資質能力としての学校安全への意識にどのように結びつくのか、実践と学生の反応から検証した。

15.「学校教育における事件・災害の伝承に関する一考察　－非体験教員による伝承の実態－」	単著	令和２年４月	大阪教育大学学校危機メンタルサポートセンター「学校危機とメンタルケア」第12巻 pp.1-13	本研究は、「非体験教員」による事件・災害の伝承に着目した。学校教育現場において、あるいは就学児童が命を失った災害や事件について、その当該校は教訓の伝承、あるいは再発防止の責務を否応なく背負ってきた経過がある。しかし、その事件や災害からの時間の経過は、「体験」教員の減少、あるいは不在により「非体験」教員へと伝承の責務は移行していく。その中では少なからず、「体験していないのに何が語れるのか」「体験者と同じ温度や強さで語れない」というジレンマの存在がある。 そこで本研究では、伝承の責務を担う事件・災害の「非体験」教員を対象にインタビューを実施し、環状島をモデルとして検証を試みた。そこでは、「非体験教員」が伝承する上で、「伝承のジレンマ」「非体験教員が感じる壁」「伝承していく上での温度差」の存在が示唆される結果が得られた。
16.「総合学習における地域教材の目的・課題の質的検討 A qualitative examination of the purpose and problem of teaching materials with a regional theme in integrated learning」	単著	令和２年７月	人間教育 第 3 巻第 7 号 pp.137-146	総合学習における学習課題として、地域教材は重要な意味を持つことは周知であろう。しかし、地域教材から「何を」学ぶのか、という総合学習の目的、あるいは成立要件の要素として、19 本のリポートから課題を見出した。本研究では、総合学習における地域教材に込められたふるさとへの愛着や誇りが、子供たちの資質・能力をどのように形成するのかという、地域教材のレリバンスを質的に検討することを目的とした。
17.「総合的な学習の時間における 『探究型防犯学習』のカリキュラム研究 Curriculum research of “inquiry-type crime prevention leaning” in the Integrated Studies」	単著	令和２年９月	人間教育 第 3 巻第 9 号 pp.185-192	本研究では、「子供の視点（必要性）を出発点とした探究型防犯学習」のカリキュラムデザインについて提案することを目的とする。探究的な学習が実現される要素として、「課題設定」の段階が重要であるということであった。体験的な学習や、情報収集し、分析したことを表現する総合学習は、これまでも多様な実践が試みられ、成果を上げてきた。しかし本研究からは、探究的な学習のカリキュラムが、改めて学習者から見出されることの重要性が示唆されたのである。
18.「カリキュラム・ポリティクスの視座における 『社会に開かれた教育課程』の論考 From the perspective of Curriculum Politics Discussion of ″Curriculum open to society″」	単著	令和２年10月	人間教育　第３巻第 10 号　pp.241-247	本研究は、カリキュラムをポリティカルな視座で解釈しつつ、「社会に開かれた教育課程」について論考した。子供たちが出会う学び（カリキュラム）とは、一人ひとりの子供が主体となって社会で、世界で生きていく資質・能力を身につけるものであり、その学びの内容、プロセスの総体がカリキュラムであるという視点を明確にすることを目的としてきた。カリキュラムとは、子供の生きる意味という視点で哲学的な生や死の意味をも含むものであり、社会的要請にこたえるためのものではないということを論じた。

19.「カリキュラム・マネジメントの今日的課題と成立要件の考察 −M. Skilbeck の SBCD 理論を基点に− Consideration of today's issues and requirements for curriculum management − Based on SBCD theory by M. Skilbeck −」	単著	令和 3 年 2 月	人間教育　第 4 巻 第 2 号　pp.15-21	本研究は、M.スキルベックによる SBCD 理論を基点に、カリキュラム・マネジメントの今日的課題について言及し、その成立要件について考察することを目的とする。本研究ではその課題設定として、カリキュラム・マネジメントの主体は学校（教師）であることの認識はどれほどなされているのか、という課題意識が発端となっている。そこで本研究では、スキルベックの SBCD 理論、2017・2018 年改訂学習指導要領、その改訂の経過で発せられた論点整理をつぶさに比較、分析することによって、カリキュラム・マネジメントの成立要件について考察した。
20.PISA と総合的な学習の時間を起点としたカリキュラム観の論考 Study of the curriculum interpretation as starting from PISA and integrated leaning	単著	令和 3 年 12 月	奈良学園大学紀要 第 14 集 pp.149-156	第 1 回目の PISA が、2000 年の春、世界で 32 カ国、265000 人の 15 歳生徒が調査に参加した。日本では高校 1 年生の抽出された生徒、約 5100 人が参加した。この世界で初めての試みの結果、学力が「測られ」、思い込みで通用してきた各国の教育におけるアセスメントが覆されることになった。本研究では、カリキュラムは子供のための「地図」なのか、ナショナル・カリキュラムとしての「地図」なのか論考し、明確にしていくことを試みた。
21.学校安全・避難訓練と生徒指導 -避難訓練のマンネリズムと児童の意識変容に関する実証検証-	単著	令和 4 年 2 月	特別活動と積極的な生徒指導　-社会の形成者としての資質を涵養する特別活動- 平成 30 年〜令和 3 年度科学研究費補助金（基盤研究 C）報告書	学校の安全、とりわけ児童生徒の安全に関する取り組みついては、「その時何があったか」ということに大きく依拠していると松井（2017）は指摘している。あるいは時間の経過による意識の風化作用や、被災地、あるいは被害にあった地域、学校とその他との「温度差」に関する課題もある。そこで本研究では、小中学校における避難訓練に関連する実践について振り返り、「児童生徒の意識変容」について検証し、効果的な避難訓練カリキュラムについて考察することを目的とした。
22.　学校危機の定義、継続、変化に関する考察 〜石巻市立大川小学校津波事故と大阪教育大学附属池田小学校事件を事例に〜	単著	令和 4 年 7 月	人間教育　第 5 巻 第 1 号　pp.1-11	本研究は、学校管理下における危機マネジメント（危機管理と呼ばれるものやその対応を含めた意味で）の研究の序章として、「学校危機」という概念について、附属池田小学校事件と大川小学校津波事故の 2 つの事例から考察し、「学校危機」の概念について定義することを目的とした。そこで大川小学校津波事故と附属池田小学校事件という二つの事例から、危機は継続すること、そして継続の過程でターニングポイントが訪れ、その選択的な対応が危機の継続性や強度に影響を及ぼすことがわかった。
23.「ポスト・コロナのカリキュラム論考　〜学校行事の変更・縮小と不登校問題を起点に〜」	単著	令和 5 年 3 月	奈良学園大学紀要 第 15 集 pp.165-173	本研究は、コロナ禍における学校休業以降において生じたカリキュラムにおける課題（脆弱性 fragile）を明らかにし、ポストコロナ（Post-Corona）のカリキュラムイノベーションの可能性について論考することを目的とした。その結果、コロナ禍において、教師は必然的にカリキュラム・デベロッパーとなり、とくに特別活動の領域で学校行事を変更・縮小するなどし、それは単なる変更・縮小ではなく、そこに児童生徒にとってより良い学習体験となるよう、工夫してカリキュラム・マネジメントを実践したことがわかった。

24.「学校安全への教訓を次代の命へとつなぐ反脆弱性の学校危機マネジメント」	単著	令和5年8月	小学校時報8 No.864 pp.4-8	本稿では、過去における災禍が残した教訓を、どうすれば次代の命につないでいくことができるのか、具体的な事例に基づいて考察し、論考した。そこで、「1.開いている正門」「2.継続する学校危機」「3.反脆弱性の学校危機マネジメント」「4.空の事故理論と学校安全」と項を立て、それぞれにおいて実際の事例を上げながら「教訓」としてこれからの安全に結びつけるための論を展開した。
25.「教訓の伝承と学校危機マネジメント」	単著	令和5年9月	日本安全教育学会第24回奈良大会 予稿集 pp18-19	本稿は年次学会長講演の内容を記述したものである。教訓は「誰が」「何を」「どのように」して伝承するのかが課題となる。事件や災害から歳月が経過する中で、事件や災害を体験していない教師が、目の前の子供たちに、あるいはこれから教壇に立つ教師たちに「何を」「どのように」伝えていくのか。そしてそれは、次代の子供たちの命につながる試みなのか。本学会大会のテーマである「学校安全への教訓を継承し、次代の命へとつなぐ学校危機マネジメント」の本質について論考した。
26.「教訓の伝承を基盤とする反脆弱性安全文化の創造」	単著	令和6年3月	交通安全教育 No.696 pp.6-15	災害安全や防犯、そして交通安全における学校教育（以降は包括的に「安全教育」と称する）は、過去に失われた命が残した教訓を伝承し、次代の命へと繋ぐ試みである。本稿では、これまでの安全教育における課題（脆弱性）を見つめながら「教訓の伝承」を基盤とした「反脆弱性」を持つ安全文化の創造に向けて論考した。
（教育誌等）				
1.「美術における『鑑賞教育』のあり方　～小学校図画工作に焦点を当てて～」	単著	平成25年2月	「教育PRO」　第45巻 第17号 通巻1716号、ERP、pp.6-10	本稿では、小学校図画工作科における鑑賞教育のあり方について再考し、提案した。児童が新たな課題や素材に出会った時、そこから何を生み出そうとしているかという、「個の認識」の萌芽が見られる。それはまだ、イメージが具象化していない段階であり、自由闊達なものである。そして造形表現活動を始めた時、そのイメージは次第に具象化し、題材の具現化が始まる。この時、「個の認識」はいったん完結したように感じられるが、それは自己中心的なものであり、高次の自己認識とは言い難い。そこで鑑賞活動を取り入れることの有効性について述べた。
2.「これからの学校安全について考える　～第1回　事件の教訓から学校安全の実態を見る～」	単著	平成27年8月	「教育PRO」第45巻 第17号 通巻1786号、ERP、pp.26-27	例えば、児童が何者かに連れ去られそうになったとき、大声を出した（いかの「お」すし）結果、その大声を最悪の方法で犯人が止めようとする場面を想像する。だが、「大声を出す」と教えたのは、現在の学校での安全教育の王道なのである。その教えを頑なに守ろうとした結果、不安全を招く可能性があることを認識しなければならない。ここでは、岡山県での安全教育実践を例に挙げ、安全標語に頼らない、「有効な」安全教育について述べた。

3. 「これからの学校安全について考える　～第２回　子どもの命を守る『有効な』安全教育とは～」	単著	平成 27 年 8 月	「教育PRO」第45巻 第18号 通巻1787号、ERP、pp. 26-27	警察庁のまとめによると、子供の連れ去り（略取・誘拐）事件のうち、発生時間帯として最も多かったのが、午後４時から午後6時の時間帯とされている。この時間帯は、言わば下校時間帯にあたる。奈良小１女児殺害事件以降、この時間帯は「魔の時間帯」とされ、子供たちの安全を守ろうと、地域住民による見守り隊など、児童の下校を見守る大人の姿が多く見られるようになった。地域住民が努力しても、なぜ犯罪は減らないのか。事件の教訓を視点に学校安全の実態について述べた。
4.「これからの学校安全について考える　～第３回　学校安全と教訓～」	単著	平成 27 年 9 月	「教育PRO」第45巻 第20号 通巻1789号、ERP、pp. 26-27	2001年6月に発生し、世間を震撼させた大阪教育大学附属池田小学校児童殺傷事件では、「学校安全神話の崩壊」と言われた。しかし、学校がなぜ安全だと思い込まれていたのだろう。その思い込みが、８名の児童の大切な命を失う結果となったのである。今もなお、学校安全に対する思い込みはないだろうか。本稿では、「これまでの」学校安全に対する思い込みを検証し、考え直し、認識を改めていく必要性を述べてきた。最終回となる本稿では、学校安全を支える教訓について述べた。
5.「教育実習の課題と展望　第１回　教育実習の意義～その必要性と質～」	単著	平成 27 年 12 月	「教育PRO」第45巻 第28号　通巻1797号、ERP、pp. 14-15	教師たちは今、対応すべき問題や課題は多様化し増大している。大切なことは、「では、この流れゆく社会の中で求められる教師像に対応する資質・能力を、教員養成系大学や学校現場で、どのように育むのか」という現実的に必要な視点である。本稿ではその中でも特に、教員になる上で必修である教育実習について、そのあり方や価値、抱える課題について論考し、教育実習のこれからの展望を捉えていくことを目的として記述した。
6.「教育実習の課題と展望　第２回　教育実習の実態～実施する大学と受け入れる学校～」	単著	平成 28 年 1 月	「教育PRO」第46巻 第1号　通巻1798号、ERP、pp. 26-27	いわゆる母校実習については、“大学側の対応や評価の客観性の確保等の点で課題も指摘されることから、できるだけ避ける方向で、見直しを行うことが適当である”とあるように、公立学校にとっては、いつ何時、どのような、どこの学生を受け入れるのかという点において、不確定なのである。本稿では、受け入れる学校側の実態について記述した。
7.「教育実習の課題と展望　第３回　教育実習の役割～教職の道標～」	単著	平成 28 年 1 月	「教育PRO」第46巻 第2号　通巻1799号、ERP、pp. 24-25	教育実習の前、大学における３回生になるまでのカリキュラムの中で、介護等体験や学校支援ボランティアなど、教育という社会の一部に経験はあっても、そこにある「子どもたちに対する責任」の荷重はさほど大きくはない。しかし、教育実習は違う。おのずと「子どもたちに対する責任」の荷重は大きくなる。教育実習生は「学生」でありながら「先生」であるという、重層的立場（Student Teacher）を持つことになる。本稿では、教育実習生そのものに焦点をあて、教育実習現場での実際の学びと、その学びの有用性や効果について論考した。

8.「教育実習の課題と展望　第４回　これからの教育実習～質と夢の保証～」	単著	平成 28 年 2 月	「教育PRO」第46巻 第4号　通巻1801号、ERP、pp. 16-17	平成２７年１月に文部科学省から発信された「高大接続改革実行プラン」は、センター試験の廃止や記述式試験の導入などがセンセーショナルにクローズアップされた。高大接続改革とは、高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の三者一体的改革であるという捉え方をするべきである。それは、高校での「学力の3要素」の育成と、それを受けた大学教育の質的変換、そして、高大の接続を担う大学入試制度が三位一体となった改革である。この構造を、教員養成に関わる一連の過程の中に求めるという視点で記述した。
9.　「これからの教員養成における質的転換」 第１回　教師の資質能力の変化と転換	単著	平成 28 年 8 月	「教育PRO」第46巻 第18号　通巻1815号、ERP、pp. 12-13	社会の進歩や変化のスピードは、体感できるほど早まっている感がある中で、教育の世界においてもその時流は確かに訪れてはいる。　しかしその一方で、教育そのものを担う教師の存在（意義）や資質能力、また、それらの礎となる教員養成の変化と進歩に大きな胎動は見られない。そこで本稿では、社会の変化や進歩に対応する教員養成の質的転換について、教師の資質能力、教育実習、教員採用をキーワードにして論考した。
10.「これからの教員養成における質的転換」 第２回　教員の「多忙感」と教職の実像	単著	平成 28 年 9 月	「教育PRO」第46巻 第20号　通巻1817号、ERP、pp. 14-15	次期指導要領案によると、小学校では英語教育の強化により、年間140時間の授業時数が増加する。また、プログラミング教育の導入など、その改定は、平成10年度改定のゆとり教育前への「回復」であると謳われている。このことから推測されるのは、教員の「多忙感」の増大である。第２回目となる本稿では、教員の「多忙感」に注目し、これからの教員養成について論考した。
11.「これからの教員養成における質的転換」 第３回　揺るぎない「教職の体幹」とは	単著	平成 28 年 9 月	「教育PRO」第46巻 第21号　通巻1818号、ERP、pp. 16-17	教員に求められる資質能力に関しては、これまでに幾度も答申等で整理されてきた。しかしながら、答申における「教員の資質能力」観から見て取れるのは、時代や社会の要請に応じて、その資質能力や教師像を変容させようとしながら、揺れ動いている様子である。第3回目となる本稿では、教員の資質能力について整理することによって、揺るぎない「教職の体幹」について論じた。
12.「これからの教員養成における質的転換」 第４回　「教職の体幹」を育成するカリキュラムデザイン	単著	平成 28 年 10 月	「教育PRO」第46巻 第22号　通巻1819号、ERP、pp. 16-17	大切なのは、その教師は何を持っているのか、それはどのようにして身につけたのかという点である。それは先天的なものや外見なのではなく、後天的に養成されるべきものである。本稿では、「子どもに好かれる資質」を後天的に養成するカリキュラムデザインについて論考した。
13.『災害時における教師たちのノブレス・オブリージュ　～そこにある「使命感」と「多忙感」～ 第1回　震災をめぐる教師の「使命感」と「多忙感」への着目	単著	平成 29 年 6 月	「教育PRO」第47巻 第14号　通巻1839号、ERP、 pp. ２８－２９	災害時はまさしく、自己のコントロール（統制）が効かない特殊な状況下といえる。本研究では、災害時において、教師の「職業的使命感」は統制の効かない状況における「多忙感」を凌駕するのではないかという仮説を立てた。そして、熊本地震において教員が果たした役割をモデルとし、災害時における教師の“ノブレス・オブリージュ”の実態を明らかにすることを目的とした。

14.『災害時における教師たちのノブレス・オブリージュ　～そこにある「使命感」と「多忙感」～ 第２回　「災害支援者」としての教師の役割	単著	平成 29 年 7 月	「教育PRO」第47巻第15号　通巻1840号、ERP、 pp. ６－７	「災害対策基本法」は、東日本大震災後、2回の改正を繰り返した。2013年6月の改正における「被災者保護対策の改善」で、「緊急避難場所」と「避難所」が明確に区別されることとなった。避難所となった学校において、教師たちは「役割分担が決められていない」状況の中、「災害時に救援する職業」として、目の前の災害に救援する役割を担うことになる。災害時の救援対策訓練を受けた「職業的災害救援者」ではなく、教師としての「使命感」で救援に従事する教師の実態について述べた。
15.『災害時における教師たちのノブレス・オブリージュ　～そこにある「使命感」と「多忙感」～ 第３回　災害時における教師の職業的有能性	単著	平成 29 年 7 月	「教育PRO」第47巻第16号　通巻1841号、ERP、 pp. １０－１１	本稿は、熊本地震で主体的に避難所を運営した一人の教師をモデルに、教師の災害時における職能について論考した。教師の使命感からくる災害時の職業的有能性を、明確な災害支援対策として位置づけ、分担し、だからこそ教師は災害支援者なのであるという認識を明確にしていくことは、今後における災害時の有効な避難所運営の模索においても、あるいは教師の、災害時における職業的役割の明確化においても、必要となる。
16.『災害時における教師たちのノブレス・オブリージュ　～そこにある「使命感」と「多忙感」～ 第５回　避難訓練に対する被災地からのメッセージ	単著	平成 29 年 8 月	「教育PRO」第47巻第18号　通巻1843号、ERP、 pp. １０－１１	熊本市内の南部に位置する熊本市立小学校で、管理職に取材を行った結果、被災地における子どもの様子や学校運営上の実情から、避難訓練の在り方に対する重要な示唆を得ることができた。避難訓練の在りようについて再考し、再確認することの必要性を示唆する、まさしく被災地からの大切なメッセージについて論述した。
17.『災害時における教師たちのノブレス・オブリージュ　～そこにある「使命感」と「多忙感」～ 第６回　福島県の「今」が伝える、地域における学校の価値	単著	平成 29 年 9 月	「教育PRO」第47巻第20号　通巻1845号、ERP、 pp. ８－９	2011年3月11日に発生した東日本大震災では、地震による津波災害という、2次的な災害によって大きな被害を被った。その中、地震動と津波による3次的災害が発生した。それが福島第一原子力発電所事故である。本稿では、原発事故から6年半経った福島県において、避難指示が解除されて再開した学校に着目し、学校が地域に果たす役割について記述した。
18.『災害時における教師たちのノブレス・オブリージュ　～そこにある「使命感」と「多忙感」～ 第７回　子どもたちのいのちを守るのは「だれ」なのか	単著	平成 29 年 9 月	「教育PRO」第47巻第21号　通巻1846号、ERP、 pp. １２－１３	災害に関して、その被災地域を世界に目を向けたとき、被災者数などその被害の大きさに関心が向けられるが、それらはどのように教訓とされ、発信されてきたのか。そこから見えてくるものの価値は大きい。本稿では、ベトナム社会主義共和国において、災害や事件などに対して、子どもを「保護」する親の姿勢を、日本の近年の実態と比較した。
19.『災害時における教師たちのノブレス・オブリージュ　～そこにある「使命感」と「多忙感」～ 第９回　教訓を生かした避難所開設・運営に	単著	平成 29 年 10 月	「教育PRO」第47巻第23号　通巻1848号、ERP、 pp. ８－９	災害時における避難所を運営する主体に目を向けたとき、「避難所運営ガイドライン」には、教員、あるいは教職員が割当てられている役割は見当たらない。現実には、学校が避難所となる場合、そこを開錠して避難所を開設し、初動段階で被災者を受け入れ、運営を進めるのは教師であることが予想される。本稿では、避難所開設、運営時における教師の役割について述べた。

20.『災害時における教師たちのノブレス・オブリージュ　～そこにある「使命感」と「多忙感」～ 第１０回　災害に関する教師へのインタビューから見えてきた課題	単著	平成 29 年 11 月	「教育PRO」第47巻第24号　通巻1849号、ERP、 pp. ８－９	本研究では各小中学校の管理職を対象としてインタビューを行ってきた。それらは非構造化インタビューであり、明確な問いに対して明確な回答を求めてきたのではなく、筆者らが震災のことを、そしてそこに関わる教師たちの内面的なものを知りたかったというのが率直なところである。本稿では、その後に実施した半構造化インタビューの結果を考察し、災害に関連して、教員にかかっている過重なストレスについて検討した。
（その他）（学会発表） 1.「安全教育カリキュラムのレリバンスに関する研究～大阪教育大学附属池田小学校『安全科』の実践から～」	単	平成 25 年 9 月	第６回アジア地域セーフコミュニティ会議	本研究においては、大阪教育大学附属池田小学校「安全科」の実践例をもとに児童の安全に対するレリバンスを検証し、発達段階を考慮した安全教育カリキュラムの構築の礎とすることを目的とした。「安全安心様相図」を用いた調査から、同授業を年代別で実施した結果、年代による相違が明らかとなった。
2.「児童の発達段階と安全教育内容の妥当性に関する実証的研究」	単	平成 27 年 10 月	日本安全教育学会第16回東京大会（於東京女子体育大学）	本研究の前段階として、「「安全安心様相図」を用いて児童の安全に対するレリバンスRelevance（知識・技能・行動・情緒面における妥当性）を検証し、発達段階を考慮した安全教育カリキュラムの構築の礎とすることを目的とした研究を行ってきた。本研究においては、より汎用性の高い安全教育プログラムの開発を念頭に、「児童の安全意識尺度（SASC)」の開発に関する基礎的研究を行い、SASCの信頼性を高めながら、児童の発達段階を考慮した安全教育プログラムの開発に関する研究を行った。
3.災害時における教員の職業的役割 ―「使命感」と「多忙感」」に着目して―』	単	平成 29 年 3 月	日本教師学学会　第18回大会 （於　早稲田大学）	現代の学校教育に関連する諸課題に対する教育現場への期待や責任の増大に伴い、教員の「多忙化」が指摘されている。その一方で、地震災害時に教師は、「多忙感」の一要因である残業の多寡に関わらず、避難所運営に携わるなどの例がある。 そこで本研究では、教員の「使命感」と「多忙感」の相関性について、熊本地震において教員が果たした役割をモデルとして、教員への意識調査をもとに検討した。
4.事件の教訓から学ぶ教師と学校安全　－池田小学校事件からの発信を視点として－	単	平成 29 年 9 月	日本教師教育学会 第２７回奈良大会 （於、奈良教育大学）	児童が生命を脅かされ、あるいは失う事件、事故、事案は後を絶たない。そこで、過去の事件や災害の教訓は生かされているのかという問いが生じる。またそこに付随して、教訓とは何か、教訓を生かす方法とは何か、教訓を生かすのはだれかという問いについて議論を重ね、体系的に整理し、児童の命に結びつき生かされる教訓にしていくことが急がれる。そこで本稿では、今一度、池田小学校事件に立ち戻り、事件が残した教訓と、その後、附池小が発信した学校安全の取り組みを視点として、とくに教師が、それら教訓をどのように学校安全に生かしていくのかについて発表した。

5. 災害時における教員の職業的役割	単	平成 29 年 9 月	日本安全教育学会第18回岡山大会（於、岡山大学津島キャンパス）	教員の「多忙化」が指摘される中、災害という統制できない状況のとき、その「多忙」の多寡にかかわらず、教員が避難所運営に主体的に、あるいはリーダーシップを発揮して携わるなどの例がある。 本研究では、教員の「使命感」と「多忙感」に着目し、その関連性について、熊本地震において教員が果たした役割をモデルとして、教員への意識調査をもとに検討した
6. 被災地におけるアートプロジェクトが児童・教師に及ぼした影響について	単	平成 30 年 3 月	日本教師学学会第１９回大会（於、甲南大学平生記念セミナーハウス）	1995 年に発生した阪神・淡路大震災以降、被災者の心のケアの重要性が広く認識されるようになった。学校教育においては被災した児童生徒のためのストレス対処法や、災害後の心の傷を予防するためのストレスマネジメント教育の必要性が指摘されており、新たな防災教育が求められている。本研究は、熊本地震において被災し、避難所となった小学校において実践されたアートプロジェクトの報告から、防災教育の新たな方向性を見出そうとすることを目的とした。
7. 教職志望学生の「学校安全」に関する体験的学修の有効性	単	平成 30 年 9 月	日本安全教育学会第１９回横浜大会（於、國學院大學）	教員免許法が改正され、教職課程の授業の改善や、教職課程全体についてのデザインのさらなる検討が、各大学に求められるようになった。教職課程コアカリキュラムにおいては「学校安全」への対応が求められる。そこで本研究では、教職志望学生が「学校安全」を体験的に学修することによる教職への意識の変容、あるいは資質能力の形成における有効性について検討した。
8. 教職志望学生の「学校安全」に関する学修の有効性	単	平成 31 年 3 月	日本教師学学会第２０回大会（於、上智大学）	教職課程コアカリキュラムにおいて、「学校安全への対応」が必修項目とされた。これまでの課題の経緯を踏まえ、教職志望学生がいかに「学校安全」を学び、それが教職への資質能力へとどのように結びつけることができるのか、計画と実践、評価と検証が必要になってくる。本研究においては、教職志望学生が学校安全を学ぶひとつのモデルとして、体験的学修が教職への意識、資質能力にどのように結びつくのか、実践と学生の反応から検証した。
9. 教員による「語り継ぎ」のジレンマと有効性	単	令和 1 年 9 月	日本安全教育学会第20回山形大会（於、山形大学）	本研究では、被災体験のない、あるいは学校教育現場に関連した事件について、「事件を知らない」教員が「語り継ぎ」の責務を負った時、そのジレンマについて明らかにすることを目的とする。また、教員がそのジレンマを乗り越えて行う「語り継ぎ」は、その対象（児童や他の教員）にどのような有効性を持つのかを明らかにすることを目的とした。 そしてある教員は、聞き取りの中で「語り継ぎ」のジレンマを乗り越えたきっかけとして、他者からの「理解」と「評価」を挙げた。しかし、事件を対象としたインフォーマントの語りや環状島のポイントの様相は、熊本地震のモデルの様相とは違う結果が生じていることが示唆された。

10.事件・災害の未体験教員による「語り継ぎ」の研究	単	令和２年３月	日本教師学学会第21回大会 （於　関西医科大学）	阪神・淡路大震災から25年が経つ。その年月は、災害等の「未体験」教員が語り継いでいくことを意味する。本研究では、被災体験のない、あるいは学校教育現場に関連した事件について、「事件を知らない」教員が「語り継ぎ」の責務を負った時、そのジレンマについて明らかにすることを目的とした。本研究のモデルとなった教員は、そのインタビューの中で一様に、ジレンマを乗り越える「使命感」を表出した。	
11.「登下校の見守り調査による安全対策の限界点について」	単	令和２年10月	日本安全教育学会第21回静岡大会（於常葉大学静岡草薙キャンパス、オンライン開催）	警察庁の統計による分析（平成25年）では、全被害件数に占める子供の被害件数の割合の高い罪種について「24年中は略取・誘拐が50.8%（95件）、強制わいせつが14.5%（1054件）、強姦が6.1%（76件）であった」と報告されている。その後、全体の犯罪件数における略取・誘拐事件の比率は上昇を続ける。これらのことから、子供が巻き込まれる事件の被害について、略取・誘拐事件、いわゆる連れ去りについて注視していく必要性を、統計が示唆しているといえる。そこで本研究では、2004年の連れ去り事件を経験した学校（以下、T小学校）、地域の取り組みをモデルに、「空白地帯」の存在と、見守りボランティアの役割、そして安全対策のあり方について研究することを目的とした。	
12. 第24回奈良大会「学校安全への教訓を継承し、次代の命へとつなぐ学校危機マネジメント」年次学会長講演 「教訓の伝承と学校危機マネジメント」	単	令和５年９月	日本安全教育学会第24回奈良大会	教訓は「誰が」「何を」「どのように」して伝承するのかが課題となる。2001年の池田小事件から22年、1995年の阪神・淡路大震災から28年、2011年の東日本大震災から12年の歳月が経過する中で、事件や災害を体験していない教師が、目の前の子供たちに、あるいはこれから教壇に立つ教師たちに「何を」「どのように」伝えていくのか。そしてそれは、次代の子供たちの命につながる試みなのか。本学会大会のテーマである「学校安全への教訓を継承し、次代の命へとつなぐ学校危機マネジメント」について年次学会長として講演した。	

13. 探究型防犯学習の実践における課題と展望の考察 ～公立小学校校長としての取組事例～	共	令和５年９月	日本安全教育学会 第 24 回奈良大会	2022 年度の奈良市「子ども安全の日のつどい」で、 「探究型防犯学習」の取組事例が紹介された（本研究共同研究者の松井氏２）による） 。この取組事例では、不審者に対する子どもの見方が変容することを子ども自身が気づくことができ、教員も子どもの変容に気づくことができるものであった。筆者が校長として不審者を想定した避難訓練の在り方を模索していた時期とも重なり、また、当時、避難訓練を担当していた教員も同様に模索していた時期でもあった。そこで、校長として避難訓練担当教員に探究型防犯学習の取組を紹介し、本学習に取り組むことにした。 〇大西 敏之 1）松井 典夫 2） 1)奈良市立大安寺西小学校 2)奈良学園大学
14. 探究型防犯学習の有効性に関する研究	共	令和５年９月	日本安全教育学会 第 24 回奈良大会	奈良学園小学校では、２０２１年まで小学１年生「集団登下校の場面における防犯上の危険とその対応策」・３年生「集団登下校におけるトラブル発生時の上級生としての対応策」・５年生「個人登校時のトラブル発生時の対応」に関して講義形式で防犯教室を実施していた。しかし、標語等を教え込んだり、覚えこんだりする防犯学習の効果への懐疑、教員全体での共通認識の困難さ、身近で緊要な問題と言う切実感がないことなどの課題から、学級担任が中心となって授業を行う探究型防犯学習のカリキュラムを開発することとした。探究型防犯学習では、児童が安心・安全に登下校するために防犯意識を高めるとともに、自らの中に「問い」「本質的な問い」を発生させることで危険予知の幅を広げたり、深めたりすることを目的とした。 〇松原岳生１） 松井典夫２） 1）奈良学園小学校 2）奈良学園大学
15. シンポジウム①「教訓伝承の実態と課題」	共	令和５年９月	日本安全教育学会 第 24 回奈良大会	教訓は「誰が」「何を」「どのように」して伝承するのかが課題となる。2001 年の池田小事件から 22 年、1995 年の阪神・淡路大震災から 28 年、2011 年の東日本大震災から 12 年の歳月が経過する中で、事件や災害を体験していない教師が、目の前の子供たちに、あるいはこれから教壇に立つ教師たちに「何を」「どのように」伝えていくのか。そしてそれは、次代の子供たちの命につながる試みなのか。 大会初日のシンポジウム①「教訓伝承の実態と課題」では、それらの問題に対してダイレクトに向き合い、取り組む研究者、実践者とともに考えた。 〈シンポジスト〉 後藤 健介（大阪教育大学・教育協働学科・准教授） 池原 征紀（兵庫県芦屋市立精道中学校・教諭） 〈コーディネーター〉

				松井 典夫（奈良学園大学・人間教育学部・教授）
16. シンポジウム②「学校危機マネジメントの本質とこれから」	共	令和５年９月	日本安全教育学会第 24 回奈良大会	3 名のシンポジストを招き「学校危機マネジメントの本質とこれから」というテーマで展開した。学校危機とは、先に（年次学会長講演）でも述べたように、その一瞬で終わり、忘れ去られていくものではなく「継続する」ものだと考えられる。そして危機が生じ、体験した学校はその性質を変容させ、再発防止や子供、親の安心感をも含めた学校安全の取り組みを推進する責務が生じる。しかしその責務は「教訓の伝承」につながっており、次代の子供たちの命へとつながる重要な取り組みである。シンポジウムでは、奈良小１女児殺害事件や附属池田小学校事件、そして大阪北部地震によるブロック塀倒壊事故において生じている学校危機に対して、主体的に取り組む 3 名のシンポジストから、貴重な示唆が得られた。 〈シンポジスト〉 久保田 浩司（奈良市教育委員会・いじめ防止生徒指導課・課長） 山崎 雅史（園田学園女子大学・人間教育学部児童教育学科・准教授） 高松 涼（高槻市立寿栄小学校・教諭・学校安全コーディネーター） 〈コーディネーター〉 松井 典夫（奈良学園大学・人間教育学部・教授）

［注］
１ 最近１０年間の教育活動、研究活動について作成すること。
２「教育活動」については各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については就任年月日順に記入すること。
３「研究活動」については、下記の点に留意すること。
著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入すること。
著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付すこと。
③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載すること。
④ 最近１０年間に著書･論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておくこと。
⑤ 芸術分野や体育実技等の分野を担当する教員については、著書・論文等以外の競技会、展覧会または演奏会等での発表のうち、
特に顕著な業績と認められるものについても記載すること。このほか、専門分野の特性を考慮し、顕著な業績と認められるもの
がある場合もこれに含めてもよい。

別記様式第４号（その２）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　研　究　業　績　書

令６年４月30日

氏名　　森　一弘

研究分野	研究内容のキーワード
体育科教育の実践に関する実務 総合的な学習の指導法に関する実務	体育科指導法・自主的な学び・総合的な学習

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
１　教育方法の実践例 ⑴　アクションリサーチを活用した授業の改善 ・単元における課題の持たせ方 ・子どもの聞き合う場づくり ・子どもと子どもの関係性 ・子どもと教師の関係性 ・子どもの理解度と授業の有効性	平成20年４月～ 令和３年３月	○授業をビデオで撮影し，子どもの実態をもとに授業改善の方策を探る。教師の授業における出場として，発問・切り返し・課題の再設定などに対して，子どもたちが実際にどのような姿をしめしたのか分析するとともに個と個の関係，個と教材との関係，個と集団との関係，個と教師の関係，集団と教師の関係など協働的な学びをもとに，授業の改善ができるのか研究している。
⑵　社会性を育む体育の授業づくり ・チームプレイが重要だという認識の持たせ方 ・チームが勝つための自分の役割に気付かす	平成20年４月～ 令和３年３月	○フラッグフットボールを教材にして，子どもたちの社会性を育む授業デザインを行う。「わかる・できる」を一体的に扱い，ゲームに勝つための，自分の役割を意識し，作戦を進めていくことを通して，相手への思いやり，ゲーム進行でのルールの順守，マナーの向上が見られるのかを調査している。
⑶　フラッグフットボールの教育的価値について授業実践からの検討	平成27年４月～ 令和３年３月	○フラッグフットボールの授業においてイーブンナンバーゲームを用いて授業展開しても、戦術的な学習課題へ焦点化でき、プレーにおいて子どもたちの役割の明確化とともに積極的なプレーへの参加を促す可能性があるのかを検証している。
２　作成した教科書、教材 ⑴　体育科指導についての教材 ・学習指導要領改訂のポイント ・指導領域の目標と内容 ・体育科の主体的・対話的で深い学び ・授業構成 ・評価 ・	平成27年４月～ 令和３年７月	○学習指導要領の内容を基に、小学校体育の指導におけるポイントを明らかにし、よい体育の授業を実施するための条件を具体的に示した。生涯に渡り、健康の保持増進をめざし、体の動かし方を知り、実際に動き自分自身の体の特徴を把握し、今後どのようにすれば健康の保持増進ができるのか示唆した。
⑵　フラッグフットボール指導テキスト	平成24年４月～ 令和３年	学校体育で活用できるフラッグフットボール練習方法などを示した。 オフェンス時の作戦づくりをしていくために，2対1，4対3，5対3，（オフェンスチームの人数を多くする）でパスコース・ランコースを考えていくモデルとなる動きを示した。また，オフェンス時にも相手チームをブロックする動きを示し，フラッグフットボールのオフェンス時の作戦をスモールステップで学べるように工夫した。

3　教育上の能力に関する大学等の評価 勤務評定 ⑴　神戸大学附属住吉小学校長からの評価	平成 16 年度～ 平成 25 年度	副教頭として校務全般を取り仕切り，学校のかなめとして，各教員らの信頼も厚く，また，PTA との関係を密にして保護者からの信頼も厚いものがある。なくてはならない人材として高い評価を得ている。
⑵　芦屋市立山手小学校長からの評価	平成 26 年度	研究主任・６年学年主任として学校全体の教育課程の編成、授業実践、若手教員の指導などの業務に精通し学校運営の一翼を担っていたという評価を得ている。
⑶　奈良学園大学生からの授業評価	令和 3 年度	科目名「体育実技の指導法」 学生からの評価では、７項目（参加度・授業外学習・説明のわかりやすさ・内容の明確化・内容の分量・教員の反し方聞き方・提示資料）全てにおいて平均ポイントより上回った評価を得た。課題解決型の学習、体験的な学習、協働的な学習の方法をとった結果が出ているものと思われる。
4　実務の経験を有する者についての特記事項 ⑴　教育実習に対する指導	平成 4 年 4 月～ 令和 3 年	これまで毎年教育実習生を受け入れて、担任や管理職の立場で行った講話内容 ・学校運営，児童理解，生徒指導と学習指導 ・単元の作り方と 1 時間の授業の作り方 ・学習評価の考え方の実際の評価の仕方 ・体育の授業の作り方 ・担任と養護教諭・カンセラーの連携 ・特別活動　等
⑵　教職に対する指導	平成 27 年～ 令和３年	教師の使命感・責任感・やり甲斐など教職の魅力について授業科目の中で指導するとともに、学生個人に対して、指導を行っている。このことが理想とする教師像を学生一人人に考えさせている。このことが、教員採用試験への対応につながっている。
⑶　全国大学体育連合主催 大学体育指導者全国研修会講師	平成 24 年 8 月	大学体育連合会の研修会にて大学教員へ「フラッグフットボール」の実技講習を行った。大学での体育授業に取り入れるための研修会として初心者への指導の具体を示した。この研修では、基本的な動きからゲーム（戦術）まで網羅的に体験することができました。研修を通して、フラッグフットボールの魅力を体感し、その特性を生かした授業について、実践的な知見を学ぶことができるプログラムを紹介した。
⑷　川西市市立久代小学校指導助言	平成 24 年度	校内授業研究会での指導助言
⑸　芦屋市教育文化センター講師	平成 27 年 5 月	若手教員が今やるべきこと「授業実践を通して」講演
⑹　芦屋市山手小学校研究会講師	平成 27 年 8 月	授業研究の進め方「学び合いのある活動について」講演
⑺　西日本私学連盟体育部会実技研修講師	平成 28 年 5 月	「フラッグフットボール授業の進め方」実技研修において、小学校高学年におけるゴール型ボールゲームの考え方及びフラッグフットボールの授業展開の仕方　講師
⑻　奈良県三宅町立三宅小学校運動能力向上のための指導講師	平成 28 年 5 月	小学生 1 年生から 6 年生を対象に、投動作の指導を実施しボール投げの技能向上を目指した指導を行った

⑼　奈良県三宅町立三宅小学校ボール運動授業実技講習指導	平成 28 年 8 月	フラッグフットボールを中心にボールゲームの授業構想について２日間に渡り実践指導を行った。
⑽　尼崎市立大島小学校講師	平成 28 年 8 月	学級づくりのポイントを示し、子供が主人公の学校づくりの必要性を指導した。
(11)芦屋市教育文化センター講師	平成 28 年 8 月	2 年次から 5 年次までの若手教員を対象に、学級づくり・授業づくりを指導した。
(12)芦屋市授業改善部会講師	平成 29 年～ 令和 3 年度	新学習指導要領による授業改善の具体を指導する。３つの柱にした授業の具体とその評価について講話等を行なった。
(13)芦屋市新任教員研修講師	平成 30 年 8 月～ 令和 3 年度	芦屋市新規採用者を対象に、授業のつくりかたを中心に、新任として必要な教師の脂質と能力を講話し、実際の授業計画、実践、授業後の事後指導を行った。

職　務　上　の　実　績　に　関　す　る　事　項		
事項	年月日	概　　要
１　資格、免許 教員免許	昭和 57 年 3 月 31 日 昭和 57 年 3 月 31 日	小学校教諭1級普通免許状 昭56小普第5892号　（埼玉県教育委員会） 中学校教諭 2 級普通免許状（社会） 昭 56 中普第 5629 号　　（埼玉県教育委員会）
２　特許等 特になし		
３　実務の経験を有する者について特記事項 ＜行政の委員＞ ⑴　奈良県三宅町健康づくり推進協議会座長 ⑵　奈良県三宅町教育委員会授業評価委員	 平成 29 年 3 月 平成 29 年 2 月～令和 3 年 3 月	 三宅町における健康増進計画・食育推進計画を審議し、計画書を作成した。 三宅町教育委員会の企画事業を第三者の立場で評価を行った。
４　その他		

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
4 人間教育を支えるもの～自尊感情に焦点を当てる体育科の授業構想～	単著	平成 26 年 12 月	人間教育学研究 第 2 号「人間教育学」の可能性−理論の展開と実践− p89～p100	体育科の授業構想において次の３点がポイントとなることを明らかにした。①この多様性を授業に関わる全員が受け入れる。②仲間との関わりで生成される思考や技能を表現する。③仲間との関わりの中で差異を明らかにし認め合う。 このポイントを授業に位置付けることで、体育科の特性としての資質も高めることができる可能性がある。〇自由に操れる体・身体的エフィカシー、〇精神的・肉体的な粘り強さ、ストレス対処スキル、〇批判的思考、社会性、コミュニケーション、自律心などの資質を高めることができ、この資質が生涯スポーツへつながっていく大事な要素であることを示した。
5 共に学びを創り会う子どもをめざして ～言葉を生かし知識や技能を更新する～	単著	平成 27 年 2 月	芦屋市立山手小学校研究紀要 2014 掲載　p33～p39 掲載 p120～p126	授業研究基礎編 授業研究において最も大事にしたことは，各研究同人の主体的な取り組みである。研究同人である教師一人ひとりは，授業の質を高めることを目指し，授業研究に取り組んできた。授業の質について秋田は，『一人ひとりの子どもが授業中どれだけ「安心・安定（well-being）しているか」という居場所感と，学びの対象に対してどれだけ深くまたより長く「没頭・夢中(involvement)関わり考えることができるか」』という集中の２点を挙げている。この２点を踏まえ，子どもたちが教師との信頼関係，仲間に受け入れられているという受容感，よくわからない，迷ったり，困ったりしていることを自己開示できる安心感，自分の考えや言葉に共感しそれを豊かにすることから生まれる一体感を授業の中でみていくという主張を行った。 授業実践編 生き物の３つの特徴である、 ◇「外の世界とつながり」事例１ ◇「一つの個体としてつながり」事例２ ◇「長い時間の中で過去の生き物たちとつながり」事例３ をなぜ筆者は、この順で示し、特徴として挙げたのかということを考える時間である。 （批判的思考の活用）この特徴をこの順で示した理由は、目に見える身近なつながりから目には見えないつながりを挙げ、つながりがだんだんと長くなっていき、事例３のつながりは永遠につながっていくという時間的空間の深まりを意味している。このような筆者の工夫を共同的な学びで発見させ、読みの楽しさを実感させることを明らかにした。 共著者：中村整七、西尾節子、森一弘 （その他 32 名）

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
6 フラッグフットボールにおける戦術アプローチによる簡易化されたゲームの有効性と課題	単著	平成 27 年９月	奈良学園大学紀要 掲載 p135～p141	フラッグフットボールは、アメリカンフットボールを簡易化したゲームである。簡易化された要素は、タックルの危険性を回避するために腰につけたフラッグをとることで、身体接触を禁止した。また、人数は５人対５人とした。用具であるボールは、小さく柔らかいものとしている。指導要領に示されている簡易化する要素を取り入れながら、授業を展開している。この中で、戦術アプローチの考えを持ち込み、アントナンバーのゲームであったり、パスに限定した動きをさせたりするが、これらの学習では、子どもたちの作戦をつくりだすという思考・判断させる活動が弱化させていることを指摘し、イーブンナンバーでのゲーム、ボールをゴールに運び込む手立てを提案した。
7 新聞を活用した総合的な学習の時間−アクティブ・ラーニングを意識した授業−	単著	平成 27 年 12 月	人間教育学研究 第 3 号「人間教育学」の視座−新しい「教育改革」への提言− p107～p114	新聞を活用し、子供たちが自らの興味関心にもとづき、課題を設定し、課題を解決するために情報を集め、課題解決のための方策を考え、まとめていく授業実践を提言した。この中で、新聞活用のポイントとして、「琴線に触れる言葉を探させる」「これからの自分の生き方について示唆している記事を探させる」という２点が重要であることを明らかにした。
8 経験による「教師の成長」について考察する	単著	平成 28 年 3 月	大阪教育大学実践学校教育講座　実践教育学論集 2015 −現代の教育問題を考える 20− p58～p61	「教える」という営みは、子どもたちの活動と結果として起こる事柄の詳細な関連を見いだし、反省していく熟慮的な「経験」だととらえることができないだろうか。ここでいう「経験」は、常に他者や自分自身の未来に開かれ、また新しいものを絶えず受け入れていこうとする。このような「経験」の繰り返しが、教師の成長を確かなものにし「教える」プロとして変容をもたらせてくれる。日々の授業の中で一人ひとりの子どもや個々の教材と向き合い熟慮する。また、日々、教師は自分の行動をふりかえり、反省的に教材内容の本質や子どもの思いに気づいていくことを、教員志望の学生に指導する必要性を提言した。
9 修士論文 小学校体育におけるフラッグフットボールゲームの授業実践研究 −イーブンナンバーゲームの有効性−	単著	平成 29 年 1 月	大阪教育大学大学院教育研究科	本研究の目的は、フラッグフットボールゲームを公式ルールである 5 人対 5 人（クラスの人数によっては、4 人対 4 人）のイーブンナンバーゲームで実施しても戦術学習が成り立つことを明らかにすることであった。結果として、ゲームパフォーマンスが向上する。以上のことから、フラッグフットボールの授業においてイーブンナンバーゲームを用いて授業展開しても、戦術的な学習課題へ焦点化でき、プレーにおいて子どもたちの役割の明確化とともに積極的なプレーへの参加を促す可能性があることを明らかにした。
10 新しい視点から見た教職入門（第１版）	共著	平成 30 年 3 月	大学教育出版 第 4 章教員のメンタルヘルス p89～p105 第 5 章教育実習・教育実習事前事後指導 p251～p266	教育実習の意義及び実習に関わる組織の役割、実習のための具体を示した。また、有意義な実習になるための必要な条件について述べた。 共著者：中田正浩、住本克彦、森一弘、長井勘治、他 6 名（pp:251～265）

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
11 新しい視点から見た教職入門（第２版）	共著	令和２年４月	大学教育出版 第４章　教員のメンタルヘルス p89～p105 第５章　教育実習・教育実習事前事後指導・教職実践演習 p251～p265 ミニ教育用語事典「主体的・対話的で深い学びの実現に向けて」p256	教員のメンタルエルスに関する現状と課題を明らかにし、予防的取り組みについて述べた。教育実習の意義及び実習に関わる組織の役割、実習のための具体を示した。また、有意義な実習になるための必要な条件について述べた。 共著者：中田正浩、住本克彦、森一弘、長井勘治、その他６名
12 キャリア形成と成果～教員としてのキャリ形成について考えよう～	共著	令和２年９月	人を支える人になる～学士課程教育の質の保障　奈良学年大学「教職実践演習」の取組～掲載(株式会社 EPR2020 年 ９月	キャリアとは、狭義の『仕事上の道筋』という捉え方に加え、『自分の仕事や人生にどのような意味を見出し、そのように関わっていきたいのか』を考え自分自身の中に、仕事に対する充足感・充実感・納得感があふれ、仕事を通じて自分が生かされていると実感できる状態が「キャリアが順調である」という考えを示した。 そのためには、その時々のキャリア段階に応じた自分への期待に応え、与えられた役割を果たすことが必要であることを提言した。 共著者：森一弘　荻布優子、善野八千子、西江なお子、太田雄久 （pp:77～89）
13『教職ライブラリ教職入門－教育学のエッセンスから学ぶー』		令和５年	編著者：住本克彦、建帛社、2023）	第８章：学級経営、ホームルーム経営の基本」を担当し、執筆した。児童生徒の心の居場所づくりの実際や、学級・ホームルーム担任の実践すべき内容の基本について詳述した。単著部分：「第 1 節：児童生徒の心の居場所づくり」「学級・ホームルーム担任の役割」、担当部分：pp73-80、全頁数 144 頁、ISBN:978-4-7679-2133-4

教　育　研　究　業　績　書

令和６年 ３月 31 日

氏名　青山　雅哉

研究分野	研究内容のキーワード
芸術学，芸術一般，器楽（ピアノ）	ピアノ奏法, 音楽表現, 演奏解釈

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
１　教育方法の実践例 1)「音楽の基礎」におけるグレード表への取り組み	平成 26 年４月～ 平成 29 年３月	奈良文化女子短期大学での幼児教育へのピアノ音楽指導においてより効果的な指導法としてグレード表を考案していった。このことにより、学生の日常からの練習を促すこと、目標を明確にして達成度を高めていくことにもなり、効果的な取り組みとなった。 毎年更新してより良いものを学生に提示して学修を促すことにもなっている。
2) フェスティバルにおける合奏の取り組み	平成26 年４月～ 平成 29 年３月	奈良学園大学奈良文化女子短期大学部での「合奏」の授業でそれまでの成果の発表として大学のイベントであるファスティバルへの出演をさせている。学生の授業の取り組みが単に各楽器の演奏スキルの学修に止まることなく舞台での準備、練習プラン、リハーサル等の方法がこの舞台での発表をすることにより得ることのできる様々な要素が学生の実際の就職先現場に生かすことのできる学びの機会となるよう指導を行ってきた。
3)「音楽の基礎」科目でのピアノ実技授業としてその練習の継続性と学修に向けての工夫	平成 26 年４月～ 平成 29 年３月	奈良学園大学奈良文化女子短期大学部での「音楽の基礎」科目での実践。授業での指導を基に実際の幼児への工夫した音楽的環境を作っていく力の向上を図り、クラス全員でグループを作りちびっ子広場（0 歳～5 歳の母子が近隣から集う本学の広場）で幼児への音楽あそびを設定し体験させていった。設定内容の練習を重ね、実際の音楽あそびの現場体験をとおし、ピアノ実技のスキル向上への必要性を認め、学生のピアノ練習への意欲を高める効果があった。
4)「音楽の基礎Ⅱ」科目でのピアノ実技授業としてその練習の継続性と学修に向けての工夫	平成 26 年４月～ 平成 29 年３月	奈良学園大学奈良文化女子短期大学部での「音楽の基礎Ⅱ」科目での実践。授業での指導を基に実際の幼児への工夫した音楽的環境を作っていく力の向上を図り、クラスの中でグループを作りつどいの広場（0 歳～5 歳の母子が近隣から集う本学の広場）で幼児への音楽あそびや学びを設定し実践させていった。設定内容の練習を重ね、実際の音楽あそびの現場体験をとおし、ピアノ実技のスキルや音楽表現力向上への必要性を認め、学生のその後の学修への意欲を高める効果があった。
5)「子ども学ゼミ」科目での子どもの歌への学修によるその効果と成果について	平成 26 年４月	奈良学園大学奈良文化女子短期大学部での「子ども学ゼミ」科目での実践。このゼミでは、子どもたちの音楽環境を観察し、新たな子どもの歌の収集と分類を行い、知見を拡げ実際の現場で効果的な曲のレパートリーを備えていくことを目的とした。さらに、子どもための曲作りを試行し、詩のありかた、曲のありかたを検討する中で様々な発見があり、学生は子どもの歌に対する捉え方を新たにする良い機会ともなった。
6)「子ども学ゼミ」科目での楽器演奏と創作活動への学修によるその効果と成果について	平成 26 年４月～ 平成 27 年２月	奈良学園大学奈良文化女子短期大学部での「子ども学ゼミ」科目での実践。ゼミ学生の特技とする琴、吹奏楽器（サックス、ホルン、ユーフォニウム）とのコラボレーションを行う。作曲、演奏と共に音源を用いてＤＭ（デスクトップミュージック）の基本操作を学び音楽を作っていく方法を指導した。幼児教育現場においての音楽表現の一つとして指導し、そのスキルアップに学生は興味深く学修を行っていた。つどいの広場にて学習の成果として音楽発表を行い、好評を得ることができた。

7)「子ども学ゼミ」科目での子どもの歌への学修によるその効果と成果について	平成 27 年 4 月～ 平成 28 年 2 月	奈良学園大学奈良文化女子短期大学部での「子ども学ゼミ」科目での実践。ゼミ学生の特技とするキーボード、吹奏楽器（サックス、フルート、ホルン、ユーフォニウム）とのコラボレーションを行う。作曲、演奏と共に音源を用いてＤＭ（デスクトップミュージック）の基本操作を学び音楽を作っていく方法を指導した。幼児教育現場においての音楽表現の一つとして指導し、そのスキルアップに学生は興味深く学修を行っていた。つどいの広場にて学習の成果として音楽発表を行い、好評を得ることができた。
8)器楽演習Ⅰによるグレードの導入	平成 29 年 4 月～ 平成 29 年 9 月	奈良学園大学人間教育学部人間教育学科「器楽演習Ⅰ」における授業への取り組みに新たに学生の学修し身につけるべき曲集をグレード表として一覧できるようにして取り入れた。そのことで、学生は達成度の確認、計画的な練習、到達点までの目標設定が可能となり、学生の練習意欲向上に資することとなった。
9)器楽演習Ⅰでの唱歌課題の導入	平成 29 年 4 月～ 平成 29 年 9 月	奈良学園大学人間教育学部人間教育学科「器楽演習Ⅰ」を指導。「器楽演習Ⅰ」にこれまで学修範囲とされなかった小学校音楽の唱歌を導入した。原譜のままではレベル不足で弾くことは困難となるため、アレンジを行ってそのレベルにふさわしい課題となるよう工夫し、小学校 1 年から 6 年までの文科省指定の唱歌を学修できるよう準備を行い、指導をしている。
10)音楽表現Ⅰにおける音楽基礎力向上への試み	平成 29 年 4 月～ 平成 29 年 9 月	奈良学園大学人間教育学部人間教育学科「器楽演習Ⅰ」の指導において、大学生のピアノ初心者としてのスタートとして適合した練習方法を「指の運動へのストレッチ」として譜面で示し、スムーズに練習成果への効果を生むことにつながってきている。筋肉が成長し指の柔軟な動きが困難な段階からのスタートによる最適な練習方法として示し学生自身で動きを観察し、客観性をもって練習していくことを求めている。
11)基礎ゼミによる音楽演奏への取り組み	平成 29 年 6 月～ 平成 29 年 9 月	奈良学園大学人間教育学部人間教育学科音楽専修学生への「基礎ゼミⅠ」においてモーツァルト作曲「きらきら星」の演奏と映像制作を計画し、きらきら星をピアノ連弾、サックス二重奏とピアノ伴奏、合唱としてそれぞれアレンジしてその録音を行って完成度を高めていった。学生自身で繰り返し演奏録音をチェックすることで効果的なスキルの向上への意欲とその成果を見ることができた。
２　作成した教科書，教材		
1)音楽ワークシート	平成 26 年 4 月～ 平成 28 年 3 月	奈良文化女子短期大学幼児教育学科への音楽の基礎Ⅰ、Ⅱにおいて使用。ピアノ練習への目標や学修へのポイントを指導後に明記して練習への参考なるものとした。学生自身も自身で練習内容を振り返り記入していくことで、考えて練習をしていくきっかけとなった。
2)音楽の基礎テキストⅠ	平成 26 年 4 月～ 平成 28 年 3 月	奈良文化女子短期大学幼児教育学科への音楽の基礎Ⅰ、Ⅱにおいて使用。従来までの音楽ワークシートを改良したものであり、童謡を弾くための和音練習に重きを置き、メロディーへの和声付けを和音や和音記号としてアレンジし、現場に対応できる曲集を編成してテキストとした。
3)音楽の基礎テキストⅡ	平成 26 年 4 月～ 平成 28 年 2 月	奈良文化女子短期大学幼児教育学科への音楽の基礎Ⅰ、Ⅱにおいて使用。音楽の基礎テキストⅠの続編としてよりレベルアップした内容と曲集を編成。また、四季や行事等の項目毎に分けた曲集として学修やレパートリー獲得への利便性を図った。

4)ミュージック・ワークブック　奈良学園大学奈良文化女子短期大学部発行	平成 26 年 4 月	音楽初心者にとって音楽の基本となる必要な知識と基礎的テクニックをできるだけ早く身につけていくことが必要であり、その目的にかなう教材として検討を重ね形にしたものである。ピアノ演奏力向上に導くため、譜面の基礎となる音符の理解や指の運動練習を工夫した課題に解説や図面で示して提示している。これを学習することで、音楽への理解と基礎演奏への効果的な教材となっている。
5)ミュージック・ワークシート　奈良学園大学奈良文化女子短期大学部発行	平成 26 年 4 月	奈良学園大学奈良文化女子短期大学部の「音楽の基礎」「音楽の基礎Ⅱ」科目の授業において使用。音楽初心者への演奏を身につける段階で、このワークでの課題学習を積み重ね知識を身につけていく教材としている。問題を答えていく形式で自習により身につけることが可能なものである。
6)グレード表による童謡、唱歌	平成 28 年 4 月～	奈良学園大学人間教育学部人間教育学科「器楽演習Ⅰ」「音楽表現」において、学生のレベルにふさわしい編曲を行い教材として使用している。学生はグレード表に示されたその童謡や唱歌をピアノ課題として身につけレベルの向上をめざしている。
7)ピアノテクニックへの基礎	平成 29 年 4 月～	奈良学園大学人間教育学部人間教育学科「器楽演習Ⅰ」「音楽表現」において、ピアノテクニックの基礎となる指の運動のためのストレッチとして、ピアノ練習の最初に行う指の感度を高めるためのテキストを作成し活用している。
8)ソルフェージュ～音楽のしくみの実践	平成 29 年 4 月～	奈良学園大学人間教育学部人間教育学科音楽専修「ソルフェージュⅠ」へのテキストとなるもので、音楽の仕組みについて解説や課題問題集として作成し、学生の理解度と音への実践に対してより深く身につけていきそれぞれのレベル向上に資するものとなっている。
9)キーボードハーモニーへの理論と実践	令和 3 年 4 月～	奈良学園大学人間教育学部人間教育学科音楽専修「キーボードハーモニー」へのテキストとなるもので、音楽理論への解説や課題問題集として作成し、学生の理解度と曲作りへの実践に対しより深く身につけていくためのレベル向上に資するものとなっている。
３　教育上の能力に関する大学等の評価 1)平成 26 年度から平成 27 年度にまでの授業アンケートについて	平成 26 年 4 月～ 平成 27 年 3 月	奈良文化女子短期大学において、授業アンケートが各授業において実施され、14 項目のアンケート内容により項目毎の平均値、並びに総合平均値が各授業担当者に示されている。また、学科の全授業を総合した各項目、総合平均値も示されている。 平成 27 年度の担当する科目（音楽の基礎Ⅰ、Ⅱ）の授業評価は学科全体平均値 3.47 を上回り 3.96 となっている（4 段階評価）。 また、これまで行ってきた 5 年間アンケートによる平均値も全体平均値を上回ることとなっている。担当する授業の指導には個別対応が主となり、個人個人の問題に熱心に取り組んでいることが数値となっているものと思われる。
2)奈良学園大学奈良文化女子短期大学図書館長（奈良学園大学図書館登美ヶ丘分館長兼務）への学長評価による就任	平成 26 年 4 月～ 平成 31 年 3 月	授業指導への取り組み、学生の音楽的スキル向上や学生アンケートからの評価、また ALO,自己点検評価委員長、規程委員長等での教育上の改善によるこれまでの活動が、学長の評価により図書館長に推され就任することになった。

3)ALO、自己点検・評価委員長としての本学自己点検・評価活動	平成 26 年 4 月～平成 28 年 3 月	奈良学園大学奈良文化女子短期大学部における ALO として大学の教育活動の全面で点検と改善への提言を行ってきていた。教育活動での学習成果のあり方について、学外・学内での研修を行い教職職員間での理解と必要性を高めていった。その活動は自己点検・評価委員長としての活動と併行して平成 22 年度の本学認証評価も適格を獲得することができ、その後もそのままその任に就き自己点検による改善計画が機能していくよう取り組み、学習成果のエビデンスを目的とした全学的な取り組みを実現させ、それを具体化することに努力した。短期大学基準協会による第三者認証評価の評価員として、平成 24 年には宮崎学園短期大学、平成 27 年には頌栄短期大学の評価を担当している。平成 28 年には短期大学認証評価のために、自己点検評価の活動に努め、学習成果の検証として PROG の導入をするなど、より客観性のあるエビデンスをめざした自己点検評価表を作成することにより、奈良文化女子短期大学は平成 28 年度認証評価の適格を獲得することができた。
4)サタデー・オン・ステージへのプロデュース	平成 26 年 4 月～平成 28 年 3 月	奈良文化女子短期大学の地域貢献としての主に音楽の演奏会を毎年企画して年に９～１０回程度のイベントを開催してきた。当初から終了までの企画や実施におけるスタッフとして活動してきた。 平成 28 年度終了時には８３回目となる開催となった。それまで奈良県下、京都府下の高校の吹奏楽や合唱のクラブ、プロの音楽家、本学出身者、その他多岐にわたる出演者のステージを開催することで、奈良県下の高校生や地域への知名度向上へも貢献することにもなった。
４実務の経験を有する者についての特記事項 （ピアノ演奏活動）		
1)三重県「障害者支援チャリティー音楽祭」	平成 26 年 5 月 三重県総合文化センター　中ホール	カプースチン：練習曲、前奏曲　ゲスト出演でのピアノ演奏
2)福井県　エスペランサコンサート	平成 26 年 5 月 美浜生涯学習センターなびあすホール	エスペランサ（フルート、ベースのグループ）との共演、
3)奈良学園大学奈良文化女子短期大学部公開講座「親子のためのミュージックコンサート」)	平成 26 年 10 月 奈良学園大学奈良文化女子短期大学部	ドビュッシー：小組曲　ピアノ連弾、アンサンブル・クラブ学生、小川純子氏との共演
4) 青山＆雑賀デュオコンサート	平成 27 年 4 月 奈良学園大学奈良文化女子短期大学部	吉松　隆：プレイアデス舞曲集より、ショパン：ワルツ、の演奏、雑賀美佳氏とのイタリア歌曲、ミュージカルメドレーでの共演
5) 東日本大震災復興支援チャリティコンサート in 西日本	平成 27 年 5 月 大阪南港 ATC 海辺の野外ステージ	「震災を風化させず支援を続けて行くことを関西から発信する」ことをテーマにボランティア演奏として音楽イベントに参加

6)奈良学園大学奈良文化女子短期大学部公開講座「親子のためのミュージックコンサート」	平成 27 年 10 月 奈良学園大学奈良文化女子短期大学部	ブラームス：ハンガリー舞曲から　小川純子氏とのピアノ連弾による共演、
7)ピアノ・コンサート	平成 27 年 12 月 大阪守口市文化センター	カバレフスキー：ソナチネ、 モーツァルト：幻想曲　子どもの情景、ブラームス：ワルツ集
8)エンターテイナー・コンサート	平成 27 年 12 月 大阪守口市文化センター	ガーシュイン：ポギーとベスより、アイ・ゲット・リズムでのピアノソロと儀間太久実氏との共演
9)奈良学園大学奈良文化女子短期大学部公開講座「親子のためのミュージックコンサート」	平成 28 年 11 月 奈良学園大学奈良文化女子短期大学部	ラヴェル：マ・メール・ロワ　ピアノ連弾、アンサンブル学生、小川純子氏との共演
10）奈良文化女子短期大学同窓会 50 年記念コンサート	平成 28 年 11 月 奈良ホテル	ショパン：ワルツ集、ブラームス：ワルツ集、 吉松　隆：プレイアデス舞曲集
11)更紗コンサート	平成 28 年 12 月 ムラマツリサイタルホール	8 名によるピアノ・コンサートのゲスト出演 シャミナード：変奏曲、吉松　隆：プレイアデス舞曲より
12）奈良学園大学奈良文化女子短期大学部公開講座「親子のためのミュージックコンサート」	平成 29 年 10 月 奈良学園大学奈良文化女子短期大学部	親子のための講座で様々な楽器の紹介、音の不思議についての話と小川純子氏との共演
13）第 3 回奈良学園大学登美ヶ丘カレッジ公開講座「室内楽の調べ」	令和 3 年 8 月 22 日 奈良学園大学	ピアノ演奏とバイオリン、チェロ奏者との共演等 プーランク：間奏曲、ワイセンベルク：パリの四月等 島田稲子、滝恵美、北川しのぶ各氏との共演

（教育実践等） 1)音楽講師のための公開セミナー	平成 26 年 6 月	奈良 YMCA ピアノ教師・合唱教師への公開レッスン 子どもへのピアノ指導の方法や子どもの音への感性について講演。
2)音楽講師のための公開セミナー	平成 27 年 12 月	大阪守口市文化センターにおいて、音の性質、音から音楽へと成立していく行方、さらに音楽の表現についてピアノを通して講演した。
3) 音楽講師のための公開セミナー	令和 2 年 12 月	ヤマハ奈良音楽教室ピアノ講師への音楽レッスンや公演。子どもへのピアノ指導の方法についてウィーンでの状況を中心に話を行う。
５　その他 1)　日本口笛音楽コンクール審査委員長	平成 26 年～現在に至る	日本において､これまで平成 17 年より約 2 年毎に開催され、当初からその審査委員長として全８回の審査をこれまで担当してきている。日本に留まらず世界中からの参加者があり口笛音楽界での主要なコンクールとなってこの優勝者からはプロとして活躍する者も生まれている。そして、主催する日本口笛音楽協会への音楽的アドバイザーも務めている。また、日本で活躍するプロ奏者の方々への音楽的表現についてのアドバイスも行っている。
2)中国口哨協会（政府公認）と日本口笛協会との交流会	平成 26 年 4 月	日本において、これまで開催してきた口笛コンクールへの総合的な行程や活動等の内容について中国の口笛演奏への主たる団体である中国口哨協会からの依頼により交流と講話を行っている 。

職　務　上　の　実　績　に　関　す　る　事　項		
事項	年月日	概　　要
１　資格，免許 なし		
２　特許等 なし		
３　実務の経験を有する者についての特記事項 なし		
その他 第三者認証評価活動	平成 27 年 10 月	一般財団法人短期大学基準協会による第三者認証評価での評価員として頌栄短期大学への評価を行った。

研究業績等に関する事項				
著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書） 1.ミュージック・ワークブック「Music Workbook」	共	平成 26 年 4 月	奈良学園大学奈良文化女子短期大学部発行 （63 頁）	音楽初心者にとって音楽の基本となる必要な知識と基礎的テクニックをできるだけ早く身につけていくことが必要であり、その目的にかなう教材として検討を重ね形にしたものである。ピアノ演奏力向上に導くため、譜面の基礎となる音符の理解や指の運動練習を工夫した課題に解説や図面で示して提示している。これを学習することで、音楽への理解と基礎演奏へのスムーズなスタートとなる教材となっている。 著者：青山雅哉、小川純子、上野稲子 担当部分：pp.1～16,pp.32～34,pp.45～63
2. ミュージック・ワークブック「Music Sheet」	共	平成 26 年 4 月	奈良学園大学奈良文化女子短期大学部発行 （47 頁）	音の高さについて、図で表し理解しやすく解説、そしてそのワークとなる問題集を担当。さらに筆頭著者として企画・総括のすべてを担当。 音楽初心者にとって音楽の基本となる必要な知識と基礎的テクニックをできるだけ早く身につけていくことが必要であり、自己学習での確認となる音楽理論への練習問題集。そして、自己学習でのピアノ練習へと導くための練習曲集となっている。 著者：青山雅哉、小川純子、上野稲子 担当部分：pp.1～16,pp、pp.32～47,pp
（学術論文） 1) 音楽教材「Music Workbook」におけるその制作の過程と実施経過の報	共	平成 26 年 11 月	紀要第 45 号 （奈良学園大学奈良文化女子短期大学部） （10 頁）	音楽教材「ミュージック・ワークブック」の制作するにあたり、音楽初心者への教材として適切な指導内容となるよう検討した。そうした検討過程とそれに対する意図についての報告をしている。さらにこの教材を利用し学修している学生達の状況やこれまでの効果について学生や指導教員へのアンケートも含めて状況の内容を検証し、その報告をしている。そして、この教材への使用法や指導法の工夫した利用について研究したものである。 担当部分：pp.1～3,pp.6,pp.8～9 著者：青山雅哉、小川純子、上野稲子
2) 学生の「つどいの広場」におけるその活動と実施調査の報告	共	平成 27 年 11 月	紀要第 46 号 （奈良学園大学奈良文化女子短期大学部） （11 頁）	幼児たちの活動の場において、学生達が音楽を用い、より良い環境の場を設定することのできる力をどのように展開し獲得しようとしたか。そうした、「環境の場の設定」の立案力の分析や、今後の授業に反映させていくことも大きな目的でもあったため、この活動の観察や学生のアンケート等による調査をとおして、音楽指導における「環境の場の設定」する力を養うため音楽授業内容の成果をどのように音楽表現へと展開し活用していくか、さらにそのための授業内容や指導方法への改善を検討した内容となっている。 担当部分：pp.1～2,pp.7～9 著者：青山雅哉、小川純子、上野稲子

3) ピアノ授業におけるその指導法と内容	共	平成 28 年 11 月	紀要第 47 号 (奈良学園大学奈良文化女子短期大学部) (11 頁)	学生達のピアノ練習の実状を観察し、身体的運動や楽譜理解、楽譜分析に対する反応を脳や筋肉、骨格などのメカニズムとして研究し、これまでのピアノ指導の様々な方法に照らし分析した。これらの様々な観点による効果を検証して、新たな身体の使い方や音楽理解、音楽表現方法の獲得について考察していく。さらに、そのための効果的な練習方法や指導方法を提示したものである。 担当部分：pp. 1～4, pp. 9～11 著者：青山雅哉、小川純子、島田稲子
4) 「つどいの広場」への参加による学生の教育的効果	共	平成 29 年 11 月	紀要第 48 号 (奈良学園大学奈良文化女子短期大学部) (11 頁)	奈良市地域子育て支援拠点事業としての「つどいの広場」は、主に０歳～就園までの親子が気軽に集える場として地域に広く周知されるようになり、親と子どもの成長を支えることと共に、本学が保育者養成校であるという性質上、子育て支援と学生教育の接続を図ることを目的として実施している。とりわけ、将来保育者を目指す学生が子どもたちと触れ合い実際を学ぶ場としての広場の役割は大きく、早期に広場体験を行うことが学生の実践的学びとなっていることが立証されてきた。本研究では、本学の教学改革計画の中での「⑦実践力向上のために、子育て支援活動と教育との接続を充実させる」に基づいて実施し、授業での参加に注目して参加の在り方の検討とともに、学生の意識の変容を探り、教育的効果を検証し報告するものである。 担当部分：pp. 1～4, pp. 9～10 著者：青山雅哉、小川純子、中田章子
5) ピアノ授業におけるその指導法と内容Ⅱ	共	令和 2 年 12 月	紀要第 13 集 (奈良学園大学) (10 頁)	学生達のピアノ練習の実状を観察し、身体的運動や楽譜理解、楽譜分析に対する反応を脳や筋肉、骨格などのメカニズムとして研究し、これまでのピアノ指導の様々な方法に照らし分析してきた。そのⅡとして、演奏における筋肉の収縮・弛緩や骨・関節の仕組みとリズムへの身体的反応を主として考察し、その観点から初心者への指導の方法を提示したものである。 担当部分：pp. 141～144、pp. 150 著者：青山雅哉、島田稲子

別記様式第４号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　研　究　業　績　書

令和６年３月31日

氏名　善野　八千子

研　究　分　野	研究内容のキーワード
教育学	学校間接続、生活科、教育行政、子どもの人権、教員の力量形成

教　育　上　の　能　力　に　関　す　る　事　項

事　項	年月日	概　要
１　教育方法の実践例 ・リフレクションカードを活用した学習の定着及びグループディスカッションの実施	平成25年4月～現在に至る	奈良学園大学人間教育学部人間教育学科教授として担当の「人間教育実践力開発演習ⅠⅡⅢⅣ」（１～4回生）（専門科目、１～4年次配当、通年、選択１単位）、において、実践した。 学習定着を目的として、毎時限の最後にリフレクションカードによるフィードバックを実施。毎回、学生が記述したリフレクションカードに、コメント評価を記載。次回に返却し、導入時に前回の復習として活用。１枚のカードで当該科目のシラバス全体の振り返りとなり、学生自身が毎回の自己の学修成果と課題を明確にできた。 グループディスカッションについては、初回は、ペアワークとし、徐々に5～6人グループで行った。テーマに応じた協同的な学びの姿が見られ、話し合い後に発表することから、プレゼンテーション力が高まった。授業アンケート結果からも「自分と違う意見や考えによって理解が深まった」等の学生の満足度がきわめて高かった。 上記と同様に、奈良学園大学人間教育学部人間教育学科教授として担当の「教育行政学（初等）A」（2回生）（教職科目、２年次前期配当、半期、選択必修２単位）、「生活科指導法」（2回生）（教職科目、２年次後期配当、半期、必修２単位）、「生活の理解」１年次後期配当、半期、必修２単位）、において実践した。
・毎回の復習テストを活用した学習の定着の工夫	平成25年4月～現在に至る	奈良学園大学人間教育学部人間教育学科教授として担当の「教育行政学（初等）A」（2回生）（教職科目、2年次前期配当、半期、選択必修２単位）、「生活科指導法」（2回生）（教職科目、２年次後期配当、半期、必修２単位）、科目ごとの目標に対応した復習ミニテストを実践した。 履修者の相当数において、当該科目の履修の前後を比較すると、復習の習慣化と学習の定着度が向上した。
・予習レポートの活用と授業設計	平成26年4月～現在に至る	奈良学園大学人間教育学部人間教育学科教授として担当の「教育行政学（初等）A」（2回生）（教職科目、2年次前期配当、半期、選択必修２単位）、「生活科指導法」（2回生）（教職科目、２年次後期配当、半期、必修２単位）、「生活の理解」１年次後期配当、半期、必修２単位）において、科目ごとの目標に対応した予習課題を設定して実践した。
２　作成した教科書、教材 ・子どもの育ちと学びをつなぐ―幼小連携のあり方と接続カリキュラムの作成―	平成27年9月～現在まで	奈良学園大学人間教育学部人間教育学科教授として担当の「生活科指導法」（教職科目、２年次配当、後期、必修２単位）において、使用した。保育者・教員の資質向上のための幼小接続カリキュラム開発及び実践例について示した。学生は、幼児期のカリキュラムと生活科に位置付いたカリキュラム作成のプロセスの理解が深まった。また、予習学修の定着と共に、指導法の課題が明確になった。

・教科力　生活	平成28年9月～現在まで	奈良学園大学人間教育学部人間教育学科教授として担当の「生活の理解」（教職科目、１年次配当、後期、必修２単位）において、使用。保育者・教員の資質向上のための小学校生活の理論をもとに、歴史や評価の実践例についても提示。学生は、生活科の科目の特性に位置付いたカリキュラム作成と指導理論のプロセスの理解が深まった。また、予習学修の定着と共に、子ども理解の課題が明確になった。
・奈良学園大学「教職実践演習」＜教職組＞の取組～学士課程教育の質の保証～ 編集代表者・著者：善野八千子　著者：太田雄久、荻布優子、西江なお子、森一弘（令和２年７月 ERP）	令和２年９月～令和４年３月まで	奈良学園大学人間教育学部人間教育学科教授として担当の「教職実践演習」（教職科目、４年次配当、後期、必修２単位）において使用。教員の資質向上のための小学校教育現場の実践例等についても提示。学生は、教育公務員の特性に位置付いた指導案作成と指導理論のプロセスの理解が深まった。また、予習学修の定着と共に、子どもと保護者理解の課題が明確になった。
・「インターネット上の人権侵害の解消のための『低学年の絵本教材』の制作」 『みんななかよし』	令和５年３月～現在まで	2022「奈良学園大学幼小接続サークルプロジェクトメンバー」が大阪府教育庁と共同研究を行い「インターネット上の人権侵害の解消のための『低学年の絵本教材』の制作」が完成。 （顧問：2014～現在、善野八千子特任教授、前大阪府人権施策審議会会長） 令和５年３月２８日（火）午前１０時より、下記リンク先にて公表された。 下記リンク内の「教材」の項目一番下までスクロール https://www.pref.osaka.lg.jp/jinken/internet/index.html 低学年教材作成は、奈良学園大学担当：「みんなともだち」 中学年教材作成は、関西大学担当 高学年教材作成は、大阪教育大学担当 WEB 上の公開となり、保育教育現場でダウンロード及び紙媒体の貸し出し等で活用を目的としている。
３　実務の経験を有する者についての特記事項		
鳥取県東部地区幼稚園等の教員及び保育士の合同研修会 講師（於：鳥取県立福祉人材研修センター）	平成26年5月14日	保幼小教職員・教育関係者等200名を対象として、「子どもの育ちと学びをつなぐ」をテーマに講演。
大阪府立高等学校第７ブロックＰＴＡ連絡協議会の講師（於：大阪府立大塚高等学校）	平成26年6月14日	大阪府立高等学校第７ブロックＰＴＡ連絡協議会主催のＰＴＡ総会講演会において、保護者・校長・教頭・教員150名を対象に「高校生活をどう過ごさせるか」をテーマに講演
人間教育学会「学校間接続分科会」の講師（於：奈良学園大学）	平成26年8月4日	人間教育学会「学校間接続分科会」において、講演
三河教育研究会主催の総合的な学習部会夏季研修会の講師（於：愛知県岡崎市民会館　甲山会館）	平成26年8月5日	三河教育研究会主催の総合的な学習部会夏季研修会において、小中教員250名を対象に「力と夢を育てる学校づくり・授業づくり～総合的な学習を通して」をテーマに講演。
阿久比町小中学校主催の教職員夏季研修会の講師（於：阿久比町勤労福祉センター・エスペランス丸山））	平成26年8月6日	阿久比町小中学校主催の教職員夏季研修会「教育講演会」において、小中教職員200名を対象に「子どもの育ちと学びをつなぐ」をテーマに講演。
日本私立小学校連合会主催の全国教員夏季研修会の講師（於：ホテルモントレラ・スール）	平成26年8月21日	日本私立小学校連合会主催の全国教員夏季研修会において、小学校教員80名を対象に「元気の出る学級づくり～子どもと保護者と教師の育ち合いを通して」をテーマに講演。
豊中市教育委員会主催の幼保小連絡協議会夏期研修会の講師（於：アクア文化ホール）	平成26年8月28日	豊中市教育委員会主催の幼保小連絡協議会夏期研修会において、公私立小学校、幼稚園、公立・民間保育園、児童発達支援センター、認定こども園、所属長及び教職員180名を対象に「子どもの育ちと学びをつなぐ～よりよい幼保小連携・接続のあり方～」をテーマに講演。

和泉市立北池田小学校主催の夏季研修会の講師（於：和泉市立北池田小学校）	平成26年8月29日	和泉市立北池田小学校主催の夏季研修会において、教職員30名を対象に「元気な学校づくり～子どもと保護者と教師の育ち合いを通して～」をテーマに講演
寝屋川市教育委員会主催の研修会の講師（於：寝屋川市立北幼稚園）	平成26年9月17日	寝屋川市教育委員会主催の研修会において、小学校教員、公私立幼稚園教諭・保育士100名を対象に「子どもの育ちと学びをつなぐ～就学前後の接続を中心に～」をテーマに講演。
日本精神看護協会主催の看護実習指導者の資格取得の講師（於：日精看　京都研修センター）	平成26年10月21・22日	看護実習指導者の資格取得を目指すもの80名を対象に、教育方法研修会における講師
神戸市立幼稚園長会･私立幼稚園連盟主催の教育連絡会研修会の講師（於：神戸市総合教育センター）	平成26年11月10日	神戸市立幼稚園長会・私立幼稚園連盟主催の教育連絡会研修会において、公私立幼稚園教諭150名を対象に「元気の出る園づくり～子どもの育ちと学びをつなぐ～」をテーマに講演。
沖縄県庁主催の平成26年度宮古地区幼稚園教育課程研究協議会の講師（於：神戸市総合教育センター）	平成26年11月17日	沖縄県庁主催の平成26年度宮古地区幼稚園教育課程研究協議会において、公立、公私立幼稚園長、教諭・市村教育委員会指導主事、宮古島市教育研究所指導主事を対象に「元気の出る幼稚園づくり～学校評価を活かした保育改善を通して～」をテーマに講演。
大阪市私立幼稚園連盟主催の研修会の講師（於：もと大阪市幼児教育センター）	平成26年12月3日	大阪市私立幼稚園連盟主催の研修会において、私立幼稚園教諭80名を対象に「元気の出る園づくり～どもの育ちと学びをつな～」をテーマに講演。
大東市主催の保幼小研修会の講師（於：大東市民会館）	平成27年1月27日	大東市主催の保幼小研修会において保育士、幼稚園教諭、小学校教諭、園長、行政等300名対象として、「育ちと学びをつなぐ保幼小連携」をテーマに講演。
第58回大阪府私立幼稚園教育研究大会（免許更新講習）の講師（於：大阪国際会議場（グランキューブ大阪）	平成27年3月26日	大阪府私立幼稚園連盟主催の免許更新講習において、大阪府私立幼稚園・園長・教職員,近畿地区私立幼稚園教諭 100名を対象に「幼稚園の信頼構築と改善～学校評価と幼小接続・連携をもとに～」について、講義を担当。
大阪市私立幼稚園連合会研修会の講師（於：もと大阪市幼児教育センター）	平成27年5月13日	大阪市私立幼稚園連合会主催の研修会において、幼稚園教諭40名を対象に「幼小接続」をテーマに講演。
羽衣学園中学･高等学校の父母教育懇談会の講師（於：羽衣学園中学・高等学校）	平成27年5月16日	羽衣学園中学・高等学校の父母教育懇談会において、保護者及び教職員200名を対象に「親として、中・高時代をどう過ごさせるか」をテーマに講演。
近畿ブロック都市福祉事務所長連絡協議会主催の第9回通常総会における講師（於：大和高田市さざんかホール）	平成27年5月22日	近畿ブロック都市福祉事務所長連絡協議会主催の第9回通常総会において、福祉事務所長80名を対象に「子どもの育ちと学びをつなぐ町づくり・人づくり～子ども・子育て新制度をふまえて」をテーマに講演。
神戸市総合教育センター主催の職務研修講座における講師（於：神戸市総合教育センター）	平成27年6月12日	神戸市総合教育センター主催の職務研修講座において、公立幼稚園主任30名を対象に「幼小接続」をテーマに講演。
日本私学教育研究所主催の平成27年度私立学校初任者研修小学校（西日本地区）の講師（於：大阪ガーデンパレス）	平成27年7月30日	日本私学教育研究所主催の平成27年度私立学校初任者研修小学校（西日本地区）において、小学校教員40名を対象に「子どもに力をつける教員の力量形成～教師力を学校力につなげる～」をテーマに講演。
古座川町保小中一貫教育研修会の講師（於：古座川町中央公民館）	平成27年8月2日	古座川町保小中一貫教育研修会において、保小中教職員・保護者60名を対象に「保幼接続・小中一貫」をテーマに講演。
姫路市教育委員会主催の園長研修の講師（於：姫路市立総合教育センター）	平成27年8月4日	姫路市教育委員会主催の園長研修において、幼稚園長30名を対象に「幼小接続」をテーマに講演。
宝塚市保幼小中特別支援学校合同研修会の講師（於：宝塚市立安倉小学校ランチルーム）	平成27年8月6日	宝塚市保幼小中特別支援学校合同研修会において、市立保育所長・園長・小中学校教職員・学校長60名を対象に、「子どもたちの育ちや学びをつなぐ保幼小連携の在り方」をテーマに講演。

教育セミナー関西 2015 の講師（於：京都ノートルダム女子大学）	平成 27 年 8 月 8 日	教育セミナー関西 2015 において、参加者 20 名を対象に「ワークショップ－子どもたちの育ちや学びをつなぐ]をテーマに講演。
堺市教育委員会委託のさかい保育教諭・保育士研修の講師（於：堺市産業振興センター）	平成 27 年 8 月 12 日	堺市教育委員会委託のさかい保育教諭・保育士研修において、認定こども園・保育士・民間保育園（所）50 名を対象に、中級講座「幼児期から学童期へ接続カリキュラム①」をテーマに講演
中丹地域保育所(園)・幼稚園・小学校連携推進研修会の講師（於：綾部市保健福祉センター）	平成 27 年 8 月 17 日	中丹地域保育所(園)・幼稚園・小学校連携推進研修会の講師
教員免許更新講習の講師（於：奈良学園大学幼小接続室）	平成 27 年 8 月 19 日	教員免許更新講習として、幼稚園教諭・小学校教諭 30 名を対象に「これからの生活科～子どもの育ちと学びの連続をふまえて～」をテーマに講師として全 6 時間の講習を担当。
岡山市教職員研修の講師（於：岡山ふれあいセンター）	平成 27 年 8 月 24 日	岡山市教職員研修こども園・保育園・幼稚園（年長担任もしくは連携担当者）、小学校（１年生担任もしくは生活科担当者）250 名を対象に「子どもの「育ち」と「学び」をつなぐ保育，授業づくり～保幼小接続におけるこれからの言語活動～」をテーマに講演。
あま市小中学校教職員会研修会における講師（於：あま市美和文化会館）	平成 27 年 8 月 25 日	あま市小中学校教職員会研修会において、あま市小中学校教職員３５０名を対象に「力と夢を育てる学校づくり～学校間接続と学校評価を活かして」をテーマに講演。
第 10 回教師力向上研究会における講師（於：箕面自由学園小学校）	平成 27 年 8 月 29 日	第 10 回教師力向上研究会において、参加者 30 名を対象に「子どもの「育ち」と「学び」をつなぐ授業づくり」をテーマに講演。
堺市教育委員会委託のさかい保育教諭・保育士研修の講師（於：堺市産業振興センター）	平成 27 年 9 月 8 日	堺市教育委員会委託のさかい保育教諭・保育士研修において、認定こども園・保育士・民間保育園（所）50 名を対象に、中級講座「幼児期から学童期へ接続カリキュラム②」をテーマに講演
鳥取県教育委員会事務局鳥取県教育センター主催の【研修名】【幼児教育④】の講師（於：鳥取県教育センター）	平成 27 年 9 月 15 日	鳥取県教育委員会事務局　鳥取県教育センター主催の【研修名】【幼児教育④】信頼される魅力ある園づくり～園評価を活かして～」において、 鳥取県内の幼稚園長・保育所（園）長・認定こども園長の 21 名を対象として、「信頼される魅力ある園づくりをめざしテーマに講義・演習を担当。受講者園長 20 名及び聴講(教育委員会幼児教育担当 6 名)
堺市教育委員会委託のさかい保育教諭・保育士研修の講師（於：堺市産業振興センター）	平成 27 年 10 月 21 日	堺市教育委員会委託のさかい保育教諭・保育士研修において、認定こども園・保育士・民間保育園（所）50 名を対象に、中級講座「幼児期から学童期へ接続カリキュラム③」をテーマに講演
平成 27 年度和歌山県那賀地方 PTA 指導者研修会講演会の講師（於：岩出市民俗資料館	平成 27 年 11 月 14 日	平成 27 年度和歌山県那賀地方 PTA 指導者研修会において、保護者及び教員 65 名を対象として、「親として、中学時代をどう過ごさせるか～これからのコミュニケーションと学びの力～」をテーマに講演。
堺市教育委員会委託のさかい保育教諭・保育士研修の講師（於：堺市産業振興センター）	平成 27 年 11 月 25 日	堺市教育委員会委託のさかい保育教諭・保育士研修において、認定こども園・保育士・民間保育園（所）50 名を対象に、中級講座「幼児期から学童期へ接続カリキュラム④」をテーマに講演
堺市教育委員会委託のさかい保育教諭・保育士研修の講師（於：堺市産業振興センター）	平成 27 年 12 月 9 日	堺市教育委員会委託のさかい保育教諭・保育士研修において、認定こども園・保育士・民間保育園（所）50 名を対象に、中級講座「幼児期から学童期へ接続カリキュラム⑤」をテーマに講演
看護実習指導者を目指すものを対象とした「教育方法研修会」①の講師（於：京都研修センター）	平成 27 年 12 月 16 日	日本精神看護協会　京都研修センター主催の「教育方法研修会」において、看護実習指導者の資格取得を目指す者 38 名を対象に「授業の形態」をテーマとして、講義・演習

看護実習指導者を目指すものを対象とした「教育方法研修会」②の講師（於：京都研修センター）	平成 27 年 12 月 18 日	日本精神看護協会　京都研修センター主催の「教育方法研修会」において、看護実習指導者の資格取得を目指す者 38 名を対象に「授業の方法」をテーマとして、講義・演習
宝塚市子ども未来部主催の所内研修会の講師（於：宝塚市立安倉中保育所ホール）	平成 28 年 1 月 13 日	宝塚市子ども未来部主催の所内研修会において、所長・職員・保育教諭 20 名を対象に「子どもの育ちと学びをつなぐ保幼小接続・連携」をテーマとして、講演。
大阪市私立幼稚園連合会研修会の講師（於：もと大阪市幼児教育センター）	平成 28 年 5 月 24 日	大阪市私立幼稚園連合会主催の研修会において、幼稚園教諭 40 名を対象に「子どもの育ちや学びをつなぐ ～幼児教育と小学校以降の教育の連携・接続～」をテーマとして、講演。
三宅町幼児園園外研修会（於：奈良学園大学幼小接続室）	平成 28 年 6 月 1 日	三宅町主催の研修会において、27 名（町長・健康子ども部部長・職員５名、保護者 18 名、評議員１名、その他１名）を対象に「子どもの育ちや学びをつなぐ ～幼児教育と小学校以降の教育の連携・接続～」をテーマとして、講演。
愛知県一宮市西成東小学校 PTA 講演会（於：一宮市西成東小学校講堂）	平成 28 年 6 月 12 日	愛知県一宮市西成東小学校主催の PTA 講演会において、管理職及び保護者 50 名を対象として、「親として、小学時代をどう過ごさせるか～これからのコミュニケーションと学びの力～」をテーマに講演。
ゆめナビ講義ライブ（於：インテックス大阪）	平成 28 年 6 月 18 日	ゆめナビライブにおいて、高校生 80 名を対象として、「保育士も教師も！～育ちと学びをつなぐ教育のスペシャリストになる～」をテーマに講義。全国の大学 250 講義の中で 1 万人参加の高校生アンケートにより「もう一度聴きたい講義」の第一位に選出された。
鳥取県中部教育局園経営研修（於：伯耆しあわせの郷）	平成 28 年 6 月 28 日	鳥取県中部教育局主催の【幼児教育④】園経営研修において、鳥取県内の幼稚園長・保育所（園）長・認定こども園長、園経営にかかわる副園（所）長、部長等の５０名を対象として、「園を活性化するための組織マネジメントのあり方 ～信頼される特色ある園づくりをめざして～ 」をテーマに講義・演習。
精神科認定看護資格取得研修会（於：京都研修センター）	平成 28 年 7 月 22 日	日本精神看護協会主催の精神科認定看護資格取得を目指すもの 86 名対象とした「組織内における活動、教育論Ⅰ」において、「教育に必要な理論・教育プログラムの展開に必要な教育技法」をテーマに講義。
西宮市幼保小第 2 回「つながり」研修（於：西宮市立子育て総合センター）	平成 28 年 7 月 26 日	西宮市立子育て総合センター主催の第 2 回「つながり」研修（幼保小）において、保育所保育士、幼稚園・小学校・特別支援学校教員等 110 名を対象に「生活科を窓口としたッスタートカリキュラムとアプローチカリキュラム」と題して講演。
岸和田市「平成 28 年度　管理職（校長）研修（於：波切りホール）	平成 28 年 8 月 1 日	岸和田市教育委員会主催の「平成 28 年度　管理職（校長）研修」において、市内幼小中学校校長 40 名を対象に「力と夢を育てる元気な学校づくり～学校評価を活かして～」をテーマに講演。
きのくに共育コミュニティ研修会（於：和歌山ビッグ愛）	平成 28 年 8 月 3 日	和歌山県教育庁主催のきのくに共育コミュニティ研修会において、参加者１１０名（学校関係者８０名、社会教育関係者（行政・公民館関係者・コーディネ ーター等３０名）を対象に、「子どもの育ちと学びをつなぐ～学校・家庭・地域がつながる共育～」をテーマに講演。
福井県平 28 年度組織づくり研修講座（於：嶺南教育事務所）	平成 28 年 9 月 7 日	福井県教育庁主催の平成 28 年度組織づくり研修講座において、福井県嶺南地区小中学校・高等学校教職員 20 名を対象に、「力と夢を育てる学校づくり」をテーマに講演。
三郷町立幼稚園　新規採用教員研修及び園内研修会（於：三郷町立南畑幼稚園）	平成 28 年 10 月 14 日	三郷町教育委員会主催の「幼稚園新規採用教員研修」及び園内研修において、町教委職員及び園長並びに職員を対象に講演。

大阪府立高等学校第３ブロックＰＴＡ協議会研修会（於：大阪府立市岡高等学校）	平成 28 年 11 月 8 日	大阪府立高等学校第３ブロックＰＴＡ協議会研修会において、保護者、校長、教員等 55 名を対象に「親子のコミュニケーション」をテーマに、講演。
柏原市「市教研研修会」（於：柏原市立玉手幼稚園）	平成 28 年 11 月 11 日	柏原市教育委員会主催の「柏原市教育研究会幼稚園部会」において、公立私立幼稚園及び小学校教職員 50 名を対象に、「子どもの育ちと学びをつなぐ～幼小接続カリキュラムのあり方～」について、講演。
日本精神看護協会「教育方法研修会」（於：京都研修センター）	平成 28 年 12 月 21 日	日本精神看護協会　京都研修センター主催の「教育方法研修会」において、看護実習指導者の資格取得を目指す者 36 名を対象に「授業の形態・方法」をテーマとして、講義・演習。
和歌山県社会教育関係職員等研修会（第２回）・訪問型家庭教育支援事業シンポジウム（於：紀南文化会館小ホール）	平成 29 年 1 月 16 日	和歌山県生涯教育局主催の「平成 28 年度和歌山県社会教育関係職員等研修会（第 2 回）・訪問型家庭教育支援事業シンポジウム」において、社会教育関係職員・家庭教育関係職員・福祉関係職員・学校関係教職員、子育て中の保護者、子育て支援活動をしている方、家庭教育支援チーム員等 100 名を対象としたパネルディスカッション「つながろう！家庭・学校・地域・行政・福祉切れ目のない支援のために」をテーマにコーディネータとして担当。
西宮市幼保小第３回「つながり」研修（於：西宮市立子育て総合センター）	平成 29 年 1 月 20 日	西宮市立子育て総合センター主催の第 3 回「つながり」研修（幼保小）において、保育所保育士、幼稚園・小学校・特別支援学校教員等 88 名を対象に『幼保小接続を考える「とまどいマトリクス」を通して』と題して講演及びワークショップを実施した。
鳥取県「幼保小連携推進研修会」（於：鳥取県福祉人材研修センター）	平成 29 年 2 月 27 日	鳥取県教育委員会主催の「幼保小連携推進研修会」において、幼保・認定子ども園棟等の管理職及び教諭、保育士、保育教諭、小学校、特別支援学校の管理職及び連携担当者、1 年生の担任、市町村教育委員会担当者などの 200 名を対象に幼保小の円滑な接続をめざして ～幼児教育と小学校をつなぐ～をテーマに講演・演習、指導講評を担当
岡山市保育協議会研修（於:岡山市役所 保健福祉局勤労者福祉センター）	平成 29 年 6 月 5 日	岡山市保育協議会主催の研修会において、保育園・こども園の園長・保育士 135 名を対象として、子どもの育ちと学びをつなぐ ～就学前までに育てたい力、つけたい力～ 」をテーマに講演。
大阪市私立幼稚園連合会講演（於：）	平成 29 年 6 月 20 日	大阪市私立幼稚園連合会主催の研修会において、幼稚園教諭 50 名を対象に「子どもの育ちや学びをつなぐ ～幼児教育と小学校以降の教育の連携・接続～」をテーマとして、講演。合わせて、事務局を通じて、本学の案内と共に、学生の実習の際の受入等についてもお願いした。
奈良県就学前教育振興プログラム策定会議（於：京都大学）	平成 29 年 6 月 28 日	奈良県教委が京都大学に委嘱した事業「就学前教育プログラム策定」委員として出席し、2017 年度取り組みを検討した。とりわけ、保育・教育現場への評価規準や指標の示し方の提示など、新たな知見が情報交換された。
大和高田市まち・ひと・しごと創生会議（於：大和高田市役所）	平成 29 年 7 月 4 日	大和高田市主催の大和高田市まち・ひと・しごと創生会議において議長として、協議会を進行。議案の２「地方創生加速化交付金に係る事業の実施結果」及び議案の３「地方創生推進交付金に係る事業の実施状況」について検証。
平成 29 年度第 1 回大阪府教育行政評価審議会　（於：大阪府庁）	平成 29 年 7 月 18 日	副会長として出席し、前年度教育行政について、府の点検及び評価結果の妥当性について審議した。後日、大阪府ＨＰにて公開。
平成 29 年度第 2 回大阪府教育行政評価審議会（於：大阪府庁）	平成 29 年 7 月 19 日	副会長として出席し、前年度教育行政について、府の点検及び評価結果の妥当性について審議した。後日、大阪府ＨＰにて公開。

西宮市教育委員会主催「つながり研修②」（於：西宮市職員会館）	平成29年7月24日	西宮市教育委員会主催の「つながり研修」において、幼稚園・保育所・小学校、特別支援教育の教職員100名を対象として、『育った力を学びの力につなぐⅠ「とまどいマトリクス」の活用を通して』①をテーマに講演。
大和高田市人権研究会　市人教　課題別研修会	平成29年7月29日	大和高田市人権教育研究会主催の平成２９年度大和高田市人権教育研究会　課題別研修会において、市人教会員（保幼こ小中高の教職員）120人を対象に、「子どもの育ちと学びをつなぐ～幼児期と小学校教育の連携・接続～ 」をテーマに講演。
平成29年度第3回大阪府教育行政評価審議会（於：大阪府庁）	平成29年7月31日	副会長として出席し、前年度教育行政について、府の点検及び評価結果の妥当性について審議した。後日、大阪府ＨＰにて公開。
平成29年度保育士の専門性を高める連続研修会（於：TKP心斎橋駅前カンファレンスセンター）	平成29年8月1日	大阪府社会福祉協議会主催の平成29年度保育士の専門性を高める連続研修会において、府内の民間保育園・認定こども園に所属する施設長、リーダー、主任保育士に準ずる者200名を対象に「子どもの育ちと学びをつなぐ～就学前までに育てたい力～ 」をテーマに講演。今後の実習のお願いもした。
平成29年度和歌山県訪問型家庭教育支援事業第１回協議会（於：和歌山県庁）	平成29年8月2日	議長として、協議会を進行した。平成29年度の方向性として、以下の２点に特化して協議した。 ①事業の成果や効果を図るための成果指標の効果的な活用について　②円滑な支援に向けたシステムの構築について。①について、成果目標のもと、経年比較を行い事業評価報告で指標を示し、成果の客観性を図るよう指示した。
教員免許更新講習（於：奈良学園大学）	平成29年8月9日	奈良教育大学委嘱の教員免許更新講習を担当した。奈良学園大学「幼小接続室」を会場として、現職教員小学校及び幼稚園教諭38名に対して、生活科及び幼小接続カリキュラムについての理解を深め、認定評価した。
平成29年度第4回大阪府教育行政評価審議会（於：大阪府庁）	平成29年8月30日	副会長として出席し、前年度教育行政について、府の点検及び評価結果の妥当性について審議した。後日、大阪府ＨＰにて公開。
平成29年度海南市公民館大会（於：海南市民会館）	平成29年9月3日	海南市教育委員会主催の「海南市公民館大会」において、海南市公民館館長教育関係200名を対象に「未来を拓く学びをつなぐ公民館～ 学校・家庭・地域がつながるためにできること～ 」をテーマに講演。和歌山県における本学の周知活動と共にお礼と次年度以降の実習等のお願いもした。
鳥取県倉吉市「幼保小連携推進研修会」（於：鳥取県立倉吉体育文化会館）	平成29年9月5日	倉吉市教育委員会主催の幼保合同研修会において、倉吉市内保育園･認定こども園の教職員､小学校教職員50名を対象に｢子どもの育ちと学びをつなぐ～幼児期と小学校の連携・接続～｣をテーマに講演。鳥取県における本学の周知活動と共に、実習先の校長及び教員の参加もあり、お礼と次年度以降のお願いもした。
沖縄県宮古地区園長等運営管理協議会（於：宮古教育事務所）	平成29年9月11日	沖縄県宮古教育事務所主催の宮古地区園長等運営管理協議会において、宮古管内幼保教職員、小学校教職員・校長120名を対象に「子どもの育ちと学びをつなぐ～幼児期と小学校の連携・接続～」をテーマに講演。沖縄県における本学の周知活動と共に、お礼と次年度以降の実習等のお願いもした。
奈良県就学前教育振興プログラム策定会議 実地訪問指導（於：田原本町立南幼稚園）	平成29年9月19日	H29奈良県就学前教育調査研究事業に係る、訪問調査へ委員として出席。奈良県教育委員会企画部及び教育委員会幼小担当指導主事、京都大学大学院生、田原本南幼稚園園長、教員に評価について指導助言及び今後の評価シート作成に当たってのインタビューを進めた。
奈良県就学前教育振興プログラム策定会議（於：奈良県立教育研究所）	平成29年9月29日	第2回奈良県就学前教育振興研究会へ委員として出席。訪問指導の報告と他の実践に対する分析を行った。

和歌山県訪問型家庭支援事業第 2 回協議会（於：和歌山県庁）	平成 29 年 10 月 16 日	議長として、協議会を進行した。平成 29 年度の方向性として、以下の２点に特化して協議した。 ①事業の成果や効果を図るための成果指標の効果的な活用について　②円滑な支援に向けたシステムの構築について。①について、成果目標のもと、経年比較を行い事業評価報告で指標から、成果の客観性を確認した。
宇陀市平成 29 年度宇陀市教育センター研修「幼小連携・接続講座」（於：宇陀市役所）	平成 29 年 11 月 20 日	宇陀市教育委員会主催の「平成 29 年度宇陀市教育センター研修」幼小連携・接続の講座において、幼稚園・保育所・こども園小学校の教職員 40 名を対象に、「子どもの育ちと学びをつなぐ～幼児期と小学校の連携・接続」をテーマに講演。本学の周知活動と共に、実習のお礼と次年度以降のお願いもした。
和歌山県訪問型家庭支援事業第 3 回協議会（於：和歌山県庁）	平成 29 年 12 月 4 日	議長として、協議会を進行した。平成２９年度各市町の取組成果とシンポジウムの方向性の２点について協議した。 ①事業の成果や効果を図るための成果指標の確認 ②シンポジウムの企画と進行の原案検討
日本精神看護協会主催「教育方法研修会」（於：京都研修所）	平成 29 年 12 月 13 日	日本精神看護協会京都研修センター主催の「教育方法研修会」において、看護実習指導者の資格取得を目指す者 46 名を対象に「授業の形態・方法」をテーマとして、講義・演習を担当した。
大阪府私立学校審議会（於：大阪府庁）	平成 29 年 12 月 21 日	「大阪府私立学校審議会」の委員による平成 29 年度 12 月定例会に出席。議事は、8 号議案の申請概要を審議した。また、報告事項 2 点に基づいて意見交換された。
奈良市教職員研修講座（於：奈良市教育センター）	平成 29 年 12 月 26 日	奈良市教育センター主催の平成 29 年度教職員指導力向上研修講座において、受講者 103 名（小学校 43 各担当者、市立こども園 12、幼稚園 23 保育園 12、幼児教育アドバイザー等）を対象に「幼児教育と小学校教育の育ちと学び連続性」について、講演。また、教育実習及び学校園支援ボランティアのお礼と今後のご指導のお願いの場とした。
大阪府教育庁主催「第 3 回地域教育コーディネータ研修」（於：大阪府庁）	平成 30 年 1 月 24 日	大阪府教育庁主催の「第 3 回地域教育コーディネータ研修」において、「家庭教育支援員」「親学習リーダー」を含む地域教育コーディネータ・学校教職員・行政関係者 200 名を対象に「つながろう！家庭・学校・地域・行政・福祉～切れ目のない支援のために～」をテーマに講演した。また、教育実習及び学校園支援ボランティアのお礼と今後のご指導のお願いの場とした。
和歌山県訪問型家庭教育支援事業シンポジウム講演及び第 4 回協議会（於：紀南文化会館）	平成 30 年 1 月 29 日	和歌山県生涯教育局主催の「平成 29 年度和歌山県社会教育関係職員研究会・訪問型家庭教育支援事業シンポジウム」において、「家庭教育支援員」「親学習リーダー」を含む地域教育コーディネータ・学校教職員・行政関係者９０名を対象に「つながろう！家庭・福祉・教育!!ひろげよう！家庭教育支援!!切れ目のない支援に向けて～」をテーマに講演した。また、教育実習のお礼と今後のご指導のお願いの場とした。さらに、「第 4 回協議会」で座長として、議事進行と総括をした。
西宮市教育委員会主催「つながり研修②」（於：西宮市立芦之湯会館）	平成 30 年 2 月 1 日	西宮市教育委員会主催の「つながり研修②」において、・小学校 27 名、特別支援教育 5 名、幼稚園 32 名・保育所 46 名の教職員 105 名を対象として、『育った力を学びの力につなぐ「とまどいマトリクス」の活用を通して』Ⅱをテーマに講演及びワークショップを実施した。 実習校の教員の参加もあり、お礼と次年度のお願いもした。
奈良県教育委員会主催奈良県就学前教育センター「明日の保育をつくる人材育成フォーラム」（於：奈良県社会福祉総合センター大ホール）	平成 30 年 2 月 19 日	奈良県教育委員会主催の奈良県就学前教育センター「明日の保育をつくる人材育成フォーラム」において、公私立幼児教育関係教職員及び行政関係者 120 名を対象として、「奈良県就学前教育プログラムで育む子どもの姿」のパネルディスカッションにおけるコーディネーターを務めた。続いて「子どもの育ちと学びをつなぐ～幼児教育と小学校の連携・接続～」をテーマに講演した。 実習校の教員の参加もあり、お礼と次年度のお願いもした。

大阪府人権施策推進審議会(於:大阪府庁)	平成30年2月28日	第32回大阪府人権施策推進審議会に委員として出席。会長代理に任命された。審議内容は、以下の4点であった。 (1) 会長及び会長代理の選任について、(２) 平成28 (2016) 年度人権施策の状況について、(３) 性的マイノリティの人権問題についての理解増進に向けた取組について、(４) その他について審議した。
大阪府私立学校審議会（於：大阪府庁）	平成30年3月19日	「大阪府私立学校審議会」平成30年度3月定例会を開催し、委員として出席。議事は、21議案の申請概要を審議し、報告事項2点に基づいて意見交換がなされた。
阪急学園教職員研修会（於：阪急学園）	平成30年3月26日	阪急学園教職員研修会において、幼稚園教諭、保育園保育士計８０名を対象として、「子どもの育ちと学びをつなぐ」をテーマに講演を実施した。8園の法人は、理事長を中心に強固な研修体制を推進されており、学内の幼保コースへの就職情報としても提供したい。
和歌山県訪問型家庭支援事業第１回協議会（於：和歌山県民文化会館）	平成30年6月26日	訪問型家庭支援事業第1回協議会に会長として出席。昨年度の課題整理をふまえて今年度の方向性を協議。年度内計画を策定した。
大和高田市まち・ひと・しごと創生会議（於：大和高田市役所）	平成30年7月3日	大和高田市長依頼の「大和高田市まち・ひと・しごと創生会議」において、会長として選出され、進行した。大和高田市まち・ひと・しごと創生戦略における実施状況報告と地方創生関連交付金にかかる実施状況の報告と意見交換をした。
日本精神看護協会「教育方法研修会」(於:京都研修センター)	平成30年7月4日	日本精神看護協会主催の研修会において、精神科認定看護師資格取得を目指す看護師60名を対象に「組織内における活動教育論１」をテーマに講義演習を実施した。
岡山市保育協議会研修(於:岡山市役所 保健福祉局勤労者福祉センター)	平成30年7月10日	岡山市保育協議会主催の「保幼小連携研修会」において、岡山市公私立認可保育園･認定こども園保育士130姪を対象に「子どもの育ちと学びをつなぐ～就学前までに育てたい力、つけたい力～」をテーマに講演。
西宮市教育委員会主催「つながり研修」（於：青空幼稚園）	平成30年7月24日	西宮市教育委員会主催の「つながり」研修において、保育所保育士、幼稚園等・小学校・特別支援学校教員等100名を対象に『幼保小連携･接続のためになすべきこと、できること ～「とまどいマトリクス」の活用を通して～』をテーマに講演。
奈良市教頭講座②（於：奈良市教育センター）	平成30年7月25日	奈良市教育センター主催の「教頭研修講座②」において、小学校、中学校、高等学校の教頭68名を対象に「子どもの育ちと学びをつなぐ校種間連携の在り方」をテーマに講演。
島本町夏季セミナー（於：島本町立第二小学校）	平成30年7月31日	大阪府島本町教育委員会主催の夏季セミナー健康教育分科会において、教職員50名を対象（２中学校、４小学校、２幼稚園、保）に保幼小連携推進協議会の活動報告とグループ討議の後に「保育所・幼稚園から小学校へ～よりよい接続のために～」について指導助言。
湯浅町PTA講演会（於：湯浅町立湯浅小学校）	平成30年9月28日	和歌山県湯浅町教育長及び学校長と共に、全学級を授業参観後、湯浅小学校において、教職員40名及び保護者85名を対象に「PTA子育て講演会」講師を担当。近隣の県立耐久高等学校からの入学者もある本学の紹介も含めて「2030年に生きる力を輝かせる～育ちと学びの連続をふまえて～」をテーマに講演。
王寺町子育て「どんぐり」in奈良学園大学（於：奈良学園大学）	平成30年11月24日	王寺町子育て「どんぐり」in奈良学園大学において、保護者30名を対象に「変わる子育て、変わらない子育て-2030年の社会と子どもの未来を見すえて」をテーマに講演。
「就学前教育振興プログラム」研修会（於：天理市立嘉幡保育所）	平成30年12月10日	奈良県教育振興課主催の「就学前教育振興プログラム」研修会において、県内市町村指導主事、教育研究所長期研究員、保育所長・保育士等16名を対象に「幼小接続期における育ちと学びの連続 『ハイスコープ就学前教育プログラム』の活用と言葉の力」をテーマに参観後の講演。

大阪府人権教育審議会（於：國民会館）	平成 30 年 12 月 19 日	第 33 回大阪府人権施策推進審議会に副会長として出席。(1) 大阪府人権推進計画の点検について、(２) 行政文書における性別記載の点検・見直しについて審議した。
訪問型家庭支援事業シンポジウム（於：和歌山県勤労福祉会館プラザホール）	平成 31 年 1 月 21 日	和歌山県教育長主催の「訪問型家庭支援事業シンポジウム」において、家庭教育支援関係者・社会教育関係職員・学校関係職員・福祉関係職員・子育てサークル関係者・SSW/SSC/等の参加者 160 名を対象にコーディネーター及び講師として「つながろう家庭・福祉・教育！ひろげよう 家庭教育支援！！切れ目のない支援に向けて～地域で家庭をささえるために～」をテーマに講演。
訪問型家庭支援事業第 3 回協議会（於：和歌山県勤労福祉会館プラザホール）	平成 31 年 1 月 21 日	訪問型家庭支援事業第 1 回協議会に会長として出席。課題整理をふまえて実施項目及びシンポジウム評価を策定した。
西宮市教育委員会主催「つながり研修②」（於：西宮市職員会館）	平成 31 年 1 月 28 日	西宮市教育委員会主催の第２回「つながり」研修において、市内小学校教諭・幼稚園教諭等 110 名を対象に「子どもの育ちと学びをつなぐ言葉の力を育むために ～2030 年の社会と子どもの未来を見すえて～」をテーマに講演。
第 34 回 大阪府人権施策推進審議会（於：大阪府男女共同参画センター）	平成 31 年 2 月 15 日	大阪府府民文化部人権局長より通知のあった「第 34 回大阪府人権施策推進審議会」に副会長として出席。(1) ヘイトスピーチの解消及び性的マイノリティに対する差別の解消に向けた条例整備について（諮問）審議した。
第 35 回 大阪府人権施策推進審議会（於：大阪府男女共同参画センター）	平成 31 年 3 月 22 日	大阪府府民文化部人権局長より通知のあった「第 35 回大阪府人権施策推進審議会」に副会長として出席。(1) 大阪府人権尊重の社会づくり条例における府民及び事業者の責務について（論点整理）(2) 人種又は民族を理由とする不当な差別的言動の解消に向けた規定について（論点整理）(3) 性的マイノリティに関する当事者及び有識者の主な意見について (4) その他報告事項。審議した。
第 36 回 大阪府人権施策推進審議会（於：大阪府男女共同参画センター）	平成 31 年 4 月 26 日	大阪府府民文化部人権局長より通知のあった「第 36 回大阪府人権施策推進審議会」に副会長として出席。(1) 大阪府人権尊重の社会づくり条例における府民及び事業者の責務について（論点整理）(2) 人種又は民族を理由とする不当な差別的言動の解消に向けた規定について（論点整理）(3) 性的マイノリティに関する当事者及び有識者の主な意見について (4) その他報告事項を審議した。
第 37 回 大阪府人権施策推進審議会（於：プリムローズ大阪）	令和元年 5 月 24 日	大阪府府民文化部人権局長より通知のあった「第 37 回大阪府人権施策推進審議会」に副会長として出席。審議内容は、次の 3 点であった。 (1) ヘイトスピーチの解消に向けた規定について (2) 答申のとりまとめについて (3) その他報告事項。
西宮市第１回　専門課題研修（於：西宮市総合教育センター）	令和元年 5 月 28 日	西宮市教育委員会主催の「西宮市第１回　専門課題研修」において、保育所・幼稚園・認定こども園・小学校・特別支援学校教職員 約 60 名を対象に、「幼小接続期における「主体的・対話的で深い学び」のために～「さんぽ」から「町探検」を事例に～」をテーマに講演した。
奈良県立西の京高校模擬授業（於：奈良県立西の京高等学校）	令和元年 6 月 10 日	「2030 年のあなたが保育・教育に関わる仕事で輝くために～自ら意欲スイッチを押す魔法のしかけとは？～」をテーマに、高校 2 年生 40 名を対象に講義。あと 10 年で「消える職業」「なくなる仕事」(「雇用の未来」オックスフォード大学マイケル・A・オズボーン博士）の論文をもとに、これからの時代を生きるために「学ぶ意欲のしくみ」を知り、意欲スイッチを押す魔法のしかけについて考え、自らの意欲向上と共に、「保育や教育」のスペシャリストになるストーリーについて、論議させた。
奈良県王寺町立王寺幼稚園園内研修会（於：王寺町立王寺幼稚園）	令和元年 6 月 18 日	王寺町立王寺幼稚園園内研修会において、園長及び幼稚園教諭 10 名を対象に、午前の公開保育を通した指導助言及び「小学校を見通した幼児期の学びの在り方と『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』について」をテーマに講演した。

奈良市小中学校校長研修会（於：奈良市保健所・教育総合センター ）	令和元年6月24日	奈良市教育センター主催の奈良市教職員兼推移講座「校長のリーダーシップ研修」において、奈良市立学校校長62名を対象に「校種間連携の今後のあり方～子どもの育ちと学びの連続をふまえて～」をテーマに講演。
鳥取県東部教育局主催「子育て・家庭教育支援講座」 （於：鳥取県東部庁舎）	令和元年7月1日	鳥取県東部教育局主催の「子育て・家庭支援講座（第２回）」において、小学校・幼保職員・社会教育関係者40名を対象に「教育と福祉の連携・協働体制構築に向けて ～切れ目のない支援を地域で家庭を支えるために～ 」をテーマに講演。
奈良県国公立幼稚園・子ども園研究協議会 （於：平和地区公民館）	令和元年8月5日	奈良県国公立幼稚園・子ども園研究協議会主催の研修会において、園長121名を対象に「園長のリーダーシップの在り方 ～就学前後をつなぐマネジメントを通して～」をテーマに講演。
和歌山県湯浅町保幼小研修会（於：湯浅町役場）	令和元年8月21日	湯浅町教育委員会主催の保幼小研修会において、保育所長、小学校関係職員、教育委員会職員を対象に「湯浅町の未来を創る～こどもの育ちと学びをつなぐために～ 」をテーマに講演。
橋本市訪問型家庭支援員研修会（於：橋本市教育文化会館）	令和元年9月4日	和歌山県橋本市教育委員会主催の家庭教育支援員研修会において、ヘスティアチーム30名を対象に「就学時健診の際に保護者対象のグループワークの在り方について」をテーマに講演
令和元年度和歌山県訪問型家庭支援事業第１回協議会(於：和歌山県民文化会館)	令和元年9月30日	和歌山県生涯学習局主催の内閣府指定「訪問型家庭支援事業」第一回協議会に座長として出席した。和歌山県内４市町の取組の成果と課題をふまえ、県内の実施拡大と質向上に効果のある今年度シンポジウムの在り方について協議を深めた。
京都府立南陽高校模擬授業（於：京都府立南陽高校）	令和元年10月24日	「2030年のあなたが保育・教育に関わる仕事で輝くために～自ら意欲スイッチを押す魔法のしかけとは？～」をテーマに、高校２年生40名を対象に講義。あと10年で「消える職業」「なくなる仕事」(「雇用の未来」オックスフォード大学マイケル・A・オズボーン博士）の論文をもとに、これからの時代を生きるために「学ぶ意欲のしくみ」を知り、意欲スイッチを押す魔法のしかけについて考え、自らの意欲向上と共に、「保育や教育」のスペシャリストになるストーリーについて、論議させた。
令和元年度和歌山県訪問型家庭支援事業第２回協議会(於：和歌山県民文化会館)	令和元年11月25日	和歌山県生涯学習局主催の内閣府指定「訪問型家庭支援事業」第二回協議会に座長として出席した。和歌山県内４市町の取組の成果と課題をふまえ、成果指標の検討及び県内の実施拡大と質向上に効果のある今年度シンポジウムの在り方について、コンテンツや役割等もふまえ協議を深めた。
大和高田市第一回こども・子育て会議 （於：大和高田市役所）	令和元年12月26日	大和高田市こども・子育て会議の会長として選出され、KPIに基づいて議論を進めた。
第３回和歌山県訪問型家庭支援事業シンポジウム及び協議会(於:紀南文化ホール)	令和２年1月27日	和歌山県教育委員会生涯教育局主催の訪問型家庭支援事業シンポジウムにおいて、参加者約70名（家庭教育支援関係者、園・学校教育関係職員、ＰＴＡ、福祉関係職員、社会教育関係職員、ＳＳＷ）を対象にコーディネータを務め、今年度の総括をした。
横浜市　桐蔭学園幼稚部・キッズフォーレ保育所研修会	令和２年2月17日・18日	登園から視察の上、指導助言。できているところ、問題点を指摘。今後の研修改善に生かすためのハイスコープ評価及び園評価について資料提供した。
第２回大和高田市こども・子育て会議 （於：大和高田市総合福祉会館（ゆうゆうセンター)）	令和２年3月3日	第２回大和高田市子ども子育て会議の議長として、第二期子ども・子育て支援事業計画（素案）について、委員の意見を取りまとめた。
令和２年度訪問型家庭教育支援推進事業 協議会（第１回）@和歌山県自治会館	令和２年6月29日	和歌山県生涯学習局主催の内閣府指定「訪問型家庭教育支援事業」第一回協議会に座長として出席した。和歌山県内４市町の取組の成果と課題をふまえ、県内の実施拡大と質向上に効果のある今年度シンポジウムの在り方について協議を深めた。
第38回大阪府人権施策審議会online	令和２年7月20日	大阪府府民文化部人権局長より通知のあった「第38回大阪府人権施策推進審議会」に会長として出席。審議内容は、大阪府HPに掲載。
神戸市子育て研修会（第２回）@ 新長田勤労市民センター別館ピフレホール	令和２年7月27日	神戸市子ども家庭局主催の「神戸市子育て研修会(第２回)　」において、神戸市立保育所・神戸市私立保育園（所)・認定こども園・小規模保育事業所・家庭的保育事業所に勤務する保育士

		及び保育教諭、教育委員会指導主事、保育行政担当者等200名を対象に幼稚園･保育所（３歳以上）･認定こども園の教育・保育課程の編成や実施に伴う指導上の諸課題、今後の幼児教育・保育の充実と保育者の資質向上に資する事を目的として､｢子どもの育ちと学びをつなぐ～小学校教育以降との接続 ～｣をテーマに講演。
令和２年度和歌山県教育課程･保育実践研究協議会 @和歌山県自治会館大会議室	令和２年８月３日	文部科学省・和歌山県教育委員会主催の「教育課程・保育実践研究協議会」において、公･私立幼稚園の教員、公･私立保育所の保育士、公･私立認定こども園の保育教諭、認可外保育施設関係者、各市町村教育委員会指導主事、各市町村保育行政担当者等85名を対象に幼稚園･保育所（３歳以上）･認定こども園の教育・保育課程の編成や実施に伴う指導上の諸課題について、各園・所における日々の実践を交流し合い、今後の幼児教育・保育の充実と保育者の資質向上に資する事を目的として､｢子どもの育ちと学びをつなぐ～ 幼小接続におけるカリキュラム･マネジメントを通して～」をテーマに講演。
和歌山県訪問型家庭教育支援推進事業令和２年度第２回協議会@和歌山県民文化会館	令和２年８月31日	「和歌山県訪問型家庭教育支援推進事業令和２年度第２回協議会」において、会長として司会進行を務めた。
第３回訪問型家庭教育支援推進協議会 和歌山県訪問型家庭教育支援推進事業シンポジウム@和歌山県民文化会館	令和２年８月31日	「和歌山県訪問型家庭教育支援推進事業令和２年度第３回協議会」において、会長として司会進行を務めた。 「シンポジウム」では、参加者200名（市町村関係職員・学校運営協議会委員・教職員・PTA関係者、幼・保・こども園職員、福祉関係者等）を対象にパネルディスカッションコーディネーター及び総括講演｢切れ目のない支援を充実させるために｣をテーマに総括講演した。その後TV和歌山の取材を受けインタビューに答えた。
第39回大阪府人権施策推進審議会（@マイドームおおさか)	令和２年11月９日	大阪府府民文化部人権局長より通知のあった｢第39回大阪府人権施策推進審議会｣に会長として出席。審議内容は、HPに掲載。
桐蔭学園研修会（第１回）online	令和２年12月７日	桐蔭学園主催の研修会において、小学校及び幼稚園管理職と教員を対象に「子どもの育ちと学びをつなぐ～チャレンジする子を育てるチャレンジする教職員をめざして～」をテーマに講演)。
桐蔭学園研修会（第２回）online	令和３年１月25日	桐蔭学園主催の研修会において、小学校及び幼稚園管理職と教員を対象に「子どもの育ちと学びをつなぐ～地域になくてはならない園づくりから考える「カリキュラム改善」～をテーマに講演。
第４回訪問型家庭教育支援推進協議会@和歌山県民文化会館	令和３年２月15日	「和歌山県訪問型家庭教育支援推進事業令和２年度第４回協議会」において、会長として司会進行を務めた。
桐蔭学園研修会（第３回）online	令和３年２月22日	桐蔭学園主催の研修会において、小学校及び幼稚園管理職と教員を対象に「子どもの育ちと学びをつなぐ～地域になくてはならない園づくりから考える「カリキュラム改善」②～」をテーマに講演。
第40回大阪府人権施策推進審議会（@マイドームおおさか)	令和３年３月24日	大阪府府民文化部人権局長より通知のあった｢第40回大阪府人権施策推進審議会｣に会長として出席。審議内容は、HPに掲載。
桐蔭学園研修会（第４回）online	令和３年３月25日	桐蔭学園主催の研修会において、小学校及び幼稚園管理職と教員を対象に｢子どもの育ちと学びをつなぐ～ 対話的学びから考える「カリキュラム改善」～」をテーマに講演
桐蔭学園研修会（第５回）online	令和３年４月27日	桐蔭学園主催の研修会において、小学校及び幼稚園管理職と教員を対象に｢｢子どもの育ちと学びをつなぐ非認知能力の育成～自立心と規範意識～」をテーマに講演
滋賀県令和３年度国公立幼稚園･こども園	令和３年５	滋賀県国公立幼稚園こども園長会主催の研修会において、滋

長会研修会	月 31 日	賀県公･私立幼稚園の教員、公･私立保育所の保育士、公･私立認定こども園の保育教諭、認可外保育施設関係者、各市町村教育委員会指導主事、各市町村保育行政担当者等 100 名を対象に、「子どもの育ちと学びをつなぐ園経営～ 保幼小連携接続を通して～」をテーマに ZOOM によるオンライン講演。
第１回神戸市幼小接続研修会＠神戸市勤労会館 大ホール	令和３年６月 14 日	神戸市こども家庭局主催の「幼小接続研修会」において、150 名（公立保育所７４名・民間園７４名）の主任保育士、行政関係者を対象に「子どもの育ちと学びをつなぐ～小学校との接続～」をテーマに講演。
桐蔭学園研修会（第６回）online	令和３年６月 22 日	桐蔭学園主催の研修会において、小学校及び幼稚園管理職と教員を対象に「**子どもの育ちと学びをつなぐ**非認知能力の育成～自立心と規範意識②～」をテーマに講演
第１回訪問型家庭教育支援推進協議会＠和歌山県民文化会館	令和３年７月 12 日	「和歌山県訪問型家庭教育支援推進事業令和３年度第１回協議会」において、会長として司会進行を務めた。また、「家庭教育支援チームの活動の推進に係る文部科学大臣表彰推薦について」協議した。
桐蔭学園研修会（第７回）online	令和３年７月 22 日	桐蔭学園主催の研修会において、小学校及び幼稚園管理職と教員を対象に「**子どもの育ちと学びをつなぐ**非認知能力の育成～ 環境を生かし、「問いかける力」をもつために ～」をテーマに講演
桐蔭学園研修会（第８回）online	令和３年９月 27 日	桐蔭学園主催の研修会において、小学校及び幼稚園管理職と教員を対象に「子どもの育ちと学びをつなぐオンライン保育の工夫・効果と課題　～「健康な心と体」から考える～ 」をテーマに講演
大阪府立八尾高等学校	令和３年 11 月５日	大阪府立八尾高等学校主催のキャリア研修「総合的探究の時間」において、第２学年希望者 40 名を対象に「2030 年のあなたが輝くために～自ら意欲スイッチを押す魔法のしかけとは？～」をテーマに講義担当。 その後、受講者と共にラジオ出演。
下関市中核市研修「なめらかな接続」のための連携教育研修会＠下関市教育センター	令和３年 11 月８日	山口県下関市教育委員会主催の下関市中核市研修「なめらかな接続」のための連携教育研修会において、認定こども園・幼稚園・保育園長、小学校長認定こども園保育教諭、幼稚園教諭、保育園保育士、小学校教諭等、約 100 名を対象に、「育ちと学びをつなぐ～幼小接続期における『主体的・対話的な深い学び』に向けて～」をテーマに講演した。
桐蔭学園研修会（第９回）online	令和３年 11 月 15 日	桐蔭学園主催の研修会において、小学校及び幼稚園管理職と教員を対象に「子どもの育ちと学びをつなぐ【幼稚園で実現したい子どもの姿】 研修会１周年目を振り返る」をテーマに講演
第２回神戸市幼小接続研修会＠神戸市勤労会館 大ホール	令和３年 11 月 29 日	神戸市主催の公私合同保育士研修（兵庫県の保育士等のキャリアアップ研修の対象）において、保育所長、保育教諭、保育士１３４名（公立保育所　６１名　民間園　７３名 ）を対象に「子どもの育ちと学びをつなぐ～小学校との接続～」をテーマに講演。
桐蔭学園研修会（第 10 回）online	令和３年 12 月 20 日	桐蔭学園主催の研修会において、小学校及び幼稚園管理職と教員を対象に「子どもの育ちと学びをつなぐ～2 学期の振り返り・総括～」をテーマに講演
桐蔭学園研修会（第 11 回）online	令和４年２月 21 日	桐蔭学園主催の研修会において、小学校及び幼稚園管理職と教員を対象に「子どもの育ちと学びをつなぐ～　オンライン保育・教育・ICT 活用の対話～」をテーマに講演
桐蔭学園研修会（第 12 回）online	令和３年３月 24 日	桐蔭学園主催の研修会において、小学校及び幼稚園管理職と教員を対象に「子どもの育ちと学びをつなぐ～2021 総括と 2022 スタートへの接続～」をテーマに講演

和歌山県訪問型家庭教育支援推進協議会＠和歌山県民文化会館	令和４年５月９日	「和歌山県訪問型家庭教育支援推進事業令和４年度第１回協議会」において、会長として議事司会進行を務めた。また、「県内の取組について」協議した。
日高川町専門講座研修会＠日高川町農村環境改善センター 大会議室	令和４年５月 23 日	和歌山県主催の専門講座において、家庭教育支援関係者、学校関係者、行政関係者、学校運営協議会委員、元教員、元保育士、保健師、民生児童委員を対象に、 「切れ目のない支援と訪問型家庭教育支援について ～学校教育と福祉行政の連携～ 」をテーマとして講演とワークショップを実施。
神戸市公私合同保育士研修＠＠神戸市勤労会館 大ホール	令和４年６月 13 日	神戸市子ども家庭局主催の公私合同保育士研修の「幼児教育（⑤小学校との接続）」（兵庫県の保育士等のキャリアアップ研修の対象）において、神戸市立保育所・神戸市私立保育園（所）・認定こども園・小規模保事業所・家庭的保育事業所に勤務する保育士及び保育教諭等 150 名を対象に「子どもの育ちと学びをつなぐ～小学校との接続、地域・保護者との連携～」をテーマに講演。
桐蔭学園研修会（第 13 回）online	令和４年７月 20 日	桐蔭学園主催の研修会において、幼稚園管理職と教員を対象に「子どもの育ちと学びをつなぐ～「言葉による伝え合い」スピーチ活動、今日のニュースを通して～」をテーマに講演
日高川町教育研究会　教育講演会＠日高川町交流センター大ホール	令和４年８月 10 日	日高川町教育研究会主催の研修会に於いて、日高川町内小学校・中学校の教職員 151 名を対象に「子どもの育ちと学びをつなぐ～学校間接続、家庭教育・福祉行政との連携～」をテーマに講演
令和４年度第２回和歌山県訪問型家庭教育支援推進協議会＠和歌山県自治会館	令和４年９月７日	「和歌山県訪問型家庭教育支援推進事業令和４年度第２回協議会」において、会長として議事司会進行を務めた。また、「教育現場への訪問型家庭支援の理解促進」、「切れ目の内支援の充実について」等の協議を進め指導助言した。
鳥取県令和４年度東部地区幼稚園教諭･保育教諭・保育士等合同研修会 online	令和４年９月 13 日	鳥取県教育委員会主催の「令和４年度東部地区幼稚園教諭・保育教諭・保育士等の合同研修会」において、幼稚園保育園・こども園の園長・副園長等 150 名を対象に「地域に開かれた園づくり ～元気の出る学校園評価～ 」をテーマに講演。（オンライン研修に変更）
大和郡山市片桐幼稚園園内研修会＠片桐幼稚園ホール	令和４年９月 21 日	大和郡山市片桐幼稚園主催の園内研修会において、研究テーマ「つながろう　楽しもう　心はずませて～３年間の生活を見通して～」にかかる実際保育を通しての研修及び研究協議並びに指導をした。
神戸市公私合同保育士研修＠兵庫県民会館　９階　けんみんホール	令和４年 10 月 17 日	神戸市子ども家庭局主催のキャリアアップ研修会において、公立保育士６４名民間保育士　８８名計１５２名を対象として、「子どもの育ちと学びをつなぐ～小学校との接続、地域・保護者との連携～」をテーマに講演。
京都府家庭教育支援研修＠京都府総合教育センター	令和４年 10 月 31 日	京都府教育委員会主催の「京都府家庭教育支援研修」において、 家庭教育アドバイザー、まなび・生活アドバイザー 、家庭教育支援基盤構築事業実施市町における家庭教育支援員、家庭教育支援チーム構成員、地域コーディネータ、教育委員会担当者（社会教育・学校教育）等 、保健所、児童相談所、保健センター、子育て世代包括支援センター、児童館等保健・福祉行政担当者等、民生・児童委員、主任児童委員、社会福祉協議会、子育て支援団体等関係者等の 50 名を対象に「 こどもの育ちと学びをつなぐ～家庭教育・福祉行政との連携、学校間接続を通して～」をテーマに講演とワークショップの講師。
大阪府立八尾高等学校出張講座＠大阪府立八尾高等学校	令和４年 11 月４日	大阪府立八尾高等学校主催の出張講座「総合的な探究の時間」に係る講義において、文理選択を終えた生徒が、進学先の大学で学ぶ、学問の雰囲気を実際に体験することで、進学への意思を強くすることを目的として、高校２年生 25 名を対象として、

		「2030 年のあなたが輝くために～自ら意欲スイッチを押す魔法のしかけとは？～」をテーマに講義を担当。
京都府家庭教育支援研修＠京都府総合教育センター北部研修所	令和４年11 月７日	京都府教育委員会主催の「京都府家庭教育支援研修」において、 家庭教育アドバイザー、まなび・生活アドバイザー 、家庭教育支援基盤構築事業実施市町における家庭教育支援員、家庭教育支援チーム構成員、地域コーディネータ、教育委員会担当者（社会教育・学校教育）等 、保健所、児童相談所、保健センター、子育て世代包括支援センター、児童館等保健・福祉行政担当者等、民生・児童委員、主任児童委員、社会福祉協議会、子育て支援団体等関係者等の 50 名を対象に「 こどもの育ちと学びをつなぐ～家庭教育・福祉行政との連携、学校間接続を通して～」をテーマに講演とワークショップの講師。
日高川町立山野小学校教育講演会＠日高川町立山野小学校体育館	令和４年11 月 14 日	日高川町立山野小学校教育講演会主催の令和４年度 PTA 講演会において、保護者及び教職員を対象に「育ちと学びをつなぐ家庭教育と学校教育の連携～子供に届く声かけとは？～ 」をテーマに講演。
令和４年度第 3 回和歌山県訪問型家庭教育支援推進協議会＠和歌山県民文化会館	令和４年12 月 19 日	「和歌山県訪問型家庭教育支援推進事業令和 4 年度第 3 回協議会」において、会長として議事司会進行を務めた。また、「専門講座の在り方について」「令和４年度きのくにコミュニティスクール推進フォーラム」等の協議を進め、指導助言した。
桐蔭学園研修会（第 14 回）online	令和４年12 月 26 日	桐蔭学園主催の研修会において、幼稚園管理職と教員を対象に「子どもの育ちと学びをつなぐ～ ハイスコープ実施検証から～」をテーマに講演
大阪府保育部会北大阪ブロック会保育者研修＠大東市立文化ホール(サーティホール)	令和５年１月 25 日	大阪府保育部会北大阪ブロック会主催の保育者研修において、北大阪ブロック会会員（理事長・園長・保育士等） 100 名を対象に「こどもの育ちと学びをつなぐ～幼保小の架け橋プログラムの重要性～」をテーマに講演。
和歌山県令和４年度きのくにコミュニティスクール推進フォーラム＠県民交流プラザ・和歌山ビッグ愛	令和５年２月 24 日	和歌山県教育委員会主催の「コミュニティスクール推進フォーラム」において、小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・特別支援学校の教職員、行政職員、学校運営協議会委員、地域学校協働活動推進員、家庭教育支援関係者、公民館関係者、企業関係者、ＰＴＡ関係者、共育コミュニティ関係者等 を対象として、全体会及び「全小学校と家庭をつなぐ部」分科会に、和歌山県訪問型家庭支援推進事業協議会座長として出席。
令和４年度第 4 回和歌山県訪問型家庭教育支援推進協議会＠和歌山県民文化会館	令和５年３月６日	和歌山県教育庁生涯学習局主催の令和４年度第 4 回訪問型家庭教育支援推進協議会において、第２回子育て講座及びきのくにコミュニティスクール推進フォーラムにおける分科会「全小学校と家庭をつなぐ部」及び「令和４年度のふりかえり及び令和５年度の推進に向けて」をテーマに、訪問型家庭教育支援推進協議会座長として指導助言。
令和５年度和歌山県湯浅教育委員会 SSW 子育て会議 online 出席	令和５年４月 10 日	和歌山県湯浅教育委員会 SSW 子育て会議において、支援チームインを対象として講演・指導助言。
社会福祉法人珠寿会認定こども園池田保育園 主催の園内保育研修会 ＠きらきらホール	令和５年４月 22 日	「子どもの育ちと学びをつなぐ～幼保小の架け橋プログラムの重要性～」 をテーマに、 社会福祉法人 珠寿会 認定こども園池田保育園主催の園内保育研修会において、全職員を対象として講演。
令和5年度第2回和歌山県訪問型家庭教育支援推進協議会＠和歌山県民文化会館	令和５年４月 24 日	「和歌山県訪問型家庭教育支援推進事業令和 4 年度第１回協議会」において、会長として議事司会進行を務めた。また、「県内の取組状況及び今年度の方向性と重点課題について」協議した。
大和郡山市立幼稚園主催（2023 年度研究指定発表予定園）園内研修会	令和５年６月７日	大和郡山市立幼稚園主催（2023 年度研究指定発表予定園）の 5 歳児学級を中心とした園内研修会に於いて、午前中の保育観察指導及び午後の全体研修会「つながろう 楽しもう 心はずませて～３年間の生活を見通して～」架け橋プログラムをふま

		えて講演。
社会福祉法人聖徳園主催合同研修会 （ 香里敬愛・中振敬愛・みずき敬愛保育所） @社会福祉法人聖徳園 聖徳文化ホール	令和５年 6 月 10 日	社会福祉法人聖徳園主催の合同研修会（ 香里敬愛・中振敬愛・みずき敬愛保育所）において、1 年目から管理職までの保育士 60 名程を対象に、「幼保小の架け橋プログラムの重要性について 」をテーマに講演。
令和5年度第1回湯浅町未来のまちづくり推進会議　online 出席 @湯浅町役場　２階　災害対策室	令和５年 7 月 26 日	湯浅町未来のまちづくり推進会議委員として出席
文部科学大臣表彰の候補者推薦会議 @和歌山県庁教育委員室	令和５年 8 月 7 日	文部科学大臣表彰の候補者推薦会議に社会教育活動の有識者（和歌山県訪問型家庭教育支援推進協議会議長）として出席
令和５年度 和歌山県訪問型家庭教育支援推進事業 特別講演会に訪問型家庭支援事業推進事業座長として出席及び出演 @和歌山県立情報センター	令和５年 9 月 10 日	テレビ和歌山「はばたく紀の国」番組において、県の訪問型家庭教育支援を収録。放送は令和６年１月 21 日。 20 分の番組・日高川町の取組（5 分）・特別講演会（5 分）・橋本市の取組（5 分）・まとめ　の構成。推進協議会議長の立場から、まとめの前半部分に、県・市町村の取組への助言をした。
大和郡山市立幼稚園主催（2023 年度研究指定発表予定園）園内研修会	令和５年 9 月 13 日	大和郡山市立幼稚園主催（2023 年度研究指定発表予定園）の全学級を中心とした園内研修会に於いて、参観指導・講演（発表会に向けて）・事後指導。
桐蔭学園主催の幼小接続研修会 @桐蔭学園幼稚園	令和５年 9 月 25 日	「こどもの育ちと学びをつなぐ～３年間の園生活から小学校入学以降を見通して～」をテーマに全学級参観指導、講演指導助言をした。
令和5年度第2回湯浅町未来のまちづくり推進会議 @湯浅町役場　２階　災害対策室	令和5年10 月 23 日	湯浅町未来のまちづくり推進会議委員として出席
令和5年度第2回和歌山県訪問型家庭教育支援推進協議会@和歌山県民文化会館	令和５年 11 月 6 日	和歌山県訪問型家庭教育支援事業推進事業協議会に座長として「今年度の事業内容報告及び次年度の事業計画等について」協議を進めた。その後、ラジオ収録でコメントを述べた。
大和郡山市立幼稚園主催 2023 年度研究指定発表会　記念講演	令和５年 11 月 8 日	【記念講演】こどもの育ちと学びをつなぐ ～３年間の園生活から小学校入学以降を見通して～」おテーマに、大和郡山市内外の学校園・教育委員会関係者を対象に講演。
大阪府立八尾高校主催「ミニ大学 in 八尾高校」講座 @大阪府立八尾高校ホール	令和５年 11 月 17 日	「ミニ大学 in 八尾高校」総合的な探究の時間において、「2030 年のあなたが輝くために～自ら意欲スイッチを押す魔法の仕掛けとは」をテーマに教員志望の 2 年生 39 名を対象に 90 分間の講座を担当。
令和5年度第3回湯浅町未来のまちづくり推進会議 online 出席 @湯浅町役場　２階　災害対策室	令和６年 1 月 16 日	湯浅町未来のまちづくり推進会議委員として出席
令和５年度湯浅町要保護児童対策地域協議会講演会 @湯浅町役場　３階 なぎホール	令和６年 2 月 6 日	和歌山県湯浅町主催の「令和５年度湯浅町要保護児童対策地域協議会」講演会において、 要保護児童対策地域協議会委員及び関係団体の所属員 学校・乳幼児施設関係者 等を対象に「こどもが見せる「サイン」を見逃さない力～学校で・園で・地域で高めるために～」をテーマに講演。
令和5年度第3回和歌山県訪問型家庭教育支援推進協議会@和歌山県民文化会館	令和６年 2 月 19 日	和歌山県教育委員会生涯学習局主催の「令和５年度第３回訪問型家庭教育支援推進協議会」において、座長として「今年度の事業内容報告及び次年度の事業計画等について」協議を進めた。
		「はばたく紀ノ国～教育は今～（2024.1.21 放送」YouTube 公開。 以下の URL から視聴 （「和歌山県訪問型家庭教育支援事業座長　善野八千子特任教授」（和歌山県教育委員会 2016 年～委嘱）16 分 11 秒から） https://www.youtube.com/watch?v=dStSibz6Uuw　（和歌山県教育委員会 2024.02.「訪問型家庭教育支援事業協議会」にて提供）
５　その他		

・大阪府私立学校審議会委員	平成22年7月～平成29年3月まで	大阪府内私立学校にかかる審議事項を検討した。
・大阪府子ども施策審議会委員	平成25年6月～平成28年3月まで	大阪府子ども施策にかかる審議事項を会長代理として検討した。
・大阪府教育行政評価審議委員	平成26年6月～平成28年3月まで	大阪府教育施策にかかる審議事項を委員として検討した。
・大和高田市ひとまちしごと創生会議委員長	平成27年6月～令和元年9月まで	大和高田市地方創世にかかる意見交換会において委員長として検討した。
・三郷町産官学連携常任委員	平成28年6月 ～令和4年3月まで	三郷町産官学連携会議において常任委員として検討した。
・三宅町評議員	平成28年6月 ～平成29年3月まで	三宅町評議員として検討した。
・和歌山県訪問型家庭教育支援事業推進事業協議会座長	平成28年6月～現在に至る	文部科学省指定事業「和歌山県訪問型家庭教育支援事業」の座長として訪問型家庭教育支援事業の推進に務めた。
・奈良県就学前教育プログラム策定委員	平成28年6月～平成30年3月まで	奈良県就学前教育プログラム策定委員として、研究分野等から協議・検討し助言した。
・大和高田市子ども・子育て会議委員長	平成29年7月～令和元年9月	第1期大和高田市子ども・子育てにかかる意見交換会において委員長として検討した。
・大阪府人権施策推進審議会会長代理・会長	平成29年10月～令和4年1月まで	大阪府人権施策推進審議会会長代理として、検討した。 大阪府人権施策推進審議会会長として、検討した。
・大和高田市子ども・子育て会議委員長	令和元年10月～令和令和4年1月まで	第2期大和高田市子ども・子育てにかかる意見交換会において委員長として検討した。
・湯浅町未来のまちづくり推進会議委員	令和5年7月～現在に至る	湯浅町未来のまちづくり推進会議委員として、まちづくりについて研究分野等から協議・検討し助言した。

職務上の実績に関する事項

事項	年月日	概要
1　資格、免許 (1)　小学校教諭2級普通免許状	昭和50年3月	大阪府教育委員会　昭４９小２普第１６０１号

(2)　小学校教諭１級普通免許状	平成３年11月	大阪府教育委員会　平３小１普第５０７号
(3)　修士（学術）	平成16年３月	大阪教育大学大学院　第３５０６号 論文題目「学校教育自己診断」を活かした学校改善の研究
２　特許等 なし		
３　実務の経験を有する者について特記事項 (1)　堺市立南八下小学校　教頭	平成９年４月～平成12年３月	教頭として、校内研究推進及び学校の活性化並びに地域との連携に取り組んだ。教頭会研修委員として「学校のリスクマネジメント」にかかる研究を堺市教頭研修会において発表した。
(2) 堺市立美木多小学校　教頭	平成12年４月～平成13年３月	教頭として、生活科・「総合的な学習の時間」にかかる堺市教育委員会指定事業を推進させた。 堺市立美木多中学校区の「公立・私立、保育園・幼稚園・小学校連絡協議会」において、保幼小の研究推進に取り組んだ。上記２点の取組を「地域と学校の特色を生かした実践とその評価」(2001 文溪堂) P.18～P.30 で論じた。また、教員の実践例 P.39～P.46、P.63～P.70、P.79～P.86 について、監修指導した。（再掲）
(3)大阪府教育センター　学校経営研究室主任指導主事、企画室主任指導主事	平成13年４月～平成 17年１月	主任指導主事として、４年間、全国教育研究所連盟、近畿地区教育研究所連盟、大阪府教育研究所連盟、近畿所長会の事務局長として、研究会の企画及び研究推進に努めた。また、大阪府内の新任校長研修会・新任教頭研修会、指導主事研修会等の企画運営及び講師の任にあたった。「大阪府教育センターフォーラム」の企画及び分科会の講師・コーディネータを担当した。大阪教育大学との連携において、スクールリーダーフォーラムの講師、シンポジスト等を担当した。 研究主担として、３年間、「大阪府学校教育自己診断」の調査研究を推進し、「学校改善への道筋」をまとめた。
４　その他 なし		

研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項

著書,学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書） 1．教育フォーラム54『各教科等の学習を支える言語活動』	共著	平成26年８月	金子書房	言葉の力を育てるため単元目標構造図や年間指導計画の活用などを考えながら、各教科特有の言語活動について、教師がどのような点に留意した指導を行えばよいのか、具体的な実践を踏まえて考察した。 A5版　全頁数140頁 編者：人間教育研究協議会 共著者：梶田叡一、加藤　明、金澤孝夫、櫻本明美、金山憲正、中田正浩、川俣徹、松田智子、善野八千子、蔵あすか、オチャンテ村井ロサメルセデス 本人担当部分：第10章「幼小接続におけるこれからの言語活動」98～109頁を単著。 幼小接続期の対話と姿勢について、育ちと学びをつなぐ課題から論述した。
2．教科力シリーズ	共著	平成28年２月	玉川大学出版	小学校の教科実践力の基礎を育む、自学自習テキストシリーズ。学習指導要領・平成20年改訂

小学校生活				に対応。教員の力量形成において重要な、各教科の内容構成の理解を目的とする。具体的な場面を想定しながら、体験や活動を軸に、気付きを生み出す生活科の全体像を捉える。各単元の計画目標、実施方法、評価の観点なども解説する。 A5 版　全頁数 182 頁 編者：寺本潔 共著者：寺本潔、綿貫健治、森山賢一、神永典郎、善野八千子、 　本人担当部分：第 11 章「スタートカリキュラムの重要性と指導内容」114～124 頁、第 12 章「交流を通した人間関係作りの指導内容」125～135 頁、第 14 章「自己成長に気付かせる内容」146～156 頁、おわりに「生活科創設の内容や最新の教育界の動向」176～182 頁を単著。 　ISBN　9784472405044
3．教育フォーラム 59『対話的な学び-アクティブ･ラーニングの１つのキーポイント-』	共著	平成 29 年 2 月	金子書房	主体的・対話的な深い学び、すなわちアクティブ・ラーニングを実現するには実際の指導場面で役立つ工夫、具体的な提案をした。 A5 版　全頁数 176 頁 編者：日本人間教育学会 共著者：梶田叡一、湯峯裕、鎌田首治朗、伊崎一夫、金山憲正、菅井啓之、北俊夫、赤堀博之、善野八千子、牧田秀昭、五百住満、中村豊、石森広美、オチャンテ村井ロサメルセデス、井上信子 　本人担当部分：「幼小接続期の対話的学びの力」91～101 頁を単著。 　幼児期から小学校接続の対話的学びの力として、一次的ことばと二次的ことばの接点に立つ教師の役割から考察した。
4．教育フォーラム 60『深い学びのために-アクティブ・ラーニングの目指すもの-』	共著	平成 29 年 8 月	金子書房	主体的・対話的な深い学び、すなわちアクティブ・ラーニングを実現するには実際の指導場面で役立つ工夫、具体的な提案をした。 A5 版　全頁数 176 頁 編者：日本人間教育学会 共著者：梶田叡一、古川治、鎌田首治朗、伊崎一夫、湯峰裕、大畑健美、菅井啓之、金山憲正、石森広美、善野八千子、瀧明智恵子、岡村季光、松井典夫 　本人担当部分：「幼小接続期の深い学び－地域と未来につなぐ生活科の事例から－」103～113 頁を単著。 　幼児期から小学校接続の「深い学びの力」について論考し、生活科事例から考察した。
5．教育フォーラム 61『各学習領域における基本的な見方･考え方ーアクティブ･ラーニングで鍛えられるもの-』	共著	平成 30 年 2 月	金子書房	主体的・対話的な深い学び、すなわちアクティブ・ラーニングを実現するには実際の指導場面で役立つ工夫、具体的な提案をした。 A5 版　全頁数 147 頁 編者：日本人間教育学会 共著者：梶田叡一、鎌田首治朗、湯峰裕、金山憲正、角屋重樹、中村哲、越智貢、大畑昌己、善野八千子、高木悠哉、杉浦健、渡邉規矩郎 　本人担当部分：「小学校低学年における＜基本的な見方・考え方＞」91～101 頁を単著。 　低学年における見方考え方について、生活科を基軸に授業改善に散り組むための考察をした。
６．奈良学園大学「教職実践演習」＜教職組＞の取組～学士課程教育の質の保証～	共著	令和 2 年 7 月	ERP	教員免許制度の改正と大学再編について、教育職員免許法及び同法施行規則改正の施行に伴い、新たに履修内容の充実が求められ、本学の実践力育成の取組を論述した。 A5 版　全頁数 120 頁 編者：善野八千子 共著者：太田雄久、荻布優子、善野八千子、西江なお子、森一弘 　本人担当部分：はじめに、第２章教員としての使命感・責任感～「話すこと、聴くこと、書くこと」で築く信頼構築を通して～、第４章　保護者対応～不安・不満・不信から安心・満足・信頼へ～、第６章　地域との連携～実は、

				地域を一番知らないのは、教師です～91～101 頁を単著。 ISBN-13: 978-4907104696
7.教科力　生活(改訂第２版)	共著	令和３年 11 月	玉川大学出版	小学校生活科の内容構成を理解し実践力の基礎を育む教員志望者のためのテキスト。2017（平成 29）年改訂の学習指導要領に対応。教員の力量形成において重要な生活科の内容構成の理解を目的として、生活科のための実践力の自学自習テキスト。 A5 版　全頁数 188 頁 編者：寺本潔 共著者：寺本潔、綿貫健治、森山賢一、神永典郎、善野八千子、 本人担当部分：第 11 章「スタートカリキュラムの重要性と指導内容」114～124 頁、第 12 章「交流を通した人間関係作りの指導内容」125～135 頁、第 14 章「自己成長に気付かせる内容」146～156 頁、おわりに「生活科創設の内容や最新の教育界の動向」176～182 頁を単著。 ISBN　9784472406096
8. 教育フォーラム 69『基礎・基本に立ち返る』	共著	令和４年２月	金子書房	教育に求められるものは山積みで、基礎基本に焦点化して取り組まねば学校現場は疲弊するばかりである。不易の課題を検討、提示した。 A5 版　全 194 ページ 編者：梶田叡一、日本人間教育学会 共著者：梶田叡一、鎌田首治朗、湯峯裕、二瓶弘行、金山憲正、菅井啓之、渡辺規矩郎、 今西幸蔵、善野八千子、阿部秀高、古川治 本人担当部分：幼児教育で大切にすべき基礎・基本～これからの幼小連携接続を見通して～」95～105 頁を単著。 幼児教育で大切にすべき基礎・基本において、これからの幼小連携接続を見通して、幼児教育と生活科を基軸につなぐ保育・教育改善に取り組むための実践研究を提議した。 ISBN　9784760860197
9.「マイノリティとジェンダー」『新しい視点からの教育社会学人間形成論の視点から』	共著	令和４年９月	大学教育出版	『新しい視点からの教育社会学人間形成論の視点から』共著、令和４年９月 26 日、大学教育出版、全 234 ページ 編者：住本克彦 共著者：金山憲正、森一弘、善野八千子　他 本人担当部分：第 11 章 p179-198 を単著。 マイノリティとジェンダーをテーマにこれまでの社会における課題と歴史及びこれからの社会における人権を基本とした求められる変化と対応について、対話を通して考えを深め合い協働的に学び合えるように問いかけ考察した。
10.「幼児教育の充実がもたらす未来への展望」教育フォーラム 71『令和の時代の教育課題』	共著	令和５年３月	金子書房	明治５年の学制発布から 150 年余り。その間の教育を振り返り、今、そして未来の教育への提言を行う。人間教育を求め続けた最終号。 A5 版　全 218 ページ 編者：梶田叡一、日本人間教育学会 共著者：梶田叡一、古川治、鎌田首治朗、溝上慎一、湯峯裕、二瓶弘行、中間玲子、今西幸蔵、菅井啓之、杉浦健、善野八千子、阿部秀高、渡辺規矩郎、 本人担当部分：幼児教育で大切にすべき基礎・基本～これからの幼小連携接続を見通して～」117～127 頁を単著。 「幼児教育の充実がもたらす未来への展望」について、教育保育の「量的拡充から,質的向上」への転換、について、幼児教育の見直しとなった「ペリー就学前プログラム」の注目点、「ハイスコープ就学前教育プログラム」を手がかりとした実地検証、10 の姿を教育保育の質向上と幼保小連携接続につなぐ ICT の活用の実践を考察した。幼児教育の充実がもたらす未来は,施設類型や地域,家庭の環境を問わず,全ての子どもに対して格差なく質の高い学びを保障する環境の実現である。これは,「子どもに関わる大人が立場を越えて連携・協働する」という責務であり,子どもの育ちと学びをつなぐという共通の役割であり使命であることを論じた。 ISBN　9784760860210

（学術論文） 1. 人間教育に資する「これからの幼小接続教育」の展開(1) －自己成長への気づきを促す生活科の実現に向けて－（査読付）	単著	平成 27 年 3 月	日本人間教育学会 学会誌 Vol. 2 p. 93～p. 105	「これからの幼小接続の基軸となる生活科教育」の工夫改善となる３つの要件を導出した。さらに，これら３つの要件。生活科成長単元において，学習者の自己成長への気づきを促す過程を分析し，活動の活性化及び指導者の関わり方の必然性について，考察を行った。これら３つの要件を充足する実践事例「生活科成長単元第 2 学年自分たんけん」の分析による検証を行い，その有効性について解明した。
2. 人間教育に資する「幼小接続期カリキュラム」のあり方－「とまどいマトリクス」を活用した接続カリキュラムの改善－（査読付）	単著	平成 28 年 3 月	日本人間教育学会 学会誌 Vol. 3 p. 39～p. 50	就学前後の子どものとまどい要因を幼児教育と小学校教育の双方で解決することによって、「子どもの育ちと学びをつなぐカリキュラム」を作成できることを示唆した。また、それらを活かした「一日体験学習」の実践幼稚園の訪問調査結果から 4 段階の変容を分析した。 とまどい要因を幼児教育と小学校教育の双方で解決することによって、「子どもの育ちと学びをつなぐカリキュラム」改善の手立てとして、活用できることを幼児教育の実践事例を分析し検証した。
3. 人間教育に資する「幼小接続期カリキュラム」のあり方（２）－カリキュラム・マネジメントから考察する「とまどいマトリクス」の活用－（査読付）	単著	平成 29 年 3 月	日本人間教育学会 学会誌 Vol. 4 p. 43～p. 56	就学前後の「子どもの育ちと学びをつなぐ」ためにスタートカリキュラムを作成するために必要なこと、またそのカリキュラム・マネジメントのあり方について示唆した。 ３つの実践小学校に関わった管理職の聴き取り調査結果から 4 段階の変容を分析した。 とまどいマトリクス活用によって、「子どもの育ちと学びをつなぐカリキュラム」改善の手立てとして、活用できることを小学校入門期の教育実践事例を分析し検証した。
4. 生き抜く力を育む人間教育-小学校における教科指導と現代的課題に着目して-	共著	平成 30 年 12 月	人間教育学研究 第 1 号 p. 39～p. 54	生き抜く力を育む人間教育をめざして、「特別の教科道徳」における「夢や希望を育む」指導と「算数科」を軸にした「学力不振による不登校の未然防止」の指導を検討した。指導案例を提示することで、改善の方向性を示した。特別の教科道徳の中で、自己の生き方を考える時間の保障をすることや算数科指導の中に、生徒指導の 3 機能を生かした指導の改善などの視点を明確にした。 共著者：善野八千子・金山昴資・重安勝星・内藤翔一・早坂虹穂・松田彩加
5. 「生き抜く力を育む人間教育(2)-幼小接続期から小学校における学習指導と現代的課題に着目して」	共著	平成 31 年 ３月	人間教育学研究 第　2 号 p. 25～p. 46	未来を築く子供たちに生き抜く力を育む人間教育をめざして、「生活科」及び「特別活動」における「幼小接続期の給食指導」と「家庭と生活」を軸にした指導法ついて検討した。具体的に指導案例を提示することで、改善の方向性を示した。また、それらの学校教育の取組について、社会に開かれた教育課程の一役を担う学校ＨＰについても検討した。 共著者：善野八千子・中菜摘・中西貴大・織谷百江・村田一輝

6. 「生き抜く力を育む人間教育(3)−小学校における学習指導と非認知能力に関する現代的課題に着目して」	共著	平成31年３月	人間教育学研究第 2号 p.47〜p.63	現代的課題として挙げられる非認知能力「学習意欲、規範意識、自尊感情」の３点の課題解決をめざして、「算数科」を軸にした「学習意欲」、「特別の教科　道徳」における「いじめ問題」、「国語科」を軸とした「読書指導」について考察した。具体的に指導案例を比較・検討することで、改善の方向性を示した。 共著者：善野八千子・芳之内貴一・久保田巧・東川博規
7. 教育行政における幼小接続期への政策形成についての考察	単著	令和元年９月	奈良学園大学紀要第11集p.99〜p.112	教育行政における幼児教育と小学校教育の接続期の政策動向について、1989年の生活科の創設以降から今日に至る幼小接続に関するカリキュラム（以下、幼小接続カリキュラム）をめぐる教育政策の概要を時系列に沿って整理した。第１に「生きる力」における「学習の基盤」をめざす段階、第２に「小１プロブレム」の予防・解消をめざす段階、第３に安全で安心な学校生活をスタートさせる段階、第４に学びに向かう子どもを育てる段階に分類して検討した。
8. 生き抜く力を育む人間教育(4)−小学校における教科等横断的指導に着目して−	共著	令和２年３月	人間教育学研究第 3 号 p.43〜p.56	生き抜く力を育む人間教育における「資質・能力を育む」ため、小学校の学習を教科等横断的な視点で成立させる課題解決をめざした。特別の教科道徳と国語科、生活科、社会科、総合的な学習の時間の教科等横断的指導について考察した。具体的に既存の指導案例を検討して改善の方向性を示した。 共著者：善野八千子・関本和也・谷野萌・森本大貴
9. 教育行政における幼小接続期の子どもの人権に関する考察	単著	令和３年12月	奈良学園大学紀要第 14 集 P205-220	子どもたちが加害者や被害者となる痛ましい事件が頻発し、子育て家庭や子どもたちを地域社会全体で見守り支えることの必要性から、教育行政に位置付く「訪問型家庭教育支援事業」に着目した。そして、先進的な取組の自治体の支援チームリーダーへのインタビュー調査結果から、子どもの人権にかかる幼小接続期の取組を考察した。その一つとして、家庭教育支援の継続した活動が子育て家庭の子どもの人権にかかる働きかけや家庭教育と学校教育をつなぐ大きな役割を担っていることを明らかにした。
10.幼小接続期における子供の育ちと学びに関する考察〜「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」をてがかりに〜	単著	令和５年３月	奈良学園大学紀要第15集P79-96	教育は、子供一人一人の生涯にわたる発達や学びの連続性を見通して行われるものであり、「幼児教育と小学校教育との接続の一層の強化」の必要性から、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」に着目した。そして、ネットワーク上のスプレッドシートに、「10の姿」の観点別記入を共同編集できる園日誌の記録用のフォーマットを提案し、その取組を実践した教員へのインタビュー調査から考察した。その結果、1点目に、「育てたい10の姿からみた活動記録（善野八千子2021)」が契機となり保育活動の意識変容として有効であること、2点目に、「幼小接続期の教育保育の質向上」として、幼児教育から学校教育への育ちの連続性を見通す情報共有となること、3点目に幼保小連携接続のエビデンス資料の一つとなることを明らかにした。
11.教育行政における幼小接続期の子どもの人権に関する考察Ⅱ〜AL型研		令和５年12月	奈良学園大学紀要第16集P63-77	家庭教育支援におけるアウトリーチ型支援は、問題を抱え孤立した家庭に対する効果的な行政手法としてニーズが高いが、効果的な取組み事例は極めて少ない。「AL型研修ツール（善野八千子2020考案)」活用を通した研修効果の検証をした。「年間２回の研修方法によって、学んだことや情報収集したことを生かすことができるか。」、「家庭

修ツールの活用を通して～				と学校と福祉の連携が推進される契機となるか」について、２時点の結果を比較分析した。その結果、6 段階のプロセスは、アクティブラーニングを用いた有効な研修方法であることが分かった。 １点目に好事例の増大、2 点目に好事例に包含される家庭と学校と福祉の連携に関連するキーワードの抽出、3 点目にリフレクションの記述の出現言語と抽出後の関連分析の結果、家庭と学校と福祉の連携の推進への効果を確認した。
（その他） 「研究報告書」 １.奈良県就学前教育研究調査事業最終報告書	共著	平成 29 年 3 月	京都大学地域連携教育研究推進ユニット	奈良県委嘱研究（奈良県就学前教育研究調査事業）A４版　全 175 頁研究代表　高見茂 本人担当部分：1.小学校との連携と親関与「就学前教育振興のために-小学校との連携推進及び家庭教育の支援を促進する取り組みに焦点を当てて-」2～21 頁を単著。
２.奈良県就学前教育研究調査事業最終報告書	共著	平成 29 年 12 月	京都大学地域連携教育研究推進ユニット	奈良県委嘱研究（奈良県就学前教育研究調査事業）A４版　全 159 頁研究代表　高見茂 本人担当部分：3.プログラム実践状況の分析「就学前教育振興のために-参観訪問園及び他１園の実施の現状を踏まえた分析と評価・総体について-」104～116 頁を単著。
「収録集」 1. 平成 26 年度研究・研修収録第 45 号	単著	平成 27 年 3 月	大阪市私立幼稚園連合会	平成 26 年度研究・研修収録「専門教養研修」として、執筆。 本人担当部分：幼小連携(2)「子供の育ちと学びをつなぐこれからの言語活動」85～89 頁を単著。
2. 平成 27 年度研究・研修収録第 46 号	単著	平成 28 年 3 月	大阪市私立幼稚園連合会	平成 27 年度研究・研修収録「専門教養研修」として、執筆。 本人担当部分：幼小連携「幼小接続カリキュラムの作成と改善＜とまどいマトリクス＞を活用して」78～80 頁を単著。
3. 平成 28 年度研究・研修収録第 47 号	単著	平成 29 年 3 月	大阪市私立幼稚園連合会	平成 28 年度研究・研修収録「テーマ研修」として、執筆。 本人担当部分：子どもの育ちと学びをつなぐ幼小接続期の対話的学びの力 35～38 頁を単著。
4・平成 29 年度研究・研修収録第 48 号	単著	平成 30 年 3 月	大阪市私立幼稚園連合会	平成 29 年度研究・研修収録「テーマ研修」として、執筆。 本人担当部分：子どもの育ちと学びをつなぐ幼小接続期の「深い学び」21～25 頁を単著。
「依頼原稿」 1. 生活科における「深い学び」を実現するための理論と授業づくりのポイント	単著	平成 30 年 1 月	学校教育 NO.1205 広島大学付属小学校　学校教育研究会	新学習指導要領の改訂（平成 29 年 3 月告示）の特徴である、「学びの質に着目した授業改善の取組の活性化を目指した構造の変更」から論じた。「深い学び」を実現するための生活科の課題と深い学びのための連続発展する４観点(1)幼児教育とつなぐ(2)次の活動につなぐ(3)家庭・地域とつなぐ(4)中学年の各教科へつなぐをふまえて、実践事例を元に論考した。 本人担当部分：14～21 頁を担当。

2. 未来を創る子どもに染み込む「価値」	単著	平成 30 年 8 月	阪急学園教育広報誌 8 月号	未来を創る子どもに染み込む「価値」について、1 点目は全国弁論大会の体験から、2 点目は、体験的学習の価値「親子でクッキング」の中で、「料理は科学」「料理は美学」「料理は五感力」「料理は段取り力」という講話の例から、3 点目は本学の学生育成の核について論じた。 本人担当部分：1 頁（表紙）を担当。
3. 学びをつなぐ①「育ちのバトン貯金箱」をスケルトンで創る	単著	平成 31 年 3 月	日本教育綜合研究所 週刊教育 PRO 第 49 巻第 7 号	本人担当部分：「育ちのバトン貯金箱」をスケルトンで創る 35 頁を担当。
4. 学びをつなぐ②だれもが「ふるさと大使」になるために	単著	令和元年 5 月	日本教育綜合研究所 週刊教育 PRO 第 49 巻第 11 号	本人担当部分：だれもが「ふるさと大使」になるために 35 頁を担当。
5. 学びをつなぐ③「人生 100 年時代の国際人を育てるために」	単著	令和元年 7 月	日本教育綜合研究所 週刊教育 PRO 第 49 巻第 15 号	本人担当部分：「人生 100 年時代の国際人を育てるために」35 頁を担当。
6. 学びをつなぐ④「自立し生活を豊かにする資質・能力を育てる」	単著	令和元年 10 月	日本教育綜合研究所 週刊教育 PRO 第 49 巻第 22 号	本人担当部分：「自立し生活を豊かにする資質・能力を育てる」35 頁を担当。
7. 学びをつなぐ⑤「ボールをつなぐラグビーと学びをつなぐ非認知能力」	単著	令和元年 12 月	日本教育綜合研究所 週刊教育 PRO 第 49 巻第 27 号	本人担当部分：「ボールをつなぐラグビーと学びをつなぐ非認知能力」35 頁を担当。
8. 学びをつなぐ⑥「評価のカベをとる」～幼小接続期の非認知能力～	単著	令和 2 年 2 月	日本教育綜合研究所 週刊教育 PRO 第 50 巻第 3 号	本人担当部分：「評価のカベをとる」～幼小接続期の非認知能力～21 頁を担当。
9. 学びをつなぐ⑦「ウィルスとの闘いと自制心」	単著	令和 2 年 5 月	日本教育綜合研究所 週刊教育 PRO	本人担当部分：「ウィルスとの闘いと自制心」27 頁を担当。
10. 学びをつなぐ⑧「アタッチメントと遊び」	単著	令和 2 年 7 月	日本教育綜合研究所 週刊教育 PRO	本人担当部分：「アタッチメントと遊び」17 頁を担当。
11. 学びをつなぐ⑨「夏休み自由研究と情動知性（EQ）」	単著	令和 2 年 10 月	日本教育綜合研究所 週刊教育 PRO	本人担当部分：「夏休み自由研究と情動知性（EQ）」17 頁を担当。
12. 学びをつなぐ⑩「ポストコロナ時代、次年度への準備」	単著	令和 3 年 2 月	日本教育綜合研究所 週刊教育 PRO	本人担当部分：「ポストコロナ時代、次年度への準備」26～27 頁を担当。

13.学びをつなぐ⑪「保育・教育の充実と ICT 積極的活用 ポストコロナ時代だからこその実践」	単著	令和 3 年 6 月	日本教育綜合研究所 週刊教育 PRO	本人担当部分:「保育・教育の充実と ICT 積極的活用 ポストコロナ時代だからこその実践」26～27 頁を担当。
14.学びをつなぐ⑫「幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会第 2 回資料を読み解く」	単著	令和 3 年 10 月	日本教育綜合研究所 週刊教育 PRO	本人担当部分 :「幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会 第 2 回資料を読み解く」26～27 頁を担当。
15.学びをつなぐ⑬「幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会」第 5 回資料を読み解く －「2021 年度 Cedep 公開シンポジウム人生の豊かなはじまりを支える幼児教育･保育～OECD 幼児教育･保育白書第 6 部より～」との連関－」	単著	令和 4 年 2 月	日本教育綜合研究所 週刊教育 PRO	本人担当部分 :「幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会」第 5 回資料を読み解く －「2021 年度 Cedep 公開シンポジウム人生の豊かなはじまりを支える幼児教育･保育～OECD 幼児教育･保育白書第 6 部より～」との連関－」26～27 頁を担当。
16.「これからの幼児教育の特色と役割～「こどもの育ちと学びをつなぐ」共通の責務と使命～」	単著	令和 4 年 8 月	教育 PRO 第 52 巻第 10 号 ERP	特集「新しい幼児教育を考える」 本人担当部分:「これからの幼児教育の特色と役割～「こどもの育ちと学びをつなぐ」共通の責務と使命～」6～7 頁を担当。
「学会発表」				
1.「子どもの育ちと学びをつなぐ―幼小中の接続－」	個人	平成 26 年 8 月	日本人間教育学会「学校間接続分科会」(於:奈良学園大学)	幼・小・中学校にかかる子ども観・評価観の違いを整理した。また、教育課程の理解を中心に接続を推進することの意義及び子どもの育ちと学びの連続保証を目的に考察し、「汎用性」のある接続期のカリキュラムモデル作成の手順及びこれまでのカリキュラム改善の視点について、新たな知見を述べた。
2. 子どもの育ちと学びをつなぐ幼小接続カリキュラムの開発（V）～「とまどいマトリクス」を活用した「一日体験入学」の改善	共同	平成 28 年 6 月	日本生活科･総合的学習教育学会第 24 回大会(於:宮城学院女子大学)	継続研究の 5 年目において、「とまどいマトリクス」を活用した「幼小接続カリキュラム」を活用した合同研修事例を提示し「一日体験入学」の改善案を考察した。とりわけ、岐阜県山県市立小学校における「とまどいマトリクス」活用の有効性を実践検証した。
3. 幼小接続期における育ちと学びの連続 「ハイスコープ就学前教育プログラム」を手がかりに	共同	平成 30 年 12 月	日本人間教育学会第 4 回大会（於:桃山学院教育大学)	幼小接続期の非認知能力の向上のため「ハイスコープ就学前教育プログラム」を導入し発達レベルの評価基準や幼児の能力を高める指導戦略に生かした。また、教育視点の可視化と共に、幼児教育における基準や評価について教員の保育観の交流を進めた。評価スケール作成により、取組の成果と課題のエビデンスをもって卒園児の保護者及び小学校に伝える契機となった。

4．架け橋期におけるアクティブラーニングを通した「10 の姿」育成の考察 ― 「社会生活との関わり」を焦点として ―	共同	令和 6 年 1 月 20 日	日本人間教育学会 第 9 回 大 会（於:奈良学園大学）	善野（2022）は、「幼児期の終わりまでに育ってほしい 10 の姿」（以下、「10 の姿」と表記）に着目し、ネットワーク上のスプレッドシートに、観点別記入を共同編集できる園日誌を考案し、本研究では、「幼小接続期の教育保育の質向上」に資するため、「10 の姿」のうち「社会生活との関わり」に焦点を当てて、主体的・対話的で深い学びの充実に図り取り組んだ実証研究から考察した。
5．その他（放映）		令和 6 年 1 月 21 日		教育広報テレビ番組　はばたく紀の国～教育は今～「地域で一緒に子育てを！～訪問型家庭教育支援の推進～」テレビ和歌山

別記様式第４号（その２）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　研　究　業　績　書

令和６年 3 月 31 日

氏名　　安東　雅訓

研究分野	研究内容のキーワード
表現論的組合せ論	整数の分割，ヤング図形，母関数

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
１　教育方法の実践例 (1) 学習支援システム上への演習問題の公開	平成 24 年 4 月～平成 30 年 3 月	稚内北星学園大学において，講義で扱った演習問題を学習支援システム上に上げている．在学生の他にも高校で教員をしている卒業生もたびたび確認しており，授業の参考や自学に活用している．
(2) 就職試験対策講座における，数的推理・判断推理分野の推理による解法の実践	平成 25 年 6 月～平成 29 年 8 月	数的推理・判断推理分野の問題は初等的な数学を用い時間をかけて丁寧に解けば答えの出せるものが殆どだが，その方法で正解率・回答速度を上げようとすれば慣れるより他なく，それなりの時間を要す．そこでこの分野は「数学」ではなく「推理」であるとしての，ベイズ確率等のテクニックにより選択肢を推理する方法を紹介している．実際に公務員試験等で使い，有効だったとの評価を得ている．
２　作成した教科書，教材 (1) 数学科目演習問題	平成 24 年 4 月～平成 30 年 3 月	稚内北星学園大学において，担当数学科目（数学基礎 I，II，線形代数学 I，II 演習，代数学 I，II，幾何学 II，集合論入門）で扱った演習問題を LMS（ラーニングマネジメントシステム）上にアップしたもの．教科書の演習問題としてはあまり見ない類の問題も多く載せている．
(2) 就職試験対策講座における演習問題	平成 25 年 6 月～平成 29 年 8 月	稚内北星学園大学における就職試験対策講座において，教材として使用したもの．定着のために扱う問題の種類を絞り類似の問題を多くそろえており，それらの問題を不得意とする学生には好評であった．
(3) 数理パズル集	平成 26 年 12 月	稚内北星学園大学まちなかメディアラボのプレオープンにおいて特集した数理パズル集．小学校低学年レベルの問題から高校生レベルまでを揃えている．
３　教育上の能力に関する大学等の評価 (1) 稚内北星学園大学採用時の学部長の評価	平成 24 年 2 月	数学についての深い知識だけでなく，教育に対しての情熱と使命感を備えており，数学教育だけでなく教員養成にもその力を発揮すると期待する．
４　実務の経験を有する者についての特記事項 (1) 北海道教育大学大学院生への指導	平成 26 年 9 月	北海道教育大学の大学院生２名に対し，大学数学と高校数学の関連，教員採用試験過去問の解説，中高生向けの数学トピック紹介等の指導を行った．
	平成 27 年 10 月	北海道教育大学の大学院生２名に対し，Latex のインストールと使用方法，教員採用試験過去問の解説，大学入試問題の指導方法等の指導を行った．
５　その他 特記事項無し		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1　資格，免許		
2　特許等		
3　実務の経験を有する者についての特記事項		
4　その他		

研究業績等に関する事項				
著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書） 1 2 3 :				
（学術論文） （査読有） 1 Combinatorics for graded Cartan matrices of the Iwahori-Hecke algebra of type A.	共著	2013	Annals of Combinatorics , 17(3)427-442.	熊本大学山田裕史教授，岡山大学鈴木武史准教授との共同研究である．オイラーの奇・相違分割等式の証明に用いられるグレイシャー対応の各ステップにウエイトを付け，そのウエイトを用いてA型岩堀-ヘッケ環の次数付きカルタン行列の行列式を記述している． 共著：山田裕史，鈴木武史，安東雅訓
2 A combinatorial proof of an identity for the divisor function.	単著	2013	Electronic Journal of Combinatorics, 20(2)12pp.	内村型q-恒等式と呼ばれる，約数関数と関連したq級数の等式について，組合せ論による翻訳と，写像を用いての全単射証明を与えている．
3 Products of parts in class regular partitions.	共著	2017	Hiroshima Mathematical Journal, 47(1) 15-18.	熊本大学山田裕史教授との共同研究である．r-類正則分割から定まる盤上に2種のウエイトを定義し，それらの積が階数を定める毎に一致することを示している．0階以降の積は岩堀-ヘッケ環の次数付きカルタン行列の行列式に一致する． 著者：山田裕史，安東雅訓
4 Inferior Regular Partitions and Glaisher Correspondence.	単著	2020	Hokkaido Mathematical Journal, 49(3)391-398.	整数の分割に劣正則という制限を導入し，その母関数がグレイシャー対応における操作回数の母関数と一致することを示した．それにより，水川-山田のX-Yの定理を再証明し，またその自然な一般化も行っている．
5 The Baumkuchen Theorem.	共著	2022	Mathematical Assoc. of America Mathematics Magazine 88 5pp.	ピザの定理をバームクーヘンの定理という補題を準備した上で，初等的な知識のみで証明している． 共著：原口忠之
（査読なし）				

5 グレイシャー対応とヘッケ環の次数付きカルタン行列	共著	2011	京都大学数理解析研究所，1738，83-91.	整数の分割の各成分の個数について，p-進法での桁数を考えるという式と，その背景にあるA型次数付きカルタン行列の行列式を説明している．この結果は宇野-山田のカルタン行列に関する結果の次数付き版となっている．著者：山田裕史，鈴木武史，安東雅訓
6　次数付きカルタン行列に関する組合せ論	共著	2011	代数群と量子群の表現論研究集会報告集12-20.	オイラーの奇・相違分割の等式の全単射証明法の１つにグレイシャー対応と呼ばれるものがある．このグレイシャー対応の各ステップにウエイトを付けたものを複数考え，これらの積が次数付きカルタン行列の行列式に一致することを示している． 著者：山田裕史，鈴木武史，安東雅訓
7　約数関数に関するq-方程式	単著	2013	北海道大学数学講究録，157，209-212.	約数関数に関係する内村型q-恒等式と呼ばれる式について，組合せ論的な意味づけと精密化を行っている．
8　内村型q-恒等式の組合せ論的理解と一般化	単著	2013	室蘭工業大学数理科学談話会報告集，Web掲載	内村型q-恒等式と呼ばれるq級数の等式について，式変形・超幾何関数の特殊化と色々な証明が知られているが，組合せ論の話として証明している．
9　制限分割の数え上げ	単著	2017	数学セミナー2月号	雑誌「数学セミナー」の整数の分割特集において，制限分割の数え上げについての記事を担当した
:				
（その他） 講演・学会発表				
1 ヤング図形のフック長の積		2010年3月	日本数学会年会	
2 グレイシャー対応と次数付きカルタン行列		2010年9月	日本数学会秋季総合分科会	
3 グレイシャーウエイトと次数付きカルタン行列		2010年10月	RIMS 研究集会組合せ論的表現論とその応用	
4 次数付きカルタン行列における組合せ論		2011年6月	代数群と量子群の表現論研究集会	
5 相異分割のヤング図形と約数関数		2012年3月	日本数学会年会	
6 内村型q-恒等式の組合せ論的理解と一般化		2013年2月	室蘭工業大学数理科学談話会	
7 約数関数に関するq-方程式		2013年2月	数学総合若手研究集会	
8 内村型q-恒等式の組合せ論的理解と一般化		2013年6月	東海大学数学科談話会	
9 内村型q-恒等式とヤング図形		2013年10月	RIMS 研究集会組合せ論的表現論の展望	
10 4-正則分割について		2014年1月	岡山大学理学部数学科談話会CORE	
11 分割のフック長の積に関する公式		2014年3月	第1回岡山-広島代数学シンポジウム	

12 分割と相異分割の母関数における相似性の理解とその応用		2014年9月	日本数学会秋季総合分科会		
13 約数関数と相異分割		2014年11月	東京無限可積分セミナー		
14 奇数と台形数		2015年3月	日本数学会年会		
15 奇数と台形数		2015年3月	第2回岡山-広島代数学シンポジウム		
16 ヤング図形のフックの超対称性について		2015年11月	室蘭工業大学数理科学談話会		
17 長方形型と階段型のヤング図形		2016年3月	第3回岡山-広島代数学シンポジウム		
18 劣正則分割とグレイシャー対応		2016年8月	稚内表現論小研究集会		
19 ヤング図形におけるフックの超対称性についての組合せ論的証明		2017年8月	弘前表現論小研究集会		
20 整数の分割と母関数		2018年8月	岡山大学オープンキャンパス		
21 カタラン数の表示についての3つの証明		2018年8月	福井表現論小研究集会		
22 劣正則分割とグレイシャー対応		2018年9月	日本数学会秋季総合分科会		
23 劣正則分割とグレイシャー対応		2018年9月	岡山大学理学部数学科談話会CORE		
24 周期性を持つr-正則分割		2019年9月	岡山大学理学部数学科談話会CORE		
25 原田の予想についての対称群における証明		2019年10月	奈良学園大数学セミナー		
26 ボードゲーム「カタン」がスマホARになって数学者の僕が考えたこと		2019年11月	現代ビジネス記事		
27 数学者が「ピザ」のケンカしない分け方について本気で考えてみた	共著	2021年1月	現代ビジネス記事		
28 【数学クイズ】「9×1+2」「9×12+3」「9×123+4」「9×1234+5」計算すると奇跡の数が…！		2021年6月	現代ビジネス記事		
29 指数に周期性を持つ正則分割		2022年8月	第2回奈良学園大学数学セミナー		
30 指数に周期性を持つr-正則分割について		2023年3月	再開 広島・岡山 代数学セミナー		
31 原田予想IIの部分的な解決		2023年8月	第3回奈良学園大学数学セミナー		
32 対称群と交代群の被覆群における原田予想II		2023年3月	日本数学会年会		

33 p-core と三角数のはなし		2023 年 3 月	広島岡山代数学セミナー	

教　育　研　究　業　績　書

令和６年３月31日

氏名　　岡野　聡子

研究分野	研究内容のキーワード
乳幼児教育、地域福祉、キャリア教育	子どもと環境、キャリア教育、子育て支援、地域福祉

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
１　教育方法の実践例 (1)視聴覚教材の活用	平成26年４月～現在に至る	奈良学園大学人間教育学部にて、「子どもと環境」を担当している。学生は、子どもと接する経験が豊富であるとはいえず、また教科書の記述や講義だけでは、学生は子どもに対するイメージがわきにくいため、ビデオ教材を適宜使用している。映像を通して子どもの実像を実感し、理解を深めるように工夫している。また、ビデオ教材は学生が受身的に観て終わりということになりやすいので、ビデオ視聴前に課題を与え、問題意識を持ってビデオ教材を視聴させるようにしている。これらの過程により、学生の子どもに対するイメージが豊富になり、教育効果が上がっているといえる。
(2)体験学習を取り入れた授業	平成26年４月～現在に至る	奈良学園大学人間教育学部にて、「子どもと環境」や「保育表現力演習」(令和５年４月～）を担当している。ネイチャーゲームといった自然体験活動や小麦粉粘土づくり、STEAM教育を取り入れた保育教材の作り方などを取り入れ、体験学習を中心に授業を実施している。学生アンケートでは、保育、教育実習にて活用したいという回答が多く、好評であった。
(3)LINEアプリを活用したキャリア支援の実施	平成28年６月～令和２年３月	奈良学園大学人間教育学部人間教育学科の講師として、キャリア形成科目（キャリアデザインⅠ、Ⅱ、キャリアディベロップメントⅠ、Ⅱ、キャリアスキルアップⅠ、Ⅱ、インターンシップ）を担当した。奈良学園大学のキャリア教育は、1～3 年まで実施し、就職活動が本格化する 4 年次は、学生と教員の実質的支援がなくなる。そのため、これまでのキャリア教育で培った力が発揮されるよう、LINE アプリを用いてキャリア支援を実施した。任意登録としたが、2017 年 5 月現在で全学生 100 名中、52 名が参加をし、一般企業志望者である 38 名は全て加入している。なお、LINE アプリを通して、教員と情報交換をすることで、5 月 22 日時点における一般企業就職内定者は、64.1％という成果を上げることができた。
(4)授業に関するホームページの立ち上げ、運営	平成30年４月～令和３年12月	「子どもと環境」および「キャリアスキルアップⅠ」にて活用する授業補助教材を提示したホームページを立ち上げた。学生のレポートを添削し、その結果をホームページ上で公開しており、サイトを見た学生が他者の優れたレポートを閲覧することができるため、具体的にどのように文章構成をすればよいかがわかったとの声を学生から多くもらった。また、教育実習中の学生も授業内容を知ることができるため、授業についていけなかったらどうしようといった不安が軽減されたとの声もあった。
(5)キャリア形成科目におけるＰＢＬ（課題解決型授業）を取り入れた授業実践	平成31年４月～現在に至る	1～3 年生のキャリア形成科目において、ＰＢＬ課題解決型授業を取り組んだ。㈱マイナビが運営する MyFutureCampus の教材を取り入れ、「ＡＩをもちいて社会課題を解決する（グーグル合同会社)」や「千葉県長南町の廃校を活用した地域創生案を提案せよ(㈱マイナビ)」といったテーマを学生に与え、4 人 1 チームで実施した。ＰＢＬの教育効果について、キャリア教育ラボからの取材も受けた。https://career-ed-lab.mycampus.jp/interview/1578/

2　作成した教科書、教材 (1)「教職表現力演習ノート」(教材)	平成 27 年 4 月	前年度に実施した教職表現力演習の授業内容を精査し、教材を作成した。授業目的は、新聞記事や評論文を用いて、他者に物事をわかりやすく説明する力の育成を図り、アカデミックスキルの基礎を涵養することにある。作成した教材の構成は、①読んでまとめる、②言葉を学ぶ、③聴いてまとめるから成り立ち、それぞれの項目を段階的に学べるようにしている。 （編集、著者）西辻正副、山本美紀 （共著者）岡村季光、岡野聡子、高木悠哉、松井典夫 （発行元）奈良学園大学 （出版社）株式会社廣済堂 （総頁数）152 ページ （担当頁）pp.114-115 （所属）奈良学園大学人間教育学部人間教育学科 （使用した科目名）教職表現力演習Ⅰ
(2)「キャリアデザインⅡ ～職業研究ワークブック～」(教材)	平成 27 年 9 月	キャリアデザインⅡでは、職業研究「働くこととは」をテーマとして、さまざまな業界から各分野において活躍している、してきた外部講師を招聘し、仕事に対する考え方や進め方を研究することを授業目的としている。本ワークブックでは、聞いたことをメモにまとめる要約力と、まとめた情報を簡潔に示す構造力を身に付けられるように構成した。 （作成者）岡野聡子 （発行元）奈良学園大学 （総頁数）30 ページ （所属）奈良学園大学人間教育学部人間教育学科 （使用した科目名）キャリアデザインⅡ
(3)「キャリアディベロップメントⅡ ～職業研究 2 ワークブック～」(教材)	平成 27 年 9 月	キャリアディベロップメントⅡでは、①自己理解の深化、②職業への理解を深める、③インターンシップの 3 部構成としており、1 年次で学んだことを活かす内容となる。本ワークブックのねらいは、課業分析等を通して、仕事内容への理解を深めると同時に、多様な職種の情報を収集し、学生自身が具体的な職業像を獲得できることである。 （作成者）岡野聡子 （発行元）奈良学園大学 （総頁数）30 ページ （所属）奈良学園大学人間教育学部人間教育学科 （使用した科目名）キャリアディベロップメントⅡ
(4)「2016 年度版 教職表現力演習ノート」(教材)	平成 28 年 4 月	前年度に活用した「教職表現力演習ノート」を精査し、改訂版として教材を作成した。授業目的は、新聞記事や評論文を用いて、他者に物事をわかりやすく説明する力の育成を図り、アカデミックスキルの基礎を涵養することにある。作成した教材の構成は、①読んでまとめる、②言葉を学ぶ、③聴いてまとめるから成り立ち、それぞれの項目を段階的に学べるようにしている。 （編集）西辻正副、岡村季光 （共著者）岡村季光、岡野聡子、桑原祐子、高木悠哉、山本美紀 （発行元）奈良学園大学 （出版社）株式会社廣済堂 （総頁数）109 ページ （担当頁）pp.52-53 （所属）奈良学園大学人間教育学部人間教育学科 （使用した科目名）教職表現力演習Ⅰ
(5)「キャリアスキルアップⅠ ～就活準備ワークブック①」(教材)	平成 29 年 4 月	キャリアスキルアップⅠでは、3 年生全員が履修をする科目である。1 年後に控えた教員採用試験や一般企業就職活動、公務員採用試験の準備をするにあたり、①就職活動の流れ、②インターンシップの概要、③履歴書の書き方、④ＳＰＩ試験の概要、個人、集団面接、グループディスカッション、集団討議の概要をまとめたものである。学びの積み重ねが可視化できるようにしたワークブックである。 （作成者）岡野聡子 （総頁数）48 ページ

		（所属）奈良学園大学人間教育学部人間教育学科 （使用した科目名）キャリアスキルアップⅠ
(6)『子どもの生活理解と環境づくり[改訂版]～就学前教育領域「環境」と小学校教育「生活科」から考える～』（教科書）（再掲）	平成 31 年 3 月	2017 年に学習指導要領が改訂され、資質、能力の三つの柱と幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10 の姿）が明示された他、保幼小連携の強化が取り上げられた。本書では、学習指導要領改訂にともない、領域「環境」にて設置された新項目も含め、就学前教育と小学校教育の教育内容の接続に言及し、自然環境、物的環境、社会環境の３つの視点を用いて事例を取り上げながら解説を行った。 （単著、共著）共著 （判型） A5 判 （総頁数）206 ページ （出版社）ふくろう出版 （担当頁）pp. 1-20、pp. 81-83、pp. 103-104、pp. 106-108、pp. 146-147 （担当部分）第1章第1節、第3章第2節1-2、1-3、第4章 第1節1、1-2、第5章第1節1-3 （編著者）岡野聡子 （分担執筆者）松田智子、大野鈴子、吉村啓子、筒井愛知、村田眞理子、藪田明美、辻野孝、伊崎一夫、中道美鶴、岡田美紀、田中卓也、前川豊子、平野知見 （所属）奈良学園大学人間教育学部 （使用した科目名）子どもと環境、保育内容Ⅱ「環境」子どもと環境の指導法
(7)「自分の未来は自分が創る　キャリア形成ワークブック」	令和 3 年 9 月	PBL 課題解決型授業の教材および採用試験のための準備学習をまとめたものである。 （単著、共著）共著 （判型） A4 判 （総頁数）72 ページ （出版社）ふくろう出版 （担当頁）pp. 1-24、pp. 54-72 （担当部分）第Ⅰ部課題発見力を高め、問題解決力を磨こう、第Ⅲ部資料集 （編著者）岡野聡子 （分担執筆者）上杉敏郎、柳本周介、栗山朝亜輝 （所属）奈良学園大学人間教育学部 （使用した科目名）キャリアディベロップメント、キャリアスキルアップⅠ、Ⅱ
(8)「現場で役立つ保育実技 運動、ことば、音楽、造形あそびから STEAM 教育を取り入れた保育実践まで」（教科書）（再掲）	令和 5 年 9 月	本書では、保育実技の紹介に留まらず、各保育実技が子どもの成長や発達にどのように影響し、その結果、子どもにどのような力が身に付くと考えられているかといった教育的効果も解説に含めている。 （単著、共著）共著 （判型） A4 判 （総頁数）103 ページ （出版社）ふくろう出版 （担当頁）pp. 25-27、pp. 41-42、p. 55、p. 77、pp. 94-101 （担当部分）レッスン 3-4 素話、3-5 創作素話、3-6 手あそび、4-6 世界の自然物をつかった楽器であそんでみよう、5-4 野菜をつかったスタンプあそび、6-1STEAM 教育とは、レッスン 8 公立園、私立園の採用試験に向けて （編著者）岡野聡子 （分担執筆者）小久保圭一郎、高岡昌子、中島緑、林悠子、浅見優哉、木戸直美、谷原舞、中島眞吾、野見山直子、田中卓也、小川知晶、田中路、安氏洋子、南川咲希、森瀬智子、佐藤寛子、間井谷容子、木本有香、北澤明子、石原由貴子、筧有子、平松茂、山梨有子、高橋千香子、小島千恵子、小田切早苗、松村齋 （所属）奈良学園大学人間教育学部 （使用した科目名）保育表現力演習

3　教育上の能力に関する大学等の評価 (1) 平成 26 年度授業評価アンケートの実施 科目名：キャリアデザインⅠ 科目名：キャリアデザインⅡ 科目名：生活の理解 大学名：奈良学園大学	平成 26 年 4 月 ～平成 27 年 3 月	平成 26 年度の学生による授業評価アンケートの総合的満足度の結果は、以下の通りである。総合的満足度は、4 点尺度で実施した。 、キャリアデザインⅠ：3.37 、キャリアデザインⅡ：3.43 、生活の理解：3.65 いずれの授業においても、学生の質問に回答する時間を必ず取り入れ、授業終了後には振り返りシートを書かせて授業の理解度を確認した。そのことが、学生による授業の高評価へとつながった。
(2)平成 27 年度授業評価アンケートの実施 科目名：子どもと環境（前期） 科目名：生活の理解（後期） 科目名：キャリアデザインⅠ（前期） 科目名：キャリアデザインⅡ（後期） 科目名:キャリアディベロップメントⅠ(前期) 科目名:キャリアディベロップメントⅡ(後期) 大学名：奈良学園大学	平成 27 年 4 月～ 平成 28 年 3 月	平成 27 年度の学生による授業評価アンケートの総合的満足度の結果は、以下の通りである。総合的満足度は、4 点尺度で実施した。 、子どもと環境：3.68 、生活の理解：3.06 、キャリアデザインⅠ：3.51 、キャリアデザインⅡ：3.44 、キャリアディベロップメントⅠ：3.4 、キャリアディベロップメントⅡ：3.37 いずれの授業においても、学生の質問に回答する時間を必ず取り入れ、授業終了後には振り返りシートを書かせて授業の理解度を確認した。そのことが、学生による授業の高評価へとつながった。
(3)平成 28 年度授業評価アンケートの実施 科目名：子どもと環境（前期） 科目名：キャリアデザインⅠ（前期） 科目名：キャリアデザインⅡ（後期） 科目名:キャリアディベロップメントⅠ(前期) 科目名:キャリアディベロップメントⅡ(後期) 科目名：キャリアスキルアップⅠ（前期） 科目名：キャリアスキルアップⅡ（後期） 大学名：奈良学園大学	平成 28 年 4 月～ 平成 29 年 3 月	平成 28 年度の学生による授業評価アンケートの総合的満足度の結果は、以下の通りである。総合的満足度は、4 点尺度で実施した。 、子どもと環境：3.45 、キャリアデザインⅠ：3.55 、キャリアデザインⅡ：3.59 、キャリアディベロップメントⅠ：3.46 、キャリアディベロップメントⅡ：3.09 、キャリアスキルアップⅠ：3.55 、キャリアスキルアップⅡ：2.95 いずれの授業においても、学生の質問に回答する時間を必ず取り入れ、授業終了後には振り返りシートを書かせて授業の理解度を確認した。そのことが、学生による授業の高評価へとつながった。
(4)平成 28 年度授業評価アンケートの実施 科目名：キャリアデザイン 大学名：奈良教育大学	平成 28 年 10 月～ 平成 29 年 3 月	平成 28 年度の学生による授業評価アンケートの結果は、以下の通りである。アンケートは、4 点尺度であり、回収率は 90.9%（履修者数：55 人、解答者数：50 人）である。 、学習効果を上げるための工夫、準備：3.36 （全体平均：3.28） 、担当教員の話し方が明瞭かどうか：3.66 （全体平均：3.31） 、学生の理解や反応を見ながら授業していたか： 3.38（全体平均：3.29） 、授業の満足度：3.30（全体平均：3.32） 、新しい知識、考え方、教育実践力が得られたか： 3.44（全体平均：3.36） 、到達目標がどの程度、身に付いたか：3.20 （全体平均：3.27）
(5)平成 29 年度授業評価アンケートの実施 科目名：キャリアデザイン 大学名：奈良教育大学	平成 29 年 10 月～ 平成 30 年 3 月	平成 29 年度の学生による授業評価アンケートの結果は、以下の通りである。アンケートは、4 点尺度であり、回収率は 88.9%（履修者数：54 人、解答者数：48 人）である。 、学習効果を上げるための工夫、準備：3.35 （全体平均：3.33） 、担当教員は学生が主体的かつ意欲的に学べるような授業づくりを行っていたか：3.38 （全体平均：3.31） 、新しい知識、考え方が得られたか：3.48 （全体平均：3.49） 、教育実践力やそれにつながる力を得られたか： 3.23（全体平均：3.33） 、到達目標がどの程度、身に付いたか：2.96 （全体平均：3.21）

		、授業の満足度：3.27（全体平均：3.38）
(6)平成 29 年度授業評価アンケートの実施 科目名：キャリアデザインⅠ（前期） 科目名：キャリアデザインⅡ（後期） 科目名:キャリアディベロップメントⅠ(前期) 科目名:キャリアディベロップメントⅡ(後期) 科目名：キャリアスキルアップⅠ（前期） 科目名：キャリアスキルアップⅡ（後期） 大学名：奈良学園大学	平成 29 年 4 月～ 平成 30 年 3 月	平成 29 年度の学生による授業評価アンケートの総合的満足度の結果は、以下の通りである。総合的満足度は、4 点尺度で実施した。 、キャリアデザインⅠ：3.05（全体：3.38） 、キャリアデザインⅡ：3.44（全体：3.41） 、キャリアディベロップメントⅠ：3.54（全体：3.38） 、キャリアディベロップメントⅡ：3.52（全体：3.41） 、キャリアスキルアップⅠ：3.35（全体：3.38） 、キャリアスキルアップⅡ：3.47（全体：3.41） いずれの授業においても、学生の質問に回答する時間を必ず取り入れ、授業終了後には振り返りシートを書かせて授業の理解度を確認した。そのことが、学生による授業の高評価へとつながった。
(7)平成 30 年度授業評価アンケートの実施 科目名：キャリアデザイン 大学名：奈良教育大学	平成 30 年 10 月～ 平成 31 年 3 月	平成 30 年度の学生による授業評価アンケートの結果は、以下の通りである。アンケートは、4 点尺度であり、回収率は 67.3%（履修者数：98 人、解答者数：66 人）である。 、学習効果を上げるための準備、工夫：3.62 （全体平均：3.33） 、担当教員は学生が主体的かつ意欲的に学べるような授業づくりを行っていたか：3.67 （全体平均：3.32） 、新しい知識、考え方が得られたか：3.65 （全体平均：3.47） 、教育実践力やそれにつながる力を得られたか： 3.47（全体平均：3.33） 、到達目標がどの程度、身に付いたか：3.30 （全体平均：3.22） 、授業の満足度：3.68（全体平均：3.38）
(8)令和 2 年度授業評価アンケートの実施 科目名：子どもと環境（前期） 大学名：奈良学園大学	令和 2 年 4 月～ 令和 2 年 7 月	令和 2 年度の学生による授業評価アンケートの総合的満足度の結果は、以下の通りである。5 点尺度で実施し、本アンケート総数は 36 人である。 、子どもと環境：4.75（全体平均：4.32）
(9)令和 4 年度授業評価アンケートの実施 科目名：子どもと環境（前期） 大学名：奈良学園大学	令和 4 年 4 月～ 令和 4 年 7 月	令和 4 年度の学生による授業評価アンケートの総合的満足度の結果は、以下の通りである。5 点尺度で実施し、本アンケート総数は 12 人である。 、子どもと環境：4.83（全体平均：4.26）
4　実務の経験を有する者についての特記事項 (1)岡山市子どもセンター、研究協力者	平成 24 年 4 月～ 平成 26 年 3 月	岡山市子どもセンターは、平成 24 年 4 月～平成 26 年 3 月まで、岡山市庭園都市推進課主催のＥＳＤプロジェクトから助成金（年間 200 万円）を獲得し、都市公園での遊び空間の創造をテーマとして、子どもの遊びの広場を展開した。筆者は、研究協力者として、公園を活用してできる遊びを提案したり、保護者アンケートを通して満足度を測定し、報告書にまとめる役割をになった。平成 24 年度は、5 ヶ所でプロジェクトを実施し、平成 25 年度は、6 ヶ所で行った。
(2)一般社団法人 gid.jp 日本性同一性障害と共に生きる人々の会、出張講義講師	平成 26 年 8 月	gid.jp 関西交流会において、「就職に関する「ストレス」を考える～ストレスチェックを通して、自分のストレス耐性を知ろう～」をテーマとし、90 分間の講義を行った。講義では、ストレス耐性チェックを通して、自分が持つストレスを客観視し、ストレス解消法ではなくストレスと上手に付き合う方法の提案をした。また、性同一性障害の方が持つ就職活動、職場の人間関係での悩みについて事例を取り上げ、自己開示を含めたグループワークも実施した。実施場所は、大淀コミュニティセンター（大阪）で行い、受講生は 18 名であった。
(3)特定非営利活動法人男女共同参画ネット尼崎（尼崎市女性、勤労婦人センター）、出張講義講師	平成 27 年 3 月	2015 あまがさき女性フェスティバル記念講演会において、「カナダのコミュニティハウスに学ぶ　支えあいのまちづくり」をテーマとし、90 分間の講演を行った。多文化共生の国カナダには、子どもから高齢者まで、さまざまな人々が利用するコミュニティハウスがある。そのコミュニティハウスの成り立ちとそこで実施されているサービスとプログラムについて紹介した。また、カナダのコミュニティハウスから学べることとして、コミュニティオーガニゼーションの概念を「人、もの、こと、

		ところ」、そして「時間の共有」という具体的内容に置き換えて述べた。社会保障の制度化が進む中で、福祉行政の専門分化が起こる過程についても解説した。実施場所は、尼崎市女性センター、トレピエで行い、受講者は40名であった。受講者満足度は100%であった。2014年度尼崎市立女性、勤労婦人センター事業報告書：p.26
(4)一般社団法人gid.jp日本性同一性障害と共に生きる人々の会、出張講義講師	平成27年6月	gid.jp関西交流会において、「自分自身について知る～自己概念の揺らぎを体験しよう～」をテーマとし、90分間の講義を行った。講義ではTwenty statements test=T.S.T/Who am I 法の心理検査も用いて、自己概念とは何かを解説した。また、「私の価値観を知ろう」をテーマとし、価値観の書かれた15枚のカードを、自分が大切にしたいと思う順番に並べてもらい、ペアワークを実施した。価値観カードのワークから、自己概念（自己が持つ自分のイメージ）がいかに揺らぎやすいか体験をしてもらった。実施場所はパシフィックマークス西梅田14Fガクトホール（大阪）で行い、受講生は20名であった。
(5)2015年度奈良学園大学公開講座「王寺町り～べるカレッジ」、出張講義講師	平成27年7月	奈良学園大学公開講座において、「子どもに求められる職業教育とは―キャリア教育の視点から―」をテーマとし、90分間の講演を行った。講演では、キャリア教育が生まれた背景を解説し、キャリア教育が開発すべき社会生活を営む上で必要となる能力や態度について述べた。また、小学校から高等学校までのキャリア教育の取り組み事例を紹介し、能力開発を行う上で、最も重視すべき事項として、自己肯定感を育む必要性についても述べた。質疑応答の時間も20分程度取り、対話形式で講演を行い、大変好評であった。受講生は18名であった。
(6)平成27年度三郷町子ども人権学習支援事業、指導者	平成28年1月	三郷町子ども人権学習支援事業において、三郷北小学校「つながり学級」の小学生（32名）と保護者（33名）65名を対象として、科学遊び、学びの広場プロジェクト「ピンホールカメラ作り～小さな穴から見える不思議な世界～」を実施した。ピンホールカメラ作りを通して、光の仕組みについて解説をした。低学年児童には解説は難しかったが、ピンホールカメラを覗くと、映し出される映像が逆転しているということに対し、不思議さと驚きを感じ、その仕組みがどのようになっているのか関心が高まった。実施後の保護者向けアンケートでは、満足度は100%であり、次回も参加をしたいとの高評価を受けた。
(7)登美ヶ丘北中学校区地域教育協議会第3回スクールコーディネーター研修、出張講義講師	平成28年9月	「海外の地域コミュニティにおける活動～カナダ、バンクーバー市ネイバーフッドハウスの事例～～」をテーマとして、2015～2016年度の科学技術研究費（若手研究B）の成果報告を兼ねて実施した。参加者は7名であり、現在、地域活性化事業を行っている者を対象として行った。カナダにおける移民支援組織の成り立ちやセツルメント運動における生活を包括的に支援する仕組み、ボランティアコーディネートの手法、コミュニティディベロップメントの概念についての解説を行った。多数の質問を受け、日本とカナダの文化的背景の差異はあるものの、地域における福祉活動の統合化には聴講者が共感し、高評価をいただいた。
(8)平成28年度三郷町立西部保育園第3回新任保育士研修会、出張講義講師	平成28年12月	三郷町立西部保育園にて新任保育士研修の講師として携わる。「環境を通した教育、保育のあり方を学ぶ～保育の「質」を考える～」をテーマとし、①保育の質、質の高い保育とは、②保育環境評価スケールの使用方法の解説および実践を実施した。昨今、教育経済学の視点から、幼児教育の経済学や学力の経済学という書籍が発刊され、就学前教育の充実が強力な公共投資となりうることに注目が集まっている。幼児教育がもたらす効果（自己統制力、向社会的行動、等）について、海外の調査研究の結果を事例として取り上げ、解説した。また、保育環境評価スケールを実践し、保育環境の見直しや保育活動の振り返りを行った。受講生は3名であった。
(9)平成28年度三郷町子ども人権学習支援事業、指導者	平成29年1月	三郷町子ども人権学習支援事業において、三郷北小学校「つながり学級」の小学生（28名）と保護者（30名）

		58 名を対象として、科学遊び、学びの広場プロジェクト「色が変わる、まほうの水で描く世界」を実施した。レモン水（酸性）、せっけん水（弱アルカリ性）、石灰水（アルカリ性）を用意し、紫キャベツで染めた紙（リトマス紙）に模様を描き、化学反応によって紙の色が変わる様子を、酸性、アルカリ性の解説をした。学生主導で実施を行い、実施後の保護者向けアンケートでは、満足度は 100％であり、次回も参加をしたいとの高評価を受けた。また、こうしたプロジェクトの実施により、学生の事業運営能力、スキルも格段に上がったと言える。
(10) 平成 28 年度三郷町立西部保育園第 4 回新任保育士研修会、出張講義講師	平成 29 年 3 月	三郷町立西部保育園にて新任保育士研修の講師として携わる。「保育環境評価スケールの活用を振り返って」をテーマとし、3、4、5 歳児のクラス担任に保育環境評価スケールの結果を提示しながら、担任（保育経験 10 年以上）と副担任（保育経験 1 年）の結果を共有した。結果の共有では、保育経験 10 年以上の保育者は、自身の保育活動について個別具体的に思い出しながら、保育内容の質に関する発言が多くみられた。一方で、保育経験 1 年の新任保育者は、クラス全体を考えると概ね環境が整っていると回答し、全体的に高い評価をつけることがわかった。これらの結果を話し合うことで、10 年以上の保育経験を有する保育者は、新任保育者の視点を学ぶことができ、今後の指導に役立てることができると述べていた。新任保育者は、10 年以上の保育経験を有する保育者の発言を通して、保育の質について、より深く考えることができたと発言をした。園長からは、評価スケールを用いながら、具体的に保育者同士がコミュニケーションを図ることで、保育の質の向上につながると述べていた。受講生は 6 名であった。
(11) 第 14 回「産学連携のための経営者セミナー」、出張講義講師	平成 29 年 3 月	奈良県大学連合が主催する産学連携のための経営者セミナーにおいて、「学生の主体性を育むキャリア教育の在り方とは」をテーマとして講演を行った。大学生活で身に付けておきたい能力（学士力、社会人基礎力、ジェネリックスキル、21 世紀型スキル）の解説をした後、本学のキャリア教育、キャリア支援を紹介した。また、2 名の学生から、インターンシップ成果報告会の発表もしてもらい、場内からは、学生が堂々と発表する姿勢を大変評価していただいた。受講生は 23 名であった。
(12) 広陵町幼稚園保育園職員研修会、出張講義講師	平成 29 年 3 月	広陵町幼稚園、保育園職員研修会の講師として、「保育の質を考える～保育環境評価スケールの活用を通して～」をテーマとして講演を行った。保育の質の定義を考えると共に、保育環境評価スケールを用いて、客観的に自身の保育活動を振り返る必要性について述べた。聴講者の中で、保育環境評価スケールの活用をしたことがある者は 1 名（大学時代に実施した）であり、初めて活用した者ばかりであった。新任保育者よりも保育経験が 10 年を超える者は、他園見学や研修の機会を積んできていることもあり、他園と自園を比較して評価を付けることから、自己評価が厳しくなる傾向があると伝えると、納得できると聴講生からの感想があった。また、適宜、客観的な評価指標を用いて保育活動を点検する機会を設けることには意義があるとの感想をいただいた。受講生は、45 名であった。
(13) 平成 29 年度北葛城郡内幼稚園教育研究会（総会）、出張講義講師	平成 29 年 4 月	北葛城郡幼稚園教育研究会の講師として、「保育の質を考える」をテーマとして講演を行った。保育の質を考えるために、幼児期における教育活動が、向社会行動や非認知能力の向上に影響を及ぼすという諸外国の研究結果を事例として取り上げた。 また、幼稚園内の保育、教育環境を評価するためのツールとして、保育環境評価スケールを紹介し、先生方に保育、教育環境のチェックおよび振り返りをしていただいた。聴講生からは、「幼児教育の重要性を改めて認識することができ、仕事へのやりがいを更に感じることができた」や「客観的指標を用いて自身の保育、教育を確認したことがなかったので、良い機会となった」と感想をいただいた。受講者は、90 名であった。

(14) 平成 29 年度第 1 回北葛城郡幼稚園教育研究会、園内研究会講師	平成 29 年 5 月	第 1 回北葛城郡幼稚園教育研究会の園内研究会講師として、①幼稚園教育要領の理念を実現するための、各幼稚園における教育課程の編成、実現、評価、改善の一連のカリキュラム、マネジメントの適切な実施について、②特別な支援を必要とする幼児の状態等に応じた計画的、組織的な指導の在り方をテーマとし、指導助言を行った。まず、各園の取り組みについて、実践報告をしていただいた。次に、講話者から、カリキュラム、マネジメントの概念について整理し、特別な支援を要する幼児の実態を把握するためのチェックリスト解説を行った。出席者は、12 名であった。(11 園の参加)
(15) 第 1 回吉野青年会議所事業合同会議、講師	平成 29 年 5 月	第 1 回吉野青年会議所事業合同会議の講師として、「学生を主体とした事業運営方法について～他者理解を深める技法とは～」をテーマとし、講義を行った。吉野青年会議所事業は、吉野広域に住む小学生を対象とした課外活動を実施し、青少年健全育成に取り組んでいる。大学生が主体となって事業を実施するため、事業目的を共有し、事業立案方法を提示した。また、参加者がコミュニケーションを円滑に行えるようにするために、他者理解を深める 2 つのワークショップを開催した。今回は、奈良学園大学の学生 17 名、奈良女子大学の学生 2 名、吉野青年会議所から 5 名が参加をした。
(16) 平成 29 年度三郷町立西部保育園第 1 回新任保育士研修会、出張講義講師	平成 29 年 5 月	三郷町立西部保育園第 1 回新任保育士研修会の講師として、「社会人に求められるコミュニケーションスキルとは」をテーマとして、講義を行った。研修では、第一印象の重要性、気持ちの良い挨拶の方法、身だしなみ、言葉遣いの 4 点を重点指導項目として、実施した。また、3 月まで学生であった新任保育士の方々に、学生と社会人の違いについて考えてもらい、社会人としての自覚を再認識していただいた。受講生からは、「姿勢等、指摘されるまで意識していなかった」や「保護者様の対応に役立てます」といった声をいただいた。受講生は、5 名であった。
(17) 平成 29 年度広陵町立真美ヶ丘第一小学校附属幼稚園園内研修会、園内研修会講師	平成 29 年 5 月	広陵町立真美ヶ丘第一小学校附属幼稚園の園内研修会講師として、指導助言を行った。9：00-11：30 まで指導計画に則った保育活動を見せていただき、13：00-16：30 まで、指導を行った。本園では、今年度の研究テーマとして、「幼稚園教育要領の理念を実現するための、各幼稚園における教育課程の編成、実現、評価、改善の一連のカリキュラム、マネジメントの適切な実施について」を掲げており、そのことを念頭におきながら、指導をした。ＫＪ法を用い、①子どもの様子、②環境構成、③教師の援助の 3 つの観点から、各クラスの担当教員に本日の保育活動を振り返っていただいた。結果として、自然環境に関する項目の出現が見られなかったため、自然環境における環境構成の再点検と栽培活動に関わる子どもの様子を取り上げる必要性が明らかとなった。また、本園に関する重点項目として、①異年齢児交流、②遊び空間の改善、集中できる遊び作りの工夫、③遊び内容の充実、④教材の確認が取り上げられた。教員からは、「自然環境の項目がないことに対し、当たり前のことで、見過ごしていたと思う」や遊び空間の改善に関する意見があった。今回は、教員 9 名の参加であった。
(18) 平成 29 年度広陵町立真美ヶ丘第一小学校附属幼稚園園内研修会、園内研修会講師	平成 29 年 9 月	広陵町立真美ヶ丘第一小学校附属幼稚園の園内研修会講師として、指導助言を行った。9：00-11：30 まで指導計画に則った保育活動を見せていただき、13：00-16：30 まで、指導を行った。本園では、今年度の研究テーマとして、「幼稚園教育要領の理念を実現するための、各幼稚園における教育課程の編成、実現、評価、改善の一連のカリキュラム、マネジメントの適切な実施について」を掲げており、そのことを念頭におきながら、指導をした。今回は、平成 29 年度幼稚園教育要領における資質、能力の 3 本柱に基づいた教師の援助について、指導計画書の書き方を指導した。教員 9 名の参加であった。

(19) 平成 29 年度広陵町立真美ヶ丘第一小学校附属幼稚園園内研修会、園内研修会講師	平成 29 年 10 月	広陵町立真美ヶ丘第一小学校附属幼稚園の園内研修会講師として、指導助言を行った。9：00-11：30 まで指導計画に則った保育活動を見せていただき、13：00-16：30 まで、指導を行った。本園では、今年度の研究テーマとして、「幼稚園教育要領の理念を実現するための、各幼稚園における教育課程の編成、実現、評価、改善の一連のカリキュラム、マネジメントの適切な実施について」を掲げており、そのことを念頭におきながら、指導をした。今回は、平成 29 年度幼稚園教育要領における資質、能力の 3 本柱に基づいた教師の援助について、指導計画書の書き方を指導した。教員 9 名が参加した。
(20) 平成 29 年度第 2 回北葛城郡幼稚園教育研究会、園内研究会講師	平成 29 年 10 月	北葛城郡幼稚園の園内研修会講師として、指導助言を行った。9：00-11：30 まで指導計画に則った保育活動を見せていただき、13：00-16：30 まで、指導を行った。本園では、今年度の研究テーマとして、「幼稚園教育要領の理念を実現するための、各幼稚園における教育課程の編成、実現、評価、改善の一連のカリキュラム、マネジメントの適切な実施について」を掲げており、そのことを念頭におきながら、指導をした。今回は、平成 29 年度幼稚園教育要領における資質、能力の 3 本柱に基づいた教師の援助について、指導計画書の書き方を指導した。教員 9 名の参加であった。
(21) 平成 29 年度広陵町立真美ヶ丘第一小学校附属幼稚園園内研修会、園内研修会講師	平成 29 年 11 月	広陵町立真美ヶ丘第一小学校附属幼稚園の園内研修会講師として、指導助言を行った。9：00-11：30 まで指導計画に則った保育活動を見せていただき、13：00-16：30 まで、指導を行った。本園では、今年度の研究テーマとして、「幼稚園教育要領の理念を実現するための、各幼稚園における教育課程の編成、実現、評価、改善の一連のカリキュラム、マネジメントの適切な実施について」を掲げており、そのことを念頭におきながら、指導をした。今回は、平成 29 年度幼稚園教育要領における資質、能力の 3 本柱に基づいた教師の援助について、指導計画書の書き方を指導した。教員 9 名の参加であった。
(22) 平成 29 年度広陵町立真美ヶ丘第一小学校附属幼稚園園内研修会、園内研修会講師	平成 29 年 11 月	広陵町立真美ヶ丘第一小学校附属幼稚園の園内研修会講師として、指導助言を行った。9：00-11：30 まで指導計画に則った保育活動を見せていただき、13：00-16：30 まで、指導を行った。本園では、今年度の研究テーマとして、「幼稚園教育要領の理念を実現するための、各幼稚園における教育課程の編成、実現、評価、改善の一連のカリキュラム、マネジメントの適切な実施について」を掲げており、そのことを念頭におきながら、指導をした。今回は、平成 29 年度幼稚園教育要領における資質、能力の 3 本柱に基づいた教師の援助について、指導計画書の書き方を指導した。教員 9 名の参加であった。
(23) 平成 29 年度広陵町立真美ヶ丘第一小学校附属幼稚園園内研修会、園長研修会講師	平成 30 年 1 月	広陵町立真美ヶ丘第一小学校附属幼稚園にて、広陵町の幼稚園 5 ヶ園の園長先生を対象とし、幼児期におけるカリキュラム、マネジメントの進め方について指導助言を行った。また、園内目標の立て方についてワークショップを実施した。園長 5 名、教員 5 名の参加であった。
(24) 平成 29 年度三郷町立西部保育園、保育士園内研修会講師	平成 30 年 2 月	三郷町立西部保育園の保育士研修会講師として、「幼児期におけるカリキュラム、マネジメントの捉え方」をテーマとし、広陵町立真美ヶ丘第一小学校附属幼稚園で実施した 1 年間のカリキュラム、マネジメントの実践を交えながら、講義をした。講義後、西部保育園のＰＤＣＡサイクルの構築について、参加保育士と園長先生を交え、話し合った。保育士 8 名の参加であった。
(25) 平成 29 年度三郷町立西部保育園、保育士園内研修会講師	平成 30 年 3 月	三郷町立西部保育園の保育士研修会講師として、「保育環境評価スケールの活用を振り返って」をテーマに指導助言を行った。12 月に実施した保育環境評価スケールの結果をもとに、3~5 歳のクラスの担任と副担任に示し、評価結果の差について、話し合った。評価スケールを用いながら、具体的に保育者同士がコミュニケーションを図ることで、保育の質の向上につながる。保育士 6 名の参加であった。

(26) 平成 30 年度三郷町立西部保育園、保育士園内研修会講師	平成 30 年 5 月	三郷町立西部保育園の保育士研修会講師として、「保育士として求められるコミュニケーションスキルとは」をテーマに講演を行った。新任保育士を対象としており、社会人としてのマナーや保育園ならではのトラブル事例などをもとに相手に伝わるコミュニケーションの取り方について講義をした。計 10 名の参加であった。
(27) 平成 30 年度広陵町立真美ケ丘第一小学校附属幼稚園、園内研修会	平成 30 年 6 月	広陵町立真美ケ丘第一小学校附属幼稚園の園内研修会講師として、「保育指導助言および特別支援教育について」をテーマに、指導助言を行った。特別支援については、加配職員向けに具体的事例を取り上げながら、指導方法について助言を行った。教員 8 名の参加であった。
(28) 平成 30 年度三郷町立西部保育園、保育士園内研修会講師	平成 30 年 7 月	三郷町立西部保育園の保育士研修会講師として、「チームビルディング研修」をテーマに講演を行った。全教職員 20 名を対象とし、ＮＡＳＡゲームを用いて、合意形成の手法を講義した。また、話し合いが有益であることを数値化して示したことにより、参加者の納得感を得られた。
(29) 平成 30 年度広陵町立真美ケ丘第一小学校附属幼稚園、園内研修会	平成 30 年 10 月	広陵町立真美ケ丘第一小学校附属幼稚園の園内研修会講師として、「保育指導助言および特別支援教育について」をテーマに、指導助言を行った。指導案の書き方について指導をした他、特別支援については、加配職員向けに具体的事例を取り上げながら、指導方法について助言を行った。教員 8 名の参加であった。
(30) 平成 30 年度三郷町立西部保育園、保育士園内研修会講師	平成 30 年 12 月	三郷町立西部保育園の保育士研修会講師として、「保育のプロセスの質評価スケールの活用について」をテーマに指導助言を行った。0~5 歳のクラスの担任と副担任を対象とし、評価スケールを用いて、各保育士に自身の日々の保育活動を振り返ってもらった。保育士 15 名の参加であった。
(31) 平成 30 年度三郷町立西部保育園、保育士園内研修会講師	平成 31 年 3 月	三郷町立西部保育園の保育士研修会講師として、「保育のプロセスの質評価スケールの結果を振り返って」をテーマに指導助言を行った。12 月に実施した保育環境評価スケールの結果をもとに、3～5 歳のクラスの担任と副担任に示し、評価結果の差について、話し合った。評価スケールを用いながら、具体的に保育者同士がコミュニケーションを図ることで、保育の質の向上につながる。保育士 15 名の参加であった。
(32) 令和元年度三郷町立西部保育園、保育士園内研修会講師	令和元年 5 月	三郷町立西部保育園の保育士研修会講師として、「保育記録の種類と書き方～記録を書くための視点とは～」をテーマに指導助言を行った。週案をもとにした記録やエピソード記録、個人票記録、子どものつぶやき、ヒヤリハット記録等の記録の種類と目的を提示した他、記録を書くための 5 つの視点について講義をした。実際に今日の午前中の保育活動におけるエピソード記録を保育士に書いてもらい、指導をした。保育士 7 名の参加であった。
(33) 令和元年度三郷町立西部保育園、保育士園内研修会講師	令和元年 11 月	三郷町立西部保育園の保育士研修会講師として、「ビデオカンファレンス①子どもの遊びの意味を考える」をテーマに指導助言を行った。午前中に子どもの遊ぶ様子や保育活動を撮影し、午後から映像をもとに、保育活動や環境構成の改善について考察した。保育士 7 名の参加であった。
(34) 令和元年度三郷町子ども人権学習支援事業、指導者	令和 2 年 2 月	三郷町子ども人権学習支援事業において、三郷北小学校「つながり学級」の小学生（28 名）と保護者（21 名）49 名を対象として、科学遊び、学びの広場プロジェクト「地球のふしぎを探ってみよう-地層編：たからさがし」を実施した。京都大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻地質学鉱物学教室技術職員の高屋真樹先生を招聘し、鉱物標本等の解説をしていただいた。実施後の保護者向けアンケートでは、満足度は 100%であり、次回も参加をしたいとの高評価を受けた。また、プロジェクトの継続実施により、学生の事業運営能力、スキルも格段に上がったと言える。
(35) 令和 4 年度三郷町教育総務課放課後子ども教室、指導者	令和 4 年 4 月～令和 4 年 10 月	三郷町教育総務課の放課後子ども教室にて、量子科学技術研究開発機構の研究員や九州大学大学院の大学院

		生と共同で科学教室を実施した。中学生は、8名の参加であった。中学生は、数理部門において全国大会に進むことができ、産経新聞でも取り組みの様子を取り上げられた。
(36)地域福祉の方法論「プレイスベースド、アプローチ」とは	令和4年10月	奈良地域デザイン研究所主催の令和 4 年地域デザイナー養成講座の講師として、地域福祉の方法論の解説、カナダの地域福祉の事例の紹介を行った。参加者は 15 名であった。
(37)令和 4 年度三郷町子ども人権学習支援事業、指導者	令和4年11月	三郷町子ども人権学習支援事業にて、「親子のつながりを深める絵本の読み聞かせ―どきどき、わくわく絵本の世界」をテーマに、絵本の紹介や音読技術について解説をした。参加者は、親子で20名であった。
(38)令和 5 年度三郷町子ども人権学習支援事業、指導者	令和5年11月	三郷町子ども人権学習支援事業にて、「心あたたまる絵本の魅力－思いやりの心、他者の気持ちを想像する力を育む絵本の読み聞かせ」をテーマに、絵本の紹介や絵本の読み方について解説をした。参加者は、親子で 10 名であった。

職務上の実績に関する事項

事項	年月日	概要
1　資格、免許 (1)幼稚園教諭二種免許状取得	平成11年3月	免許状番号　平10幼二め　第804号（京都府教育委員会）
(2)プロジェクトワイルドエデュケーター資格取得	平成18年7月	財団法人公園緑地管理財団：資格番号なし
(3)保育：子育てアドバイザー（初級）	平成21年4月	特定非営利法人保育：子育てアドバイザー協会： 認定番号　第10001024号
(4)修士（都市政策）	平成23年3月	大阪市立大学大学院創造都市研究科都市政策専攻（都市政策修士 第730号）「修士論文題名：現代的セツルメント「ネイバーフッドハウス」の社会的意義～ゴードンネイバーフッドハウスの取り組みを めぐって～」
(5)小学校教諭二種免許状取得	平成23年7月	免許状番号　平二三小二第六号（京都府教育委員会）
(6)生涯学習コーディネーター資格取得	平成23年10月	財団法人社会通信教育協会：第31110009号
(7)生涯学習1級インストラクター資格取得	平成23年10月	財団法人社会通信教育協会：第11110009号
(8)メンタルケアカウンセラー資格取得	平成25年7月	財団法人生涯学習開発財団/メンタルケア学術学会：資格第134014563号
(9)キャリアカウンセラー資格取得	平成25年9月	日本キャリア教育学会：認定登録第214号 有効期限：2027年9月13日（2020年9月更新）
(10)メンタルケア心理士資格取得	平成25年10月	財団法人生涯学習開発財団/メンタルケア学術学会：資格第134014563号
(11)准ケアストレスカウンセラー資格取得	平成25年11月	財団法人職業技能振興会：ＪＣ-080018
(12)ガイダンスカウンセラー資格取得	平成26年12月	スクールカウンセリング推進協議会 認定番号：第14030010号
(13)修士（学校教育学）	平成28年3月	兵庫教育大学大学院学校教育研究科人間発達教育専攻（学校教育学修士 第8401号）「修士論文題目：多世代交流としての子育て支援に関する研究―カナダ、ネイバーフッドハウスの事例から―」
(14)プロジェクトワイルドシニアエデュケーター資格取得	令和2年1月	一般財団法人公園財団：資格番号なし
(15)カラーセラピスト資格取得	令和2年10月	一般社団法人日本色彩環境福祉協会：資格番号なし
(16)アンガーマネジメントファシリテーター	令和2年11月	一般社団法人日本アンガーマネジメント協会 JAMA管理番号：104345
(17)NAMA Certified Anger Management Specialist-Ⅰ	令和2年11月	National Anger Management Association：資格番号なし
(18)こども環境アドバイザー資格取得	令和3年4月	公益社団法人こども環境学会：No.210238
2　特許等 特記事項なし		

3　実務の経験を有する者について特記事項 (1)特定非営利法人岡山市子どもセンター おかやまプレーパーク運営委員	平成 24 年 3 月～ 平成 27 年 3 月	特定非営利法人岡山市子どもセンター（岡山市北区久米 348）の事業の一つである「おかやまプレーパーク」の運営委員に着任し、月に 2 度、岡山国際児童年記念公園こどもの森へ出向いて活動を行なっている。『自分の責任で自由に遊ぶ』ということをモットーとし、子どもがのびのびと思いっきり遊べるように敷地内の禁止事項（例えば、木登り禁止等）をなくし、やりたい遊びを実現できる遊び場の確保に力を注いでいる。年間事業計画の見直しや助成金の申請、行政と交渉をする際の助言役を務めている。
(2)特定非営利活動法人ウエルス　理事	平成 24 年 5 月～ 平成 27 年 3 月	特定非営利法人ウエルス（京都府亀岡市）の顧問に着任し、幼稚園や保育所における自然環境としての園庭の芝生緑地化推進活動の助言を行っている。園庭の芝生化により、子ども達の遊び方の変化や外遊びの増加、それに伴う健全な肉体形成等、芝生化によってどのような教育的効果があるか、共同研究を行った。（住所：法人事務所：〒621-0805　京都府亀岡市安町大池 11　日進ビル 101）
(3)ギャラリー吾子、代表	平成 25 年 10 月～ 現在に至る	京都市東山区泉涌寺地区は、陶芸職人の町として知られているが、職人の高齢化が深刻な問題となっており、その地に根付いた文化が途絶えようとしている。そのため、地域振興の一環として、平成 25 年 10 月よりギャラリーの開催している。展示作品は、陶器に関わらず絵画なども展示している。地域のお祭りがある際には、無料で開放し、音楽会なども行っている。（京都市東山区泉涌寺東林町 17-29）令和 3 年 9 月からは、京都市上京区仲之町の京町家に拠点を移し、文化資源の保全と活用のための活動をしている。
(4)広陵町まち、ひと、しごと創生総合戦略審議会、ひと部門　部会長	平成 27 年 7 月～ 平成 28 年 3 月	本審議会は、まち、ひと、しごと創生法に基づく国の長期ビジョン及び総合戦略を勘案し、内閣府地方創生推進室が示す「地方人口ビジョン策定のための手引き」及び「地方版総合戦略策定の手引き」に基づき実施した。また、国の総合戦略が定める 4 つの政策分野（①地方における安定した雇用を創出する、②地方への新しい人の流れをつくる、③若い世代の結婚、出産、子育ての希望をかなえる、④時代に合った地域を創り、安心なくらしを守るとともに、地域と地域を連携する）に則り、まち部門、ひと部門、しごと部門の作業チームに分け、筆者はひと部門の部会長の任命を受け、総合戦略策定に向けた審議を実施した。
(5)広陵町幼保一体化推進会議　副会長	平成 27 年 8 月～ 平成 28 年 7 月	本会議では、「町立幼稚園、保育園における幼児教育、保育のあり方等について」を主題とし、5 回にわたって審議を行った。審議事項は、①幼稚園、保育園におけるより良い教育、保育の提供、②現在策定中の幼保一体化総合計画に基づいた町立幼稚園、保育園の施設整備の促進、③就学前の子どもたちへの子育て支援の充実であり、それらを答申としてまとめ、報告した。
(6)広陵北幼保連携型認定こども園設計業務公募型プロポーザル選定委員会　委員	平成 28 年 3 月～ 平成 28 年 6 月	本プロポーザルは、広陵町における幼保の一体化を進めるため、広陵北幼稚園と広陵北保育園を統合し、広陵町で初めての幼保連携型認定こども園の設計業務の委託先を選定するものである。9 社から応募があり、一次審査において 5 社を選定、2 次審査において業務委託先を決定した。平成 30 年 4 月 1 日に開園予定であり、災害時の乳幼児を対象とした福祉避難所としての機能も有する施設となる。
(7)広陵町総合戦略等検証委員会　委員	平成 28 年 7 月～ 平成 29 年 3 月	平成 27 年 7 月～平成 28 年 3 月までに実施した広陵町まち、ひと、しごと創生総合戦略審議会において策定した事業のうち、先行で実施している 8 事業に対して、その実施状況および事業の有効性に関する審議を行った。
(8)出会いウィーク2017実行委員会　委員	平成 28 年 10 月～ 平成 29 年 3 月	本事業は、奈良ＮＰＯセンターが主体となり、奈良県下にて活動を実施するＮＰＯおよびボランティア団体の広報活動の一環として実施したものである。奈良学園大学ボランティアサークルも参加をし、「科学遊び、学びの広場プロジェクト事業」のＰＲを行った。実施日は、平成29年2月18日（土）～19日（日）であり、当日の

		参加団体は36団体であった。2日間の参加者総数は、800名程度であった。
(9)広陵町総合戦略等検証委員会　委員	平成29年8月～令和3年3月	平成27年7月～平成28年3月までに実施した広陵町まち、ひと、しごと創生総合戦略審議会において策定した事業の実施状況および事業の有効性に関する審議を行っている。(平成33年3月31日まで)
(10)広陵町教育委員会　教育委員	令和元年10月～現在に至る	広陵町教育委員会にて教育委員に任命された。定例教育委員会への参加の他、幼稚園から中学校まで学校教育の運営に関わる各種審議を行っている。
(11)西校区認定こども園整備基本計画事業手法等検討業務委託指名型プロポーザル審査委員会 委員	令和元年10月～令和2年3月	本プロポーザルは、広陵町における西校区認定こども園設置のための設計業務の委託先を選定するものである。業者は1社であり、選定作業を行った。
(12)日本地域福祉学会　第12期地方委員	令和2年7月～現在に至る	2020年度第2回（第152回）理事会にて、第12期地方委員に任命された。また、2020年度（12/19）近畿地域福祉学会の実行委員長（2020/8-12）を任命され、学会運営をした。
(13)広陵町公私連携法人指定審査委員会　副委員長	令和2年7月～令和3年1月	本プロポーザルは、広陵町における西校区認定こども園運営のため委託先を選定するものである。選定事業者1社であり、選定作業を行った。なお、任期は、西校区認定こども園整備運営に係る協定が締結された日の翌日までである。
(14)広陵町総合戦略等検証委員会　委員	令和3年7月～令和4年3月	平成27年7月～平成28年3月までに実施した広陵町まち、ひと、しごと創生総合戦略審議会において策定した事業の実施状況および事業の有効性に関する審議を行っている。
(15)広陵町教育振興基本計画等策定委員会　委員	令和4年4月～令和5年6月	本委員会では、子どもの通学路の安全確保、主体的、対話的で深い学びを実現させるための教育活動の内容、ICT 教育等の推進といった学校の教育活動全般に関する審議を行っている。
(16)広陵町教育振興基本計画等策定委員会　委員	令和5年7月～令和7年6月	本委員会では、子どもの通学路の安全確保、主体的、対話的で深い学びを実現させるための教育活動の内容、ICT 教育等の推進といった学校の教育活動全般に関する審議を行っている。
(17)広陵町政策推進審議会　委員	令和5年8月～令和7年7月	本審議会では、評価対象事業について事業マネジメントシートを活用し、実施された政策が市民にとって有益、有効に働いているかを確認、検討している。
4　その他 (1)環太平洋大学幼児教育言語力育成研究会代表	平成24年4月～平成27年3月	2008年に改訂された学習指導要領では、「言語活動の充実」が育成すべき重要項目の第一として取り上げられた。そのことを受け、現場における言語活動の充実を特に幼児を対象として調査することを目的として岡山市立大野幼稚園や岡山市立江西幼稚園の園長先生とともに研究会を立ち上げた。幼稚園の教育現場と大学組織が協同して、幼児期における言語活動の充実に関する調査を実施している。
(2)奈良学園大学キャリアセンター運営委員会委員	平成26年4月～現在に至る	奈良産業大学から名称変更された奈良学園大学は、2学部2学科（人間教育学部、保健医療学部）が新設された。それに伴い、大学組織も改変され、平成26年4月に就職支援課からキャリアセンターへと名称変更および業務内容の変更や統合がなされた。平成30年4月から、キャリアセンター内に教職支援室、企業、公務員支援室と分室をつくり、キャリア支援体制の強化を図った。平成30年4月から、キャリアセンター副センター長に任命（令和3年3月まで）された。
(3)奈良学園大学ボランティアサークル　顧問	平成26年4月～現在に至る	平成27、28年度に吉野青年会議所とボランティアサークルに所属する大学生と協働で吉野広域において「小学生を対象としたキャンプ事業」を実施した。平成27年度から現在に至るまで、三郷町内の小学生を対象とした「科学遊び、学びの広場プロジェクト」を実施している。年間100～150名が参加し、三郷町からも高く評価していただいた。(平成27年度には、奈良県庁主催の財団法人奈良県青少年会館からの寄付金を活用した「青少年の健全育成事業」に奈良学園大学ボランティアサークルで応募し、20万円の採択を受けた。) その他、第14回大和川七夕まつり（平成29年度）において燈花会事業

		を実施し、参加した学生が大和郡山市ロータリークラブから感謝状を授与された。
(4)奈良学園大学サッカー部　顧問	平成29年4月～令和3年3月	奈良学園大学において、サッカー部の顧問となり、学生支援をしている。
(5)奈良学園大学評議会　評議員	平成30年4月～令和3年3月	平成30年4月から、奈良学園大学評議会評議員に任命された。キャリアセンター報告を中心として、取り纏めた。
(6)奈良学園大学自己点検評価委員会　委員	令和2年4月～令和3年3月	令和2年4月から、奈良学園大学自己点検評価委員会委員に任命された。キャリアセンター運営関連資料の取りまとめを担当した。
(7)奈良学園大学共通教育委員会　委員	令和3年4月～現在に至る	令和3年4月から、奈良学園大学共通教育委員会委員に任命された。2学部3学科の共通教育科目を、どの学生も履修できるようにするために整備を行っている。

研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書） 1『保育者、小学校教師のための道しるべ』	共著	平成29年10月	学文社	保育士、幼稚園教諭、小学校教諭をめざす短大生、大学生、専門学校生に向けて、就職する前に身に付けてほしい保育者、教師に求められる基礎知識、専門知識、技術をまとめたものである。 B5判　全140ページ 編著者：田中卓也、松村齋、小島千恵子、志濃原亜美、木本有香 共著者：黒田政広、秀真一郎、五十嵐淳子、中田尚美、岡野聡子、岩治まとか、雲津英子、谷原舞、橋爪けい子、光井恵子、今村民子、佐々木由美子 本人担当部分： 第8章「保育実習、幼稚園教育実習、小学校教育実習で実力を発揮しよう」(1) 保育実習とはどのような実習なのか（pp.58-60)、(2) 幼稚園教育実習とはどのような実習なのか(pp.60-62)、(6) 実習日誌、指導案とはどのようなものなのか(pp.68-72)を単著。カフェタイム(コラム)②ちょっと知っておきたい保育室の飾り付け（p.23）を単著。 本人担当部分の概要： 保育所実習と幼稚園実習について、観察実習、見学実習、部分実習、一日実習をまとめ、それぞれに修得すべき事柄を解説した。
2『MINERUVAはじめて学ぶ保育12子育て支援』	共著	平成30年3月	ミネルヴァ書房	子ども、子育て支援新制度、保育教諭など最新の動向を盛り込みつつ、保育の基本を解説したものである。 B5判　全220ページ 監修：大方美香、名須川知子 編著者：伊藤篤（12巻担当）

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
				共著者：岡野聡子、大方美香、大西晶子、寺村ゆかの、植木信一、山岡テイ、高畑芳美、吉岡洋子 本人担当部分： 第１章 子育て支援の必要性と制度（レッスン1 子育て支援が求められる社会背景①子育てをめぐる社会環境の変化、②少子化という社会現象、③子育てをめぐる諸課題（pp. 2-15）、レッスン 2 子育て支援に関する制度、施策の展開①わが国における子育て支援の制度、施策の歩み、②少子化の進行と子育て支援(pp. 16-29)）、第４章 海外に学ぶ子育て支援（レッスン 13 北米における子育て支援①多文化主義国家であるカナダ、②カナダにおける子育て家庭支援の展開、③カナダにおける子育ての現状、④子育て家庭支援の取り組みーファミリーリソースセンター、⑤子育て家庭支援の取り組みーネイバーフッドハウス、⑥子育て家庭支援の取り組みーノーバディズパーフェクトプログラム(pp. 156-171)）を単著。 本人担当部分の概要： 第１章では、子育て支援が求められる社会的背景について、我が国における子育てをめぐる社会環境の変化や少子化についてデータを提示し、子育てをめぐる諸課題について解説した。第４章では、カナダにおける子育て支援について、ファミリーリソースセンター、ネイバーフッドハウスの取り組みを紹介した。子育て家庭支援の取り組みでは、ノーバディズパーフェクトプログラムについて解説した。（本研究は、JSPS 科研費 JP15K17241 の助成を受けたものである。）
３『子どもの生活理解と環境づくり（改訂版）～就学前教育領域「環境」と小学校教育「生活科」から考える～』	共著	平成31年3月	ふくろう出版	学習指導要領改訂にともない、領域「環境」にて設置された新項目も含め、就学前教育と小学校教育の教育内容の接続に言及し、自然環境、物的環境、社会環境の３つの視点を用いて事例を取り上げながら解説を行った。 Ａ5 判　全 206 ページ 編著者：岡野聡子 共著者：松田智子、大野鈴子、吉村啓子、筒井愛知、村田眞理子、薮田弘美、辻野孝、伊崎一夫、中道美鶴、岡田美紀、田中卓也、前川豊子、平野知見 本人担当部分： 第１章「就学前教育から小学校教育へ」第１節「就学全教育と領域「環境」」(pp. 1-20)、第３章「自然環境とのかかわり」第２節 1-2）栽培植物の選定条件とは、1-3）自然環境マップづくり（pp. 81-83)、第４章「物的環境とのかかわり」第１節 1. ものの性質や仕組みを知る（pp. 103-104)、1-2）ものの仕組みを理解する（pp. 106-108)、第５章「社会環境とのかかわり」第１節 1-3）生活科における「行事」のとらえ方（pp. 146-147） 本人担当部分の概要： 第１章では、就学全教育と領域「環境」の概要を述べ、2017 年度の学習指導要領改訂にて取り入れられた資質、能力の三つの柱と幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10 の姿)、これから求められる幼児教育の在り方について解説した。また、保幼小連携の重要性から、領域「環境」と「生活科」の教育内容の接続について解説し

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
				た。第３章では、自然環境のかかわりにて、園内にある栽培植物の選定条件を解説し、自然佳境マップづくりを紹介した。第４章では、物的環境とのかかわりにて、子どもがものの性質や仕組みを理解する過程について解説した。第５章では、社会環境とのかかわりにて、2017 年度の要領改訂において領域「環境」に示された行事の役割が、小学校教育「生活科」にどのように教育内容が接続されているか解説した。
４『基礎からまなべる保育内容（人間関係）ワークブック』	共著	令和2年2月	あいり出版	幼稚園教諭、保育士を目指す者を対象とし、保育内容（人間関係）の基礎を解説したものである。 A4 判　全 86 ページ 編著者：田中卓也、宮内洋、藤井伊津子、中澤幸子 共著者:伊藤恵里子、秀真一郎、木本有香、小久保圭一郎、川村高弘、橋場早苗、佐藤寛子、岡野聡子、佐々木由美子、増田吹子、内田祥子、郷家史芸、香曽我部琢、五十嵐淳子、浅見優哉 本人担当部分： 第 5 章「人間関係を通して育む「道徳性、規範意識の芽生え」とは」（1. 乳幼児期における「道徳性、規範意識の芽生え」、2. 道徳性の芽生えとは、3. 規範意識の芽生えとは）（pp. 33-41） 本人担当部分の概要： 2017 年に改訂された幼稚園教育要領、保育所保育指針の「道徳性、規範意識の芽生え」に関する項目のねらいと内容、内容の取扱いについて解説した。
５『保育者になる人のための実習ガイドブック A to Z ―実践できる！ 保育所、施設、幼稚園、認定こども園実習テキスト―』	共著	令和2年3月	萌文書林	保育所や施設、幼稚園、認定こども園での保育実習、教育実習について、実習の事前、事後で学ぶべき内容を 15 章に整理し、まとめた。 A4 判　全 178 ページ 監修：名須川知子 編著者：田中卓也、松村齋、小島千恵子、岡野聡子、中澤幸子 共著者：佐藤寛子、関容子、増田吹子、山本美紀、植田恵理子、赤塚めぐみ、日隈美代子、橋爪けい子、田中路、鈴木和正、中島眞吾、橋場早苗、島田直哉、山梨有子、安氏洋子、里見達也、加藤緑、八幡眞由美 本人担当部分： 第 8 章「幼稚園教育実習とは」（1. 幼稚園教育実習の目的と心構え、2. 幼稚園における園生活の流れと実習の実際、3. 年齢別のクラスの特徴と実習のポイント）（pp. 80-93） 本人担当部分の概要： 幼稚園教育実習の目的や実習に出向く際の心構えについて解説した。また、幼稚園の園生活の流れを例示し、実習のポイントについて述べた他、3～5 歳児の年齢別の実習のポイントを解説した。
６『基礎から学ぶ子育て支援の実際』	共著	令和2年6月	大学図書出版	子育て家庭の現状に合わせた支援方法や関係機関との連携体制の構築等、事例やワークを用いながら解説している。2019 年に改訂された保育士養成課程の教授内容に基づいて章立ての構成をしている。 B5 判　全 175 ページ 編著者：太田恵子、檜垣昌也

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
				共著者：市東賢二、小川和代、城野敦子、田中卓也、桶田ゆかり、小原貴恵子、齋藤惠子、相樂真樹子、野田敦史、岡野聡子、大熊信成、志村浩二、山城久弥 本人担当部分： 第12講「特別な配慮を要する子どもと家庭への支援～発達障害児」(1.発達障害のある子どもと保護者の状況、2.発達障害の子どもと家庭への支援、3.特別な配慮を要する子どもや家庭への支援の実際、4.演習課題)(pp.122-139) 本人担当部分の概要： 代表的な発達障害である自閉症スペクトラム、注意欠如、多動症、限局性学習障害の3つの事例を取り上げ、子どもの様子や家庭支援のあり方について解説した。また、子どもと家庭支援の方法や制度、留意事項、保育現場における発達障害の子どもへの支援も事例を取り上げ解説した。
7『子どもとともに未来をデザインする保育者論、教育者論』	共著	令和2年10月	わかば社	保育士資格、幼稚園教諭免許状取得を目指す学生を対象とし、保育学、教育学の基礎を学ぶために、理論面、実践面から事例を通して解説した書籍である。 A4版　全155ページ 編著者：田中卓也、松村齋、小島千恵子 共著者：小川知晶、日隈美代子、中塚健一、加藤緑、小宮山道夫、鈴木和正、島田直哉、関容子、志濃原亜美、中澤幸子、北澤明子、安氏洋子、佐藤寛子、西田明史、垣添忠厚、大橋淳子、五十嵐淳子、坪井瞳、岡野聡子、加藤英夫、橋爪けい子、酒井範子、加藤裕希 本人担当部分： 第13章「保育者、教育者に必要な研修」(1.保育者としての専門性の向上とキャリア形成、2.研修の種類と内容、3.研修の成果を現場でいかしてみよう)(pp.124-133) 本人担当部分の概要： 長年に渡って保育者として働くために求められる専門性や、20～50歳代までの保育者としてのキャリア形成について解説した。また、園内、園外研修の具体的事例、保育士のキャリアアップ制度、免許状更新講習を取り上げた。
8『自分の未来は自分が創る　キャリア形成ワークブック』	共著	令和3年9月	ふくろう出版	大学生のキャリア形成支援を目的として、ＰＢＬ(Problem-based Learning)の概要およびチームビルディング、アサーションスキル、アンガーマネジメント、ストレスマネジメント、個人、集団面接対策、場面指導対策、集団討議対策、グループディスカッション対策、履歴書の書き方、ESの書き方等をまとめた書籍である。 A4版　全72ページ 編著者：岡野聡子 共著者：上杉敏郎、柳本周介、栗山朝亜輝 本人担当部分： 第Ⅰ部「課題発見力を高め、問題解決能力を磨こう」(pp.1-24)、第Ⅲ部「資料集」(pp.54-71) 本人担当部分の概要： ＰＢＬの概要を解説し、情報収集、課題分析、仮説構築、検証、アウトプットの方法をワークシート形式で掲載した。資料集では、電話のかけ方、メール、お礼状、送付状の書き方、採用試験で出る内容について解説した。

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
９『基礎からまなべる保育内容(環境)ワークブック』	共著	令和3年10月	あいり出版	幼稚園教諭、保育士を目指す者を対象とし、保育内容（環境）の基礎を解説したものである。 Ａ4 判　全 142 ページ 編著者：田中卓也、岡野聡子、藤井伊津子、橋爪けい子、木本有香、小久保圭一郎 共著者：木戸啓絵、柳生明子、香宗我部琢、小森谷一朗、郷家史芸、浅見優哉、福田篤子、加藤緑、栢清美、北澤明子、五十嵐淳子、伊藤能之、関容子、増田吹子、日隈美代子、塚越亜希子、佐々木由美子、中澤幸子、川村高弘 本人担当部分： 第 15 章「指導案の書き方、ポイント」(pp. 130-138)、第 9 章「生き物を飼育することの意義とは」(pp. 76-79) 本人担当部分の概要： 第 15 章は、指導案の書き方の事例を示しながら、書き方のポイントを解説した。第 9 章は、生き物を飼育することの意義について解説し、園の飼育活動に適した小動物を紹介した。
１０『保育、教育、社会福祉　研修ハンドブック』	共著	令和3年10月	大学図書出版	幼稚園教諭、保育士、小学校教諭、施設職員のための研修ハンドブックである。研修講師側、受講側のどちらもが活用できるように工夫した書籍である。 Ａ4 判　全 120 ページ 編著者：田中卓也、松村齋、時田詠子、佐々木由美子 共著者：岡野聡子、小川千晶、志濃原亜美、鈴木和正、土屋昭雄、中島眞吾、中塚健一 本人担当部分： 第 2 章「保育所研修の実践例」(pp. 20-27) 本人担当部分の概要： 保育所にて実際に行われる研修を想定し、４つのテーマ（1. お散歩安全マップをつくってみよう、2. フォトカンファレンスに挑戦してみよう、3. 保護者との良好な人間関係をつくるために、4. 園内環境をチェックしてみよう）をあげ、各研修の意義や研修の流れとポイントを解説した。
１１『新しい視点からの教育社会学―人間形成論の視点から―』	共著	令和4年9月	大学教育出版	教職課程を学ぶ学生を対象にした教育社会学のテキストである。順に読み進めることで、教育社会学の理論と実践を学ぶことができ、現場の教師にあっては、最新の教育社会学の知見を学び、実践的な内容に触れることができるように構成している。 B5 版　全 234 ページ 編著者：住本克彦 共著者：岡本恵太、森一弘、小泉令三、定金浩一、山口裕毅、坂中尚哉、斎藤健司、立浪朋子、岡部康英、善野八千子、金山憲正、難波正義、オチャンテ、カルロス、正村政則、岡野聡子、西江なお子、崔回淑、濱津良輔、住本みゆき、正木友則、太田雄久、渋谷友和、松岡克典、原口忠之 本人担当部分： コラム③「今後のキャリア教育の行方」(p. 63) 本人担当部分の概要： AI が不得意な「物事を多角的、多面的に捉える力」を養い、さまざまな視点から課題を解決しようとする姿勢の重要性を述べた。

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
１２『増進型地域福祉への展開―幸福を生み出す福祉をつくる』	共著	令和4年9月	同時代社	住民参加の福祉、福祉施設、社会福祉協議会、行政、協同組合、NPO などによる支え合いや助け合いを増進型地域福祉の視点から解説したものである。公助抑制のための福祉論ではなく、「共助」の意味と「公助」との関係を再構築し、「人が生きる幸せ」を地域で考える取り組みについて論じている。 編著者：小野達也、朝倉美江 共著者：森安美、原田徹、戎谷悦子、植田憲治、所正文、藤井恵里、渡辺晴子、石川久仁子、岡野聡子、柴田学 本人担当部分： 第 11 章 プレイスベースド、アプローチと増進型地域福祉(pp.211-230) 本人担当部分の概要： 公共政策分野で注目をされているプレイスベースド、アプローチが援用されているカナダの地域福祉団体を取り上げ、地域開発の方法論について述べた。また、そのカナダの事例を増進型地域福祉の視点で捉えなおし、日本の地域福祉への提言を行った。(本研究は、JSPS 科研費 JP19K02214 の助成を受けたものである。)
１３『現場で役立つ保育実技　運動、ことば、音楽、造形あそびから STEAM 教育を取り入れた保育実践まで』	共著	令和5年9月	ふくろう出版	保育実技の紹介に留まらず、各保育実技が子どもの成長や発達にどのように影響し、その結果、子どもにどのような力が身に付くと考えられているかといった教育的効果も解説に含めている。 編著者：岡野聡子 共著者：小久保圭一郎、高岡昌子、中島緑、林悠子、浅見優哉、木戸直美、谷原舞、中島眞吾、野見山直子、田中卓也、小川知晶、田中路、安氏洋子、南川咲希、森瀬智子、佐藤寛子、間井谷容子、木本有香、北澤明子、石原由貴子、筧有子、平松茂、山梨有子、高橋千香子、小島千恵子、小田切早苗、松村齋 本人担当部分： レッスン 3-4 素話 (p.25)、3-5 創作素話 (p.26)、3-6 手あそび (p.27)、4-6 世界の自然物をつかった楽器であそんでみよう(pp41-42)、5-4 野菜をつかったスタンプあそび(p.55)、6-1STEAM 教育とは(p.77)、レッスン 8 公立園、私立園の採用試験に向けて(pp.94-101) 本人担当部分の概要： 各保育実践について、最新の保育の研究成果を取り上げ、教育的効果を含めた解説を行った。
(学術論文) １　都市公園における子どもの遊び場環境づくりの可能性―ＮＰＯと行政の協働による「緑の遊び場 (ESD) プロジェクト」を通して―	単著	平成26年10月	奈良学園大学研究紀要第 1 集(pp.11-23)	子どもの遊び場環境の変化にふれながら、おかやまプレーパークの積み上げてきた実践と今回のプロジェクトの事業評価、考察を行うことを目的としている。2012 年 4 月から NPO 法人岡山市子どもセンターは、岡山市庭園都市推進課と協働して「緑の遊び場 (ESD) プロジェクト」を実施する運びとなり、筆者は、プロジェクトに参加をし、2 年間に渡って記録を取りまとめてきた。実践記録を用いて、「遊び場の設定と専門性の有無のマトリクス」を作成し、遊び場の設定と遊びの種類がどのような人員配置によって運営がされていたかを分析した。結果は、緑の遊び場 (ESD) プロジェクトの目的である「子どもが岡山市における中心市街地の公園の魅力を、遊びを通して発見し、原風景として子ども

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
				の記憶にとどめてもらいたいという願い」には来場者アンケートの回答も含め、十分応えられているものの、「公園内との緑とのかかわりを深めるための遊び場づくりを目的とした」では、合計 53 種類の遊びのうち 8 種類の設定であり、15％の実施率であったことが浮き彫りとなった。今後の改善点として取り上げるべき項目が明らかとなった。
2　キャリア教育とキャリア支援の相互展開による実践と課題について ―キャリア教育、キャリア支援における教職員連携の取り組みから― （査読有）	単著	平成26年12月	人間教育学研究第 2 号（pp. 131-138）	Ｋ大学を事例とし、キャリア教育とキャリア支援の連携について、その実態と課題を明らかにすることを目的としている。 Ｋ大学が育成する人物像について述べた後、キャリア教育とキャリア支援の全体図を提示し、その実態を俯瞰した。次に、キャリア形成科目において、キャリア支援にあたっている職員のヒアリングで得た情報等をもとに、キャリア形成科目のカリキュラムの見直しおよび改善結果を提示した。そのことで、キャリア教育内で把握できなかった個々の学生のニーズを把握することができ、キャリア支援につなぐ体制を整備することが可能となった。今後の課題は、就職活動準備は 3 年生の後期から本格的にはじまるのだが、学習意欲の低下が見られる 1、2 年生に対し、早期のポジティブ、アクションが 3 年生以降の進路を決める上で重要となると思われる。
3　子育て支援の多様化に関する一考察―子育て支援施策の揺らぎを越え、「チルドレン、ファースト」の舞台へ―	共著	平成27年3月	幼年児童教育研究第 27 号兵庫教育大学幼年教育コース（pp. 115-126）	子育て支援の変遷について国の施策を概観しつつ、その中で、子育て支援の対象者や実施運営主体が多様化していく様子を整理し、子育て支援の今後の課題について検討することを目的としている。本稿では、子育て支援の類型化を行い、横軸に支援の実施主体として公的主体、民間主体を取り上げ、縦軸に支援のニーズとして個別的ニーズ、社会的ニーズを取り上げて分類した。その分類に従って、子育て支援の具体的事例を取り上げ、今ある子育て支援の現場が持つ課題について論じた。子育て支援の変遷や事例の考察から、子育て支援は多様な実施主体の活動によって量的拡大をしてきたが、今後は子育て支援の質的保障の検討や点の支援を面の支援へとつなげ、子育て支援のネットワーク体制を確立することが求められると同時に、子どもの最善の利益を考えた「子どもの育ち」における議論の深まりの必要性が明らかとなった。 代表者：<u>岡野聡子</u> 共著者：佐伯岳春、吉富裕子、馬場陽子 本人担当部分：第 1、2、3-（1）、4 章 第 1 章では、多様化した子育て支援を類型化し、その事例を提示することによって、今後の子育て支援の課題について考察する必要性について提示し、第 2 章では、日本における子育て支援の変遷を公文書や先行研究を用いて論じた。第 3 章（1）において、子育て支援の類型化を試みた。第 4 章では、子育て支援の量的拡大から質的保障への転換へといかにつなげるべきかを論じた。

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
4　カナダ、ネイバーフッドハウスにおける世代間交流の研究 ： フロッグホロウネイバーフッドハウスにおける世代間交流プロジェクトの事例から	単著	平成27年9月	奈良学園大学研究紀要第3集(pp.9-27)	カナダのフロッグホロウネイバーフッドハウスで2011年4月から2014年3月までに取り組まれた世代間交流プロジェクトの実態を明らかにすることを目的としている。 本プロジェクトは、若者と高齢者の交流の質に目を向け、異世代間の相互理解を深めるプログラムを 3 年間に渡って実施したことに意義がある。研究方法は、フロッグホロウネイバーフッドハウスが発行している世代間交流プロジェクトの報告書“Generation Citizenship Seniors + Youth Toolkit”とフロッグホロウネイバーフッドハウスのホームページに掲載されている世代間交流プロジェクトの概要を把握した後、ユースサービスコーディネーターと運営責任者、参加者である高齢者の、若者の D 氏に対してインタビュー調査を実施した。プロジェクトの主要メンバーは、18名の若者（30歳以下）と6名の高齢者（50歳以上）の計24名であった。2011年～2012 年度は、主要メンバーを対象として、①コミュニケーションスキルの獲得、②エイジズムへの理解を深める、③アセットマップの作成、④メンターリーダーシップ研修を実施し、2013年度に 9 つの世代間交流プロジェクトが実施された。主要メンバーをフォーカスグループとして 2 年間という時間をかけて育成していることは、他の世代間交流プログラムには見られないことである。また、補助金終了後も9つのプロジェクトのうち 6 つが現在も継続して実施されている。インタビュー結果からは、若者が高齢者との関わりの中で、他者理解を深め、高齢者の持つ生活体験の知に尊敬の念を抱く様子があり、高齢者は、若者と関わりにおいて目の前にいる若者だけとの関係性を構築しようとするのではなく、常に全体に対して配慮や気配りをする姿勢が見られた。(本研究は、JSPS 科研費 JP15K17241の助成を受けたものである。)
5　カナダ、ネイバーフッドハウス研究Ⅰ―利用者とボランティアスタッフの双方向的関係性に着目して―　(査読有)	単著	平成27年12月	日本人間教育学研究第3号（pp.181-197）	セツルメント運動を源流とするカナダ、ネイバーフッドハウスを研究対象とし、地域コミュニティにおける住民参画型の施設運営の在り方を考察することを目的としている。　研究方法は、参与観察および聞き取り調査である。調査対象施設は、ゴードンネイバーフッドハウスであり、調査日時は、2010年3月1日～3月15日、2010年8月13日～9月11日、調査日時協力者は23名である。調査結果から、23名中、サービス、プログラムを利用し、ボランティア経験を有する者は11名（47.80%）であり、そのうちカナダ出身以外の者は10名（90.9%）であった。利用者からボランティアスタッフへ、ボランティアスタッフから利用者へとなる様子を、事例を通して検討した結果、利用者からボランティアスタッフとして活動を行う過程には、彼らにとって明確な活動動機があったわけではなく、そこでの活動が日常生活の一部として行われていることであり、「手助け」として捉えられていた。そして、ボランティアスタッフから利用者になる過程には、自己のニーズ充足だけでなく、利用者とのかかわりを通して、ボランティアスタッフとしての役割意識から解放される様子があることが示された。ネイバーフッドハウスには、数字として出てこない「手助け」が数多く

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
				存在し、また、それが期待されているのであり、活動を支える大きな柱となっているといえる。
6　多世代交流としての子育て支援に関する研究―カナダ、ネイバーフッドハウスの事例から―（修士論文）	単著	平成28年3月	兵庫教育大学大学院	カナダ、ネイバーフッドハウスを事例として、地域コミュニティを基盤とした日常生活を包括的に支援する体制や、多様な世代が集い合う場に着目し、子育て世代にとって、ネイバーフッドハウスがどのような意義と役割を果たしているかインタビュー調査から検討することを目的としている。調査結果からは、親世代における異世代との関わりは基本的にないと示されたが、親の視点から見た子ども世代における異世代との関わりにおける利点が取り上げられた。また、親世代の利用者が参画者として子育て 支援の活動に携わる様子があり、支援を受けているという感覚ではなく、主体的に子育てに関わるという姿勢が見られる。日本の子育て支援の現場においても、利用者自身が子育て支援の活動に参画できるような場や枠組みを作り、利用者―ボランティア―子育て支援員の皆が水平目線でつながり合えるパートナーとしての立ち位置を手に入れることが重要なのではないかと考えられた。
7　大学におけるキャリア教育の構造と展―本学におけるキャリア形成科目を事例として―（査読有）	単著	平成29年12月	人間教育研究誌創刊号（pp. 17-38）	キャリア教育の変遷および大学におけるキャリア教育の構造を概観し、奈良学園大学人間教育学部におけるキャリア形成科目（共通教育科目群）の展開および培う能力について論じることを目的としている。本学の場合、学生の実態から、「基礎的、汎用的能力」の育成を重視し、キャリア形成科目の構造および培う能力指標の提示をした。また、今後の方向性として、専門科目群との連携におけるキャリア教育の授業展開の可能性について論じた。
8　アサーションスキル獲得のための教材開発―学生が作成した事例を通して―（研究ノート）	単著	平成30年1月	人間教育ジャーナル第1巻（1）（pp. 25-44）	平成29年度奈良学園大学人間教育学部4年次後期開講科目「教職実践演習」（必修、2単位）にて活用したものである。本教材を作成した理由は、2点ある。1点目は、新規学卒者の就職率は年々上昇しているが、大卒者の離職率は5年続けて30%を推移しており、若年者の離職理由の上位には「人間関係がよくなかった」が挙げられていることに着目したこと、2点目は、筆者自身が学生とのかかわりを通して、学生が、自分の気持ちを口頭にて表現することに抵抗を感じていると思うことがある点である。アサーションスキルの講義を2回に分けて実践したが、自分達が考えた事例を読んだ学生から、「私も、アルバイトにて、店長からシフトに入ってと何度も言われ、困った経験がある」等、各々の葛藤する場面に対し、共感する態度が見られた。葛藤場面に対し、どう対応するかを学生達が改めて問うたことにより、①自分の感情への気付きと表現方法、②他者の発言や行動の背景への気付きについて、考えるきっかけになったと思われる。
9　幼児期におけるカリキュラム、マネジメントの実践研究1－A公立幼稚園における園内研修を手掛かりとしてー（研究ノート）	単著	平成30年3月	奈良学園大学研究紀要第8集（pp. 127-141）	筆者が平成29年4月から平成30年1月まで、「幼児期におけるカリキュラム、マネジメントの適切な運営に向けて」をテーマとし、K町立A幼稚園にて行った園内研修での取り組みの内容とその成果を提示することを目的としている。取り組み内容は、①園の教育目標の明確化、②指導計画書の検討、改善、③保育、教育実践の記録の検討、改善である。全10回の園内

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
				研修の実践から、幼児期におけるカリキュラム、マネジメントを実施する際、何から着手するか、どの項目から進めるかに戸惑いがあるという担任教諭からの意見が多数存在した。そのため、現時点において、カリキュラム、マネジメントに必要となる項目の抽出を試みた。項目数は、12 項目である。また、A 園における PDCA サイクルの思考を確立することは、次年度以降の課題となったが、カリキュラム、マネジメントに取り組むことにより、現場教員の保育実践に対する意欲が高まったという意見があった。
１０　大学における教学支援体制の運営に関する一考察―キャリア教育とキャリア支援の連携に着目して―	共著	平成30年7月	人間教育ジャーナル第1号（5）（pp.123-141）	大学における教学支援体制の運営について、特にキャリア教育とキャリア支援の教学支援の連携がどのように行われているかに着目し、3 大学（学習院大学、文教大学、昭和女子大学）の視察を手掛かりとして考察することを目的としている。結果として、学習院大学では、教学部門と支援部門の連携体制の確立はされていなかったが、大学の教育理念や方針を取り入れたキャリアセンター事業計画があり、また、就職活動に関し、OB、OG による在学生支援体制が確立されていることが特徴であった。文教大学では、中期経営計画を立て、教学部門と経営部門がビジョンを共有し、計画→実行→評価→改善の PDCA サイクルの確立が行われていた。昭和女子大学ではキャリアデザイン委員会を設置し、全学横断型組織を確立し、教学部門と支援部門の有機的連携が確立されていた。 代表者：岡野聡子 共著者：岡村季光、ｵﾁｬﾝﾃ村井ﾛｻﾒﾙｾﾃﾞｽ 本人担当部分：第 1 章、第 2 章、第 3 章（3）、第 4 章 第 1 章では、教学支援体制の先行研究を取り上げ、第 2 章では 3 校の視察先の概要をまとめた。第 3 章（3）では、昭和女子大学の視察報告を行った。第 4 章では、3 校の視察から、大学運営の一環として育成したい学生像のマネジメントが行われており、組織として運営されていることが、教学支援が成功している要因であると言及した。
１１　育成したい「学生像」の明確化、能力指標構築の試み―奈良学園大学人間教育学部を事例として―	共著	平成30年9月	人間教育ジャーナル第1号（7）（pp.185-198）	我が国における「これから求められる力」に関する能力概念の整理をした上で、奈良学園大学人間教育学部を事例として、「育成したい学生像」の能力指標を提示することを目的としている。新学習指導要領の完全実施や大学入 学共通テストの導入などにより、2020 年に向けた教育改革が粛々と進行する中、大学教育にも大きな影響があると予想される。本稿では、第１に、社会から求められる能力概念の整理と学部特性を整理し、第２に AP、CP、DP から育成したい学生像の能力項目の抽出を行い、第３に能力指標を提示した。能力指標作成にあたっては、①測定される側の発達水準を考慮すること、②人間教育のあり方や目指す方向性を能力指標に反映させること、③能力の「芽生え」（ショプラー；2007）に注目するという観点を提示した。 代表者：岡野聡子 共著者：岡村季光、伊崎一夫 本人担当部分：第 1 章、第 4 章、第 5 章 第１章は、諸外国の教育改革における資質、能力目標をまとめたほか、人間教育学の価値に

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
				ついて言及した。第４章は、奈良学園大学人間教育学部を事例とし、アドミッションポリシー、カキュラムポリシー、ディプロマポリシーの３つのポリシーから、育成したい学生像の能力指標案を作成した。第５章は、能力指標の運営について言及した。
１２　ゼミナール活動における地域をテーマとした学習モデルの作成－三郷町、龍田古道を事例として－	単著	令和元年9月	奈良学園大学研究紀要第 11 集(pp.1-15)	筆者が 2016 年 10 月からはじめた地域をテーマとしたゼミナール活動を報告し、その教育実践の学習モデルの作成を目的としている。本稿では、2016～2017 年度のゼミナール活動を事例として取り上げ、学生の学びの成果に言及し、本実践から学生が身に付けられると期待する資質、能力（技術）を提示した。学生のアンケート調査および教育実践を整理した結果、身に付けると期待する資質、能力（技術）としてあげられたものは、地域理解、主体性の涵養、働きかけ力、課題発見力、傾聴力、情報収集力、情報編集力、情報発信力、研究手法の獲得であった。また、教員の教育力向上にも言及した。
１３　まちを映像保存化する意義と価値－三郷町、龍田古道を事例として－	共著	令和2年3月	人間教育研究第 3 号(pp.33-47)	映像保存のデジタル化の歩みをふまえ、三郷町にある龍田古道を事例とし、デジタルでまちを映像保存化することの意義と価値を問うことを目的としている。データ化の意義と価値は、データが劣化しないこと、一定の情報を多くの人に配付でき、広く流通できるという利点がある。今回、龍田古道のマップをもとにし、撮影から編集までの作業を学生が行った。取得したデジタルデータを VR 編集し、解説インタビューや祭りの風景などの静止画を挿入した。 代表者：富樫泰芽 共著者：田中咲希、藤田勝利、斎藤光明、 桝井陽康、岡野聡子 本人担当部分：第 3 章 龍田古道の概要と事前調査および準備についてまとめた。
１４　PBL(Problem-Based Learning)の授業研究（１）―奈良学園大学におけるキャリア教育の授業実践を事例として―	共著	令和3年1月	人間教育ジャーナル第 4 巻 (1) (pp.1-14)	本学におけるキャリア形成科目にて実施した「PBL (Problem-Based Learning) 課題解決型」の授業実践を通して、受講学生が何を学び得たかを明らかにすることを目的としている。今回の授業にて、特に ４．結果と考察 (2) 改善点からは、学生がさまざまな葛藤場面を味わったことがうかがえる。チームで活動させる ことにより、主体的に行う者、そうでない者の間の葛藤（フリーライダー問題をどう取り扱うか)、時間確保の難しさ、課題の精度への疑問、 役割意識の重要性といった事柄を認識させることができた。これらは、実社会で味わう葛 藤であるといえ、大学時代にこうした他者との関係性の葛藤経験を積んでおくことで、社会生活における人間関係の 葛藤を乗り越える力につながると考えられる。 代表者：岡野聡子 共著者：降幡仁美 本人担当部分：第 1 章、第 4 章 第 1 章では、PBL の実施概要についてまとめ、第 4 章は、学生の授業後のアンケート記述から分析を行った。

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
１５　絵本の読み聞かせボランティア活動の継続要因に関する研究－20 年以上の経験を有するボランティアへのインタビューを通して－	共著	令和4年1月	大阪信愛学院短期大学紀要第 57 号（pp.1-10）	「読み聞かせボランティア活動を継続する要因は何か」、「読み聞かせボランティア活動の 世代継承性における課題は何か」を明らかにするために、20 年以上読み聞かせボランティア活動を行っているＡ氏に対して、オンラインによる半構造化インタビューを実施した。読み聞かせボランティア活動力の継続要因として、①心の拠り所となった絵本、②楽しみにしてくれる子どもたちと絵本を味わう時間、③地域での社会貢献による自己肯定感、④フレキシブルな職場環境や応援してくれる家 族の存在、⑤一緒に楽しめるボランティアグループの雰囲気があることがわかった。世代継承性における課題としては、①活動仲間との交流の減少、②絵本を届ける立場であるボランティアとしての成長、③グループ内での経験値、知見統合の困難さ、④グループの継続や後継者育成における問題があることが明らかとなった。 代表者：谷原舞 共著者：田中卓也、中島眞吾、小久保圭一郎、岡野聡子 本人担当部分：5、6 5.にて論文の結論をまとめた。6.にて今後の課題を述べた。
１６　乳幼児対象の読み聞かせボランティアが抱く不安感、困難感の実態に基づく研修内容に関する予備的考察－アンケートの自由記述回答における不安感、困難感の分析から－（査読有）	共著	令和6年3月	読書科学 65(1)(pp.45-57)	読み聞かせボランティアが抱く不安感、困難感の調査結果を根拠とし、基礎的知識研修と実践的技能研修と称して、必要とされる研修内容の検討を行った。研修内容のモデルケースとして、基礎的知識研修には①良い絵本とは何か、②良い絵本の選書方法、③絵本の読み聞かせ時の子どもの反応表現、④テーマ別の絵本の分類法、⑤絵本検索システム「ぴたりえ」の活用、実践的技能研修には①言葉のリズムやノリを取り入れた絵本の活用、②即興演劇よる臨機編な対応力の習得、③聞き手へ配慮した語りの習得、④場作り、導入、読み聞かせ技術の習得、⑤低年齢を意識したお話会プログラムの企画立案、⑥交流会設定の企画と実施運営の方法、⑦保護者対応のロールプレイング研修を考案した。（本研究は、JSPS 科研費 JP22K02401 の助成を受けたものである。） 代表者：谷原舞 共著者：岡野聡子、小久保圭一郎、中島眞吾 本人担当部分：Ⅲ結果と考察、Ⅳおわりに インタビューデータの質的コーディング分析を行い、考察した。おわりにこにて、今後の研究の方向性を述べた。
（資料） 1　Neighbourhood House Story in Canada - a case of Collingwood Neighbourhood House in Vancouver -	単著	令和2年12月	奈良学園大学紀要第 13 集（pp.27-35）	カナダ、バンクーバー市に位置する Colingwood Neighbourhood House において、移民者がネイバーフッドハウスと出会い、自分自身の居場所を見つけながら地域社会とどのように関わり、生活を営んできたか、また、地域活動を通して、自己能力をどのように高め、発揮してきたかについて、インタビュー調査から明らかにした資料である。

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
2　カナダにおけるコミュニティ開発（ABCD 論）の手法を学ぶ－Tamarack Institute 主催のワークショップに参加して－	単著	令和5年12月	奈良学園大学紀要第 16 集（pp.181-195）	カナダの Tamarack Institute が主催するコミュニティ開発のワークショップ参加の記録である。ジョンマクナイト博士による講演の他、カナダやアメリカにおけるコミュニティ開発の実践事例が数多く報告され、日本のコミュニティ開発にも示唆を与えるものである。（本研究は、JSPS 科研費 JP22K01968 の助成を受けたものである。）
（書評） 1　公益財団法人とよなか国際交流協会（編集）牧里毎治（監修）『外国人と共生する地域づくり：大阪、豊中の実践から見えてきたもの』	単著	令和2年3月	日本地域福祉学会「日本の地域福祉」第 33 巻（pp.53-55）	とよなか国際交流協会の実践活動を通して、地域に住む外国人の実態や外国人問題を社会化する過程における外国人の「公」をどのように地域に創出していくかについて言及されている。多文化共生と地域福祉がクロスオーバーする点を洗い出しながら、外国人が地域社会の構成員として共に生きていける地域づくり（多文化共生の地域社会づくり）について示唆を与える良著であると書評した。
2　『コミュニティの幸福論　助け合うことの社会学』	単著	令和4年3月	地域福祉研究 50 巻（pp.134-135）	社会学を学ぶ大学生向けのテキストとして執筆されたものでもあり、数多くの文献や研究成果、事例が紹介されているだけでなく、用語も丁寧に解説されているため、初学者にとって大変親しみやすい内容となっている。また、著者のカナダでの経験がベースにあるため、海外の事例も豊富に提示され、日本のコミュニティ創りとの比較にも役立つと書評した。
（学会発表） 1　幼児期における「言語活動の充実」に関する研究Ⅱ－岡山型一貫教育の中における岡山市立大野幼稚園の取り組み－	－	平成26年5月	日本保育学会第 67 回（近畿ブロック） 開催地：大阪総合保育大学、要旨集：p.542	岡山市における言語活動の充実を軸とした幼小中連携教育の実践を取り上げ、その中における岡山市公立幼稚園の言語活動の充実あるいは言葉の教育の保育実践の取り組みにおける考察を発表した。岡山市は、平成 14 年から岡山市地域協働学校施策を始め、その中で家庭、学校園、地域社会の三者協働による教育システムの構築や幼小連携および小中一貫教育を推進してきた。また、岡山型一貫教育と名付けた教育活動は、幼児期からの学びの連続性に着目し、幼小中連携教育の実践を行ってきたことが特徴であると言える。岡山市立大野幼稚園は、平成 23～25 年度まで、『園生活を楽しむための力の育成』を主題とし、実践研究に取り組んできた。指導上の工夫では、指導案に「話す、聞く、伝え合う」の項目を設け、教師が日々の教育、保育活動で意識できるよう配慮した。設定保育の工夫として、降園前の一日の振り返りにおいて、話し方の指導および聞き方の指導、特に話し手の内容を理解して聞いているかを確認しながら聞く力の育成を行っている。教師は、日々の教育、保育実践を行う中で、日々の活動が子どもの育ちにどのようにつながっていくかといった「見通しのもてる教育活動」は、教師の教育活動へのやる気や意欲を向上させる意義を含んでいる。「見通しのもてる教育活動」を実践するには、幼小中の教師が集うことのできる研究協議会等を整備することが重要である。

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
2　プレーパークと行政の協働による「緑の遊び場（ESD）プロジェクト」の実践報告－岡山市街地の公園を利用した子どもの遊び場づくり－	－	平成26年9月	こども環境学会合同セミナー研究発表、活動報告梗概集第3号 開催地：名古屋工業大学、要旨集：pp. 46-47	ＮＰＯ法人岡山市子どもセンターと岡山市庭園都市推進課が協働で実施した「緑の遊び場（ESD）プロジェクト2012、2013」の活動内容および事業評価について振り返り、都市公園を利用した子どもの遊び場環境づくりの実践報告を行った。2012年度は5箇所の公園にて 子どもの遊び場を設定し、2013年度は7箇所に増設した。「子どもが遊ぶ」という視点から見た各公園が持つ課題を提示し、その課題をどのように解決したか本プロジェクトの実施写真を用いて解説した。本プロジェクトの参加者は、年間2000名に上っており、保護者アンケートからは、「今後も是非参加したい、参加したい」と95.2%が回答している。
3　多世代間交流を可能とする場作り－カナダにおけるゴードンネイバーフッドハウスの事例を通して－	－	平成26年10月	日本世代間交流学会第5回全国大会 開催地：姫路商工会議所、要旨集：p. 72	自主企画シンポジウム 1-Aにおける「子育て支援をめぐる世代間交流―高齢者の参加を中心に―」の話題提供者として登壇した。カナダ、バンクーバー市ウエストエンド地区に位置するゴードンネイバーフッドハウスの取り組みを紹介し、多世代間交流を可能とする場作りについて考察した。ゴードンネイバーフッドハウスでは、子育て支援や高齢者支援、雇用支援 等、約30種類のサービスやプログラムの大半を一時滞在者の留学生から現地の大学生、そしてウエストエンド地区に住むゴードンネイバーフッドハウスの利用者がボランティアスタッフとなって提供している。一つの施設内に多様なサービス提供の場を配し、ここを訪れる全ての人が「与え与えられる」といった互恵性を醸成する場の可能性について述べた。
4　奈良学園大学におけるキャリア教育の取り組み（Ⅰ）－大学１年生を対象とした「キャリアデザインⅠ」を通して－	－	平成26年11月	日本キャリア教育学会第36回研究大会 開催地：琉球大学 要旨集：pp. 73-74	奈良学園大学人間教育学部における 1 年次のキャリア教育の授業実践を報告した。人間教育学部は「教育の三つのポリシー」を掲げると同時に、社会の中で一人の人間として生き抜く力となる豊かな「人間力」を基盤とする、柔軟な「教育力」と高度な「実践力」を備えた教育者を教育方針に掲げている。これらの方針に沿った人材育成をするために、１年次では、①自己を知る、②社会を知る、③人生設計の 3 つのユニットに分けて実施した。グループ学習での学びの成果は、スピーチコンテストという形で確認をした。
5　大学のキャリア教育における NIE 活用の展望－大学２年生を対象とした「時事教養Ⅰ、Ⅱ」の授業実践－	－	平成26年12月	日本NIE学会第11回仙台大会 開催地：東北福祉大学 要旨集：p. 40	本発表では、社会人基礎力を醸成させるための実践の成果報告を行った。ＮＩＥにて取り扱うテーマ設定および内容を構築するに際し、職業観や勤労観にふれられる内容を盛り込んだ。実践の成果では、①新聞活用を通して社会情勢に関心を持て、読書量が増えたこと（学生アンケートから）、②基礎学力の向上（内容確認テストの有意差から）、③意見の質の向上（振り返りシートから）が見られた。 代表者：岡野聡子 共同者：仲田輝康 本人担当部分： 授業実践および実践結果の考察を担当した。 備考：本発表内容は、平成 26 年 12 月 24 日の山陽新聞に掲載された。

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
6　大学のキャリア教育におけるＮＩＥ活用－事例紹介－	－	平成26年12月	第１回大学ＮＩＥ研究会 開催地：キャンパスプラザ京都 6F 第 2 講習室、京都文教大学サテライト教室	基礎学力向上の課題を解決すること、キャリア教育を充実させることを目的として設置された時事教養Ⅰ、Ⅱの科目をめぐって、ＮＩＥ活用の在り方や教材の作成方法について述べた。授業実践では、実際に授業で使用した「第８回若者の離職を考える」を取り上げ、教材 作成方法や受講生の感想、実施後の教員側の感想について述べた。授業実践を振り返る中で、学生に教材を与え、無理やり読ませ、考えさせ、書かせ、対話することにこだわるよりも、ある程度一方的に知識として教える場面を増やし、考える力の土台作りをするというのも一つの選択肢であると提案した。
7　カナダ、フロッグホロウネイバーフッドハウスにおける世代間交流プロジェクトの取り組み－Generating Citizenship Seniors+Youth の実践から－	－	平成27年10月	日本世代間交流学会第６回全国大会 開催地：追手門大学大阪城スクエア 要旨集：p.51	カナダのイーストバンクーバー地区に位置するフロッグホロウネイバーフッドハウスで実施された世代間交流プロジェクト（2011.4～2014.3）を対象として、その概要や取り組みを明らかにすることを目的としている。ネイバーフッドハウスには、日常生活に必要なサービスやプログラムが多岐に渡って提供され、日々、さまざまな人、さまざまな世代が施設を訪問する。その中で、多様な世代がそこで出会い、雑談を交わし合う光景を見かけることができるのだが、今回、施設側が世代間交流プロジェクトを実施するにあたって、「交流の質」に着目した点は大変意義深いものであったと思われる。プロジェクト参加者からは、「私たちは何年間かお互いのことを知っていたけれども、互いの人生について知ることはなかった」との意見もあり、他者理解を深めることができた結果も得られた。（本研究は、JSPS 科研費 JP15K17241 の助成を受けたものである。）
8　大学のキャリア教育における NIE 活用の展望（2）－大学 2 年生を対象とした「キャリアディベロップメントⅠ」の授業実践－	－	平成27年12月	日本NIE学会第12回奈良大会 開催地：奈良教育大学 要旨集：p.37	平成 25 年度から実施しているキャリア教育における NIE 活用の授業実践を報告することを目的としている。受講生は奈良学園大学人間教育学部 2 年生（100 名）を対象としている。本授業は、NIE 実践を通して、社会人としての幅広い教養を身に付け、伝達力、思考力を磨くことを目的として実施した。授業内容は、①メディアリテラシーへの理解、②課題発見（NIE 実践）、③私から発信する現代的課題の３つのユニットから成り立っている。受講前後のアンケート結果では、新聞を読むことによって、どのような能力が高まると思うかでは、受講後は、「課題発見力」が身に付くとの回答が上位に出現した。新聞を読むことを通して、論点を整理すること の必要性を学生が感じたという結果を得ることができた。
9　保育内容「環境」の教授内容におけるシラバス分析の試み－SPSS Text Analytics for Surveys を活用して－	－	平成29年3月	日本教師学学会第18回大会 開催地：早稲田大学 要旨集：pp.54-55	保育士および幼稚園教諭を養成する大学教育機関を対象として、保育内容「環境」の教授内容の現状を、各大学のシラバスから分析、考察することを目的としている。授業概要やシラバスの内容の問題点や課題を探ることで、現代社会の諸課題に対応した保育者となる者が学ぶべき事項を研究することには意義があると考えられる。まず、7 大学のシラバスを web 上から取得し、その傾向を分析した後、近畿圏内の 47 大学のシラバス分析を SPSS Text Analytics for Surveys を活用して試みた。授業計画の分析結果からは、自然環境に関する項目の頻度が 45％と最も多く、社会環境に関する項目の頻度が 8％と最も少

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
				なく出現した。SPSS Text Analytics for Survey を活用したシラバス分析は、これまでの研究において見られず、初めての試みであった。本研究において、活用の有用性についても示すことができたと思われる。 代表者：岡野聡子 共同者：田中卓也 本人担当部分：シラバス収集、分析を行った。
１０　領域「環境」における授業内容の検討―大学における領域「環境」のシラバス分析を通して―	－	平成29年5月	日本保育学会第70回大会 開催地：川崎医療福祉大学 要旨集：p.655	大学における領域「環境」の授業内容を検討することを目的としている。平成30年度の幼稚園教育要領改訂に向けた文部科学省中央教育審議会幼児教育部会が取りまとめた「現行幼稚園教育要領等の成果と課題」を見ると、「(2) 幼児教育において育みたい資質、能力の整理と、小学校の各教科等との接続の在り方」の中で10項目(①健康な心と体、②自立心、③協同性、④道徳性、規範意識の芽生え、⑤社会生活との関わり、⑥思考力の芽生え、⑦自然との関わり、生命尊重、⑧数量、図形、文字等への関心、感覚、⑨言葉による伝え合い、⑩豊かな感性と表現）の指導内容が取り上げられている。その中で、領域「環境」と深く関連がある項目は、4項目（下線部⑤⑥⑦⑧）に及ぶ。この審議内容は、今後の教授内容の在り方を左右するものであると考えられ、領域「環境」の授業内容の一層の充実が求められていると言える。本学の場合、環境構成の視点から園内を見学するという授業では、学生の関心を高めることができ、大きな成果が見られた。改善点としては、栽培、飼育活動を継続的に行う工夫および社会生活との関わりに関する内容の充実が求められると言える。
１１　カナダにおける住民参加型地域福祉の推進のための方策とその工夫～”Everything Present in the Seed の資料分析から～	－	平成29年6月	日本地域福祉学会第31回大会 開催地：松山大学 要旨集：p.168	地域福祉活動に従事するスタッフやボランティアスタッフを対象としたリーダーシップトレーニングの指南書として、カナダ、キャピラノ大学が2013年に発刊した (1) Everything Present in the Seed Community leadership Training と (2) Facilitator’s GUIDE を概観し、どのような要素や内容が取り上げられているか、考察することを目的としている。研究の手法は、資料分析である。まず、(1) の資料は、13項目から成り立っており、121頁である。1～4章までが地域福祉活動の概要とその必要性、所属している組織がある者はその活動の紹介、インターネットの有効活用について書かれており、5～13 章までは、リーダーシップとは何か、コミュニケーションスキルの獲得、プロジェクトの立案方法やファシリテーション、企画書の書き方といった実践的な内容になっている。(2) の資料は、(1) の資料を活用する者のための副読本となっており、67 頁である。本資料の特徴は、①本資料の読み手、扱い手を「スタッフ」として想定しているだけでなく、英語があまり得意でない移民者が読むことができ、扱える内容になっている点である。リーダーシップトレーニングが幅広い対象者に拓かれ、実践されることは、ボランティア主導で地域福祉活動を実施する上で重要なことだと言える。今後は、本資料の利用者の意見を集め、どのような利点、難点があるのか考察したい。（本研究は、JSPS 科研費 JP15K17241 の助成を受けたものである。）

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
１２　多世代交流の子育て支援をめぐる取り組み～カナダ、ネイバーフッドハウスを事例として～	－	平成29年10月	日本世代間交流学会合8回大会 開催地：熊本学園大学 要旨集：p.33	セツルメント運動を源流とするカナダＢＣ州バンクーバー市のネイバーフッドハウスを事例として、多世代交流の子育て支援の在り方を考察すると共に、実現に向けた方策について検討することを目的としている。本研究では、Frog Hollow Neighourhood House、Kitslano Neighbourhood House、Gordon Neighbourhood House の3団体を調査した。多世代が集える工夫として、Frog Hollow Neighourhood House では、高齢者向けサービス（ヨガや太極拳等の健康増進）や中、高、大学生のボランティアリーダー研修を受講している者を子育て広場（Family Drop in Program）の手伝い、ワークショップ講師として参加をさせながら、子ども、親、若者、高齢者が集う場作りをしていた。Kitslano Neighbourhood House では、定期的に学齢期の子ども、親と高齢者が食事会を持つ場作りがなされていた。Gordon Neighbourhood House では、高齢者向けのランチ提供サービスにて、親子ランチ提供サービスを実施していたのだが、高齢者と子どもの食事のペースや食後に子ども達が走り回る等のことがあり、現在では多世代としての交流活動がなされていなかった。2団体が多世代交流の子育て支援を現在も実施できている背景には、①それぞれの発達段階に応じた居場所があること、②スタッフの介入があることが示唆された。(本研究は、JSPS 科研費 JP15K17241 の助成を受けたものである。)
１３　吉野青年会議所と大学生の協働による小学生を対象としたキャンプ事業の実践報告～地域福祉活動への示唆～	－	平成29年12月	近畿地域福祉学会平成29年度大会 開催地：こうべ市民福祉交流センター	一般社団法人吉野青年会議所よしのびと創造委員会と奈良県下の大学生（ボランティアとして参加）が協働し、小学生を対象としたキャンプ事業の実践活動報告をすることを目的としている。一社）吉野青年会議所と大学生は、事業当日までに計 6 回の合同会議を行い、事業目的の共有化や企画案の話し合い、発表を行った。事業実施後の振り返りでは、①社会人と大学生が協働によって得られたメリットや課題、②小学生にとっての本体験活動の意義、③小学生、大学生、社会人の異世代交流がもたらす価値、④地域資源の発掘と活用方法等が取り上げられ、社会人と大学生による事業は、多面的価値を生み出せる可能性が具体的に示唆された。
１４　社会的経済における新たな資金の動き「カナダ、ネイバーフッドハウスの取り組み」	－	平成30年12月	第33回研究大会国際公共経済学会 開催地：兵庫大学	カナダ、ネイバーフッドハウスを事例とし、ネイバーフッドハウスの組織運営体制やサービス、プログラムの概要を取り上げ、ボランティアが行うファンドレイジングの取り組みや資金調達の仕組みについて言及した。ネイバーフッドハウスには、人々の日常生活を支える30種類のサービス、プログラムが存在しており、住民から寄付された食器や衣類、家具等をリサイクルストアとして販売し、得られた資金をシングルマザーの支援のために使用されていることなど、施設内の資金作りの手法について紹介した。
１５　保育者養成校における子育て支援の取り組みと課題および展望	－	令和2年5月	日本保育学会第73回大会（奈良教育大学にて開催予定であったが、新型コロナウイルスの影響により学会は中止となった。発表は承認となった。） 演題ＩＤ：28	4つの保育者養成校（清和大学短期大学部、西九州大学短期大学部、長野県立大学、奈良文化女子短期大学（現：奈良学園大学）の子育て支援の取り組みを紹介し、養成校における子育て支援の特徴や課題を検討することである。 奈良文化女子短期大学（現：奈良学園大学）の子育て支援を取り上げ、その実践について報告した。

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
１６　カナダ、コミュニティディベロッパーの職務と役割－カナダ、Collingwood Neighbourhood House の取り組みを事例として－	－	令和2年6月	日本地域福祉学会第 34 回大会（武庫川女子大学にて開催予定であったが、新型コロナウイルスの影響により学会は中止となった。発表は承認となった。） 要旨集：p.182	カナダ、バンクーバー市に位置する Collingwood Neighbourhood House（以下、CNH）の取り組みを事例とし、地域福祉を推進するコミュニティ、ディベロッパーの職務と役割を考察することを目的としている。CNH におけるコミュニティ、ディベロッパーの職務は、アート部門、フード部門、リーダーシップ開発部門の３つに分かれており、「アート」や「フード」といった誰もが参加できるテーマを掲げたプロジェクトを考案し、地域住民がコミュニティ活動に参画できる機会を提供している。リーダーシップ開発部門では、「アート」や「フード」部門で実施するプロジェクトへの参加を呼びかけ、役割をもって働く機会の提供（ボランティアの機会）と自分の学びを活かす場の提供（ファシリテーターの育成）を行っている。また、コミュニティ、ディベロッパーの役割とは、地域のニーズを解決すること（欠乏欲求を満たす）ではなく、コミュニティに住む個々人の能力を引き出し、彼らが活躍できる「場づくり」を行うこと（成長欲求を満たす）ことが特徴であると言える。（本研究は、JSPS 科研費 JP19K02214 の助成を受けたものである。）
１７　小学校教育におけるデジタル教材の開発－まちを映像保存化する取り組みを通して	－	令和2年8月	教育の質的転換を目指す ICT 利用 ICT 利用による教育改善研究発表会（東京理科大学にて開催予定であったが、新型コロナウイルスの影響により、発表はオンラインで行った） 要旨集：pp.50-53	令和２年に「日本遺産」に指定された奈良県三郷町を通る日本最古の国道である龍田古道の映像データベース化の活動を通して、学生が映像機材の活用および情報の共有方法を学び、撮影や編集作業の過程から知識、技能の定着、活用、思考力、判断力、表現力の多角的向上を図ることを目的としている。対象学生は、小学校教員養成課程に所属しており、「まちたんけんマップ」や「安全マップ」といった教材の紙面制作経験を有する。本実践を通して、対象学生が、紙媒体によるレポートやマップ作成を超え、次世代映像技術を駆使した自己表現方法を獲得し、デジタル教材づくりの素地を身に付けることができたと考えられる。 代表者：岡野聡子 共同者：牟田口章人 本人担当部分：学生指導から得た知見を考察し、まとめた。
１８　カナダの地域福祉から学ぶ地域共生社会への示唆 ― カナダ、バンクーバーにおける Collingwood Neighbourhood House の取り組みを事例として―取	－	令和2年9月	日本カナダ学会第 45 回年次研究大会（対面、オンライン併用開催；会場は東京都八王子、大学セミナーハウス） 要旨集：pp.7-8	カナダの地域福祉から学ぶ地域共生社会への示唆として、バンクーバーに位置する Collingwood Neighbourhood House を事例とし、コミュニティサービスの提供方法の仕組みや施設運営の手法について発表することである。事例として取り上げるコリングウッド、ネイバーフッドハウスは、全世代を対象としたコミュニティサービスが展開されていることが特徴である。預かり保育、学童保育、子育て支援（家庭支援）、就労支援、シニアサービス等の他、特筆すべきは、ホームレス支援も同施設内で実施している。日本の場合、ホームレス支援を行う事業所に子ども、子育て支援を行うことはない。ネイバーフッドハウスの「対象者を限定しない」という理念が貫かれていることがわかる。他にも、セツルメントサービスや地域住民による地域活性化のための助成金事業、さまざまなイベントを通して、移民の社会統合や子ども、若者、高齢者の世代間交流を実現している。（本研究は、JSPS 科研費 JP19K02214 の助成を受けたものである。）

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
１９　PBL(Problem-Based Learning)の教育効果に関する研究－協同作業認識尺度を用いた検討－	－	令和2年10月	日本キャリア教育学会第42回研究大会（筑波大学にて開催予定であったが、新型コロナウイルスの影響により発表はオンラインで行った） 要旨集：pp.142-143	PBL（Problem-Based Learning）の教育効果について、協同作業認識尺度を用いて検討することを目的とする。PBLに関する先行研究では、三重大学高等教育創造開発センター（2007）では、PBL の実践マニュアルを作成し、授業効果測定（中川、2019）や多分野的なPBLの研究と実践に対する研究（杉山、松下、2018）等があり、PBLの教育効果について論じられている。本研究では、PBLをチームで取り組むことにより、協同作業認識に変化が生じるか否かを検証する。結果、協同作業認識尺度得点から、PBL実践にて仲間と共に作業することの有効性の認識が高まったと思われる。
２０　カナダにおける多世代交流を通した子育て家庭支援の取り組み－FrogHollow Neighbourhood Houseを事例として(自主シンポジウム１「地域社会と子育て支援」)	－	令和2年11月	日本乳幼児教育学会第30回大会（オンライン開催） 要旨集：pp.2-3	カナダ、バンクーバーに位置するFrogHollow Neighbourhood Houseを事例とし、多世代交流を通した子育て家庭支援の取り組みについて考察することを目的としている。なお、カナダでは、子育て支援のことを「ファミリーサポート」と呼んでおり、子育てをする家庭に対して、生活全般を支える取り組みが実施されているため、「子育て家庭支援」という言葉を使用している。多世代が集う場では、乳幼児や小、中、高校生が一つの場において活動を共にしている ことから、年長者が年少者にとっての成長のロールモデルの役割を果たすと同時に、親が中高生の施設内で行っているボランティア活動の様子を日頃から見ているため、わが子の将来の成長に対し、具体的な願いを持つことができるという効果がある。また、施設側が企画した異文化交流会に、親自身が出し物を自分達で考え、用意し、取り組むことを通して、子育て家庭支援のサービスを受ける側から提供する側へとまわることもできる。ネイバーフッドハウスでは、親自身が自発的に地域社会と関わることのできる仕組みがあり、地域社会の一員という意識を育むことを可能にしていると考えられる。（本研究は、JSPS科研費JP19K02214の助成を受けたものである。）
２１　絵本の音読スキル向上のための視座の検討―『だいくとおにろく』『からすのパンやさん』を事例として（自主シンポジウムJ-D-4「絵本作家が抱く子ども観と保育学生の絵本選び－絵本の読み聞かせに役立てるために－」）	－	令和3年5月	日本保育学会第74回大会（オンライン開催） 要旨集：pp.63-64	絵本を「音読」することに苦手意識を持つ大学１年生に対して行った学修内容の報告とその成果を考察することを目的としている。教職（保幼小）を目指す学生たちにおいて、絵本の「読み聞かせ」や「音読、朗読」することに対して苦手意識を持つものは少なくない。学生たちには、「句読点」「大事なところ」「会話文」などを注意点として指導するが、「音読」の基礎技術の理解や獲得にはバラつきが生じる。本発表は、『だいくとおにろく』を取り上げ、音読スキルの向上のための視座を検討した。 代表者：岡野聡子 共同者：伊崎一夫 本人担当部分：音読レベルの指標作りおよび学生指導の考察を担当した。

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
２２　読み聞かせボランティアが抱える困難さとその支援－質問紙による実態調査を通して	－	令和4年5月	日本保育学会第75回大会（オンライン開催）P-C-4	乳幼児期からの子どもと本をつなぐ存在である読み聞かせボランティアの質の向上へ向けた支援を考案するため、読み聞かせボランティアが抱える困難さと支援の実態について、アンケート調査から明らかにすることを目的としている。結果は、困難さ、不安感の実態では、特に困難さを感じることは「選書に関する知識、技術」であった。さらに「選書に関する知識、技術」を分析すると、5つの困難さのカテゴリー（a.選書の基準、b.子どもに応じた選書、c.読み聞かせに対する不安感、d.ボランティアとしての質向上、e.保護者対応への不安感）が生成された。また、読み聞かせボランティアが抱える困難さを軽減するための支援では、絵本やその選書に関する基礎的知識を習得するための研修プログラムを作成し、機会を増やすことが求められているといえる。子どもの年齢に即した絵本や、今の子どもたちが興味をもっていそうな絵本についての知識を習得する場である。また、幅広い年齢層の子どもや、様々な興味関心を持つ子どもが参加しても、誰もが対応できるようになる実践的な技能を習得するための研修プログラムの構築が求められると考えられた。 代表者：谷原舞 共同者：野見山直子、岡野聡子、小久保圭一郎 中島眞吾、加藤緑、田中卓也 本人担当部分：質的コーディング分析を担当した。
２３　増進型地域福祉とプレイスベースド、アプローチ－増進型地域福祉の方法研究その1－	－	令和4年6月	日本地域福祉学会第36回大会（福岡大会、オンライン開催、西南学院大学） 要旨集：p.212	地域開発の手法の一つである「プレイスベースド、アプローチ」をもとに、どのようにして、包摂的なコミュニティをどのように創出するか、カナダ、Collingwood Neighbourhood House の取り組みの事例を通して考え、増進型地域福祉への展望を述べることを目的としている。日本の地域福祉拠点づくりへの示唆として、居場所の創出、最良の状態や理想をその場に集う者同士が語り合える場づくり、施設側が利用者に対して優良なサービス、プログラムを提供しようと考えるだけに留まらず、その利用者自身と対話を通して人生を分かち合い、その個人がもつ能力やスキルを理解しようとし、個人の能力やスキルを活かせる機会と場の提供を考えることで、利用者は支えられる側から支える側へと役割が転換していくことなどを述べた。（本研究は、JSPS 科研費 JP22K01968 の助成を受けたものである。） 代表者：岡野聡子 共同者：小野達也、朝倉美江、石川久仁子、渡辺 晴子、柴田学 本人担当部分：データ収集、まとめの部分を担当した。
２４　増進型地域福祉とは何か－増進型地域福祉の理論研究 その1－	－	令和4年6月	日本地域福祉学会第36回大会（福岡大会、オンライン開催、西南学院大学） 要旨集：p.150	増進型地域福祉の基本的な考え方を明示することである。増進型地域福祉は、一人ひとりの幸せと地域の幸せをともに生み出すことを目指している。「福祉」には、がんらい幸福という意味合いがあるが、こうしたポジティブな側面はこれまで実現してこなかった。そこには、一番ケ瀬（1968）の指摘する幸福という目的概念と実際の政策や事業である実体概念の乖離がある。増進型地域福祉は、この目的概念と実体概念を架橋することで幸福としての福祉の実現を志向す

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
				る実践研究である。（本研究は、JSPS 科研費 JP22K01968 の助成を受けたものである。） 代表者：小野達也 共同者：朝倉美江、渡辺晴子、石川久仁子、 岡野聡子、柴田学 本人担当部分：本研究に対する質疑、理論的検討を行った。
２５　増進型地域福祉がつくる福祉文化－増進型地域福祉の理論研究　その２－	－	令和4年6月	日本地域福祉学会第 36 回大会（福岡大会、オンライン開催、西南学院大学） 要旨集：p. 151	増進型地域福祉の理論化にあたり、労働と環境の視点からその位置づけ、意義を明らかにすることを目的としている。現在、幸せなど福祉をめぐる高次の欲求がある一方で、格差、貧困が拡大し、その状況は福祉の二極化（広井：2016）と論じられている。この後者について、貧困の背景にある雇用破壊と社会保障制度の脆弱化、外国人労働者に焦点を当て検討する。そして、前者の幸せを目指し、それを実体化するための「協同の労働と生活」によって生み出される「協同の仕事、活動」と福祉文化との関係、さらに増進型地域福祉が福祉文化を生み出すことの意義について論考した。（本研究は、JSPS 科研費 JP22K01968 の助成を受けたものである。） 代表者：朝倉美江 共同者：小野達也、石川久仁子、渡辺晴子、 柴田学、岡野聡子 本人担当部分：本研究に対する質疑、理論的検討を行った。
２６　増進型地域福祉と地域包括ケアシステム－増進型地域福祉の方法研究　その２－	－	令和4年6月	日本地域福祉学会第 36 回大会（福岡大会、オンライン開催、西南学院大学） 要旨集：p. 213	増進型地域福祉の考え方に基づき、2014 年の介護保険制度改正によって創設された生活支援体制整備事業の実践事例を読み解き、地域住民および地域社会がケアの主体となり、自らの幸福を実現することができる地域包括ケアシステムのあり方について考察したものである。（本研究は、JSPS 科研費 JP22K01968 の助成を受けたものである。） 代表者：渡辺晴子 共同者：小野達也、朝倉美江、石川久仁子、 柴田学、岡野聡子 本人担当部分：本研究に対する質疑、理論的検討を行った。
２７　社会的連帯経済と増進型地域福祉との理論的な接合に関する一考察	－	令和4年6月	日本地域福祉学会第 36 回大会（福岡大会、オンライン開催、西南学院大学） 要旨集：p. 165	市場機構の弊害に対して、市民社会側から経済交換についての再考を求める形で台頭してきたオルタナティブな経済活動である「社会的連帯経済」に焦点をあて、増進型地域福祉との理論的な接合について検討することを目的とした発表である。（本研究は、JSPS 科研費 JP22K01968 の助成を受けたものである。） 代表者：柴田学 共同者：小野達也、朝倉美江、渡辺晴子、 石川久仁子、岡野聡子 本人担当部分：本研究に対する質疑、理論的検討を行った。
２８　増進型地域福祉と居住福祉から考える Well-Being	－	令和4年6月	日本地域福祉学会第 36 回大会（福岡大会、オンライン開催、西南学院大学） 要旨集：p. 198	早川和男が提唱した居住福祉という概念を通して、地域福祉における幸福とは何かを検討し、増進型地域福祉の構築に資することを目的とした発表である。（本研究は、JSPS 科研費 JP22K01968 の助成を受けたものである。） 代表者：石川久仁子 共同者：小野達也、朝倉美江、岡野聡子、 柴田学、渡辺晴子 本人担当部分：本研究に対する質疑、理論的検討を行った。

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
２９　絵本の読み聞かせボランティアの意義に関する研究－質問紙による実態調査を通して－	－	令和4年9月	令和４年度第66回日本読書学会大会（オンライン開催） 要旨集：pp.87-94	読み聞かせボランティアの活動を 3 年以上行っている経験者に対して、自身の活動の目的を尋ね、読み聞かせボランティアがもつ活動の意義を明らかにすることを目的としている。結果は、活動の意義の第一として、絵本の専門性に関すること（a.絵本の楽しさ、b.絵本との出会いによる新しい発見、c.子どもの成長）があり、第二に子育て支援の役割（d.絵本と子育て支援、e.支援の場所づくりと時間の提供、f.親子関係の構築、g.社会貢献）、第三にボランティア自身の成長（h.ボランティア自身の成長）が示された。読み聞かせボランティアをする者は、自身の活動が子育て支援を担っているという意識があることが明らかとなった。（本研究は、JSPS 科研費 JP22K02401 の助成を受けたものである。） 代表者：谷原舞 共同者：小久保圭一郎、小川千晶、小田桐早苗、田中卓也、野見山直子、中島眞吾、加藤緑、岡野聡子 本人担当部分：分析および発表全体の理論的検討を行った。
３０　乳幼児を対象とした絵本の読み聞かせボランティアを支援するための研修内容の検討	－	令和5年3月	日本教師学学会第24回大会 開催地：日本赤十字広島看護大学 要旨集：p.41-42	乳幼児を対象とした絵本の読み聞かせボランティア活動をする際に感じる困難さや不安感について調査を行い、その結果から研修内容の検討を行うことを目的としている。調査方法は、3年以上の読み聞かせボランティア活動の経験をもつ者を対象とした質問紙調査である。読み聞かせボランティアがもつ困難さや不安感の調査結果からは、5つのカテゴリーが生成され、そのカテゴリーをもとにして、基礎的知識研修と実践的技能研修とを位置づけ、研修内容を検討した。（本研究は、JSPS 科研費 JP22K02401 の助成を受けたものである。） 代表者：岡野聡子 共同者：谷原舞、小久保圭一郎 本人担当部分：分析および発表全体の理論的検討を行った。
３１　地域開発の方法論「プレイスベースド、アプローチ」の理論整理－「場所」に注目する意義とは	－	令和5年6月	日本地域福祉学会第 37 回大会（長野大会） 開催地：長野大学 要旨集：p.168	包摂的なコミュニティづくりや社会的な居場所づくりの理論的枠組みの一つの方策として、プレイスベースド、アプローチ（PBA）を取り上げ、その概念を整理し、PBA の福祉政策を展開することによって生じる有効性について検討した。PBA の概念整理をするにあたっては、その用語が使用される目的や文脈において類似用語が多様に存在しており、統一された用語の概念が国際的に確立されていないという問題点がある。（本研究は、JSPS 科研費 JP22K01968 の助成を受けたものである。）
３２　生活科指導法における模擬授業の実践と課題－AI テキストマイニングを用いた分析から	－	令和5年6月	日本生活科、総合的学習教育学会第32回全国大会（神奈川大会） 開催地：相模女子大学 要旨集：p.201	生活科指導法における模擬授業の実践を振返り、学生が得た気付きや授業をする上でどのようなことが課題であると考えたかについて、AI テキストマイニングを用いた分析から考察することを目的としている。学生は、授業の進め方（板書、発問、言葉かけ、机間指導、等）について多くの気付きを得たことが明らかとなった。また、生活科の特性への気付き（低学年を意識した言葉遣いや板書の文字数、大きさ、等）にも言及していたが、学習材の分析や反省点などが見られず、今後の授業改善に活かすべき点と考えられた。

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
３３　絵本の読み聞かせボランティア活動の実態に関する研究－全国調査の分析から－	－	令和6年1月	日本人間教育学会第 9 回大会 開催地：奈良学園大学 要旨集：pp.23-24	乳幼児を対象とした絵本の読み聞かせボランティア活動の全国調査を通して、彼らがもつ困難さや不安感、求められる研修内容等に関する実態を量的分析から明らかにすることを目的としている。「4.グループ内の絵本の学び合いの機会」の有無と「10.参加したい研修内容」の 12 項目をクロス集計した後、フィッシャーの正確確率検定を行った。その結果、「f.言葉のリズムやノリを取り入れた絵本の活用を知る」において有意であり（p=0.009）、学び合いの機会がない者が「f.言葉のリズムやノリを取り入れた絵本の活用を知る」の選択が多かった。これに関しては、リズムやノリを取り入れた絵本の活用は、書籍からは学びにくい内容であり、研修などの実践の機会を通して直接学ぶ必要があると考えられる。「9.活動上での困難さ」について、経験年数によって回答に偏りがあるかどうかを知るために、カイ二乗検定を行った結果、有意であった（$\chi 2(48)=129.940$、 $p<.01$）。残差分析によると、5 年未満の者は、「e.絵本に関する知識不足」（5.612、 $p<.01$）、「f.選書に関する知識不足」（2.411、 $p<.05$）、「経験年数による意識や技量の差」（5.241、 $p<.01$）が有意に多く、逆に「j.参加者に応じた選書の難しさ」（-3.860、 $p<.01$）は有意に少なかった。5 年未満の者は何を読むかが優先事項であり、参加者に応じるという意識まで至っていないと考えられ、5 年未満の者に対しては、多様な参加者が集う場における読み聞かせの在り方について研修を行う必要があると示唆された。（本研究は、JSPS 科研費 JP22K02401 の助成を受けたものである。） 代表者：岡野聡子 共同者：谷原舞、小久保圭一郎 本人担当部分：分析、考察を行った。
３４　就学前の自然体験と後年の自己肯定感との関係について	－	令和6年3月	日本発達心理学会第 35 回大会 開催地：大阪国際交流センター 要旨集：p.361	親の養育態度に左右されない、幼稚園や保育所等で体験できるような身近な自然体験を取り上げ、後年の自己肯定感と関係があるかについて調査した。調査協力者の大学生に小学校入学前の身近な自然体験の有無等や調査時の自己肯定感当に関する質問を行った。結果から、就学前の身近な自然体験と後年の自己肯定感等との間に関係があると考えられ、幼稚園や保育所等での自然体験の重要性を示唆した。（本研究は、令和 5 年度学校法人奈良学園共同研究助成金の助成を受けたものである。） 代表者：高岡昌子 共同者：岡村季光、岡野聡子、石原由貴子 本人担当部分：大学生へのアンケート調査を行った。

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
「研究報告書、等」 1　緑の遊び場(ESD)プロジェクト 2013～子どもの自由な遊び場を目指して～	共著	平成26年3月	岡山市庭園都市推進課「緑の遊び場（ESD）プロジェクト 2013」	2013 年度は、5 つの公園から 7 つの公園に規模を拡大して「緑の遊び場（ESD）プロジェクト」を実施した。また、前年度の活動に加え、大人が集える場作りの工夫も施した。たとえば、七輪カフェを設けたり、机やベンチを設けて、保護者の方や地域の高齢者の方など、多世代が集える場作りである。子どもを中心としたプロジェクトを通して、多様な立場の人々が出会える空間としての都市公園の利活用方法についても報告書の中で紹介をしている。なお、本報告書を用いて、こども環境学会第 3 回合同セミナー(2014.9)にて活動の発表を行い、奈良学園大学研究紀要（2014.10）では、事業の総合評価も行った。 A4 判　全 51 ページ 発行者：特定非営利法人岡山市子どもセンター 発行責任者：美咲美佐子 編著、執筆者：岡野聡子、道仙八代己 実行委員：美咲美佐子、藤本富多美、絹川利恵子、窪田昌子、道仙八代己、松田秀太郎、筒井愛知、岡野聡子 運営実施者：松田秀太郎（プレーリーダー）、特定非営利法人岡山市子どもセンター
2　伝達力、思考力を育む言葉の保育カリキュラムの開発～幼児期における「言語活動の充実」の測定と評価にむけて～	単著	平成26年7月	公益財団法人福武教育文化振興財団（学校、地域における学力向上等の研究や実践活動への助成）平成 25 年度教育研究助成成果報告書	本研究は、平成 24 年度の本助成金を利用して得たアンケート調査結果をもとに、幼稚園と大学が連携を取って幼児期の教育現場における言葉の保育カリキュラムの作成の検討および開発をすることをねらいとしている。当初の計画では、言葉の保育カリキュラムの作成まで行う予定であったが、現場での多様な実践の一つ一つが幼児の教育効果を高めているのかについて量的に捉える必要があるため、今回の研究では、伝達力、思考力を育む上でも重要となる「聞く力」についての教育効果測定を試みた。結果として、園の取り組みの違いを結果に反映しにくいことなどから、測定の難しさが浮き彫りになったことを報告書としてまとめた。（本研究は、公益財団法人福武教育文化振興財団、学校、地域における学力向上等の研究や実践活動への助成を受けたものである。） A4 判　全 2 ページ 本人担当部分：pp. 8-9
3　2015 年度吉野青年会議所事業報告書「大学生と遊ぼう！学ぼう！吉野体験ツアー」	共著	平成28年1月	奈良学園大学	吉野広域（3 町 5 村）の高齢化率は 35%に達している中で、次世代を担う子ども達が吉野に愛着を感じ、また大人になってからも吉野で働き、生活したいと思えるような環境作りをすることが喫緊の課題となっている。今回、吉野青年会議所と本学ボランティアサークルの学生 10 名が連携し、吉野広域の小学 3 年生～6 年生を対象としたキャンプイベント実施した。実施日は、平成 27 年 10 月 31 日～11 月 1 日である。小学生の参加者総数は、16 名であった。大学生企画では、①アイスブレイク、②吉野スタンプラリービンゴゲーム、③ものづくり、④自由創作の 4 つを立案、運営した。主に学生による企画立案から運営実施までの過程を報告書としてまとめている。 A4 判　全 84 ページ 報告書監修、編集：岡野聡子 事業実施者：一般社団法人吉野青年会議所、奈良学園大学ボランティアサークル 大学生企画指導：岡野聡子

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
4　2015 年度　ふしぎ☆いっぱい！小学生を対象とした科学遊び、学びの広場プロジェクト報告書	共著	平成28年3月	奈良学園大学	奈良学園大学ボランティアサークルは、財団法人奈良県青少年会館からの寄付金を活用した「青少年の健全育成事業」の助成金（20 万円）を取得し、三郷町の小学生を対象とした科学遊び、学びの広場プロジェクトを実施した。全 3 回の事業を行い、それらを報告書としてまとめた。 第 1 回：しゃぼん玉づくり名人になろう 実施日：平成 27 年 11 月 21 日（土） 参加者数：58 名（子ども 38 名） 第 2 回：くるくるアニメーションづくり 実施日：平成 27 年 12 月 19 日（土） 参加者数：27 名（子ども 12 名） 第 3 回：ピンホールカメラを作ろう 実施日：平成 28 年 1 月 23 日（土） 参加者数：65 名（子ども 33 名） A4 判　全 35 ページ 監修、編集：岡野聡子 事業実施者：奈良学園大学ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱｻｰｸﾙ 運営指導：岡野聡子
5　2016 年度吉野青年会議所事業報告書「大学生と天川村でキャンプ！はじめましてから広がる吉野の“わ”」	共著	平成28年9月	奈良学園大学	昨年度に引き続き、吉野青年会議所と共に奈良学園大学ボランティアサークルと協働で小学生を対象としたキャンプ事業を実施した。今年度は、奈良教育大学、畿央大学の学生と共に、大学生企画として①アイスブレイク、②フィールドビンゴゲーム、③天体観測、④ものづくりの企画立案、運営を行った。奈良学園大学ボランティアサークルの学生は 19 名が参加し、小学生の参加者総数は 23 名であった。実施日は、平成 28 年 8 月 20 日～21 日である。学生による企画立案から運営実施までの過程を報告書としてまとめている。今年度は、「大学生と社会人とのより良い協働関係を結ぶために」をテーマとして、事業実施後にアンケート調査を実施し、その内容も報告書に含めた。 A4 判　全 90 ページ 報告書監修、編集：岡野聡子 事業実施者：一般社団法人吉野青年会議所、 奈良学園大学ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱｻｰｸﾙ 大学生企画指導：岡野聡子
6　2016 年度　見えないものを見る力　小学生を対象とした科学遊び、学びの広場プロジェクト報告書	共著	平成29年3月	奈良学園大学	奈良学園大学ボランティアサークルは、前年度の「科学遊び、学びの広場プロジェクト事業」の活動実績から、本プロジェクトが学長指定プロジェクトに採択（26 万円）され、三郷町の小学生を対象とした科学遊び、学びの広場プロジェクトを実施した。全 3 回の事業を行い、それらを報告書としてまとめた。 第 1 回：小さな宇宙 ～万華鏡の世界を探検しよう～ 実施日：平成 28 年 11 月 26 日（土） 参加者数：42 名（子ども 25 名） 第 2 回：空気砲を作ろう～目で見る空気の力～ 実施日：平成 28 年 12 月 17 日（土） 参加者数：62 名（子ども 38 名） 第 3 回：色が変わる、まほうの水で描く世界 実施日：平成 29 年 1 月 21 日（土） 参加者数：58 名（子ども 28 名） A4 判　全 35 ページ 監修、編集：岡野聡子 事業実施者：奈良学園大学ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱｻｰｸﾙ 運営指導：岡野聡子

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
7　2017 年度吉野青年会議所事業報告書「ドキドキワクワク川上村で大冒険！～大学生といっしょに自然を学び、あそびつくそう！～」	共著	平成29年11月	奈良学園大学	吉野広域（3 町 5 村）の高齢化率は 35%に達している中で、次世代を担う子ども達が吉野に愛着を感じ、また大人になってからも吉野で働き、生活したいと思えるような環境作りをすることが喫緊の課題となっている。今回、吉野青年会議所と本学ボランティアサークルの学生 22 名、他大学生が連携し、吉野広域の小学 3 年生～6 年生を対象としたキャンプイベント実施した。実施日は、平成 27 年 10 月 14 日である。小学生の参加者総数は、30 名であった。大学生企画では、①アイスブレイク午前の部、②自然体験活動（魚つかみ、魚釣り）、③昼食づくり、④アイスブレイク午後の部、⑤ものづくりの 4 つを立案、運営した。主に学生による企画立案から運営実施までの過程を報告書としてまとめている。 A4 判　全 80 ページ 報告書監修、編集：岡野聡子 事業実施者：一般社団法人吉野青年会議所、 奈良学園大学ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱｻｰｸﾙ 大学生企画指導：岡野聡子
8　2017 年度　見えないものを見る力　小学生を対象とした科学遊び、学びの広場プロジェクト報告書	共著	平成30年2月	奈良学園大学	奈良学園大学ボランティアサークルは、前年度の「科学遊び、学びの広場プロジェクト事業」の活動実績から、本プロジェクトが学長指定プロジェクトに採択（8 万円）され、三郷町の小学生を対象とした科学遊び、学びの広場プロジェクトを実施した。2017 年度は、１回の事業を行い、報告書としてまとめた。 第 1 回：声コプターをつくろう ～音のふしぎを目で見て体験してみよう～ 実施日：平成 30 年 1 月 20 日（土） 参加者数：49 名（子ども 28 名） A4 判　全 20 ページ 監修、編集：岡野聡子 事業実施者：奈良学園大学ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱｻｰｸﾙ 運営指導：岡野聡子
9　三郷町の原風景	共著	平成30年2月	奈良学園大学	平成 28 年度から「三郷町まちづくり講座」に参加をし、本学学生、行政職員、町民の方々と共に三郷町の地域資源について学びを深めた。①龍田古道プロジェクト事業、②信貴山における竹プロジェクト事業、③三郷町民へのインタビュー調査を実施し、その内容を報告書としてまとめた。 A4 判　全 102 ページ 報告書監修、編集：岡野聡子
１０　2018 年度　見えないものを見る力　小学生を対象とした科学遊び、学びの広場プロジェクト報告書	共著	平成31年3月	奈良学園大学	奈良学園大学ボランティアサークルは、前年度の「科学遊び、学びの広場プロジェクト事業」の活動実績から、本プロジェクトが学長指定プロジェクトに採択（20 万円）され、三郷町の小学生を対象とした科学遊び、学びの広場プロジェクトを実施した。2018 年度は、3 回の事業を行い、報告書としてまとめた。 第 1 回：「ひかり」のひみつをさぐってみよう！ 実施日：平成 30 年 11 月 3 日（土） 参加者数：27 名（子ども 11 名） 第 2 回：「おと」のひみつをさぐってみよう！ 実施日：平成 30 年 12 月 15 日（土） 参加者数：21 名（子ども 14 名） 第 3 回：「ひかり」と「おと」コレはホンモノ？ 実施日：平成 31 年 2 月 2 日（土） 参加者数：48 名（子ども 27 名） A4 判　全 41 ページ

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
				監修、編集：岡野聡子 事業実施者：奈良学園大学ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱｻｰｸﾙ 運営指導：岡野聡子
１１　2019 年度　見えないものを見る力　小学生を対象とした科学遊び、学びの広場プロジェクト報告書	共著	令和2年3月	奈良学園大学	奈良学園大学ボランティアサークルは、前年度の「科学遊び、学びの広場プロジェクト事業」の活動実績から、本プロジェクトが学長指定プロジェクトに採択（30 万円）され、三郷町の小学生を対象とした科学遊び、学びの広場プロジェクトを実施した。2019 年度は、3 回の事業を行い、報告書としてまとめた。 第 1 回：天気のふしぎを探ってみよう！ 実施日：令和元年 11 月 9 日（土） 参加者数：83 名（子ども 43 名） 第 2 回：夜空から宇宙を学んでみよう！ 実施日：令和元年 12 月 7 日（土） 参加者数：54 名（子ども 29 名） 第 3 回：地層の不思議を探ってみよう！ 実施日：令和 2 年 2 月 8 日（土） 参加者数：49 名（子ども 28 名） Ａ4 判　全 43 ページ 監修、編集：岡野聡子 事業実施者：奈良学園大学ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱｻｰｸﾙ 運営指導：岡野聡子
１２　定常化時代に対応する幸福を志向する増進型地域福祉の研究報告書	共著	令和4年9月	増進型地域福祉研究会	本報告書は、JSPS 科研費 JP19K02214 の「定常化時代に対応する幸福を志向する増進型地域福祉の研究」にて、2019 年度－2021 年度（2022 年度延長）の研究成果を掲載した報告書である。 A5 判　全 274 ページ 編集者：小野達也 執筆者：朝倉美江、柴田学、石川久仁子、岡野聡子、渡辺晴子
１３　令和 4 年度（2022）読み聞かせボランティア支援および質向上のための研修プログラム開発 1 報告書	共著	令和5年12月	大阪信愛学院大学	本報告書は、JSPS 科研費 JP22K02401 の「読み聞かせボランティア支援および質向上のための研修プログラム開発」(2022 年度－2024 年度）にて、2022 年度の研究成果を掲載した報告書である。 A4 判　全 56 ページ 編集者：谷原舞、岡野聡子
１４　科研 22ｋ01968 基盤研究（Ｃ）2022-2024 年度「幸福を志向する増進型地域福祉の実践方法開発に関する研究」2023 年度報告書	共著	令和6年3月	増進型地域福祉研究会	本報告書は、JSPS 科研費 JP22K01968 の「幸福を志向する増進型地域福祉の実践方法開発に関する研究」(2022 年度－2024 年度）にて、2023 年度の研究成果を掲載した報告書である。 A5 判　全 274 ページ 編集者：小野達也 執筆者：朝倉美江、渡辺晴子、石川久仁子、岡野聡子、柴田学

別記様式第４号（その２）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　研　究　業　績　書

令和 ６年 ３月３１日

氏名　　岡野　由美子

研　究　分　野	研究内容のキーワード
特別支援教育	発達障害の教育課程と指導法に関する研究 通級による指導の効果的な指導方法に関する研究 発達性読み書き障害に関する指導法についての研究

教　育　上　の　能　力　に　関　す　る　事　項

事項	年月日	概　　要
１　教育方法の実践例 ・児童の行動の背景を理解し、支援につなげる工夫に関する実践	平成 19 年４月～27 年３月	特別支援教育コーディネーターとして、各学級の観察や情報共有、校内研修を通して、児童の行動理解を図り、教職員の特別支援教育についての理解を深め、資質の向上に努める工夫 （兵庫県佐用郡佐用町立上月小学校での実践）
・児童の行動の背景を理解し、支援につなげる工夫	平成 19 年４月～27 年３月	特別支援教育コーディネーターとして、各学級の観察や情報共有、校内研修を通して、児童の行動理解を図り、教職員の特別支援教育についての理解を深め、資質の向上に努める工夫 （兵庫県佐用郡佐用町立上月小学校での実践）
・小学校における特別支援学級新設にかかる理解啓発の工夫	平成 23 年４月～25 年３月	特別支援学級について、全校の児童が通常の学級と同様にその存在を知り、認め、ともに生きることを理解するための、啓発や理解についての工夫 （兵庫県佐用郡佐用町立上月小学校での実践）
・読み書きにつまずきのある児童への配慮の工夫	平成 26 年４月～27 年３月	通常の学級に在籍する学習障害のある児童への配慮事項について、保護者との合理的配慮の提供にかかる合意形成の図り方、通常の学級の他の児童への理解啓発の授業実践の工夫 （兵庫県佐用郡佐用町立上月小学校での実践）
・社会で出会う、発達障害のある人についての理解と適切な関わりのあり方についての実践方法	平成 31 年４月～現在に至る	奈良学園大学人間教育学部人間教育学科４年次生の学生に対し、発達障害のある人について、その基本的な障害特性の理解や合理的配慮の提供について、また適切なかかわり方について、事例を下に考え、理解を図るための工夫について指導を行った。擬似体験や話し合いを行い、障害についての理解を図り、卒業後の実践的な力となるような内容とし、より良いかかわり方や多様性を認める社会のあり方など、基本的な理解が出来るようになった。 （奈良学園大学人間教育学部での実践）
・知的障害をはじめとする障害のある児童生徒に対する指導法に関する授業実践	令和３年 10 月～現在に至る	奈良学園大学人間教育学部人間教育学科の特別支援学校教員免許取得希望学生に対し、障害特性の理解とともに、その障害特性に応じた指導方法の工夫や支援のあり方について、授業を行った。模擬授業やグループ討議など、参加・体験型の授業展開により、学生の主体的、対話的な学びを深めることができた。さらに、毎時間授業のリフレクションなどから学生の疑問に対しコメントや更なる情報提供に努め、可能な限りフィードバックに努めた。（奈良学園大学人間教育学部での実践）
２　作成した教科書，教材 (1)特別支援教育概論（共著） 発行：ERP 出版 【再掲】	平成 31 年３月	小中学校の特別支援の各障害についての特徴の説明。障害の応じた教育課程編成とその指導法について記した。人間教育学ゼミナールⅠにおいて使用し、障害特性の理解の資料として使用した。

(2)特別支援学校教育実習の手引き（単著） 【再掲】	令和５年３月	特別支援学校で実施する教育実習に関し、実習中におけるマナー、心得、授業研究に向かう取り組みや教材研究、児童生徒理解についてなど、事前指導、事後指導において授業として使用するためのテキストを作成した。
３　教育上の能力に関する大学等の評価 (1)奈良学園大学ゲスト講師　学生の授業評価アンケート	平成 31 年１月	奈良学園大学人間教育学部で特別支援の必要な児童生徒の教育課程と学校行事への参加の指導方法について特別講義をした。児童生徒の個別の対応の重要性を理解したという意見が多かった。4 点満点で４の評価だった。
(2)奈良学園大学人間教育学部　授業評価アンケート	令和２年 12 月	対面とオンライン併用の授業となったが、個別の疑問などを次の授業でフィードバックするなど、学生のニーズに応える授業展開を行い、「現代教育課題 A（不登校・いじめ)」において、講義内容に関するアンケートを実施した。受講者 64 名の総合的満足度 4.5(5 段階評価)で、学校における諸問題とその対応について、概ね理解ができたなど高評価を得た。
	令和５年	「発達障害教育総論」において、発達障害のある児童生徒の心理生理や教育課程と指導について講義を行った。概ねわかりやすく資料の提示も読みやすいという声があり、受講者 39 名中 33 名から回答があり、総合的満足度は 4.6（５段階評価）であった。
４　実務の経験を有する者についての特記事項 (1) 校内適正就学指導研修会助言者 「一人一人の教育的ニーズに応じた指導・支援についての検討」	平成 19 年 4 月～平成 27 年 3 月 合計 23 回実施	兵庫県内の様々な学校において校内の各学級の担任から、気になる児童についての情報を集め、その状態から考えられる要因と指導・支援について、個別検討を行った。
(2)兵庫県佐用郡佐用町立上月小学校研修講師 「子どもの行動には理由があります」 対象：上月小学校教員等 14 名 場所：上月小学校	平成 26 年４月	知的特別支援学級が新設されるにあたり、知的障害の基礎的な理解と、自閉症を併せ有する児童の実態から、教職員の関わり方や全児童への理解や啓発の方法について、講義を行った。
(3)奈良県大和郡山市特別支援教育研修会講師 「特別な支援を要する児童生徒の理解と支援について」 対象：奈良県教諭 30 名 場所：大和郡山市役所	平成 26 年７月	通常の学級に在籍する発達障害のある児童生徒の基本的理解とその具体的な指導・支援の方法について 読み書きの躓きの要因について、事例をもとにした指導とその効果について資料を準備し講演した。
(4)兵庫県佐用郡佐用町立上月小学校研修講師 「ディスレクシア（発達性読み書き障害）について―C 児の特性の理解と配慮事項について―」 対象：上月小学校教員等 14 名 場所：上月小学校	平成 26 年８月	通常学級に在籍し、LD（学習障害）の診断のある C 児について、その障害特性についてと、ルビふりや教科書の拡大コピーなど、授業における配慮事項について、全職員の共通理解を図った。
(5)佐用町特別支援教育コーディネーター研修会 「特別支援教育にかかる教員長期研修派遣報告」 対象：佐用町立小中学校管理職及び特別支援教育コーディネーター20 名 場所：佐用町立久崎小学校	平成 26 年８月	平成 25 年度、1 年間大阪教育大学特別支援教育特別専攻科において、取り組んだ研究、研修についての報告会。佐用町から、本事業に参加した教員はこれまでにはいなかったため、この事業の概要の説明と、学んだ授業の具体的なシラバスや、研究内容について報告を行った。
69)沖縄県那覇市　一般社団法人ゆうありてぃ研修会　講師 「「見る」アセスメントから支援を考える」 対象：一般社団法人ゆうありてぃ職員、利用者、保護者等　60 名 場所：沖縄県総合福祉センター	平成 26 年８月	発達につまずきのある児童の「見る」力に焦点を絞り、そのアセスメントの意味と方法、解釈についてと、指導事例について、資料を作成し、講義を行った。

(7)播磨発達支援研究会　講師 「発達障害のある児童の「見る」アセスメントから支援を考える」 対象：播磨発達支援研究会会員　12 名 場所：相生市生きがい交流センター	平成 27 年６月	「見る」ことから「読む」ことへの一連の情報処理過程のメカニズムとそのつまずきについて、アセスメントの方法や解釈についてと、実際の指導例を提示し、資料を元に講義を行った。
(8)佐用町特別支援教育研修会講師 「特別な支援を要する児童生徒の指導」～自立活動のあり方～」 対象：兵庫県管理職及び教諭 20 名 場所：佐用町南光文化会館	平成 27 年７月	特別支援学級の教育課程の法的根拠と、教育課程の組み方、知的障害のある児童生徒の教育課程の構造についてと、自立活動の区分、項目の詳細の説明と具体的な指導内容の事例を挙げて、資料準備して助言を行った。
(9)天理市立井戸堂小学校校内研修会講師 「発達障害のある子どもの理解と支援～子どもの「見る」力のアセスメント～ 対象：天理市管理職及び教諭 12 名 場所：天理市立井戸堂小学校	平成 27 年８月	読み書きに躓きのある児童生徒の指導・支援について「読む」ために必要な視知覚、認知能力、情報処理過程の理解と、「見る」力のアセスメントの方法について、また、その具体的な支援についての理解について資料を用意して論じた。
(10)姫路市通級担当者研修会講師 「視知覚関連のアセスメントについて ～WAVES の結果の解釈～」 対象：兵庫県立特別支援学校教諭及び特別支援担当教諭 14 名 場所：姫路市総合教育センター	平成 28 年６月	「見る」力や「読み書き」につまずきのある児童生徒の実態を把握するためのアセスメント「WAVES」 の内容と、基本的な解釈についての講義を行った。また、その結果についての評価、解釈と事例検討も資料を準備し行った。
(11)臨時的任用教員研修会特別支援教育講師 「合理的配慮の提供とユニバーサルデザインによる授業について」 対象：兵庫県臨時講師 60 名 場所：兵庫県姫路総合庁舎	平成 27 年７月	通常の学級に在籍する学習や生活につまずきのある児童生徒の理解と、その指導・支援についてユニバーサルデザインの考え方に基づく学級づくり、学習指導の方法の工夫と、個別に配慮の必要な児童生徒の行動、学習面の困難さの理解を深めるために資料を準備して指導した。
(12)たつの市特別支援教育研修会講師 「特別な支援を要する児童生徒の自立活動のあり方」 対象：たつの市立小中学校特別支援学級担任 30 名 場所：たつの市教育委員会	平成 28 年８月	特別支援学級の教育課程の法的根拠と、教育課程の組み方、知的障害及び肢体不自由のある児童生徒の教育課程の構造について「合わせた指導」の具体的内容について「自立活動」の区分、項目の詳細の説明と具体的な指導内容の事例を挙げて、資料を準備し講演した。
(13)神河町全教職員研修会講師 「発達障害のある児童生徒の理解と学級づくり」 対象：神河町小中学校全教職員、教育委員、教育委員会担当者約８０名 場所：神河町立神河中学校	平成 28 年８月	通常の学級の担任に必要な特別支援児童生徒理解のあり方やアセスメントについて　児童生徒の問題行動の背景にある原因についての理解と、その上にたった指導・支援のあり方について資料を基に講話した。
(14)西播磨地区学校生活支援教員等研修会講師 「通級指導のあり方～教育課程と自立活動のあり方～」第１回 対象：西播磨地区小中学校生活支援教員及び特別支援学校教員 場所：兵庫県立西はりま特別支援学校	平成 28 年９月	通級による指導について、その目的、対象となる児童生徒、指導時間等の法的根拠に基づいた制度の理解、目標と評価について指導した。さらに対象となる児童生徒の実態把握の方法と、自立活動の具体的な内容について指導例を準備して講演した。
(15)揖龍地区特別支援コーディネーター研修会講師 「通級指導教室と通常学級の連携の意義とその方法について」 対象：特別支援教育コーディネーター４０名 場所：たつの市立小宅小学校	平成 29 年１月	特別支援に係る児童生徒の自立と社会参加のための連携の必要性について　通級指導の開始と終了、目標の設定と評価などの意味や意義について、学校内の理解啓発の方法について、資料を準備し講演した。
(16)教職経験者（２年次）研修全体研修講師 「保護者との連携」 対象：兵庫県特別支援学校教員２年次研修対象者 70 名 場所：兵庫県立特別支援教育センター	平成 29 年５月	障害のある子どもの保護者の心理的側面の理解と、よりよい協働のあり方について、事例検討を取り入れた資料を作成し、講義を行った。
(17)兵庫県立但馬農業高等学校講師 「授業のユニバーサルデザイン化とは」 対象：兵庫県立但馬農業高等学校教職員 40 名 会場：兵庫県立但馬農業高等学校	平成 29 年６月	発達障害のある生徒の基本的理解と、どの生徒にもわかりやすい授業という視点での授業改善の工夫について、ユニバーサルデザインの考え方の理解について資料を準備し講演した。

(18)通級指導担当教員研修講座講師 「教育課程と自立活動」 対象：兵庫県小中学校通級担当教員　73 名 会場：兵庫県福祉センター	平成 29 年６月	通級による指導の制度、目標、指導内容について学び、自立活動について、区分、項目ごとの具体的指導内容について、資料を作成し講義を行った。
(19)猪名川町スクールアシスタント研修講師 「特別な支援を要する児童・生徒の理解と支援 ～スクールアシスタントとしての支援 Vol.1～」 対象：猪名川町　スクールアシスタント 15 名 会場：猪名川町役場	平成 29 年８月	通常学級に在籍する発達障害のある児童生徒についての理解・支援のあり方についてと、学級担任との連携のあり方や大切さについて、資料を作成して講義を行った。
(20)猪名川町初任者研修講師 「特別な支援を要する児童・生徒の指導、支援」 対象：猪名川町小中学校初任者 11 名 会場：猪名川町役場	平成 29 年８月	LD 等の心理的疑似体験を通して、書けない、読めないなどの困難さのある児童生徒の心理状態を理解するとともに、児童生徒の行動からその原因を探る方法について、演習を行った。
(21)教職経験者（２年次）研修全体研修講師 「特別支援学校の学級経営と児童生徒理解」 対象：兵庫県特別支援学校教員２年次研修対象者 70 名 場所：兵庫県立特別支援教育センター	平成 29 年８月	特別支援学校の学級担任として、個別の指導、支援のあり方と学級集団の指導について、また、児童生徒の理解のあり方について、資料を作成し、講義を行った。
(22)兵庫県播磨西地区サポートネット会議研修会講師 「兵庫県の通級指導の現状と課題」 対象：播磨西地区サポートネット会議会員 60 名 会場：姫路総合庁舎	平成 29 年８月	通級による指導に関する現状と、通級による指導が児童生徒の自立と社会参加に対してどのような役割を担っているのか、ということを、学習指導要領や文部科学省の調査結果等を用いて資料を作成し、講義を行った。
(23)兵庫県播磨西地区学級経営（特別支援教育）研修会講師 「新学習指導要領と個別の指導計画」 対象：播磨西地区小中学校特別支援学級担任および通級指導教室担当者　約 170 名 会場：あいめっせホール	平成 29 年８月	特別支援学級の教育課程の編成のポイントや、自立活動の区分と項目の整理、特に知的障害のある児童生徒の教育課程の構造について、資料を作成し、講義を行った。
(24)姫路市通級担当者研修会講師 「視知覚関連のアセスメントについて～WAVEWS の結果の解釈」 対象：兵庫県立特別支援学校コーディネーター及び姫路市通級指導教室担当者 18 名	平成 29 年９月	「見る」力と「読み書き」に躓きのある児童生徒の実態を把握するためのアセスメント「WAVES」の内容と基本的な解釈についての講義を行った。 また、その結果についての評価、解釈と事例検討について、資料を作成し、講義を行った。
(25)佐用町コーディネーター研修会講師 「特別な支援を要する児童生徒の指導・支援について」 対象：佐用町特別支援教育ネットワーク会議会員 35 名 会場：佐用町教育委員会	平成 29 年９月	学習指導要領の改訂のポイントについてと、コーディネーターとしての校内支援のあり方、関係機関との連携のあり方等について、資料を作成し、講義を行った。
(26)篠山市・丹波市通級指導教員研修会講師 「通級による指導に期待されること～自立活動の具体的指導方法～」 対象：丹波市、篠山市通級指導教室担当者 教育委員会指導主事、特別支援学校教諭 25 名 場所：柏原住民センター	平成 29 年 12 月	通級による指導における、現場や高等学校における通級による指導の兵庫県における動向についてと、児童生徒の実態把握を元にした自立活動の選定や指導について、資料を作成し、講義を行った。
(27)特別支援教育士長崎支部会員研修会講師 「やってみよう事例検討　～アセスメントから指導計画へ～」 対象：特別支援教育士(S.E.N.S)長崎支部会員 70 名 会場：長崎大学	平成 29 年 12 月	学習や生活に困難を示す児童生徒のアセスメントから、指導計画を作り出すための、ケース検討をした。 WISC-Ⅳ、DTVP2 などのフォーマルアセスメントと、児童生徒や担任、保護者等からの聞き取り、観察を総合的にアセスメントし、通級指導教室、通常学級、保護者それぞれについて、指導目標を考える方法等について資料を準備し講演した。
(28)猪名川町スクールアシスタント研修講師 「特別な支援を要する児童・生徒の理解と支援 ～スクールアシスタントとしての支援～Vol.2」 対象：猪名川町　スクールアシスタント 15 名 会場：猪名川町役場	平成 29 年 12 月	LD 等の心理的疑似体験を通して、書けない、読めない困難さのある児童生徒の心理状態を理解するとともに、２学期を終えた時点での振り返りと３学期に向けての目標の設定について考えた。また、行動の理由を見るポイントについて、資料を作成し、講義を行った。

(29)兵庫県淡路教育事務所特別支援学級教育課程研修会講師 「特別支援学級の教育課程の編成や年間計画について」 対象：淡路地区小学校、中学校特別支援学級担任、特別支援教育コーディネーター50 名 会場：淡路市役所	平成 30 年１月	特別支援学級の教育課程の構造についてと、自立活動の目標と内容、指導について、学習指導要領の海底のポイントについて、資料を作成して講義を行った。
(30)上郡町立山野里小学校校内研修講師 「特別な支援を要する児童の、特別の教科道徳の指導について」 対象：上郡町立山野里小学校教職員 24 名 会場：上郡町立山野里小学校	平成 30 年２月	特別支援学級在籍児童の、交流学級における特別の教科道徳について、特別支援学級担任の支援についてや、交流学級担任との連携のあり方などについて、資料を作成し、講義を行った。
(31)通級指導担当教員研修講座講師 「教育課程と自立活動」 対象：兵庫県小中学校通級担当教員　73 名 会場：兵庫県福祉センター	平成 30 年６月	通級による指導の制度、目標、指導内容について学び、自立活動について、区分、項目ごとの具体的指導内容について、資料を作成し講義を行った。
(32)新任特別支援学級担当教員研修講座講師 「障害に応じた教育課程の編成と自立活動の指導」 対象：兵庫県小中学校特別支援学級担当教員 500 名 会場：兵庫県福祉センター 神戸市勤労市民センター	平成 30 年６月	初めて特別支援学級の担当をする教員対象に、特別支援学級の教育課程の編成について、障害特性の理解と、実態把握、自立活動の指導について、資料を作成し、講義を行った。
(33)兵庫県立東播工業高等学校カウンセリングマインド研修講師 「障害特性の理解と支援のあり方について」 対象：県立東播工業高等学校教職員 24 名 会場：県立東播工場高等学校	平成 30 年６月	発達障害の基礎的な理解と疑似体験を通じて生徒の心理状態を理解するとともに、効果的な指導、支援のあり方について、資料を作成し講義を行った。
(34)兵庫県播磨西地区学級経営（特別支援教育）研修会講師 「新学習指導要領移行期のポイントと個別の指導計画」 対象：播磨西地区小中学校特別支援学級担任及び通級指導教室担当者 170 名 場所：姫路市民会館大ホール	平成 30 年７月	特別支援教育に関する、学習指導要領改訂のポイントと、自立活動における個別の指導計画の作成について、資料を作成し講演した。
(35)赤穂市立赤穂中学校校内研修講師 「特別支援生徒の進路についての合理的配慮とは」 対象：赤穂中学校教員及び管理職 30 名 場所：赤穂市立赤穂中学校	平成 30 年８月	中学校の通常学級に在籍する発達障害のある生徒についての理解・啓発を他の生徒に行う方法、進学に向けての合理的配慮の提供に関する考え方について、資料をもとに講演した。
(36)佐用町教育研究所研修会講師 「特別支援教育の具体的な進め方」 対象：佐用町教育研究所所員、小学校・中学校教職員　30 名 場所：佐用町教育委員会	平成 30 年８月	学習指導要領の海底のポイントと、各教科等の指導における配慮事項などの工夫や、指導・支援の工夫について、疑似体験や、スリットの作成など、事例や実技などを取り入れながら理解を深めるように資料を作成して講義を行った。
(37)高等学校における通級による指導実践研究事業校内研修会講師 「発達障害のある子を理解するには」 対象：兵庫県立西脇北高等学校教員　40 名 場所：兵庫県立西脇北高等学校	令和元年６月	高等学校における通級による指導が開始され、二年目となる。発達障害のある生徒の他にも、自傷行為、非行行為等様々な課題のある生徒指導面での対応とともに、発達障害を理解し、その指導について理解できるよう、疑似体験を取り入れるなどして講義を行った。
(38)相生市特別支援教育研修講座 「通常の学級における指導・支援～通級による指導との効果的な連携～」 対象：相生市学校園教職員 45 名 場所：相生市文化会館　なぎさホール	令和元年７月	通常の学級に在籍する児童生徒の行動面のつまずきについて、応用行動分析の考え方をもとに、行動の原因やその結果についての観察の方法や行動変容につながる指導について、資料をもとに講義を行った。通級による指導についても、位置付けや通常学級との連携について理解を図った。
(39)姫路市立中学校特別支援教育コーディネーター研修会 「特別支援教育コーディネーターの役割」 対象：姫路市内中学校教員、特別支援学校教員 70 名 場所：姫路市立書写養護学校	令和元年７月	特別支援教育コーディネーターは学内人事であり、担当者が固定されているわけでは無い。そのため、その業務の引き継ぎが十分でない、仕事が円滑に進められないなど様々な課題があり、それが校内の特別支援教育の推進において弊害となっているケースもある。どのように円滑に業務を進めていけるか、実習を入れ、講義を行った。

(40)明石市特別支援研修講座 「WISC-Ⅳ等発達検査について詳しく知ろう」 対象：あかし市教育研修所特別支援教育希望者　12名 場所：明石市立明石養護学校	令和元年８月	特別な支援を要する児童生徒が、その発達の凹凸やつまずきの要因を探るために医療機関等で実施される各種の検査結果の報告について、どのように読み取り支援に生かすかということについて、資料をもとに講義を行った。支援に生かす方法について理解を深めることができた。
(41)神崎郡小中学校特別支援教育研修会 「LD、ADHD の児童生徒に対する支援等について」 対象：神崎郡小中学校特別支援教育担当者等　４０名 場所：神河町大河内保健福祉センター	令和元年８月	発達障害のある児童生徒の指導、支援の具体的なあり方について、資料をもとに講義を行った。 障害特性の理解と、ユニバーサルデザインの授業の基本的な考え方等について理解啓発を図った。
(42)佐用町教育研修所特別支援教育研修講座 「特別な支援を要する子どもたちを「理解する」とは・・」 対象：佐用町小中学校教員　１７名 場所：佐用町役場	令和元年８月	特別な支援を要する児童生徒の発達検査等の所見をもとに、その困難さの理解と具体的な支援方法について、講義を行った。障害理解を考えるために疑似体験等を取り入れ、正しく理解することの大切さについて資料をもとに講義をした。
(43)太子町教職員研修 「すべての教職員のための特別支援教育をふまえた授業作り」 対象：太子町立幼小中学校教職員　240 名 場所：太子町文化会館	令和元年８月	通常の学級に在籍する学習や生活に困難を示す児童生徒について、どのように観察し、つまずきの原因を探るかということや、通常学級の授業作りについて、事例をもとに実践的な内容として、資料をもとに講義を行った。
(44)高等学校における通級による指導実践研究事業校内研修会 「高等学校における通級指導について」 対象：兵庫県立宝塚西高等学校教職員、保護者　40名 場所：兵庫県立宝塚西高等学校	令和元年８月	高等学校における通級による指導が始まり、対象校でも二年目を迎えているが、その指導のあり方について校内で共通理解を深めるため、概要について講義を行った。自立活動や個別の指導計画に基づいた指導のあり方について、資料を作成し、講義した。
(45)あかし教育センター「特別支援教育研修講座」 「WISC-Ⅳ等、発達検査の結果から具体的支援につなげるために」 対象：明石市小中学校教職員　５０名 場所：あかし教育研修センター	令和元年 10 月	発達検査の所見は、特別な支援を要する児童生徒の保護者から情報提供として受け取り、見ることが多くなった現在の学校現場であるが、それを読み解き、支援につなげることができなければ活用できたとは言い難い。本講義において、その基本的な解釈の仕方や、その支援方法について事例をもとに講義を行った。
(46)但馬地域特別支援連携協議会　指導助言 「早期からの教育相談・支援体制の充実に向けて」 対象：但馬地域特別支援連携協議会　委員 26 名 場所：兵庫県豊岡総合庁舎	令和元年 11 月	早期からの教育相談や支援体制について、各関係機関から委嘱された委員により、情報共有がなされた。就学前の段階で、どれくらい保護者に情報を発信し、より適切な支援を受けられる関係機関と連携をとるかという課題について大切さについて特別支援学校との連携などリソースの活用について等、助言を行った。
(47)特別支援教育士資格認定協会第１３回 S.E.N.S 養成セミナー指導実習 対象：特別支援教育士養成セミナー参加者　70 名 場所：スペースアルファ神戸	令和元年 12 月	特別支援教育士資格取得のための、２泊３日の研修講座の担当講師として運営、講義等を行った。 グループ内でのアセスメント解釈や個別の指導計画作成に関し、適宜助言を行った。また、最終試験に向けての個々の課題についての助言等を行った。
(48)西播磨地区高等学校における通級による指導合同研究会 「発達段階に応じた通級の指導」 対象：兵庫県西播磨地区小中高等学校教職員、福祉関係担当者等　　７８名 場所：兵庫県立太子高等学校	令和２年１月	各学校種別ごとに、通級による指導が行われている。それぞれの発達段階を理解し、今在籍している学校の先にどんな教育が展開されるのか、将来の社会参加に向けてどんな力が必要となるのかなどについて、資料をもとに講義を行った。
(49)兵庫県高等学校生徒指導協議会阪神支部協議会 「特別な支援が必要な生徒への対応について」 対象：阪神地区生徒指導担当教員　60 名 場所：兵庫県立宝塚西高等学校	令和２年２月	問題行動等、生徒指導上課題となる生徒の行動の原因となっていることがある発達障害について、どのように理解し、対応すればよいかといことについて、資料をもとに講義を行った。
(50)高等学校における通級による指導校内研修会 「インクルーシブ教育と合理的配慮」 対象：兵庫県立西脇北高等学校教職員 40 名 場所：兵庫県立西脇北高等学校	令和元年２月	年度内の校内研修の２回目である。通級による指導の対象となる生徒の理解について、応用行動分析の考え方をもとに、事象に対して注意や叱責をするのではない関わり方について資料をもとに講義を行った。

(51)神崎郡中学校特別支援教育研修会 「通級指導教室と通常学級の効果的な連携について」 対象：神崎郡中学校通級指導担当者等　20 名 場所：兵庫県福崎町立福崎西中学校	令和 2 年 2 月	中学校における通級による指導のあり方について、また、通常学級との連携についてその意義や具体的指導について、資料をもとに講義を行った。
(52)第 4 回特別支援教育西播磨地域連携研修会指導助言 対象：兵庫県西播磨地域通級指導担当教員、特別支援学校教員　30 名 場所：兵庫県立西はりま特別支援学校	令和 2 年 2 月	通級による指導の実践報告が小学校、中学校の担当教員からなされた。将来の自立に向けた視点を持つことの重要性、通級指導が通級指導だけで実施するのではなく、通常学級との連携が不可欠となることなどについて、助言を行った。
(53)兵庫県立上郡高等学校カウンセリングマインド職員研修会講師「発達障害のある生徒に対するカウンセリングマインド」 対象：兵庫県立上郡高等学校教員、50 名 場所：兵庫県立上郡高等学校	令和 2 年 8 月	発達障害の診断はないものの、中学時代から問題行動があったり、不登校や留年などの課題の多い生徒について、どう理解し、支援していけば良いか、資料に基づき講義を行った。
(54)兵庫県立西神戸高等特別支援学校校内研修講師「研修・研究とは」 対象：兵庫県立西神戸高等特別支援学校教員　53 名 場所：兵庫県立西神戸高等特別支援学校	令和 2 年 7 月	新設４年目を迎え、特別支援教育の校内の充実を図るため、研修体制を構築し、全職員で同じテーマに向けたそれぞれの研修の深め方、進め方について、講義を行った。
(55)高等学校における通級による指導実践研究事業指導助言 対象：兵庫県立西脇北高等学校教員　10 名 場所：兵庫県立西脇北高等学校	令和 2 年 8 月	高等学校における通級による指導の実施校における、通常の学級の授業の方法、支援の工夫などのあり方について、授業参観をした後に指導助言を行なった。
(56)兵庫県立特別支援教育センター研修講座　通級指導教室担当教員研修　講師 対象：兵庫県内通級指導担当教員　194 名 場所：神戸市教育会館、兵庫県民会館	令和 2 年 10 月	通級による指導を担当する、兵庫県内の全教員に対し、発達障害のある児童の障害特性の理解と、的確なアセスメントによる目標設定や自律活動の指導・支援の充実について、資料を用いて講義と演習を行った。
(57)但馬地域特別支援連携協議会　指導助言 「幼児児童生徒の就労、進学等を見据えた支援の在り方について」 対象：但馬地域特別支援連携協議会　委員 26 名 場所：兵庫県豊岡総合庁舎	令和 2 年 11 月	特別支援学校の支援部、ハローワークからの現状の報告があった。就労についての難しさと先を見据えた支援の大切さ、福祉関係の支援について、幼小中学校との連携について、助言を行った。
(58)ひょうご専門家チーム派遣事業 対象：尼崎市立尼崎北小学校教員３名 場所：尼崎市立尼崎北小学校	令和 2 年 11 月	通級指導担当教員による、通級の指導の実際を参観し、対象児童の支援のあり方について、ケース検討を実施した。自立活動の内容や目標の設定、教師の関わり方について、評価するとともに、今後の目標について助言を行なった。
(59)ひょうご専門家チーム派遣事業 対象：神戸バイリンガルスクール教員８名 場所：神戸バイリンガルスクール	令和２年 12 月	バイリンガルスクールに通う、小学校１年生女児のケースについて、授業の様子の参観のあと、指導支援の方法や体制の整え方などについて助言を行なった。

(60)あかし教育研修センター講師派遣「特別支援教育研修会」講師 対象：明石市立大蔵中学校　教員 35 名 場所：明石市立大蔵中学校	令和３年２月	中学校における特別支援教育、ユニバーサルデザインの授業について、資料を元に講義を行った。
(61)特別支援学級カリキュラム検討委員会講師 対象：神崎郡市川町立市川中学校教員５名 市川町立甘地小学校教員１名 場所：神崎郡市川町立市川中学校	令和３年３月	特別支援学級の教育課程のあり方や、その設定方法、自律活動の授業の内容など、各学校の抱えている課題について、ケースを元に検討を行った。
(62)南あわじ市立広田中学校校内研修講師 対象：南あわじ市立広田中学校教員　１７名 場所：南あわじ市立広田中学校	令和３年７月	愛着障害の可能性のある生徒との関わり方や、発達障害との違い、支援について、資料をもとに講義を行った。
(63)赤穂市特別支援教育自主的研究推進事業夏季研修会講師 対象：赤穂市特別支援教育担当教員　30 名 場所：赤穂市民会館	令和３年８月	「ユニバーサルデザインの視点を活かした学級づくり、授業づくり」として、すべての児童にわかりやすい授業の工夫や、安心して過ごせる学級づくりについて資料をもとに講義を行った。
(64)神崎郡小中学校特別支援教育夏季研修会講師 対象：神崎郡小中学校教職員　170 名 場所：神崎郡市川町立市川中学校	令和３年８月	通常の学級担任や管理職など、特別支援教育の担当者ではない教員が、通級による指導とはどのようなもので実際にはどのような指導をする場所なのか、という基本的な内容から、実際の指導について、資料を作成し講義を行った。
(65)高等学校における通級による指導実践合同研究会講師 対象：神戸市立湊川高等学校通級担当教員、神戸市内小中学校教員他、約 60 名 場所：オンライン研修	令和３年８月	高等学校における通級による指導についてと、それぞれの発達段階に応じた効果的な指導・支援のあり方について、資料をもとに講義を行った。
(66)兵庫県淡路地区学級経営（特別支援教育）研究会講師 「児童生徒の障害の状態を踏まえた教育課程の編成について」 対象：淡路地区特別支援学級担当教員、特別支援教育担当教員　　111 名 場所：オンライン研修	令和３年８月	児童生徒の障害の状態を踏まえた教育課程の編成について、個別の教育課程の作成、個別の指導計画、教育支援計画の作成、読み取りなど、実際的な内容について資料を作成し、講義を行った。
(67)兵庫県播磨西地区学級経営（特別支援教育）研究会講師 対象：播磨西地区特別支援教育担当教員　520 名 場所：姫路市市民会館大ホール	令和３年９月	特別支援教育担当教員に対し、特別支援教育における今日的な課題について、主に「自立活動」のあり方や、実態把握についてなど、講義を行った。
(68)淡路地区学校経営（校長）研修会講師 対象：淡路地区小中学校校長、市組合教育委員　90 名 場所：淡路文化会館	令和３年 10 月	特別支援教育の視点を活かした学校経営のあり方や、チーム学校としての特別支援教育への取り組み方についてなど、資料を作成し講義を行った。

(69)但馬地域特別支援連携協議会　指導助言 「子どもを中心に据えた学校と福祉の連携による支援の在り方について」 　対象：但馬地域特別支援連携協議会委員　26 名 　場所：豊岡総合庁舎	令和 3 年 11 月	学校と福祉の連携は、「トライアングル・プロジェクト」として政策が掲げられるなど喫緊の課題である。その取り組みについて各機関からの実践発表を聞き、指導助言を行った。学校側からみた視点と関係機関からの視点の違いなど、多面的にとらえる必要性について助言した。
(70)姫路市特別支援教育コーディネーター研修講師 「通級による指導～一人ひとりの状況に応じた指導や配慮」」 　対象：幼小中義高特別支援学校の特別支援教育コーディネーター　70 名 　場所：姫路市立総合教育センタークレアホール	令和 3 年 11 月	通級による指導について、自立活動を中心とした具体的な指導の実際を例を挙げ、講義を行った。
(71)明石市スーパーバイザー派遣事業　講師 「インクルーシブ教育時代における特別支援教育」 　対象：明石市立鳥羽小学校教職員 20 名 　場所：明石市立鳥羽小学校	令和 4 年 1 月	特別支援学級、通級による指導、通常の学級などさまざまな教育の場における特別な指導のあり方について、具体例を挙げながら資料をもとに講義を行った。
(72)兵庫県立特別支援教育センター　担当者研修 　新任特別支援学級担当教員等研修　講師 　「自立活動・障害に応じた教育課程の編成」 　対象：兵庫県内新任特別支援学級担当教員　約 500 名　オンライン研修	令和 4 年 4 月	初めて特別支援学級の担任となる兵庫県内の教員を対象に、特別の教育課程の編成についてや自立活動の内容と選定方法等について、資料を作成し講義を行った。
(73)丹波教育事務所学級経営（特別支援教育）研修会講師 「特別支援学級の教育課程について」 　対象：丹波地区特別支援学級担当教員　約 50 名 　場所：丹波市山南住民センター	令和 4 年 6 月	児童生徒の実態に応じた特別支援学級の教育課程の編成について講義を行った。個別の指導計画の見直し、実態の把握について、資料を作成し、少人数でのグループ演習を入れながら具体的な内容について研修を実施した。
(74)奈良県教育委員会研修講座 「一人一人を大切にした教育、一人一人を大切にする教育」 対象：奈良県内の特別支援学級担任、通級による指導担当者等　約 50 名 場所：奈良県教育委員会特別支援教育推進室	令和 4 年 6 月	奈良県内の特別支援教育推進室主催の研修講座において、教育課程の編成や個別の実態把握について資料をもとに研修を実施した。
(75)淡路教育事務所（学級経営）研修会講師 「児童生徒の障害の状態に応じた指導内容や指導方法の工夫について」 　対象：淡路地区特別支援教育担当教員　約 60 名 　場所：淡路文化会館	令和 4 年 7 月	淡路地区の特別支援学級担当教員等を対象に、教育課程の編成や実態把握の方法について資料をもとに講義を行った。
(76)三田市立藍小学校校内研修講師 「それぞれに学びのある交流及び共同学習」 　対象：三田市立藍小学校教員　約 20 名 　場所：三田市立藍小学校	令和 4 年 7 月	特別支援学級に在籍する児童の、交流学級における学びとその評価のあり方について、資料を作成し、ケースを取り入れながら研修を行った。
(77)兵庫県高等学校における通級による指導実践研究事業　西播磨地区合同研修会　講師 「一人一人を大切にした通級による指導」 対象：兵庫県西播磨地区高校教員、小中学校教員約 200 名 場所：兵庫県立先端科学技術支援センター	令和 4 年 8 月	高等学校における通級による指導が実施され、軌道に乗りつつある現在、小中学校の通級と高等学校の通級、それぞれのあり方や接続に関し、成果や課題が明らかになりつつある。状況を踏まえ、今後の通級指導のあり方をどう捉えるか、について資料をもとに講義を行った。

(78)兵庫県立神戸特別支援学校カウンセリングマインド研修　講師 「カウンセリングマインドを踏まえた面接練習」 対象：兵庫県立神戸特別支援学校教員　約 60 名 場所：兵庫県立神戸特別支援学校	令和４年８月	特別支援学校教員が、日頃関わる児童生徒や保護者と、より良い関係を築きながら、児童生徒のためにそれぞれが役割を担って教育実践ができるよう、資料を作成し、事例研修を実施した。傾聴に重点を置き、教員がいかに話しを聞きながら相手の立場を理解できるか、という内容で、今後に活かせる内容であるとの声があった。
(79)あかし教育センタースーパーバイザー事業 兵庫県明石市立二見小学校校内研修　講師 「支援を要する児童に対する効果的な学習支援のあり方について」 対象：明石市立二見小学校教員　約 20 名 場所：明石市立二見小学校	令和４年８月	発達障害のある児童や、学習に躓いている児童に対し、効果的な学習支援のあり方とはどのような対応かについて、資料をもとに講義を行った。通常の学級の授業の工夫、支援の方法などについて具体的に話をした。
(80)兵庫県立教育研修所特別支援教育の視点を活かした生徒指導研修講座　講師 「「個」を大切にし認め合える学級「集団」づくり」 対象：兵庫県内小中学校教員　約 70 名 場所：兵庫県立教育研修所	令和４年８月	学級全体をアセスメントし、学習に躓いていたり、長時間集中が難しかったりする児童生徒を含むすべての学級の児童生徒にわかりやすい授業を提供するために、教員がどのような取り組みができるかについて、資料を作成し、講義を行った。
(81)兵庫県神崎郡市川町立こども園職員研修　講師 「特性のある子どもへの関わり方」 対象：市川町内こども園職員　約 40 名 場所：兵庫県神崎郡市川町立いちかわ東こども園	令和４年９月	発達障害のある幼児の障害特性の理解、気づきの視点について、また、小学校に上がる前にどのような力をつけておくと良いか、という点について、資料を作成し講義を行った。
(82)あかし教育センタースーパーバイザー派遣事業 特別支援教育研修講座　講師 「子どものアセスメントと支援について」 対象：明石市内小中学校教員　約 30 名 場所：あかし教育研修センター	令和４年９月	子どもの実態を把握するためのアセスメントについて、大まかに紹介し、使用について概略を理解してもらうよう、資料を作成し、講義を行った。実際の漢字の誤り分析をしていただき、そこから支援に繋げることができるか、グループ演習なども取り入れ、話をした。
(83)あかし教育センタースーパーバイザー派遣事業 授業のユニバーサルデザイン　講師 対象：明石市内小中学校教員　約 30 名 場所：あかし教育研修センター	令和４年 11 月	児童生徒の学習プリントなど、学習成果物の中から、誤りに気づき、それをどのように指導支援するかということについて、資料を作成し、講義を行った。
(84) あかし教育センタースーパーバイザー派遣事象 「学習障害についての指導や配慮」 対象：明石市立鳥羽小学校教員　約 25 名 場所：兵庫県明石市立鳥羽小学校	令和４年１１月	通常の学級における、学習障害のある児童に対する評価と指導支援に活かしていく方法について、具体的な事例を取り入れながら講義を行った。
(85)大和大学 FD 研修会　講師 「発達障害のある学生の理解と対応」 対象：大和大学教職員　約 70 名 場所：大和大学	令和５年２月	発達障害のある学生の理解とその対応のあり方について、大学職員を対象に講演を行なった。 合理的配慮の提供について、大学としてどのような仕組みが必要か、体制づくりの具体について資料をもとに講義を行った。
(86)兵庫県立教育研修所研修講座講師 「自立活動・障害に応じた教育課程の編成」 対象：新任特別支援学級担当教員 約 600 名 オンライン研修	令和５年４月	初めて特別支援学級の担当をする教員を対象に、特別支援学級の特別の教育課程のあり方や実践例、自立活動の内容について資料をもとに講義を行った。

(87)さいたま市特別支援教育コーディネーター研修会講師 「発達障害の理解と支援について」 対象：さいたま市内小中学校・高等、中等教育・特別支援学校コーディネーター　約 190 名 場所：さいたま市大宮国際中等教育学校	令和５年７月	特別支援教育コーディネーターを対象に、発達障害の理解と支援についての講義を行った。経験年数の浅いコーディネーターの先生が資質向上を図ることができるよう、資料を作成し、講義を行った。
(88)淡路教育事務所　学級経営（特別支援教育）研修会講師 「気になる行動から考える適切な支援と指導について」 対象：淡路市内特別支援学級担当教員、学校生活支援教員、関係市教育委員会担当者等　約 100 名 場所：淡路文化会館	令和５年８月	小中学校における特別支援学級の学級経営について、個別の教育支援計画等の資料をもとに、指導支援のポイントなどの講義を行った。
(89)市川町特別支援教育研修会講師 「通級指導等について」 対象：市川町特別支援教育コーディネーター会議関係者　約 20 名 場所：兵庫県神崎郡市川町公民館	令和５年８月	特別支援教育コーディネーターに対し、発達障害等のある児童生徒に、効果的な通級による指導のあり方について、資料を作成し、講義を行った。
(90)佐用町教育研究所特別支援教育講座講師 「通常学級における特別支援児へ、どのように対応すれば良いか」 対象：佐用町内教職員　約 20 名 場所：佐用町教育委員会	令和５年８月	特別支援教育に関心のある町内の教員に対し、通常の学級における特別な支援を必要とする児童生徒への対応のあり方について、講義資料を作成し、講義を行った。
(91)奈良市校長のリーダーシップ研修講座講師 「インクルーシブ教育システム構築に向けた、学校組織マネジメント」 対象：奈良市内公立学校長　約 100 名 場所：奈良市教育センター	令和５年８月	奈良市内の全学校の学校長に対し、インクルーシブ教育システム構築に向けた学校組織のあり方について講義を行った。特別支援教育コーディネーターを中心に据えた、関係機関との連携、組織力の向上について、資料を作成し、講義を行った。
(92)あかし教育研修センター特別支援教育研修講座講師 「児童生徒観察の視点と分析、その後の支援」 対象：特別支援教育講座員約 10 名 場所：明石市立二見中学校	令和５年１０月	特別支援教育に興味のある小中学校、特別支援学校教員を対象に、児童生徒の観察、アセスメントとその分析について資料を作成し、講義を行った。
(93)あかし教育研修センター初任者研修講師 「誰もが過ごしやすい学級づくり～特別支援教育の視点からの授業改善～」 対象：明石市立小・中学校初任者　約 50 名 場所：あかし教育研修センター	令和５年１０月	初任者に向けて、学級経営の中で特別支援の視点を生かした指導支援の方法について、資料を作成し講義を行った。
(94)兵庫県立教育研修所特別支援教育の視点を生かした集団づくり講座講師 「特別支援教育の視点を生かした学級経営」 対象：兵庫県内小中高校特別支援学校教員約 80 名 場所：兵庫県立教育研修所	令和６年１月	研修講座を希望し、受講した教員に対し、学級の中の特別な支援を要する児童生徒の姿を疑似体験を通して体験的に学んでいただき、資料を作成して講義を行った。
(95)いちかわ東・西こども園合同保護者研修会講師 「特別支援教育について」 対象：こども園保育士、保護者　約 50 名 場所：いちかわ東こども園	令和６年２月	就学を控えた園児の保護者と保育士を対象に、小学校入学に向けての準備と、特別支援教育に関する情報を提供し、子どもとの関わり方や支援のあり方について資料を作成し、講義を行った。
５　その他		

(1)日本LD学会広報委員会　副委員長	平成31年５月～現在に至る	日本LD学会広報委員会副委員長として、学会広報誌の発行、ホームページのUD化、国際化についての検討など、計画し、推進している。
(2)但馬地域特別支援連携協議会　学識経験者	令和元年11月～現在に至る	LD、ADHD、高機能自閉症等を含めた特別な教育的支援を必要とする幼児児童生徒への総合的支援体制の整備を図るため、それぞれの期間の役割を明確にするとともに、地域支援のネットワークの構築を図るための協議に参加し総括助言を行なっている。
(3)あかし教育研修センター　スーパーバイザー	平成31年４月～現在に至る	明石市の市立学校園における教育課題解決及び校内研修推進に資するため、派遣申請に応じ、講師として派遣されている。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
１　資格、免許		
小学校教諭１種免許状	平成５年３月	平４小一第１５３７号（大阪府教育委員会）
幼稚園教諭２種免許状	平成５年３月	平４幼二第４７５１号（大阪府教育委員会）
特別支援学校１種免許状（知・肢・病）	平成26年３月	平２５特支第１８３号（大阪府教育委員会）
特別支援教育士スーパーバイザー	平成30年４月	SV１８－０１０（一般財団法人　特別支援教育士資格認定協会）
公認心理師	令和３年２月	第３５７０１号
修士（学校教育学）	令和３年３月	兵庫教育大学大学院学校教育研究科（修第9389号）論題「フォントの読みやすさが読解に及ぼす影響に関する研究～UDフォントの学校現場における有効的活用について～」
２　特許等		なし
３　実務の経験を有する者について特記事項		
(1) 兵庫県教育委員会　特別支援教育特別コーディネーターとしての業務	平成19年４月～27年３月	特別支援教育特別コーディネーターとして講演会の講師を毎年年間３回務めた。また保育園、中学校訪問、療育機関訪問など、各関係機関との連携を図ったり、PTA研修会の立案、実施なども行った。特別支援学級の新設にあたり、書類の作成、保護者との面談、保育所との協議、学級の備品等の購入申請等の業務を担当した。 年間３回、定期的に校内適正就学指導委員会を開催し、校内の特別な支援を要する児童についての共通理解と特別支援教育についての啓発を行った。また、事案によっては、随時開催し、当面の対処についてや関係機関との連絡調整、校内の体制の整備などを行った。
(2) 特別支援学級の担任としての業務	平成23年４月～平成26年３月	自閉症・情緒障害特別支援学級が新設にあたり、新１年生入学前から準備をし、担任となった。教育実習生を受け入れ、特別支援の基礎の講義を行った。就学前から保護者や該当児と面談をし、特別支援学級とはどんな学級なのかを全児童に理解・啓発するための全職員の共通理解を図るなど、担任として円滑に学級運営ができるよう、工夫した。 担任となってからは、在籍児童についての接し方や指導・支援についての職員研修を実施し、交流及び共同学習を積極的に行い、数年後の目標を見据えた学級運営を行った。また、教育実習生を受け入れ、特別支援の基礎的事項を指導した。

(3) 特別支援教育にかかる教員長期研修派遣事業における長期派遣研修参加	平成 25 年 4 月～26 年 3 月	兵庫県教育委員会から大阪教育大学特別支援教育特別専攻科に派遣される。特別支援学校教諭１種免許状（知・肢・病）を取得した。特別支援教育概論、知的障害教育、肢体不自由教育、病弱教育、視覚障害教育、聴覚障害教育、言語障害教育をはじめ、読み書きに関する視覚機能についての研究、また、実地研修として、特別支援学校での教育実習、大阪府内の特別支援学校訪問、通級指導教室訪問、大阪医科大学 LD センター研究協力として読みに関するアセスメント、心理検査の実施などを行った。
(4) 兵庫県教育委員会事務局播磨西教育事務所教育振興課主任指導主事特別支援教育担当としての業務	平成 27 年 4 月～29 年 3 月	◎特別支援教育担当 ・兵庫県県内各地の特別支援教育に関する指導研修講座の講師を務める ・西播磨教育事務所管内の特別支援教育に関する研修講座講師開催及び運営 ・特別支援学級編成及び教育課程編成に係る指導と事務 ・特別支援学級編成の実態調査及び聞き取り ・特別支援学級設置校、学校生活教員配置校訪問調査と指導 ・特別支援教育体制整備状況調査の実施と指導 ・播磨西地区（学級経営）研究会の実施と指導 ◎初任者研修担当 ・地区別初任者研修、一般研修の実施 ・初任者研修にかかる非常勤嘱託員の委嘱事務、派遣 ◎小中一貫教育（義務教育学校）担当 ・小中一貫教育地区別研修会の開催 ◎小学校外国語教育担当 ・英語教育地区別研修会の実施 ◎幼児教育担当（特別支援教育の幼児を含） ・幼児教育研修会の実施 ・幼児教育研究事業にかかる実践研究 ・幼児教育理解推進研修会の実施 ・幼稚園教諭初任者研修の実施
(5) 兵庫県立特別支援教育センター主任指導主事としての業務	平成 29 年 4 月～平成 31 年 3 月	◎特別支援教育に関する研修に係る業務 ・特別支援学校２年次研修会講師 ・新任特別支援学級担当教員等研修講師 ・通級指導教室担当教員等研修講師 ・講師派遣研修講師 ◎特別支援教育に関する教育相談 ・ＬＤ，ＡＤＨＤ等発達につまずきのある幼児・児童・生徒の保護者、本人の教育相談 ◎特別支援教育に関する委託研究員 「通常学級の教員に対する、障害のある子どもの教育的支援についての理解・啓発」に関する研究 （独立行政法人国立特別支援教育研究所地域実践研究） ◎小中学校の先生のための特別支援教育ハンドブック作成
(6)ひょうご学習障害相談室専門相談員としての業務	平成 31 年 4 月～令和５年３月	兵庫県の LD、ADHD 等に関する専門的な知識や技能を有する相談員が、本人、保護者、教育関係者に相談支援を行い、LD、ADHD 等に関する適切な情報を提供する。室長１名、専門相談員９名で構成されている。幼児児童生徒に関する相談業務を個別に行っている。ケースによって、継続的に相談にあたることがある。
(7)特別な支援を必要とする幼児児童生徒に関する相談・支援事業に係る専門相談員	令和６年４月～現在に至る	兵庫県の LD、ADHD 等に関する専門的な知識や技能を有する相談員が、本人、保護者、教育関係者に相談支援を行い、LD、ADHD 等に関する適切な情報を提供する。障害のある幼児児童生徒の心身の健全な成長発達を図るため、相談業務を個別に行っている。個別相談のほか、学校園の支援体制に関する助言等を行う。

(8)ひょうご専門家チーム派遣相談員としての業務	平成 31 年 4 月～現在に至る	医師・心理・教育関係者から構成する「ひょうご専門家チーム」の派遣相談員として、兵庫県の学校園委員会等からの要請に基づき、幼児児童生徒への支援や教員への教育相談等、学校園に対する支援を行う。 (1)幼児児童生徒への望ましい教育的対応についての専門的意見の提示 (2)学校園の支援体制についての指導助言 (3)ケース会議等における助言等 (4)その他必要に応じて関係機関が協議して支援を実施
(9)但馬地域特別支援教育連携協議会委員としての業務	令和元年10月～現在に至る	兵庫県但馬地域の特別支援教育連携協議会の学識経験者、委員長を務める。委員は、地域内の各市町教育委員会、学校関係者、福祉関係者、県民局関係者、関係機関担当者、事務局で構成され、テーマに基づいて協議が行われる。関係機関と学校との円滑な連携や情報の共有の貴重な機会であり、課題のある事柄について、適宜助言を行った。
(10)兵庫県スクールカウンセラーとしての業務	令和 2 年 4 月～現在に至る	兵庫県内の特別支援学校のスクールカウンセラーとして、1 校につき年 8 回～10 回の、特別支援学校に在籍する児童生徒または保護者に対するカウンセリングを行う。また、教員との情報共有、コンサルテーションを実施する。教職員対象のカウンセリングマインド研修を行う。
(11)奈良学園大学における活動	平成 31 年 4 月～現在に至る	人間教育学部学生相談室カウンセラー、学生支援センター運営委員、教職・保育課程委員会委員　として学部学科の代表として参画した。主に、学生支援センター運営委員・学生委員会委員・奈良学園大学同窓会ワーキング委員として、奈良学園大学同窓会の立ち上げ、学生相談の充実、学生相談連絡会の運営、合理的配慮の提供に関する体制整備等、委員として企画・運営に関わった。
(12)奈良市発達支援ネットワーク会議委員としての業務	令和 4 年～現在に至る	奈良市における発達障害や言語・情緒・行動に発達の課題を抱える就学前の幼児の支援体制の推進のため、関係機関および地域の社会資源の連携に関するネットワーク構築を目的とした発達支援ネットワーク会議の委員として、市の推進事業に関する意見、助言を行う。
4　その他		なし
(1)日本 LD 学会広報委員会　副委員長	平成 31 年 5 月～現在に至る	日本 LD 学会の広報委員会の委員会運営、年 4 回の広報誌の発行、各記事の執筆者の依頼等、会員及び一般向けの専門的情報発信等を進めている。
(2)日本文化科学社　日本版 WISC-V 刊行標準化協力調査員	平成 31 年～令和元年	日本文化科学社が出版する日本版 WISC-Ⅴの刊行のための、日本における標準化のための検査協力を行なった。
(3)奈良学園大学三郷キャンパスにおける学生相談室キャンパスカウンセラー	平成 31 年 4 月～令和 4 年 3 月	三郷キャンパスの人間教育学部の学生を対象とした学生相談室カウンセラーとして、定期的な相談のほか、事前予約なしの訪問時間を設定し、学生の支援に当たっている。登美ヶ丘キャンパスの学生相談担当の高橋千香子准教授と情報交換や共有をしながら対応した。
(4)バイオメディカル・ファジイ・システム学会第 34 回年次大会　大会組織委員	令和 2 年 10 月～令和 3 年 12 月	令和 3 年 12 月開催（奈良学園大学、オンラインのハイブリッド開催）の第 34 回年次大会の大会組織委員を務め、大会運営に従事した。

研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書） １　間違い探しイラストをつかって～たのしくおはなしコミュニケーション～	共著	平成27年7月	明治図書出版　第１６８号 「特別支援教育の実践情報10-11月号」	特別支援教育についての具体的指導方法実践を掲載した著書 B5版　　全72頁 共著者：大塚　晃、樋口一宗、河村　久　、岡野由美子 　　他３１名 ・担当部分：(p４７）人とのかかわりについて、順序性のあるイラストを使って会話やコミュニケーションを高める実践について4枚のイラストを用いて、その順序を考える中で、自閉症スペクトラムのある児童が、物事の事象の前後を考えることや、並べ方について説明をするなどの会話と通して、コミュニケーションの向上を目指した実践について述べた。
２　小中学校の先生のための特別支援教育ハンドブック	共著	平成30年12月	兵庫県立特別支援教育センター	小中学校の先生のための、特別支援教育に関する基本的な内容をまとめた教師向きの著書である。特別支援教育に関する国の動向や法的な事項、特別支援学級担任のための、種別ごとの障害特性とその指導・支援、教科書選定、教育課程の組み方、通級による指導の制度、教育課程の編成と指導方法、自立活動のあり方、個別の教育支援計画、個別の指導計画の立て方などを指導主事としてまとめた。 A４判　全 96 頁 共著者：沖汐守彦、松本武、堀井美佐、藤原しをり、浅野　尚佳、岡野由美子 担当部分：P11～26,P45～50,P73～78,P83～88,P90～91 について共著、抽出不可
３　特別支援教育総論	共著	平成31年3月	ERP 出版株式会社 全 70 頁	小中学校の特別支援の各障害についての特徴の説明。障害の応じた教育課程編成とその指導法について論じた。 A6 判　全　　頁 共著者：中島栄之介 担当部分：　　抽出不可
４　兵庫教育 No.850	共著	令和3年12月	兵庫県教育委員会 全 40 頁	共生社会の実現に向けた特別支援教育の充実～「双方向」をキーワードとして～として、今後の特別支援教育の展開について、論述した。 A4 版　　全 40 頁 共著者：島津明日香、猪子かおり、齋藤弓絵、田渕伸司　他８名 担当部分：p4～p7 を単著

５　通常の学級におけるビジョントレーニングの実践	共著	令和4年4月	明治図書出版 「LD & ADHD & ASD」 No.29	学び方の違う子へのサポートに関する実践を掲載した著書 B５番全68頁 共著者：川端秀仁、奥村智人、簗田明教、他17名 担当部分：p28～31を単著 特集「見る力」を育む「ビジョントレーニング」―概論・アセスメント・指導の実際―　において、通常学級における実践をトレーニングの前後のデータをもとに、その効果と指導への活かし方について論述した。
６　誰もが過ごしやすい学級づくり～特別支援教育の視点からの授業改善～	共著	令和6年1月	あかし教育研修センター「あかしの教育」 第207号	通常の学級における、特別支援教育の視点を生かした授業改善について論じた。 A４版全１２頁 共著者：奥内正浩、長田一夫 担当部分：p8～９を単著
（学術論文） 1.発達障害の可能性のある児童への読み書きのつまずきに対する 多感覚活用の視点からの支援に関する一考察	単著	平成30年8月	人間教育第１巻第７号 （P199～210）	通常学級に在籍する発達障害の可能性のある児童の、読み書きのつまずきに対する支援方法について考察した。視覚入力を補助する手段として触覚教材は読みの困難さを軽減することができ、読みの速度を遅くする傾向があるが、読みやすさを感じさせる傾向もあり、注意を持続しながら読むことで読み誤りが減り、学習効率に影響を及ぼす可能性が示唆された。
2. 知的障害のある児童生徒の教育課程と指導法について ― 新学習指導要領の改訂に視点を当てて ―	単著	平成30年9月	奈良学園大学人間教育学部ジャーナル「人間教育」 第1巻第8号 （p249～260）	教育課程の編成について、特別支援教育を巡る学習指導要領の動向を、確認し、教育課程編成の基本的な理念、編成の手順について具体的に論じる。本稿は特別支援の知的障害についての教育課程について、具体的な指導方法における配慮事項にも言及する。その中でも、自立活動の支援と評価について、具体的な事例を挙げて、筆者が多くの学校を参観し、教育課程と指導法を表裏一体として指導をしてきた、新たな視点を加味し論じた。
3. 学習障害や注意欠陥多動性障害の可能性のある児童の読み支援への一考察～注意、集中力へのアプローチに視点をあてて～	単著	平成30年10月	奈良学園大学人間教育学部ジャーナル「人間教育」 第1巻第9号 （p281～287）	読みに躓きのある児童の中には、注意欠陥・多動性障害などの注意・集中に課題のある場合がある。触覚教材によって、読み教材に集中をしながら読むことで、内容の理解が進む可能性があることを実験により考察した。
4. 特別支援教育の視点から見た学習指導要領の改訂のポイント① ～インクルーシブ教育システム構築のために～	共著	平成30年10月	ERP出版株式会社 ｐ14～p15	改訂が行われた小学校・中学校学習指導要領における、特別支援教育に関する内容について整理し、その上で今後取り組むべき課題と重要事項について論じた。
5.特別支援教育の視点から見た小中学校学習指導要領の改訂のポイント② ～教育課程と自立活動～	共著	平成30年11月	ERP出版株式会社 P14～15	新学習指導要領における、特別支援学級、通級による指導の中で、必要に応じて指導することとなっている「自立活動」について、具体的な改訂内容を指導・支援に生かすための効果的なな考え方や指導方法について論じた。

6. アセスメントに基づいた特別の教育課程設定についての一考察～特別支援学級における、個別の指導計画を生かす日々の教育活動～	単著	平成30年11月	奈良学園大学人間教育学部ジャーナル「人間教育」第１巻第１０号(p299～308)	新学習指導要領においては、特別支援学級の教育課程の編成について、その手順や指導すべき内容などが規定された。その実態把握、個別の指導計画、そして特別の教育課程を密接に関連させた事例を提示し、そのあり方について論じた。
7. 特別支援学級担任への研修体制に関する一考察 ～特別支援教育センター研修講座の充実について～	単著	平成30年12月	奈良学園大学人間教育学部ジャーナル「人間教育」第2巻第1号(p1～10)	特別支援学級の担任特別支援学級担当教員等研修講座の充実に向けた取り組みの現状と今後の課題について考察した。新任特別支援学級担当教員に対する研修内容を充実するために、教職員のニーズについてアンケートを実施し、講座の内容を充実に反映した実践例や研修のあり方についても論じた。
8. 知的障害のある児童生徒の教科等を合わせた指導に関する一考察―障害特性の強みを生かした指導の在り方―	単著	平成31年1月	奈良学園大学研究紀要第１０集	知的障害のある児童生徒に対する、効果的な教科等を合わせた指導のあり方について、具体的な指導内容や、効果的な指導のあり方とはどのようなものか、具体的指導事例を挙げ、論じた。
9. 障害特性に応じた指導方法の工夫～自閉スペクトラム症のある児童生徒の自立活動について～	共著	平成31年1月	奈良学園大学研究紀要第１０集	障害特性に応じた指導方法の工夫として、自閉スペクトラム症のある児童生徒への自立活動について、具体的指導事例を挙げ、特別支援学級および通級による指導における、実態把握や目標の設定、自立活動の指導内容の選定について論じた。共著者：松田智子
10. 通常の学級における日常活動としてのビジョントレーニング～「見る」力の高まりから、読み書き能力の向上へ～	共著	平成30年12月	日本LD学会第2回研究集会抄録p 3～4	通常学級におけるビジョントレーニングの取り組みの効果について、様々なアセスメントから検証した。学級集団としての取り組みが学級全体に及ぼす効果と、個の変容について、データから分析を行い、考察したことについて発表した。 共著者：奥村智人　増本利信
11. 特別支援教育におけるICT活用に関する一考察 ～障害のある児童生徒の支援ツールとしてのICT～	単著	平成31年6月	奈良学園大学人間教育学部ジャーナル「人間教育」第2巻第5号(p135～143)	特別支援教育におけるICT活用の有効性があることから、法改正や学習指導要領の改訂においてどのように転換が行われているか、また、効果的なICT活用について実践例をあげて論じた。
12. 通常の学級における、障害理解教育に関する授業実践～発達障害のある児童生徒理解を図る授業実践事例を通して～	単著	令和元年7月	奈良学園大学人間教育学部ジャーナル「人間教育」第2巻第6号 (p145～153)	通常の学級において、発達障害のある児童生徒についての障害者理解教育の実践を行った事例を挙げ、その実践方法や成果、課題、発達障害についての障害理解教育の重要性について論じた。
13. 知的発達がグレーゾーンに位置し、自閉スペクトラム症も示唆される、入室渋り児童に対する、般性強化刺激を活用した支援の実践	共著	令和元年8月	奈良学園大学人間教育学部ジャーナル「人間教育」第2巻第7号 (p165～173)	在籍教室への入室渋りを見せる４年生男児に、通級指導教室において教室復帰のための支援を行い、目標を設定し、トークンエコノミーシステムを実施し、行動改善が図れた事例について、検討を行った。 共著者：増本利信
14. 特別支援学級におけるキャリア教育に関する一考察～地域の特色を生かした日々の教育活動から～	単著	令和元年7月	奈良学園大学研究紀要第１１集	小学校の特別支援学級に在籍する知的障害のある児童のキャリア教育の実践について、実際の生活単元学習、自立活動の指導事例をもとにその推進方法について論じた。

15. 通級による指導担当教員の研修体制に関する一考察～特別支援教育センターの研修講座の実践から～	単著	令和2年3月	奈良学園大学研究紀要第１２集	通級による指導の担当教員のスキル向上を担う担当教員悉皆研修の実践について、受講者のアンケートをもとにそのニーズや課題について検討し、講座の内容に反映した研修のあり方について論じた。
16. 特別支援学校教育実習に関する学生のレディネスの把握に関する研究	単著	令和3年3月	奈良学園大学研究紀要第１５週	特別支援学校教育実習に関する事前指導及び事後指導において、指導すべき内容や大学と特別支援学校との連携について、投稿された文献をレビューした。
（その他） ［教材作成］ １　特別支援学校教育実習の手引き	単著	令和５年３月	奈良学園大学 A4判22頁	特別支援学校で実施する教育実習に関し、実習中におけるマナー、心得、授業研究に向かう取り組みや教材研究、児童生徒理解についてなど、事前指導、事後指導において授業として使用するためのテキスト。
「指導助言・講話資料」 １　発達障害のある児童の「見る」アセスメントから支援を考える。	単著	平成27年6月	播磨発達支援研究会 A4判12頁	「見る」ことから「読む」ことへの一連のメカニズムとそのつまずきについて、アセスメントの方法とその支援についてなど、具体的な例を示し、工夫してまとめた。
２特別な支援を要する児童生徒の指導」～自立活動のあり方～」	単著	平成 27 年 7 月	兵庫県佐用町特別支援教育研修会 A4判8頁	兵庫県管理職及び教諭 20 名を対象に特別支援学級の教育課程の法的根拠と、教育課程の編成理念、知的障害及び肢体不自由のある児童生徒の教育課程の構造と指導方法について述べた。自立活動の区分、項目の詳細の説明と具体的な指導内容の事例を挙げて、資料準備して助言を行った。
３　発達障害のある子どもの理解と支援～子どもの「見る」力のアセスメント～	単著	平成27年8月	天理市教育委員会 A4判10頁	天理市立井戸堂小学校管理職及び教諭12名を対象に、「見る」力や「読み書き」につまずきのある学習障害の児童生徒の実態を把握するためのアセスメント「WAVES」の内容と、基本的な解釈の方法をまとめた。
４　視知覚関連のアセスメントについて～WAVESの結果の解釈～	単著	平成27年6月	姫路市教育委員会 A4判10頁	兵庫県立特別支援学校教諭及び特別支援担当教諭 14 名を対象に、読み書きに躓きのある児童生徒の指導・支援について「読む」ために必要な視知覚、認知能力、情報処理過程の理解と、「見る」力のアセスメントの方法について、また、その具体的な支援について、まとめた。
５合理的配慮の提供とユニバーサルデザインによる授業について	単著	平成 27 年 7 月	兵庫県教育委員会 特別支援課 A4判10頁	兵庫県臨時的任用教員 60 名を対象に、通常の学級に在籍する学習や生活につまずきのある児童生徒の理解と、その指導・支援方法についてユニバーサルデザインの考え方に基づく学級づくり、学習指導の方法の工夫と、個別に配慮の必要な児童生徒の行動、学習面の困難さの理解を深めるために資料を準備して指導した。

６　特別な支援を要する児童生徒の自立活動のあり方	単著	平成28年8月	兵庫県たつの市教育委員会 A4判16頁	兵庫県たつの市立小中学校特別支援学級担任 30 名を対象に特別支援学級の教育課程の法的根拠と、教育課程の組み方、知的障害及び肢体不自由のある児童生徒の教育課程の構造と指導法について述べた。「合わせた指導」の具体的内容について「自立活動」の区分、項目の詳細の説明と具体的な指導内容の事例を挙げてまとめた。
７　発達障害のある児童生徒の理解と学級づくり	単著	平成28年8月	兵庫県神河町教育委員会 A4判23頁	神河町小中学校全教職員、教育委員、教育委員会担当者約８０名を対象に、通常の学級の担任に必要な特別支援児童生徒理解のあり方やアセスメントについて論じた。児童生徒の問題行動の背景にある原因についての理解と、その上にたった指導法・支援のあり方についてまとめた。
８　通級指導のあり方～教育課程と自立活動のあり方～	単著	平成 28 年 9 月	兵庫県西播磨地区教育事務所 A4判23頁	兵庫県西播磨地区小中学校生活支援教員及び特別支援学校教員を対象に、通級による指導について、その目的、対象となる児童生徒、指導時間等の法的根拠に基づいた制度の理解、目標と評価について指導した。さらに対象となる児童生徒の実態把握の方法と、自立活動の具体的な内容について指導例を準備して講演した。
９　通級指導教室と通常学級の連携の意義とその方法について	単著	平成29年1月	兵庫県揖龍地区教育委員会 A4判17頁	特別支援教育コーディネーター40 名を対象に 通級による指導について、その目的、対象となる児童生徒、指導時間等の法的根拠に基づいた制度の理解、目標と評価について指導した。さらに対象となる児童生徒の実態把握の方法と、自立活動の具体的な内容について指導例をあげてまとめた。
10 保護者との連携	単著	平成29年6月	兵庫県立特別支援教育センター パワーポイント 15 枚	特別支援学校教職経験２年目の教員 70 名を対象に、障害のある子どもの保護者の心理的側面の理解と、よりよい協働のあり方について、事例をあげ、保護者との連携が教育に及ぼす役割を論じた。
11　授業のユニバーサルデザイン化	単著	平成29年6月	兵庫県立但馬農業高等学校 A4判8頁	兵庫県立但馬農業高等学校の教員等約 40 名を対象に、発達障害のある生徒の基本的理解と、どの生徒にもわかりやすい授業という視点での授業改善の工夫について、ユニバーサルデザインの考え方について具体的に論じた。
12 教育課程と自立活動	単著	平成 29 年 6 月	兵庫県立特別支援教育センター A4 判 11 頁	通級による指導の制度、目標、指導内容について学び、自立活動について、区分、項目ごとの具体的指導内容について、資料を作成し講義を行った。
13 特別な支援を要する児童・生徒の理解と支援～スクールアシスタントとしての支援 Vol.1～	単著	平成 29 年８月	猪名川町教育委員会 A4 判 12 頁	猪名川町スクールアシスタント 15 名を対象に、通常学級に在籍する発達障害のある児童生徒についての理解・支援のあり方についてと、学級担任との連携のあり方や大切さについて、資料にまとめた。
14 特別な支援を要する児童・生徒の指導、支援	単著	平成 29 年８月	猪名川町教育委員会 A4 判 13 頁	猪名川町小中学校初任教員を対象に、LD 等の心理的疑似体験を通して、書けない、読めないなどの困難さのある児童生徒の心理状態を理解するとともに、児童生徒の行動からその原因を探る方法について、演習を行った。

15 特別支援学校の学級経営と児童生徒理解	単著	平成 29 年８月	兵庫県立特別支援教育センター A4 判 11 頁	特別支援学校教職経験２年目の教員 70 名を対象に、特別支援学校の学級担任として、個別の指導、支援のあり方と学級集団の指導について、また、児童生徒の理解のあり方について、資料を作成した。
16 兵庫県の通級指導の現状と課題	単著	平成 29 年８月	播磨西地区サポートネット会議 A4 判 15 頁	播磨西地区の特別支援学校、高等学校、小中学校の管理職、特別支援教育コーディネーター等サポートネット会議の会員を対象に通級による指導に関する現状と、通級による指導が児童生徒の自立と社会参加に対してどのような役割を担っているのか、ということを、学習指導要領や文部科学省の調査結果等を示した。
17 新学習指導要領と個別の指導計画	単著	平成 29 年８月	兵庫県教育委員会播磨西教育事務所 A4 判 15 頁	播磨西地区の特別支援学級担当教員、通級指導教室担当教員 170 名を対象に、特別支援学級の教育課程の編成のポイントや、自立活動の区分と項目の整理、特に知的障害のある児童生徒の教育課程の構造について、資料を作成した。
18 視知覚関連のアセスメントについて ～WAVEWS の結果の解釈	単著	平成 29 年９月	姫路市教育委員会 A4 判 24 頁	兵庫県立特別支援学校のコーディネーター、姫路市立の小中学校の通級担当者 18 名を対象に、「見る」力と「読み書き」に躓きのある児童生徒の実態を把握するためのアセスメント「WAVES」の内容と基本的な解釈についての講義を行った。また、その結果についての評価、解釈と事例検討について、資料を作成し、講義を行った。
19 特別な支援を要する児童生徒の指導・支援について	単著	平成 29 年９月	佐用町教育委員会 A4 判 17 頁	兵庫県佐用町の小中学校特別支援教育コーディネーター、教育委員会、福祉関係等各関係機関の 35 名を対象に、学習指導要領の改訂のポイントについてと、コーディネーターとしての校内支援のあり方、関係機関との連携のあり方等について、資料にまとめた。
20 通級による指導に期待されること～自立活動の具体的指導方法～	単著	平成 29 年 12 月	丹波市教育委員会・篠山市教育委員会 A4 判 21 頁	篠山市、丹波市の通級指導教室担当者、教育委員会指導主事、特別支援学校コーディネーター25 名を対象に、通級による指導における、現場や高等学校における通級による指導の兵庫県における動向についてと、児童生徒の実態把握を元にした自立活動の選定や指導について、資料を作成した。
21 やってみよう事例検討～アセスメントから指導計画へ～	単著	平成 29 年 12 月	特別支援教育士長崎支部会 A4 判 11 頁	特別支援教育士長崎支部会員 70 名を対象に、学習や生活に困難を示す児童生徒のアセスメントから、指導計画を作り出すための、ケース検討、 WISC-Ⅳ、DTVP2 などのフォーマルアセスメントと、児童生徒や担任、保護者等からの聞き取り、観察を総合的にアセスメントし、通級指導教室、通常学級、保護者それぞれについて、指導目標を考える方法等について資料を作成した。
22 特別な支援を要する児童・生徒の理解と支援～スクールアシスタントとしての支援～Vol.2	単著	平成 29 年 12 月	猪名川町教育委員会 A4 判 10 頁	猪名川町スクールアシスタント 15 名を対象に、LD 等の心理的疑似体験を通して、書けない、読めない困難さのある児童生徒の心理状態を理解するとともに、２学期を終えた時点での振り返りと３学期に向けての目標の設定について考えた。また、行動の理由を見るポイントについて、資料を作成した。

23 特別支援学級の教育課程の編成や年間計画について	単著	平成 30 年１月	兵庫県教育委員会事務局淡路教育事務所 A4 判 15 頁	淡路地区小中学校特別支援学級担任、特別支援教育コーディネーター50 名を対象に、特別支援学級の教育課程の構造についてと、自立活動の目標と内容、指導について、学習指導要領の海底のポイントについて、資料を作成した。
24 特別な支援を要する児童の、特別の教科　道徳の指導について	単著	平成 30 年２月	兵庫県赤穂郡上郡町立山野里小学校 A4 判 11 頁	上郡町立山野里小学校の教職員 24 名を対象に、特別支援学級在籍児童の、交流学級における「特別の教科　道徳」について、特別支援学級担任の支援についてや、交流学級担任との連携のあり方などについて、資料にまとめた。
25 教育課程と自立活動	単著	平成 30 年６月	兵庫県立特別支援教育センター A4 判 11 頁	兵庫県内の小中学校通級指導教室担当教員 73 名を対象に、通級による指導の制度、目標、指導内容について学び、自立活動について、区分、項目ごとの具体的指導内容について、資料を作成した。
26 障害に応じた教育課程の編成と自立活動の指導	単著	平成 30 年６月	兵庫県立特別支援教育センター A4 判 15 頁	兵庫県内の小中学校で、初めて特別支援学級の担当をする教員 500 名を対象に、特別支援学級の教育課程の編成について、障害特性の理解と、実態把握、自立活動の指導について、資料を作成し教育課程への理解を深めた。
27 障害特性の理解と支援のあり方について	単著	平成 30 年６月	兵庫県立東播工業高等学校 A4 判 15 頁	兵庫県立東播工業高等学校の教職員 24 名を対象に、発達障害の基礎的な理解と疑似体験を通じて生徒の心理状態を理解するとともに、効果的な指導、支援のあり方について、資料を作成し演習も交えた講義を行った。
28 学習指導要領移行期のポイントと個別の指導計画	単著	平成30年7月	兵庫県教育委員会播磨西教育事務所 パワーポイント 20 枚 A4 判 10 頁	兵庫県西播磨地区小中学校特別支援学級担任及び通級指導教室担当者 170 名を対象に特別支援教育に関する、学習指導要領改訂に沿った教育課程編成のポイントと、自立活動における個別の指導計画の作成について、資料を作成し実際の教育課程を比較分析し講演した。
29 進路についての合理的配慮	単著	平成30年8月	赤穂市立赤穂中学校 A4 判 10 頁	赤穂中学校教員及び管理職 30 名を対象に、中学校の通常学級に在籍する発達障害のある生徒についての理解・啓発を他の生徒に行う方法、進学に向けての合理的配慮の提供に関する適切な考え方についてまとめた。
30 特別支援教育の具体的な進め方	単著	平成 30 年８月	佐用町教育委員会 A4 判 16 頁	佐用町教育研究所所員、小学校・中学校教職員　30 名を対象に、学習指導要領の改訂のポイントと、各教科等の指導における配慮事項などの工夫や、指導・支援の工夫について、疑似体験や、スリットの作成など、事例や実技などを取り入れながら理解を深めるように資料を作成して講義を行った。
31 高等学校における発達障害のある子の理解	単著	令和元年６月	兵庫県立西脇北高等学校 A4 判 19 頁	兵庫県立西脇北高等学校教員約 40 名を対象に兵庫県教育委員会事業の一貫である「高等学校における通級による指導実践研究事業」の校内研修会で資料を基に、発達障害のある生徒の他、自傷行為、非行行為等様々な課題のある生徒指導面での対応とともに、発達障害を理解し、その指導について理解できるよう、疑似体験を取り入れるなどして講義を行った。

32 通常の学級における指導・支援について～通級による指導との効果的な連携～	単著	令和元年7月	相生市特別支援教育研修講座(相生市民会館) A4判24頁	相生市学校園教職員 45名を対象に、通常の学級に在籍する児童生徒の行動面のつまずきについて、応用行動分析の考え方をもとに行動の原因やその結果についての観察の方法、行動変容につながる指導について、資料をもとに講義を行った。通級による指導についても、位置付けや通常学級との連携について理解を図った。
33 特別支援教育コーディネーターの役割とは	単著	令和元年7月	姫路市立中学校特別支援教育コーディネーター研修会 A4判19頁	姫路市内中学校教員、特別支援学校教員70名に、資料を配布して特別支援教育コーディネーターの業務の引き継ぎが十分でない、仕事が円滑に進められないなど様々な課題について論じた。校内の特別支援教育の推進においては、その引き継ぎの不十分さが弊害となっているケースもある。どのように円滑に業務を進めていけば良いか、実習を入れ、講義を行った。
34 WISC-Ⅳ等発達検査について詳しく知ろう	単著	令和元年8月	明石市特別支援研修講座 A4判19頁	あかし市教育研修所特別支援教育受講者12名に、特別な支援を要する児童生徒が、その発達の凹凸やつまずきの要因を探るために医療機関等で実施される各種の検査結果の報告について、どのように読み取り支援に生かすかということについて、資料をもとに講義を行った。支援に生かす方法について理解を深めることができた。
35　LD、ADHDの児童生徒に対する支援等について	単著	令和元年8月	神崎郡小中学校特別支援教育研修会 A4判25頁	神崎郡小中学校特別支援教育担当者等40名を対象に、発達障害のある児童生徒の指導、支援の具体的なあり方について、資料をもとに講義を行った。 障害特性の理解と、ユニバーサルデザインの授業の基本的な考え方等について理解啓発を図った。
36 特別な支援を要する子どもたちを「理解する」とは	単著	令和元年8月	佐用町教育研修所特別支援教育研修講座 A4判20頁	佐用町小中学校教員17名に対し、特別な支援を要する児童生徒の発達検査等の所見をもとに、その困難さの理解と具体的な支援方法について、資料を作成し、講義を行った。障害理解を考えるために疑似体験等を取り入れ、正しく理解することの大切さについて資料をもとに講義をした。
37 すべての教職員のための特別支援教育をふまえた授業作り	単著	令和元年8月	太子町教職員研修 A4判19頁	太子町立幼小中学校教職員240名を対象に、通常の学級に在籍する学習や生活に困難を示す児童生徒について、どのように観察し、つまずきの原因を探るかということや、通常学級の授業作りについて、事例をもとに実践的な内容として、資料をもとに論じた。

38 高等学校における通級指導について	単著	令和元年8月	高等学校における通級による指導実践研究事業校内研修会（兵庫県立宝塚西高等学校） A4判19頁	兵庫県立宝塚西高等学校教職員、保護者40名に、2年目を迎えた高等学校における通級による指導の、その指導のあり方について校内で共通理解を深めるため、概要について講義を行った。自立活動や個別の指導計画に基づいた指導のあり方について、資料を作成し説明した。高等学校の特色により、課題は異なるものの、どこでも同様に発達障害のある生徒の存在や対応の重要性があることについて指摘した。
39 WISC-Ⅳ等、発達検査の結果から具体的支援につなげるために	単著	令和元年10月	あかし教育センター特別支援教育研修講座 A4判18頁	明石市小中学校教職員約50名を対象に、発達検査の理解についての講義を行った。検査の所見は、特別な支援を要する児童生徒の保護者から情報提供として受け取り、目にする機会が多くなった現在の学校現場であるが、それを読み解き、支援につなげることができなければ活用できたとは言い難い。その基本的な解釈の仕方や、その支援方法について事例をもとに説明した。
40 早期からの教育相談・支援体制の充実に向けて	単著	令和元年11月	但馬地域特別支援連携協議会　指導助言 A4判2頁	但馬地域特別支援連携協議会委員26名で、早期からの教育相談や支援体制について、各関係機関から委嘱された委員により、情報共有がなされた。就学前の段階で、どれくらい保護者に情報を発信し、より適切な支援を受けられる関係機関と連携をとるかという課題と、連携先として、特別支援学校などのリソースの活用について等、助言を行った。
41 発達段階に応じた通級の指導	単著	令和2年1月	西播磨地区高等学校における通級による指導合同研究会（兵庫県立太子高等学校） A4判19頁	兵庫県西播磨地区小中高等学校教職員、福祉関係担当者等78名に対し、発達段階に応じた通級指導のあり方について説明した。各学校種別ごとに、通級による指導が行われている。それぞれの発達段階を理解し、今在籍している学校の先にどんな教育が展開されるのか、将来の社会参加に向けてどんな力が必要となるのかなどについて、資料を作成して論じた。
42 特別な支援が必要な生徒への対応について	単著	令和2年2月	兵庫県高等学校生徒指導協議会阪神支部協議会（兵庫県立宝塚西高等学校） A4判19頁	阪神地区生徒指導担当教員60名を対象に、問題行動等、生徒指導上課題となる生徒の行動の原因となっていることがある発達障害について、どのように理解し、対応すればよいかといことについて、資料をもとに論じた。
43 インクルーシブ教育と合理的配慮	単著	令和元年2月	高等学校における通級による指導実践事業　校内研修会（兵庫県立西脇北高等学校） A4判13頁	兵庫県立西脇北高等学校教職員40名に、年度内の校内研修の2回目を実施した。通級による指導の対象となる生徒の理解について、応用行動分析の考え方をもとに、事象に対して注意や叱責をするのではない関わり方について資料をもとに講義を行った。

44 通級指導教室と通常学級の効果的な連携について	単著	令和２年２月	神崎郡中学校特別支援教育研修会 A4 判 15 頁	神崎郡中学校通級指導担当者等約 20 名を対象に、中学校における通級による指導のあり方について講義を行った。また、通常学級との連携についてその意義や具体的指導について、自立活動の考え方や将来の自立と社会参加でのつなぎ、高等学校における通級による指導の説明など、資料をもとに行った。
45 発達障害のある生徒に対するカウンセリングマインド	単著	令和２年８月	兵庫県立上郡高等学校カウンセリングマインド職員研修会講師 A４判 15 頁	兵庫県立上郡高等学校の教員約 50 名を対象に、発達障害の診断はないものの、中学時代から問題行動があったり、不登校や留年などの課題の多い生徒について、どう理解し、支援していけば良いか、資料に基づき講義を行った。
46 研修・研究とは	単著	令和２年７月	兵庫県立西神戸高等特別支援学校校内研修会 A４判７頁	兵庫県立西神戸高等特別支援学校の教員 53 名を対象に校内研修を行い、新設４年目を迎え、特別支援教育の校内の充実を図るため、研修体制を構築し、全職員で同じテーマに向けたそれぞれの研修の深め方、進め方について、講義を行った。
47　アセスメントと支援	単著	令和２年 10 月	兵庫県立特別支援教育センター研修会 A４判 18 頁	兵庫県立特別支援教育センター研修講座の通級指導教室担当教員研修を実施し、通級による指導を担当する、兵庫県内の全教員 194 名に対し、発達障害のある児童の障害特性の理解と、的確なアセスメントによる目標設定や自律活動の指導・支援の充実について、資料を用いて講義と演習を行った。
48 特別な支援が必要な生徒への対応について	単著	令和３年２月	明石市立大蔵中学校校内研修会 A４判 18 頁	あかし教育研修センター講師派遣事業として、明石市立大蔵中学校教員 35 名に講演を行った。中学校における特別支援教育、ユニバーサルデザインの授業について、資料を元に講義を行った。
49 愛着障害・発達障害特性と支援のアプローチの仕方	単著	令和３年７月	南あわじ市立広田中学校 A４判 16 頁	愛着障害の可能性のある生徒との関わり方や、発達障害との違い、支援について、資料をもとに講義を行った。

50 ユニバーサルデザインの視点を活かした学級づくり、授業づくり	単著	令和３年８月	赤穂市特別支援教育自主的研究推進事業夏季研修会 A４判 15 頁	「ユニバーサルデザインの視点を活かした学級づくり、授業づくり」として、すべての児童にわかりやすい授業の工夫や、安心して過ごせる学級づくりについて資料をもとに講義を行った。
51 通級の実践的な指導法について	単著	令和３年８月	神崎郡小中学校特別支援教育夏季研修会 A４判 16 頁	通常の学級担任や管理職など、特別支援教育の担当者ではない教員が、通級による指導とはどのようなもので実際にはどのような指導をする場所なのか、という基本的な内容から、実際の指導について、資料を作成し講義を行った。
52 これからの通級に必要なこと	単著	令和３年８月	高等学校における通級による指導実践合同研究会 A４判 16 頁	高等学校における通級による指導についてと、それぞれの発達段階に応じた効果的な指導・支援のあり方について、資料をもとに講義を行った。
53 児童生徒の障害の状態を踏まえた教育課程の編成について	単著	令和３年８月	兵庫県淡路地区学級経営（特別支援教育）研究会 A４判 16 頁	児童生徒の障害の状態を踏まえた教育課程の編成について、個別の教育課程の作成、個別の指導計画、教育支援計画の作成、読み取りなど、実際的な内容について資料を作成し、講義を行った。
54 児童生徒の障害の状態を踏まえた特別の教育課程の編成について	単著	令和３年 10 月	淡路地区学校経営（校長）研修会 A４判 16 頁	特別支援教育の視点を活かした学校経営のあり方や、チーム学校としての特別支援教育への取り組み方についてなど、資料を作成し講義を行った。
55 通級による指導～一人ひとりの状況に応じた指導や配慮	単著	令和３年 11 月	姫路市特別支援教育コーディネーター研修	通級による指導について、自立活動を中心とした具体的な指導の実際を例を挙げ、講義を行った。

56 インクルーシブ教育時代における特別支援教育	単著	令和４年１月	明石市スーパーバイザー派遣事業　明石市立鳥羽小学校校内研修 A4 判 17 頁	特別支援学級、通級による指導、通常の学級などさまざまな教育の場における特別な指導のあり方について、具体例を挙げながら資料をもとに講義を行った。
57　自立活動・障害に応じた教育課程の編成	単著	令和５年４月	兵庫県立特別支援教育センター研修 A4 版 16 頁	特別支援学級の教育課程の編成の方法や自立活動の指導について具体的事例を活用した資料を作成した。
58　発達障害の理解と支援について	単著	令和５年７月	さいたま市特別支援教育コーディネーター研修 A４版 19 頁	特別支援教育コーディネーターが知っておきたい発達障害の基本的な知識とアセスメントについて、例を挙げ、資料に示した。
59　気になる行動から考える適切な支援と指導について	単著	令和５年８月	淡路地区学級経営（特別支援教育）研究会 A４版 15 頁	特別な支援を要する児童生徒の行動面の指導について、行動分析の視点を生かした方法について資料に示した。
60 通級による指導について～なぜ、通級なのか～	単著	令和５年８月	市川町特別支援教育研修会 A４版 14 頁	通級による指導によって、発達障害などの障害のある児童生徒にどのような指導支援を行うことができるのか、事例を挙げた資料を作成した。
61　通常学級における特別な支援を要する児童生徒へどのように対応すれば良いか	単著	令和５年８月	佐用町立教育研修所特別支援教育講座 A４版 15 頁	ユニバーサルデザインの授業や通常学級における指導支援の工夫について、具体的事例を挙げ、資料を作成した。
62　特別支援教育の視点を生かした学校づくり	単著	令和５年８月	奈良市教職員研修 A4 版 27 頁	学校の指導支援体制の構築について、特別支援教育コーディネーターを軸とした体制整備のあり方を論じた。
63　特別支援教育の視点を生かした学級経営～障害のある児童生徒の理解と適切な指導・支援～	単著	令和６年１月	兵庫県立教育研修所特別支援教育の視点を生かした集団づくり講座 A４版 26 頁	特別な支援を要する児童生徒の感じ方や見え方などについて、理解するとともに、適切な指導支援の工夫について論じた。
64　もうすぐ小学生～安心して就学を迎えるために～	単著	令和６年２月	市川町こども園合同保護者研修会 A4 版 14 頁	就学を控えた子どもが安心して入学をするために準備しておくことや小学校の特別支援教育に関する支援体制を示し、良い準備につながるよう、論じた。
［学会発表等］ １「読み書きにつまずきのある児童のアセスメントと指導～オプトメトリスト、通級、通常学級３者の立場から～	—	平成 28 年 11 月	日本 LD 学会第 25 回大会 （パシフィコ横浜） 自主シンポジウム JE１ WEB 論文集のため冊子資料なし	読み書きに躓きのある児童生徒のアセスメントと指導について、通常の学級の教員の立場から発表した。毎朝のビジョントレーニングの結果と、通常の学級でできる指導について、通級による指導との連携について、提言を行った。 シンポジスト： 岩永竜一郎、奥村智人、増本利信、岡野由美子

２　「特別支援教育における読解力向上の試み～読み書き困難から視覚障害、聴覚障害に至るまで～	―	平成 30 年 10 月	日本特殊教育学会 56 回大会自主シンポジウム （グランキューブ大阪） 冊子資料ｐ44	読み書きに躓きのある児童へのアセスメントと指導について、実践発表。発達段階を踏まえた、個々の児童への指導・支援のあり方についてまとめた。 シンポジスト：川崎聡大、加藤哲則、奥村智人、安藤明伸、深谷圭助、樋口一宗、荻布優子、松崎泰
３「通級指導教室のこれまでとこれから」 ～小学校、中学校、高等学校のLD 通級担当者による、現場からの提言～	―	平成 30 年 11 月	日本LD 学会第 27 回大会自主シンポジウム （新潟コンベンションセンター） 冊子資料ｐ59－60	高等学校における通級による指導が、平成 30 年度から始まったことを踏まえ、通級による指導の担う役割と効果的な指導についての提言。ある程度軌道に乗った小中学校の通級による指導、モデル校として数年取り組んだ高等学校の通級指導教室担当者から、現場における実情や課題を提案し、総括する。 シンポジスト：上野一彦、増本利信、高橋範充、桂志保、岡野由美子
４「通級指導教室のこれまでとこれから第２弾」～小学校、中学校、高等学校のLD 通級担当者による、現場からの提言～	-	平成 31 年 11 月	日本LD 学会第 28 回大会自主シンポジウム （パシフィコ横浜） 冊子資料 p67-68	通級による指導の制度が小学校から高等学校まで整った。これにより、発達段階を踏まえた通級による指導の重要性が増している。それぞれの通級指導教室担当者から、現在の課題や今後の在り方について提言をし、総括する。 シンポジスト：岩永竜一郎、増本利信、高橋範充、荒木弘行、岡野由美子
５「高等学校の個別の指導計画・教育支援計画について考える」	―	令和 2 年 10 月	日本LD 学会第 29 回大会自主シンポジウム （WEB 開催） 冊子資料 p59-60	高等教育における個別の指導計画・支援計画の作成や活用の実際、中学校との連携、アメリカの高校でのＩＥＰの例を紹介し、今後の高校の個別の指導計画・教育支援計画の在り方について提案し、協議した。 シンポジスト:岩永竜一郎、南波聡、Todd Sanders、増本利信、岡野由美子
６「大学生の読み書きスキルと学修困難感および学校適応感の関連」	―	令和５年１０月	日本LD 学会第32回大会ポスター発表 冊子資料 p293-294	大学で合理的配慮の提供が義務とはなったが、障害学生は把握されている人数も少なく支援に繋がりにくい。大学生の学業成績と読み書きスキルの現状を把握し、大学適応感と学修困難感の関連を検討し、まとめた。 発表者：荻布優子、岡野由美子

別記様式第４号（その２）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　研　究　業　績　書

令和５年　３月　31日

氏名　岡本恵太

研究分野	研究内容のキーワード
国語科教育　教育社会学	コミュニケーション　思考力　談話分析　言語活動

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
１　教育方法の実践例 (1)　「つけたい力を明らかにして思考力を育てる授業～見通しと振り返りを位置づけて」	平成26年4月～平成28年3月	三田市教育委員会の委嘱を受けた「三田市教育研究グループ」として、教師と学習者がともに、学習を通して「つけたい力」を明確にして思考力を高める授業の筋道を研究した。また、研究の成果を「三田市教育研究グループ研究集録」の国語部会の章（各年度4頁分，本人担当分平成27年度４p分）として発表するとともに、国語部会として独自に『実践事例集』（平成26年度は総頁数48p本人担当8p分・平成27年度は総頁数54p本人担当分10p・平成28年度は総頁数48p本人担当分8p）を編集、発行し、若い教員が日々の実践に取り組む際の手がかりとなるようにした。 研究における「言語活動」については、「学習者の願いや目的を言語を用いて具現化するプロセス」としてとらえている。ここにおける「願い」には達成したい活動の成果物とともに、学習者自身が「つけたい力」も含まれる。こうした「言語活動」を「学習者の願いや目的」に向けて導く資質・能力となる「論理的思考力」を育てるための言語活動の工夫改善に関する研究を継続した。
(2)「ともに学び合い高め合う子に～伝え合う場の設定～」	平成27年4月～平成30年３月	三田市立三輪小学校において、国語科における思考力や伝え合う力を育てるために全校で取り組んでいる実践研究である。学習者一人ひとりが主体的に課題を持って探求し、協同でその課題に挑戦しながら高め合っていく資質・能力を身につけた児童を育成することを主題に掲げている。各年度２月に公開研究発表会を実施するとともに、研究紀要を発行している。研究授業として、平成27年度は「世界で一番美しいぼくの村（東京書籍）・４年生」、平成28年度は「町の幸福論-コミュニティデザインを考える-（東京書籍）・６年生」、平成29年度は「木龍うるし（東京書籍）・４年生」を公開し、その成果については、研究紀要にまとめている。 「言語活動の充実」を中心とした実践研究においては、様々な言語活動に含まれる言語能力を抽出し、分類整理を行った。
(3) 令和３年度　インターネット上の人権侵害の解消推進事業 大学との共同研究（学生の研究活動プロジェクトの指導）	令和３年	善野八千子教授、住本克彦教授と共同し、インターネット上の人権侵害に係る学生の研究プロジェクトの指導にあたった。その成果は、11月27日のシンポジウム（研究成果発表会）において、「インターネット上の人権侵害をどう防ぐか～教師をめざす学生として、意識改革から行動変容へ～」として発表予定である。岡本は、善野八千子教授と共同で研究プロジェクトメンバーが受講する人間教育実践力開発演習Ⅲにおいて「SNSにおける人権侵害」を軸とする教育時事問題についての指導を継続するとともに、教育社会学の観点から、テキストマイニングを活用した分析手法についての助言を行った。
２　作成した教科書，教材		

(1) 『ひとり学びへの手引き』	平成29年4月	三田市教育委員会が市内の高学年児童に向けて発行している「ひとり学びへの手引き」の国語科に関する章のうち「パネル討論をしよう」「新聞記事を書こう」の項目を分担執筆した。 「ひとり学びへの手引き」は市内の児童が自分自身で問題を持ち、解決する力を育てることを目指した学習資料である。国語・社会・理科・算数・情報のそれぞれの分野ごとに、家庭学習の手法や児童が自ら調べ方・表現の仕方を解説している。 「パネル討論をしよう」では〈論点をどのように探すか〉〈どのような視点で議論を組み立てればいいか〉について児童が一人で学習が進められるよう記述した。 「新聞記事を書こう」では、まず新聞記事の特徴が「情報を客観的にとらえるための文章」であることを説明し、さらにその書き方について解説した（総頁数９２頁、本人担当分４頁）
（２）『新しい視点からの教育社会学』（大学教育出版）	令和4年9月	共著　編著者　住本克彦 第１章「教育社会学へのアプローチ」執筆を分担。教育社会学の導入として、学問としての特質とそのあゆみを学生がとらえることを目的としている。教育社会学の見方・考え方について、授業における会話構造の分析を事例として述べるとともに教育学との関連から明らかにした。さらに教育社会学の歴史について、エミール・デュルケーム、イヴァン・イリッチ、ピエール・ブルデュー、バジル・バーンスティンら主要な教育社会学者の業績について、日本国内の教育社会学の発展と関連付けて述べた。（総頁数252頁、本人担当分17頁）
３　教育上の能力に関する大学等の評価 (1) 兵庫教育大学大学院「小学校英語活動プログラム（小学校英語活動指導者ユニット）」履修	平成26年3月	兵庫教育大学大学院において小学校英語活動の指導者育成を目的としたプログラムを履修した。プログラムの一環として現任校（当時：志手原小学校）における研究授業「オリジナルカレンダーを作ろう」を実施した。ここで目指したことは、「動きを通して〈考える〉英語活動」である。これは、英語活動で取り組まれるアクティビティの中に、選択・判断・吟味といった思考の要素を導入しようとするものである。「動きを通して〈考える〉英語活動」を具現化するために、即興演劇の手法を活用した「プレゼントゲーム」や、友だちに英語でインタビューする時の手順を絵（ピクトグラム）で目に見える形にしたワークシートを開発した。
４　実務の経験を有する者についての特記事項 (1) 三田市教育研究グループ研究員（国語）	平成26年4月～ 平成30年3月	三田市教育委員会の委嘱を受けて、国語科における思考力の育成を軸に実践研究を行った。各年度の3月、各教科・領域の研究グループ交流会でその成果を発表するとともに、『活動報告』の冊子をまとめている。また、三田市の児童に自分自身の力で学ぶ力 育成することを目指して『一人学びへの手引き』（平成29年4月発行）の国語の項目の執筆も分担した。 グループ員で、実践を集積し、整理した結果、現在次のような手立ての有効性が立証された。第一に、学校行事や他教科と連携し、学習者にとって「必要性」「やりがい」が実感できる場の設定である。第二に、これまでの学習をもとに「目のつけどころ」や「方法」を取り出し、次に生かすようにすることである。第三に、思考の筋道を目に見える形にすることである。例えば思考ツールの活用や操作活動の導入が考えられる。第四に、自己評価や相互評価、あるいは地域に人や保護者など具体的な他者の評価を生かすことである。

(2) 『柿の実詩集』編集委員	平成27年度	『柿の実詩集』は、三田市教育委員会が毎年発行している児童詩集である。市内の各校から作品を募り、代表作をまとめて刊行している。（平成27年度は3に月発行）編集委員として原稿の集約・審査、および編集作業に従事した。
(3)三田市立三輪小学校校内研究講師	平成30年度～令和３年度	新しい学習指導要領にもとづく国語科授業のあり方や、研究の進め方について助言や講話を行うとともに、授業研究に参加し、対話力を高めるための授業づくりの具体的な手立てについて指導助言を行った。
(4)八尾市立北山本小学校校内研究会講師	令和2年度～令和4年度	全員参加の授業づくりの取り組みについて、具体的なワークシートづくりや言語活動の校正などの観点から助言を行っている。また、研究授業では、授業者の意図を新学習指導要領の方向性と関連づけるとともに、主体的対話的で深い学びの観点から異議付けを行っている。
(5)宝塚市立安倉北小学校校内研究会講師	令和２年度～令和４年度	年１回実施されている理論研において、新学習指導要領に規定された資質・能力育成につながる具体的なワークシートや活動の工夫を提案している。また、令和３年11月には、タブレットを活用した研究授業を参観し、ICT機器を活用したこれからの授業づくりに関連して助言をした。
５　その他 特記事項なし		

職務上の実績に関する事項

事項	年月日	概要
１　資格，免許 (1)小学校教諭１級普通免許 (2)中学校教諭１級普通免許（社会） (3)高等学校教諭２級普通免許（社会） (4)小学校教諭専修免許 (5)中学校教諭専修免許（社会）	 昭和61年3月 昭和61年3月 昭和61年3月 平成26年4月 平成26年4月	 昭60小１普第1028号（大阪府教育委員会） 昭60中１普第4361号（大阪府教育委員会） 昭60高２普第5063号（大阪府教育委員会） 平二六小専修第11号（兵庫県教育委員会） 平二六中専修第10号（兵庫県教育委員会）
２　特許等 なし		
３　実務の経験を有する者についての特記事項 公立小学校教員	昭和61年４月～平成30年３月	兵庫県三田市公立小学校
４　その他 特記事項なし		

研究業績等に関する事項

著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				

1『ケースから学ぶ　言葉による見方・考え方を育てる授業づくり』	単著	平成30年2月	株式会社 ERPブックレット	学習指導要領（平成29年告示）の鍵概念である「言葉による見方・考え方」について基本的なとらえ方について小中９年間を見通して述べるとともに、その育成のための手立てを具体的な事例をもとに解説した単著。教師が、国語科の授業において、実際に出会うことが想定される場面を「ケース」として設定し、その背景にある〈言葉による見方・考え方〉について解説するとともに具体的な手立てを示してい る。新学習指導要領の方向性をふまえ、「読むこと」「書くこと」「話すこと・聞くこと」のそれぞれの領域に共通して働く「言葉による見方・考え方」について〈効果〉〈正しさ〉〈整合性〉の三つの項目に整理した。 最終章では、「言葉による見方・考え方」を育成するための手立てが、「ゴールの明確化＞「方法・筋道の菓子化〉〈他者との伝え合いによる言語活動の吟味〉にあることを指摘した上で、「主体的・対話的で深い学び」を具体化することの重要性とその視座を総括的に提示している。A５判80頁
2『「見方・考え方」を鍛える小学校国語科の「思考スキル」』	共著	平成30年２月	東洋館出版社	平成29年に告示された学習指導要領の柱の一つである「思考力・判断力・表現力等」について「思考スキル」の観点から解説した共著。 具体的な実践事例をもとに、「思考スキル」の分類と、その育成の筋道について解説している。 編著者：伊崎一夫 共著者：岡本恵太　遠藤陽子　小玉直人　中島朱美　羽渕みな子　濱村憲二 細見博友　峯山　淳　山口　映 本人担当分：第Ⅱ章「思考スキル」の分類（pp23-42） 「思考スキル」について、比較・順序・理由・要約・定義・類別・課題解決・推論・評価の九つに分類し、それぞれについて、基本的な考え方と、育成に向けての筋道を解説した。 「問題解決のあらすじを書くためには」（pp.80-83） 物語「はりねずみと金貨（東書3年）」について、あらすじを整理し、人物の気持ちの変化についてまとめるための実践を提案した。 「知識を本物にするには」（pp.96-99） 説明文「夢のロボットを作る（東書4年）」について、思考ツールを活用して読み取る実践を提案した。 全192頁（本人執筆分28頁）
3『新しい視点からの教育社会学 - 人間形成論の視点から -』	共著	令和4年9月	大学教育出版	略（２作成した教科書，教材（2）参照）
（学術論文） 1「学校における児童の新たな行動様式はどのように成立するか―教師の意図から外れた場面の談話分析－」	単著	平成27年11月	日本教育社会学会編『教育社会学研究第97集』	「言葉による見方・考え方」の育成を促進する談話の構造を「新たな行動様式を生み出す『共演』の場」としてとらえた論考。 本研究では、小学校１年生の入学後一ヶ月後に実施された「ひらがな学習」における教室談話の分析を行っている。この「ひらがな学習」の授業において、児童は教師の書いた「ひらがな」の「まちがい」を指摘し、授業のねらいとははずれた部分にこだわっている事例に着目し、児童が新たな行動様式による学習行為を創出する過程とその価値について論じた。 20頁 教室談話を分析してみると、この教室では、教師にとって予想外の出来事をも包み込む談話構造が見られた。すなわち、教師の意図から外れているような場面において、教師と児童の間の「共演」といえる関係が成立していたのである。すなわち、児童たちが教師の「まちがい」を指摘しようとしたのは「先生の模倣」であり、教師もまたこうした「模倣」を促進する働きかけをしていた。こうした「共演」の中で、児童たちは一定の「ルール」を創り出していったのである。 これは、ヴィゴツキーが「遊び」についての研究で明らかにした、演じることによる「ルール」の成立と重なる事態である。国語教室に強制に依らない秩序を生み出すものは、教師と児童がその時々の状況を共に演じることだと言える。 「言葉による見方・考え方」の育成を促進する談話構造の形成は、小中9年間はもちろん高等学校においても必要であること、さらなる事例の収集と談話の分析を通して明らかにすべき課題について指摘した。

2「新学習指導要領における『言葉による見方・考え方』の三側面-小中９年間を見通す学習指導の方向性-」	共著	平成29年9月	『奈良学園大学紀要』第７集	平成29年に出された学習指導要領の鍵概念である「言葉による見方・考え方」の要素と構成およびその育成の筋道について述べた論文。 Ⅵ章構成(Ⅳ、Ⅴ、Ⅵ章を分担執筆) 共著者：伊﨑一夫・岡本恵太 　本研究では「言葉による見方・考え方」を三つの側面に分類している。すなわち〈言葉と主体〉の関係に着目する「語用論的側面」、〈言葉と世界〉の関係に着目する「意味論的側面」、および〈言葉と言葉〉の関係に着目する「統辞論的側面」である。こうした三側面に基づいて新学習指導要領の指導事項を整理し、小中9年間を貫く系統性を明らかにした。 全13頁　本人執筆分14頁
3 「小学校国語科における「わざ言語」を活用した思考力の育成 ： 授業の談話分析からのアプローチ」	単著	平成31年 ３月	『奈良学園大学紀要』第10集	本研究は「わざ言語」を、子どもたちの具体的な言葉として表れた、思考力や「言葉によるものの見方・考え方」としてとらえる。「わざ言語」の思考力育成への寄与を探ることが本研究の目的である。事例として３年生の物語教材「ゆうすげ村の小さな旅館」の授業を取りあげ、談話分析を行った。その結果「見出し先行型」発言を「わざ言語」として取り出した。この発言の型は、感想の提示、問題の提示、問題の解決、教師への提案という機能を持つものであり、Task（課題活動）とAchievement（達成状態）の橋渡しをするものであった。実践に向けて、Task（課題活動）レベルにおける話型の導入、および橋渡し段階における先行学習の再構成への促し、そしてAchievement（達成状態）を子どもたち自身が整理・体系化することの必要性を示した。
４「教育社会学的な見方・考え方とは何か ―「置き勉」問題を手掛かりに－」	単著	令和２年２月	オンラインジャーナル「人間教育」第3巻第1号	本研究の目的は、教育社会学的なものの見方・考え方を明らかにすることにある。そのための手がかりとして「置き勉」問題を取り上げる。「置き勉」とは、教科書等の学習用具を教室に置いたままにしておくことであり、身体的な負担軽減のために容認する動きが広がりつつある。この問題について以下の二つの見方・考え方を適用する。第一が、教育事象における「あたりまえ」をとらえ直す「価値自由」であり、これにより従来の「置き勉」禁止が価値判断を暗黙の前提とすることが明らかになる。第二が「モデル化」を通して事象の仕組みを探求する「理念型」である。「置き勉」問題に「規範モデル」「解釈モデル」という二つのモデルを適用し、この問題の解決に向けては、規則の強化よりも児童・生徒による「規則についての解釈」を生かすことが有効だと示される。全７頁
５「児童-教師間の共演としてのIRE連鎖 ―対話的な学びの具現化に向けて－」	単著	令和２年３月	『奈良学園大学紀要』12集	教師の“Initiation（開始）”―児童生徒による“Replay（応答）”―教師の“Evaluation（評価）”の連鎖から成る会話構造であるIRE連鎖は，授業成立を支える「文法」ともいえるものである。本研究は，IRE連鎖に焦点をあてて，授業の談話記録を分析した。これは，IRE連鎖が，対話的な学びの促進要因となる条件を探るためである。分析の結果，IRE連鎖において，児童による積極的な参加が不可欠な要素であることが明らかになった。すなわち，第一に，教師とともに一定のリズムを生み出すこと。第二に教師に合わせて発言の形式を調整すること。第三に，教師とともに補い合いながら言葉を生み出していくことである。こうした三つの要素は，児童-教師間の「共演」と呼ぶことができるものである。対話的な学びを具現化するためには，教師と児童の「共演」を成立させていくことが必要である。 全10頁

６「観察力を育てる教育社会学の授業に向けて―学校外の事例から学校における事例へ―」	単著	令和２年５月	オンラインジャーナル「人間教育」第3巻第5号	本研究は、教員養成課程における教育社会学の授業において観察力を高めるための方策を考察するものである。観察力は児童・生徒に適切な指導を行うために欠かせないものである。観察力育成のための筋道として、学校外の事例を観察したのち、そこで得られた知見を学校内の事例にあてはめることを提案する。本研究では、学校外の事例としてエスカレーターの片側空けについて取り上げ、これが自然発生的なパターンであると同時に、改善のための介入が必要な事象であることを明らかにする。学校内における改善が必要な自然発生的パターンとしては、入学したての小学校１年生が学校「トイレの使い方」について学ぶ場面における「無力化実践」を取り上げる。これらの事例の検討を通して、教育社会学に臨床的な視点を取り入れることは、学生に実践力を育成するために有効である可能性を示すとともに、現職教員と連携した取り組みにも直結することを展望する。全７頁
７「デザイン的発想を生かした小学校国語科の授業改善」	単著	令和３年12月	『奈良学園大学紀要』14集	本研究の目的は，「デザインすること」に働く見方・考え方をデザイン的発想として取り出し，授業改善に生かすことである。本研究では，現代デザイン論を概観し，構成的・合理的思考という「作りながら考えること」の側面と日常的実践における「協調して考えること」の二つの側面を取り出す。小学校国語科における授業改善のためには，学校現場における「期待」を明確化し，プロトタイプの提案をすることが中心となる，さらに，教師をはじめとする関係者が協調して，教科書教材「事後的に」使いやすくすることが求められる。本研究ではプロトタイプの具体例として「言語活動系列表」と「授業のショートシナリオ」を提案し，授業改善におけるデザイン的発想の有効性を検討する。 全10頁
「読解指導の背景にある言語観について－宮沢賢治『やまなし』における造語「クラムボン」を手がかりに－」	単著	令和5年12月	『奈良学園大学紀要』14集pp. 23-32	本研究の目的は、読解指導の背景にある言語観の明確化である。本研究において、読解指導とは学習者に文章の意味内容を理解させるための指導である。また、言語観とは、「意味についての捉え方」を指す。本研究は、暗黙の背景への着目と言う点で教育社会学的なアプローチであり、国語教育の基礎論を志向するものである。分析の対象は、宮沢賢治の童話「やまなし」における造語「クラムボン」をめぐる読解指導上の言説である。分析にあたって、哲学者ウィトゲンシュタインの後期の思考を手がかりとした。分析の結果≪言葉の意味内容を理解することは、その言葉に対応する「もの」を捉えることである≫とする「読解指導における対応説」が、授業実践の背景で、暗黙の前提とされていることが分かった。これには「アメンボ」「プランクトン」のように現実世
（その他） 1 2 3 :				

（注）

１ 最近１０年間の教育活動、研究活動について作成すること。
２「教育活動」については各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については就任年月日順に記入すること。
３「研究活動」については、下記の点に留意すること。
①著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入すること。
②著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付すこと。
③　共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載すること。
④　最近１０年間に著書･論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておくこと。
⑤　芸術分野や体育実技等の分野を担当する教員については、著書・論文等以外の競技会、展覧会または演奏会等での発表のうち、特に顕著な業績と認められるものについても記載すること。このほか、専門分野の特性を考慮し、顕著な業績と認められるものがある場合もこれに含めてもよい。

別記様式第４号（その２）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　研　究　業　績　書

2024(令和6) 年3月31日

氏名　　鍵本　有理

研究分野	研究内容のキーワード
日本語学・古典文学・国語教育	文法史・万葉集の本文校定・国語教材開発・わかりやすい表現

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
１　教育方法の実践例		
①文章表現指導	平成25(2013)年度～令和５(2023)年度	工業高等専門学校での国語表現指導、またその経験を2022年度から本学の教職表現力演習等に生かし、記入式プリント・power point等を作成、他の教員にも提供している。 その実践報告は、すでに『奈良工業高等専門学校研究紀要』や『高専教育』に発表済みである。
②「ノートが取れる・文章が書けるための表現指導ーー書き取り・書き写しを活用してーー」	平成25(2013)年7月20日	教育現場において「文字を書く」という基本的な作業がおろそかになっている現状から、ディクテーションや書き写しの課題を通じて、学生の表現能力を養成する方法について実践した。その成果は、関西大学「教育支援センター年報」に発表済みである。
③「学生を主体とした図書委員会活性化の試みー恒常的活動を目指してー」	平成26(2014)年3月14日	「読書週間」展示その他、学生の図書委員会活動を活性化させることにより読書指導に役立てた。その上で、高専の図書館の位置づけについても全国図書館大会で発表、その後、前任者や後任者の実績も併せて高専フォーラムや『高専教育』に５年間の指導の成果を発表した。
④学生自身による学びの蓄積 ―ファイリングやノート作成のできる学生に―	平成29(2017)年3月1日	アクティブ・ラーニングほか、授業中に学生にプリント作業させることが増えている。そのプリントの蓄積方法や、手書きでノート作製させる方法を実践。そのメリットについて、岐阜工業高等専門学校「大学教育再生加速プログラム」公開報告会にて発表した。
⑤Teams・Forms等を導入した授業方法	令和2(2020)年度～令和3(2021)年度	遠隔授業において下記教材等を利用し、Teamsのリアクション機能を活用した双方向授業を実施。授業後には課題をFormsで提出させ、次回の授業で解答を紹介・コメントすることで授業外の学習を促進した。
⑥古典に親しむ遠隔授業教材 ―絵巻提示と文法解説の工夫―	令和3(2021)年3月4日	これまでの対面授業で作成した視聴覚教材を応用し、遠隔授業用に絵巻物を著作権に配慮しつつ利用した教材や、文法事項をアニメーション活用によりクイズ式にしたビデオ教材などを作成。令和2年度KOSENフォーラムにて発表した。
⑦「論理力を試そう！」テストの実施・分析――本校生の読解力を見る――	令和3(2021)年3月（電子版のため発行月のみ記載）	奈良高専の低学年を対象として、読解力テストを実施し、結果を分析した。読み誤りの原因としては「飛ばし読み」の可能性があることと、日頃から単語ではなく「文」を書かせ、ゆっくりでよいので正確に読み取る習慣付けが大切であることをまとめた。
２　作成した教科書，教材		
①国語表現に関する教材プリントおよび視聴覚教材（Power point）	平成25(2013)年度～令和5(2023)年度	大学生・高専4年生を対象とした、国語表現に関する教材プリント。表現について考えさせるための問題と、技法や注意点をまとめた説明、新聞などの実例を組み合わせて構成。 令和４(2022)年度からは、本学の教職表現力演習向けに新規作成。使用テキストに合わせて従来のものも応用し、他教員にも提供。

②『高専生のための　これだけ！　古典文法』 ③『大学生のための　これだけ！　古典文法』	平成25(2013)～令和3(2021)年度 令和４(2022)年度	通常の大学受験を必要としない高専学生を対象に、古典文学読解の上で最低限必要な古典文法事項をまとめた文法書(B６版、約50ページ)。完了「り」の接続についての最近の学説・「完了」と「過去」の違いなどをコラムとして入れ込むなど、研究成果も活かして作成。 また、本学学生向けに②を編集し直し、③を作成した。
④国語（古典）視聴覚教材 ⑤国語（現代文）視聴覚教材 ⑥「国語表現法」視聴覚教材 ⑦日本文化・文学に関する視聴覚教材 いずれもPowerPoint(対面授業)・Teams・Forms等（遠隔授業）活用	平成29(2017)年度より現在まで 平成30(2018)年度より現在まで 平成30(2018)年度より現在まで 平成31(2019)年度より現在まで	④⑤は高等学校国語教材の主なものについて、PowerPointを使用した教材である。 ④は古典作品のあらすじを絵巻物で紹介、文法事項についてはアニメーションを駆使しクイズ形式で学生との双方向授業となるよう工夫した。本学での夏期集中講座などでも、文法事項復習用として使用。 ⑤は、現代文についても、著者・作者の紹介や内容に関する視聴覚資料をPowerPointにより作成したもの。授業中の発問についても、PowerPointで提示し、その後アニメーションでヒントを与えるなどして、学生との双方向授業を工夫した。 ⑥は高専4年生対象の国語表現教材。最初は手紙用語など定番のものをPowerPointで作成していたが、「わかりやすい表現」など、文章作成の工夫についてもPowerPointのアニメーションで作成。また市販の音声教材なども積極的に利用している。 ⑦は、当初高専5年生（大学2年生に相当）の教養科目「日本文化学」で使用したもので、日本の古典や神話などの比較文化論について、工学系の学生にも興味を持ってもらえるようにした。その後、本学の講義でも、「竹取物語」の比較文学的
３　教育上の能力に関する大学等の評価 ①奈良工業高等専門学校の授業アンケートにおける評価 ②本学の授業評価アンケートにおける評価	 平成25(2013)年度～令和3(2021)年度 令和４(2022)年度～	 ４年次対象の「国語表現法」における授業アンケートにおいて、毎年高評価を得ていた。また、古典に関する指導についても、特にPowerPointの利用に関し、１クラス約40名の授業で、クラスにもよるが、自由記述で約10名が「おもしろかった」、約7名が「プロジェクタを使っているのもよかった」「ポイントがわかりやすい」「時代背景がわかる」、 数名が「ノートがわかりやすい」と記述。 着任2年目となり、昨年度よりも値の上がったものが多く、総合評価4.0/5.0と一定の評価は得られたようである。
４　実務の経験を有する者についての特記事項 ①奈良県河合町中央公民館古典講座担当 ②奈良工業高等専門学校公開講座「日本文学講座」担当 ③志賀直哉旧居 奈良学園公開文化講座担当 ④奈良県香芝市中央公民館古典講座担当	 平成25(2013)年度～令和４(2022)年度 平成25(2013)年度～令和2(2020)年度 令和3(2024)年度 平成25(2013)年度～令和４(2022)年度	 河合町の町民大学「文化・芸術学部」の古典講座担当。『源氏物語』をはじめとし、日本の古典文学について、町民を対象として講義。 奈良工業高等専門学校の公開講座として、毎年夏期休業期間に地域住民を対象として実施。毎年70名前後の参加者があった。 国語科教員への依頼・日程調整・事務部との打ち合わせを行い、講演も年1回担当。 本法人所有のセミナーハウス公開講座として、毎年実施されているもの。11月と3月の2回、源氏物語に関する講義を行い、20名前後の参加者があった。 香芝市の古典講座「珠裳」の講師担当。『枕草子』『宇治拾遺物語』『徒然草』『源氏物語』など日本の古典文学について、毎月第2・4水曜、市民を対象として購読形式にて講義。

職　務　上　の　実　績　に　関　す　る　事　項		
事項	年月日	概　　要
1　資格，免許		
①修士（文学）　関西大学	平成４（1992）年3月31日	関西大学　文修第九六四号 論文題目「万葉集動詞のアスペクト」
②博士（文学）　関西大学	平成12（2000）年3月31日	関西大学　文博第一七号 論文題目「万葉集文法研究」
③中学校教諭１種免許（国語）	平成４（1992）年3月31日	（大阪府教育委員会平1中1第２７５０号）
④高等学校教諭１種免許（国語）	平成４（1992）年3月31日	（大阪府教育委員会平1高1第２９６９号）
⑤司書教諭免許	平成２（1990）年12月1日	（文部省第１５３６７６号）
⑥中学校教諭専修免許（国語）	平成４（1992）年3月31日	（大阪府教育委員会平３中専第５６号）
⑦高等学校教諭専修免許（国語）	平成４（1992）年3月31日	（大阪府教育委員会平３高専第２４８号）
⑧防災士	平成26（2014）年9月25日	近畿地区7高専連携による防災技能を有した技術者教育の構築プロジェクトの一環として受講し、資格試験に合格。（防災士登録０８１４１８号）
2　特許等 なし		
3　実務の経験を有する者についての特記事項		
①奈良工業高等専門学校　教務主事補 （入試担当・教務担当）	平成25(2013)年度～平成28(2016)年度	最初の2年間は主に入試広報を担当し、中学や学習塾等主催の入試相談会業務を担当、また広報資料の作成・立案にもあたった。平行して、教務としての業務（時間割作成や授業に関する各種連絡等）を担当した。
②同　一般教科主任・運営委員・人事委員	平成29(2017)年度～平成30(2018)年度	主任として、科内運営他、月1回の科内会議の開催、採用・昇任人事を担当。また認証評価をはじめとした外部評価への対応、入試業務等にあたった。
③同　学生相談室長	平成29(2017)年度	保健室と連携し学生のメンタルケアやアンケート等を実施、特に夏季休業後から学生の相談が増加したため、各種研修での事例を参考に、学内の相談者リスト等を作成、後任者への引き継ぎに工夫をした。
④同　情報工学科1・2年学級担任	平成31(2019)年度～令和2(2020)年度	学生指導（生活・学習面）クラス運営や保護者懇談実施。様々な行事への引率等を行った。2020年度は遠隔授業期間の学生の精神面のサポート（ネットでの毎朝の連絡ほか）を行った。
⑤同　情報工学科1年学級担任	令和3(2021)年度	学生指導（生活・学習面）やクラス運営・保護者懇談実施。
4　その他		
奈良工業高等専門学校における学内FD 「担任勉強会」担当	平成25(2013)年度から平成29(2017)年3月まで毎年1・2回	高専の学級担任は、年度当初の注意事項や座席表・掃除当番表に始まり保護者への連絡文書、行事の案内文書、場合によっては学級通信当各種文書を自身で作成する必要がある。また、学生指導も経験の浅い教員にとっては戸惑うことも多い。そこで担任業務へのサポートとして、初めて担任を受け持つ教員から、ある程度の経験を持つ教員まで、幅広いニーズに対応するよう、自身の経験から研修を行うだけでなく、担任同士の座談会や意見交換会なども企画・運営した。 また学生主事からの要望で、担任が作成する各種文書や業務を簡単にまとめた「担任資料」を作成、当初はCD－ROMと紙ファイル17部を学内に配付、その後も初めて担任を持つ教員に電子データを配付した。

研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書，学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所，発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
(学術論文) 1. 「論理力を試そう！」テストの実施・分析―本校生の読解力を見る―	単著	令和3(2021)年 3月	「奈良工業高等専門学校研究紀要」第56号 pp81～88	新井紀子著「AI vs. 教科書が読めない子どもたち」で、生徒の「基礎的読解力」が「危機的な状況」にある、と話題になった。また、国際学習到達度調査（PISA）読解力テストで日本の順位が低下している。そこで、勤務校学生の読解力について分析したところ、熟語などを「飛ばし読み」することが原因である可能性のあることがわかった。読解力養成のためには日頃から単語ではなく「文」を書かせ、ゆっくりとでよいので正確に意味を読ませる指導や工夫が大切であることをまとめた。
2. 辞典項目執筆 「鷭狩」「城崎を憶ふ」（泉鏡花） 「逆杉」（大岡昇平）	単著	平成28 （2016）年10月	『温泉文学事典』 浦西和彦編著 （和泉書院）	温泉地を舞台とする文学作品について、その概要をまとめた。 pp33～35、pp73～74
（その他） 1. 学生自身による学びの蓄積――ファイリングやノート作成のできる学生に――	単独	平成29 (2017)年 3月1日	岐阜工業高等専門学校「大学教育再生加速プログラム」公開報告会	ポスターセッション 学生によるポートフォリオの一環としてのファイリング指導やノート指導、アクティブラーニングのためのPowerPoint教材について紹介した。
2. 古典に親しむ遠隔授業教材―絵巻提示と文法解説の工夫―	単独	令和3(2021)年 3月4日	令和2年度KOSENフォーラム オーガナイズセッション （OS-92） 高専ならではのICT活用～遠隔授業の実践発表～	これまでの対面授業で作成した視聴覚教材を応用した、遠隔授業教材の実践発表。絵巻物を著作権に配慮しつつ利用し、文法事項はアニメーションを利用してクイズ式にするなどしたビデオ教材紹介。

別記様式第４号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　研　究　業　績　書

2024年　3月　31日

氏名　川端咲子

研究分野	研究内容のキーワード
日本文学	近世文学　近世演劇　浄瑠璃　歌舞伎

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
1　教育方法の実践例 1)くずし字解読のワークショップを取り入れた授業 2)江戸時代の日記をもとにその時代の再現を試みる授業	令和3年4月～ 令和5年4月～	奈良学園大学の国文学特講において、近世の版本を利用してくずし字の解読を行う授業を展開。 同志社女子大学において本居宣長の『在京日記』と京都の地誌類を比較し、宝暦期の京都の様相を考察する授業を展開
2　作成した教科書，教材 なし		
3　教育上の能力に関する大学等の評価		
2023年度（令和5年度）同志社女子大学授業アンケート	令和4年1月	比較的高い評価がなされた。 （設問例）この授業は全体として満足できる内容でしたか。85.7% あなたはこの授業の分野または関連分野の学習をさらに深めたいですか。71.4% 到達目標を達成しやすいように指導がなされていましたか。85.7%
4　実務の経験を有する者についての特記事項		
神戸女子大学古典芸能研究センター特別講座 「小栗判官」の物語	平成27年11月	社会人向けの「説経節―人は神仏に何を託そうとするのか―」という講座の1回。小栗判官を主人公とする説経節「をぐり」がどのような物語で、後生へどのように展開していくのかを解説した。
神戸女子大学古典芸能研究センター特別講座 人が死ぬ時　来迎の姿―志水文庫蔵「来迎図」さまざま　付リ「涅槃図」解説―	平成28年3月	社会人向けの「あの世への想像力―日本人の死生観―」という講座の1回。神戸女子大学古典芸能研究センター所蔵の志水文庫には、佛教版画が多数含まれている。その整理の中で、得られた知見の
神戸女子大学古典芸能研究センター特別講座 源氏物語と近世の浄瑠璃	平成29年10月	社会人向けの「源氏物語と芸能」という講座の1回。平安時代に作られた物語である『源氏物語』が、中世を経て近世の芸能の中ではどのように受け入れられ、また変容したかについて解説した。
神戸女子大学古典芸能研究センター特別講座 近世の牛若丸像	令和元年10月	社会人向けの「アイドル・義経の形成を探る」という講座の中の1回。近世の浄瑠璃や子供向けの絵本の中で、牛若丸が文字でどう書かれ、挿絵でどう描かれているかということを提示して、そこから見られる近世の牛若丸像について解説した。
奈良学園公開文化講座　第59回 人形浄瑠璃に歴史と魅力	令和３年３月	近世に上方で誕生した人形浄瑠璃をとりあげ、さまざまな変遷を経て、現在の「人形浄瑠璃 文楽」となった経緯を解説。変遷の過程でおきた出来事、かかわった人々や多彩なエピソードをまじえ
八王子ゆめ美術館講演会「志水文庫の大津絵」	令和５年10月	八王子ゆめ美術館で開催された展覧会「めぐりあう大津絵」に関連して、展示された神戸女子大学志水文庫所蔵の資料についての講演を行った。
5　その他		

職務上の実績に関する事項

事項	年月日	概要
1　資格，免許 高等学校教諭一種免許（国語）	平成5年3月	
2　特許等 なし		
3　実務の経験を有する者についての特記事項		
神戸女子大学古典芸能研究センター非常勤研究員	平成15年4月～ 令和3年3月	神戸女子大学古典芸能研究センター開設当時から非常勤研究員として業務に従事。梁務内容：資料の整理、展示の企画、講座の講師、データベース

〔課題番号〕24520225〔研究課題名〕画像資料の相互利用による歌舞伎演出の研究（河合真澄）　研究協力者	平成24年4月～平成27年3月	河合眞澄氏を代表とする科研。歌舞伎台帳(脚本)を中心とした、現存する江戸期の歌舞伎関連資料をもとに、江戸期の歌舞伎の上演形態や演出法などについての考察を行った。
4　その他 なし		

研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項

著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　要
（著書） 1食満南北著『大坂藝談』	共	平成28年3月	和泉書院 神戸女子大学古典芸能研究センター編	神戸女子大学古典芸能県有センターが入手した、食満南北の未公開原稿『大阪藝談』の翻刻と解説を載せた本。翻刻作業と索引作成に携わった。全体に関わるため、該当箇所の提示不可
2新作浄瑠璃『めをと山賊』―食満南北遺稿集―	共	令和2年3月	和泉書院 神戸女子大学古典芸能研究センター編	解題執筆 食満南北作の歌舞伎脚本「めをと山賊」の草稿本、食満南北脚色の浄瑠璃『恩讐の彼方に』（原作菊池寛）、食満南北の画賛の歌舞伎十八番図絵を収録した本で、上記三作品の翻刻と解題すべてを担当。ほぼ全編にわたって執筆。
（学術論文）				
3浄瑠璃『三世相』における工夫	単	平成26年6月	神女大国文　第25号 (p13-p22)	近松門左衛門作の浄瑠璃『三世相』を取り上げ、世話浄瑠璃誕生前夜の浄瑠璃として位置づけ、作中に見られる近松のいくつもの工夫を指摘した論考。当代の人を登場させることがまだなかった時期の浄瑠璃が、数年前に死去したばかりの遊女夕霧を登場させるためにおこなった工夫、また夕霧を幽霊として登場させることで当代の人を登場させるというハードルを越えようとした事を指摘した。
4〈新収資料紹介〉『新板おどりくどき』	単	平成26年6月	神戸女子大学古典芸能研究センター紀要　8号 （p107-108）	『神戸女子大学古典芸能研究センター紀要』3号で紹介した『新板きおんおとりくとき』の補足。ほぼ同じ資料ながら、掲載曲の順番が少し異なり、外題が異なる『新板おどりくどき』が、これまで所在不明であった古典文庫所収の本の底本であることを証明した。
5『二十五菩薩功徳集』について	単	平成27年6月	神戸女子大学古典芸能研究センター紀要　9号 (p106-p125)	神戸女子大学古典芸能研究センター志水文庫所蔵の仏教書の紹介。本書は、他には東京大学にのみ所蔵が確認できる資料である。著者不明であるが、内容から、浄土宗関係者による執筆と考えられることを指摘し、来迎に際して阿弥陀如来と共に現れる二十五菩薩に関する先行研究を踏まえつつ、十王経や和讃などの記述と比較して本書の特異性を確認し、その上で能の番外曲「御菩薩」との類似性を指摘した。
6享保三年の競演 ―絵入狂言本『けいせい山桝太夫』の検討― （査読有）	単	平成28年6月	『上方文藝研究』第13号 (p80-p93)	享保3年に起きた茨木屋幸斎闕所事件に関わる、先行研究を整理した上で、大坂と京都で上演された『けいせい山椒太夫』は、正徳年間に上演された「さんせう太夫の狂言」を急遽改作した作品である可能性が高いことを指摘した。
7絵入狂言本『けいせい山桝太夫』の検討 ―嵐座・大和山座・都座―	単	平成28月年6月	『神戸女子大学古典芸能研究センター紀要』10号 (p66-p80)	上記の論文の続編。大坂と京都の二座で上演された『けいせい山椒太夫』の相違点を確認し、それがどういった事情を背景として生じたかについて、特に出演役者の役柄の差に焦点を当てて考察した論考。
8「をぐり」の物語―十王由来譚	単	平成29年3月	『説経 ： 人は神仏に何を託そうとするのか』（和泉書院） (p142-p156)	説経節「をぐり」から、小栗判官の従者である「十人の殿原」の物語を取り上げて考察した論考。説経「をぐり」の諸本に見られる「十人の殿原」の物語の異同を、『十王経』から始まる十王信仰の変遷と重ねて考察を行った。
9食満南北脚色、浄瑠璃「恩讐の彼方に」について	単	平成29年3月	神女大国文　28号 (p33-p43)	大正８年に菊池寛が発表した小説『恩讐の彼方に』を元にして、人形浄瑠璃のために脚色を行ったのが食満南北である。この浄瑠璃「恩讐の彼方に」が、どの様な状況下で浄瑠璃化されたか、浄瑠璃化に当たっては原作がどのように変更されたか、初演以降どのような変化が起きたかを考察した論考。歌舞伎や浄瑠璃のために多くの作品を脚色してきた食満南北の脚色のあり方が一部明らかになったといえる。

10豊竹山城少掾旧蔵段物集〔乱曲集〕（写真版）について―志水文庫蔵横山重氏旧蔵資料整理の一環	単	平成29年6月	『神戸女子大学古典芸能研究センター紀要』11号(p67-p82)	延宝から宝永にかけて京都で活躍した浄瑠璃太夫宇治加賀掾には、形式の異なる段物集が複数ある。本稿では戦災により焼けてしまい現在は写真で一部分のみ知ることが可能な段物集〔乱曲集〕を取り上げ、書肆の検討、本文の検討、節付けの検討を通して、誰がどうした意図でこの段物集を作ったのかを考察した。
11近世芸能における道成寺の演出―宇治加賀掾古浄瑠璃『うしわか虎之巻』鐘入を中心に―	単	平成30年3月	神女大国文　29号(p39-p49)	仮名草子『道成寺物語』の挿絵や歌舞伎の絵入狂言本の挿絵を元にして、近世芸能において鐘から蛇体が現れる際の演出は、どの様な形が一般的であったのかを考察し、挿絵のない古浄瑠璃『うしわか虎之巻』でも、本文の検討とあわせて同様の演出があったことを考察した。
12絵入狂言本『けいせい山崎通』について	単	令和元年5月	演劇研究会会報　第45号(p30-p41)	原本の所在が不明であった絵入狂言本『けいせい山崎通』を神戸女子大学古典芸能研究センターが入手したことから、挿絵を主に紹介を行った。またこの歌舞伎も『けいせい山椒太夫』と同じく、大坂と京都でほぼ同時期に上演されていることから、配役表と役者評判記の記述から、その相違点などを考察した。
13（資料紹介）京都大政所町資料『永傳録』の名代について	単	令和元年6月	『神戸女子大学古典芸能研究センター紀要』12号(p63-p73)	神戸女子大学蔵の『永傳録』の「湯屋風呂屋茶屋嶌原芝居之事」という一条に、「芝居之事」として挙げられている名代部分は、従来知られている『京都御役所向大概覚書』記載の名代一覧と聊かの異同があり、また『永傳録』の筆者による注記は他には見られない情報も含むことから、「芝居之事」の部分を紹介、若干の考察を行った。
14志水文庫所蔵 古浄瑠璃〔るり姫〕零葉	単	令和元年6月	『神戸女子大学古典芸能研究センター紀要』13号(p65-p73)	古浄瑠璃〔るり姫〕の零葉については、早くに横山重氏が『古浄瑠璃正本集』で言及されているが、内容の検討は行われてこなかった。本稿は、零葉の本文の翻刻と挿絵の影印を紹介した上で、物語の背景となる伝説の紹介、本文と挿絵から分かる浄瑠璃の演出の推定を行い、以前に紹介した〔紀三井寺〕同様に、上方の浄瑠璃を江戸で読み物として刊行した可能性を指摘した。
15志水文庫の仏教資料	単	令和元年7月	『寺院文献資料学の新展開』第９巻近世佛教資料の諸相Ⅱ（臨川書店）編集山崎淳(p81-p107)	近世の仏教資料を調査研究するには、寺院所蔵の資料は餅論ではあるが、近代に流出して個人蔵となった資料への目配りも必要であることを、志水文庫（故信多純一大阪大学・神戸女子大学名誉教授旧蔵の資料）の例を示して主張した論考。あわせて、志水文庫所蔵の仏教関連資料の抄出紹介を行った。
16（資料紹介）食満南北画帖『その妻とともに』	単	令和2年6月	『神戸女子大学古典芸能研究センター紀要』14号(p5-p13)	食満南北再評価の一環。昭和31年に食満南北が妻や友人夫妻と和歌山へ旅をした折の画帖を影印で紹介し、解説を付した。
17〈資料紹介〉『絵本舞台桜』解題・翻刻・影印	単	令和2年6月	『神戸女子大学古典芸能研究センター紀要』14号(p71-p82)	『絵本舞台桜』の翻刻と影印で紹介をした。解題では、本書の刊行時期は不明ながら、造本が非常に似通う同様の書があることから、近世の一時期に、能や狂言と浄瑠璃や歌舞伎のコラボレーション的な絵本が流行した可能性があることを指摘した。
18横山重自筆《書誌》カード（仮題）紹介（一）、（二）	単	令和3年6月、令和4年6月	『神戸女子大学古典芸能研究センター紀要』15号(p5-p13)16号(p69-87)	昭和期の国文学者・書誌学者である横山重氏が蔵書の処分をするにあたって作成された書誌カードが、神戸女子大学古典芸能研究センターの志水文庫にある。資料的価値の高いこの書誌カードを翻刻紹介した。
19仏母鎮護　摩耶夫人の面影	単	令和3年7月	『伝説・物語の神戸を歩く』（神戸女子大学古典芸能研究センター編、神戸新聞総合出版センター刊）(p161-178)	本書は、生田、須磨、築島など古典文学や古典芸能と関わりのある神戸の土地を取り上げ、その地に残る伝承や古典文学・古典芸能の紹介をする本である。その中で摩耶山の部を担当し、摩耶山が舞台となった文学・歌舞伎・浄瑠璃の紹介をした。
（その他）				
1「食満南北」図録 ：『食満南北著『大阪藝談』』刊行記念展示	単	平成29年7月	神戸女子大学古典芸能研究センター編	食満南北の未発表『大坂芸談』の刊行にあわせておこなった展示の図録。大正から昭和に書けて大阪の芸能界で作者として演出家として活躍し、川柳作家としても知られていた食満南北の再評価の一環。
2「志水文庫の大津絵と大原神社の絵馬「踊り子図」」図録		平成30年2月	神戸女子大学古典芸能研究センター編	志水文庫所蔵の資料の中から、大津絵を取り上げてその周辺資料と共に展示を行い、その図録を作成、HP上で公開した。

3「説経稀本展―森修文庫・志水文庫・阪口弘之氏蔵本―」図録		平成30年4月	神戸女子大学古典芸能研究センター編	神戸女子大学で近世文学の専門として教鞭をとられた森修・信多純一・阪口弘之先生が所蔵されていた（阪口先生に関しては所蔵されている）説経関連の正本（テキスト）を展示して、説経の世界の広がりを示した展示を行い、その図録を作成、HP上で公開した。
4「仏教版画の群像―如来・菩薩。羅漢―」図録		平成30年6月	神戸女子大学古典芸能研究センター編	志水文庫所蔵の仏教資料の諸相を示す展示の一環として、一面に多数の仏が描かれた作品を特に取り上げた展示を行い、その図録を作成、HP上で公開した。
5「古典芸能と番組・番付―宣伝・案内・見立―」図録	共	平成31年3月	神戸女子大学古典芸能研究センター編	能・狂言・歌舞伎・人形浄瑠璃の興行に際し、それを宣伝・案内するためには様々な形式の番組や番付が作られる。その様相を、古典芸能研究センター所蔵資料を使って示した展示を行い、その図録を作成、HP上で公開した。
6「みんなの偶像！牛若・。義経―芸能にみるその姿―」図録	共	令和1年9月	神戸女子大学古典芸能研究センター編	源義経生誕860年、没後830年を記念してセンター主催で行った特別講座「アイドル・義経の形成を探る」にあわせて、センター所蔵の牛若・義経関連の資料を使った展示を行い、その図録を作成、HP上で公開した。
7「床本　太夫が見る本―四世竹本相生太夫旧蔵資料を中心に―」図録	単	令和2年2月	神戸女子大学古典芸能研究センター編	平成30年に寄贈を受けた故四世竹本相生太夫所蔵資料のお披露目のために、文楽の太夫が舞台で浄瑠璃を語るときに使う「床本」にスポットライトを当てて行った展示の図録を作成、HP上で公開した。

教　育　研　究　業　績　書

令和６年 ３月 31 日

氏名　高橋　千香子

研　究　分　野	研究内容のキーワード
心理学	臨床心理学、精神分析学、教育心理学、社会福祉学（児童福祉）

教　育　上　の　能　力　に　関　す　る　事　項

事項	年月日	概　要
１　教育方法の実践例		
１）各単元終了時に小テストの実施	平成 26 年４月～平成 31 年３月	奈良学園大学奈良文化女子短期大学部幼児教育学科における「保育の心理学」「保育の心理学Ⅱ」「教育心理学」において、主として子どもの心理発達に関する知識を定着させるため、各単元が終了する毎に小テストを実施している。
２）毎回の授業の振り返りを活用した授業実践	平成 26 年４月～令和６年３月	奈良学園大学奈良文化女子短期大学部幼児教育学科における「心理学」「保育の心理学」「保育の心理学Ⅱ」「保育相談支援」「教育心理学」、奈良学園大学人間教育学部における「保育相談支援（幼児教育相談支援）」「保育の心理学Ⅱ」「子ども家庭支援の心理学」「子育て支援」の授業において、ほぼ毎回の授業の最後に振り返りを記入させ、コメントを入れて次の授業時に返却している。内容が良かったものについては次の授業の開始時に紹介することで、前回の振り返りと学習内容への理解を深められるよう工夫している。
３）事例をもとにしたグループディスカッションおよび発表の実践	平成 26 年４月～令和６年３月	奈良学園大学奈良文化女子短期大学部幼児教育学科および奈良学園大学人間教育学部における「保育の心理学Ⅱ」「保育相談支援（幼児教育相談支援）」「子育て支援」の授業において、「保育の心理学Ⅱ」では子どもの生活や対人関係の場面、「保育相談支援（幼児教育相談支援）」「子育て支援」では保護者や親子関係への対応場面についての具体的な事例を多用している。１人で考える時間を設けた後、隣同士あるいは小グループに分かれてディスカッションさせ、発表させることで、思考力や対応力を養うことを目的としている。
４）ロールプレイの実践	平成 26 年４月～令和６年３月	奈良学園大学奈良文化女子短期大学部幼児教育学科および奈良学園大学人間教育学部の「保育相談支援（幼児教育相談支援）」、四条畷看護専門学校の「心理学」の授業において、基本となるカウンセリングの基礎知識を学ぶため、カウンセリング演習の手法を用いたロールプレイを導入している。具体的には２人一組になり、話す役と聞く役に分かれて「聴く姿勢、聴かない姿勢」を相互に体験させ、「傾聴の基本」を学んだ後、それぞれの技術をロールプレイさせている。実施後、それぞれの役割を演じて具体的に振り返り、さらにディスカッションさせることで、メタ認知を賦活させ、理解を深めさせている。
２　作成した教科書，教材		

１）コンパクト版保育者養成シリーズ　新版　保育の心理学Ⅱ	平成 30 年 3 月	保育士養成の必須科目である「保育の心理学Ⅱ」に対応したテキストであり、平成 29 年告示の要領および指針の改訂を反映した内容になっている。 監修者：谷田貝公昭、石橋哲成　編著者：福田真奈、西方毅　A5 版、145 頁 共著者：伊藤亮、小原倫子、川口めぐみ、小池はるか、佐々木真吾、高岡昌子、高橋千香子、谷真弓、西方毅、長谷川直子、菱田博之、福田真奈、山口昌澄 本人担当部分：第４章　子ども集団と保育者の援助（P33～40）子ども集団の特性、集団生活への発達援助、集団に入れない子どもの支援についてまとめている。特に集団生活において培われる協同性や道徳性、規範意識に対する保育者の望ましい援助のあり方について重点的に述べている。
２）シリーズ知のゆりかご　保育の心理学	平成 31 年 4 月	保育士養成課程「保育の心理学」、幼稚園教諭養成課程「幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程」に対応したテキストである。 編著者：青木紀久代　B5 版、192 頁 共著者：青木紀久代、石井正子、大國ゆきの、片山伸子、加藤邦子、金子恵美子、金丸智美、高橋千香子、富田貴代子、中村涼、平沼晶子、細野美幸、三好力、矢野由佳子 本人担当部分：第 11 章　乳幼児の学びを支える保育（P172～185）　第 1 節では「養護と教育が一体的に展開する保育」について説明し、第 2 節において学びの芽生えを支える保育について事例を用いながら説明している。最後の第 3 節では保護者への支援について述べ、保護者との連携や協力の必要性について論じている。
３）シリーズ知のゆりかご　子ども家庭支援の心理学	令和元年 8 月	保育士養成課程の新しい必修科目「子ども家庭支援の心理学」に対応したテキストである。 編著者：青木紀久代　B5 版、192 頁 共著者：青木紀久代、石井正子、大國ゆきの、小嶋玲子、片山伸子、加藤邦子、金子恵美子、古志めぐみ、菅野幸恵、高橋千香子、武田（六角）洋子、細野美幸、三好力、矢野由佳子 本人担当部分：コラム②「保育所は貧困問題の最前線」（P113）　日本の子どもの貧困率の高さについて説明し、保育所が担う役割について述べている。
４）子ども家庭福祉専門職のための子育て支援入門	令和元年 5 月	保育士養成課程の新しい必修科目「子育て支援」「子ども家庭支援論」「子ども家庭福祉」に対応したテキストである。 編著者：才村純、芝野松次郎、新川泰弘、宮野安治　B5 版、176 頁 共著者：大倉得史、山本智也、関谷みのぶ、才村純、本田和隆、室谷雅美、宮野安治、新川泰弘、安田誠人、小山顕、渡邊慶一、山本由紀子、吉弘淳一、藤井裕子、寺田恭子、磯部美良、高橋千香子、川口めぐみ、久保木亮子、西井典子、芝野松次郎、塚本利幸、大谷由紀子、榎本祐子、飯島仁美、別所崇、山本展明、栗山直子 本人担当部分：第 17 章　個人面談、懇談会における子育て支援（P133～138）　保育士の行う個人面談の種類、基本事項、留意点について、事例を引用しつつ具体的に解説している。

5)保育士を育てる③子どもの理解と援助	令和2年3月	保育士養成課程の新しい必修科目「子どもの理解と援助」に対応したテキストである。 編著者：大沢裕、藤田久美　A5版、148頁 共著者：綾野鈴子、伊藤亮、大賀恵子、大沢裕、加納史章、熊谷賢、佐藤牧子、高岡昌子、高橋千香子、谷真弓、當銘美菜、根津知佳子、野末晃秀、藤田久美、古橋真紀子、村山久美、山本陽子 本人担当部分：第11章　子育て支援・家庭支援と子ども理解（P89～96）　近年の子育て家庭への支援の重要性の高まりと、子育て家庭支援にける子ども理解と援助のあり方について、事例を引用しつつ解説している。
6）シリーズ知のゆりかご　なぜ？から探る子ども理解と援助	令和4年1月	保育士養成課程の新しい必修科目「子ども理解と援助」と教職課程の「幼児理解の理論及び方法」に対応したテキストである。 編著者：青木紀久代　B5版、175頁 共著者：青木紀久代、大河内修、荻原はるみ、佐藤有香、嶋野珠生、高橋千香子、武田（六角）洋子、田村知栄子、細野美幸、松浦淳、三好力、矢野由佳子、山下直樹、横畑泰希 本人担当部分：第2章　共感的理解と子どもとの関わり（P29～39）子どもに対する共感的理解とはどのようなことなのか、複数の事例をもとに臨床心理学的な視点から解説し、保育者として望ましい関わりのあり方について述べている。
7）コンパス教育相談	令和4年3月	教職課程における「教育相談の理論及び方法」に対応したテキストであり、現代の教師・保育者にとって必要な内容となっている。 編著者：住本克彦　B5版、131頁 共著者：赤松久美子、新井肇、磯部美良、荊木まき子、岡村季光、加島ゆう子、片山則昭、加藤由美、門原眞佐子、上地玲子、小泉令三、阪中順子、坂中尚哉、定金浩一、清水里香、高橋彩、高橋千香子、高橋典久、立浪朋子、崔回淑、葉山貴美子、原志津、深津久美子、福森護、藤田由起、古川治、松田文春、南雅則、山口裕毅 本人担当部分：第3章　子どもの発達と教育相談　1乳幼児期の発達と教育相談（P21～25）乳幼児期の子どもの発達の概要を述べるとともに、その時期の教育相談の特性について解説している。
8）子どもと保護者に寄り添う「子ども家庭支援の心理学」	令和4年4月	保育士養成課程の必修科目「子ども家庭支援の心理学」に対応したテキストであり、生涯発達や家族・家庭への心理支援について具体的に学べる内容となっている。 監修：立花直樹、津田尚子　B5版、167頁 編者：要正子、小山顕、國田祥子 共著者：立花直樹、津田尚子、高橋千香子、小山顕、國田祥子、赤澤正人、河村陽子、丸目満弓、大川宏美、赤田太郎、勝野愛子、要正子、座間味愛理、藤野正和、佐藤睦子、森内さやか 本人担当部分：第２章「乳幼児期における発達」（P16～25）乳幼児期の発達について、愛着の重要性を軸に、主要な発達理論を事例とともに解説している。

９）現場で役立つ保育実技　運動・ことば・音楽・造形遊びから STEAM 教育を取り入れた保育実践まで	令和５年９月	保育者を目指す学生や保育初心者のために、保育現場で取り入れてほしい実技を紹介する実践書であり、実技の方法だけでなく教育的効果も解説している。 編著者：岡野聡子　B5 版、103 頁 共著者：小久保圭一郎、高岡昌子、中島緑、林悠子、浅見優哉、木戸直美、谷原舞、中島眞吾、野見山直子、藤井伊津子、田中卓也、小川知晶、田中路、安氏洋子、南川咲希、森瀬智子、佐藤寛子、間井谷容代、木本有香、北澤明子、石原由貴子、筧有子、平松茂、山梨有子、高橋千香子、小島千恵子、小田桐早苗、松村齋 本人担当部分：レッスン７「場面指導の練習をしてみよう　1.園における子ども同士のトラブル対応」（P84～85）子ども同士のトラブルへの保育者の望ましい対応について、事例やワークとともに解説している。
３　教育上の能力に関する大学等の評価		
１）学生による授業評価の結果①	平成 26 年４月～平成 31 年３月	奈良文化女子短期大学部の学生による授業評価アンケートの結果、平成 30 年度の学生による授業評価（満点 4.0）は、「保育の心理学Ⅱ」3.79、「教育心理学」3.56 であった。自由記述には「保育の心理学Ⅱ」では「子どもの成長には心の状態が大きく関係していることを知った」、「教育心理学」では「自分を振り返り、人と関わる上で必要なことをたくさん学べた」などの記述があり、どちらも「とても分かりやすかった」「ためになる話が多かった」等の評価を得ることができた。
２）学生による授業評価の結果②	令和４年４月～令和６年３月	学生による授業評価アンケート（8 項目、満点 5.0）における総合的満足度を問う項目は、人間教育学部の専門科目の「幼児教育相談支援（保育相談支援）」、「子育て支援」、「子ども家庭支援の心理学」、保健医療学部リハビリテーション専門科目の「臨床心理」すべて 4.0 以上であり、高い評価を得ることができている。
４　実務の経験を有する者についての特記事項		
１）奈良学園大学奈良文化女子短期大学部における幼児教育講座の講師	平成 26 年８月７日	奈良文化女子短期大学部主催の幼稚園、保育所、こども園、小学校教諭、特別支援担当教諭らを対象とした幼児教育講座の講師を務めた。平成 25 年度の「気になる子」に続き、平成 26 年度は「気になる子②－子どもの心と親子関係－」というテーマで実施した。
２）関西女子短期大学教員免許状更新講習における講師	平成 26 年８月８日 平成 27 年８月 11 日 平成 28 年８月 10 日 平成 30 年８月 24 日 令和３年８月５日	関西女子短期大学主催の幼稚園教諭を対象とした教員免許状更新講習において、同短期大学保育学科の津田尚子准教授とともに、「子どもを守り育てる家庭支援」と題した講座を担当した。現代の子育て家庭の現状について、その年に起こった児童虐待死事件にも触れつつ、現場の保育者が日々直面するであろう諸問題や、家庭支援のあり方について、講義やグループワークを実施し、考える視点を提供した。

３）葛城市保育士研修会における講師	平成 26 年 11 月 29 日	葛城市保育士会からの依頼により、同市内の公立・民間保育園に勤務する保育士対象に、「保護者理解と関係づくり」というテーマで研修を行った。
４）寝屋川市保育所・幼稚園職員研修会における講師	平成 27 年 2 月 27 日	寝屋川市保健福祉部からの依頼により、同市内の保育士、幼稚園教諭、児童福祉関係者等を対象に「保護者への伝え方、子どもへの関わり方」というテーマで研修を行った。
５）奈良学園大学奈良文化女子短期大学部内のつどいの広場「ぶんタン」におけるミニ講座講師	平成 26 年 11 月 7 日 平成 27 年 9 月 30 日 平成 28 年 10 月 28 日 平成 29 年 11 月 6 日 平成 30 年 10 月 26 日	奈良文化女子短期大学部におけるつどいの広場「ぶんタン」において、「発達について」、「臨床心理士さんに聞いてみよう」「育児ストレスについて話そう」等のテーマでミニ講座を担当した。
６）奈良いのちの電話協会講座における講師	平成 27 年 10 月 31 日 平成 27 年 11 月 7 日	第 39 期電話相談員養成講座の中の「カウンセリング演習講座」において、4 回シリーズのうちの後半 2 回を担当した。
７）寝屋川市家庭教育講座における講師	平成 29 年 1 月 14 日	寝屋川市立点野小学校において保護者や教育関係者を対象として「思春期の心理について」というテーマで講演を行った。
８）登美ヶ丘公民館「子育て講座」における講師	平成 29 年 9 月 29 日 平成 30 年 10 月 5 日	登美ヶ丘公民館における子育て講座において、奈良文化女子短期大学部の中田章子講師と共同で、29 年度は「頑張りすぎない私らしい育児」、30 年度は「みんなどうしてる？子どもへの関わり方」というテーマで講座を担当した。
９）奈良県臨床心理士会第 77 回相互研修会におけるシンポジスト	平成 31 年 2 月 17 日	奈良県に在住もしくは勤務している臨床心理士を対象としている相互研修会において、「私の臨床を語る」をテーマに３名のシンポジストの内の１名として講話およびシンポジストを務めた。
10）令和 4 年度大阪私立学校保健会保健主事・養護教諭部会研修会の講師	令和 4 年 7 月 11 日	大阪私学学校の保健主事および養護教諭約 80 名を対象に、「青年期の発達障害について」というテーマで講演を行った。
５　その他		
無		

職　務　上　の　実　績　に　関　す　る　事　項		
事項	年月日	概　　要
１　資格，免許		

1）中学校教諭一種免許（社会）	平成4年3月	平三　中一種　第2287号　　京都府教育委員会発行
2）高等学校教諭一種免許（社会）	平成4年3月	平三　高一種　第2541号　　京都府教育委員会発行
3）小学校教諭二種免許	平成4年3月	平三　小二種　第10119号　　京都府教育委員会発行
4）財団法人日本臨床心理士資格認定協会認定　臨床心理士	平成9年4月	登録番号　6651
5）公認心理師	平成31年2月	登録番号　13797
2　特許等		
無		
3　実務の経験を有する者についての特記事項		
1）奈良県臨床心理士会子育て支援部会長	（平成24年6月）～平成26年5月（任期2年）	奈良県臨床心理士会内に設置されている7部会のひとつである子育て支援部会の長として、部会内の連絡および、月1回開催している子育て支援部会研修の企画・運営を行った。
2）奈良文化幼稚園における発達の気になる子どもの行動観察および助言指導	平成26年6月～現在に至る	奈良文化幼稚園に年に3回（学期に1回）訪問し、各クラス担任からあらかじめ依頼された発達の気になる子どもの行動観察を行い、その後、子どもの見立てや今後の支援のあり方についてのカンファレンスを行っている。
3）奈良県臨床心理士会研修委員長	平成26年6月～平成28年5月（任期2年）	奈良県臨床心理士会の研修委員会の長として、年に3回実施される相互研修会の企画・運営を担当した。委員会の招集、連絡調整、講師との交渉、事前準備、当日の進行など、他の委員と協働して行った。
4）社会福祉法人宝山寺福祉事業団児童養護施設愛染寮にて心理相談員（パート）として勤務	平成29年4月～現在に至る	本学学生の施設実習や就職等でつながりのある児童養護施設愛染寮において、入所児童の心理的ケア（プレイセラピー）を担当する臨床心理士として、週1日3時間（のちに4.5時間に変更）勤務している。
5）近畿大学の大学院生へのスーパーヴィジョン	令和5年3月～令和6年2月	近畿大学大学院総合文化研究科心理学専攻臨床心理学コースで学ぶ学生1名に対し、月に1回程度、スーパーヴィジョンを行った。
6）天理教校学園における第三者委員会の委員	令和4年6月～令和5年3月	天理教校学園において発生した重大事態に対する第三者委員会の委員として、現地調査、関係者への聞き取り等を経て、報告書の作成に携わった。
7）帝塚山高校における第三者調査委員会の委員	令和5年5月～令和6年3月	帝塚山高校において発生したいじめ重大事態に対する第三者調査委員会の委員として、関係者への聞き取り等を経て、報告書の作成に携わった。
4　その他		

１）奈良学園大学奈良文化女子短期大学部における子育て支援事業、奈良学園大学社会・国際連携センター事業「親と子の相談室ひまわり」の担当カウンセラー	平成 26 年 4 月～現在に至る	短期大学部の地域貢献事業のひとつとして一般の市民向けに開設された相談室であり、火曜日の午後に行ってきた。子どもへのカウンセリングや遊戯療法、発達検査、保護者へのカウンセリングなどを行っている。令和 2 年度からは奈良学園大学社会・国際連携センターの事業として、毎週水曜日の午後に実施している。
２）奈良学園大学奈良文化女子短期大学部における人権教育推進・セクシャルハラスメント相談委員会の委員長	平成 27 年 4 月～平成 31 年 3 月	平成 25 年度より委員として活動し、平成 27 年 4 月からは委員長として、定期的に委員会を開催し、学生を対象とした人権アンケートの実施と分析、人権講演会の企画と開催、大人協研修への参加などを行った。
３）奈良学園大学奈良文化女子短期大学部における学生相談の主担当	平成 26 年 4 月～平成 31 年 3 月	学科の学生相談員として学生からのさまざまな相談に応じ、心理的問題を抱える学生への対応について、他の教職員のサポートを行った。平成 27 年度から主担当となり、同年より本学に配置されている非常勤カウンセラーとも連携し、学内の学生相談体制の整備を目指した。
４）奈良学園大学登美ヶ丘キャンパスにおける学生相談室担当カウンセラー	平成 31 年 4 月～令和 4 年 3 月	登美ヶ丘キャンパスの保健医療学部の学生を対象とした学生相談室カウンセラーとして、毎週水曜日の午後、相談室に勤務している。三郷キャンパスの学生相談担当の岡野由美子准教授と情報交換や共有をしながら対応していた。令和 2 年度からは学生支援センターの構成委員となり、同キャンパスを担当してきたが、非常勤カウンセラー2 名の採用に伴い、教員兼務のカウンセラーは終了となった。
５）奈良学園大学入試委員会、学生支援センター運営委員会、ハラスメント防止委員会、衛生委員会、人間教育学部研究倫理審査委員会の各委員	平成 31 年 4 月～現在に至る	奈良学園大学における校務分掌として、各年度に配属された委員会の委員としての役割を担っている。

研究業績等に関する事項				
著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				

1）学び、考え、実践力をつける家庭支援論	共著	平成 28 年 7 月（第 2 版） 平成 30 年 9 月（第 3 版） 令和 2 年 9 月 1 日（第 1 版）	保育出版社（P91、142～143） 令和 2 年度版より教育情報出版	保育士養成課程における必修科目である「家庭支援論」に対応し、基礎理論および具体的な実践事例を含み、読者自身が専門知識を習得した上で実践力をつけられる内容構成となっている。 編者：木村志保、津田尚子編著、B5 判、190 頁。 共著者：飯塚恭一郎、木村敦、太田顕子、大石美佳、長尾和美、佐伯知子、高橋美枝、菊地真理、吉田祐一郎、前嶋元、井土睦雄、原子純、松井圭三、森合真一、田中卓也、田中謙、平本譲、戸田竜也、高橋千香子、加藤博仁、津田尚子、池田幸代、阪木啓二、植木是、矢野裕子、矢幡眞由美、伊尻正一、隣谷正範、児玉龍治、緒倉珠巳、木村志保 本人担当部分：①第 8 章「どうやって子育て家庭を支援すればいいの？－子育て家庭支援の方法・やり方」の「現場の声」欄（P91）：章の導入部分であり、子育て家庭の多様化がすすむ中、不適切な養育が行われている家庭の支援では、子どもの命と安全を守るために園の役割が大変重要になっている現状について説明した。　②第 12 章「支援の実際を考えてみよう－子育て家庭支援の事例学習」の第 1 節「子育てに悩む親」①事例「孤独感から子育てへの不安が高まっている母」②「問題を考えるポイント」③「解説・留意点」④ステップアップ問題（P142～143）：事例学習の章であり、冒頭に事例を示した後、事例を考えるポイントをいくつか記し、学ぶ人が自ら考え記入できるスペースを設けている。その後に、事例の解説および留意点について述べ、最後にステップアップ問題を記載している。
2）コンパクト版保育者養成シリーズ　新版　保育の心理学Ⅱ	共著	平成 30 年 3 月	一藝社（P33～40）	保育士養成の必須科目である「保育の心理学Ⅱ」に対応したテキストであり、平成 29 年告示の要領および指針の改訂を反映した内容になっている。 監修者：谷田貝公昭、石橋哲成　編著者：福田真奈、西方毅　A5 版、145 頁 共著者：伊藤亮、小原倫子、川口めぐみ、小池はるか、佐々木真吾、高岡昌子、高橋千香子、谷真弓、西方毅、長谷川直子、菱田博之、福田真奈、山口昌澄 本人担当部分：第４章　子ども集団と保育者の援助（P33～40）子ども集団の特性、集団生活への発達援助、集団に入れない子どもの支援についてまとめている。特に集団生活において培われる協同性や道徳性、規範意識に対する保育者の望ましい援助のあり方について重点的に述べている。

３）シリーズ知のゆりかご保育の心理学	共著	平成 31 年 4 月	みらい（P172～185）	保育士養成課程「保育の心理学」、幼稚園教諭養成課程「幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程」に対応したテキストである。 編著者：青木紀久代　B5 版、192 頁 共著者：青木紀久代、石井正子、大國ゆきの、片山伸子、加藤邦子、金子恵美子、金丸智美、高橋千香子、富田貴代子、中村涼、平沼晶子、細野美幸、三好力、矢野由佳子 本人担当部分：第 11 章　乳幼児の学びを支える保育（P172～185）　第 1 節で「養護と教育が一体的に展開する保育」について説明し、第 2 節で学びの芽生えを支える保育について事例を用いながら説明している。最後の第 3 節では保護者への支援について述べ、保護者との連携や協力の必要性について論じている。
４）シリーズ知のゆりかご子ども家庭支援の心理学	共著	令和元年 8 月	みらい（P113）	保育士養成課程の新しい必修科目「子ども家庭支援の心理学」に対応したテキストである。 編著者：青木紀久代　B5 版、192 頁 共著者：青木紀久代、石井正子、大國ゆきの、小嶋玲子、片山伸子、加藤邦子、金子恵美子、古志めぐみ、菅野幸恵、高橋千香子、武田（六角）洋子、細野美幸、三好力、矢野由佳子 本人担当部分：コラム②「保育所は貧困問題の最前線」（P113）　日本の子どもの貧困率の高さについて説明し、保育所が担う役割について述べている。

５）子ども家庭福祉専門職のための子育て支援入門	共著	令和元年５月	ミネルヴァ書房（P133～138）	保育士養成課程の新しい必修科目「子育て支援」「子ども家庭支援論」「子ども家庭福祉」に対応したテキストである。 編著者：才村純、芝野松次郎、新川泰弘、宮野安治　B5 版、176 頁 共著者：大倉得史、山本智也、関谷みのぶ、才村純、本田和隆、室谷雅美、宮野安治、新川泰弘、安田誠人、小山顕、渡邊慶一、山本由紀子、吉弘淳一、藤井裕子、寺田恭子、磯部美良、高橋千香子、川口めぐみ、久保木亮子、西井典子、芝野松次郎、塚本利幸、大谷由紀子、榎本祐子、飯島仁美、別所崇、山本展明、栗山直子 本人担当部分：第 17 章　個人面談、懇談会における子育て支援（P133～138）保育士の行う個人面談の種類、基本事項、留意点について、事例を引用しつつ解説している。
６)保育士を育てる③子どもの理解と援助	共著	令和２年３月	一藝社（P89～96）	保育士養成課程の新しい必修科目「子どもの理解と援助」に対応したテキストである。 編著者：大沢裕、藤田久美　A5 版、148 頁 共著者：綾野鈴子、伊藤亮、大賀恵子、大沢裕、加納史章、熊谷賢、佐藤牧子、高岡昌子、高橋千香子、谷真弓、當銘美菜、根津知佳子、野末晃秀、藤田久美、古橋真紀子、村山久美、山本陽子 本人担当部分：第 11 章　子育て支援・家庭支援と子ども理解（P89～96）　近年の子育て家庭への支援の重要性の高まりと、子育て家庭支援にける子ども理解と援助のあり方について、事例を引用しつつ解説している。
７）シリーズ知のゆりかごなぜ？から探る子ども理解と援助	共著	令和４年１月	みらい（P29～39）	保育士養成課程の新しい必修科目「子ども理解と援助」と教職課程の「幼児理解の理論及び方法」に対応したテキストである。 編著者：青木紀久代　B5 版、175 頁 共著者：青木紀久代、大河内修、荻原はるみ、佐藤有香、嶋野珠生、高橋千香子、武田（六角）洋子、田村知栄子、細野美幸、松浦淳、三好力、矢野由佳子、山下直樹、横畑泰希 本人担当部分：第２章　共感的理解と子どもとの関わり（P29～39）子どもに対する共感的理解とはどのようなことなのか、複数の事例をもとに臨床心理学的な視点から解説し、保育者として望ましい関わりのあり方について述べている。

８）コンパス教育相談	共著	令和４年３月	建帛社（P21～25）	教職課程における「教育相談の理論及び方法」に対応したテキストであり、現代の教師・保育者にとって必要な内容となっている。 編著者：住本克彦　B5 版、131 頁 共著者：赤松久美子、新井肇、磯部美良、荊木まき子、岡村季光、加島ゆう子、片山則昭、加藤由美、門原眞佐子、上地玲子、小泉令三、阪中順子、坂中尚哉、定金浩一、清水里香、高橋彩、高橋千香子、高橋典久、立浪朋子、崔回淑、葉山貴美子、原志津、深津久美子、福森護、藤田由起、古川治、松田文春、南雅則、山口裕毅 本人担当部分：第３章　子どもの発達と教育相談　１乳幼児期の発達と教育相談（P21～25）乳幼児期の子どもの発達の概要を述べるとともに、その時期の教育相談の特性について解説している。
９）子どもと保護者に寄り添う「子ども家庭支援の心理学」	共著	令和４年４月	晃洋書房（P16～25）	保育士養成課程の必修科目「子ども家庭支援の心理学」に対応したテキストであり、生涯発達や家族・家庭への心理支援について具体的に学べる内容となっている。 監修：立花直樹、津田尚子　B5 版、167 頁 編者：要正子、小山顕、國田祥子 共著者：立花直樹、津田尚子、高橋千香子、小山顕、國田祥子、赤澤正人、河村陽子、丸目満弓、大川宏美、赤田太郎、勝野愛子、要正子、座間味愛理、藤野正和、佐藤睦子、森内さやか 本人担当部分：第２章「乳幼児期における発達」（P16～25）乳幼児期の発達について、愛着の重要性を軸に、主要な発達理論を事例とともに解説している。
10）現場で役立つ保育実技運動・ことば・音楽・造形遊びから STEAM 教育を取り入れた保育実践まで	共著	令和５年９月	ふくろう出版（P84～85）	保育者を目指す学生や保育初心者のために、保育現場で取り入れてほしい実技を紹介する実践書であり、実技の方法だけでなく教育的効果も解説している。 編著者：岡野聡子　B5 版、103 頁 共著者：小久保圭一郎、高岡昌子、中島緑、林悠子、浅見優哉、木戸直美、谷原舞、中島眞吾、野見山直子、藤井伊津子、田中卓也、小川知晶、田中路、安氏洋子、南川咲希、森瀬智子、佐藤寛子、間井谷容代、木本有香、北澤明子、石原由貴子、筧有子、平松茂、山梨有子、高橋千香子、小島千恵子、小田桐早苗、松村齋 本人担当部分：レッスン７「場面指導の練習をしてみよう　1.園における子ども同士のトラブル対応」（P84～85）子ども同士のトラブルへの保育者の望ましい対応について、事例やワークとともに解説している。
（学術論文）				

１）生活困窮家庭における不登校生徒への訪問による心理面接	単著	平成 26 年 11 月	奈良学園大学奈良文化女子短期大学部研究紀要第 45 号（P71～82）	近年、日本の子どもの貧困問題が浮き彫りになり、その対策が急がれている。本論では、生活困窮家庭の不登校生徒に対して実施した約２年間の心理訪問面接について報告し、当該生徒の心理的背景と課題、訪問面接の経過について検討するとともに、訪問面接の有用性と留意点について考察した。そして最後に、生活困窮家庭の子どもへの心理的支援の意義について、若干の考察を加えた。
２）保育者としての資質と保育実践能力に対する学生の意識について	共著	平成 27 年 11 月	奈良学園大学奈良文化女子短期大学部研究紀要第 46 号（P91～99）	前研究より、保育現場ではまず保育者としての資質が重要視され、現場が必要とする実践能力として文章・言語現力が強く必要であることが分かった。そこで本研究では、本学学生にアンケート調査を行い、現場で必要とされる保育者としての専門的実践能力や資質についてどのように考え、自身がどれくらい身につけていると感じているのかを明らかにした。 本人担当部分は、学生へのアンケートの実施、および分析と考察を共同で行った。 共著者：林悠子、森本美佐、東村知子、高橋千香子
３）本学の子育て支援活動と学生教育との接続	共著	平成 27 年 11 月	奈良学園大学奈良文化女子短期大学部研究紀要第 46 号（P121～128）	最近の学生の傾向として、コミュケーション能力の低さや親子世代の触れ合う経験の不足が挙げられる。このような学生たちを保育者として養成していくにあたり、いくつかの授業内において、本学で実施している子育て広場に早期に参加させる取り組みを始めている。その効果と課題を明らかにすることを目的として、学生へのアンケート調査およびレポート結果を考察し、分析を加えた。 本人担当部分は、子育て支援との連絡調整、学生へのアンケートの実施を担当し、アンケートの分析および考察について共同で行った。 共著者：森本美佐、小川純子、高橋千香子
４）各発達の時期における「先生」のネガティブな言動について	共著	平成 28 年 11 月	奈良学園大学奈良文化女子短期大学部研究紀要第 47 号（P31～40）	保育者養成課程の学生を対象にして、保育所・幼稚園・小学校低学年・小学校高学年・中学校・高等学校の各時期の「先生」の不快な言動で特に記憶に残っている内容について調査研究を行い結果を報告し論じた。幼児期に受けた保育者の不快な言動を記憶している者は非常に少なく、むしろ良かった言動を覚えている場合が多いことが分かった。保育者になる者は、自身の言動が子どもに及ぼす影響を十分に理解することが大切であると結論づけた。 共著者：高岡昌子、高橋千香子、林悠子、岩本健一

５）保育者養成校の学生の性格特性および進路状況との関連について	共著	平成 28 年 11 月	奈良学園大学奈良文化女子短期大学部研究紀要第 47 号（P41～48）	本学学生（卒業生を含む）160 名のＹＧ性格検査の判定結果をもとに、保育者養成校の学生の性格傾向および卒業時の進路状況（進路選択）との関連について調べた。その結果、学生の半数近くで「情緒の不安定さ」がみられ、保育者の資質とも関連の深い特性であると考えられた。進路状況との関連では、保育職選択と性格特性には関連は見出されなかったが非正規あるいは非就職を選択した学生は、「劣等感」「非協調性」が高い傾向にある学生の割合が高いことが分かった。 共著者：高橋千香子、高岡昌子、林悠子、岩本健一
６）保育者養成に求められる保育者の資質について（２）―就職先へのアンケート調査の前回調査との比較から―	共著	平成 28 年 11 月	奈良学園大学奈良文化女子短期大学部研究紀要第 47 号（P71～80）	平成 23 年度から 26 年度の本学学生の就職先に対して行ってきた勤務実態アンケート調査の自由記述のうち、園長らが保育者養成に望むこと、また就職した卒業生が評価されていることについての分析を行った。その結果、就職先の園長らは即戦力よりも社会人としての態度や覚悟、チームで働く上で必要な能力の養成を求めていることが明らかになった。保育士不足や早期離職が問題化する中、この点をふまえた保育者教育を行っていくことが急務であると結論づけた。 共著者：林悠子、高岡昌子、岩本健一、高橋千香子
７）ある不登校の少女の精神分析的遊戯療法過程	単著	平成 29 年 11 月	奈良学園大学奈良文化女子短期大学部研究紀要第 48 号（P71～81）	不登校状態にあった小学生女児の精神分析的アプローチによる遊戯療法過程について報告し、考察した。女児の不登校の背景には両親が離婚するかもしれない不安が強くあったが、さらに遡り、幼少期から母親との情緒的葛藤を抱えていたことが遊戯療法を通じて明らかになった。精神分析的遊戯療法では言語によるやりとりも重要な役割を果たすが、その経過についても詳述した。
８）施設実習における学生の不安を軽減する事前学習についての研究	共著	平成 29 年 11 月	奈良学園大学奈良文化女子短期大学部研究紀要第 48 号（P31～40）	施設実習に行く前後で学生の実習へのイメージが大きく変化することに着目し、その要因について調査した。変化につながるきっかけは子どもとのコミュニケーションにあることが分かり、学生が自ら子どもに働きかけられる力を事前指導においていかに習得させるかがポイントであることが明らかになった。また、学生が自ら実習前に不足していたと考えた要素を分析し、６つのカテゴリからなるチェック表を作成した。 共著者：岩本健一、高岡昌子、林悠子、高橋千香子

９）新人保育者に必要な資質について―新人保育者に対する総合的な評価につながる具体的な資質―	共著	平成 29 年 11 月	奈良学園大学奈良文化女子短期大学部研究紀要第 48 号（P41～49）	本学の卒業生が就職先において新人保育者としてどのような評価を受けているのかを調べ、各評価項目と総合的な評価との関係について検討した。その結果、新人保育者は、高い技術や知識よりも、立場をわきまえた礼儀正しさ、業務に意欲的に取り組む前向きな姿勢が、総合評価の高さにつながっていることが明らかになった。これらと在学中の GPA とは相関はないことも明らかになった。 共著者：高岡昌子、高橋千香子、林悠子、岩本健一
10）地域子育て支援における心理相談室の役割―「親と子の相談室ひまわり」の報告から―	単著	平成 30 年 11 月	奈良学園大学奈良文化女子短期大学部研究紀要第 49 号（P61～68）	本学において平成 21 年度から開設している「親と子の相談室ひまわり」の報告を通して、地域子育て支援における心理相談室の意義および役割について考察した。また筆者が５年間に担当した相談事例の統計報告をもとに、最近の親子の置かれている状況についても考察し、今後の相談室のあり方について検討した。
11）新人保育者に対する評価～前年度との比較を通して～	共著	平成 30 年 11 月	奈良学園大学奈良文化女子短期大学部研究紀要第 49 号（P49～59）	昨年度に引き続いて、本学の卒業生が就職先において新人保育者としてどのような評価を受けているのかを調べ、各評価項目と総合的な評価との関係について検討した。就職先の学生に対する満足度は昨年度に比べて上昇していたが、将来性への評価はほぼ同じであった。また在学中の GPA と就職先の総合的評価得点との間にも相関は見られなかった。 共著者：高岡昌子、飯田恵美子、岩本健一、小川純子、高橋千香子、林悠子
12）新人保育者に対する評価～前々年度と前年度との比較を通して～	共著	令和 2 年 3 月	奈良学園大学紀要第 12 集（P51～60）	短期大学部の最後の卒業生（平成 29 年度卒）が就職先において新人保育者としてどのような評価を受けているのかを調べ、各評価項目と総合的な評価との関係について検討した。平成 27 年度から平成 29 年度の 3 か年では、保育現場における評価、満足度、将来性について明らかに上がっていた。一方、在学中の GPA と就職先の総合的評価得点との間には、今回も相関は見られなかったが、各教科の成績との関連をみると、「子ども学ゼミ」だけにおいて職場からの満足度との相関（r=0.6）が見られた。 共著者：高岡昌子、岩本健一、高橋千香子、林悠子
13）D.W.ウィニコットの情緒発達理論に関する一考察－保育における養護との関連に着目して－	単著	令和 5 年 3 月	奈良学園大学紀要第 15 集（P97～105）	保育所保育指針に示されている養護における保育者の関わりについての理解を深めるため、D.W.ウィニコットの情緒発達に関する主要論文を３編取り上げ、検討を試みた。ウィニコットは臨床実践を通じて子どもと母親の関係のありようについて深く論考しており、保育者による「応答的な関わり」とウィニコットの述べる「抱っこ holding」との関連性、それにより育まれる自己感覚 sense of self 等について考察した。

14）「いじめ防止・対応等、教職員研修プログラム」の開発に関する研究Ⅰ－『学校法人奈良学園』における『教育相談活動（生徒指導含む）』のネットワーク強化－	共著	令和5年3月	奈良学園大学紀要第15集（P191～200）	本研究は2022年度 学校法人奈良学園採択の共同研究の経過報告である。本学園に置いて「いじめ対応研修会や事例研修会等の研修会」を複数回実施した。内容は生徒指導・教育相談に関する事例報告・検討および「教育相談」テキストを活用した研修であり、参加者の振り返りを基に内容を整理、分析し、「いじめ防止・対応等、教職員研修プログラム」開発に資するものである。本稿ではその第1回研修会実施結果から得られた知見を報告した。 共著者：住本克彦、高橋千香子、中山健、橋本宗隆、池田大輔、益田美保、三笘康之、山田百代
15）「いじめ防止・対応等、教職員研修プログラム」の開発に関する研究Ⅱ－『学校法人奈良学園』における『教育相談活動（生徒指導含む）』のネットワーク強化－	共著	令和5年12月	奈良学園大学紀要第16集（P165～174）	本研究は2022年度 学校法人奈良学園採択の共同研究の報告である。本稿では、奈良学園大学紀要第15集にて報告した第1回研修会実施結果を踏まえ、その後に実施した第2回から第5回までの研修会の内容および総括を示すとともに、今後の課題についてまとめたものである。その成果として、同一学園内におけるネットワークづくりや強化の重要性や成功事例に学ぶ事例検討会の有効性、理論や技法をベースとすることの有効性や研修実施の必要性等が確認された。 共著者：住本克彦、高橋千香子、中山健、橋本宗隆、池田大輔、益田美保、三笘康之、山田百代
（その他）「学会等発表」				
1）みどり精神分析研究会における事例発表	－	（平成16年5月）～現在に至る	みどり精神分析研究会（大阪市）	臨床心理技術の維持・向上のため、定期的に研究会に参加している。みどり精神分析研究会は、日本精神分析学会の認定グループのひとつであり、年10回開催されている。本研究会において、自験例の事例発表を、毎年1～2回行っている。
2）本学における子育て支援事業の5年間の取り組みと評価	－	平成27年9月	全国保育士養成協議会第54回研究大会(札幌市）ポスター発表（論文集P179）	地域における子育て支援の充実が求められるようになり、現在、保育所・幼稚園だけでなく様々な場において取り組みが行われている。本研究では、本学における過去5年間の子育て支援事業である「つどいの広場」「ちびっこ広場」の取り組みの経過と内容を振り返り、利用者アンケートの結果をもとに総括および今後の課題についてまとめた。 共同発表者：高橋千香子、森本美佐、林悠子
3）保育者としての資質と保育実践能力に対する学生の意識について	－	平成27年9月	全国保育士養成協議会第54回研究大会(札幌市）ポスター発表（論文集P35）	前研究より、保育現場ではまず保育者としての資質が重要視され、現場が必要とする実践能力として文章・言語現力が強く必要であることが分かった。そこで本研究では、本学学生にアンケート調査を行い、現場で必要とされる保育者としての専門的実践能力や資質についてどのように考え、自身がどれくらい身につけていると感じているのかを明らかにした。 共同発表者：林悠子、東村知子、森本美佐、高橋千香子

４）保育者養成校の学生の性格特性および進路状況との関連について	―	平成 28 年 8 月	全国保育士養成協議会第 55 回研究大会(盛岡市）ポスター発表（論文集 P42）	本学学生（卒業生を含む）160 名のＹＧ性格検査の判定結果をもとに、保育者養成校の学生の性格傾向および卒業時の進路状況（進路選択）との関連について調べた。その結果、学生の半数近くで「情緒の不安定さ」がみられ、保育者の資質とも関連の深い特性であると考えられた。進路状況との関連では、保育職選択と性格特性には関連は見出されなかったが非正規あるいは非就職を選択した学生は、「劣等感」「非協調性」が高い傾向にある学生の割合が高いことが分かった。 共同発表者：高橋千香子、高岡昌子、林悠子、岩本健一
５）保育者養成に求められる保育者の資質について―就職先へのアンケート調査より―	―	平成 28 年 8 月	全国保育士養成協議会第 55 回研究大会(盛岡市）ポスター発表（論文集 P57）	平成 23 年度から 26 年度の本学学生の就職先に対して行ってきた勤務実態アンケート調査の自由記述のうち、園長らが保育者養成に望むこと、また就職した卒業生が評価されていることについての分析を行った。その結果、就職先の園長らは即戦力よりも社会人としての態度や覚悟、チームで働く上で必要な能力の養成を求めていることが明らかになった。保育士不足や早期離職が問題化する中、この点をふまえた保育者教育を行っていくことが急務であると結論づけた。 共同発表者：林悠子、高橋千香子、高岡昌子、岩本健一
６）幼稚園児の保護者に対する児童虐待についての意識調査	―	令和 2 年 3 月	日本保育者養成教育学会第 4 回研究大会（福山市）口頭発表（抄録集 P49）	ある幼稚園に通園する児童 147 名の保護者を対象に、①児童虐待問題への関心度②自身が虐待をしてしまうかもしれない可能性　③７つの行為について虐待と思うか否か　以上の３つについて質問紙法によるアンケート調査を実施した。その結果、③については、保護者の年代やこどもの数によって、虐待と捉える行為が変化する可能性があることが示唆された。 共同研究者：岩本健一、高岡昌子、林悠子、高橋千香子
７）多様化する子育て支援のあり方について －子育て支援の現状を探る－	―	令和 4 年 5 月	日本保育学会第 75 回大会（オンライン開催）ポスター発表	現在、地域子育て支援拠点事業の拡充とともに、支援の質の向上も課題となっている。本研究では子育て支援を「親が子育てに喜びを持ち、子どもと共に育ちあえる支援」と捉え、その現状を探ることを目的として、実施主体の異なる 4 か所の事業を概観した。そして今後は支援者の「親子関係を理解する力の深まり」が必要であり、そのための支援者プログラム開発につながる具体的な研究が必要であると結論づけた。 共同発表者：間井谷容代、高橋千香子

（その他）「報告書」				
１）奈良学園大学奈良文化女子短期大学部　教学報告	共著	平成 30 年 12 月	奈良学園大学奈良文化女子短期大学部幼児教育学科	奈良文化女子短期大学部の閉校にあたり、過去数年間において、特に教職員一丸となって行った教学上の特色のある取り組みや成果をまとめた記録である。 本人担当部分：7.3 本学における学生支援（P78～83）、8.8 心理学領域の科目における授業の工夫について-グループ活動を中心に(P121～122) 執筆者：青山雅哉、飯田惠美子、礒辺ゆう、岩本健一、小川純子、高岡昌子、高橋千香子、筒井道子、恒岡宗司、中田章子、林悠子、森本美佐、吉田明史 A4 版　全 188 頁

別記様式第４号（その２）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　研　究　業　績　書

令和6年3月31日

氏名　　冨　山　敦　史

研究分野	研究内容のキーワード
中国古典文学、国語科教育、書写教育、特別支援教育（読み書き障害）、SDGｓ・ESD、UD・UDL、教育課程、教員の職能成長（教師教育）	中国古典文学、唐代文学、中国思想、漢字学（文字学）、杜甫、唐人選唐詩、国語科教育、国語科指導論、対話的授業、能楽、古典教育、書道書写教育、漢字漢文教育、短歌、特別支援教育、読み書き障害（発達性ディスレクシア）、通級指導、教師教育、教育課程（カリキュラム）、生徒指導、ナラティブアプローチ、アクティブラーニング、SDGｓ・ESD、UD・UDL

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
１　教育方法の実践例		
1.「教育基礎演習（中等）」および「教育実習実地指導」（奈良教育大学）	平成24年4月～平成29年3月	1. 国立大学法人奈良教育大学教育学部講師・附属中学校教諭として ・教育実習事前指導・実地指導・事後指導。 ・対話的授業による教育実践及び授業構築、対話的授業実践論 ・ナラティブアプローチによる子ども理解 ・内省的省察による教員の力量形成論
２．国語ＩＡ、国語科教育Ｉ、国語科教育Ⅲ、漢文学概論、漢文学演習、漢文学講読、書道・書写Ａ、書道・書写Ｂ、教育実践演習（初等・中等）、文学、人間力セミナー(常葉大学)	平成29年4月～現在に至る	2. 常葉大学教育学部初等教育課程専任講師・准教授として ・主体的対話的な深い学びを構築するための学生の実態に即した授業形態の工夫 ・双方向による質疑応答を用いた講義の実践 ・自己内対話のビジュアル化に資するプレゼンテーション能力育成のための演習の実施 ・ナラティブアプローチによる他者理解と自己理解 ・コロナ禍における遠隔授業において様々な通信方法を工夫し、学生が孤立せず学生相互の交流活動が進む授業体制を構築した。 ・正課外で、学生が学びに向かうことを支援するオンライン講座や勉強会、相談会を企画し、個別支援に努めた。
２　作成した教科書，教材		
1.「能は面白い！囃子編」教材DVDの作成（エイキョウビデオ、共著者）	令和3年3月	伝統音楽普及促進事業実行委員会（委員長：観世流シテ方能楽師河村晴久氏）の幹事として能楽を学校の授業で教材化するためにDVD教材を作成した。河村晴久氏、大倉源次郎氏（大倉流小鼓方宗家・人間国宝）ら日本の能楽界をリードする能楽師とともにDVD教材を作成した。今回は「囃子編」として、ワークショップ形式で楽しみながら能の楽器やリズムの特徴を児童生徒が体得できるようにした。能の解説の構成、教育実践上の留意点、学習指導要領との照合、指導計画の作成等、学校教育で能の授業実践をするための指導、助言、DVD作成に係わる企画、計画立案、解説文の執筆などを担当した。
２.「能は面白い！羽衣」教材DVDの作成（エイキョウビデオ、共著者）	令和2年3月	観世流シテ方能楽師河村晴久氏を委員長とする「伝統音楽普及促進事業実行委員会」の幹事として、能楽を学校教材化するためにDVD教材を作成した。河村晴久氏、大倉源次郎氏（大倉流小鼓方宗家・人間国宝）ら日本の能楽界をリードする能楽師とともにDVD教材を作成した。児童生徒が理解しやすく、教員の授業支援に資するように能の解説の構成、教育実践上の留意点、学習指導要領との照合、指導計画の作成等を行い、学校教育で能の授業実践をするための指導、助言、DVD作成に係わる企画、計画立案、解説文の執筆などを担当した。
３.「書道・書写Ａ，Ｂ」での毛筆指導に資する動画教材の作成	平成30年8月	1. 「書道・書写Ａ、Ｂ」の授業で使用しているテキスト『明解書写教育』（萱原書房）に示された「手本」の書き方を奈良教育大学附属中学校若森達哉教諭（書家）とともに動画を作成し、授業内で使用することで、学生がより具体的に点画の書き方についてのポイントを把握できるようにした。

4.「学校で役立つ教育心理学」	平成23年9月	「学校で役立つ教育心理学」、八千代出版、共著者、26-27,42-43 「学校で役立つ教育心理学」八千代出版（平成23年）の第1章（発達理論）第2章（認知と言語に関わる発達的側面）の実践者コメントを担当し、学校現場で心理学的知見がどのように役立つのかを具体的に記述し、実践例を紹介した。
3　教育上の能力に関する大学等の評価		
授業参観報告書から		大学教員の授業参観報告書の記載事項から抄出
「書道・書写Ａ」	平成29年6月	・書道教育指導においてもアクティブラーニングの視点が取り入れられている。また、学生自らが講義で示されたポイントをもとに指導案を作成し、模擬授業を実演することで、単に座って手本を臨書することとは違った実践的指導力が身につくと考えられる。
「漢文学概論」	平成30年6月	・文字（漢字）の発生から歴史的発展について、宋代の木版印刷術の発明までを概観するにあたり、適宜漢文資料を活用し、学生が興味を抱きそうな話題をちりばめながら、体系的な授業を展開していた。大学に入ってこそ学べる国語分野の基礎知識を体系化した授業である。
		・熱のこもった関西弁の授業で緩急取り混ぜテンポよく対話的な学びが成立している授業である。学生に対し盛んに発問し、学生の思考を促しつつ進行する授業は見習うべきものである。学生を飽きささない居眠りさせない工夫に満ちた授業である。
		・学生の意見を集約した授業であったが十分に整理されており、ブレインストーミングと講義を折衷したような授業に関心を持った。教育現場で起こりうる問題を学生に投げかけ、それを考えさせる時間を設けている点が良かった。
「漢文学講読A」	令和元年11月	・漢文学研究の視点からの作品読解指導を少人数の特性を生かし丁寧に行っている。何より学生たちが主体的に課題に取り組み、独自の切り口で作品を解釈しようとする姿勢がうかがえ、これまでの指導の成果といえる。また、質疑応答においても学生の積極性が見て取れた。 ・振り返りシートを活用し、毎回の授業を振り返りを積み重ねていく方法は学生の成長の軌跡が確認できて良い。またレジュメの電子化や学生の発表を録画で記録するなどのICT活用の手法もプレゼンテーションやスピーチの授業で大いに活用できる。
4　実務の経験を有する者についての特記事項		
奈良県国語教育研究会指導員	平成25年4月～平成28年3月	県内中学校国語科研修会や県国語教育研究大会での指導助言、研究紀要の執筆を行った。
奈良県教育委員会指導員	平成22年4月～平成24年3月	県内小学校国語科研修会で研究授業の指導助言を行った。
滋賀県公立中学校研修会講師	平成22年8月	学力向上策に関する講演および取組への指導助言を行った。
大阪府公立中学校研修会講師	平成22年9月	学力向上策に関する講演および取組への指導助言を行った。
5　その他 特記事項なし		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1　資格，免許		
1.小学校教諭１級普通免許認定	令和63年3月25日	（奈良県教育委員会）昭63小一普第239号
2.中学校１級普通免許認定（国語）	昭和63年3月25日	（奈良県教育委員会）昭63中一普第364号
3.高等学校教諭２級普通免許認定（国語）	昭和63年3月25日	（奈良県教育委員会）昭63高二普第388号
4.幼稚園教諭２級普通免許認定	昭和63年3月25日	（奈良県教育委員会）昭63幼二普第14号
5.養護学校教諭一級普通免許認定	昭和63年3月25日	（奈良県教育委員会）昭63養学一普第12号
6.中学校教諭専修免許認定（国語）	平成13年3月1日	（奈良県教育委員会）平12中専修第7号
7.高等学校教諭専修免許認定（国語）	平成15年3月25日	（奈良県教育委員会）平14高専修第48号
8.学校図書館司書教諭講習修了	平成13年3月8日	（文部省）平12 第221370号
2　特許等 特記事項なし		

3　実務の経験を有する者についての特記事項 奈良県国語教育研究会指導員	平成25年4月～ 平成28年3月	県内中学校国語科研修会や県国語教育研究大会での指導助言、研究紀要の執筆を行った。
奈良県教育委員会指導員	平成22年4月～ 平成24年3月	県内中学校国語科研修会や県国語教育研究大会での指導助言、研究紀要の執筆を行った。
滋賀県公立中学校研修会講師	平成22年8月	学力向上策に関する講演および取組への指導助言を行った。
大阪府公立中学校研修会講師	平成22年9月	学力向上策に関する講演および取組への指導助言を行った。
4　その他 特記事項なし		

研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項

著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　要
（著書）				
1.能は面白い！囃子編 教材DVD	共著	令和3年3月	エイキョウビデオ 京都市教育委員会委託	伝統音楽普及促進事業実行委員会（委員長：観世流シテ方能楽師河村晴久氏）の幹事として能楽を学校教材化するためにDVD教材を作成した。河村晴久氏、大倉源次郎氏（大倉流小鼓方宗家・人間国宝）ら日本の能楽界をリードする能楽師とともにDVD教材を作成した。今回は「囃子編」として、ワークショップ形式で楽しみながら能の楽器やリズムの特徴を体得できるようにした。能の解説の構成、教育実践上の留意点、学習指導要領との照合、指導計画の作成等、学校教育で能の授業実践をするための指導、助言、DVD作成に係わる企画、計画立案、解説文の執筆などを担当した。DVDのため頁数の記載不可。
2.能は面白い！羽衣　教材DVD	共著	令和2年3月	エイキョウビデオ 京都市教育委員会委託	伝統音楽普及促進事業実行委員会（委員長：観世流シテ方能楽師河村晴久氏）の幹事として能楽を学校教材化するために河村晴久氏、大倉源次郎氏（大倉流小鼓方宗家）ら日本の能楽界をリードする能楽師とともにDVD教材を作成した。中学校音楽の教材である「羽衣」を題材に、能の歴史や特徴を児童生徒に分かりやすく授業で活用できる教材とした。能の解説の構成、教育実践上の留意点、学習指導要領との照合、指導計画の作成等、学校教育で能の授業実践をするための指導、助言、DVD作成に係わる企画、計画立案、解説文の執筆などを担当した。DVDのため頁数の記載不可。
（学術論文）				
1.正岡子規「杜甫秋興八首」（短歌）の原典探索⑴	単著	令和6年4月	ポトナム短歌会、ポトナム、101巻、1176号:28-31	正岡子規（一八六七～一九〇二）の『竹乃里歌』中に「杜甫秋興八首」という短歌作品がある。『竹乃里歌』は子規が明治一五年から三三年までに作った作品（一九四九作）の歌稿本であり、子規作品の約八割が記され、特に三一年以降のページには子規の推敲のあとが多く残されている。中国唐代の杜甫（七一二～七七〇）の「秋興八首」は七言律詩の連章詩で、近体詩の詩律の厳しい縛りの中で表出される抒情性や象徴性が高く評価されている杜甫の最高傑作である。本稿では、子規がこの杜甫の詩を短歌にするにあたり、どの部分に着目し取捨選択をしたのか、またいかに自身の独自性や解釈を加味したのかを残された歌稿と子規蔵書の杜甫の詩集を参照し、子規が杜甫の詩の何に惹かれたのかを考察した本稿では子規「杜甫秋興八首」の１、２首の短歌を扱った。

2.高等学校教科書「文学国語」（選択）の短歌教材について	単著	令和5年8月	ポトナム短歌会、ポトナム、100巻、1168号:28-32	令和四年度から高等学校学習指導要領がスタートし、令和五年度から新たな選択科目として「文学国語」が設定された。必修科目ではない「文学国語」が短歌をどのように扱い、「言語文化」(必修科目)での扱いとどのような相違点があるか。本稿では、新編纂の「文学国語」の教科書八社十一冊を通観し、短歌に関わる教材について、その実際と課題の一端について考察した。その結果、教材（短歌や歌人）は、従来を踏襲したものが多いが、必修「言語文化」の言語活動に比べて創作活動に一歩踏み込む手引きや設問が確認できた。ただ短歌の感動の本質に迫る評論文（穂村弘『短歌という爆弾』「モードの変遷」）が、短歌との出会いが少ない生徒にどの程度読解可能であるのか、短歌の実作者ではない教員がどこまで実感をもって読み込めるのかなどの課題が抽出できた。
3.予期的社会化における非認知能力の一考察－教職志望学生に求められる非認知能力	共著	令和5年3月	常葉大学、常葉初等教育研究、1巻、8号:77-88	初任期教員を取り巻く問題が，年々厳しさを増す中，教師に求められる資質能力を再定義しようという流れがあり，教職を志望する学生に求められる非認知能力に関する研究を考察した。その結果，Gritや楽観性，勤勉性など様々な非認知能力が教職を志望する学生には必要な可能性が示された。非認知能力は，測定可能で，社会的にポジティブなアウトカムに寄与することが期待されるものである。今後は非認知能力が教職志望動機や教員採用試験の合否等などの社会的にポジティブなアウトカムにどのように影響するかを検討することが期待される。著者:社浦竜太・冨山敦史、（pp:77-88）
4.高等学校「古典探究」における魅力的な漢詩創作授業試論― 思考力，判断力，表現力等を育成する漢詩創作	共著	令和4年9月	常葉大学、教育研究実践報告誌、6巻、1号:34-41	平成三十年告示の高等学校学習指導要領解説国語編「古典探究」（選択）の「A　読むこと」の言語活動には，漢詩の創作活動が掲げられ，句の意味構成や絶句の展開(起承転結)の指導とともに，押韻に拘らない絶句や律詩を創作することなどの配慮事項が解説に示された。これを踏まえつつ，漢詩創作の授業を生徒にとってより魅力的なものとするために，近年行われた漢詩創作を扱う実践を検討した結果，以下の要素を勘案しながら授業を構想することの示唆が得られた。すなわち，①構成上のきまりが近体詩(絶句や律詩)に比して緩やかな古体詩を創作する，②ICT等を活用し詩語表を工夫して作詩に使用する，③詩語の配置に際して漢文訓読のきまりや書き下し文を指導する。また，平仄の規則に基づいた近体詩(絶句や律詩)の創作は，生徒の知的好奇心を喚起し，作詩にあたっての論理的思考力，判断力，表現力等を育成する潜在的可能性があることを導出した。著者:奥出千也・冨山敦史、（pp:34－41）
5.高等学校教科書「言語文化（必修）」の短歌創作について	単著	令和4年8月	ポトナム短歌会、ポトナム、99巻、1156号:36-40	令和四年度から高等学校学習指導要領がスタートし、短歌や俳句、随筆の創作が指導事項とされた。必修科目である「言語文化（必修）」では、「ア 本歌取りや折句などを用いて、感じたことや発見したことを短歌や俳句で表したり、伝統行事や風物詩などの文化に関する題材を選んで、随筆などを書いたりする活動」が言語活動例として示されている。新編纂の「言語文化」の教科書十七冊を通観し、短歌創作に関わる活動（記述）を「学習指導要領」の観点からみると、高等学校「言語文化」で取り上げられている短歌創作に関する記述は、当然のことながら小中学校での短歌創作に関わる指導や創作経験を基盤としつつも、極めて限定的な範囲（「折句」の技法を用いること）での創作活動となっており、小学校中学校で目標とされてきた「古典を楽しみ親しませる」というものからはほど遠い状況であり、もっと「創作を楽しむ」ということに重点をおいた指導が望まれると結論づけた。(pp:36－40)

6.ブッククラブメソッドを活用した短歌の創作・鑑賞の試み	単著	令和4年4月	ポトナム短歌会、ポトナム、99巻、1152号:82-86	令和二年度から順次スタートする文部科学省学習指導要領国語編では、短歌や俳句の創作が指導事項とされた。小学校五、六年では「イ 短歌や俳句をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動」、中学校では、一年「ウ 詩を創作したり随筆を書いたりするなど、感じたことや考えたことを書く活動」、二年「ウ 短歌や俳句、物語を創作するなど、感じたことや想像したことを書く活動」、高等学校では「言語文化（必修）」で「ア 本歌取りや折句などを用いて、感じたことや発見したことを短歌や俳句で表したり、伝統行事や風物詩などの文化に関する題材を選んで、随筆などを書いたりする活動」が言語活動例として示されている。短歌や俳句の創作に、児童生徒も教員自身もいかに楽しんで取り組めるかが、今後の日本の伝統的な言語文化の継承・発展に大きく懸かっている。本稿では、有元秀文注１が開発したブッククラブメソッドを活用した楽しく短歌を創作、鑑賞する指導事例を提案した。なお、この事例は筆者が中学校、大学で行った授業実践をもとにしている。(pp:82－86)
7.戦後新教育研究資料―「御所中プラン」の復刻その４(最終回)	単著	令和4年3月	常葉大学、常葉初等教育研究、1巻、7号:97-105	第二次大戦敗戦後，日本の教育は大きな転換点を迎え「新日本建設のための教育」の実現を目標に，文部省は「新日本建設の教育方針」（1945年9月），「新教育指針」(1946年5月～1947年2月),連合軍総司令部は「日本教育制度の管理」に関する司令(1945年10月)等,次々と方針・指針・司令を出した。次いで「日本国憲法」「教育基本法」「学校教育法」「学習指導要領一般編（試案）」(1947年)の交布・施行と,時代は新日本建設のために大きく揺れ動いた。本稿は,この激動の時期に奈良県南葛城郡御所町（現奈良県御所市）の町立御所中学校が作成した「御所中プラン（コア・カリキュラム）」(1950年2月発行)を復刻し,戦後新教育研究の資料として呈示する。最終回の今回は、「五，日常生活指導について」(P.115～P.130)を掲載し、その概要を示すとともに、資料入手の経緯を記す。(pp:97－105)
8.橘小学校との連携による教育現場に根ざした現代的・実践的な教員養成に係る研究報告（国語科１）－国語科におけるICT活用による授業観の変容に着目して－	共著	令和3年9月	常葉大学、教育研究実践報告誌、4巻、2号:68-77	常葉大学共同研究2020年度ならびに2021年度「橘小学校との連携による教育現場に根ざした現代的・実践的な教員養成に係る研究 ―ICT活用による授業観の変容に着目して―」における国語科に関わる部分についての2021年7月迄の取組と今後の取組についての報告である。国語科では「学習指導要領の改訂（指導計画作成上の配慮事項）を踏まえる」「GIGAスクール構想の実現をめざす」を前提に、インクルーシブ教育の推進（多様な学習環境の提供）と障害をもつ児童生徒への配慮事項（合理的配慮の提供）を実現するための多様な学びの実現のためのツールとしてのICTの活用を目指した実践研究を進めている。2021年7月迄の実践では、一人一台端末導入期の児童の実態と授業展開上の課題を提示し、2021年9月以降では、授業者が児童を学びのユニバーサルデザイン（UDL）のガイドラインをポイントにした授業実践・授業支援を実施、評価していくことを示した。著者：冨山敦史・佐野智子(pp:68-77)

9.詞華集を編む、うたをのこすー杜甫の場合	単著	令和3年8月	ポトナム短歌会、ポトナム、98巻、1144号：36-40	詞華集（アンソロジー）とはどのように定義されるのであろう。そこには実作者の想いや考えはどれほど顧慮されるのだろうか。時代を超えた作品ならいざ知らず、同時代の人に編まれた詞華集を同時代人である実作者はいかに受容したのだろうか。詞華集に採録されず悔しい思いをした者、自身が忘れ去った作品が思いがけずも選ばれ戸惑いを感じる者、自ら編んだ個人の作品集は滅び去っても詞華集に編まれたことによってのみ遺った作品もあるだろう。本稿では、盛唐の詩人杜甫を取り上げ、記録媒体が普及していない状況、文字の読み書き可能な人の数が極めて少数だった状況において、書き残されたものの価値や社会政治状況の観点から自らの作品をのこすために杜甫が取った4つの行動について考察した。(pp:36-40)
10.『学習指導要領』「指導上の配慮事項」を具現化するために ー授業で個別最適化環境を作り出すICT活用ー	単著	令和3年3月	常葉大学、教育研究実践報告誌、4巻、1号:9-18	2020年度スタートの新学習指導要領「指導上の配慮事項」では，子どもの障害の種類や程度を的確に把握し，困難さに対する指導上の意図を理解して，個に応じた様々な手立てを検討し指導に当たることを示し，学習状況の評価との関わりも示している。しかし「指導上の配慮事項」の範疇のみにとどまるならば教員が指導の工夫や手立てを具体化することは難しい。本稿ではコロナ禍中の2020年6月に公表された「教育の情報化に関する手引ー追補版2020（文部科学省）」を手掛りに，ICT機器の活用によって学びに困難を抱える児童生徒への合理的配慮を念頭においた「指導上の配慮事項」を具現化するための方途を示し、前倒しされたGIGAスクール構想の実現が個に応じた学びの多様性（個別最適化）を実現させる大きな可能性を持つことを提起した。(pp:9-18)
11.「能」は面白い！中学生・大学生とともに「能」の魅力を考える	単著	令和3年3月	常葉大学教育学部紀要第41号：325-348	平成29、30年の中学校・高等学校学習指導要領の改訂でこれからの国語科古典学習は「親しむ」ということをキーワードに小中高の系統性を図りつつ、生活の中に伝統的な言語文化をいかす姿勢をもった伝統文化の担い手を育成する授業を創り出すことと規定できる。古典学習を通して子どもたちに「思考力・判断力・表現力等」を育てることが教員に課せられている。本稿では、論者が中学生と大学生に対して実施した「能楽」の授業の一端を紹介し、そこに表出された生徒や学生の「能楽」「伝統文化」についての考えや議論を整理し、検討することで、学校教育において「能楽」を授業として扱うことが、古典学習に対する児童生徒の興味・関心を喚起する「魅力ある」授業構築の多様な可能性を包含することを報告した。(pp:325-348)
12.晩唐期の詞華集『又玄集』（韋莊編）の詩律に関する研究序説	単著	令和3年3月	常葉大学教育学部紀要第41号：55-71	晩唐に韋莊によって編纂された詞華集である『又玄集』の詩律に関する研究の意義と目的、具体的な研究方法と到達目標について述べた。『又玄集』のテキストをデータベース化し、それぞれの詩の平仄の具体を調べて近体詩の詩律(平仄式)と比較し『又玄集』所収の詩の詩律の傾向と特徴を解明することを通じて晩唐期に編纂された「唐人選唐詩」の一つである『又玄集』における詩律の特徴と採録された詩人の詩の傾向、編者韋莊の選詩基準等を明らかになり、『又玄集』の中国文学史上における新たな位置づけが可能になることを述べた。『又玄集』採録の詩僧の詩律が韋莊が採詩基準とした「清詞麗句」（律者既採，繁者是除）の典型を為すものであることがわかった。(pp:55-71)

13.戦後新教育研究資料ー「御所中プラン」の復刻その3	単著	令和3年3月	常葉大学、常葉初等教育研究、1巻、6号：51-63	戦後新教育出発の激動の時期に奈良県南葛城郡御所町（現奈良県御所市）の町立御所中学校が作成した「御所中プラン（コア・カリキュラム）」を復刻し、今後の戦後新教育研究の資料として呈示する。3回目では「四，學習指導の實踐と諸問題」（P.78～P.114）を掲載し、その内容を分析検討した。(pp:51-63)
14.教員養成課程における毛筆書写実技の指導ー楷書の技能を向上させる基本ポイントー	単著	令和2年9月	常葉大学、教育研究実践報告誌、4巻、1号:9-18	新型コロナウィルス感染拡大防止対策を設定した対面実技授業で、「学習指導要領」(平成29年告示)の内容と楷書と楷書に調和する平仮名、片仮名の基礎的実技を取り上げた。実践から点画の練習において「筆の持ち方」「筆を垂直に立てる」「穂先の通り道」「筆圧」「書く速度」をポイントとして意識し集中して練習を進めることで、学生は楷書の基本的な書き方や指導のポイントを身に付けることができた。(pp:9-18)
15.学校現場におけるマルチメディアDAISY教科書の活用に向けた特別支援教育コーディネーター向け教員研修と課題	共著	令和2年7月	日本教育情報学会、教育情報研究、第36巻、1号〔査読あり〕：63－73	ICTを活用した支援法としてマルチメディアDAISY教科書を取り上げその活用促進に向け課題のフレームワークを得ることとフレームワークに基づく支援方法を検討した。特別支援教育コーディネーター研修に参加した小中高教諭47名を対象とした調査から「学習者」「DAISY」「教員（授業での活用）」「環境」の要因が導出され、基礎的環境の整備、運用のマニュアル策定等多角的な支援を行う必要が示唆された。著者：阪東哲也、冨山敦史、大井雄平(pp:63-73)
16.短歌の未来（２）ー学校教育での短歌の創作指導について	単著	令和2年8月	ポトナム短歌会、ポトナム、97巻、1132号：33-36	令和2年度から実施された学習指導要領の根幹が「知識と技能」の習得である。短歌についてもその知識を理解するだけでなく、実作できる技能の習得も求められている。今後学校教育の中での創作指導について中学校国語教科書の記述や短歌雑誌の特集記事をもとに考えた。その結果、創作時に生徒のことばの力を引き出す場としての対話活動を設定し、対話を深化させる教員の具体的な言葉がけが鍵となることを指摘した。(pp:33-36)
17.ＥＳＤからみた「戦後新教育コア・カリキュラム」研究序説 ―「御所中プラン」を中心に―	共著	令和2年3月	常葉大学、教育研究実践報告誌、3巻、1・2合併号:35-46	戦後５年、1950（昭和25）年に民主主義の担い手の育成を目標に『御所中プラン』が従来の教科カリキュラム構成から脱しコア・カリキュラムに着目して開発された。本稿では本プランの特徴、新教育に挑む教員の思い、調査活動の概要を挙げ令和2年度開始の学習指導要領の理念と比較、相違点をＥＳＤの視点から考察することの意義を示した。著者：冨山敦史、松岡敬興(pp:35-46)
18.戦後新教育研究資料ー「御所中プラン」の復刻その２	単著	令和2年3月	常葉大学、常葉初等教育研究、1巻、5号：84-95	前回に引き続き、戦後新教育出発の激動の時期に奈良県南葛城郡御所町（現奈良県御所市）の町立御所中学校が作成した「御所中プラン（コア・カリキュラム）」を復刻し、今後の戦後新教育研究の資料として呈示する。本稿では「一．本校の教育計画」「二．本校のカリキュラム構成」を掲げ、その内容を分析検討した。(pp:84-95)
19.短歌の未来（１）ー学校教育で求められていることー	単著	令和元年8月	ポトナム短歌会、ポトナム、96巻、1120号：36-39	平成29､30年に次期「学習指導要領」が改訂告示され、その根幹が「知識と技能」の習得である。学習目標となる事柄の知識を理解するだけでなく使いこなすことができる技能の習得も求めている。本稿では今後学校教育の中で短歌がどのように指導されていくのかを現行教科書の記述を分析し、次期学習指導要領では短歌の創作が指導事項となるが教員はどのように取り組むのか、実作者である歌人はこの流れをどう捉えるかを提起した。(pp:36-39)

20.戦後新教育研究資料ー「御所中プラン」の復刻	単著	平成31年3月	常葉大学、常葉初等教育研究、1巻、4号：103-115	戦後日本の教育は大きな転換を迎え、文部省や連合軍総司令部から民主主義教育を推進する通達発令、日本国憲法、教育基本法・学校教育法の公布、学習指導要領一般編（試案）発表と続く。これらをうけ全国の小中学校では地域の特性、各学校の実情や児童生徒の特性に応じた新日本建設のためのカリキュラム研究と教育課程の編成が性急に行われた。本稿では奈良県御所町で取り組まれた「コア・カリキュラム」を復刻し全体像を紹介した。(pp:103-115)
21.学びに向かう学習環境の提供―最適な支援を提供するために―	単著	平成30年9月	月刊国語教育研究 2018.9（No.557）日本国語教育学会［査読有り］	平成28年中教審答申や平成29年告示新学習指導要領で掲げられた児童生徒の教育的ニーズの多様化に応える配慮、支援をいかに具体化するのか。児童生徒の「考えの形成」に資する自己内対話を表出させる最適な支援を「ＵＤＬ」を念頭におき教師がさまざまに準備し提供することの必要性を指摘した。「書くこと」の収斂に囚われない国語科授業の可能性を提案した。（pp:32-35）
22.安森敏隆『百卒長』（青磁社2008）を読む	単著	平成30年8月	ポトナム2018年8月号 vol.95(1107)ポトナム短歌会	齋藤茂吉の卓越した研究者であり、ケータイ短歌、介護短歌で現代短歌界で一世を風靡した短歌結社「ポトナム」代表の故安森敏隆博士(1943-2018)の最後の歌集となった『百卒長』を読み解き、その業績と人柄を顕彰した。（pp:36-39）
23.杜甫における詩律の研究	単著	平成30年3月	京都府立大学博士論文（論文博第2号）〔査読あり〕	本論文では、儒家思想に裏付けられた政治参画への強い意志を持ちながらも時代状況に翻弄された人生を過ごした杜甫が、詩の可能性を信じ文学の力を根底に据えて誠実に人生の課題に取り組んで生きたとこと、迫り来る困難に対して自身の殻に囚われない柔軟な考え方と困難を肯定的に捉える思考ができる人物であったこと、杜甫の詩が残り後世に伝えられた背景の一つに、杜甫自身のアンバランスでアンビバレントなものの見方や認識と文学の力と詩の可能性を信じ切った行動が背景にあったと結論づけた。この視点は今後の杜甫研究をすすめるにあたっての手掛かりの一つとなる可能性があることを指摘した。（pp.1-162）
24.杜甫の「詩家自覚」異論ー詩を残すということ	単著	平成29年12月	常葉大学教育学部紀要第38号	本稿では、杜甫（七一二～七七〇）の「詩家自覚」を杜甫自身の「詩を残す、詩を伝える」ことと捉え、「宮廷の書庫に保管すること」、「寺院等へ保管すること」、「友人に託すこと」、「援助者に託すこと」、「詩人仲間に託すこと」、「家族に託すこと」の６つの可能性を挙げた。この杜甫の行動の根底が「詩家自覚」であり、最終的に自身の「詩集」を後世に残し、伝えることを実現させたと考えた。（pp:55～68）
25.どうすれば毛筆で上手く文字が書けるのか	単著	平成29年12月	常葉大学教育学部紀要第38号	本稿では教員を目指す学生諸君が、「書写」授業を行う際の具体的な指導法構築のための視点や「書写」授業に取り組む自信を獲得させる方策を探った。その結果、多角的な指導方法の観点（「姿勢」「筆遣い」「筆圧」「形・バランス」「メタ認知」「環境設定」）の習得と「学び合い」での対話的・親和的な雰囲気での練習が書写指導における自信獲得に繋がった。（pp:447～461）

26.からだ言葉にみる感情教育の可能性に関する一考察	共著	平成29年12月	常葉大学教育学部紀要第38号	近年，学校教育では対応が困難な，いじめや小1プロブレムのような出来事が起こっている。こういった問題が起こる要因の一つとして，感情教育の欠如を指摘する声がある。本稿では，日常に根差したすでに我々の日常にあるもの，加えて感情を教育しうる可能性を有するものとして「からだ言葉」に注目し，「からだ言葉」がもつ感情教育の可能性に言及し，さらにそれを受け，次期学習指導要領におけるからだ言葉による感情教育の可能性についての一提案をした。（pp:49～57）
27.大学生と『論語』との新しい出会い	単著	平成29年10月	常葉大学教育研究報告誌第1号	本稿では、道徳的に解釈される『論語』の章句ではなく、試行錯誤の中に生きた孔子の姿、弟子たちと生き生きと真剣に関わる孔子の語り、喜怒哀楽を抑制することなく大いなる振幅を体現した孔子の生き様に関わる章句を授業の中で示し、学生自らが選定した章句を解釈し、それを教材化していくことで、学生たちがどのように『論語』や孔子についての「見方」や「とらえ方」を変容したかを報告した。（pp:71～80）
28.読み書き障害（発達性ディスレクシア）に適した教材と指導法の開発にむけて―文献研究をとおして見えてきたこと	共著	平成29年3月	奈良教育大学次世代教員養成センター研究紀要第３号[査読有り]	本稿では、教員が読み書き障害（発達性ディスレクシア）とされる児童生徒の困難さの理解を進めて、その軽減に資する教材の作成や当該児童生徒が学習に対して自己肯定感をもち、自尊感情を高める指導法の開発を行うための基礎的な支援の視点を示した。これらの支援の視点は、教育という営みの本質的なあり方の改変を迫っていくものである。（共同研究であるが執筆は冨山敦史がおこなった。著者：冨山敦史、若森達哉、岩﨑千尋、大西貴子（pp:131～137）
29.ブッククラブ・メソッドを用いた「ゼブラ」の指導	共著	平成28年3月	奈良教育大学次世代教育養成センター研究紀要　第2号[査読有り]	「ゼブラ」を教材に物語の内容や話の構成について話し合い、考えを深め合うブッククラブ・メソッドに基づいた物語文の授業を実践した。学習者はブッククラブ・メソッドにある、シーケンスチャート作成の課題に対し、話し合いの中で積極的に意見を出すことができ、意見の交流の中で新たな考えに気付き、話し合うことの価値に気付くことができた。（pp:241～246）（共同研究につき抽出不可：話し合い活動について執筆）著者：冨山敦史、若森達哉、川畑惠子、棚橋尚子
30.ヘルマン・ヘッセ「少年の日の思い出」を教材にした実践の報告－これからの教育実習生のために伝えたいこと	共著	平成28年3月	「国文―教育と研究」奈良教育大学国文学会第39号[査読有り]	本稿では、教育実習を終えた学生（3年生）が、附属中学校での4週間の教育実習中に、指導教員から受けた指導事項や授業構想、実行できたことや実行できなかったことを整理し、具体的な教材を挙げつつ提示することで、学生の立場から教育実習の意義を改めて見出し、教育実習を控える後輩学生に対して、実習における具体的な学びの姿をまとめた。（pp:79～114）（共同研究につき抽出不可：実習生への具体的指導について執筆）著者：冨山敦史、赤井奈央、石田京志朗、山本泉
31.韋莊編『又玄集』中の杜詩七首について	単著	平成28年3月	「国文―教育と研究」奈良教育大学国文学会第39号[査読有り]	韋莊（836-910）が900（光化三）年に編纂した『又玄集』は、所謂「唐人選唐詩」として初めて杜甫の詩を収録し、上巻の圧巻に配した。韋莊が『又玄集』の序文で言及した選詩基準としての「清詞麗句」という文言は、杜甫が自己の詩論を吐露した「戯爲六絶句」其五で使われている言葉でもある。本稿では『又玄集』の序文を邦訳し、本集に採られた杜甫の詩七首を平仄の観点から分析し「清詞麗句」を旨とした韋莊が撰んだ杜甫の詩を平仄の観点から考察した。（pp:46～59）

32.心を動かす「語り」の指導についての研究ー能楽の「謡」を中心としてー	共著	平成28年3月	奈良教育大学　次世代教育養成センター研究紀要　第2号［査読有り］	国語科における伝統的な言語文化の育成は、従来、評価の定まった教科書教材の古典を中心にすすめられてきたが、当時の庶民に愛好されていた「芸能」の中にも、教科書教材の古典を典拠とするものが多く、「芸能」の中で語られた解釈の有り様が、当時の人々の価値観を知るうえで大きな手がかりとなる。本稿では、能楽を中心に文楽、歌舞伎などに挿入された物語の典拠を明らかにしつつ、語り物や口承文芸としての民間芸能の世界にも触れながら、能楽のDVD や動画サイトなどICT の積極的活用や体験活動的な教材化を図り、児童生徒が自ら「謡」を「語る」体験的活動を通して、語り物の成立過程や伝承について理解を深め、登場人物の心情や背景をよりよく理解できる指導法を提案した。(pp:229-234)
33.開かれた関係を築くコミュニケーション能力の育成ー子どもたちのナラティブからESDの価値観形成へ向けた創造的な教育実践を構想するー	単著	平成27年10月	奈良教育大学附属中学校　研究紀要第44集［査読有り］	本稿は、これまでの附属中学校のESDの取り組みをナラティブアプローチの観点から整理し、ナラティブアプローチが教員自身の子ども理解の深化と職能成長に対して有効性であること、ナラティブアプローチによる教育実践が、学習者自身のESDの価値観形成につながり、持続可能な社会の実現への参画と意欲を喚起する方法であるという構想を提示した。(pp:1-5)
34.杜甫と孟雲卿　「三吏三別」における文学観の受容と対峙	単著	平成27年3月	奈良教育大学次世代教員養成センター研究紀要第１号［査読有り］	杜甫（712-770）の「三吏三別」は、社会の矛盾を鋭く見つめた社会詩の傑作として高く評価されている。しかし、その制作の動機や目的についての研究は進んでいない。本稿では「三吏三別」詩制作時の杜甫の足跡と人間関係、特に同時代人に高く評価された尚古派の詩人孟雲卿に関する資料を手掛かりとし「三吏三別」がどのような文学観のもとで作られたものかを明らかにした。（pp:35～43）
35.「読書」行為の再構築を目指して―学力向上の礎としての「読書」―	単著	平成27年3月	奈良教育大学　次世代教育養成センター研究紀要第1号［査読有り］	本稿は、Ａ中学校の「朝の読書」活動を学力向上の礎ととらえ、全校体制で教職員・生徒・保護者・地域を巻き込んで教育課程に位置づけていく過程を報告したものである。「読書」を未来を切り開く力として再構築させるための具体的試案も提示した。「朝の読書」が社会的にも認知されてきたが、読書を「生きる力」の糧とする生徒がどれだけ増えたのだろうか。「読むこと」の本質を問わないままに形だけの「読書」行為が蔓延しているのではなかろうか。本稿ではＡ中学校の読書指導を振り返りながら、学力向上の礎としての「読書」行為の再構築を目指した指導を提案した。（pp:291～296）
36.学生の希望に答える教育実習事前指導（１）	単著	平成27年3月	奈良教育大学次世代教員養成センター研究紀第１号［査読有り］	本稿では、教育実習を控えた学生が実習事前指導に期待するものを具体化し、それに答えられる指導体制の構築を目指すための示唆を現場教員の立場から報告した。毎年教育実習生を受け入れ指導する附属中学校教員の立場から学生が教育実習にあたりどのような学びを望んでいるかを挙げながら、その実現のための具体的取組を示した。（pp:285～290）

37.「語り」で学ぶ古典学習～「能楽」「平家物語」の「語り」を通して～	単著	平成26年10月	奈良教育大学附属中学校研究紀要第43集［査読有り］	本稿では、大村はまの「朗読を主要な学習方法として、原文を読む」という古典学習方法に学び、中学２年生に『平家物語』を語ることを実践させ、義務教育段階での能楽の教材としての可能性を提案した。様々な古典の語りや友人の語りに学びながら自ら古典を語ることで生徒は自己肯定感を高め、古典に登場する様々な登場人物と語りを通して出会うことで古典に対する憧れを喚起できた。和漢古典の精華が鏤められている能楽の教材化を図るためには、教科間連携による多角的アプローチと役割を明確にしたICTの活用が有効であることを述べた。（pp:21-30）
38.学校ぐるみで取り組む漢字・語彙指導―教科書理解の礎となる漢字・語彙の指導	単著	平成26年1月	月刊国語教育研究49(501)［査読有り］	中学生時代に様々なトラブルが発生することは、発達課題克服においては当然のことであるが、最近、現場で強く感じることは、中学生を取り巻く言葉の機能不全である。トラブルの発端が、言葉の意味の取り違えや表現不足による誤解によるもの、また、仲間同士の同調圧力（ピア・プレッシャー）による語彙拡大の困難さ、あるいは仲間だけに通じる省略語の増加など、そもそもの言葉の定義が共有できなくなっている実態から出ていることが極めて多い。トラブルを解決するために試行錯誤するツールとして、言葉の機能が低下していると言わざるを得ない。このような状況の中では、いくらコミュニケーションの技法を教えても、形に囚われるばかりで、本質的な問題解決には繋がらない。この現状をどう打開していくのか。本稿では、国語科での取組を基盤としながら、学校全体に広めていく実践の一端を紹介した。（pp:16-21）
（その他）				
学会発表				
1.マルチメディアＤＡＩＳＹ教科書の活用に関する学校現場の課題把握	共同報告	令和元年8月	日本教育情報学会第35回年会、岡山理科大学、共同報告者：阪東哲也、冨山敦史、大井雄平、令和元年8月25日	ICTを活用した支援法としてマルチメディアDAISY教科書を取り上げその活用促進に向け課題のフレームワークを得ることとフレームワークに基づく支援方法を検討した。特別支援教育コーディネーター研修に参加した小中高教諭47名を対象とした調査から「学習者」「DAISY」「教員（授業での活用）」「環境」の要因が導出され、基礎的環境の整備、運用のマニュアル策定等多角的な支援を行う必要が示唆された。
2.ESDからみた戦後新教育―「御所中プラン」を中心に	報告	平成30年8月	日本ＥＳＤ学会第1回研究大会、奈良教育大学、平成30年8月19日	1950（昭和25）年に、民主主義の担い手の育成を目標に『御所中プラン』が従来の教科カリキュラム構成から脱しコア・カリキュラムに着目して開発された。本発表では本プランの特徴、新教育に挑む教員の思い、調査活動の概要を挙げ令和2年度開始の学習指導要領の理念と比較、相違点をＥＳＤの視点から考察することの意義を示した。
講演等				
文化庁京都移転記念事業「きょうハレの日」京都伝統文化の夢舞台	講演・講評	令和5年11月	文化庁・京都府、京都府丹後文化会館・峰山地域公民館、2023年11月11日	地域が守る伝統芸能を次世代に継ぐ「京都伝統文化の夢舞台」において、保育園児から高校生による伝統芸能の演技等に対する講評と総評、表彰状授与（京都府知事代読）、伝統芸能ワークショップ（能『敦盛』の「謡」指導等）を実施した。
文化を未来に伝える次世代育み事業「学校・アート・出会いプロジェクト」教員向け講座	講演・指導助言	令和5年10月	京都府・京都府教育委員会、河村能舞台、2023年10月30日	京都府教員向け実技指導研修会『伝統芸能-能-』において、実技研修、指導助言を行った。
1.読み書き障害（ディスレクシア）の理解と支援について－子どもたちの未来を拓く合理的配慮の実現を目指して－	講演	令和4年8月	天理市教育委員会・天理市教育総合センター夏の研修講座、令和4年8月8日	令和4年度の夏の教職員研修講座で、読み書き障害（発達性ディスレクシア）の児童生徒の学習支援の具体的方法と保護者理解の進め方など、合理的配慮の実際について、具体的事例を挙げて講演した。
2.学校現場での読み書き障害（ディスレクシア）の支援について	講演	令和2年11月	静岡市教育委員会、静岡市特別支援教育コーディネーター研修会、静岡市教育センター、令和2年11月20日	令和2年度静岡市立学校＜小中高＞の特別支援コーディネーターに対する悉皆研修会で、発達性ディスレクシアの児童生徒の実態把握と具体的支援、保護者理解と合理的配慮、GIGAスクール構想下でのICTによる支援の可能性について講義した。

3.「能は面白い！」京都府・学校・アート・出会いプロジェクト教員向けプログラム・中学校教育研究会音楽部会研修会	講演	令和2年1月	京都府教育委員会，京都市下京青年活動センター、令和2年1月27日	京都府下の中学校教員を対象にした「能」を授業に取り入れるために教材DVDを使った実践事例紹介の講演、講演後の能楽師による能の実演・質疑応答の司会を担当した。
教員免許更新講習講座「国語科指導の諸問題（漢字・漢詩文・能楽等）」	講演	令和元年8月	常葉大学、静岡草薙キャンパス、令和元年8月8日	国語科指導の諸問題の「漢字・漢詩文」では「文字は誰のものか」という問いを掲げ、文字（漢字）の誕生から政治、思想との密接な関係を挙げ、文字と古典(歴史)を学ぶ意義を再確認した。「能楽等」では、謡の実技指導と楽器体験、児童生徒の古典への興味関心を喚起するヒントが能楽にあることを事例を挙げて講義した。
令和元年度情報技術活用研修会	講演	令和元年8月	静岡市教育委員会、静岡市教育センター、令和元年8月2日	発達障害（特に発達性ディスレクシア）の児童生徒についての合理的配慮の事例や支援方法等の情報の収集と活用について述べた。
共同研究・競争的資金等の研究課題				
常葉大学共同研究（授業改善等） 個別最適化教育を推進しうる教員養成を目指した正課内授業改善と正課外主体的活動支援	研究代表者	令和4年4月～令和5年3月	常葉大学共同研究（授業改善等） 冨山敦史,出口 憲,永倉由里,井上 亘,古市将樹,大井雄平,兒玉浩尚,社浦竜太,野村和代	個別最適な学びと協働的な学びを実現しうる教員の資質と学生の実態を踏まえ、授業改善(特にICT活用)と正課外での協働的活動を活発化させ、その成果を検証する。①授業者は、学生の自律性を高める授業形態を設定し、個別最適化と協働的な学びの実現を目指す（正課内）。②正課外では、教員は学生が自律的に活動する機会を設定するとともに、研修会等での学びと情報共有ミーティングを重ねて、個別最適かつ協働的な学びを実現させる学習観・教育観の涵養を図る。③質問紙調査等で授業改善の効果とその間の学生の変容とを検証する。
読み書き障害の児童生徒の学習支援に資する教員用手引き書の作成	研究代表者	令和3年4月～令和4年3月	公益財団法人日本教育公務員弘済会 https://researchmap.jp/sallygarden/works/40446586	本手引き書作成にあたっては、まずWeb上で公開されている都道府県教育委員会等作成の教員用手引き書を網羅、分析し、読み書き障害の児童生徒の学習支援に関わる不可欠な項目を整理、導出した。次に、一般教員が実施可能なアセスメント法、指導・支援後の評価やフィードバック、情報の精査、合理的配慮等を踏まえた学習環境の提供等の項目や文部科学省や公的研究機関および民間研究団体等の最新の研究や実践から得られた知見を追加し、現場の教職員の対象児童生徒の具体的な指導支援とエビデンスの集積に資する新たな「読み書き障害の児童生徒の学習支援に関わる教員用手引き書」とすることを目的とした。これによって教育現場での読み書き障害の児童生徒への合理的配慮の実施、申請を目途とした教員と児童生徒に資する具体的な内容に富む「活用される指導支援の手引き書」としたい。なお、「読み書き障害の児童生徒の学習支援に資する教員用手引き書」は、この冊子（紙媒体）以外に電子データ化しWeb上に公開して必要に応じて更新を行うものとする。
常葉大学共同研究 橘小学校との連携による教育現場に根ざした現代的・実践的な教員養成に係る研究 ―ICT活用による授業観の変容に着目して―	研究分担者	令和2年4月～令和3年3月	常葉大学共同研究 冨山敦史,笛木茂雄,出口憲,永倉由里,長橋秀樹,濱川栄,松村隆年,木村光男,三沢大樹,富永弥生,三井一希	本研究では、大学教員・小学校教員・学生（主に3・4年生）が連携しながら教材研究、授業構想を行い、授業実践を行うことを主とした。本年度には橘小学校で全児童のiPad活用・ロイロノート導入の年度となったため、実態に即した研修会を企画・実施し、学生も含めてICT活用を学び、研究を深めることを目指した。具体的には＜GIGAスクール構想との連動＞、＜デジタル教科書の活用＞、＜学生・児童・大学教員・小学校教員の継続的な連携による実践的な研究の推進と授業実践の質的改善＞、＜授業実践演習を活用した授業展開＞の分科会に分かれて進めた。
常葉大学共同研究「橘小学校との連携による教育現場に根ざした現代的・実践的な教員養成に係る研究	研究分担者	令和元年4月～令和2年3月	常葉大学共同研究 冨山敦史,笛木茂雄,出口憲,永倉由里,長橋秀樹,濱川栄,松村隆年,木村光男,三沢大樹,富永弥生,三井一希	文科省より教職課程コアカリキュラムが示され、小学校教員養成に係る教科教育のあり方が大きな曲がり角を迎えている。そこで特にICT教材・教具を活用しながら、附属橘小学校と連携した教員養成を研究目的とする。

（注）

1　この書類は，学長（高等専門学校にあっては校長）及び専任教員について作成すること。

2　医科大学又は医学若しくは歯学に関する学部若しくは学部の学科の設置の認可を受けようとする場合，附属病院の長についてもこの書類を作成すること。

3　「研究業績等に関する事項」には，書類の作成時において未発表のものを記入しないこと。

4　「氏名」は，本人が自署すること。

別記様式第４号（その２）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　研　究　業　績　書

令和5年5月5日

氏名　西江なお子

研究分野	研究内容のキーワード
教育学	家庭科教育、食育、授業づくりの方法技術

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
１　教育方法の実践例		
(1)節電の効果とその意義を、実感を伴った理解へと導く「見える化」を図る実践	平成25年2月	家庭科と総合的な学習の実践である。東日本大震災後、節電という言葉を聞くが、継続するのは難しい。節電の意義を理解し実践する児童を育てることは重要である。そこで、課題を見出し、節電の方策を考え、自分にできることをする力を養う授業を行った。労力と電気の関係を実感するため、自転車発電機で実際に発電させる。また待機電力を測定し、その電力を年間に換算してどれほどの節電に繋がるのかをデータ化する。こうした実際に体を動かしたり数値化したりするなど様々な「見える化」のアプローチを経て、節電を実感させた。児童は校内の無駄な電気の消灯などに積極的になった。 (大阪教育大学附属池田小学校の実践)
(2)住環境の汚れに対し、意識下から意識化へと児童を変容させる指導法の実践	平成26年2月	家庭科の実践である。ドアノブや電気スイッチなど不特定多数の人が触れる場所や、一見きれいに見える壁や机まわりなどにも、拭いきれていない汚れが付着していることを光線の特殊なブラックライトを用いて照射し「見える化」する。そしてそれが人体に与える影響を考え、「きれいなはず」という意識を覆しどうすれば見えない汚れを取り除き、気持ちの良い環境づくりが実現するかを考えさせた。実際に自分の身近な物を雑巾等で拭い汚れを実感させることで、その後の清掃態度が激変すると同時に家庭でも同じような報告を保護者から受け、家庭での実践に繋がった。 (大阪教育大学附属池田小学校の実践)
(3)生活実践力向上を目指した小学校家庭科指導法の実践	(3)生活実践力向上を目指した小学校家庭科指導法の実践□ 平成26年5月～平成27年3月	小学校第５、６学年生を対象に、児童・教員の最も関心の低い分野である清掃学習において、本授業モデルによる実践を通して生活実践力がいかに高まるかを検証・考察した。その際、授業モデルの有効性を検証する目的で診断的評価・総括的評価を行い、児童の意識、態度の変容を調査した。また、家庭科の教科目標に対する評価も行った。教科の目標に対する評価においては４観点全てにおいて４段階評価の上位４、３が85%以上を占め、概ね達成している結果となった。授業のまとめとして授業対象学年以外の児童に清掃の必要性のプレゼンを5・6年生が行い、学校全体で清掃の取り組みが活発となり活動が定着し成果を得ることができた。 （池田市立石橋南小学校の実践）
(4)大学生の衣食住の知識・技能の向上を目指した講義の実践	平成28年4月現在に至る	大学生を対象に、衣食住の知識・技能のレディネステストを行い、実態を把握した。結果、個人差が大きく小学生からの家庭科の学びが定着していない学生が多く見られた。この実態を受け、毎時に知識・技能の小テストを行い、課題解決に向けての具体的な対策を考えさせた。学びの定着と実践の日常化を図るために、家庭科新聞の作成及び家庭での取り組みシートを継続的に書かせることで、学生自身に知識・技能の定着の成果を実感させることが出来、結果として成績が上昇する学生が増加し、ある一定の成果を得ることが出来た。 （奈良学園人間教育学部「衣食住の理解」での実践）

(5)大学における学生主体とした指導法の実践発表	平成30年10月 ～平成31年3月	家庭科を基盤とした教科横断的な「いのちの教育」を、動物愛護の視点を取り入れることによる有効性の実証に向けて実践した。児童の身近な存在としてペット（特に犬・猫）のいのちに注目し、「犬に名前を付ける日」の映画監督である山田あかね氏、動物保護に携わるNPO法人「犬猫みなしご救援隊」代表中谷百合氏を招き、児童、保護者、地域住民を対象とした「いのちの教育」を実施した。朝日新聞社及び大阪北摂地域のマスメディアの取材を受け、いのちの教育の取り組みを広く発信することが出来た。本実践研究により、いのちについて大人と子どもが語り合うと共に、児童のいのちにたいする意識が大きく変容し、教育効果があった。 （池田市立石橋南小学校の実践）
(7) 家庭科における「防災教育」の実践	平成30年4月～ 平成31年3月	家庭科を基盤とした教科横断的な「防災教育」の可能性を探り、その有効性の実証に向けて実践した。児童の防災意識と行動の不整合の検証を通して、防災意識の向上に加え具体的な防災の在り方についての知識・技能の習得の必要性を明らかにした。そこで、地域住民に対し、防災の取り組みや避難時等に抱く不安について聞き取り調査を実施し、小学生が地域の防災リーダーとして実践可能な事項について検討した。加えて、学習発表会においては、「釜石の奇蹟」を題材に演じ、震災時の様子を調べ、災害を自分事として捉え、下級生はじめ地域住民など多くの人に防災の必要性について発信した。これら一連の取り組みにより、実践前と比較した際、児童の防災意識はもとより、各家庭での防災の取り組みの質・量ともに向上し、本実践の有効性が示された。 （池田市立石橋南小学校の実践）
２　作成した教科書，教材		
(1)家庭科指導法における指導案作成の手引き （奈良学園大学　人間教育学部発行）	平成28年11月	家庭科指導法の受講生を対象に、家庭科指導案作成における重要点を明確に提示した。題材設定の理由や指導上の留意点の書き方などを、実際の指導案を示し具体性を重視した。学生からは、指導案の書き方が明確になり、重要点が示されているため書き漏れや書き損じを防ぐことができ好評であった。 Ａ4判　2頁
(2)衣食住の理解における技能向上のための手引き	平成29年6月	衣食住の理解の受講生を対象に、技能向上を目的としてその重要点を明確に提示した。ミシンの操作方法、安全な扱い方、児童への適切な指導法といった小学校教員として必要な技能を、基礎から応用までを詳細に記し、安心して児童に指導できるようにまとめた。児童 への指導ポイントが分かりやすいと好評であった。 Ａ4判　2頁
３　教育上の能力に関する大学等の評価		
(1)奈良学園大学学長からの「家庭科教育法」「衣食住の理解」を担当する非常勤講師として採用時の評価	平成25年4月	奈良学園大学人間教育学部人間教育学科において、非常勤講師として採用時の評価は以下の通りである。 『該当教員は、大阪教育大学池田附属小学校に家庭科主任として4年間勤務し、毎年全国発表会を行い具体的な教材開発や指導方法などを熟知している。また、毎年多くの家庭科教師を志望する大学生を実習生として受け入れ、大学生に対しての指導の経験も豊かである。実践だけでなく研究紀要や、現職教員対象の「教員免許更新」の教科書を作成するなど、研究に対する意欲も高い。学会での活動も開始し、豊かな実践だけでなく、理論面でも大学教員としての資格を備えていると判断する。
(2)奈良学園大学「衣食住の理解」授業終了時における学生アンケートによる評価	平成27年8月	授業改善のために設定した5項目と自由記述による学生アンケートを行った。授業内容を実生活に活用できる項目の満足度は4点満点中3.8と高評価であり、多くの割合の学生が満足のいく授業となった。

(3)奈良学園大学「家庭科指導法」授業終了時における学生アンケートによる評価	平成29年3月	授業改善のために設定した5項目と自由記述による学生アンケートを行った。第１回目の講義においては家庭科に対する興味関心が低い傾向が事前調査で分かったが、学生が能動的に講義に参加し学びが深まるよう、アクティブラーニングを取り入れ、小学校現場で即活用できる力を身に付けさせた。講義の満足度は4点満点中3.8という高評価であり、学生に深い学びを保証することが出来た
(4) 奈良学園大学「衣食住の理解」授業終了時における学生アンケートによる評価	平成30年3月	全15回授業終了時におけるアンケートによる授業評価は、「授業時間の有効な使い方」は4点満点中3.83、「授業に対する熱意や意欲」は3.78、「説明のわかりやすさ」は3.7といずれも高評価であった。授業において、小学校家庭科教育の目標及び内容について実感を伴って理解できるよう、アクティブラーニングを取り入れ、リフレクションを図りながら学生の理解を確認し、適宜フィードバックして授業を進めることを心掛けた。その結果、学生の深い学びを保証し、満足度の高い授業とあり、先の評価を得ることが出来た。
4　実務の経験を有する者についての特記事項		
(1)大阪教育大学附属池田小学校における 学年主任としての学年教員指導と調整	平成21年4月～平	学年主任として、管理職や他学年との連絡調整を綿密に行い、児童の教育に尽力した。年間学習カリキュラムを作成し、学年の目標到達に向けて各教員と話し合いを密に行い、児童の教育にあたった。また、各学級の児童の実態把握に努め、個別対応を要する児童についての会議を定期的に行い、学年全体で情報を共有し児童の指導を行い、安定した学年経営が実現し、保護者からの高い評価も得た。
(2)大阪教育大学附属池田小学校における 家庭科主任として教育実習生の指導	平成21年4月～ 平成26年3月	平成21年から家庭科の主任を5年間担当し、毎年教育実習生を、年2回受け入れ、家庭科教員希望者を複数名実習指導した。実習指導の内容は、家庭科の学習指導要領に基づく教材内容の解釈、年間指導計画の立案、学習指導案の作成、効果的な実技指導の方法、安全な実習のための留意点、高学年児童の理解等におよんだ。さらに実際の授業をさせて、課題を指摘して、再挑戦させることで、実践力をつけさせ、学生からは課題が明確となる的確な指導であるとの評価を得た。
(3)近畿附属小学校連合会家庭科支部役員としての教育研究	平成21年4月～ 平成26年3月	役員として家庭科教育に関しての成果と課題を毎年分析し、他の附属校との意見交流を図る中で、PDCAサイクルを積極的に行い、研究会の成功に尽力した。
(4)大阪府家庭科教育研究会家庭科部会役員としての教育研究	平成21年4月～ 平成26年3月	平成21年から家庭科部会役員として、毎年実施される研究会の開催に向けて会長の指示のもと連絡調整を綿密に行い、教員の希望アンケートを集約し講師の選出など研究会の成功へと尽力した。
(5)大阪府家庭科研究会役員	平成21年4月～ 平成26年3月	役員として研究会開催に向けて関係機関と研究目的について検討し、会の成功に尽力した。また、日ごろの家庭科学習の取り組みを他市と情報交換する会を行い、池田市の家庭科教育の発展に尽力している。
(6)池田市家庭科教科書採択委員	平成26年度	池田市教育委員会からの委嘱により、平成27年度からの使用となる家庭科教科書採択委員として、教科書の採択を行った。各社の教科書の特徴を分析し、特に児童の実態を鑑みて採択することができた。

(7)池田市家庭科研究協議会指導助言者	平成28年度～29年度	池田市家庭科研究協議会指導助言者として、池田市の家庭科教育担当者に授業づくりのポイントや教材について助言した。特に27年10月に大阪府家庭科教育研究会において池田市から授業代表者を選出し授業提案した際は、消費者教育の授業の在り方について助言し、池田市の家庭科教育の発展に尽力した。研究会所属。教員並びに授業代表者所属長から、的確な指導により提案性のある授業が出来たとの評価を得た
(8) 奈良学園大学人間教育学部人間教育学科「基礎ゼミナールⅠ」におけるアドバイザーとして学生支援	平成28年度	1回生のアドバイザーとして、年3回の面談および適宜個別指導を実施し、大学生活に順応できるよう支援し、学生の主体的な学びの実現に向けて尽力した。
(9) 「奈良学GT担当者」として、1期生教職志望学生の学生支援	平成28～29年度	1期生教職志望学生を対象とした「奈良学GT」担当者として、担当者間で連携を図りながら学習会の計画・運営、面談等を実施し、学生支援を行ってきた。各学生の実態把握と適切な指導を心掛けるとともに、各自治体の動向を分析し、個々に応じた教採対策計画の相談に応じるなど、全体と個別指導を適宜行ってきた。
(10)奈良学園大学人間教育学部人間教育学科「基礎ゼミナールⅡ」におけるアドバイザーとして学生支援	平成29年度	平成29年度入学の中国人留学生指導担当として、日本と中国の食に関する比較から、地理的、文化的背景による食の相違点を見出し、分析・考察し、論文作成までの指導を行った。論文発表会において会場からは、食について多角的に研究を進めているとの評価を得ることが出来た。当該学生は、本研究を通して中国と日本の食に対する知見を深めることが出来たとともに、更なる研究を目指して今後中国での大学院進学を視野に入れており、研究への意欲喚起を図ることが出来た。
(11)奈良学園大学人間教育学部人間教育学科中国人留学生指導	平成29年度	平成29年度入学の中国人留学生指導担当として、日本と中国の食に関する比較から、地理的、文化的背景による食の相違点を見出し、分析・考察し、論文作成までの指導を行った。論文発表会において会場からは、食について多角的に研究を進めているとの評価を得ることが出来た。当該学生は、本研究を通して中国と日本の食に対する知見を深めることが出来たとともに、更なる研究を目指して今後中国での大学院進学を視野に入れており、研究への意欲喚起を図ることが出来た。
(12)「人間教育力開発演習Ⅲ」において教職志望学生を対象に指導	平成29年度～平成31年度	教職志望者を対象に教員に必要な資質・能力の育成を図ることを目的に、教育課題や教育指針等法規に基づいた取り組みの現状などを提示するとともに、学生個々が設定した課題の解決に向けて講義を進めた。学生からは、本講義受講により、教職志望の意思が確固たるものとなったことに加え、教員に必要な資質・能力を深く理解することができたとの評価を得ることが出来た。
(13) 兵庫教育文化研究所協力研究所員	平成29年度～現在に至る	兵庫教育文化研究所協力研究所員として、家庭科・技術家庭科部会における、家庭科教育の授業構築に関するアドバイザー業務に従事した。
(14)「奈良学GT主担当者」として、3期生教職志望学生の学生支援	平成29年度～現在に至る	3期生教職志望学生を対象とした「奈良学GT」主担当者として、キャリアセンターと連携を図りながら学習会の計画・運営、面談、業者との打ち合わせ等を実施し、学生支援を行ってきた。各学生の実態把握と適切な指導を心掛けるとともに、個々に応じた教採対策計画の相談に応じるなど、全体と個別指導を適宜行ってきた。このことから、学生の学修意欲向上を図ることができ、模試等において成果が表れており、学生自身が課題に向き合い、取り組む力を育てる教育効果を上げることが出来た。
(15) 奈良学園大学人間教育学部人間教育学科「基礎ゼミナールⅡ」におけるアドバイザーとして学生支援	平成30年度	2回生のアドバイザーとして、年3回の面談および適宜個別指導を実施し、単位履修や学修計画、生活指導など、大学生活全般に関わる指導を行い、学生の主体的な学びの実現に向けて尽力した。

(16)三宅町フードフェスティバル実行委員	平成30年度～ 現在に至る	三宅町主催のフードフェスティバルの実行委員として、会の企画・運営について助言を行いアドバイザー業務に従事した。
(17)関西大学文学部における教育実績	平成30年度～ 現在に至る	関西大学文学部における家庭科教育法として、小学校における主体的・対話的で深い学びを実現するための家庭科指導の在り方について授業を行った。家庭科教育における指導計画の作成及び内容の取扱いについて、学習指導要領に則り学生の理解度を随時把握しながら進めることを心掛けた。また、毎時リフレクションシートに体得した学びと課題、疑問点等を記入させ、全学生が指導者としての知識・技能を身に付けられるようにし、自身の授業評価と改善を行った。その結果、学生からは、小学校家庭科教育の目的と教育方法が明確となったと高評価を得ることが出来た。
５　その他		
特記事項なし		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
１　資格，免許		
１．免許・資格 (1)小学校教諭一種免許 (2)幼稚園教諭一種免許 (3)食育インストラクター2級 (4)応急手当普及員 (5)小学校教諭専修免許	平成7年3月 平成7年3月 平成22年9月 平成22年8月 平成28年3月	平６小一第794号（兵庫県教育委員会） 平６幼一第368号（兵庫県教育委員会） DP-0900856 第　F4056006 平28小専第16号（大阪府教育委員会）
２　特許等		
特記事項無し		
３　実務の経験を有する者についての特記事項		
(1)大阪府池田市教育委員会主催 ふくまる教志塾　講師 会場：池田市教育センター 対象：教員採用試験受験希望者	平成24年7月	池田市教育委員会主催の平成25年度教員採用試験突破を目指す大学生等を対象の講習講師を行った。採用試験に向けての学習法はじめ、家庭科など各教科授業づくりのポイント、保護者・児童への対応の仕方などを講義した。講習後のアンケートには、実際の小学校教員の生の声の影響は大きく、教職に対しての職務遂行能力の理解を促した。
(2)家庭科教育学会関西支部役員としての貢献	平成24年8月	日本家庭科教育学会第43回近畿地区会　大会を役員として成功させた。さらに西江本人も、実践・研究発表デザートのプレゼンを通して、望ましい消費者生活を提示した。
(3)大阪府豊能地区家庭科新任教員研修講師 会場：池田市立石橋南小学校 対象：平成24年度豊能地区新規採用教員	平成24年8月	平成24年度新規採用教員が対象の家庭科教育についての研修講師を行った。レジメを用い、家庭科の目的や、生涯学習での位置づけなどの学習指導要領の説明をした。また、45分の授業の組み立て方を例示し、師範授業も行った。発問・板書・ノート指導・教材選定などを例示した。研修後のアンケートでは、教師の目線はじめ、言葉かけ、授業の組み立て方など参考にする要素が多いと評価を得た。
(4)「食卓を囲むことから始まる食育」 ＰＴＡ主宰における保護者対象教育講演会講師 会場：池田市立石橋南小学校 対象：池田市立石橋南小学校保護者20人	平成26年10月	孤食が取りざたされている現状を踏まえ、各家庭で会話をしながら食事をすることの意義と、身近にできる台所菜園についての講演を全校保護者向けにレジメを用意し行った。そして、今求められている食育についての概要を伝え、食を通しての人間形成について話をした。講演会後のアンケートでは、家族と食卓を囲むことの重要さに気付いたと感想が出て、保護者の食への関心を高めることができ一定の成果を生むことができた。

(5)池田市家庭科研究会指導助言 会場：池田市立五月丘小学校 対象：池田市立小学校家庭科部会会員20名	平成28年5月	池田市家庭科教育研究会において、10月に開催される大阪府家庭科研究会大会にむけての授業検討会の指導助言として、小学生対象の消費者教育をどのように進めていく必要があるのかを講師として指導助言を行った。具体的な指導だと好評だった
(6)池田市家庭科研究協議会指導助言 会場：池田市立五月丘小学校 対象：池田市立小学校家庭科部会会員20名	平成28年6月	池田市家庭科教育研究会において、10月に開催される大阪府家庭科研究会大会にむけての授業検討会の指導助言として、指導案の作成及び発問や板書計画について具体的な指導を行った。消費者教育についての資料なども多種用意し、具体的な指導だと好評だった
(7)池田市家庭科研究協議会指導助言 会場：池田市立五月丘小学校 対象：池田市立小学校家庭科部会会員20名	平成28年7月	池田市家庭科教育研究会において、10月に開催される大阪府家庭科研究会大会にむけての授業検討会の指導助言として、指導案の作成及び発問や板書計画について具体的な指導を行った
(8)池田市家庭科研究協議会指導助言 会場：池田市立五月丘小学校 対象：池田市立小学校家庭科部会会員20名	平成28年8月	池田市家庭科教育研究会において、10月に開催される大阪府家庭科研究会大会にむけての授業検討会の指導助言として、指導案の作成の最終調整を行うと共に、7月に行われた授業のビデオ視聴による授業検討を行った。
(9)奈良学園大学オープンキャンパス模擬授業 会場：奈良学園大学 対象：オープンキャンパス参加高校生・保護者30名	平成28年8月	大学の講義を体験するオープンキャンパスにおいて、高校生・保護者を対象に節電を考える家庭科教育を行った。実感を伴った理解を図るため体験活動を取り入れた講義は、大学の講義に興味・関心を持つ一助となったとの感想が聞かれた。
(10)池田市家庭科研究協議会指導助言 会場：豊中市立東丘小学校 対象：池田市立小学校家庭科部会会員20名	平成28年10月	大阪府家庭科研究会大会において、5月から行われてきた授業検討をもとに、小学校家庭科における消費者教育の授業実践を行った教員の指導助言を行った。
(11)食育講座 会場：三宅町立三宅小学校 対象：三宅町立三宅小学校保護者・教員25名 ・三宅町食育指導	平成28年12月	「小学生の体力向上に向けた食事のあり方」と題して、小学生に必要な栄養素を中心に、その適切な摂取方法や調理例を挙げ、保護者が家庭で行える食事のあり方について指導助言を行った。調理例や好き嫌いのある児童への対処の仕方など、無理なく行える食育として参会者に好評であった。
4　その他		
特記事項なし		

研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項

著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				
1. 「とごころ」第3号	共著	平成24年2月	大阪教育大学附属池田小学校	大阪教育大学附属小学校の保護者や市民を対象にして、学校の方針を説明するために発行されたものである。 B5版　63頁 編者：大阪教育大学池田附属小学校教育研究部 共著者：佐々木靖、岩井陽介、垣内幸太、坂下剛、小林秀訓、升村誠志、井上伸一、樋口万太郎、荒川真一、西江なお子、　他9名 本人担当部分：「家庭科における言語活動」の実践（p44～45）を単著 家庭科における体験的な活動を通して言語活動を充実させる授業法の研究をまとめた。 １．児童の実態把握。 ２．グループワークでの学習。 ３．異学年交流。 ４．振り返り活動。 以上、体験的な活動を学習に効果的に組み込むことを通して、言語活動の充実が図れていくことを教育実践として提案した。

2. 「とごころ」第4号	共著	平成24年10月	大阪教育大学附属池田小学校	大阪教育大学附属小学校の保護者や市民を対象にして、学校の方針を説明するために発行されたものである。 B5判　全63頁 編者：大阪教育大学池田附属小学校教育研究部 共著者：松井典夫、岩井陽介、佐々木靖、加藤いつき、西江なお子、平野憲、津田一司、西田まなみ、孕石泰孝、井上伸一　他７名 本人担当部分：『「家でもやってみたい」と思える授業づくりを目指して』（ｐ50～53）を単著 家庭科での学びがその場だけではなく、家庭での実践へとつながるための授業法の研究をまとめた。 １．学ぶ楽しさを感じる授業展開の工夫。 ２．児童の実態に適した教材選択の必要性。 ３．意識化するためのアプローチとしての「見える化」の提案。 ４．客観的思考での課題に迫る授業のアプローチ法。 ５．データ分析による事実把握。 ６．学びを家庭実践へと生かす方法。 以上、学びが児童の意識に根を強くおろし、家庭での実践へと継続していく研究実践として提案した。また、家庭科教育が児童の自立の過程における役割についても論じた。
3. 「教師も子どもも“楽しい”と思える授業づくり教職実践演習テキスト」	共著	平成25年3月	大阪教育大学	大阪教育大学における家庭科教育法の授業における教職実践演習に使用するテキストとして、執筆されたものである。 A5判　全52頁 編者：大本久美子 共著者：瀧野聡平、川口綾、昉那啓子、西江なお子 本人担当部分： １．「授業づくり・子どもとのかかわりのヒント」高学年児童との関わり方はじめ、家庭科授業の組み立て方の工夫や板書計画、教材研究方法、教室環境整備のポイントなど、教師を目指す学生の指針となるよう項目だてし、理論と実践をまとめた。 ２．「魅力的な家庭科の授業例」実際の教材を２つ提示して、学校で家庭科の授業で使いやすいようにポイントを述べた。 ①「かしこい消費者になろう　～家族の一員として、わたしにできること～」と題し、買い手と売り手の双方を経験しながら消費者としてのあるべき姿を学ぶ授業展開を述べた。 ②「快適な住まい方　～今の私にできること～」と題し、自分のまわりの 環境に興味・関心を持ち、そこから課題を見つけ、快適という概念を自分なりに模索しよりよい環境を作り出すにはどうすればよいか考え、実行するという住環境を考える住環境について学ぶ授業展開を論じた。（ｐ18～24、ｐ40～45）を単著
4. 「家庭科におけるアクティブ・ラーニングへの試み」	単著	平成27年12月	株式会社EPR教育プロ 第45巻　第27号　通巻1796号	最新の教育情報や斬新な実践等をまとめ、教育関係者並びに児童・生徒の保護者を対象に広く告知するために執筆されたものである。 本人担当部分：「家庭科におけるアクティブ・ラーニング」（ｐ18～19）を単著 ①清掃意識の実態把握。 ②見える化の体験による概念砕き。 ③言語活動による意識化と共有化。 ④メタ認知を行う。 ⑤学びを深化する。 以上、小学校家庭科教育において住まいの授業をアクティブ・ラーニングの方法で行うことにより、児童が自分の課題と向き合い、家族の一員としての自覚を持って生活し、主体的に生活する力が育成されると仮説を立て、研究実践として提案した。

5．3年目教師　勝負の学級づくり　ーマンネリの毎日を脱却する極め付きの指導技術56ー	共著	平成29年9月	明治図書　授業力＆学級づくり研究会	小学校3年目までの教員を対象に、学級経営や授業づくりの基礎・基本を明確に解説した。 A5判　全126頁 共著者：垣内幸太、樋口万太郎、日野英之、小林秀訓、西江なお子、他20名 本人担当部分： １．「給食準備・後片付け」と題し、低学年でも安全で早く準備ができるよそい方や、おかわりの仕方について明確な数値で児童に指導することの重要性を解説した。 ２．「給食指導の裏にある３つのねらい」では、安全・衛生面、社会性の構築、食文化への関心向上の3点の重要事項について解説した。 給食を単に昼食として捉えるのではなく、食育という指導の一つとしての位置づけについて述べ、教員の食への意識向上について論じた。（ｐ20～23）を単著
6.「とごころ」第9号	単著	平成30年2月	大阪教育大学附属池田小学校	「主体的・対話的で深い学びを」の実現に向けて、家庭科における授業デザインについて「生活実践力」育成に着目し授業法を述べた。次期学習指導要領解説家庭科編によると、家庭科教育の課題の一つは、家庭での実践に繋がっていないことであると挙げられている。そこで清掃学習における体験活動・交流活動・評価活動の往還により課題解決を図る生活実践力育成をめざした授業デザインを構築した。この学習を通して、実践前後における児童の取り組みと意識に変容が見られた。このことから、生活実践力育成における一つの取り組みとして体験・交流・評価活動の往還は有効であることが明らかとなった。
7.新指導要領準拠　小学校家庭科教育の基礎基本	単著	平成30年9月	株式会社ERP	平成31年度実施の新学習指導要領に準拠し、小学校家庭科教育の変遷並びに指導計画の作成及び内容の取扱い、また、授業づくりについて、小学校教員を目指す学生や家庭科を初めて指導する教員を対象に作成したブックレットである。授業づくりの項目においては、児童を取り巻く状況を具体のデータを提示、分析し、必要な支援の在り方や授業構成について詳細に述べている。加えて、授業実践も適宜掲載し、授業づくりの在り方を解説した。本著は、奈良学園大学人間教育学部人間教育学科「家庭科指導法」、関西大学文学部「家庭科教育法」において使用しているが、学生からは小学校家庭科の課題や児童の実態、及び指導案の書き方などが明確に分かると高評価を得ている。
8.指導要録記入文例集	共著	令和2年1月	株式会社文溪堂	学習指導要領改訂に伴い、通知表作成にも使用可能な学習指導要録の記入文例集として発行されたものである A4判　全160頁 編者：株式会社文溪堂 共著者：今宮信吾、盛田恭平、長野順子、西江なお子　他8名 本人担当部分：「児童の特徴・特技、学校内外に関する諸事項等（低学年）」（ｐ42～45）を単著、「児童の特徴・特技、学校内外に関する諸事項等（中学年）」（ｐ95～98）を単著、「家庭第5・6学年」（ｐ114～115）を単著、「児童の特徴・特技、学校内外に関する諸事項等（高学年）」（ｐ150～153）を単著 2017年、学習指導要領が改訂され、育成すべき資質・能力の3つの柱が「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力」、「学びに向かう力、人間性等」とされ、それに伴い指導要録もこの資質・能力の達成状況を看取る観点として、「知識・技能」「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3巻点に整理された。これを受け、通知表にも活用できるよう「家庭」での記入例を具体的に示した。

9. 家庭科授業の理論と実践 持続可能な生活をつくる	共著	令和2年2月	あいり出版	学習指導要領改訂に伴い、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた家庭科の授業の理論と実践をまとめ、授業に活用できるよう発行されたものである A5判　全286頁 編者：株式会社あいり出版 共著者：大本久美子、野田文子、鈴木真由子、加賀恵子、森田晋太朗、西江なお子　他7名 本人担当部分：「家庭での実践につなげる授業の工夫 -数値化、視覚化して実感を伴わせる-」（ｐ160～166）を単著、「『特別の教科道徳』との教科横断的な『いのちの教育」～家庭科の可能性を探る～」（ｐ242～249）を単著、 　家庭科の課題の一つとして、家庭での実践に繋がらないという点が挙げられる。そこで、実感を伴った理解を促し実践へと結び付けるための手立てとして、電力を視覚化し節電行動につなげる教材を開発、授業提案を記した。また、特別の教科道徳との教科横断的な学習として動物のいのちに着目し、家庭科におけるいのちの教育の教材開発、授業提案を記した。
9. 家庭科授業の理論と実践 持続可能な生活をつくる	共著	令和2年2月	大学教育出版	住本克彦（編）『新しい視点からの教育社会学』,西江なお子「令和の日本型学校教育」,「教育社会学」のテキストとして企画・発刊された。西江はコラム執筆「令和の日本型学校教育」について「不易流行」の視点から将来教師を目指す学生を対象にわかりやすく解説した（単著）p.83.大学教育出版。令和4年3月発刊。Ａ５判,全頁数２５０
（学術論文）				
1. 快適な住まい方 ～今の私にできること～	単著	平成24年2月	大阪教育大学附属池田小学校 研究紀要 p101,102	まわりを取り巻く環境に興味・関心を抱き、課題点を見出し、改善するための方策を考え、自分に出来ることをみつけ実践する力を養うことをねらいとした授業実践と理論の記録である。授業では「快適」の定義を児童個々にイメージさせ定義づけし、めざす快適像を確立させる。そしてそれにむかうためにどのようなアプローチを踏めば実現可能となるのかを検証させ、実践へとつないだ。この学びを生かして冬場の教室内における空気の循環を効率よく行うよう窓の開け方を工夫したり、臭いや色彩といったものに着目したりしてより快適な環境づくりに励み、家庭でも実践したことを保護者から報告を受けた。住生活における「快適」の定義を理解し、その環境を創造するための研究である。
2. 私は我が家の節電大臣 ～今の私にできること～	単著	平成24年11月	大阪教育大学附属池田小学校研究紀要 p50～53	節電という言葉をメディア等で目にするものの、何をどれだけ行えばよいかが分からないままでは、継続した節電は難しい。しかし、節電は現在の日本の重要課題と言っても過言ではなく、その意義を知り意識して取り組むことが出来る児童を育てることが必要である。そこで、節電の今ある課題を 見出し、節電に繋がる様々な方策を考え、自分にできることを見つけ、実践する力を養うことをねらいとして授業を実践したまとめである。 労力と電気の関係を実感するため、自転車発電機で実際に発電させる。また待機電力を測定し、その電力を年間 に換算してどれほどの節電に繋がるのかをデータ化する。こうした実際に体を動かしたり数値化したりするなど様々な「見える化」のアプローチを経て、節電を実感させた。この学びから児童は校内の待機電力を省き、無駄な電気の消灯などに積極的に取り組むとともに、家庭でも実践を続け、一定の成果を得ることができた。

3. 私は我が家のコーディネーター　～「見える化」をめざした家庭科の授業～	単著	平成25年2月	大阪教育大学附属池田小学校研究紀要 p50～51	「汚れが見えていない＝清潔」という既成概念を覆し、清掃の在り方を見直し、清掃の意義を考え実践につないでいく授業の理論と実践のまとめである。ドアノブや電気スイッチなど不特定多数の人が触れる場所や、一見きれいに見える壁や机まわりなどにも、拭いきれていない汚れが付着していることを光線の特殊なブラックライトを用いて照射し「見える化」する。それが人体に与える影響を考え、「きれいなはず」という意識を覆し、見えない汚れを取り除き、気持ちの良い環境づくりが実現する方策を考えさえる授業記録である。実際に自分の身近な物を雑巾等で拭い汚れを実感させることで、その後の清掃態度が激変すると同時に家庭でも掃除機での掃除のみならず、拭き掃除も取り入れたという報告を保護者から受け、学びが家庭での実践に繋がり一定の成果を得ることができた。 住環境の汚れに対し、意識下から意識化へと児童を変容させる適切な指導法の研究を発信した。
4. ビブリオバトル～読んで聞いて話して～	単著	平成27年2月	池田市立石橋南小学校研究紀要　　p19～20	国語科でビブリオバトルというゲームの要素を持つ書評を行い、読む力・話す力・聞く力を身につけさせる指導法の在り方を研究した。初めは本の概要を説明する際、下書きをして読む練習を重ねていた児童も、回を重ねるうちに原稿を読むことなく与えられた時間内で、要点をつかみ聞き手に分かりやすく話すことができるようになった。また、聞く側も何を質問すればよいのか視点を絞りながらメモを取ることができるまでの力をつけることができた。この活動を通して聞く力と話す力、読む力を育てることができ、他の様々な場面でもその力を活用することができるようになり、成果を得ることができた。
5.　内面に働きかける小学校家庭科教育 ―意味ある体験活動を通して― 【査読付き】	単著	平成27年12月	人間教育学会 人間教育学研究第3号 p123～132	体験活動を積極的に取り入れることにより、児童が自分の課題と向き合い、家族の一員としての自覚を持って生活し、主体的に生活する力が育成されると仮説を立てて、家庭科教育の授業実践を行ったまとめである。 実践１：品質表示に注目する意義を体験活動を通して児童に意味づけし、家庭生活で実践することにより主体的な生活者の育成を目的として行った。 実践２：身近な活動であるにも関わらず、児童の興味・関心が低く積極的な取り組みが継続されにくい清掃活動の学習において、快適な環境とはどのようなものかを実感させ、家庭での実践へとつないでいくことを目的として行った。見える化の活動や、消費者と売り手の両者の視点を経験させ、実感を伴った理解へと導く活動など、いずれも体験活動を通して児童の概念砕きを行った結果、児童の学習意欲の喚起につながり、自ら調査・分析したり、新たな課題を見つけそれを解決する方法を模索したりするなど、まさに学びの過程である「感覚→思考→実践」を一連の学習の中で行い、学びを深化させていくことができる、適切な指導法の研究を発信した。
6. 他社との出会いによる自己変成	単著	平成28年3月	大阪教育大学　実践学校教育講座　実践教育学論集2015　―現代の教育問題を考える20― 特集：◇私を変容に導いた受的「経験」 p42～45	自分自身を変容へと導いた受苦的経験を高橋橋勝の理論に基づいてメタモルフォーゼする過程とその要因について分析した。本分析をもとに、教員の在り方について考察した。
7. 生活実践力の育成を目指した小学校家庭科モデル開発に関する研究　―実感を伴った理解へと導く体験活動を通して―	単著	平成28年12月	奈良学園大学研究紀要第4号 p133～139	小学校家庭科教育における課題の一つとして、学習した知識や技術などが実生活で十分に活かされていないことが挙げられる。そこで、学びを生活の中で継続して実行し、生活をよりよくしようとする態度や技能を「生活実践力」と定義づけ、授業での学びを生活実践力に結び付けていくモデル開発を行い、体験活動による動機づけの教育的な効果について論じた。
8.　「生活実践力の育成による人間教育　―家庭科授業モデルの構築―」 【査読付き】	単著	平成28年12月	人間教育学会 人間教育学研究第4号 p107～114	小学校家庭科において、生活実践力を図るうえで重要な要素である体験、交流、評価についてそれぞれ検証し、その意義をまとめると共に、それら三つの往還による生活実践力向上を図る授業モデルを開発し、その有効性を検証した。

9.　「生活実践力を高める小学校家庭科のプログラム開発―「体験・交流・評価」の往還を手がかりにして―」（修士論文）	単著	平成29年2月	大阪教育大学大学院　実践教学校教育専攻 修士論文	「実践力を高める小学校家庭科教育のモデル開発～家庭での実習を組み込んだ『ふり返り活動』の実践を手掛かりにして～」という研究テーマに沿って、家庭科教育の課題の一つである「実践力」を育成するための手立てを実践研究したまとめである。清掃学習に振り返り活動と家庭での学習を移動計画に組み込むことにより、継続した実践が行われた結果を分析し、実践力を高める授業モデルを開発、提案する。 A4判　142頁
10.「家庭科における可視化を通した実践力育成に関する一考察	単著	平成29年9月	奈良学園大学研究紀要 第６号 ｐ83～89	小学校家庭科において、可視化を授業に取り入れることにより実践力向上を図ることができるという仮説を立て、実践研究を行い、その成果と課題をまとめた。サーモグラフィーで体内の熱分布を、ルームランナーで電気を可視化し、節電の意義と必然性を実感を伴って理解させ、節電について考えさせた。本実践を通して節電が児童の生活で日常化する成果が見られ、可視化の有効性を検証することが出来た。
11.「家庭科における見えない汚れを可視化する掃除学習の有効性	単著	平成30年6月	奈良学園大学学術雑誌論文 1巻第4号 P113～121	家庭科の目標の一つは実践力を身に付けることであるが、掃除学習は定着に困難が見られる。そこで、定着を図ることを目的に、見えない汚れの可視化を図ることにより、日常の住まい方への関心を高め、住まい方に関する基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、快適な住まい方を考え工夫する能力を育成することができるという仮説を立て、授業モデルを作成し、その有効性を検証した。その結果、実践後一定期間経過後も緩やかな現象はあるものの、家庭において継続して掃除を実施する児童が確認できた。以上より、掃除学習に可視化を取り入れることは、児童の実践力向上に有効であることが明らかとなった。
12.「動物介在・愛護を通して考える「いのちの教育」	単著	平成30年9月	奈良学園大学研究紀要 第9号 P127～136	家庭科におけるいのちの教育の研究及び実践事例を調査すると共に、学校現場や学校現場外における動物介在教育や動物愛護教育についての研究及び実践事例を概観することを目的とした。関連する文献を検索したところ20件が抽出され、内容を整理した。家庭科におけるいのちの教育は保育領域や食と関連付けているものが多いことが明らかとなった。また、動物介在教育は学校において実践する際には、十分な知見や教員間の共通理解と共に、専門家の助言を取り入れる必要があること、また動物愛護教育の実践事例及び研究は数少なく、行政が中心となって取り組んでいることが明らかとなった。
13.「家庭科を基盤とした教科横断的な防災教育の検討―家庭科における防災教育に関する文献研究を通して―」【査読付き】	単著	平成32年3月	日本人間教育学会　人間教育学研究第6号	本研究は、小・中・高等学校の家庭科における防災教育の取り組みの実態を文献調査した。すると、小学校では「食分野」での防災食が見られた他は見当たらず、中学校では「食分野」に加え「住分野」が、高等学校では環境教育と関連付けた実践が見られた。以上から、家庭科における防災教育内容には偏りがあることが明らかとなった。しかし、防災・減災は衣食住に直結しており、家庭科教育を基盤として防災教育の目標である「日常生活の様々な場面で発生する災害の危険を理解し、安全な行動ができるようにするとともに、 他の人々の安全にも気配りできる児童の育成を目指す」ことが出来ると仮説を立て授業モデルを立案することが、今後の課題とした。

14.「家庭科を基盤とした教科横断的な防災教育の研究 児童の防災意識調査」	単著	平成32年4月	奈良学園大学研究紀要オンラインジャーナル人間教育　第2巻第2号 P83～92	防災への意識向上を図るには、教育が大きな使命を担っており、特に地域のコミュニティーとしての役割が強い小学校において防災教育を実施することは、地域内連携促進において有効であると仮説を立てた。その際、防災教育の目的を考慮すると、家族と家庭生活が学習の対象であり衣食住や消費、環境を学習内容とする家庭科に防災教育を取り入れる意義は大きいと考えた。そこで、児童を対象に防災に関する意識調査を行った結果、「正しく恐れて正しく備える」ことの必要性を児童に気付かせることが防災教育の課題の一つであり、そのためには地域住民との連携や教科横断的学習、防災科学技術のコンテンツの有効活用等を防災教育に位置づけ、児童の防災意識向上を図る必要があることが明らかとなった。
15.「小学校における教科横断的な「いのちの教育」－動物のいのちを軸に据えた教材の開発　－」【査読付き】	単著	令和2年3月	日本家庭科教育学会近畿地区50周年記念誌	総合的な学習の時間、家庭科の教科横断的な授業を開発し、「いのちの教育」が、1）児童のいのちに対する意識にどのよう影響を与えるか、2）自分自身を大切に思う意識や、誰かの役に立っているという意識を児童に育ませることができるか、の2点を検証した。授業では、児童の身近な動物のいのちについて学び、様々な体験活動を積み重ねることによっていのちを実感し、いのちを自分事として捉えさせた。その結果、家族とのいのちについての会話の増加、いのちが唯一無二であることの理解、自分を大切な存在だと思う意識の向上、いのちに関して自分にできることを考え実行する実践力の育成、の4点が成果として得られた。
（その他）				
「依頼原稿」				
１．小学生夏休みの家庭学習用教材編集	単著	平成22年4月～平成24年4月	(株)文溪堂	事前に児童の実態調査を行い、長期休暇に行うべき学習課題を明確化し、各教科ごとの重要項目を簡潔にまとめ、児童のつまづきやすい内容を吟味し、問題作成し教材作成会社文渓堂に提示した。小学校1年～6年までの全学年の学習用教材の企画と編集に関わった。執筆者は池田附属小学校の各教科の教師である。西江は教材全体の構成と、各教科等のバランスを調整校正を担当した。 A4判　p14～18
2. 大阪府豊能地区新規採用家庭科教員研修会 資料冊子	単著	平成24年8月	豊能地区教育委員会 大阪教育大学附属池田小学校家庭科教育部会	平成24年度新規採用教員が対象の家庭科教育についての研修講師を行った。その際、家庭科教育の目的や生涯学習での位置づけなどの学習指導要領の説明を行う際の小冊子を作成し、それをもとに講義を行った。また、45分の授業の組み立て方を例示し、師範授業も行い、発問・板書・ノート指導・教材選定の仕方などを例示した。 A4判　6頁
3.「第八回シンポジウム『アクティブラーニングを通して考える道徳をどうすすめるか』	単著	平成29年2月	株式会社EPR教育プロ 第 47 巻　第 4 号　通 巻 1829号	平成29年1月22日開催の「いのちの教育研究会第8回シンポジウム」におけるリポートを執筆した。アクティブラーニングを通して考える道徳をどうすすめるかをテーマに、基調提案・講演が行われ、それを受けて「子どもが命の大切さを実感するには」をテーマとして、グループ討議を行われたが、そこでの参会者の声やアンケート結果をもとに、いのちの教育についてまとめた。P8～9
「学会発表等」				
１．デザートのプレゼンを通して、望ましい消費者生活を考えた　授業実践		平成30年11月	朝日新聞社 （北摂13版）	家庭科を基盤とした教科横断的な「いのちの教育」の可能性を探り、その有効性の実証に向けの実践が、朝日新聞社に取材を受け発信された。本研究により、動物のいのちについて考えることにより、児童のいのちに対する意識が大きく変容することが明らかとなった。また、保護者、地域住民、児童が一堂に会し、いのちについて考え、語ることの意義も見出すことができ、その有効性を新聞により広く告知された。（池田市立石橋南小学校）

2.生活実践力の向上を図る小学校家庭科教育のプログラム		平成29年3月	日本教師学学会第18回大会 実践研究発表	小学校家庭科教育の課題として、学習内容が定着しておらず実生活で活かされていないことが挙げられる。そこで、実践力を体験活動・評価活動・交流活動の往還によって育成することが出来るという仮説を立て、実践モデルを開発し、その成果と課題を発表した。
3.小学校家庭科における生活実践力育成の授業モデル構想		平成29年8月	日本家庭科教育学会近畿地区会研究発表	小学校家庭科における課題の一つとして学習した知識や技術などが実生活で十分生かされていないことを文部科学省は指摘している。この現状を受け、児童の生活実践力の育成を図る授業モデルを構想し、研究実践を行い成果と課題を発表した。
4.多文化共生とSDGsを関連させた『食』を軸にした授業プログラムの開発		令和4年6月	日本消費者教育学会関西支部発表	消費者教育では、「持続可能な社会の必要性に気付き、その実現に向けて多くの人々と協力して取り組むことができる力」の育成が求められている。このことから、消費者教育の枠組みにおいて多文化共生に関する内容を位置づけることは有効であると考ええ、多文化共生と SDGs を関連させた「食」を軸とした 授業プログラムを開発した。そしてその授業プログラムを実践し、小学生が持つ多様な価値観への受容や好奇心の変容を分析し、その結果を10月開催全国発表に向けて近畿地区で発表した。
5.『A家族・家庭生活』と『C消費生活・環境』を関連させた消費者教育の授業プログラムの開発		令和4年7月	日本家庭科教育学会第65回全国大会発表	日本家庭科教育学会近畿地区会におけるキャッシュレス時代の金融教育・消費者教育をテーマに小・中・高・大学生を対象としてキャッシュレス化の実態把握調査を行い,家庭科における金融教育の授業プログラムを開発した。そのうち、西江が所属する小学校グループでは、小学校学習指導要領『A家族・家庭生活』と『C消費生活・環境』を関連させた消費者教育の授業プログラムを開発し、提案を行った。
6.多文化共生とSDGsを関連させた『食』を軸にした授業プログラムの開発		令和4年10月	日本消費者教育学会第42回全国大会発表	消費者教育では、「持続可能な社会の必要性に気付き、その実現に向けて多くの人々と協力して取り組むことができる力」の育成が求められている。このことから、消費者教育の枠組みにおいて多文化共生に関する内容を位置づけることは有効であると考ええ、多文化共生と SDGs を関連させた「食」を軸とした 授業プログラムを開発した。そしてその授業プログラムを実践し、小学生が持つ多様な価値観への受容や好奇心の変容を分析し、その結果を発表した。
7.金融教育にキャリア教育を取り入れた授業プログラムの検討		令和5年6月	日本消費者教育学会関西支部発表	欧米諸国は早期から将来の目標や職業について考えるキャリア教育が充実しているが、日本のキャリア教育は将来の夢を描くことに重点が置かれ、働くことの現実や必要な資質・能力の育成が軽視されているとの指摘がある。 そこで、日本の子どもたちにどのような教育が必要なのか、金融教育とキャリア教育に焦点を当てた消費者教育を探ることを目的に本授業プログラムを開発した。
8.金融教育にキャリア教育を取り入れた授業プログラムの検討		令和5年10月	日本消費者教育学会第43回全国大会発表	日本消費者教育学会関西支部での発表後、さらに「自立」と「キャリア」に焦点を当てた授業へ改訂を加え金融教育とキャリア教育に焦点を当てた消費者教育を探ることを目的に本授業プログラムを開発した。
（取材）				
１．家庭科における「いのちの教育」の取り組みについて		平成30年11月	朝日新聞社 （北摂13版）	家庭科を基盤とした教科横断的な「いのちの教育」の可能性を探り、その有効性の実証に向けの実践が、朝日新聞社に取材を受け発信された。本研究により、動物のいのちについて考えることにより、児童のいのちに対する意識が大きく変容することが明らかとなった。また、保護者、地域住民、児童が一堂に会し、いのちについて考え、語ることの意義も見出すことができ、その有効性を新聞により広く告知された。（池田市立石橋南小学校）

２．家庭科における「いのちの教育」の取り組みについて		平成30年11月	ケーブルテレビ（大阪北摂版）	家庭科を基盤とした教科横断的な「いのちの教育」の可能性を探り、その有効性の実証に向けの実践が、ケーブルテレビ（大阪北摂版）に取材を受け発信された。会場には地域住民、保護者、児童計約200名が集まり、映画「犬に名前をつける日」を鑑賞、その後、NPO法人「犬猫みなしご救援隊」代表中谷百合氏、映画監督山田あかね氏の講演を聞き、いのちについて考えた。 授業後、本研究の趣旨並びに授業についての取材を受け、いのちの教育についての取り組み、児童の変容を語った。以上から、いのちの教育への関心の高さと必要性を実感するとともに、本研究の有効性を検証することが出来た。 （池田市立石橋南小学校）
３．保護者と歩む情報誌Partner		平成30年12月	ブンブンどりむ	家庭における「お手伝い」の意義と、児童の「お手伝い」への意識改革について取材を受けた。小学校における今までの実践事例をもとに、主体的・能動的な活動へと導く工夫として、汚れの視覚化やゲーム性の導入、フィードバックと称賛など、家庭で実践可能な取り組みを多く紹介した。加えて、小学校教員志望学生への、家庭科指導法における「家庭の仕事」の分野の授業法についても触れ、家庭と学校の連携の必要性も述べた。以上より、情報誌作成者からは、具体的で明確な事例であり、実践可能であると高評価を得ることが出来た。
4.「いのちの教育」の取り組みについて		令和元年8月15日	朝日新聞社 （北摂14版）	犬や猫の殺処分問題を取り上げ、いのちについて学ぶ教育について研究している。その一環として、募金活動を課外活動に位置付け、その様子について取材を受けた。募金活動の趣旨や児童の取り組み等について触れるとともに、いのちについて児童が真摯に向き合い学ぶ姿勢について述べ、「いのちの教育」の重要性を伝えた。 （池田市立石橋南小学校）

１　最近１０年間の教育活動、研究活動について作成すること。
２「教育活動」については各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については就任年月日順に記入すること。
３「研究活動」については、下記の点に留意すること。
①著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入すること。
②著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付すこと。
③　共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載すること。

別記様式第４号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　研　究　業　績　書

令和６年 3月　31 日

氏名　　林　悠子

研究分野	研究内容のキーワード
健康・スポーツ科学、スポーツ心理学、身体表現学	スポーツ心理、体育、運動イメージ、発育発達、表現

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
1　教育方法の実践例 発達段階に応じた子ども向けダンスのグループ制作、保育者と園児役とに分かれて行う表現遊びの指導実践、サーキット遊びやボール遊びの創作と指導実践を行う。	平成26年～現在に至る	奈良学園大学人間教育学部「健康・運動の理解」「子どもと表現（体育）」、奈良学園大学奈良文化女子短期大学部「体育の基礎Ⅰ・Ⅱ」「身体表現」において、乳幼児から小学生の発達段階を理解し、音楽リズムダンスの振り付けやリズム遊びの実践、「子どもに身につけさせたい基礎的な動き」を取り入れた遊びの創作を行った。
2　作成した教科書，教材 ダンスの振付用紙や運動あそび・音楽に合わせた身体表現遊びの指導案の作成とオペレッタのオリジナル台本の作成。 「現場で役立つ保育実践」(2023、共著）における 4，5 歳児向けの運動あそびについての執筆。	平成26年～現在に至る	奈良学園大学人間教育学部「健康・運動の理解」「子どもと表現（体育）」、奈良学園大学奈良文化女子短期大学部「体育の基礎Ⅰ・Ⅱ」「身体表現」「子ども学ゼミ」において、ダンスの振付用紙や音楽にあわせたリズム遊び・身体表現遊びの指導案オリジナル台本を作成した。 　保育現場で役立つ 4，5 歳児向けの運動あそびについて紹介し、授業内で実践を行った。
3　教育上の能力に関する大学等の評価 奈良学園大学人間教育学部授業科目に対する学生評価 「運動健康の理解」（Ⅰ回生後期講義）	令和２年	奈良学園大学人間教育学部「運動・健康の理解」は後期において小学校専修２クラスと小学校免許取得者の１クラス計３クラスで講義を行っている。満足度は 3.85、4.0．4.17 ポイント、わかりやすさや聞きやすさも 4.0 ポイントから 4.57 ポイントといずれも高い評価であった（2020 年度後期授業評価アンケートより）。
4　実務の経験を有する者についての特記事項 (1) 奈良学園大学奈良文化女子短期大学部主催講座講師 ①子育て支援事業「ちびっこ広場」 ②公開講座「親子で楽しむシリーズ」 (2)保育者向け講習 ①磯城郡保育士研修会講師 ②三郷町立西部保育園園内研修講師	(1) ①平成 26 年～平成 30 年②平成 26 年～平成 29 年 (2) ①平成 29 年 6 月②令和元年 7 月	(1) ①奈良市地域の子育て支援事業「ちびっこ広場」内において、保護者に向けて青年期の発達を見据えた、子どもとの音楽リズム遊びの実践を行った。 ②公開講座では、親子向けの保育表現や音楽表現「親子シリーズ」のうち、運動遊びやリズム遊びやダンスを行う身体表現の講師を担当した。 (2) ①宮森保育園にて、磯城郡保育士総会及び研修会の講師を務めた。 ②三郷町立西部保育園にて、現職保育者に対して運動あそびの指導を行った。
5　その他		特記事項なし

職務上の実績に関する事項

事項	年月日	概要
1　資格，免許		特記事項なし
2　特許等		特記事項なし
3　実務の経験を有する者についての特記事項 磯城郡保育士研修会講師，三郷町立西部保育園園内研修講師		磯城郡保育士研修会，三郷町立西部保育園園内研修講師の講師を務めた。
4　その他		特記事項なし

研究業績等に関する事項				
著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
（学術論文） 1.保育者養成校に求められる学生の保育実践能力と資質について 〔査読有り〕	単著	平成26年11月	奈良文化女子短期大学紀要第45巻：123-130	本研究では、本学における保育者養成の在り方についての示唆を得ることを目的に、近畿一円の幼稚園、保育所（園）の管理職者または新人教育担当者に対してアンケート調査を実施した。「現場で求められている能力と新入職者の能力とのギャップ」に焦点を絞り、教育課程による差を探求したところ、保育者として求められる資質については教職課程に差がないものの、4年制大学と短期大学卒業生では保育実践能力において差があることが明らかになった。
2.保育者としての資質と保育実践能力に対する学生の意識について 〔査読有り〕	単著	平成27年11月	奈良文化女子短期大学紀要第46巻：121-128	本研究では、本学学生が保育者としての資質や能力についてどのように考え、どの程度それらの力を身につけていると考えているのかを明らかにした。保育者としての専門能力も資質も、それを重視するかという自身の考えについてはほとんどの項目で1回生の方が高く、いま自分がどれくらい実践できるか（身につけているか）という自己評価について、保育者としての実践的専門能力は1回生の方が高く、保育者の資質は2・3回生の方が高かった。
3.保育者養成に求められる保育者の資質について（2）－就職先へのアンケート調査の前回調査との比較から－ 〔査読有り〕	単著	平成28年11月	奈良文化女子短期大学紀要第47巻：71-80	本研究では、平成23年度から平成26年度の本学卒業生の就職先に対して行った勤務実態についてのアンケート調査のうち、自由記述から園長らが保育者養成校に望むこと、また就職した本学卒業生が評価されていることを分析した。前回調査と比較した結果、保育現場では即戦力として役立つ保育の実践力は当然ながら、保育者の資質や社会人としての態度や覚悟、特に「社会人基礎力」とされる、チームで働く上で重要視される様々な能力が求められていることが示唆された。
4.各発達の時期における「先生」のネガティブな言動について 〔査読有り〕	共著	平成28年11月	奈良文化女子短期大学紀要第47巻：31-40	本研究では、養成課程の学生が子どもの立場を理解し不適切でネガティブな言動をしないため、教師のネガティブな言動とは何かについて整理を行うため調査を行った。その結果、幼児期においては教員のネガティブな言動は少ないが、小学校高学年から中学生の時期においては、教員の言動でネガティブとして捉えられた言動が多くなっており、高校生になると減っていた。この変化は思春期と関係していると考えられ、教員の言動でネガティブと捉えられる言動は、それらを受け止める子どもの発達の時期によって量的にも質的にも異なっていた。

著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
5.保育者養成校の学生の性格特性および進路状況との関連について〔査読有り〕	共著	平成 28 年 11 月	奈良文化女子短期大学紀要第 47 巻：41-48	本研究では、保育者養成短期大学生 160 名のＹＧ性格検査の判定結果をもとに、その性格特性の傾向について明らかにするとともに、卒業時の進路状況（進路選択）との関連について調べることを目的とした。学生の半数近くにみられた性格特性は「情緒の不安定さ」であった。進路状況との関連では、職種に関わらず非正規として就職あるいは就職をしない選択をした学生と、性格因子尺度の「劣等感」「非協調性」が高い傾向にある学生とのあいだに関連があることが示唆された。
6.女子大学生における運動能力の現状について-運動適正テストと運動不振尺度から－〔査読有り〕	単著	平成 29 年 11 月	奈良学園大学奈良文化女子短期大学紀要第 48 巻：87-96	本研究では、運動適正テストの実施と運動不振尺度の調査から、女子大学生の運動能力の実態について検討を行った。その結果、学生の半数以上で運動能力水準が低いこと、運動不振には技能的な側面とともに体力面での不振が関与することが示唆された。
7.施設実習における学生の不安を軽減する事前学習についての研究〔査読有り〕	共著	平成 29 年 11 月	奈良学園大学奈良文化女子短期大学紀要第 48 巻：31-40	本研究では、施設実習に参加した学生に対して行った実習事後指導における振り返りレポートを分析し、実習に参加する前の実習に対するイメージや不安感や疑問などを分類することで、実習に臨む学生にとっての必要な事前学習とは何かを明らかにした。また、実習において自身の不足していた点について分析を行ったことで、実習の取り組み点検チェック表を作成することができた。
8.新人保育者に必要な資質について－新人保育者に対する総合的な評価につながる具体的な資質－〔査読有り〕	共著	平成 29 年 11 月	奈良学園大学奈良文化女子短期大学紀要第 48 巻：41-49	本研究では、本学卒業生の勤務実態についてのアンケート調査から、どのような新人保育者が評価されるのかについて分析した。その結果、高い技術や知識よりもまずは新人という立場をわきまえながら礼儀正しく責任を持って一つ一つのことに意欲的に取り組む姿勢が必要であることが明らかになった。
9.身体表現科目における表現遊びの指導実践内容と学生の気づき〔査読有り〕	単著	平成 30 年 11 月	奈良学園大学奈良文化女子短期大学紀要第 49 巻：105-115	本研究では、身体表現遊びの指導実践の内容と有用性について分析した。その結果、指導内容は 5 歳児を対象とした遊びが半数を占め、運動遊び要素の強い遊び、既知の遊びを展開する傾向が伺われ、発達段階の広い理解と遊びのレパートリーを増やす努力が必要であると考えられた。
10.新人保育者に対する評価～前年度との比較を通して～〔査読有り〕	共著	平成 30 年 11 月	奈良学園大学奈良文化女子短期大学紀要第 49 巻：49-59	本研究では、短期大学卒業生の勤務実態についてのアンケート調査から、どのような新人保育者が評価されるのかについて、前年度と比較分析した。その結果、満足度や将来性への期待が向上している傾向が伺われた。

著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
11. 新人保育者に求められる資質，新人保育者としての評価，保育者養成校における課題，GPA・各教科の成績と職場での評価との関係	共著	令和2年3月	奈良学園大学紀要第12巻：51-60	本研究では、短期大学卒業生の就職先における評価についての研究の継続である。その結果、平成27年度からの３か年で全体的に保育現場での卒業生の評価は明らかに上がっていた。一方、卒業後における新人保育者としての総合的な評価得点・各項目における評価得点と在学中の累積GPAの値との相関はみられなかった。
12. 女子大学生における運動不振の現状について－運動不振尺度を用いて－	単著	令和2年3月	奈良学園大学紀要第12巻：103-108	本研究では、幼児教育学科に在籍する女子大学生の運動不振の実態について、大学生版運動不振尺度を用いて検討を行った。調査の結果、およそ3割の学生で身体操作力とボール操作力の何らかの運動不振があること、小中学校時よりも大学生である今現在において運動不振の状況が進んでいること、ボール操作力に比べて身体操作力の方が不振であることが明らかになった。
13. 新入生が考える保育者の資質について	単著	令和3年12月	奈良学園大学紀要第14集：129-137	本研究では、幼児教育専攻の新入生が保育者として必要な力や保育者適性についてどのように捉えているか分析した。その結果、入学間もない新入生では、保育者としてコミュニケーション能力や子どもを理解が重要であるとし、養育性や共感性といった適性が必要であると考えていたことが示された。
14.運動遊びの実践とふりかえりから見た学生の気づきについて	単著	令和5年12月	奈良学園大学紀要第116集：137-144	本研究では、運動遊びや身体表現遊びの実践とふりかえりを通じて学生がどのようなことを獲得するのか、その内容について実践の内容とふりかえりの分析を試みた。「子どもと表現（体育）」講義内で行った運動遊びの内容を動作の観点から分析し、足りない要素を補うような遊びを考えたり実践を行った。その結果、学生らは身体を動かすことの楽しさを体得すると同時に、保育者としての視点から、子どもの頃に多くの遊びを通して多様な動作を体験することの大切について気づくことができた。
（その他） 1.　連載　遊びの世界27「大和地方のうた遊び」	単著	平成27年10月	子どもと発育発達.13-3：195-198	学会誌連載「遊びの世界」において、「大和地方のうた遊び」と題し、奈良県にちなんだ伝承遊びについて執筆した。
2.現場で役立つ保育実技運動・ことば・音楽・造形あそびからSTEAM教育を取り入れた保育実践まで	共著	令和5年9月	ふくろう出版	本書は、保育者を目指す学生や保育者として働き始めた方のために保育現場で取り入れてほしい実技を紹介する実践書である。（本学人間教育学部岡野聡子准教授編著） 筆者は「4歳児向けの運動あそび」「5歳児向けの運動あそび」（ｐ9-13）について執筆し、4、5歳児の運動発達の特徴や求められる力、そのための遊びについての紹介を行った。

著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（学会発表）				
1. 幼児の体格と体力・運動能力の発達特徴について（3） －和歌山県私立W幼稚園における体力・運動能力測定データから－	－	平成26年3月	日本発育発達学会第12回大会発表（大阪成蹊大学） 大会予稿集P83.	本研究では、和歌山県私立W幼稚園における体格・体力測定データから、幼児の体力における発育発達の特徴について検討を行った。3～5歳の園児のH11年・H16年・H21年の25m走、立ち幅跳び、ボール投げ、両足連続跳び越しの4つの運動能力測定データおよび身長・体重・胸囲の体格データを分析対象とした。その結果、「25m走」「跳び越しくぐり」では年代による差が見られ、ボール投げでは体格との正の相関がみられた。
2.Psychophysiological changes in the movement imagery -Preliminary study-身体動作イメージにおける精神生理学的変化について―予備的調査より―　〔審査有り〕	－	平成26年8月	7th Asian-South Pacific Association of Sport Psychology International Congress,Tokyo 大会予稿集P33.	本研究では内的な身体動作イメージと外的な身体動作イメージにおける脳波含有率の変化を分析した。その結果、α1波含有率は内的イメージ時には頭頂・中心領域での減少、外的イメージ時には後頭領域での減少がみられた。
3.Team Building Intervention for High School Volleyball Team 高校バレーボールチームに対するチームビルディングの介入効果について〔審査有り〕	－	平成26年8月	7th Asian-South Pacific Association of Sport Psychology International Congress,Tokyo 大会予稿集P32.	本研究では、高校バレーボールチームに対して、チャンピオンシップの最終出場資格を失った後にチームの結合を回復するため、その精神的な準備に対してスポーツ心理学がどのような働きを持ったかについて調査を行った。
4. 幼児の体格と体力・運動能力の発達特徴について（4） －和歌山県私立W幼稚園における体力・運動能力測定データから－	－	平成26年8月	日本体育学会第65回大会発表（岩手大学） 大会予稿集P129.	これまで和歌山県私立W幼稚園における体格・体力測定データから、幼児の体力における発育発達の特徴について検討を行ってきたが、本研究では運動能力測定データを分析対象とし、きょうだい構成の違いによる幼児の運動能力ならびに体格の発達特徴について検討を行った。　H11年・H16年・H21年の25m走、立ち幅跳び、ボール投げ、両足連続跳び越しの4つの運動能力測定データを分析対象とした。いずれの運動能力においても、ほぼすべての年代・年齢において第１子に比べて第２子以降の運動能力が高く、特に「跳び越しくぐり」において顕著であった。
5.幼児の体格と体力・運動能力の発達特徴について（5） －和歌山県私立W幼稚園における体力・運動能力測定データから－	－	平成26年8月	日本体育学会第65回大会発表（岩手大学） 大会予稿集P116.	これまで和歌山県私立W幼稚園における体格・体力測定データから、幼児の体力における発育発達の特徴について検討を行ってきたが、本研究ではH11年・H16年・H21年の身長・体重・胸囲の3つの身体測定データを分析対象とし、きょうだい構成の違いによる幼児の体格の発達的特徴について、運動能力との関連について分析した。

著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
6. 現場が求める保育実践能力と卒業時に獲得している能力の教育課程別比較	－	平成 26 年 9 月	全国保育士養成協議会第 53 回研究大会発表（博多） 大会予稿集 P36.	本研究では、本学における保育者養成の在り方についての示唆を得ることを目的に、近畿一円の幼稚園、保育所（園）の管理職者または新人教育担当者に対してアンケート調査を実施した。「現場で求められている能力と新入職者の能力とのギャップ」に焦点を絞り、教育課程による差を探求したところ、保育者として求められる資質については教職課程に差がないものの、4 年制大学と短期大学卒業生では保育実践能力において差があることが明らかになった。
7. 視点の異なる運動イメージに対する精神生理学的反応について	－	平成 27 年 7 月	日本バイオフィードバック学会第 43 回大会発表（筑波大学） 大会予稿集 P32.	本研究では、内的視点からなる体験イメージ（internal imagery）と外的視点からなる観察イメージ（external imagery）による単純な身体動作を課題とし、それらを想起した際の大脳活動の違いを比較することによって身体運動イメージの精神生理学的特徴を明らかにした。イメージ課題は 3 つの身体動作（脚を屈曲する・前屈する・腕を上げる）とし、体験イメージと観察イメージを行った。
8. 脳波からみた運動学習における運動イメージの効果について	－	平成 27 年 8 月	日本体育学会第 66 回大会発表（国士舘大学） 大会予稿集 P132.	本研究では、提示された他者の動きに対して、内的または外的視点から想起した自己像を意識しながら、動作の模倣を行うことを課題とし、脳波を用いて運動学習における運動イメージの効果を検討した。動作は、両手を置いた状態から手首を屈曲させて右手または左手を上げる単純動作であった。課題中は、頭皮上の 13 部位から脳波の記録を行った。反応時間、正答率および脳波に関して、経時変化の検討および内的視点－外的視点イメージ間の比較を行った。
9. 保育者としての資質と保育実践能力に対する学生の意識について	－	平成 27 年 9 月	全国保育士養成協議会第 54 回研究大会発表（札幌） 大会予稿集 P35.	本研究では、本学における保育者養成の在り方についての示唆を得ることを目的に、「保育者としての保育実践能力」と「保育者としての資質」についてどの程度重視し、どの程度自分の身についていると思うか、本学学生に対してアンケート調査を実施した。その結果、1 回生と 2 ・3 回生とでは重視する能力や自己評価について差が見られた。
10. 本学における子育て支援事業の 5 年間の取り組みと評価	－	平成 27 年 9 月	全国保育士養成協議会第 54 回研究大会発表（札幌） 大会予稿集 P179.	本研究では、本学における子育て支援事業である「ちびっこ広場」「つどいの広場」について、これまでの利用者アンケートや利用者数データなどから、5 年間の取り組み内容とその評価をまとめた。

著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
11. 保育者としての資質と保育実践能力に対する学生の意識について	－	平成 27 年 9 月	全国保育士養成協議会第 54 回研究大会発表（札幌） 大会予稿集 P35.	本研究では、本学における保育者養成の在り方についての示唆を得ることを目的に、「保育者としての保育実践能力」と「保育者としての資質」についてどの程度重視し、どの程度自分の身についていると思うか、本学学生に対してアンケート調査を実施した。その結果、1 回生と 2・3 回生とでは重視する能力や自己評価について差が見られた。
12. 本学における子育て支援事業の 5 年間の取り組みと評価	－	平成 27 年 9 月	全国保育士養成協議会第 54 回研究大会発表（札幌） 大会予稿集 P179.	本学における子育て支援事業「ちびっこ広場」「つどいの広場」について、これまでの利用者アンケートや利用者数データなどから、5 年間の取り組み内容とその評価をまとめた。
13.Effects of motor imagery perspectives on motor learning based on EEG EEG をベースとした運動学習におけるイメージの視点の効果について 〔審査有り〕	－	平成 28 年 6 月	2016 NASPSPA Conference (Montreal) 北米スポーツ心理学会 大会プログラム P22.	本研究では、提示された他者の動きに対して、内的または外的視点から想起した自己像を意識しながら単純動作の模倣を行う運動学習課題における運動イメージの効果を検討した。その結果、他者の動作を模倣する際には、刺激と反応が一致する条件で反応が速かった。反応の速さと運動イメージの達成度・鮮明度・コントロール度とも対応関係が見られた。すなわち、運動学習において運動イメージの視点の違いが脳波に反映され、パフォーマンスとも関連することが示唆された。
14.女子大学生の運動イメージ想起能力について	－	平成 28 年 8 月	日本体育学会第 67 回大会発表（大阪体育大学） 大会予稿集.	本研究では、運動部に所属する健康な女子大学生 56 名を対象に、運動イメージ質問紙 JMIQ-R を用いて、イメージ想起の際の体験イメージ（すなわち内的視点イメージ）と観察イメージ（すなわち外的視点イメージ）のタイプを調査した。総合得点はバスケットボール部とソフトボール部で所属部間に差は見られなかったが、さらに、モーズレイ性格検査（MPI）による個人の性格特性やこれまでの運動経験等から、運動イメージ想起能力としてのイメージの視点について特徴を分析した。
15. 保育者養成に求められる保育者の資質について―就職先へのアンケート調査より―	－	平成 28 年 8 月	全国保育士養成協議会第 55 回研究大会発表（盛岡） 大会予稿集 P57.	本研究では、平成 23 年度から平成 26 年度の本学卒業生の就職先に対して行った勤務実態についてのアンケート調査のうち、自由記述から園長らが保育者養成校に望むこと、また就職した本学卒業生が評価されていることを分析した。前回調査と比較した結果、保育現場では即戦力として役立つ保育の実践力は当然ながら、保育者の資質や社会人としての態度や覚悟、特に「社会人基礎力」とされる、チームで働く上で重要視される様々な能力が求められていることが示唆された。

著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
16.運動イメージタイプと性格特性からみた女子大学生の運動イメージ想起能力について	－	平成28年11月	日本スポーツ心理学会第43回大会発表(北星学園大学）大会予稿集pp154-155.	本研究では，バスケットボール部とソフトボール部に所属する女子大学生を対象に、運動イメージ想起能力としてのイメージの視点についての特徴を明らかにした．それぞれの部においてポジションごとの比較をしたところ，ソフトボール部においては差がみられなかったが，バスケットボール部においてフォワードに比べてセンターの内的得点が高い傾向がみられるなど、所属部とポジションすなわち運動特性と役割におけるイメージ能力の違いが示唆された.
17.The relationship between the ability of motor imagery and the clumsiness in exercise in university students. 大学生における運動不振と運動イメージ能力の関係について. 〔審査有り〕	－	平成29年7月	ISSP(International Society of Sport Psychology) 14th World Congress(Sevilla)国際スポーツ心理学会14回大会（セビリア、スペイン)）(p.105)	本研究では、大学生の運動不振の実態について運動イメージの視点から精神生理学的に分析した。運動不振尺度質問紙により「身体操作力」と「ボール操作力」に関する運動不振の状態を判定し、運動イメージ質問紙JMIQ-Rにより、イメージ想起の際に視覚的運動イメージと筋感覚的運動イメージのいずれが得意であるかというイメージタイプ分けを行った。背景脳波と心的時間の測定から運動イメージの正確性を分析した結果、運動不振と運動イメージ能力との関連が示唆された。
18.IMPACT OF THE COVID-19 PANDEMIC ON ATHLETES BELONGING TO THE JAPAN PROFESSIONAL FOOTBALL LEAGUE. Ｊリーグ所属選手における新型コロナウイルス（COVID-19）パンデミックの影響について 〔審査有り〕	共	令和4年8月	ECSS Sevilla 2022（ヨーロッパスポーツ科学会議第27回大会、オンライン参加発表）	新型コロナウイルス（COVID-19）パンデミックによる心理的変化を明らかにするため、日本プロサッカーリーグ（Ｊリーグ）に所属する29人の選手を対象にスポーツモチベーションスケールを用いてパンデミックの発生前後のシーズンの心理的パフォーマンススケール（SE）による自己効力感を測定した。その結果、パンデミックが負の影響を及ぼした可能性があることを示したが、危機に対するアスリートの反応には個人差が見られた。
19.表現の指導法における模擬保育の実践を通した学生の気づきについて	－	令和5年3月	保育者養成学会第7回大会（3月5日オンライン開催）	本研究では、「子どもと表現の指導法（体育）」内の模擬保育の立案と実践を通して学生がどのような気づきを得るのかについて学生自身のふりかえりから分析した。指導案の立案については、多くの学生が苦労しなかった・考えやすかったとし、実習時の自身の部分実習の内容や他の先生方や園児らの活動なども参考にし、経験的に子どもの実際の姿を描いて立案を行っていた。これらのことから、学生の学びにいかに実習経験が影響しているかが浮き彫りとなった。
20.表現の指導法における模擬保育の実践を通した学生の気づきについて(2)	－	令和6年3月	保育者養成学会第8回大会（3月9日オンライン開催）	本研究は、「子どもと表現の指導法（体育）」内の模擬保育の立案と実践を通しての学生の気づきについての2報である。テキストマイニングを用いて保育者の役割や資質について分析したところ、学生らは、環境構成の重要性や子どもの受け止めを考慮しつつ保育者として楽しむことを重視していることが伺われた。

教　育　研　究　業　績　書

令和 6 年 5 月 27 日

氏名　　原口　忠之

研　究　分　野	研究内容のキーワード
Algebraic Topology, Diffeology	Diffeological space, Homotopy theory, smooth CW complex

教　育　上　の　能　力　に　関　す　る　事　項

事項	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例 1. 数学道場	平成30年4月～現在に至る	教員採用試験合格を目指し、数学検定準 1 級合格を目指し、週に 3 回実施している。その他にも学生のレベルに合わせた補修計画をたてている。
2　作成した教科書，教材 1．基礎数学の問題作成	平成 30 年 4 月～	学生の基礎学力の向上のため、数学の問題を作成し、授業のはじめにテストを実施している。
2．数学授業動画の作成	令和 3 年 4 月～	コロナ渦において、基礎学力の向上、大学で学ぶ数学の勉強のため､YouTube チャンネルを作成して、動画をあげている。
3　教育上の能力に関する大学等の評価 「採用時における評価」 1.　大分工業高等専門学校一般科理系講師の採用にあたっての校長評価	平成 26 年 3 月	私立大学・高等学校での教育経験を生かして、高専における数学教育を期待され採用された。とくに面接時の模擬授業は、過去最高の内容と評価された。
2.　奈良学園大学人間教育学部講師の採用にあたっての学長評価	平成 30 年 3 月	私立大学・高専・高等学校での様々な数学教育の経験があり、また環太平洋大学所属時に通信教育課程の数学を管理運営した経験を期待され採用された。
「授業評価アンケート」 1. 環太平洋大学教務課による学生授業評価アンケート	平成 25 年 2 月	平成24年度の授業評価アンケートの平均が 4 段階中で 3.29 であった。
2. 大分工業高等専門学校教務主事室による学生授業評価アンケート（通年科目）	平成 27 年 2 月	大分高専において平成 26 年度は授業を 4 クラス担当し、5 段階で平均が 4.23 であった。また、情報工学科 1 年の基礎数学 I では 4.44、電気電子工学科 2 年の線形代数では 4.21 であり、それぞれのクラスの全ての授業の中で、一番よい成績であった。 ※通年科目のみ担当
3. 大分工業高等専門学校教務主事室による学生授業評価アンケート（通年科目）	平成 28 年 2 月	大分高専において平成 27 年度は授業を 4 クラス担当し、5 段階で平均が 4.29 であった｡機会工学科 1 年の基礎数学 I では 4.65、情報工学科 2 年の微分積分 I では 4.02、都市環境工学科 3 年の微分積分 II では 3.98、電気電子工学科 3 年の微分方程式は 4.51 であった。 ※通年科目のみ担当

4. 大分工業高等専門学校教務主事室による学生授業評価アンケート（通年科目）	平成 29 年 2 月	大分高専において平成 28 年度は授業を 4 クラス担当し、5 段階で平均が 4.35 であった。情報工学科 1 年の基礎数学 I は 4.4、機会工学科 2 年の微分積分 I は 4.24、情報工学科 3 年の微分積分 II は 4.53、電気電子工学科 3 年の微分方程式は 4.23 であった。 ※通年科目のみ担当
4　実務の経験を有する者についての特記事項 2. 科研費獲得へ向けた講演の世話人	平成 25 年 9 月	環太平洋大学において、科研費獲得に向けた講演を文科省を通じて依頼し、当日に向けた準備、講演会での司会を担当した。
3. 岡山大学オープンキャンパス体験講義の特別講師	平成 28 年 8 月	岡山大学のオープンキャンパスの理学部数学科において，特別講師として，「オイラー標数の幾何学」というタイトルで体験授業を実施した。
4. 奈良学園大学オープンキャンパス　ミニ講義	平成 30 年 6 月	「代数方程式～3 次方程式の解の公式」というタイトルでミニ講義を実施した。
5. 奈良学園大学オープンキャンパス　ミニ講義	平成 30 年 8 月	「オイラー標数～正多面体の個数」というタイトルでミニ講義を実施した。
6. 奈良学園大学オープンキャンパス　ミニ講義	令和 1 年 6 月	「ピタゴラス数の性質」というタイトルでミニ講義を実施した。
7. 奈良学園大学オープンキャンパス　ミニ講義	令和 4 年 5 月	「数学オリンピックの問題解いてみた」というタイトルでミニ講義を実施した。
5　その他 1.　該当なし		

職務上の実績に関		
事項	年月日	概要
1　資格，免許 1. 高等学校教諭一種免許状（数学）取得	平成 19 年 3 月 23 日	岡山県教育委員会，平 18 高一第 965 号
2. 高等学校教諭専修免許状（数学）取得	平成 21 年 3 月 23 日	岡山県教育委員会，平 20 高専第 67 号
2　特許等 1. 該当なし		
3　実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 環太平洋大学大志会	平成25年4月～平成26年3月	環太平洋大学の教員を目指す学生に対して、教員採用試験用の数学の指導だけでなく、夜の勉強会の監督や、学生の相談に対応した。
2. 環太平洋大学学習支援室	平成25年4月～平成26年3月	環太平洋大学で主に低学年の基礎学力の定着を図る組織として学習支援室があり、E-Learning の管理運営だけでなく、新入生 300 人に対するオリエンテーションの企画、段取り等の運営に積極的に取り組んだ。また、就活生に対して、SPI の指導も実施した。
3. 環太平洋大学次世代教育学部クラス担任	平成25年4月～平成26年3月	学生 30 名のクラス担任を担当した。
4. 環太平洋大学 FD 委員	平成25年4月～平成26年3月	**環太平洋大学の教員の授業力向上や学生指導方法のワークショップの企画・運営を行った。**
5. 環太平洋大学紀要編集委員	平成25年4月～平成26年3月	**環太平洋大学研究紀要に掲載するにあたり研究内容が論文、研究ノート等に適切かどうかを判断し編集、とりまとめを行った。**

6. 大分高専図書館運営委員	平成26年4月～平成28年3月	明野通信の作成、学生の図書館の利用の管理を行った。
7. 大分高専弓道部	平成26年4月～平成28年3月	2年間担当し、管理運営をした。
8. 大分高専囲碁将棋部顧問	平成26年4月～平成30年3月	10年ほど趣味にしている将棋の経験を生かして、4年間担当した。、平成26年度は大分県高校選手権大会で団体戦・個人戦で準優勝する実績をあげ、個人戦は全国高校将棋選手権大会に出場した。また、平成27年度は全国高専大会でベスト4に入賞した。
9. 大分高専奨学資金等委員	平成27年4月～平成28年3月	学生の奨学金の申請を審議する。
10. 大分高専学生部委員会	平成27年4月～平成28年3月	学生の処分に関することを協議・決議する。
11. 大分高専オープンキャンパス副委員長	平成27年4月～平成28年3月	大分高専のオープンキャンパス副委員長として、段取りの精査や当日の司会進行等を務めた。
12. 大分高専広報委員会	平成27年4月～平成29年3月	大分高専のＨＰの掲示内容、広報活動について計画する。
13. 大分高専学生主事補	平成27年4月～平成29年3月	平成27年度は、学生の車両通学に関する指導が主な業務であり、本年度は特に学生の車両に関する管理を担当し、大分自動車学校における安全講習会の段取り、大分中央警察署と連携をとり安全講習の講演会を企画した。 平成28年度は、新入生オリエンテーション、高専祭等のイベントを運営し、学生会の予算案の作成を担当する等、学生会の運営管理を主な仕事とした。
14. 大分高専教務部委員	平成28年4月～平成30年3月	教員の授業カリキュラムの構成、年間行事を管理するだけでなく、中学校訪問を企画、実施する。また、Web シラバスを大分高専に導入する際に、学科を代表して取りまとめる業務を担当した。
15. 大分高専ソフトテニス部顧問	平成28年4月～平成30年3月	ソフトテニスの経験が10年ほどあったことを生かして、強化に努めた。とくに九州・沖縄地区高専大会では36年ぶりに個人戦優勝、全国高専大会では開学以来、初めてとなる団体戦・個人戦ともにベスト４の実績をあげた。また、高校総体でも新人戦で大分県ベスト８に入るなど九州大会の出場権を得た。
16. 大分高専機械工学科1年クラス担任	平成29年4月～平成30年3月	43名のクラスの担任を1年間務めた。学力が低いため11月からは、時間の都合がつく限り放課後に数学の補修を実施するなどして、基礎学力の向上に貢献した。
17. 人間教育学部人間教育学科数学専修コース 1 年②のクラス担任（17名）	平成30年4月～平成31年3月	学生の出席状況の確認・面談等を適宜行う。また、数学の学力の向上を図るため、補修等を実施している。
18. 人間教育学部人間教育学科企業公務員①のクラス担任（24名）	平成30年4月～平成31年3月	学生の出席状況の確認・面談等を適宜行いながら、クラス運営を実施している。

19. 人間教育学部人間教育学科広報委員	平成30年4月～現在に至る	奈良学園大学オープンキャンパスにおいて、学生のプレゼン指導等をはじめ広報委員会全体の運営に携わっている。
20. 奈良学園大学人間教育学研究会運営委員	平成30年4月～平成31年3月	「卒業生から聞こう、教わろう」、「学生シンポジウム」、「卒業研究発表」の運営会報・研究会誌の審査等をし、発行の準備をする。
21. 人間教育学部人間教育学科数学専修コース 1 年のクラス担任（20名）	令和1年4月～令和2年3月	学生の出席状況の確認・面談等を適宜行いながら、クラス運営を実施している。
22. 人間教育学部人間教育学科数学専修コース 2 年のクラス担任（15人）	令和1年4月～令和2年3月	学生の出席状況の確認・面談等を適宜行いながら、クラス運営を実施している。
23. 奈良学園大学人間教育学研究会運営委員	令和1年4月～令和2年3月	会報・研究会誌の審査等をし、発行の準備をする。
24. 人間教育学部人間教育学科数学専修コース 2 年のクラス担任（19名）と2年のとりまとめ	令和2年4月～令和3年3月	コロナウイルスの影響でリモート授業の中で、クラス運営と学年の運営を実施している。
25. 人権教育研究推進委員	令和2年4月～令和3年3月	人権に関する委員会の一員である。
26. 人間教育学部人間教育学科数学専修コース1年のクラス担任（12名）	令和3年4月～令和4年3月	学生の出席状況の確認・面談等を適宜行いながら、クラス運営を実施している。
27. NGU-NET 運営委員会	令和3年4月～令和4年3月	大学のネット環境について管理する。
28. 定数確保ワーキング	令和4年4月～令和5年3月	入学者の定員を確保できるように、企画運営している。
29. 登美ヶ丘キャンパス連携ワーキング	令和4年4月～令和5年3月	幼稚園、小学校、中学校、高校と
30. 数学専修長	令和5年5月～現在に至る	数学専修コースの長に就任した
31. 学生募集企画部委員	令和5年5月～現在に至る	学生募集のために、企画・運営を考える。
4 その他 1. 該当なし		

研究業績等に関する

著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書） 1 該当なし				
（学術論文）				

著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
1　Long Exact Sequences for De Rham Cohomology of Diffeological Spaces（査読付）	単著	平成 26 年 9 月	Kyushu Journal of Mathematics. Vol. 68(2014) No. 2, pp.333-345.	微分空間にコンパクトサポートが備わった微分形式を定義し、この微分形式を用いてコンパクトサポートが備わったド・ラム・コホモロジーを定義した。また、ド・ラム・コホモロジーの完全系列が存在する微分空間についての条件を言及し、具体的な例として、１の分割が存在するdiffeological subcartesian space を定義した。これにより、既存のド・ラム・コホモロジー理論の拡張に繋がるだけでなくホモトピー論とコホモロジー理論の融合に繋がる結果を得た。（13 項）
2　On model structure for coreflective subcategories of a model category（査読付）	単著	平成 27 年 1 月	Mathematical Journal of Okayama University, 57 (2015), pp.79-84.	有限生成モデル圏の部分圏に有限生成モデル構造を導入する手法を構成し、条件を制約することによりもとの圏のモデル構造とQuillen同値になることを証明した。この定理の具体的な例として、数値的生成空間からなる位相空間の圏Top の充満部分圏NG、コンパクト生成空間からなる圏 Top の充満部分圏 CG に対して圏 Top の有限生成モデル構造を圏 NG、圏 CG にそれぞれ導入し、さらに、圏 Top、圏 NG、圏 CG のモデル圏構造は Quillen 同値であることを証明した。(6 項)
3　オイラー標数を用いた初等幾何へのアプローチについて（査読無）	単著	平成 30 年 7 月	人間教育第 1 巻第 5 号, pp.157-161	初等幾何の代表的な問題として知られる``正多面体が 5 つしかない″という性質を、大学で学ぶ抽象的な概念の１つのオイラー標数を利用して、中学生が理解できるように指導方法をまとめた。この手法を用いることにより、中学生でも大学で学ぶような抽象的な数学的概念に触れることができ、数学への興味関心を深めることが期待できる。(5 項)
4　Homology and cohomology via enriched bifunctors（査読付）	共著	平成 30 年 8 月	Kyushu Journal of Mathematics. Vol. 72(2018) No. 2, pp.239-252	圏 Diff の圏 Top の間にある関手 T : Diff→Top と D:Top→Diff において T は D の左随伴関手である。TDX と X が同相になるような位相空間を数値的生成空間とよぶ。数値的生成空間からなる圏 Top の充満部分圏を NG とするとき、圏 NG は極限、余極限に関して閉じており、デカルト閉圏であることを証明した。さらに、スマッシュ積に関してモノイドであることを示した。とくに原口は圏 NG がデカルト閉圏となることを証明することを担当した。(14 項) （担当部分） 第２章「Nmerically generated spaces」～第 3 章「Exponentials in NG」P.2～P.6 〔共著者〕 島川和久、吉田耕平

著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
5　微分空間 I（査読無）	単著	平成 30 年 10 月	人間教育第 1 巻第 8 号，pp.261-266	Zemmour の著書``Diffeology″を参考にして、diffeological space（微分空間）の解説を試みた論文である。微分空間の公理を導入し、例としてユークリッド空間の具体的な微分構造を紹介した。また、微分空間の間の射（滑らかな写像）を定めた。この性質を利用して、微分構造を写像によって引き戻すことで、集合に微分構造を導入する inductive 性を紹介した。この性質を利用することで，微分空間の部分集合に自然に微分構造を導入することができることも紹介している。(6 項)
6　微分空間 II（査読無）	単著	平成 30 年 10 月	人間教育第 1 巻第 8 号，pp.267-272	Zemmour の著書``Diffeology″を参考にして、diffeological space（微分空間）の基本的な性質について、微分空間 I の継続として解説を試みた論文である。本稿では、微分空間の微分構造を、写像を利用して，押し出すことによって、集合に微分構造を与えることを紹介した。この性質を利用して、微分空間の直和空間・直積空間・商空間を定義する。これらのことから、微分空間の圏は極限・余極限に関して閉じていることを紹介した。(6 項)
7　Homotopy structures of smooth CW complexes（査読無）	単著	平成 30 年 11 月	arXiv:1811.06175	微分空間の圏 Diff 上において、滑らかな CW 複体を構成し、その性質を調べた。Tame 性の概念を導入することでホモトピー拡張性質を滑らかな CW 複体上で利用することができる。この条件をりようすることで、胞体近似定理、ホモトピー同値に関する Whitehead の定理を証明することができた。また、2 つの滑らかな CW 複体の直積は CW 複体であり、位相空間の圏 Top 上の CW 複体よりも扱いやすい面もあることを発見した。(19 項)
8 On homotopy types of diffeological cell complexes	共著	令和 1 年 12 月	arXiv:1912.05359	微分空間の圏 Diff 上の滑らかな CW 複体の性質を調べた論文で、特に、これらの複体の間の連続写像は、微分空間の意味で滑らかな写像とホモトピックになることを証明している。また、これらの複体は 1 の分割をもつことも紹介している。連続写像と滑らかな写像の間の複雑さをホモトピーという概念で近似できることに成功した。
9 A model structure on the category of diffeological spaces, I	共著	令和 2 年 11 月	arXiv:2011.12842	微分空間の圏 Diff に Quillen モデル構造を導入した。
10 The Baumkuchen Theorem	共著	令和 5 年 7 月	Math. Mag. 96, No. 4, 423-427 (2023).	バームクーヘンの定理を初等幾何の性質のみを利用して証明を与えた。またこれを利用すると、既存のピザの定理を証明することができることも紹介している。

11 The Quillen model structure on the category of diffeological spaces	共著	令和６年５月	Math. J. Okayama Univ to appear	微分空間の圏 Diff に、Quillen モデル構造の導入に成功した。
（その他） 「報告書」				

著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
1　微分空間の性質とその応用について 2　数値的生成空間の圏へのモデル構造の導入とその一般化について	単著 単著	平成 26 年 3 月 平成 26 年 3 月	第 10 回数学総合若手研究集会～多分野間の交流による発展・発見を目指して～北海道大学数学講究録，pp.181-184 日本数学会 2014 年度年会総合分科会トポロジー分科会アブストラクト	任意の微分空間 X は X のプロットを用いることで微分形式を定義することが可能であり、この微分形式を用いてド・ラム・コホモロジーを構成できることが可能であり、ホモトピー不変であることが知られている。この理論の発展とし 圏 D を圏 C の充満部分圏とする。圏 C が有限生成モデル構造をもち、圏 D から圏 C への包含関手 i:D→C がある条件を満たすときに圏 C のモデル構造を圏 D に導入することができる。その具体的な例として、次のことを紹介している。位相空間の圏 Top は有限生成モデル構造をもつ。数値的生成空間からなる圏 Top の充満部分圏を NG とする。このとき、包含関手 i:NG→Top によって圏 Top のモデル構造を圏 NG に導入することができる。また、これらのモデル構造は Quillen 同値であることも紹介している。(2 項)

著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
3　微分空間のホモトピー論とその周辺について	単著	平成 26 年 7 月	第 61 回トポロジーシンポジウム講演集 pp.37-46	微分空間における n 次元球体、n 次元球面の微分構造を境界上では微分係数が常に 0 になるような微分構造を入れなおすことで、滑らかな道の端点を無限回微分可能でつなぐことを可能にした。この条件を使うことで、位相空間で展開されるホモトピー論と同じような理論を構成できることに成功した。これらの概念を用いて、ファイブレーション、胞体複体、ホモトピー群を構成し、これらを利用することで圏 Diff に有限生成モデル構造を導入することに成功した。(10 項)
4　微分空間のモデル構造について	単著	平成 28 年 9 月	日本数学会 2016 年度秋季総合分科会	微分空間の圏 Diff 上にモデル構造を導入する手法の一つを紹介している。とくに、ファイブレーション、コファイブレーション、弱同値の定義に触れる。また位相空間の圏 Top との間には関手 T：Diff→Top、D：Top→Diff が存在し、随伴関係である。この性質を利用して圏 Diff の圏 Top のモデル構造が Quillen 同値であることを紹介する。(2 項)
5　滑らかな CW 複体のホモトピー構造	単著	平成 30 年 9 月	日本数学会 2018 年度秋季総合分科会トポロジー分科会アブストラクト pp.75-76	滑らかな CW 複体を構成する上で必要となる概念を紹介した。とくに微分空間の公理、微分空間の間の滑らかな写像を紹介した。また、可微分構造を用いてホモトピー論を展開する上で重要となる性質の tame 性を与えている。この性質を利用することで基本的なホモトピー拡張性質が成り立つことを紹介している。(2 項)
「学会発表等」				

著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
1　モデル構造を持つ圏の部分圏へのモデル構造の導入方法と，その例について	単独発表	平成 26 年 1 月	平成 25 年度日本数学会中国・四国支部例会，島根大学総合理工学部 1 号館 2 階 21 教室	有限生成モデル構造を持つ圏Dの部分圏Cに対して、包含関手 i : C→D とある関手 G : D→C が存在し i は G の左随伴関手であるとき、ある条件を満たすとき D の有限生成モデル構造を関手 G で写すことで部分圏 C に有限生成モデル構造を導入することができる。さらに、条件に制約を加えると圏 D と圏 C のモデル構造は Quillen 同値になることを紹介した。また、この具体的な例として数値的生成空間の圏 NG とコンパクト生成空間の圏 CG を紹介した。
2　微分空間の性質とその応用について	単独発表	平成 26 年 3 月	第 10 回数学総合若手研究集会～多分野間の交流による発展・発見を目指して～，北海道大学学術交流会館	任意の微分空間 X は X のプロットを用いることで微分形式を定義することが可能であり、この微分形式を用いてド・ラム・コホモロジーを構成できることが可能であり、ホモトピー不変であることが知られている。この理論の発展として、コンパクトサポートが備わった微分形式を構成し、これを用いてコンパクトサポートが備わったド・ラム・コホモロジーを構成することに成功した。これらの理論を整備するにあたり微分空間から誘導される位相空間の性質について調べた。
3　数値的生成空間の圏へのモデル構造の導入とその一般化について（研究発表）	単独発表	平成 26 年 3 月	日本数学会 2014 年度年会，学習院大学	圏 Diff と圏 Top の間には関手 T:Diff→Top と D : Top→Diff が存在して、T は D の左随伴関手になることが知られている。TDX と X が同相になる位相空間 X を数値的生成空間とよぶ。また数値的生成空間からなる圏 Top の充満部分圏を NG とするとき、圏 NG は CW 複体を含み、極限・余極限に関して閉じており、さらに有限生成モデル構造を導入可能であり、圏 Top のモデル構造と Quillen 同値であることを紹介した。さらに、これらの理論を圏論上で一般化可能であることを示した。
4　微分空間のホモトピー論とその周辺について	単独発表	平成 26 年 7 月	第 61 回トポロジーシンポジウム，東北大学片平キャンパスさくらホール	微分空間における n 次元球体、n 次元球面の微分構造を境界上では微分係数が常に 0 になるような微分構造を入れなおすことで、滑らかな道の端点を無限回微分可能でつなぐことを可能にした。この条件を使うことで、位相空間で展開されるホモトピー論と同じような理論を構成できることに成功した。これらの概念を用いて、ファイブレーション、胞体複体、ホモトピー群を構成し、これらを利用することで圏 Diff に有限生成モデル構造を導入することに成功した。

著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
5　微分空間のホモトピー論について	単独発表	平成 27 年 11 月	ホモトピー論シンポジウム姫路・西はりま地場産業センター（じばさんびる）6 階 601 会議室	微分空間の圏 Diff にモデル構造を導入する上で、新たな手法を発見した。とくに tame-写像の概念を導入し、この概念を用いて胞体複体、コファイブレーション、ファイブレーションを構成する。これらの 3 つの条件を使って、有限生成モデル構造とは異なるが似た性質をもつモデル構造を導入することに成功した。圏 Top は有限生成モデル構造をもつことが知られている。このとき、圏 Diff と圏 Top のモデル構造は Quillen 同値であることを証明した。
6　微分空間のモデル構造について	単独発表	平成 28 年 9 月	日本数学会 2016 年度秋季総合分科会，関西大学千里山キャンパス第 4 学舎 3 号館 4 階 3401	微分空間の圏において，ホモトピー論を展開するために，ファイブレーション，コファイブレーション，ホモトピーグンを導入し，これらが相互に関係する性質を調べた．この結果を利用して，微分空間の圏 Diff にモデル構造を導入する事に成功した。また、位相空間の圏 Top のモデル構造とを比較する方法を発見した。この手法を用いて、圏 Diff と圏 Top のモデル構造は Quillen 同値になることを示した。これらの結果から、位相空間と微分空間において、ホモトピー論を同様に展開する事が可能となった。
7　微分空間のモデル構造とその周辺について	単独発表	平成 28 年 10 月	第 135 回日本数学会九州支部例会，長崎大学工学部 1 号館 5 番教室（文教キャンパス）	微分空間の圏 Diff にホモトピー論を展開する上で必要となる胞体複体の性質について調べた。とくに微分空間におけるＣＷ複体は、微分空間、位相空間においてそれぞれで定義されるホモトピー群が同型になることを証明することに成功した。これは、可微分多様体でしられる「Whitney Aproximation property」の一般化と捉えることができる。そのため、微分構造をもつ空間においても連続的な扱いをすることが可能となる。
8　微分空間のホモトピー論に関すること	単独発表	平成 28 年 12 月	群作用と位相，城崎健康福祉センター	位相空間と微分空間のホモトピー論を比較するための方法を構成した。とくに、n 次単位区間 I^n からＣＷ複体への連続写像は、ある滑らかな写像とホモトピックになるという性質を証明した。この結果を利用する事で微分空間と位相空間で展開されるホモトピー論は一致することがわかる。また、微分空間の圏 Diff においてモデル構造を導入する手法に改良を加え議論をスムーズに構成する事に成功した。
9　微分空間の CW 複体の構成とその性質について	単独発表	平成 29 年 3 月	小研究集会「安定ホモトピー論とその周辺」，岡山大学理学部 2 号館 3 階「数学合同演習室」	微分空間における CW 複体の構成方法を紹介した。とくに、構成するにあたり、weak diffeology の概念を導入し、直積空間と相性が良いことを示した。これは、位相空間の CW 複体よりも扱いやすい性質をもっている。また、Whitney approximation property が成り立つことを紹介した。

著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
10 Whitney approximation property on smooth cell complexes of diffeological spaces	単独発表	平成 29 年 10 月	第 15 回北九州数理科学セミナー，北九州工業高等専門学校 1 号館 3 階大講義室	可微分多様体の間の任意の連続写像は、ある無限回微分可能写像とホモトピックの関係で近似できることが、Whitney の近似定理として知られる．可微分多様体を一般化した概念の微分空間にこの性質を導入する。その 1 つの例として、滑らかな CW 複体上では、Whitney の近似定理が成り立つことを証明し、この定理を CW 複体上に拡張することに成功した。
11　微分空間上における滑らかな CW 複体上のホモトピー構造について	単独発表	平成 30 年 9 月	日本数学会 2018 年度秋季総合分科会，岡山大学津島キャンパス	微分空間の対象のクラスとして、滑らかな CW 複体を構成する。そして、この CW 複体上で基本的なホモトピー論を展開する。その重要な性質として、ホモトピー拡張性質、胞体近似定理、ホワイトヘッドの定理等を紹介する。
12　Homotopy properties of smooth cubical cell complexes	単独発表	平成 30 年 11 月	京都大学代数トポロジーセミナー，京都大学理学部 6 号館 609	微分空間の圏上で、滑らかな CW 複体を定義する。そして、この滑らかな CW 複体上でホモトピー論を展開するために必要となる性質を紹介し、具体的な方法について紹介した。とくにホモトピー拡張性質の導入方法について触れ、N 連結や N 同値についての性質を紹介した。
13　A homotopy theory of diffeological spaces	単独発表	令和 1 年 9 月	ホモトピー沖縄 2019，てんぶす那覇	微分空間の圏上で、滑らかな CW 複体を紹介し、ホモトピー論で基本的な性質を説明するとともに、簡単な証明を与えた。とくに連続写像と滑らかなな写像の間にはホモトピックで近似できることを紹介した。
14 微分空間の圏のモデル構造について 1	単独発表	令和 4 年 9 月	Diffeology セミナー（信州大学）オンライン	微分空間のモデル構造の導入の紹介をした。はじめに、準備として基本的な性質を紹介した。
15 微分空間の圏のモデル構造について 2	単独発表	令和 4 年 9 月	Diffeology セミナー（信州大学）オンライン	微分空間のモデル構造の導入の紹介として、fibration,cofibration の紹介をし、これらの性質を調べた。
16 微分空間の圏のモデル構造について 3	単独発表	令和 4 年 9 月	Diffeology セミナー（信州大学）オンライン	微分空間のモデル構造の導入として、functorial factorization の紹介をした。

17 微分空間のホモトピー論について	単独発表	令和 4 年 12 月	高知ホモトピー論談話会	微分空間の圏と位相空間の圏のモデル構造について紹介した。また、これらの同値性のも触れた。
18 微分空間の圏のモデル構造の導入方法について(1)	単独発表	令和5年9月	空間の代数的・幾何的モデルとその周辺，信州大学理学部	微分空間の圏のモデル構造の導入方法について紹介した。
19 微分空間の圏のモデル構造の導入方法について(2)	単独発表	令和5年9月	空間の代数的・幾何的モデルとその周辺，信州大学理学部	微分空間の圏のモデル構造の導入方法を、（１）に引き続き実施した。
「国際学会等の講演」 1　A homotopy structure of diffeological spaces	単独発表	平成 31 年 3 月	Building-up Differential Homotopy Theory, D-413 IMI Auditorium West 1 Bld., Kyushu University	微分空間の圏上でホモトピー論を展開する際に必要と考えられる``tame″性という概念を導入し、この性質を利用したホモトピー論を紹介した。また、このtame性と相性の良い対象として、滑らかなＣＷ複体を紹介し、ホモトピー構造を調べた。最後にこれらの性質を利用して、微分空間の圏上のモデル構造を導入する方法を紹介し、証明のアウトラインを解説した。
「世話人を務めた研究集 1　小研究集会「安定ホモトピー論とその周辺」	共同	平成 29 年 3 月	岡山大学理学部 2 号館3 階「数学合同演習室」	本研究集会を世話人として、講演者を募集し当日の運営を行った。 「その他の世話人」 鳥居猛、奥山慎吾、吉田耕平

教　育　研　究　業　績　書

令和６年３月６日

氏名　　松岡　克典

研　究　分　野	研究内容のキーワード
教育学およびその関連分野 教科教育学および初等中等教育学関連	算数科の教育 算数科の授業 算数科の学習指導 算数科の授業デザイン開発

教　育　上　の　能　力　に　関　す　る　事　項

事項	年月日	概　　要
１　教育方法の実践例		
1. 算数科の教育内容の背景や関連内容に関する基礎・基本の理解を深めて，小学校算数科指導のための教材分析が的確に行えることをねらった実践	令和２年４月～現在に至る	奈良学園大学人間教育学部人間教育学科１年次生の学生約 80 名に対して，算数・数学教育の教材研究の基盤を育成することをねらった「数の理解」の講義において，実践を基に指導を行った。算数のよさを知り，数学的な思考力や判断力，表現力を養う授業づくりのための教材研究の手がかりが得られるように，具体的な活動を入れながら考察することが出来た。 （奈良学園大学「数の理解」の実践）
2. アクティブラーニングの形態を通して，問題解決型の授業の在り方を追求することをねらった実践	令和２年４月～現在に至る	奈良学園大学人間教育学部人間教育学科２年次生の学生約 90 名に対して，主体的な問題解決学習を行うための授業づくりと指導方法について，学生自身が問題意識を持って取り組む「算数科指導法」の授業を実践した。実践事例を紹介したり，授業風景を視聴したりして，現場の算数科の授業を感じ取らせるようにした。指導案を作成して模擬授業の実施とそれに対する評価を行い，改善案について学生間で討議できるようになった。 （奈良学園大学「算数科指導法」の実践）
3. 授業外における学修効果促進のための取り組み	令和２年４月～現在に至る	オフィスアワー及びメールにて，学生からの相談を随時受け付けて対応している。 教員採用試験に向けての対策では，１次試験に向けて，数学や理科の質問に回答し，解法や予想される問題される問題について解説した。2 次試験対策では，模擬授業・面接指導等を行い，合格者の増加に加担した。
4. ICT 等を活用した授業方法の工夫における実践	令和５年９月～現在に至る	奈良学園大学人間教育学部人間教育学科３年次生の学生約 110 名に対して，これまでの授業と ICT を活用した授業の授業づくりや指導方法について，主体的に取り組む「教育方法・技術論」の授業を実践した。実践事例を紹介したり，現場の授業を感じ取らせるようにしたりして，教育実習の予習や復習になるようにした。 （奈良学園大学「教育方法・技術論」の実践）

２　作成した教科書，教材		
1. みんなと学ぶ　小学校　算数	平成 31 年 2 月 学校図書	新学習指導要領に即し，これからの社会の中で生きていくために，問題を見つけて解決するために，汎用的な力を身に付けるために役立てるように構成した。算数で育てたい３つの学びの力を紹介し，これらの学びが身に付くような構成になっている。「見方・考え方」を９つに分類し，キャラクターで表示し，楽しみながら身に付けるようにした。 A4 判　1 年～6 年代表：一松信，岡田禕雄 監修：赤井利行，池田敏和，黒澤俊二，他 3 名 共著者：青山尚司，石井英真，井上正人，植田敦三，植村哲郎，大石英助，大澤弘典，松岡克典，他 43 名
2. みんなと学ぶ　小学校　算数	令和 6 年 2 月 学校図書	従来大切にしてきた「みんなと学ぶ」の理念の中に，さらに個の学びも充実させて，二つの学びの一体化を進める工夫をしている。そして，ICT を活用した学びの工夫を施すとともに，情報活用や情報モラルの問題を「みんなと学ぶ」ことを通して，情報教育をトータルにサポートしている。さらに SDGs や多様性に対し，児童のもつ様々な背景にできる限り寄り添った学習支援に配慮するように作成した。 A4 判　1 年～6 年代表：一松信，岡田禕雄 監修：赤井利行，池田敏和，黒澤俊二，他 3 名 共著者：青山尚司，植田敦三，植村哲郎，大石英助，大澤弘典，松岡克典，他 58 名
３　教育上の能力に関する大学等の評価		
1. 近畿大学附属小学校長による評価	平成 27 年 3 月	近畿大学附属小学校研修部長として独自の附属小学校の授業観及び授業スタイルの見直し，基礎・基本の学力を育成するための指導をめざした教育改革を行った。また，習熟度別学習指導，チームティーチングによる指導，個に応じた指導のあり方などについての現職教育を行った。その結果，全国学力実態調査においても子どもの学力が著しく伸びたことから他の教育関係者や保護者からも高い評価を得るとともに，人事評価においても「A」評価を受けた。
2. 奈良学園大学採用時の学長評価	令和元年 8 月	10 年間の公立小学校教員，9 年間の大阪教育大学附属天王寺小学校教員，12 年間の近畿大学附属小学校教員としての研究の経験と実績，さらには，大阪市小学校教育研究会算数部主任，7 年間にわたる大阪教育大学教育学部で非常勤講師として算数教育の指導に貢献した経験と実績に対して高い評価を受けた。また，教育に対する熱意と向上心に関しても高い評価と信頼を得た。
3. 奈良学園大学人間教育学部令和 2 年度前期学生による授業評価	令和 2 年 7 月	2 年次生に対する「算数科指導法」の講義について実施した学生の授業評価アンケートの結果，アクティブラーニングを活用して講義内容を振り返ることができる講義に対して，「受講意識は高かった」「受講マナーを守っていた」「授業時間外の学修を行っていた」「提示された資料はわかりやすかった」「話し方は聞き取りやすかった」「集中して取り組むことができた」「教員の熱意や意欲が感じられた」「授業時間を有効につかっていた」が 9 割を超え，充実感があった授業と判断できる評価を得ている。
4. 奈良学園大学人間教育学部令和 2 年度後期学生による授業評価	令和 3 年 3 月	1 年次生に対する「数の理解」の講義について実施した学生の授業評価アンケートの結果，実践を踏まえた講義に対して，「受講マナーを守っていた」「話し方はわかりやすかった」「集中して取り組むことができた」「教員の熱意や意欲が感じられた」「授業時間を有効につかっていた」が 9 割を超えており，充実感があった授業と判断できる評価を得ている。

5. 奈良学園大学における学生による授業評価アンケート結果	令和3年度 ～現在に至る	事例から学ぶ学習形態や参加型・体験型学習形態，学生全員にコメントを書く双方向授業等を取り入れ，全担当科目で平均点以上の授業評価結果[5 点満点で，4.6 点以上の満足度得点。直近の 2023 年度 1 後期・学生授業アンケート結果：「教育方法・技術論 A」45 人受講科目は，「4.49（「総合的に満足している」項目：5 段階評価）」]で学生の満足度も非常に高い。
4 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 茨木市立山手台小学校研修会講師	平成26年6月3日，7月28日，11月28日，平成27年6月23日	校内研究授業を参観し，討議会の指導助言を行った。また，校内研修会の講師を務めた。さらに，算数科における基礎・基本について指導を行い，自らのビデオ授業を通して，授業のねらいや指導のポイントについての講義を行った。 子供達の個人差が大きくある中で，どの子も楽しく理解させていくにはどのような指導をすべきか論じた。
2. 西日本私学算数研修会講師	平成26年6月27日	西日本の私立小学校の教員を対象に，算数科における問題解決の授業について講義を行うと共に，指導のポイントや実践事例を通しての解説を行った。
3. 第29回　人間教育実践交流会フォーラム　in　奈良 分科会コーディネーター	平成26年8月4日	奈良学園大学人間教育学部開設記念をして開催された研究会の算数分科会でコーディネーターを務め，算数科の学習を支える言語活動について解説をすると共に，質疑応答を通して指導を行い，研究会の趣旨に貢献した。
4. 第58回　日私小連全国教員夏季研修会研究協議会コーディネーター	平成26年8月20日	全国の私学教員が参集する日本私立小学校連合会が開催する研修会において，算数部会のコーディネーターを務め，研究授業について協議を行うと共に，研究テーマに沿った論議を行った。
5. 第13回　教師力向上研究会　模擬授業	平成28年8月18日	明日から役立つ教師力をテーマにして，算数の授業づくりと子供理解について模擬授業をしながら，講話した。現役の国立･公立・私立教員及び大学教員や学生を対象に，分数の指導の在り方について説明した。
6. 高槻市教育研究会算数部研修会　講師	平成29年2月1日	算数部の提案する授業について指導し，研究授業を参観し，討議会の指導助言を行った。「わかる」「楽しむ」「学び合う」算数学習の創造をテーマに，考え，伝え，つながる算数学習について講演を行った。次期学習指導要領の内容について説明し，来年度の三島大会の研究の方向性について示唆した。
7. 高槻市立第2中学校区合同授業研究会　講師	平成29年11月1日	全員参加の中で子供達の学ぶ意欲を高める算数の授業づくりをテーマにして，①問題解決の個人差をどのようにすればよいか②どのようなグルーピングが良いのか③学ぶ意欲を高めるための授業形態を含め，授業づくりについて実践授業を基に論じた。
8. 高槻市教育研究会算数部研修会講師	平成29年12月13日	高槻市小学校教員を対象に「新学習指導要領導入をふまえた授業実践例の紹介」の講演を行い，新学習指導要領の背景とそれに対する授業の在り方について説明した。
9. 「算数教科書活用セミナー」第1回講師	平成30年7月28日	算数教科書の使い方について現職の教師の悩みを解決する研究会を発足し，教科書を活用した算数授業の模擬授業を行った。また，教科書をもとに算数科の本質を解き明かし，単元作り･授業づくりのポイントを示唆した。
10. 高槻市教育研究会算数部研修会講師	平成30年11月14日	高槻市小学校教員を対象に新学習指導要領の「C 変化と関係」領域の授業の在り方について実践を交えながら講演した。第4学年から第6学年の比例に関する内容を取り上げ，教科書での取り扱いと行間から読み取る指導法について論じた。
11. 高槻市教育研究会算数部研修会講師	令和元年11月13日	高槻市小学校教員を対象に新学習指導要領の「簡単な場合についての割合」の授業の在り方について実践を交えながら講演した。関連する事項としての割合についての指導方法や授業の在り方について論じた。

12. 高槻市教育研究会算数部研修会講師	令和元年 12 月 11 日	高槻市小学校教員を対象に「かけ算」の授業の在り方について実践を交えながら講演した。かけ算の指導方法や授業の在り方について論じた。
13. 八尾市キャリア教育研修会講師	令和 2 年 12 月 11 日	八尾市立北山本小学校にて，第 3 学年の模擬授業を行った。授業の進め方や授業構想の在り方，良い発問の仕方について論じた。
14. 高槻市立富田小学校研修会講師	令和 3 年 9 月 10 日	高槻市立富田小学校にて，第 3 学年研究授業を参観し，討議会の指導助言を行った。さらに，校内研修会の講師を務めた。算数科における主体的・対話的で深い学びについて実践事例を通し指導を行った。
15. 高槻市立冠小学校研修会講師	令和 3 年年 12 月 1 日	高槻市立冠小学校にて，第 4 学年「面積」研究授業を参観し，討議会の指導助言を行った。さらに，校内研修会の講師を務めた。「面積」について実践事例を通した指導や，学級集団づくりについて講演を行った。
16. 三島地区算数研究研修会講師	令和 4 年 2 月 9 日	新学習指導要領に加わった「データの活用」の指導の在り方について，実践例を基に論じた。さらに，三島地区が使用している教科書の扱い方や，指導法についての説明や解説を行った。
17. 第四中学校区研修会講師	令和 4 年 10 月 25 日	高槻市立富田小学校にて，文部科学省研究委託である人権教育推進事業として「自他の人権を守るための効果的な指導方法」についての講演を行った。一人一人が大切にされた教育活動は，豊かな心を育み，確かな学力向上につながることを，実践事例を通して単元設計やめあてを達成させるための手だての在り方を通して話した。
18. 三島地区算数研究研修会講師	令和 5 年 2 月 1 日	高槻市立五百住小学校にて，「わかる」「愉しむ」「学び合う」算数授業の創造のテーマで講演した。第 5 学年「割合」の研究授業の指導・助言を行い，「考え，伝え，つながる算数学習」についての説明や解説を行った。
19. 高槻市立富田小学校研修会講師	令和 5 年 2 月 6 日	高槻市立富田小学校にて，第 3 学年「□をつかった式」の研究授業を参観し，討議会の指導助言を行った。さらに，校内研修会の講師を務めた。昨年度からの継続である算数科における主体的・対話的で深い学びについて「学び合い」に焦点をあてて指導を行った。
20. 八尾市立高美南小学校研修会講師	令和 5 年 2 月 6 日	第 1 学年「ひき算」の研究授業を参観し，討議会の指導助言を行った。自分の考えを持ち，学び合える子の育成～伝え合う活動を通じて「数学的な考え方」の育成を図る～のテーマで講演を行った。
21. 高槻市教育研究会算数部研修会講師	令和 5 年 12 月 6 日	高槻市の研究テーマである「つながろう　創ろう　新しい学び」について講演した。算数で身に付けるのは，特定の知識や技能だけではないことや，身に付けた算数の内容から，算数を新たにつくっていくという発展的に考える力や態度を身に付けることの大切さについて語った。
22. 高槻市立富田小学校研修会講師	令和 6 年 1 月 25 日/2 月 19 日	高槻市立富田小学校にて、第 3 学年「分数」の授業づくりから参加し，討議会の指導助言を行った。さらに，校内研修会の講師を務めた。小学校で扱う分数について実践事例を通し指導を行った。
5　その他 1. 日本数学教育学会　全国大会最優秀研究賞受賞	平成 29 年 8 月	日本数学教育学会主催の全国算数・数学教育研究（岐阜）大会において，発表した実践研究論文の中から継続的な実践活動を伴い，所属校及び地域の算数・数学教育実践への貢献が認められた。 研究題目「学び合い活動における分数のわり算の指導－繁分数を活用した事例を通して－」

職　務　上　の　実　績　に　関　す　る　事　項		
事項	年月日	概　　要
1　資格，免許		
1）小学校教諭１種免許 2）中学校教諭１種免許 3）高等学校教諭第２種免許 4）小学校教諭専修免許	昭和 63 年３月 昭和 63 年３月 昭和 63 年３月 平成 10 年３月	昭 62 小１第 1196 号　大阪府教育委員会 昭 62 中１第 4759 号　大阪府教育委員会 昭 62 高２第 5508 号　大阪府教育委員会 平 10 小専第５号　大阪府教育委員会
2　特許等		
特記事項なし		
3　実務の経験を有する者についての特記事項		
1）Apple Teacher	令和２年１月	Apple Teacher に認定された。
4　その他		
「研究助成」 1)科学研究費補助金　研究活動スタート支援 独立行政法人日本学術振興会 「理論依存型の算数科授業モデルの開発」 （研究課題番号　２０Ｋ２２２５６）	令和２年度～令和５年度	算数での問題解決では，論理的に考えることを重視しているが，帰納的に考える方法が主である。一方，数学では，証明問題の論証などは，演繹的に考える方法が主である。この指導方法の乖離が「中１ギャップ」を生じさせている要因にもなっているのではないだろうか。そこで，２つの指導方法の橋渡しができないか考えることにした。本研究では，算数科に問題解決を基盤とした「理論依存型の授業」を取り入れ，演繹的に考える授業モデルを開発することを目的とする。 それにより，児童に論理的な見方や考え方が身に付き，数学での証明問題の論証に繋がる演繹的に考える力を身に付けさせることができる。従来見られなかった算数科授業モデルを開発し，指導方法の組み合わせ方や有効性を検討し，授業計画を構想し，研究授業の実践と授業記録に基づく事例分析の蓄積を通して，妥当性や適応性の高い授業モデルとして洗練させる。それにより，旧来から行われている算数の問題解決の指導方法を刷新する可能性が期待できる。
2）2022 年度　博報堂教育財団 第 17 回　児童研究実践についての研究助成	令和４年４月～令和６年３月	「理論依存型の授業」を基盤として，演繹的だけでなく，帰納的，類推・統合的な手法などを用いるのが「理論構成型の授業」である。新たな授業モデルとして開発し実践することで，数学的に解き明かそうとする態度の育成にも繋がると考える。 また，ビジネス界では，マネジメント育成におけて「カッツ・モデル」(1974)が活用され，「コンセプチュアル・スキル」と問題解決・課題達成は，同じような背景・フレームワークをもっているとされている。コンセプチュアル・スキルとは，問題の本質を見極め，周囲が納得できる最適解を導き出す能力のことである。問題解決・課題達成のアプローチ法や手法の活用は，さまざまな場面に応用可能であり，それがコンセプチュアル・スキルの発揮につながっていく。そこで，ビジネス・スキルの問題解決のプロセスに有効な論理的思考のツールを算数の授業に活用し，その思考過程を分析し，考察する。

研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				
1．資質や能力を育成する問題解決学習の在り方 ー学び合いに着目してー	共著	平成26年12月	ERP	資質や能力を育成するために，集団の相互作用に注目すると共に，「学び合い」に着目した問題解決の在り方について考察した。第5学年「図形の面積」の授業を通して，集団場面における「相互誘発」「相互葛藤」「相互補足」について分析した。学級集団で話し合う形態を主とし，自力解決で獲得した認識をもとに集団で他者と学び合うことで，多様な考えを統合して自分の考えを深めていくことができると考えた。 教育PRO　第44巻　第28号　p.26～p.29
2．読解力を養う	共著	令和3年3月	ERP	2021年度大学入学共通テストの出題傾向から，単なる数値を求める問題から読解力を求める問題へと変わってきていることを捉え，なぜ，数学に読解力が必要なのかを論じた。 算数・数学教育に読解力が求められる背景や，算数・数学教育における読解力の育成について述べ，読解力の必要性について読者に問いかけた。 教育PRO　第51巻　第4号　p．10～11
3．新しい視点からの社会教育学	共著	令和4年9月	大学教育出版	新学習指導要領で必修化されたプログラミング教育について，小学校では「プログラミング的思考」を身に付けることを目的としていることを論じた。 「プログラミング的思考」とは，「論理的に考えていく力」だと述べ，中学校以降で学習するコーディングを覚えることではないことを強調した。 A5版　全234頁 編集者：住本克彦 共著者：難波正義，岡本恵太，オチャンテ・カルロス，森一弘，金山憲弘，松岡克典，他17名 本人担当分：「コラム⑫」（p.213）
（学術論文）				
1．「21世紀型能力」を育成する『学び合い』の在り方 （査読付き）	単著	平成28年11月	近畿大学研究論叢　第28巻第1号 p.19～p.36	「学び合い」を通して学ぶことで，資質･能力を身に付ける構造を検証したものである。集団思考の「相互誘発・相互葛藤・相互補足」に則って考察することで，「学び合い」によって練り上げられた思考力・判断力・表現力が，メタ認知を促し自己にフィードバックされ，どのように深化していくのかをひし形の求積方法を三角形に変形させる事例から検討した。
2．学び合い活動における分数のわり算の指導ー繁分数を活用した事例を通してー （査読付き）	単著	平成28年12月	人間教育学研究第4号，p.73～p.85	分数の除法の計算の仕方をつくる過程を重視することにより，数学的な見方・考え方を高めるだけでなく，学び合い活動を通して，「再構成する力」を育むことができるか検証した。その結果，「再構成する力」は。自ら考えを持ち，表現し，伝え合い，振り返るといった一連の学びの過程を経て，自らの手で創り出したという実感を味わわせることが大切であることが分かった。

3. これからの算数教育の在り方ー意味生成学習を用いてー （査読付き）	単著	平成30年3月	人間教育学研究第5号，p. 65～p. 78	「意味生成学習」を取り入れることで，数学的な見方・考え方を育成することが出来るかを考察した。きまりについて考える場を授業の中に設定し，考えるための根拠となる既習事項や知識を活用して思考し，表現する理論依存型の授業を取り入れることにした。その結果，子供が既習事項を活用して思考し，自らの考えを導き出すことが出来たり，記述内容が既習事項を根拠にしたものになったりするなどの変容が見られた。
4. 21世紀型能力を育む意味生成学習の在り方 （査読付き）	単著	平成31年3月	人間教育学研究第6号， p. 147～p. 161	算数教育における問題解決学習に「意味生成学習」を取り入れることで，どのような学び合いの過程を通して，「21世紀型能力」を育成することが出来るかを考察したものである。授業において，学び合いに重点をおくことで，他者と協働して新しい考えを導き出す過程を探り，どのような新しい知識を構築していくのか，そのプロセスを検証することにした。その結果，学び合いを通して，子供が既習事項を活用して思考し，自らの考えを導き出すことが出来たり，記述内容が既習事項を根拠にしたものになったりするなどの変容が見られた。
5. プログラミング的思考を育む算数指導の在り方ー作問学習支援システムを活用してー	単著	令和2年12月	奈良学園大学紀要　第13集 p. 71～p. 83	単文統合型作問支援環境「モンサクン」は，算数文章題を学ぶ子供たちを対象とした学習支援アプリであり，「問題を解くのではなく，問題を作る」学習を行う。このアプリでは，子供たちは，問題がどのような要素から構成されているのかを考える必要あり，問題を作る過程において，問題のもつ「構造」を意識しなければならない。この演習を繰り返すことで子供たちは「構造」で問題をとらえることができるようになり，「構造を理解する力」を養うことが可能となる。算数文章題の問題構造の理解を深めることで，プログラミング的思考の育成に繋がると考え，取り組んだ。
6. 算数教育における「理論依存型」授業の開発（査読付き）	単著	令和3年6月	日本数学教育学会第9回春期研究大会論文集 p. 315	算数における「理論依存型の授業」を提案し，これまでの算数の問題解決の学習に一石を投じる新たな授業モデルを開発することにした。旧来の算数における問題解決の指導方法を刷新し，他の学校や教員に「理論依存型の授業」を拡げることを目的とした。この「理論依存型の授業」を算数の授業に取り入れることで，数学的な見方・考え方を基に，帰納的や演繹的な手法などを用いて数学的に解き明かそうとする態度の育成も可能となった。
7. 算数科教育における見通しの有用性について	単著	令和3年12月	奈良学園大学紀要　第14集 p. 157～p. 168	算数科の問題解決学習において，「見通し」をもつことは，子どもたちが主体的に学習に取り組む上で重要である。小学校学習指導要領では，子どもが主体的に学ぶ態度を育み，学習意欲の向上に資する観点から「児童が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を，計画的に取り入れるように工夫すること」と示されている 。そこで，今一度「見通し」について整理し，先行研究から，「見通し」とはどういうものか，どのようなことを意識して授業を行う必要があるのか確認する。そして，「見通し」に重点をおいた授業デザインについて考察し，「対話的コミュニケーション」を通した授業の実践を通して，その結果を考察する。

8. 算数科における「理論構成型」の授業デザイン(査読付き)	単著	令和4年6月	日本数学教育学会第10回春期研究大会論文集 p. 399	「理論構成型」の授業モデルを刷新し，帰納的・演繹的・類比的・統合的な探究も取り入れた「理論構成型の授業」を構築し，論理的に考える授業モデルを開発することを目的とした。それにより，児童に数学での論証に繋がる論理的に考える力を身に付けさせることができると考え，実践を基に発表した。
9. 演繹的思考を育む算数科授業モデルの開発	単著	令和4年6月	日本科学教育学会研究報告 2022年36巻7号 p. 11-16	算数での問題解決では，帰納的に考える方法が主であり，数学では，証明問題の論証などは，演繹的に考える方法が主である。この指導方法の乖離の橋渡しができないか考えることにした。本研究では，算数科に問題解決を基盤とした「理論依存型の授業」を取り入れ，演繹的に考える授業モデルを開発することを目的とする。従来見られなかった算数科授業モデルを開発し，指導方法の組み合わせ方や有効性を検討し，授業計画を構想し，研究授業の実践と授業記録に基づく事例分析の蓄積を通して，妥当性や適応性の高い授業モデルとして洗練させる。
10. 理論依存型の算数科授業モデルの開発Ⅱ（査読付き）	単著	令和4年11月12日	日本数学教育学会第55回秋期研究大会発表集録 p. 351	きまり（公式・定義・定理）を教師が先に教えて,それを解明する活動に重点を置く「理論依存型の授業」では,ヘッドスタートができる場面を保証したことで、先行知識の有無に関係なく自らの考えを導き出し,論理的な思考・表現活動が行われるようになった。
11. 「知識創出型」算数授業デザインの在り方（査読付き）	単著	令和5年6月4日	日本数学教育学会第11回春期研究大会論文集 p. 391	「理論構成型」の授業を基に，数学に繋がる「知識創出型」の授業デザインを構築し，算数から数学への橋渡しになる算数授業デザインについて追求した。授業分析については，ビジネス界のナレッジマネジメントに着目し，「SECIモデル」を活用し，5年生の「多角形の外角の和」の授業分析を行った結果，知識の創出する場面が明らかになった。
12. 算数科における「知識構成型」の授業モデルの在り方	単著	令和5年6月24日	日本科学教育学会研究報告 2023年36巻7号 p. 37-42	算数科に問題解決を基盤とした「理論構成型」の授業を取り入れ，中学数学に繋がる算数授業モデルについて構想することを目的とした。まず，中学数学に繋がる算数科のカリキュラムを構想し，授業分析の蓄積を通して，妥当性や適応性の高いものとして洗練させる。そして，追跡調査を行うことで，カリキュラムや指導方法の有効性を明らかにする。さらに，ビジネス界のナレッジマネジメントを教育界に転用することで，指導方法や授業分析の新たな視点を見出せる可能性が期待できることについて論じた。
13. 「知識創出型授業モデルについて(査読付き)	単著	令和5年11月1日	日本数学教育学会第56回秋期研究大会発表集録集 p. 602	算数での「知識創出型」の授業を通して，数学の証明問題に繋がる学びの基盤となり，子供が既習事項を活用して演繹的に考え，自らの考えを導き出すことが出来たり，記述内容が既習事項を根拠にしたものになったりするなどの変容が見られた。本研究を通して，これからの社会の変化に対応する最適解や納得解を見つけ，事象についての数学的な見方・考え方で説明ができる姿も見られる可能性が期待できた。
「学会発表」				
1. 資質・能力を育成する問題解決学習の在り方 ー学び合いに着目してー	単	平成27年8月7日	日本数学教育学会第97回総会全国算数・数学教育研究(北海道)大会	問題解決学習での集団の相互作用に注目し，「学び合い」を自己との対話や他者理解を通じて，自他共に高まり合っていく活動と捉えた。「自分自身との学び合い」「他者との学び合い」「指導者の働きかけ」がどのように関与しているのか，子供同士が学び合いを通して考えた解決方法を共有することで知識や技能を獲得し，多様な考えを統合して自分の考えを深めていく過程について考察した。

2. 学び合い活動における分数のわり算の指導 －繁分数を活用した事例を通して－	単	平成28年8月6日	日本数学教育学会第98回総会全国算数・数学教育研究(岐阜)大会	分数の除法の計算の仕方をつくる過程を重視することにより，数学的な見方・考え方を高めるだけでなく，学び合い活動を通して，自らの手で形式化したという成就感をもたせるようにした授業の在り方について考察した。算数教育における学習過程に「意味生成学習」を取り入れることで，数学的な見方・考え方を育成することが出来るかを考察したものである。
3. 算数教育における意味生成学習の在り方	単	平成29年8月8日	日本数学教育学会第99回総会全国算数・数学教育研究(和歌山)大会	算数教育における学習過程に「意味生成学習」を取り入れることで，数学的な見方・考え方を育成することが出来るかを考察したものである。その結果，子供が既習事項を活用して思考し，自らの考えを導き出すことが出来たり，記述内容が既習事項を根拠にしたものになったりするなどの変容が見られた。「意味生成学習」は，数学的な見方・考え方を育成することに有効であることが明らかになった。
4. 算数教育における意味生成学習の在り方Ⅱ	単	平成30年8月3日	日本数学教育学会第100回総会全国算数・数学教育研究(東京)大会	昨年度の継続研究で事例を増やし，授業分析を行い，理論依存型の授業を取り入れることで，知識・技能面の定着だけでなくした。数学的な見方・考え方が育成されることをデータをもとに分析することにした。その結果，「意味生成学習」は，知識・技能面の確かな定着を図ることが可能であり，数学的な見方・考え方を育成することに有効であることが明らかになった。
5. プログラミング的思考を育む作問学習支援システムの活用の在り方	単	令和元年8月8日	日本数学教育学会第101回総会全国算数・数学教育研究(沖縄)大会	単文統合型作問支援環境「モンサクン」を活用し，「問題を解くのではなく，問題を作る」学習を行う．そのことで，「構造を理解する力」を養い，プログラミング的思考に繋げようと考え，取り組んだ。その結果。演習を繰り返すことで子供はキーワードではなく，構造で問題をとらえることができるようになり，論理的思考力の向上にも繋がった。
6. 数学に開花する指導の在り方 －尋常小學算術(緑表紙教科書) を活用して－	単	令和2年8月6日	日本数学教育学会第102回総会全国算数・数学教育研究(茨城)大会	数学では，抽象的なものを使って「なぜそうなるのか」を理解し，表すことが求められる。そこで，答えを導くまでの過程を重要視し，論理的な思考力や数学の神秘性に気付かせる授業展開を考えた。緑表紙教科書（編集責任者　塩野直道）の「数理思想」が目指す理念が新学習指導要領及び新学習指導要 領解説（算数編）にどのように繋がり，数学に結びつくのかを実践を通して考察することにした。
7. 算数教育における「理論依存型」授業の開発	単	令和3年6月6日	日本数学教育学会第9回春期研究大会（山梨）	算数における「理論依存型の授業」を提案し，これまでの算数の問題解決の学習に一石を投じる新たな授業モデルを開発することにした。旧来の算数における問題解決の指導方法を刷新し，他の学校や教員に「理論依存型の授業」を拡げることを目的とした。この「理論依存型の授業」を算数の授業に取り入れることで，数学的な見方・考え方を基に，帰納的や演繹的な手法などを用いて数学的に解き明かそうとする態度の育成も可能となった。
8. Development of ″theory-dependent″ classes in arithmetic education	単	令和3年7月17日	ICME14 第14回数学教育世界会議（中国・上海）	Focusing on the differences in teaching methods between arithmetic and mathematics, we have proposed a teaching model that incorporates deductive problem-solving activities into arithmetic classes. In this study, we propose ″theory-dependent teaching″ in arithmetic and develop a new teaching model that creates a stir in the conventional learning of problem solving in arithmetic.

9. 理論依存型の算数科授業モデルについて	単	令和3年8月22日	日本数学教育学会第103回総会全国算数・数学教育研究(埼玉)大会	算数と数学の指導法の相違という点に着目し，算数の授業に演繹的に問題解決を図る活動を取り入れるという授業モデルを提案することにした。きまりを教師が先に教えて，それを活用した思考活動に重点を置いた「理論依存型の授業」では，考察に必要な知識を教えるために，今まで気付かなかった新しい発見があり，そこから思考が発散的に拡がっていく授業展開が期待できた。
10. 理論依存型の算数科授業モデルの開発	単	令和3年10月30日	日本数学教育学会第54回秋期研究大会（広島大学）	算数での「理論依存型授業」を通して，数学の証明問題に繋がる学びの基盤となり，子供が既習事項を活用して演繹的に考え，自らの考えを導き出すことが出来たり，記述内容が既習事項を根拠にしたものになったりするなどの変容が見られた。本研究を通して，これからの社会の変化に対応する最適解や納得解を見つけ，事象についての数学的な見方・考え方で説明ができる姿も見られる可能性が期待できた。
11. 算数科における「理論構成型」の授業デザイン	単	令和4年6月5日	日本数学教育学会第10回春期研究大会（宇都宮）	算数科に問題解決を基盤とした「理論構成型の授業」を取り入れ，論理的に考える授業モデルを開発することを目的とした。それにより，児童に数学での論証に繋がる論理的に考える力を身に付けさせることができると考え，実践を基に発表した。
12.演繹的思考を育む算数科授業モデルの開発	単	令和4年6月12日	日本科学教育学会第7回研究会（中国支部）	算数科に「理論依存型の授業」を取り入れ，演繹的に考える授業モデルを開発することを目的とする。それにより，論理的な見方や考え方が身に付き，数学での証明問題の論証に繋がる演繹的に考える力を身に付けさせることができると考えた。それにより，旧来から行われている算数の問題解決の指導方法を刷新する可能性が期待できる。
13.理論構成型でつくる算数科の授業	単	令和4年8月5日	日本数学教育学会第104回総会全国算数・数学教育研究(島根)大会	算数科に問題解決を基盤とした理論構成型の授業を提案する。中学の数学への橋渡しとなる授業デザインを構築し，命題や証明問題の論証に繋がる算数科の授業とはどのようなものであるかを探った。
14.理論依存型の算数科授業モデルの開発Ⅱ	単	令和4年11月12日	日本数学教育学会第55回秋期研究大会（福岡教育大学）	きまり（公式・定義・定理）を教師が先に教えて,それを解明する活動に重点を置く「理論依存型の授業」では,ヘッドスタートができる場面を保証したことで、先行知識の有無に関係なく自らの考えを導き出し,論理的な思考・表現活動が行われるようになった。
15. Development of ″Theory-Constructed Classes″	単	令和5年1月7日	IAFOR (Hawaii) IICE2023	In this study, we decided to focus on ″argumentation. Therefore, we developed a ″theory construction type″ lesson model in elementary school arithmetic to help students acquire the ability to think logically, which leads to argumentation in mathematics. This led to transformations such as being able to think deductively and inductively by utilizing what they had already learned and being able to derive their ideas and basing their writing on what they had already learned.
16.「知識創出型」算数授業デザインの在り方	単	令和5年6月4日	日本数学教育学会第11回春期研究大会（宮城教育大学）	「理論構成型」の授業を基に，数学に繋がる「知識創出型」の授業デザインを構築し，算数から数学への橋渡しになる算数授業デザインについて追求した。授業分析については，ビジネス界のナレッジマネジメントに着目し，「SECIモデル」を活用し，第5学年「多角形の外角の和」の授業について発表した。

17. 算数科における「知識構成型」の授業モデルの在り方	単	令和5年6月24日	2022年度第6回日本科学教育学会研究会（東海支部）	算数科に問題解決を基盤とした「理論構成型」の授業を取り入れ，中学数学に繋がる算数授業モデルについて構想した。第5学年「図形の面積」について，「SECIモデル」を活用して授業分析を行った結果について発表した。
18. 「知識創出型」算数授業デザインについて	単	令和5年8月10」日	日本数学教育学会第105回総会全国算数・数学教育研究(青森)大会	中学の数学への橋渡し（算数・数学架け橋プログラム）となる授業デザインを構築し，命題や証明問題の論証に繋がる算数科の授業とはどのようなものであるかを探る。
19. 「知識創出型」授業モデルについて	単	令和5年11月13日	日本数学教育学会第56回秋期研究大会（静岡大学）	結果を前提になぜそうなるのかを考える授業モデルは，論理的な見方や考え方を高めるのに有効であり，この授業展開を積み重ねることで，数学の授業への橋渡しになる可能性が出てきた。 一連の知識創出のプロセスだけでなく，特定のフェーズを重視することやフェーズの組み合わせで新たな知識が創出しやすいことも判明した。 ビジネス界のナレッジマネジメントを教育界に転用することで，指導方法や授業分析の新たな視点を見出せる可能性が期待できる。
20. On a Theory-Construction Teaching Model in Arithmetic	単	令和6年1月5日	The IAFOR International Conference on Education in Hawaii (IICE2024)	The research method was to conceive of an arithmetic curriculum connected to junior high school mathematics and refine it as one with high validity and adaptability through the accumulation of lesson analysis. Then, focusing on knowledge management in the business world, the "SECI Model" was transferred to the educational world, and the process of creating new knowledge was analyzed through lessons. The "theory-construction teaching model" effectively enhances logical viewpoints and ways of thinking and can be used as a bridge to mathematics classes through the development of these classes. By applying knowledge management in the business world to the educational world, we can expect to find new perspectives on teaching methods and class analyses.
（その他）				
1　分科会発表「論理的思考力を育む算数科の指導」	単	平成26年8月4日	人間教育協議会人間教育学会	第29回人間教育実践交流会フォーラムin奈良において，算数分科会でコーディネーターを務めと共に，言語活動を充実することで，見通しをもち筋道を立てて考え表現したり，考えを進めたりすることができ，論理的思考力を育むことができるという仮説の基，分数のわり算の事例を通して論議した。
2. 小学校算数科における「理論構成型の授業」の開発		令和5年8月20日	第17回　児童研究実践についての研究助成　中間報告	「理論依存型の授業」を基盤として，演繹的だけでなく，帰納的，類推・統合的な手法などを用いるのが「理論構成型の授業」である。新たな授業モデルとして開発し実践することで，数学的に解き明かそうとする態度の育成にも繋がると考えた。 また，ビジネス界で注目されている「SECIモデル」を教育界に活用し，フレームワークを構築した。そこで，ビジネス・スキルの問題解決のプロセスに有効な論理的思考のツールを算数の授業に活用し，その思考過程を分析し，考察することにした。

教　育　研　究　業　績　書

令和６年　　３月　　31 日

氏名　森瀬　智子

研　究　分　野	研　究　内　容　の　キ　ー　ワ　ー　ド
芸術学・教育学	教科教育(音楽)、声楽、合唱、協同学習、初年次教育

教　育　上　の　能　力　に　関　す　る　事　項

事項	年月日	概　　要
１　教育方法の実践例 (1)ICT を活用した授業方法 学生の音楽科指導案作成時における ICT を活用した指導案の検討	平成 25～28 年度毎年	学生に対して音楽科指導案の作成等、模擬授業のために ICT を活用した事前・事後指導を行った。事前の指導案のチェックも双方向で見直し、指導案が充実し模擬授業に学生が自信をもって取り組み質が高まった。 （神戸大学発達科学部教育実習事前事後の実践）
(2)授業内容の公開 新学習指導要領に基づく協同学習を用いた邦楽『箏』演奏と鑑賞教材歌舞伎『勧進帳』の指導 神戸市教育委員会の依頼事業	平成 30 年６月～	優れた教育方法の実践として、授業の様子が神戸市教育情報ネットワークの学校イントラネットで配信された。内容は、神戸市立住吉中学校において、協同学習の手法の一つである、役割分担をすることで、技能の獲得と鑑賞の知覚に出現する変化の可視化に焦点をあてたものである。この授業が、音楽科教員に協同学習の手法に興味を持たせる一助となった。
２　作成した教科書、教材 (1)「保育内容指導法(表現)」の教材作成 頌栄短期大学発行(単著) 『保育内容指導法(表現)』の授業で使用	平成 30 年５月	主体的に協働させ問題解決的に音楽表現の豊かさを育むために、課題を単元ごとに作成した。学生が前向きに取り組めるように、考えが深まる問いを工夫し、徐々に問いの難易度を上げる実践を提言した。学習形態として協同学習を取り入れ、単元ごとの課題を示すことで、音楽表現の豊かさが現れることが確認された。
(2)　協同学習の手法を用いた 「子どもの歌と音楽遊び」の教材作成 頌栄短期大学発行(単著) 『子どもの歌と音楽遊び』の授業で使用	平成 30 年９月	季節の歌・わらべ歌・器楽授業において、協同学習の手法を用いて子どもへのアプローチをグループで工夫する教材を作成した。幼稚園や小学校のわらべ歌を取り上げ、幼小連携を意識し、幼稚園と小学校の発達年齢に合わせた選曲の特徴に気づき、「実習で活用できた」と学生から好評を得た。
３　教育上の能力に関する大学等の評価 ⑴　教育実践演習(中学・高校音楽)における神戸大学発達科学部の教員からの授業評価	平成 28 年１月	模擬授業後の助言が分かりやすく、また協同学習を用いた授業について、「新規性のある音楽表現の授業であり、楽しく深い思考ができる授業である」「自信をもって模擬授業に挑める」と高い評価を受けた。
⑵　頌栄短期大学における教員評価 「音楽表現」の授業評価	平成 30 年７月	頌栄短期大学で音楽表現の授業を公開した。弾き歌いの技能の正確さと表現力がある点、また学生指導の的確さという点で高い評価を受けた。
⑶　頌栄短期大学における教員評価 「音楽Ⅰ・Ⅱ」(声楽・合唱) 授業	平成 30 年７月	「理論に基づいた呼吸法から始まる合唱の授業は、豊かな学生の声を引き出している」また「常に弾き歌いで教員が学生の声を導くため、学生がよく聴き、音楽表現ものびやかである」という評価を受けた。

(4)　頌栄短期大学における評価 学生授業アンケート 「子どものうたと音楽遊び」(後期)授業	平成 30 年 10 月	「子どものうたと音楽遊び」において実践的な授業で、保育実習でも大変役立ち、また教材プリントも勤務した時にも役立つと、高い評価を受けた。 平均値 3.9 に対して 4.6 の評価を得た。
(5) 頌栄短期大学における評価 学生授業アンケート 「音楽Ⅰ・Ⅱ」(声楽・合唱)の(通年)授業	平成 31 年 2 月	呼吸法から子どもの歌の子どもへ伝わる歌い方まで楽しく学べ、技能も身についたという感想も見られた。
(6)奈良学園大学　人間教育学部 学生授業アンケート 「音楽科指導法」(後期)授業	令和 4 年 1 月	授業で用いた協同学習の手法は学生が教員になった時にも是非使いたいと大変好評で、授業内容も分かり易かったという評価で、平均値よりかなり高い評価を受けた。
(7)奈良学園大学　人間教育学部 学生授業アンケート 「音楽の理解」(前期)授業	令和 4 年 7 月	教採の内容を意識した授業で、どこまでを理解しておけばよいのか、大変分かり易い上に、実践でも役に立つ実践的な授業でもあったと高評価であった。また、理解できていない学生に対して行った補講も大変好評であった。
(8) 奈良学園大学　人間教育学部 学生授業アンケート 「合唱Ⅰ」(後期)授業	令和 6 年 1 月	今回初めて実技科目のアンケートが実施された。その中で音楽専修学生必修の「合唱Ⅰ」では、総合的に満足できる授業であったかどうかの質問の結果、全員が最高点の 5 点をマークしており、「呼吸法から学ぶことができた」「技能が伸びた」など学生が満足していることが伺えた。
(9) 奈良学園大学　人間教育学部 学生授業アンケート 「声楽実技演奏法演習Ⅱ」(後期)授業	令和 6 年 1 月	今年度初めて実施された演習科目(実技科目)のアンケート結果である。音楽専修の選択科目であるが、約 9 割の学生が履修し、履修した学生 13 名の 4 年生の 9 割以上が総合的に満足できる授業であったと 5 点の最高値をマークする結果となった。
4　実務の経験を有する者についての特記事項 (1)　大学等の実習生指導	平成 3 年～平成 29 年	神戸市立中学校（毎年 1 名）と神戸大学附属中学校（毎年計 5 名）の音楽科の教育実習生の指導をした。事前打ち合わせで、授業の進度と回数、内容を提示、その際、評価の視点をもって指導案作成を伝え、近年ではメールを用いての指導案の指導も行った。実習開始後は、授業のふり返りと次の授業の助言を行った。学生の意思を尊重し、学生の状況を考慮し主体的に学ぶ指導を行った。
(2)　地域公開講座(頌栄短期大学乳幼児研究所) 第 16 回グローリーオープンカレッジ講師 場所：頌栄短期大学 参加人数：50 名限定で 50 名	令和元年 6 月	「声のひびきを楽しみましょう」の講師を務めた。対象は、保育者、小・中学校教員、一般(地域の)である。①幼・小・中の縦のつながりを考えた声と歌唱指導について、6 月に行われた二つの幼稚園部会の表現の研究授業(保育)の紹介と、小学校音楽の歌唱カリキュラムの現状等の説明。②指導者の声の充実のための呼吸法と発声法③コードを用いたアンサンブルの実践、とした。幼・小・中の全ての先生方からの参加があり、幼・小・中連携の一助を担った。

(3)　大学公開講座(頌栄短期大学) 創立 130 周年記念行事講師 場所：姫路キャスパホール 参加人数：130 名	令和元年 8 月	「歌の響きを楽しみましょう」講師を務めた。対象は、保育者、小・中・高学校教員、一般である。①目指す声に向けた発声法と呼吸法の実践と解説②歌のお姉さんの表現と声を紹介③高校生をモデルとして声の可能性について紹介④実践した発声法を使い参加者全員での「虹」の二部合唱である。これはサンテレビ「仕事人」で放映され、ネット配信もされた。好評で、次年度以降も他団体より、講師の依頼を受けている。
5　その他 (1) 神戸教員合唱団常任指揮者並びに指導者 団員約 30 名	平成 14 年～現在に至る	兵庫県の幼稚園から大学までの教員の音楽研修の場として発足した合唱団。指揮者並びに指導者として、毎年 2 回、震災遺児・孤児対象のチャリティーコンサートや児童養護施設訪問を行っている。研修では、弾き歌いや伴奏法への応用力の身に付け方、音楽教員の指導力向上と技術の修得のための方法を研究している。
(2)名古屋市音楽研究部指導助言 (神戸大学附属中等教育学校)	平成 26 年 7 月	名古屋市の中学校音楽研究部会の歌唱表現の指導案について、指導助言と協同学習についての講習を行った。名古屋では、グループワークは行っているが、協同学習という概念はまだあまり音楽科では認知されていない為、協同学習の考え方から説明を行った。
(3)全日本合唱連盟主催『おかあさん大会』 兵庫県大会審査員(伊丹文化ホール) 対象：兵庫県おかあさんコーラス 60 団体 約 1800 名	平成 27 年 6 月	選考委員として、全国大会の出場団体を選出した。全団体にコメントを書き、今後の技能アップの示唆を与えた。また、選に漏れた団体に対して選考委員として、今後の一層の活躍を期待して、それぞれの審査員が、自分の名前を冠した賞を贈った。
(4)兵庫県合唱祭で実行委員長 場所：伊丹ホール 2 日間で延べ 8000 名が参加	平成 28 年 6 月	兵庫県の合唱祭で実行委員長を務めた。2 日間にわたる合唱祭の企画運営、指揮を執った。1 日目「おかあさん大会」では、全国大会に出場する 3 団体を選考した。2 日目は少年少女合唱団から小学校、中学校、高等学校、一般、シルバーまで、あらゆるカテゴリーの団体が参加し、各団の演奏と、合同合唱を披露した。
(5)神戸市小学校音楽研究部会研修会講師 (神戸市立本山第二小学校) 対象：神戸市小学校音楽教員 50 名	平成 28 年 8 月	コードを用いて楽しく歌い合わせることで音感を育む方法を紹介し実演した。大循環コードを用いて単旋律でカノンすることから始まり、次にコードを用いてハーモニーを感じさせ、最後に音価の使える幅を広げ作曲するというものである。音楽科専科でない教員も参加できるように、4 人それぞれが選んだ音で 4 小節歌い、各グループが異なる作曲でするしくみを用いた。
(6)教育実績に対する表彰	平成 29 年 3 月	神戸大学より、長年附属校への「音楽教育指導」の充実に貢献したとして、学長表彰を受ける。
(7)神戸市教員採用試験音楽実技試験 (ピアノ・歌)採点委員担当	平成 29 年度	神戸市教員採用試験音楽問題(幼稚園、小学校、中学校、高等学校)作成委員の依頼を受け、実技試験採点委員は平成 29 年度の他平成 15 年度～17 年度 にも務めた。
(8)小学校音楽部合唱部指導 (神戸市立なぎさ小学校) 対象：児童 65 名　音楽教員 3 名	平成 30 年 7 月～10 月	合唱指導と発声指導を行う。呼吸法では、身体の仕組みを理解させ、体に支えられた美しい声を出す方法を指導する。また発声では、小学生らしい明るい響きを実感するため、暗い声と明るい声を対比して聴かせ、息の流し方と声の出し方を理解させた。

(9)神戸市立小学校音楽会指導 （神戸市立宮本小学校） 対象：児童 314 名　宮本小学校教員 13 名	平成 30 年 10 月 ～令和元年	幼小中連携の表現指導の立場から、音楽会(1 年生～6 年生)の指導と教員に対して子どもから音楽表現を引き出すための指導を継続的に行う。2 年目では、中央区の音楽会でよく声も響かせ、高い評価を得た。
(10)神戸大学附属中等教育学校 合唱コンクール審査員 対象：生徒 660 名、市民等 400 名	平成 30 年 11 月 令和元年 11 月	中学 1 年生から高校 2 年生にあたる 5 学年の合唱コンクールの審査員として、審査を行った後、全クラスに対して演奏についての講評を全体の場で行い、今後の為に改善ポイント等を講習した。
(11)兵庫県下小学校・中学校・高等学校合唱指導 ・神戸大学附属中等教育学校高等部 ・神戸大学附属中等教育学校中等部 ・神戸市立鷹匠中学校 ・姫路市立広陵中学校 ・明石市立二見中学校 ・神戸市立なぎさ小学校	平成 31 年 4 月 ～現在に至る	左記の 6 団体に対して、合唱指導を行っている。呼吸法、発声指導、曲紹介、コンクール曲指導など、実践的に指導しレベルアップを図った。合唱コンクールでは全団体、予選⇒本選、本選⇒近畿大会、全国大会に進む等成果を得た。また、初の女声⇒混声での新しい試みでの挑戦等でも賞を得るなど、一定の効果が見られ、兵庫県の混声の底上げも図った。
(12)神戸大学附属中等教育学校における 新任音楽教員の研修担当 対象：新任音楽教員 1 名	平成 31 年 4 月～ 令和 2 年 3 月	神戸大学附属学校部の依頼により、音楽教員採用にアドヴァイザーとして関与。また、音楽新任教員研修担当として指導を行う。授業を参観しアドヴァイスを与え、次の授業の示唆を与えた。次の授業の指導案を添削し、新任教員の力量アップを図った。
(13)幼稚園における園児に対する表現(歌唱) 指導 対象：幼稚園児 90 名	令和元年 6 月 ～令和 2 年 3 月	短期大学併設幼稚園の園歌や讃美歌の指導を園児に行った。音の高さを手で表現し、幼児と一緒に手を動かしながら音を表現することで、音の高さと出し方の違いを体感させる方法を用いた。また、子どもが親しみをもっているものになぞらえて指導することで、徐々に理解が深まった。高い音については、幼児自ら手を頭の上に挙げ頭声を意識する姿が見られた。
(14) 全日本合唱連盟主催『おかあさん大会』 兵庫県大会審査員(伊丹文化ホール) 対象：兵庫県おかあさんコーラス 60 団体 観客：約 1800 名	令和元年 6 月	全日本合唱連盟主催の全日本合唱コンクールおかあさん大会の選考委員として審査し、全国大会に出場する団体を選出した。その際、全団体にコメントを書き、今後の技能アップの示唆を与えた。また、惜しくも選に漏れた団体に対して選考委員として、今後の一層の活躍を期待して、それぞれの審査員が、自分の名前を冠した賞を贈った。令和 3 年度も審査委員としても投票で選ばれ選考委員として関わることが決まっている。
(15)徳島県教育委員会主催、ＮＨＫ学校音楽 コンクール小学校の部・中学校の部・高等学校の部課題曲講習会　講師 （徳島県とくぎんプラザ） 対象：小・中・高等学校教員と 児童・生徒 300 名	令和元年 8 月 ～毎年継続で依頼を受けている。	ＮＨＫ学校音楽コンクール小・中・高等学校の部門の課題曲の講習を行う。部門別に課題曲の分析をレクチャーし、それぞれの部門ごとに実践指導を行った。呼吸法、発声法から曲に対するアプローチの仕方と、場面に合った声について助言した。好評につき継続依頼を受けている。
(16)神戸市教科・教科外研修講座 「音楽科研究部(合唱)講習会」講師 (神戸市総合教育センターホール) 対象：神戸市教員 150 名	令和元年 9 月	教科・教科外研修講座　音楽科研究部講習会において合唱についての指導講師を務める。①合唱の子どもに与える教育的効果と、生涯教育としての合唱について②効果的な呼吸法と発声法の実践③合唱曲の指導法④合唱の実践を指導した。

(17)神戸市立御影中学校合唱コンクール (学年合唱指導)講師 (神戸市立御影中学校) 対象：中学生 600 名	令和元年 9 月	地域貢献として近隣中学校で 2 回に渡って 1 年生～3 年生の学年合唱の指導をした。それぞれの学年の課題曲を 1 年～3 年 600 名余りに呼吸法・発声法・曲の理解について指導を行った。
(18)神戸市立押部谷中学校合唱コンクール (学年合唱指導)講師 対象：中学生 160 名	令和元年10月	中学 2 年生の学年合唱曲「時の旅人」の指導を行う。また、生徒を指導するだけでなく、学級担任としての合唱コンクールの関わり方と曲の内容、生徒への声掛けについても講演を行った。
(19)神戸大学附属中等教育学校研究会 音楽科授業指導助言　講師	令和 2 年 2 月	全国に向けて行われた音楽科研究授業の創作授業『オリジナル豆まきソングを創作しよう』の指導助言を務めた。また、研究協議会において、中学音楽科教員として理解しておくべき子どもの発達の中で音楽表現における分野について講演をおこなった。
(20)全日本合唱コンクール兵庫県大会 (中学校、高等学校の部)実行委員長 参加数：1000 人、観客：1200 人 場所：KOBELKO 大ホール	令和 3 年 8 月	兵庫県下から 40 校が出場したコンクールの実行委員長として、コロナ前とは違い感染対策を徹底してコンクールを実施した。幸い、全く問題はなく実施することができ、マスク越しであったが 2 年ぶりの歌声を子どもたちが響かせる手助けを行った。
(21) 全日本合唱連盟主催『おかあさん大会』 兵庫県大会審査員(伊丹文化ホール) 対象：兵庫県おかあさんコーラス 52 団体 観客：約 1700 名	令和 4 年 6 月	全日本合唱連盟主催の全日本合唱コンクールおかあさん大会の選考委員として審査し、全国大会に出場する団体を選出した。その際、全団体にコメントを書き、今後の技能アップの示唆を与えた。また、惜しくも選に漏れた団体に対して選考委員として、今後の一層の活躍を期待して、それぞれの審査員が、自分の名前を冠した賞を贈った。
(22)兵庫県但馬地区中学校教育研究会音楽部会 総会　研究会講師 場所：朝来市立和田山中学校 対象：音楽科教員 30 名	令和 4 年 6 月	但馬地区中学校教育研究会音楽部会において、研究会の講師を務めた。テーマは『子どもが表現したくなる主体的な学びを促す授業とは』とし、「中学校の普通授業における合唱（発声）指導の方法について」知りたいと希望があったため、カノンと大循環コードを使った創作からハーモニーづくりと合唱について発声から提案を行った。
(23)兵庫県芸術文化振興財団主催の合唱リモートレッスンの講師 対象：兵庫県福崎西中学校	令和 4 年 7 月と 8 月	次世代の芸術文化を担う人材を育成するために、簡単に指導を受けられない地域に指導者を派遣する目的で行われた兵庫県の活動に兵庫県から指導の要望があったため参画し、人材育成に力を注いだ。
(24)徳島県教育委員会主催、ＮＨＫ学校音楽コンクール小学校の部・中学校の部・高等学校の部課題曲講習会　講師 徳島県とくぎんプラザから ZOOM に変更 対象：小・中・高等学校教員と児童・生徒 200 名	令和 4 年 8 月	本年度の NHK 学校音楽コンクール課題曲講習を行った。当初の予定は現地のホールで小学校・中学校・高等学校の順で行う予定であったが、コロナ禍で他府県からの指導が難しくなったため、急遽遠隔で小学校・中学校・高等学校を 1 時間ずつ、選抜の 6 校に対して個別に行った。尚、その様子はどの学校からも見ることができた。遠隔でもポイントが分かったと好評を得た。
(25)全日本合唱コンクール兵庫県大会 (中学校、高等学校の部)副実行委員長 参加数：1000 人、観客：1000 人 場所：KOBELKO 大ホール	令和 4 年 8 月	兵庫県下から 39 校が出場したコンクールの副実行委員長として、昨年度コンクールを成功させた実績から副実行委員長として委員長を補佐した。全く問題はなく実施することができ、マスク越しであったが今年も歌声を子どもたちが響かせる手助けを行った。

(26)養父市立養父中学校で校外音楽会参加のための学年合唱指導 対象：中学生 80 名　教員 5 名 場所：養父中学校	令和 4 年 10 月	和田山地区の中学校が集まり学年合唱を披露するため、そのための合唱指導を行った。曲目は 『夏の日の贈り物』と『春よ来い』であった。 急に子どもの声が出るようになったと音楽の先生他、みなさんに喜んでいただいた。
(27) 但馬中学校教育研究会音楽部会主催 第 31 回但馬中学校音楽科教育研究会講師 場所：養父市立八鹿青渓中学校 参加：音楽科教員 30 名	令和 4 年 10 月	学年合唱の授業研究会での指導助言を行なった。テーマは「イメージを伝え合い、協働する喜びを感じ取る」であった。『時の旅人』の学年合唱（75 名）の授業を参観した後、指導助言を行った。また発声等合唱についての悩みがいろいろだされたため、それについても助言を行い、大変先生方に喜んでいただいた。
(28) 摂津市教育研究会合唱講習会　講師 対象：摂津市音楽部教員、小学校教員 45 名参加 場所：摂津市立味舌小学校	令和 5 年 1 月	摂津市教育研究会より依頼があり、音楽専科が不在の摂津市の先生方に合唱指導の方法の講演、ワークショップを行った。歌唱導入の基礎から合唱指導の方法まで、実際に先生方に動きを伴った歌唱法をお伝えした。みなさん大変積極的に参加され、また積極的に質問もいただき盛り上がった講習会となった。今後も継続的に先生方と関わる方向になった。
(29) 神戸大学附属中等教育学校研究会 音楽科授業指導助言　講師 対象：音楽教員、学生　20 名 場所：神戸大学附属中等教育学校	令和 5 年 2 月	全国に向けて行われた音楽科研究授業の中学 3 年生創作と表現の授業の指導助言を務めた。また、研究協議会において、今回授業者が使った協同学習について音楽科参会者のみなさんに講演を行った。 今回は 20 名定員であったが、締め切り前に定員の上限となり、盛況であった。
(30) 徳島県教育委員会主催、ＮＨＫ学校音楽コンクール小学校の部・中学校の部・高等学校の部課題曲講習会　講師 対象：小・中・高等学校教員と児童・生徒 300 名 場所：徳島とくぎんプラザ	令和 5 年 8 月	ＮＨＫ学校音楽コンクール小・中・高等学校の部門の課題曲の講習を行う。部門別に課題曲の分析をレクチャーし、それぞれの部門ごとに実践指導を行った。呼吸法、発声法から曲に対するアプローチの仕方と、場面に合った声について助言した。好評につき継続依頼を受けている。
(31) 養父市立養父中学校で学年ごと全校生への合唱指導　講師 対象：中学生 300 名　教員 12 名 場所：養父中学校	令和 5 年 11 月	養父市立養父中学校で学年ごと全校生への合唱指導を行った。 どのように声を出すと合わせやすい声になるかなどの発声指導、楽曲分析を踏まえた歌い方、歌いやすい指揮法についてなど、今、必要だと思われた内容について生徒を指導しながら、先生方にお伝えした。
(32) 摂津市教育研究会合唱講習会　講師 対象：摂津市音楽部教員、小学校教員 35 名参加 場所：摂津市立味舌小学校	令和 6 年 1 月	昨年度に引き続き、摂津市教育研究会より依頼があり、音楽専科が不在の摂津市の先生方に卒業式に歌われる「旅立ちの日に」の合唱指導の方法の講演、ワークショップを行った。歌唱導入の基礎から合唱指導の方法まで、実際に先生方に動きを伴った歌唱法をお伝えした。みなさん大変積極的に参加され、また積極的に質問もいただき盛り上がった講習会となった。

職務上の実績に関する事項

事　　項	年月日	概　　要
1　資格、免許		
・中学校教諭 1 級普通免許状（音楽）	昭和 63 年 3 月	昭 62 中 1 普め第 1438（京都府教育委員会）
・高等学校教諭 2 級普通免許状（音楽）	昭和 63 年 3 月	昭 62 高 2 普め第 1466 号（京都府教育委員会）
・中学校教諭専修免許状（音楽）	平成 30 年 2 月	平 29 中専修第 157 号（兵庫県教育委員会）
・高等学校教諭専修免許状（音楽）	平成 30 年 2 月	平 29 高専修第 214 号（兵庫県教育委員会）

２　特許等 なし		
３　実務の経験を有する者について特記事項 (1)音楽科主任として 神戸大学発達科学部附属住吉校舎 神戸大学附属住吉中学校 神戸大学附属中学校(住吉校舎) 神戸大学附属中等教育学校	平成18年4月 ～ 平成29年3月	音楽教員として、毎年全国に向けて音楽科の研究授業の発信を行った。50名以上の参会者を対象に音楽科の研究会の活性化を図った。また、校内においても、歌声の溢れる学校になるよう、生徒が主体的に取り組める合唱練習のスタイルを構築した。
(2)コーラス部顧問・吹奏楽部顧問として (指揮者兼指導者) 神戸大学発達科学部附属住吉校舎 神戸大学附属住吉中学校 神戸大学附属中学校(住吉校舎) 神戸大学附属中等教育学校	平成18年4月 ～ 平成29年3月	平成18年度から3年間吹奏楽部の顧問を務め、神戸市吹奏楽コンクール金賞受賞、県大会銀賞受賞。近隣の催し物にも招待され、地域貢献につながった。 平成19年から10年間コーラス部の顧問を務めた。 コーラス部の受賞歴（平成20年以降） ・ＮＨＫ全国学校音楽コンクール全国大会中学校部門優良賞・金賞・銀賞受賞（合唱指揮・指導）計11回 ・ＮＨＫ全国学校音楽コンクール近畿大会中学校部門銀賞受賞（合唱指揮・指導）計6回 ・全日本合唱コンクール　全国大会中学校・高校部門・銀賞・金賞・最優秀賞受賞(合唱指揮・指導)計3回 ・兵庫県ボーカルアンサンブルコンテスト青少年の部最優秀賞、兵庫県教育委員会賞・兵庫県知事賞 神戸市教育長賞・金賞受賞(アンサンブル指揮・指導)計４回 ・神戸ユース賞受賞(コーラス部)（合唱指揮・指導）計5回 ・ＭＢＳコンクール西日本大会最優秀賞全国大会選出(合唱指揮・指導) ・全日本合唱コンクール関西大会高校部門　金賞受賞（合唱指導）計2回 ・声楽アンサンブルコンテスト全国大会中学・高校部門優良賞受賞、中学校部門金賞受賞(合唱指揮・指導)計2回
(3)学年主任として 神戸大学附属中等教育学校 神戸市立住吉中学校	平成23年4月 ～ 平成30年3月	附属学校では、2期生の学年主任、5期生の副主任(新しく高校から来られた先生を支えるため)、8期生の主任を務めた。その後転勤した神戸市立中学校でもすぐに1年生の主任を務めた。チーム学校の一員として学年をまとめ運営を行った。また、月1回の学年保護者会では必ず現状と今後の展望を伝え、授業参観や子ども観察の時間を設定した。その他、毎週学年便りを出し続け、保護者と連携を図った。
(4)神戸市音楽研究部研究委員として	平成29年度	平成31年度の近畿音楽研究大会発表に向けて、音楽の共通教材の研究を行った。小学校からつながる主体的な表現を生み出し、深い学びにつながる歌唱教材の指導法の提案をした。時数やカリキュラムの関係もあり、季節関係なく指導されている歌唱教材の扱いにも言及し、それが子どもの曲に対する思いにどの様な影響を与えるのかということも含め提案を行った。
(5) 頌栄短期大学　教務部委員として	平成30年4月 ～令和２年３月	新しく学部の3ポリシーを考え、決定した。また評価の可視化を目指し、ルーブリック等を提案した。教務ワーキンググループに所属し、短大生が主体的な研究活動ができる初年次教育のシラバスを作成した。また入学前課題と初年次教育の充実に向けて新しいカリキュラムを考案した。

(6) 頌栄短期大学　入試広報室委員として	平成30年4月～令和 2 年 3 月	オープンキャンパスの計画を含めた入試業務全般を行うと同時に、入試問題の問作も行った。また、入試の形態も来年度に向けて情報を集め学校の特色を生かしたものを考えた。
(7) 頌栄短期大学入試課題検討委員会ワーキンググループメンバーとして	平成31年4月～令和 2 年 3 月	学長任命による学部長を含む 5 人のメンバーの中の一人として、新しい入試制度に向けて、オープンキャンパスの在り方、学生募集の方法、教育内容の充実について意見を述べた。
(8) 頌栄短期大学ＳＤ委員会副委員長として	平成31年4月～令和 2 年 3 月	昨年度は年に 2 回しか行われなかった教職協働のＳＤ会議を月 1 回行うように企画、実践した。毎月それぞれの部署ごとでテーマを決め報告することを通し、お互いの仕事内容を知ることができ、より意思の疎通が図れるようになった。
(9)奈良学園大学広報課課員として	令和 2 年 4 月～現在に至る	人間教育学部における大学案内パンフレットの作成が滞りなく行われるように機能的に配置するなどの工夫を行い仕上げまで関わった。また、オープンキャンパス等も協働できるような仕組みを提案するなど積極的に広報活動に取り組んだ。
４．その他（声楽家・指揮者としての活動） (1)兵庫教育大学演奏会ソプラノ独唱で出演 宝塚ベガホール 観客 350 人	平成 26 年 1 月	演奏会出演学内オーデションを経て、ソプラノ独唱で日本歌曲とイタリア歌曲を宝塚ベガホールで披露した。曲目①秘めごと(トスティー作曲)②4 月(トスティー作曲)③『沙羅より』北秋の(信時潔作曲・清水重道作詞)　3 曲とも愛を歌った曲。①は秘めたる愛、②は愛の季節と呼びかける明るい愛、③は北国の秋の険しい山道の野辺に咲く名もない白い小さい花を、好きな相手になぞらえて呼ぶ歌である。
(2)頌栄短期大学　チャペルコンサート ソプラノ独唱　　観客 230 人	平成 30 年 11 月・令和元年 11 月	音楽礼拝としてソプラノ独唱を行った。作曲者の違うアベマリア 4 曲①カッチーニ②マスカーニ③バッハ/グノー④シューベルト、1 曲ずつ歌詞の解説や曲の特徴について述べ歌った。
(3)関西合唱連盟主催レーディースコーラスフェスティバル指揮 西宮芸術文化会館　観客 2500 人	平成 31 年 2 月	指導している団の指揮者として出演。曲目：①女声合唱組曲「悲しみの意味」星野富弘作詩、なかにしあかね作曲　②「はなみずき」マシコタツロウ作詞、一青窈作曲を披露した。
(4)兵庫県合唱祭　一般女声コーラスグループ指揮 伊丹ホール　観客1800 人	令和元年 6 月	兵庫県合唱連盟主催の兵庫県合唱祭において、一般部門のコーラスグループの指揮者として出演。①さくら　御木白日作詞、大熊崇子作曲②さくらさくら　日本古謡を披露した。
(5)盲導犬チャリティーコンサート 女声コーラス指揮　　ピフレホール 観客 350 人	令和 2 年 1 月	チャリティーコンサートに出演し、女声合唱の指揮をし、優秀賞受賞。曲目①『いのちの歌』MIYABI 作詞、松村崇継作曲②『Ave Maria』G.Caccini 作曲、江上孝則編曲を披露した。
(6)関西レディースコーラス　女声合唱団指揮 池田市アゼリア大ホール　観客 300 人	令和 2 年 2 月	関西の女声合唱団が集う合唱祭で合唱団を指揮。 ①『You Raise Me Up』Brendan Joseph Graham 作詞、Rolf Lovland 作曲②『The Rose』Amanda McBroom 作詞作曲を披露した。
(7)盲導犬チャリティーコンサート 女声コーラス指揮　ピフレホール	令和 3 年 1 月	チャリティーコンサートに出演し、女声合唱の指揮をする。今回はコロナ禍の為は賞は一切なしでの発表会

観客 250 人		となった。曲目①『SWEET MEMORIES』松本隆作詞、大村雅朗作曲、石若雅弥編曲②『天使のウィンク』尾崎亜美作詞・作曲、石若雅弥編曲を披露した。
(8) 盲導犬チャリティーコンサート 女声コーラス指揮　ピフレホール 観客 350 人	令和 5 年 1 月 21 日	チャリティーコンサートに出演し、女声合唱の指揮を行った。今年度はコロナ禍ということもあり、賞は設けていなかったので賞は送られなかったが、演奏後に「すごい！」という声が観客から漏れ聞こえてきたほど好評であった。曲目：君が君に歌う歌　作詞：Elvis Woodstock　作曲：大島ミチル
(9) 神戸教員合唱団チャリティー演奏会 合唱団指揮　ピフレホール 観客 300 人	令和 5 年 2 月 25 日	兵庫県の幼稚園から大学までの教員の音楽研修の場として発足した合唱団。指揮者並びに指導者として、毎年 2 回、震災遺児・孤児対象のチャリティーコンサートや児童養護施設訪問を行っている。今回は『にほんのうた』作曲：寺嶋陸也　作詩：野口有情、北原白秋他。『群青』作曲：小田美樹、編曲：信長貴富を演奏。震災孤児支援のレインボーハウスに寄付。
(10) 関西レディ―スコーラスフェスティバル 合唱団エメロード指揮 場所：アクリエ姫路（大ホール） 観客：2000 人	令和 5 年 2 月 26 日	関西の女声合唱団が集う合唱祭で合唱団を指揮。 曲目:『君が君に歌う歌』　作詞:Elvis　Woodstock　作曲：大島ミチル作詞作曲を披露した。
(11)兵庫県合唱祭 合唱団エメロード指揮 場所：いたみホール 観客：1800 人	令和 5 年 6 月 11 日	兵庫県合唱連盟主催の兵庫県合唱祭において、一般部門のコーラスグループの指揮者として出演。 ①曲目：『みやこわすれ』作詞：野呂さかん　作曲：千原英喜 ②曲目：『For the beauty of the earth』作詞：F.S.PIERPOINT 作曲：JHON RUTTER
(12) 盲導犬チャリティーコンサート 女声コーラス指揮 場所：　ピフレホール 観客：350 人	令和 6 年 1 月 20 日	昨年度に引き続きチャリティーコンサートに出演し、女声合唱の指揮を行った。 曲目：『はっか草』作詞：野呂さかん 作曲：千原英喜 満員の聴衆の中で良い響きで女声合唱の魅力を伝えることができていたと好評であった。
(13) 神戸教員合唱団チャリティー演奏会 合唱団指揮 場所：西神中央ホール 観客: 300 人	令和 6 年 2 月 24 日	兵庫県の幼稚園から大学までの教員の音楽研修の場として発足した合唱団。指揮者並びに指導者として、毎年 2 回、震災遺児・孤児対象のチャリティーコンサートや児童養護施設訪問を行っている。今回は『歌い継ぎたい日本の歌(秋冬編)』を演奏。震災孤児支援のレインボーハウスに寄付。 また、須磨少年少女合唱団と合同で震災後に作曲された『群青』の合同合唱も指揮者として関わった。
(14)ソプラノ独唱 Spring　チャリティーコンサート ～森瀬智子と仲間たち～ 場所：西宮市フレンテホール 観客：300 人(満席)	令和 6 年 3 月 20 日	これまでの声楽の研究発表として演奏会を主催した。 曲目：『小さな空』『死んだ男の残したものは』 作曲：武満徹 曲目：『Ave　Maria』 作曲：F.Schubert,　P.Mascagne,　C.Gounod 曲目：『トルコ行進曲』作曲：W.A.Mozart 曲目：『花』　作曲：滝廉太郎 その他 5 曲をアンサンブルし、合唱指揮も行なった。 演奏会の 1 か月前より満席の状態で、沢山の方にご来場いただき、「感動した」「涙した」など多くのおほめのお言葉をいただいた。合唱については過去のコーラス部での教え子 44 名による合唱の指揮を行なった。 西宮市文化財団と兵庫県合唱連盟後援。

研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
(著書) (1)令和3年度中学校の音楽教科書指導書	共著	令和3年4月	教育芸術社 1年 2・3年上 2・3年下 の合唱曲の指導案と解説合計12 頁執筆担当	(全体概要)新しい指導要領を受けて、令和3年度の中学校の音楽の教科書の曲より、教員が指導しやすいように学習指導案やポイントを解説。 (担当部分概要)　全12頁 平成29 年度告示の指導要領を受けての初の中学校の教科書の指導書である。新しい3観点に沿って解説をいれ、合唱曲4曲の指導案と解説を作成した。 曲目：1年『Let`s Search For Tomorrow』 『君をのせて』 2・3年上『メッセージ』 2・3年下『きみとともに』
(2)『現場で役立つ保育実技』運動・ことば・音楽・造形あそびからSTEAM 教育を取り入れた保育実践まで	共著	令和5年9月	ふくろう出版 岡野 聡子編著 10. 歌唱指導のコツ、練習の仕方 pp. 50, 51	(全体概要)　保育者を目指す学生や保育者として働き始めた方のために、経験豊かな各専門分野の先生方が保育現場で取り入れてほしい製作、絵画、絵本の読み聞かせ、素話、手遊び、パネルシアター、劇遊び、リズム遊び、運動遊び、弾き歌いなどの実技を紹介する基礎的な実践書である。 (担当部分)レッスン4の「音楽あそび」の10. 歌唱指導のコツ、練習の仕方の中で、声についての発達段階等を示した後、『お花がわらった』を例に歌唱指導方法を示した。
(学術論文) (3)生涯に渡り多様な音楽に親しむことのできる音楽力の育成	単著	平成26年3月	神戸大学附属中等教育学校住吉校舎 2013年度 研究紀要 pp. 94-105.	ベートーヴェンの交響曲第9番の背景や仕組みを理解した上で、比較鑑賞から協同学習の手法を用いて合唱表現を工夫する試みの音楽科指導法を論じた。混声四部合唱に対する関心・意欲と協同学習に関する質問紙調査、合唱表現に対する質問紙調査、相互視聴による技能評価を行い分析した。視点は①観点別役割分担を用いた協同学習による聴く力と表現力の変容②協同学習を用いた比較視聴による知覚・感受の結び付きの深まりとした。結果、実験群において聴き方・歌い方について明らかな有意差が見られた。
(4)音楽科 『歌声で表現しよう』	単著	平成27年2月	神戸大学附属中等教育学校授業研究会 2014年度　研究紀要 pp. 53-58.	小・中の連携を考え、中学1年生でカノンと大循環コードを用いてミニキーボードを使って創作をし、声で歌い合わせる単元を提案した。カノンは小学校で既に学習しているが、コードについては学習していない。自分の既習の知識と新しく得る知識を組み合わせる創作活動は、音楽科教育における小・中の連続性を意識することにつながること、またカノンと循環コードを扱うことで聴くことに注意が集まり、音価・音高の聴く力の高まりが見られることを論じた。
(5)生涯に渡り多様な音楽にした親しむことのできる音感の育成 ―創作アンサンブルにおける読譜力の高まりについて―	単著	平成27年4月	神戸大学附属中等教育学校住吉校舎 2014年度 研究紀要 pp. 77-84.	単元「カノンと大循環コードを使って創作」において，グループでコードを用いた創作活動に協同学習の手法を取り入れることにより生徒の読譜力を効果的に高めることを明らかにした。分析結果より、本実践による①創作アンサンブルにおける読譜力については、事前事後のアンケートにより高まりがみられ、創作ワークシートから音符の理解が深まったことが明確になった。
(6)協同学習を用いた中学生の読譜力の育成に関する研究 ―カノンの創作活動への応用を通して―　(修士論文)	単著	平成28年3月	兵庫教育大学 A4版　全105頁	グループでキーボードを用いてコードを用いた創作活動に取り組むことにより、中学生の読譜力を効果的に高めることをねらいとした。読譜力の高まりを見るために，事前事後の読譜力調査の検定を通して分析した。幼児期の音楽経験の有無や歌遊び等の音楽経験が、その後児童生徒の音楽を愛好する情意面に影響するのか分析を行った結果、関連性が見えてきた。この調査結果を基盤にして、音楽科の指導方法に工夫を加えた。

(7) カリキュラム開発と評価研究の方法 ―汎用的能力論と新学習指導要領の方向性を踏まえて―	単著	平成29年2月	神戸大学附属中等教育学校平成28年度授業研究会紀要 pp. 39-43.	小学校との共同研究より、小学校から中等教育学校まで子どもたちに大切にしてほしい音楽教科に関わる汎用的能力論について述べた。また中等においては、基礎期（1・2年）、充実期（3・4年）とし、それぞれの区分で音楽の4領域で学ぶことを述べた。小学校から中学校までの音楽家の教育目標や内容について整理した。
(8) 生涯に渡り多様な音楽に親しむことができる音感の育成 ―コミュニケーションを通して―（音楽科）	単著	平成29年4月	神戸大学附属中等教育学校2017年度紀要 pp. 103-115.	協同学習の利点を活用して生徒の読譜力を高めることを試みた。単元「カノンと大循環コードを使って創作」の実践でグループでコードを用いた創作活動に取り組んだ。事前の聴き取り調査を基に、グループの力が均等になるようにした。協同学習においてはグループ分けが授業内容に大きく左右すると明らかになった。
(9)「保育内容(表現)」における音楽表現を用いたアクティブ・ラーニングの取り組み	単著	平成30年3月	頌栄短期大学論叢1号 pp. 65-75.	「表現」を真摯に実行する授業方法としてアクティブ・ラーニングを取り入れた授業の試案である。音楽表現の詳細な場面設定から幼児の表現過程での喜びや工夫を気付かせる方法を、意見を交流させながら思考し，判断し，意思決定する授業を行った。主体的に学ぶコミュニケーション活動を重視した教育により，実際の保育現場においても同僚性を活かし課題解決することができる。
(10)「保育内容(表現)」における協同学習を用いた音楽表現	単著	平成30年8月	頌栄短期大学論叢2号 pp. 1-13.	アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を実施した。幼児が表現できるための環境設定を協同学習のしくみを考え，話し合い，判断し，意思決定する授業を行う。このような主体的に学ぶ力を育てるためにコミュニケーション活動を重視した方法をとった，お互いが表現しやすい雰囲気が生まれた。そのことがより深く幼児の音楽表現を理解することに繋がったことを論じた。
(11)「保育者論」における協同学習によるアクティブ・ラーニングの実践	単著	平成31年3月	頌栄短期大学論叢3号 pp. 22-31.	「保育者論」の授業で，協同学習の手法を用いた授業を展開しながら，保育者の資質と技能を明らかにした。保育者として身につけるべき力を理解し，現在の力を自身で分析する。また、目指す保育者像に近づくために学生自ら、課題解決法を考え，計画を立て，そのための行動計画を他者の前で発表することで，学生の「対人関係能力」「他者と協働する力」「主体的に課題を発見し，解決に導く力」を育むことを目指した。
(12) 音楽表現につながる読譜力育成に関する研究 ～協同学習を用いたカノンの創作活動への応用を通して～	単著	平成31年3月	頌栄短期大学紀要第43巻 pp. 59-72.	協同学習の利点を活用して，コードを用いた創作活動に取り組むことで中学生の読譜力を効果的に高めると論じた。読譜力の高まりを評価するため，事前事後の読譜力調査を検定を通して分析を試みた。調査内容は，音価・音高・コード・長短和音の4項目とした。いずれの項目も能力の伸長は見られ，特にコードにおいて事前と事後の調査で有意差がでた。音価の方が音高よりもより早く獲得できることも明らかになった。
(13) 保育者・教員養成校における初年次教育の取り組み ～基礎演習におけるレポート課題とその実践と評価について～	単著	令和元年8月	頌栄短期大学論叢4号 pp. 1-13.	1年生の基礎演習の1年間の取り組みについて述べた。2年後を見据えて学内のポリシーに沿って、短期大学卒業時をイメージして、入学前課題の取り組みから1年生前期までで学生につけたい力を考え、可視化した。学生92名に対して、アクティブ・ラーニングで協同学習の手法を用いたゼミ形式も、教員14名全員で担当し、きめ細やかな指導方法で臨んだ。
(14) 初等科音楽と中等科音楽の学習内容の連携に関する考察 ―新学習指導要領における教材「カノン」の活用―	単著	令和2年1月	奈良学園大学 人間教育、3(1) pp. 17-26	幼稚園・小学校・中学校の3つの学習指導要領の総則から見える連続性について、新指導要領の方向性と汎用的能力について現行指導要領との比較から論じた。その上で、小学校中学校別の新学習指導要領音楽の教科目標の整理、3つの柱別の学年目標項目による学年別の整理、領域の観点別による小学校と中学校の内容の整理を通して、小学校と中学校における連携の必要性と学習内容の連続性について、題材「カノン」の指導内容から提案した。

(15)　音楽教育における合唱指導の変遷―発声指導に着目して―	単著	令和2年12月	奈良学園大学　紀要 第13集 11頁	唱歌の始まりである明治期と現在の学校音楽教育までを、学習指導要領における歌唱技能の発声と合唱の変遷を辿った上で、学校教育における現在の合唱活動について考察したものである。また一番合唱活動が盛んであった頃1955年に出版された品川三郎の『児童発声』を『日本声楽発声学会関西支部学会誌』(2015年度)に基づき発声法の根幹をなす歌唱（合唱）呼吸について妥当性を検討した。
(16)小学校・中学校音楽科の歌唱(合唱)授業の一考察 ―歌唱技能に関する意識と実態―	単著	令和3年6月	全国大学音楽教育学会　関西地区学会誌 ≪第2号≫ 6頁	コロナ前後における歌唱指導の変化についてのアンケート調査より、小学校・中学校音楽教員がコロナ前まで子どもの発達段階を考えて、どのように歌唱に関する指導を行っていたのか、またコロナ禍での現行の指導がコロナ前に比べてどのように変化しているのかを明らかにした。また現在の中学生が小学校、中学校でどのような歌唱指導を受けてきているのかも明らかになった。これらから、まず腹式呼吸法の会得と指導ができることや発達段階に合わせた歌唱指導のための声掛けのバリエーションを多く持つことを含めた変声期における歌唱指導の重要性が明らかになった。
(17)新学習指導要領における音楽科検定教科書の研究 ―「主体的・対話的で深い学び」に着目して―	単著	令和3年12月	奈良学園大学　紀要 第14集 10頁	2社の検定教科書では，生徒自身が身に付けることができる学力を確かめながら主体的に取り組むことができる工夫や，学びのねらいや学習内容を分かり易く俯瞰できるような構成になっていた。また生徒の興味を喚起し，関心を高める工夫や学びの手順，展開や工夫の視点を具体的に示し，協働的・対話的な活動を見据えて，分かり易く進んで学び合う活動ができるようになっており，どのように生徒が学ぶのかを主眼とした生徒自らが学習に取り組みやすい教科書の内容に発展していることが分かった。
(18)　中学校音楽鑑賞領域における体験型教材の研究 ―検定教科書掲載曲を用いて―	単著	令和5年3月	奈良学園大学　紀要 第15集 10頁	現行の鑑賞授業の手法に、アメリカでブース（2016）が提唱するティーチング・アーティスト（以下ＴＡ）が教育のために用いている体験型音楽鑑賞の考え方から久保田（2019）が示したエントリーポイントやアクティビティを活用、融合させた音楽科授業の提案を行った。体験型教材として扱う楽曲は、久保田（2019）『新しい音楽鑑賞～知識から体験へ～』第8章「室内楽」に掲載されているヴィヴァルディの『四季』から「春」の第一楽章とした。
(その他　依頼原稿) (2)特集　授業の始めの5分でできる発声練習ウォーミングアップ呼吸法　呼吸が良い声への鍵を握る	単著	平成26年5月	『教育音楽』6月号 （音楽之友社） pp. 32-33.	授業の最初に短時間でしかも継続できる呼吸法と発声指導の紹介した。呼吸は、実際写真によって、どの様な動きで、腹横筋や腹直筋、肋間筋などどこの筋肉をいかに使えばよいのか、またその効果的なトレーニング方法。そして理論を知って実践する大切さも述べた。見えない身体の中を映像の動画で可視化することで、一つひとつの動きに敏感になり、短時間でも成果が上がることを解説した。
(3)特集　生徒の歌声を聴く力「聴く力をレベルアップするために」	単著	平成27年4月	『教育音楽』5月号 （音楽之友社） pp. 32-33.	特集　増やそう！歌唱指導で使える言葉　本当に使える言葉かけ「楽しい気分になる～夢の国の住人を使って～」において、歌唱指導の際こどのような言葉を使うと子どもの声が変化するのかをについて事例紹介と説明を行った。また、体の使い方を知ることで、自然な声で歌えることについても言及。どのような言葉、音色で声をかけると良いのか、またその継続の必要性についても音感を育てる視点に立って解説した。
(4)特集　校内合唱コンクールに向けてパート練習をレベルアップ 「理想的なパート練習とは」	単著	平成27年8月	『教育音楽』9月号 （音楽之友社） pp. 29-36.	混声合唱練習において、主体的に学生・生徒・児童を対象とした協同学習を用いたパート練習の具体的手法を紹介した。ピアノを弾ける者がいない場合についても言及。そしてその方法を解説。また、主体的に取り組むことで汎用的能力としてのどのような力がつくのか、そしてどのような表現力が向上するのかについて述べた。生徒をやる気にさせる教師の言葉かけ等、すく授業で使える方法を述べた。

(5)特集　表現力アップ！ 合唱曲アナリーゼ大作戦 「指導に生かすアナリーゼ」	単著	平成27年12月	『教育音楽』1月号 （音楽之友社） pp. 36-38.	小・中学校の生徒に、そして先生方に人気曲である『時を越えて』柳野知子作詞・作曲の合唱曲分析方法を紹介。まず、曲の構造を知ること。曲の鍵は伴奏にあり、伴奏を見ると、和音なのか、分散和音なのか、どの音符が多いかで分析し、その音楽を歌に生かすことで表現力が豊かになる例を紹介。伴奏の弾き方も言及した。
(6)特集「困った時の発声指導」について	単著	平成28年4月	『教育音楽』5月号 （音楽之友社） pp. 27	困った時の発声指導の解決策として、うたう声が小さい時のアプローチや指導について解説。また、子どもの声のために指導者が配慮すべきこと。幼児から児童生徒までを対象に教える側の理解について述べた。その知っておくべきことを使ってできる、授業ですぐに使える発声指導方法も紹介し、すぐできる指導を考えて述べた。
(7)短時間で上達する 合唱指導	単著	平成28年9月	『教育音楽』10月号 （音楽之友社） pp. 29-30.	限られた短い時間で合唱のパート練習を紹介した。パートリーダーを育てること、パートリーダーが先生となって相談しながら自分たちの音楽を創っていくこと。音楽を楽しく表現する上で、子どもが主体的に表現できる方法や小中高等学校におけるクラスでの合唱指導の上で大切なパートリーダーの育成方法について述べた。
(8)特集　卒業の歌を磨く「今からでも間に合う！ 卒業ソングの攻略法」	単著	平成29年1月	『教育音楽』2月号 （音楽之友社） pp. 40-43.	小学校や中学校で使える合唱曲『奇跡』若松歓作詞・作曲『前へ！』ruriko作詞・作曲の2曲の紹介と楽曲分析。指導ポイントを解説。また、ピアノで伴奏する際に気を付けるべきこと、やどのように伴奏にアプローチすればよいのかなど、伴奏から曲を読み解き、表現する方法を解説し、注意すべき点についても言及した。
(9)とっておき！私のお役立ちソフト	単著	平成29年8月	『教育音楽』9月号 （音楽之友社） pp. 74	「レッツパー練4」CDを紹介。ポップスを編曲した合唱曲など、小学校・中学校で実際CDを用いて聞きながら練習をし、即歌うことができるCDを紹介。子どもから大人までが幅広く使えるレパートリー曲が集められており、パートの音取りだけに活用するのではない、パート別CDの活用法の可能性についても解説している。小学校・中学校・高等学校の音楽会等でも活用できるものであることを述べている。
（学会発表等） (1)「第9に迫る」 授業・提案	—	平成26年2月	神戸大学附属中等教育学校教育研究協議会	生涯にわたり多様な音楽に親しむ人間力の育成を目指し、音楽史・鑑賞・合唱を組み合わせた単元「第9に迫る」を作った。第九の背景とベートーヴェンと時代について協同学習で学んだ後、第九の比較鑑賞を通して様々な曲の表現方法を理解した。最後に原語で第九の部分合唱を行った。比較鑑賞を通して生徒の表現力が高まることが分かった。
(2)「古から今へ、歌人になろう」 授業・提案	—	平成27年2月	神戸大学附属中等教育学校 神戸市研究部会創作領域研究協議会	5音音階を使って箏を用いて小集団で作曲を行う。生徒が作った短歌に歌をつける活動として、①日本音階の中で沖縄音階・律音階・都音階・民謡音階のどれかを選択②曲の形態、長唄風、歌唱独唱風、アカペラ合唱風、ポップス風の中からそれぞれ選択して班の短歌に合った曲を箏を使って創作する活動の提案授業。箏の譜面を用いたため、楽譜に苦手意識のある生徒も取り組むことができた。
(3)「カノンと大循環コードを用いた創作Ⅰ」授業・提案	—	平成27年2月	神戸大学附属中等教育学校	中等教育学校 1 年生の生徒の読譜力を育成する研究授業と実践発表を行った。その中で協同学習を用いた創作アンサンブルにおける読譜力の高まりおよび情意面の変容を分析した。また、高校3年の生徒に対して音感力をつけるために継続的にこの単元に取り組ませたところ、音程感、リズム感の向上

				がともに見られた。
(4)「カノンと大循環コードを使って創作Ⅱ」授業・提案	―	平成29年2月	神戸大学附属中等教育学校	1年生の創作単元研究3年目の発表である。大循環コードとカノンを用いるが、経過音を入れても良い、という課題の条件を増やした。このことによって、より多様な旋律を創作することが可能になり、前回よりも生徒の取り組みも活発になった。このような課題の条件の内容が生徒の音選びの力をつけることになることの提案を行った。
(5)「子どもの主体性を育む協同学習について」　提案	―	平成29年10月	神戸市立住吉中学校 人権教育東灘ブロック研修会 神戸市教育委員会主催	幼・小・中・高の教員対象に実践報告とワークショップを行った。中学1年生に7か月様々な授業で協同学習の手法を用いたことによる生徒の変容と活動内容について報告した。結果、自己肯定感が高まり、活動的、協働的になったが、それはどのような仕組みを用いることで力がついてきたのか、パワーポイントで実際の映像を用いて説明を行った。

別記様式第４号（その２）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　研　究　業　績　書

令和 6 年 3 月 31 日

氏名　　山田　明広

研究分野	研究内容のキーワード
哲学、文学、文化人類学	漢文学、中国哲学、中国文学、文化人類学

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
１　教育方法の実践例 （１）画像・映像資料を活用した分かりやすい授業の実践	平成26年4月1日～平成30年3月31日	関西大学文学部総合人文学科の非常勤講師として平成 26 年 4 月～平成 28 年 3 月に担当した「現代アジアと日本 1」（専門教育科目、２年次以降配当、春学期、選択２単位）および「現代アジアと日本 2」（専門教育科目、２年次以降配当、秋学期、選択２単位）、平成 28 年 4 月～平成 30 年 3 月に担当した「アジアの伝統文化と現代Ⅰ」（専門教育科目、２年次以降配当、春学期、選択２単位）および「アジアの伝統文化と現代Ⅱ」（専門教育科目、２年次以降配当、秋学期、選択２単位）において、また、奈良県立医科大学医学部教養教育部門の非常勤講師として平成 28 年 4 月～平成 28 年 9 月に担当した「アジア文化論」（講義科目、１年次配当、前期、必修１単位）において、本人が現地で撮影した写真および映像を用いて中国・台湾の宗教事象を中心とする諸文化を解説することにより、学生が授業内容について理解しやすくなっているとともに、興味を持つようになった。
（２）リアクションペーパー使用による授業改善の工夫	平成26年4月1日～平成 30 年 3 月 31 日	関西大学文学部総合人文学科の非常勤講師として平成 26 年 4 月～平成 28 年 3 月に担当した「現代アジアと日本 1」（専門教育科目、２年次以降配当、春学期、選択２単位）および「現代アジアと日本 2」（専門教育科目、２年次以降配当、秋学期、選択２単位）、平成 28 年 4 月～平成 30 年 3 月にかけて担当した「アジアの伝統文化と現代Ⅰ」（専門教育科目、２年次以降配当、春学期、選択２単位）および「アジアの伝統文化と現代Ⅱ」（専門教育科目、２年次以降配当、秋学期、選択２単位）において、花園大学文学部文学部日本文学科の非常勤講師として平成 26 年 4 月～平成 30 年 3 月にかけて担当した「中国文学史Ⅰ」（講義科目、１年次以降配当、前期、選択２単位、中高１種国語科教員免許取得のための科目）および「中国文学史Ⅱ」（講義科目、１年次以降配当、後期、選択２単位、中高１種国語科教員免許取得のための科目）において、また、奈良県立医科大学医学部教養教育部門の非常勤講師として平成 28 年 4 月～平成 28 年 9 月に担当した「アジア文化論」（講義科目、１年次配当、前期、必修１単位）において、適宜リアクションペーパーを使用して受講生から授業に対する感想・要望・質問を聞き、授業改善に生かした。また、寄せられた質問については、後の授業にて可能な限り回答するなど、学生との意思疎通を図った。

（３）効果的な漢文教育法の実践	平成26年4月1日～現在に至る	花園大学文学部文学部日本文学科の非常勤講師として平成26年4月～平成30年3月20日に担当した「漢文学Ⅰ」（講義科目、１年次以降配当、前期、選択２単位、中高１種国語科教員免許取得のための科目）および「漢文学Ⅱ」（講義科目、１年次以降配当、後期、選択２単位、中高１種国語科教員免許取得のための科目）において、また、奈良学園大学人間教育学部人間教育学科非常勤講師、同大学同学部同学科の特任講師、同大学同学部同学科の専任講師および同大学同学部同学科の准教授として平成28年4月～現在まで担当している「漢文学入門」（専門科目、２年次以降配当、前期、選択２単位、中高１種国語科教員免許取得のための科目）および「漢文学Ⅰ」（専門科目、２年次以降配当、後期、選択２単位、中高１種国語科教員免許取得のための科目）において、漢文法および漢文句法を受講生に一通り網羅的に解説し演習問題を解かせて理解・定着させた上で漢文の文章読解を行わせることにより、受講生が比較的正確で安定的に漢文を読解することが可能となった。
（４）パワーポイントの効果的活用による分かりやすい授業の実践	平成26年11月27日・平成27年11月30日・平成28年4月～平成30年3月31日	関西大学文学部総合人文学科の非常勤講師として平成 26 年 4 月～平成 28 年 3 月に担当した「現代アジアと日本 2」（専門教育科目、２年次以降配当、秋学期、選択２単位）において、平成 28 年 9 月～平成 30 年 3 月に担当した「アジアの伝統文化と現代Ⅱ」（専門教育科目、２年次以降配当、秋学期、選択２単位）の全講義において、また、奈良県立医科大学医学部教養教育部門の非常勤講師として平成 28 年 4 月～平成 28 年 9 月に担当した「アジア文化論」（講義科目、１年次配当、前期、必修１単位）の全講義において、パワーポイントで作成したスライドを全面的に活用することにより、学生にとって視覚的に見やすくまた理解しやすい授業を実践している。その結果、奈良県立医科大学の講義において実施したリアクションペーパーにおいては、見やすく分かりやすいといった類の意見が多数寄せられた。
（５）フィールドワークを取り入れた効果的な授業の実践	平成30年4月1日～現在に至る	奈良学園大学人間教育学部人間教育学科専任講師および同大学同学部同学科准教授として平成 30 年４月～現在まで担当している「人間教育学ゼミナールⅠ（基礎）」（専門科目、３年次配当、通年、必修４単位）のうち、「中華圏の祭祀文化」に関する授業において、先に中華圏の廟と祭神、祭祀に関して講義を行い、その後、神戸および横浜の関帝廟の訪問や横浜中華街の関帝誕という祭りの見学を行うなど現地調査を行うなど実際に中華圏の廟や祭りの様子を目にすることで、学生の授業内容に対する理解度が大幅に高まった。
（６）問題解決能力を養わせるための授業の実践	令和元年4月1日～現在に至る	奈良学園大学人間教育学部人間教育学科専任講師および同大学同学部同学科准教授として令和元年４月～現在まで担当している「人間教育学ゼミナールⅡ（応用）」（専門科目、４年次配当、通年、必修４単位）において、前年度に基礎的な知識を講義し、その上で大まかなテーマを与えて受講生に順番に発表させ、そして、全体で討論させることにより、受講生に自ら問題を発見して考え、調査し、解決するという能力を養わせた。

2　作成した教科書，教材 （1）オリジナルプリント教材の作成	平成23年4月1日 ～現在に至る	関西大学文学部総合人文学科の非常勤講師として平成 23 年 4 月～令和 5 年 3 月まで担当した「中国思想文化論 1」（専門教育科目、2 年次以降配当、春学期、選択 2 単位）および「中国思想文化論 2」（専門教育科目、2 年次以降配当、秋学期、選択 2 単位）、平成 24 年 4 月～平成 25 年 9 月に担当した「漢字・漢文論 1」（専門教育科目、2 年次以降配当、春学期、選択 2 単位）、平成 26 年 4 月～平成 28 年 3 月に担当した「現代アジアと日本 1」（専門教育科目、2 年次以降配当、春学期、選択 2 単位）および「現代アジアと日本 2」（専門教育科目、2 年次以降配当、秋学期、選択 2 単位）、平成 28 年 4 月～平成 30 年 3 月に担当した「アジアの伝統文化と現代Ⅰ」（専門教育科目、2 年次以降配当、春学期、選択 2 単位）および「アジアの伝統文化と現代Ⅱ」（専門教育科目、2 年次以降配当、秋学期、選択 2 単位）において、花園大学文学部文学部日本文学科の非常勤講師として平成 26 年 4 月～平成 30 年 3 月に担当した「中国文学史Ⅰ」（講義科目、1 年次以降配当、前期、選択 2 単位、中高 1 種国語科教員免許取得のための科目）および「中国文学史Ⅱ」（講義科目、1 年次以降配当、後期、選択 2 単位、中高 1 種国語科教員免許取得のための科目）において、奈良県立医科大学医学部教養教育部門の非常勤講師として平成 28 年 4 月～平成 28 年 9 月に担当した「アジア文化論」（講義科目、1 年次配当、前期、必修 1 単位）において、また、奈良学園大学人間教育学部人間教育学科専任講師および同大学同学部同学科准教授として令和元年 4 月～現在まで担当している「漢文学Ⅱ」（専門科目、2 年次以降配当、前期、選択 2 単位、中高 1 種国語科教員免許取得のための科目）において毎時間、事前に要点をまとめたオリジナルのプリントを作成し、そのプリントを使用して講義することで、学生の理解に資している。
3　教育上の能力に関する大学等の評価 （1）関西大学文学部総合人文学科平成26年度春学期における学生による授業評価アンケート	平成 26 年 9 月	「中国思想文化論 1」および「現代アジアと日本 1」について受講学生による授業評価アンケートを実施し、いずれの科目もほとんどの項目において評価平均が 4.0（満点 5.0）以上であった。特に、「総合的に判断してこの授業は意義のあるものであった」という項目については、「中国思想文化論 1」では評価平均が 4.1 に、「現代アジアと日本 2」では評価平均が 4.1 となり、いずれも全学の平均である 4.0 を超えることができた。
（2）関西大学文学部総合人文学科平成26年度秋学期における学生による授業評価アンケート	平成 27 年 3 月	「中国思想文化論 2」および「現代アジアと日本 2」について受講学生による授業評価アンケートを実施し、「総合的に判断してこの授業は意義のあるものであった」という項目についての評価平均が「中国思想文化論 2」では 4.1 に、「現代アジアと日本 2」では 4.2 となり、いずれの科目においても全学の平均 4.0 を超えることができた。
（3）関西大学文学部総合人文学科平成27年度春学期における学生による授業評価アンケート	平成 27 年 9 月	「中国思想文化論 1」について受講学生による授業評価アンケートを実施し、多くの項目においてその評価平均が全学平均および文学部平均を超えた。特に、「総合的に判断してこの授業は意義のあるものであった」という項目については、評価平均が 4.2 となり、全学平均 4.0 および文学部平均 4.1 を超えることができた。

（4）関西大学文学部総合人文学科平成27年度秋学期における学生による授業評価アンケート	平成 28 年 3 月	「中国思想文化論 2」について受講学生による授業評価アンケートを実施し、ほとんどの項目においてその評価平均が全学平均および文学部平均を超えていた。特に、「総合的に判断してこの授業は意義のあるものであった」という項目については、評価平均が 4.2 となり、全学平均 4.0 および文学部平均 4.1 を超えることができた。
（5）近畿大学法学部平成27年度後期における学生による授業評価アンケート	平成 28 年 3 月	「中国語総合 2」について受講学生による授業評価アンケートを実施し、「この教員の授業を 10 点法で評価して下さい」という項目についての平均値が 8.6 となり、全科目平均の 8.3 を超えることができた。また、「とても分かりやすかった」や「説明が丁寧であった」といった類のコメントが多数寄せられるなど、高い評価が得られた。
（6）花園大学文学部日本文学科平成27年度後期における学生による授業評価アンケート	平成 28 年 3 月	「漢文学Ⅱ」および「中国文学史Ⅱ」について受講学生による授業評価アンケートを実施し、いずれの科目もほとんどの項目において学生による評価の平均値が全学平均を超えることができた。特に、「先生の授業に対する取り組みに熱意や情熱を感じられますか」という項目については、前者が 4.0（満点 5.0）、後者が 4.28 といずれも比較的高い評価が得られた。
（7）奈良県立医科大学医学部看護学科平成27年度における学生による授業評価アンケート	平成 28 年 3 月	「中国語」について受講学生による授業評価アンケートを実施し、「総合的に満足できる授業であった」という項目についての平均値が 4.57（満点 5.0）となり、全体平均 4.1 を大きく超えるなど、高い評価が得られた。
（8）奈良教育大学教育学部教育学科平成28年度前期における学生による授業評価アンケート	平成 28 年 9 月	「中国語」および「漢文学特論」について受講学生による授業評価アンケートを実施し、両科目ともほとんどの項目において学生による評価の平均値が全学平均を超えることができた。また「わかりやすい授業であった」といった類のコメントが多数寄せられるなど、高い評価が得られた。
（9）奈良県立医科大学医学部看護学科平成28年度における学生による授業評価アンケート	平成 28 年 9 月	「アジア文化論」について受講学生による授業評価アンケートを実施し、ほとんどの項目において学生による評価の平均値が全学平均を超えることができた。特に、「授業を受けることでテーマについてより興味・関心を持てた」および「総合的に満足できる授業であった」という項目の平均値がともに 4.0 近くなるなど比較的高い評価が得られた。
(10) 奈良学園大学人間教育学部人間教育学科平成29年度における学生による授業評価アンケート	平成 29 年 9 月	「漢文学入門」について受講学生による授業評価アンケートを実施し、ほとんどの項目において当該科目の平均値が全体の平均値を超えることができた。特に、「授業に対する熱意や意欲」および「有効な時間の使い方」の項目について、4 段階中 3.6 という高い評価が得られ、全体平均を大きく上回った。そして、その結果、総合評価でも 4 段階中 3.5 という全体平均を大きく上回る高評価が得られた。
(11) 関西学院大学社会学部平成29年度春学期における学生による授業評価アンケート	平成 29 年 9 月	「中国語Ⅰ」および「中国語Ⅲ」について受講学生による授業評価アンケートを実施し、ほとんどの項目においてその評価平均が全学平均および学部平均を超えていた。特に、「あなたは、全体としてこの授業に満足していますか」という項目については、前者が 4.6、後者が 4.9（いずれも満点 5.0）といずれもかなり高い評価が得られた。

（12）奈良教育大学教育学部教育学科平成30年度後期における学生による授業評価アンケート	平成30年3月	「漢文学特論」について受講学生による授業評価アンケートを実施し、ほとんどの項目において学生による評価の平均値が全学平均を超えることができた。特に、「あなたはこの授業での学びにどの程度満足しましたか」という項目については、4段階中3.61という高い評価が得られ、全体平均を大きく上回った。
（13）奈良学園大学令和2年度前期における学生による授業評価アンケート	令和2年9月	「漢文学入門」および「漢文学特論」について受講学生による授業評価アンケートを実施し、ほとんどの項目において学生による評価の平均値が5段階中4.5を超えていた。特に、「この授業の先生の説明は分かりやすかった」および「この授業は総合的にみて満足のいくものだった」について学生による評価の平均値が5段階中4.5を超えていたなど、かなり高い評価が得られた。
（14）関西大学文学部総合人文学科令和2年度秋学期における学生による授業評価アンケート	令和3年2月	「中国思想文化論2」について受講学生による授業評価アンケートを実施し、多くの項目において学生による評価の平均が全学平均を超えていた。特に、「総合的に判断してこの授業は意義のあるものであった」という項目については、評価平均が4.4となり、全学平均4.2を超えていたなど、かなり高い評価が得られた。
（15）関西学院大学社会学部令和3年度春学期における学生による授業評価アンケート	令和3年9月	「中国語Ⅰ」について受講学生による授業評価アンケートを実施し、ほとんどの項目においてその評価平均が全学平均および学部平均を超えていた。特に、「あなたはこの授業を通して、卒業までに求められる資質・能力を向上できたと思いますか」という項目については4.5、また「あなたは、全体としてこの授業に満足していますか」という項目については4.4（いずれも満点5.0）となるなどかなり高い評価が得られた。

４　実務の経験を有する者についての特記事項 〔社会人対象の講演〕 （１）台湾の道教の現状と道教儀礼について	平成27年9月11日	大阪日中友好協会の支援の下で設立された「くらしの智恵：道教に親しむ会」の第3回会合において、当会の要請により一般向けに行った講演。まず、中国道教の歴史について触れることで道教とはいかなる宗教か紹介した後、台湾では現在いかなる道教信仰が行われているか儀礼を中心に説明した。
（２）奈良学園大学公開講座「王寺町りーべるカレッジ」2019年度第3回における講演	令和元年6月29日	奈良学園大学が王寺町と提携して毎年行っている公開講座「王寺町りーべるカレッジ」の 2019 年度第 3 回において講師を務め、「台湾の疫病払いの祭り 」というテーマにて主として台湾南部で疫病を払うために行われる王醮という祭りについての講演を行った。まず、祭りが行われる廟について説明し、廟で行われ種々の活動について説明した後、王醮とはいかなる祭りであり、その中心となる王爺という神はどのような神で、どのような道教および民間信仰の儀礼や活動が行われるのか、写真や映像を用いて解説した。
（３）奈良学園公開文化講座第 47 回における講演	令和 3 年 7 月 31 日	学校法人奈良学園が所有している奈良学園セミナーハウス志賀直哉旧居において毎年開催されている奈良学園公開文化講座の第 47 回にて講師を務め、「中華圏の「お盆」の行事―台湾の現状とその起源を中心に」というテーマで講演を行った。まず、「お盆」に関連する用語の意味や使われ方について日本と中華圏とを比較し、その後、日本のお盆の現状について確認した上で、台湾を中心に中華圏のお盆に当たる鬼月の行事や儀式等の現状について解説した。その後、中華圏のお盆の起源として「中元」と「盂蘭盆」と「放焰口」といった三つの行事・儀式を取り上げ、これらがいかに変遷・習合することで現在の中華圏のお盆が形成されたかを解説した。
（４）天理参考館第 90 回企画展「館蔵資料から見る神仙思想と道教」の記念講演会での講演	令和 4 年 8 月 28 日	天理参考館で令和 4 年 7 月 13 日～9 月 5 日に行われた第 90 回企画展「館蔵資料から見る神仙思想と道教」の第２回目の記念講演会において講師を務め、「道教の不可思議な世界―仙人から疫病払いの儀式まで―」というテーマにて講演を行った。まず、道教に見られる不可思議な要素のうち神仙になるための煉丹術を取り上げ、その歴史的変遷と意義、具体的実践法について解説した。続いて、罪を滅し功徳を積むことで神仙になろうとする斎醮儀礼、中でもとりわけ現在の疫病払いの儀式について台湾の事例をもとに解説し、これらを通して道士が神仙になる方法について概観した。
（５）朝日カルチャーセンター中ノ島教室「怪異学入門 2022」における講演	令和 4 年 10 月 23 日	朝日カルチャーセンター中ノ島教室の 2022 年度の講座「怪異学入門 2022」（10 月～12 月）の第１回目の講座において講師を務め、「台湾の道教式死者供養の儀礼」というテーマにて講演を行った。まず、死者供養の儀礼の担い手である道士について説明し、続いて死者供養の儀礼と喪葬儀礼との関係性について説明し、その上で道教式死者供養の儀礼の構成や内容はいかなるものであるのか、現地調査により得た事例を用いて説明することで、台湾の道教式死者供養の儀礼の全体像を概観した。

（6）奈良学園公開文化講座第62回における講演	令和５年７月３日	学校法人奈良学園が所有している奈良学園セミナーハウス志賀直哉旧居において毎年開催されている奈良学園公開文化講座の第62回にて講師を務め、「喪葬儀礼から見る中華圏の人々の家族観」というテーマで講演を行った。まず、中華圏の喪葬儀礼は儒教的が枠組みが土台となっているということを説明し、続いて、中華圏の喪葬儀礼の構成や具体的内容、意義について概観し、そして、これらを踏まえた上で、喪葬儀礼を通して見る中華圏の人々の家族観について自身の考えを提示た。
〔展覧会の解説の翻訳〕 （1）「道教信仰文化特展」の解説の日本語訳	平成28年11月5日～平成29年2月19日	台南市文化局主催により台湾台南市鄭成功文物館にて「道法萬象―道教信仰文化特展」が行われ、そこで使用された李豊楙教授による中国語の解説文をすべて日本語に翻訳し、その結果、日本語による解説文として使用された。
〔海外研修〕 （1）「台湾研修」プログラムの提案企画	令和元年5月29日～現在に至る	奈良学園大学の学生向けの「台湾研修」を同大学学長に提案したところ、学長の支持を得、目下、学長支援の下、松井典夫教授と共同でプログラム案を企画している。本研修は、語学（中国語）習得に重きを置くのではなく、教師として必要な資質を身に着けるという点に重きを置いており、従来の海外研修とは内容が大きくことなるものにする予定である。すでに受け入れ先候補であり、同大学の提携校である屏東科技大学を訪問してこの点について伝えており、了承を得ておいる。現在、同大学の支援も得ながら、プログラムを企画している。
（2）令和元年度カンボジア短期研修プログラムにおける引率業務	令和2年2月11日～令和2年2月18日	奈良学園大学社会・国際連携センターが令和2年2月11日～18日に実施した学生向けの「カンボジア短期研修」において引率業務を行った。カンボジアメコン大学との交流のほか、日本語学校での学生による授業体験、スラム街での交流などといったプログラムを実施し、副次的立場からではあったものの、学生に対して指導を行った。
（3）令和２年度カンボジア短期研修プログラム（オンライン交流）における司会業務	令和3年2月18日	奈良学園大学とその提携校であるカンボジア・メコン大学との間で行われた学生向けのオンライン交流会（奈良学園大学社会・国際連携センター主催）において司会業務を務めた。また、事前準備のための研修に参加して学生の指導を行った。
（4）令和３～５年度奈良学園大学・蘇州科技大学文化交流（オンライン）プログラムにおける企画・学生指導・司会進行業務	令和3年4月9日～現在に至る	奈良学園大学とその提携校である中国・蘇州科技大学との間で令和3年度より行われている学生向けのオンライン交流会（奈良学園大学社会・国際連携センター主催）において、企画、蘇州科技大学側の担当教員との間の連絡、交流会当日までの参加学生に対する指導、交流会当日の司会・進行業務、１週間後に実施する振り返り会における学生の指導、年度末発行の国際交流記録文集掲載用の報告文の作成および学生作成の報告文の添削指導等、本交流会に関する多くの業務を主導的立場にて行っている。

〔ＦＤ研修会における報告〕 （１）奈良学園大学人間教育学部ＦＤ研修会における報告	平成30年8月3日	奈良学園大学人間教育学部平成30年度第２回ＦＤ研修会において、完全講義型の授業とアクティブラーニング型の授業とでは学生の授業内容理解にどのような相違が見られるかについて、松井典夫氏および岡村季光氏と共同で報告を行った。岡村季光氏が両タイプの授業を実施し、各授業の最後に行った授業内容を問う小テストの結果を比較するという方法で調査し、その結果を報告した。調査の結果、完全講義型の授業とアクティブラーニング型の授業とでは学生の理解度に大差は見られないという結論に達するとともに、アクティブラーニングを効果的に行うには、ある程度の知識の習得が必要であると提言した。
〔留学生の指導〕 （１）奈良学園大学人間教育学部人間教育学科特別聴講生の課題研究指導	平成29年6月 ～平成31年2月、 令和5年6月 ～現在に至る	平成29年度は蘇州科技大学から来た特別聴講生１名の「日本怪談文化について―『夢十夜』を中心に―」というテーマの課題研究の作成、および東方技術学院から来た特別聴講生１名の「京極夏彦作品から中日両国のミステリー小説の発展を窺い見る」というテーマの課題研究の作成を指導した。また、平成30年度には、蘇州科技大学から来た特別聴講生１名の「中日禅宗寺院の比較」というテーマの課題研究の作成を指導した。さらに、令和５年度は蘇州科技大学から来た特別聴講生１名の「中国語を母語とする日本語学習者の日中同形異義語学習の現状および学習法の提案」というテーマの課題研究の作成を指導した。
５　その他 〔科目担当実績〕 （１）近畿大学における初級中国語に関する講義	平成21年4月1日 ～平成28年9月 15日	近畿大学経済学部国際経済学科の非常勤講師として専門科目「基礎中国語Ⅰ,Ⅱ」（平成21年4月～平成）を、経営学部・法学部・理工学部教養・基礎教育部門非常勤講師として外国語科目「中国語総合1,2」（経営学部：平成22年4月～平成23年3月、法学部：平成24年4月～現在、理工学部：平成28年4月～現在）を担当し、大学1年次生に対して初級中国語を講義した。聞く・話す・読む・書くといった能力をバランスよく身に付けられるよう、教科書のみならずリスニング教材を用いたり、対話をさせたりするなど授業の進め方を工夫した。
（２）近畿大学における中級中国語に関する講義	平成22年4月1日 ～平成28年3月 31日	近畿大学生物理工学部教養・基礎教育部門非常勤講師として平成22年4月～平成23年3月に「中国語応用Ⅰ,Ⅱ」を、理工学部教養・基礎教育部門非常勤講師として平成23年4月～平成24年3月に「中国語総合3,4」を、文芸学部基礎教育部門非常勤講師として平成23年4月～平成28年3月に「中国語総合C,D」を担当し、2年次以上の学生に対して中級中国語を講義した。生物理工学部には中国語会話に関する授業がないため、「中国語応用Ⅰ,Ⅱ」では聞く・話す・読む・書くといった能力をバランスよく身に付けられるよう、教科書のみならずリスニング教材を用いたり、対話をさせたりするといった授業を行ったが、他の学部には別に「中国語コミュニケーション」という中国語会話に関する授業が存在するため、「中国語総合3,4」および「中国語

		総合C,D」では、読む・書くといった能力の向上に焦点を絞り、教科書と演習問題を中心とした授業を行った。
（３）近畿大学における中国語会話に関する講義	平成23年4月1日～平成28年9月15日	近畿大学経済学部国際経済学科の非常勤講師として外国語科目「中国語コミュニケーション1,2」を担当し、中国語会話に関する講義を行った。中国語の基本文法の確認を行ってから、その文法事項を会話の上でどのように用いるか講義するなど、種々の表現が可能となるような授業を行っている。また、教科書のみならずリスニング教材を用いるなど、「話す」だけでなく「聞く」という方面の能力も身に付くよう工夫した。
（４）関西大学における中国思想史に関する講義	平成23年4月1日～令和5年3月31日	関西大学文学部総合人文学科の非常勤講師として、平成23年4月～令和5年3月まで「中国思想文化論1,2」を担当し、中国思想史に関する講義を行った。先秦から明代までの中国思想・宗教について儒教・仏教・道教の三教を基軸に通史的に講義しているが、思想・宗教のみならずその背景にある社会的文化的事象についても説明するなどして、受講生が理解しやすくなるよう工夫した。
（５）関西大学における漢字論・漢文講読に関する講義	平成24年4月1日～平成26年3月31日	関西大学文学部総合人文学科の非常勤講師として「漢字・漢文論1,2」を担当し、前半は漢文を構成する漢字の歴史や変遷について講義し、後半は漢文の作品の講読を行った。漢文作品の講読では、訓点付きの漢文の読解から始めて次第に訓点のない漢文の読解へと移行するなど、無理なく高度な漢文の読解ができるよう工夫した。
（６）奈良県立医科大学における初級中国語の講義	平成24年4月1日～平成28年3月31日	奈良県立医科大学医学部看護学科非常勤講師として「中国語」を担当し、大学1年次生に対して初級中国語を講義した。聞く・話す・読む・書くといった能力をバランスよく身に付けられるよう、教科書のみならずリスニング教材を用いたり、対話をさせたりするなど授業の進め方を工夫した。
（７）奈良教育大学における初級中国語の講義	平成24年4月1日～平成28年9月30日	奈良教育大学教育学部教育学科非常勤講師として「中国語」を担当し、大学1年次生に対して初級中国語を講義した。聞く・話す・読む・書くといった能力をバランスよく身に付けられるよう、教科書のみならずリスニング教材を用いたり、対話をさせたりするなど授業の進め方を工夫した。
（８）関西大学における現代の東アジアの宗教文化に関する講義	平成26年4月1日～平成30年3月20日	関西大学文学部総合人文学科の非常勤講師として平成26年4月～平成28年3月に「現代アジアと日本1,2」を、平成28年4月～平成30年3月に「アジアの伝統文化と現代Ⅰ,Ⅱ」を担当し、主として現代の東アジアの宗教文化に関する講義を行った。本人が現地調査を行って収集した画像・映像資料を用いたり講義のテーマに関わる映画を見せたりして、受講生の興味を喚起できるよう工夫した。授業において行うリアクションペーパーには、画像・映像資料が用いられていて分かりやすいとの反響が多数見られた。

（９）花園大学における漢文学に関する講義	平成26年4月1日～平成30年3月20日	花園大学文学部日本文学科非常勤講師として、平成26年4月～現在にかけて「漢文学Ⅰ,Ⅱ」を、平成26年9月～平成27年3月に「漢文学基礎」（後期のみ開講科目）を担当し、漢文読解に関する講義を行った。前者においては、漢文法・語法を網羅的に解説して後、訓点付きの漢文の作品の講読を行った。後者においては、訓点付きの漢文の作品の読解から開始し、次第に訓点のない漢文の作品の読解へと移っていくなど、読解中心の授業を行った。
（１０）花園大学における中国文学史に関する講義	平成26年4月1日～平成30年3月20日	花園大学文学部日本文学科非常勤講師として「中国文学史Ⅰ,Ⅱ」を担当し、中国文学史に関する講義を行った。先秦から明代までの中国文学の歴史について、毎回テーマを定めできる限り作品にも触れつつ通史的に概観した。毎回、ただテーマについて説明を行うだけではなく、その背後にある歴史的・社会的・文化的事象についても触れ、その作品や事象が起こった原因と結果についても考えていくよう工夫した。
（１１）奈良学園大学における漢文学に関する講義	平成28年4月1日～現在に至る	奈良学園大学人間教育学部人間教育学科非常勤講師（平成28年4月～8月）、同大学同学部同学科特任講師（平成28年9月～平成30年3月）、同大学同学部同学科専任講師（平成30年度4月～令和2年3月）および同大学同学部同学科准教授（令和2年4月～現在）として、前期に「漢文学入門」、「漢文学Ⅱ」および「漢文学特論」を、後期に「漢文学Ⅰ」および「語学・文学総合演習Ⅲ（漢文学）」を担当している。前期の「漢文学入門」においては、訓点付きの漢文を独力で読むための基礎学力を養生することを目標として、漢文の基礎事項・文法を講義し、「漢文学Ⅱ」においては、「漢文学Ⅰ」から一歩進めて抽象的・思想的内容を含んだ文章でも主体的に読み進めることができることを目標に、難易度の高い散文作品をその背景なども説明しつつ読解し、また、「漢文学特論」においては、教員採用試験に向けて、分量が多く難解な文章を送り仮名なしで読解することに挑戦している。後期の「漢文学Ⅰ」においては、比較的平易な訓点付きの漢文の作品の講読し、「語学・文学総合演習Ⅲ（漢文学）」においては、「漢文学Ⅱ」よりもさらに進めて、返り点のない文章の読解を試みている。いずれの科目も教員免許取得のための科目であるため、いかに漢文を教えるべきかといった漢文教育という視点からの講義も行っている。
（１２）奈良県立医科大学におけるアジアの文化に関する講義	平成28年4月1日～平成28年9月20日	奈良県立医科大学医学部教養教育部門非常勤講師として「アジア文化論」（リレー講義、前期のみ開講）を担当し、本人は中華文化圏の諸文化について講義している。中華文化圏の地理と言語・飲食・年中行事・祭祀・喪葬のそれぞれをテーマとする５回に渡る授業を３クラスにおいて講義している。本人が現地調査を行って収集した画像・映像資料を用いるなど受講生が少しでも興味を持てるよう工夫した。

（１３）奈良教育大学における中国文学史に関する講義	平成28年4月1日～平成28年9月30日・平成30年10月1日～平成31年3月31日	奈良教育大学教育学部教育学科非常勤講師として「漢文学特講」（集中講義）を担当し、中国文学史に関する講義を行った。先秦から現代までの中国文学および芸能の歴史について、可能な限り作品にも触れつつ通史的に概観したが、特に中国の芸能の歴史については、画像・映像資料を用いるなどして、受講生にとって分かりやすく興味を持ちやすい授業となるよう工夫した。
（１４）奈良学園大学における教職者として必要な表現力に関する講義	平成28年9月20日～令和3年3月31日	奈良学園大学人間教育学部人間教育学科非常勤講師（平成28年4月～8月）、同大学同学部同学科特任講師（平成28年9月～平成30年3月）、同大学同学部同学科専任講師（平成30年度4月～令和2年3月）および同大学同学部同学科准教授（令和2年4月～現在）として、「教職表現力演習Ⅰ」（平成28年9月～平成31年3月、令和5年4月～令和6年3月）、「教職表現力演習Ⅱ」（平成28年9月～令和4年3月）を担当した。「教職表現力演習Ⅰ」は主として1年生を対象とした、「教職表現力演習Ⅱ」は主として2年生を対象とした科目で、いずれも、教職者としてふさわしい「文章表現力」を身につけることに主眼をおく。テキストのみならず、毎回小テストを行うなど、現代日本語の知識と運用能力の向上を目指すべく工夫した授業を行った。
（１５）関西学院大学における初級中国語に関する講義	平成29年4月1日～現在に至る	関西学院大学社会学部の非常勤講師として外国語科目「中国語Ⅰ，Ⅱ」を担当し、主に中国語未習の大学1年生に対して初歩的な中国語を講義している。中国語を母語とする教員とペアで１つのクラス授業を担当し、1週間に各１コマずつ、合計２コマ授業を行っている。申請者は、主として、教科書各課における新出の文法・語法について説明するということを担当しており、日本人が中国語を学ぶ上では何が問題となるのかというポイントを捕らえた、日本人だからこそできる授業を展開している。
（１６）関西学院大学における中級中国語に関する講義	平成29年4月1日～現在に至る	関西学院大学社会学部の非常勤講師として外国語科目「中国語Ⅲ,Ⅳ」を担当し、すでに1年間中国語を学んだことのある２年次以上の学生に対して、中級中国語を講義している。中国語を母語とする教員とペアで１つのクラス授業を担当し、1週間に各１コマずつ、合計２コマ授業を行っている。申請者は、主として、教科書各課における新出の文法・語法について説明するということを担当しており、日本人が中国語を学ぶ上では何が問題となるのかというポイントを捕らえた、日本人だからこそできる授業を展開している。

（１７）奈良学園大学におけるゼミナール形式の演習科目	平成30年4月1日～現在に至る	平成30年度4月～令和2年3月までは奈良学園大学人間教育学部人間教育学科専任講師として、令和2年4月～現在までは奈良学園大学人間教育学部人間教育学科准教授として、「基礎ゼミナールⅠ」（平成30年4月～平成31年3月、令和2年4月～令和4年3月）、「基礎ゼミナールⅡ」（平成31年4月～令和2年3月）、「人間教育学ゼミナールⅠ（基礎）」（平成30年4月～現在）、「人間教育学ゼミナールⅡ（応用）」（平成31年4月～現在）を担当している。「基礎ゼミナールⅠ」では、１年次生に対してアカデミックスキル習得を目指した内容の授業を行い、「基礎ゼミナールⅡ」では、翌年以降の「人間教育学ゼミナール」や卒業研究、卒業論文につながるようにすべく、より高度なアカデミックスキルの活用と向上を目指した内容の授業を行っている。「人間教育学ゼミナールⅠ（基礎）」では、「国際理解に向けての中華文化研究」というテーマの下、３年次生に対して、前期は知識を得るべく中華圏の文化についての講義を行い、後期は学生個人が個別にテーマを設定して調べ、まとめて、発表するということを行っている。また、「人間教育学ゼミナールⅡ（応用）」では、学生個人が個別に設定したテーマについて引き続き調べさせ発表させるとともに、就職試験や面接に関する指導も行っている。
（１８）奈良学園大学における教職者に必要な資質・能力を培うための講義	令和3年4月1日～令和5年3月31日	奈良学園大学人間教育学部人間教育学科准教授として、「人間教育実践力開発演習Ⅰ」（令和3年4月～令和5年3月）を担当した。幼稚園、小中学校、高校の教師とはどのようなもので、教師となるにはどのような資質・能力が必要か、現場経験者による講演や講義を通して学生に教えるとともに、現場経験者・現役教員との交流を通して、今日の学校・園の現場が抱える課題についての理解を深めた。また、各種グループ活動を通して、教師に必要なコミュニケーション力、企画力、行動力を養わせもした。
（１９）奈良学園大学における国語教員として必要な読解力・文章表現力を養わせるための講義	令和5年4月1日～令和6年3月31日	奈良学園大学人間教育学部人間教育学科准教授として、「国語表現力演習」（令和5年4月～令和6年3月）を担当した。本科目は、主として中等国語専修2年次生を対象に中高国語教員として身に付けておくべき「読解力」を養成させることを主眼に置いた科目で、学生に新聞記事や学術図書、学術論文等を読ませて学生同士で内容について議論させ、その要約を書かせるあるいは内容に関する質問に答えさせるといった授業を展開した。
（２０）奈良学園大学における外国人留学生のための日本語に関する講義	令和5年4月1日～現在に至る	奈良学園大学人間教育学部人間教育学科准教授として、特別聴講生（外国人留学生）対象科目である「日本語Ⅰ」（令和5年4月～令和6年3月）および「日本語表現Ⅱ」（令和5年4月～現在）を担当している。「日本語Ⅰ」では、日本語で書かれた論説文や小説といった文章の正確な読解についての講義を行いつつ、日本語能力試験の読解の対策も行った。「日本語表現Ⅱ」では、課題論文の執筆を念頭に置きつつ、日本語で文章を書くに当たってのルールや注意点、文章の書き方などについての講義を行っている。

職　務　上　の　実　績　に　関　す　る　事　項		
事項	年月日	概　　要
1　資格，免許 （1）修士（文学） （2）博士（文学）	 平成14年3月31日 平成20年3月31日	 関西大学文修第1555号、論文題目「古道教斎戒儀礼考―塗炭斎を中心として―」 関西大学文博第110号、論文題目「道教斎儀の研究」
2　特許等 なし		
3　実務の経験を有する者についての特記事項 〔共同研究実績〕 （1）関西大学東西学術研究所「東アジア宗教儀礼研究班」に参加	 平成25年4月～平成28年8月・平成29年4月～平成31年3月	 関西大学・原田正俊教授を主幹とする関西大学東西学術研究所「東アジア宗教儀礼研究班」に平成25年4月～平成28年8月にかけては非常勤研究員として、平成29年4月～は客員研究員として参加し、主として中華文化圏の道教の死者救済儀礼についての調査・研究に従事するとともに、研究例会に参加して報告・討論を行っている。本研究班参加に関わる研究業績として、論文1本がある。
（2）慶應義塾大学東アジア研究所における高橋産業経済研究財団支援学術プロジェクト「慰霊供養と神格化から見る台湾人の歴史認識―民衆史学の構築をめざして」に参加	平成30年4月～令和2年3月	慶應義塾大学東アジア研究所において慶應義塾大学・三尾裕子教授を研究代表者として進められている高橋産業経済研究財団支援学術プロジェクト「慰霊供養と神格化から見る台湾人の歴史認識―民衆史学の構築をめざして」に慶應義塾大学東アジア研究所研究員（非常勤）として参画し、主として台湾で祀られている日本人神に対する道教式の儀礼について、中華系の神に対する道教式の儀礼との相違という観点から調査・研究に従事した。
（3）関西大学東西学術研究所「東アジアの思想と芸術の文化交渉研究班」に参加	平成31年4月～令和3年3月	関西大学・中谷伸生教授を主幹とする関西大学東西学術研究所「東アジアの思想と芸術の文化交渉研究班」に客員研究員として参加し、主として中華圏の道教の死者救済儀礼についての調査・研究に従事するとともに、研究例会に参加して報告・討論を行った。
（4）立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所の研究に参加	平成31年4月～現在に至る	立命館大学衣笠総合研究機構白川静記念東洋文字文化研究所に同研究所副所長である大形徹教授の受け入れのもと客員研究員として参加し、主として台湾の道教儀礼で使用される文書等の道教儀礼文献に関する研究に従事している。
（5）奈良学園大学人間教育学部共同研究費助成による共同研究「教員志望学生の資質形成に資するGlobal Perspectiveの有効性に関する研究」に参加	令和4年12月～令和5年3月	奈良学園大学・松井典夫教授を代表とする、奈良学園大学人間教育学部共同研究費助成による共同研究「教員志望学生の資質形成に資するGlobal Perspectiveの有効性に関する研究」にアジア文化の研究者として参加し、大阪中華学校および神戸中華同文学校における異文化調査や授業見学などを企画・立案して実施するなどした。

〔競争的資金の獲得状況〕 （２）文部科学省科学研究費補助金　研究成果公開促進費（学術図書） 「台湾道教における斎儀―その源流と展開―」 （課題番号 265009）	平成26年度	研究代表者 助成金額：1,100,000 円
（３）文部科学省科学研究費補助金　基盤研究（Ｃ） 「台湾北部地域の烏頭道士の道教儀礼の調査・研究」 （課題番号 17K02210）	平成29年度 ～令和元年度	研究代表者 助成金額：3,510,000 円
（４）高橋産業経済研究財団支援学術プロジェクト 「慰霊供養と神格化から見る台湾人の歴史認識―民衆史学の構築をめざして」	平成30年度 ～令和元年度	研究分担者 獲得金額：個人 700,000 円、全体 3,000,000 円 研究代表者：三尾裕子（慶應義塾大学文学部教授）
（５）文部科学省科学研究費補助金　基盤研究（Ｃ） 「台湾北部地域の烏頭道士の道教儀礼の比較的研究」 （課題番号 20K00065）	令和2年度 ～現在	研究代表者 助成金額：3,120,000 円
（６）奈良学園大学人間教育学部共同研究費助成 「教員志望学生の資質形成に資するGlobal Perspectivenの有効性に関する研究」	令和4年度	研究分担者 助成金額：全体 300,000 円 研究代表者：松井典夫（奈良学園大学人間教育学部教授）
４　その他 〔論文の引用実績〕 （１）「援法入道：南宋靈寶傳度科儀研究」が「臺灣道教合符童子科儀之形成的初歩探討」を引用。	平成26年12月	張超然「援法入道：南宋靈寶傳度科儀研究」（謝世維主編『經典道教與地方宗教』、政大出版社、2014年）、132頁の注１において、台湾の道教儀礼に関する研究の中でも異なる時代の文献を比較することで儀礼の変遷をたどった研究の一つとして、学術論文「臺灣道教合符童子科儀之形成的初歩探討」が引用されている。
（２）「産難の予防、禳除と抜度：台湾南部と泉州地区に見られる道教科法を主として」が「台湾道教の縊死者に関する儀礼とその地域的差異―高雄・屏東地域と台南地域の比較を中心に―」および「台湾道教の縊死者に関する儀礼とその地域的差異―高雄・屏東地域と台南地域の比較を中心に―」を引用。	平成27年3月	謝聡輝著、山田明広訳「産難の予防、禳除と抜度：台湾南部と泉州地区に見られる道教科法を主として」（野村伸一編著『東アジア海域文化の生成と展開―〈東方地中海〉としての理解―』、風響社、2015 年）、355 頁注 28 において、台湾道教の異常死者救済に関する参考文献として、学術論文「台湾道教の縊死者に関する儀礼とその地域的差異―高雄・屏東地域と台南地域の比較を中心に―」および「台湾道教の縊死者に関する儀礼とその地域的差異―高雄・屏東地域と台南地域の比較を中心に―」が引用されている。
（３）「水子供養と嬰霊慰霊―現代〈民間信仰〉の日台比較研究―」が「道教血湖儀礼の初歩的考察―台湾南部地区を例として―」および「台湾道教打城科儀についての初歩的考察」を引用。	令和2年3月	陳宣聿「水子供養と嬰霊慰霊―現代〈民間信仰〉の日台比較研究―」（東北大学大学院文学研究科人間科学専攻宗教学専攻分野博士論文、2020 年）、74 頁注 152 において、台湾の死者救済儀礼の一つである打城という儀礼の内容に関する参考文献として、学術論文「台湾道教打城科儀についての初歩的考察」が引用されている。また、138 頁注 312 において、台湾南部の霊宝派道士が難産死して血湖地獄に落ちた女性を救済するために行う転血車藏という儀礼の内容に関する参考文献として、学術論文「道教血湖儀礼の初歩的考察―台湾南部地区を例として―」が引用されている。

（4）『「水子供養」の日台比較研究――死者救済儀礼の創造と再構築』が「道教血湖儀礼の初歩的考察―台湾南部地区を例として―」、『台湾道教における斎儀―その源流と展開―』および「台湾道教打城科儀についての初歩的考察」を引用。	令和5年2月	陳宣聿『「水子供養」の日台比較研究――死者救済儀礼の創造と再構築』（晃洋書房、2023 年）、145 頁注 28 において、台湾の死者救済儀礼の一つである打城という儀礼の具体的内容を述べた研究として、学術論文「台湾道教打城科儀についての初歩的考察」が引用されている。また、211 頁注 55 において、クリストファー・シッペールの四部構成を用いて道教の死者救済儀礼の構成を分析した研究として著書『台湾道教における斎儀―その源流と展開―』が引用されている。さらに、249 頁注 52 において、台湾南部の霊宝派道士が血湖地獄中の難産死した女性を救済するために行う転血車藏という儀礼の具体的内容を述べた研究として、学術論文「道教血湖儀礼の初歩的考察―台湾南部地区を例として―」が引用されている。

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書） 1.台湾道教における斎儀―その源流と展開―	単著	2015年 平成27年2月	大河書房	漢文文献の読解と現地調査を有機的に組み合わせた研究方法を用いて、過去の道教儀礼と現在の台湾の道教儀礼の両方について分析することにより、道教の斎儀が現在に至るまでにいかに変容したのか、また反対に今なお古い斎儀の伝統がどれほど保存されているのか示そうとした書。三部七章より成る。本書を著すことにより、現在台湾で見られる道教儀礼の中には、歴史的意味での斎儀と現在的意味での斎儀の両方が並存しているということを明らかにした。 （A5判・全260頁） 平成26年度科学研究費補助金研究成果公開促進費助成図書（交付額1,100,000円）
2.東アジア海域文化の生成と展開―〈東方地中海〉としての理解―	共著	2015年 平成27年3月	風響社	慶應義塾大学東アジア研究所における高橋産業経済研究財団支援学術プロジェクト「日本・中国・韓国からみた海域文化の生成と変容－『東方地中海』をめぐる基層文化の比較研究」（2011年度～2012年度）の研究報告論文集。 （A5判・全750頁） 編者　野村伸一 共著者　◎野村伸一・葉明生・謝聡輝・山田明広・鈴木正崇・ほか7名 本人担当部分　第二部第四章「福建泉州地域の寺廟・宗祠調査報告：王爺および観音信仰を中心に」（359頁～393頁）を藤野陽平と共著 2011年12月27日～2012年1月2日に福建泉州地域の寺廟や宗祠などを現地調査し見聞したものについて報告するとともに現地で見られた王爺信仰と観音信仰の特徴について考察したもの。福建泉州地域のいくつかの村落では観音信仰と王爺信仰が結合しているかと思われる祭祀が行われていること、および台湾では今なお行われている送王船の伝統が多くの廟において断絶してしまっていることを指摘した。本人は報告部分のおよそ7割（担当部分抽出不可能）および考察部分の全般（384頁～390頁）を担当した。 本人担当部分　第二部第五章第六節6「鹿港天后宮における普度法会次第」（435頁～445頁） 2013年8月21日（旧暦7月15日）に台湾彰化県の鹿港天后宮において施宣熹道長率いる保真壇により実施された道教の普度法会（無縁死者救済儀礼）の調査報告。本人が行った現地調査およびこれまでの先行研究に依拠しつつ主に法会の次第について解説した。また、本法会が一方で死者救済儀礼であるとともに、一方で生者救済儀礼でもあるということを示した。

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
3.怪異学講義　王権・信仰・いとなみ	共著	2021 年 令和 3 年 9 月	勉誠出版	東アジア恠異学会による「怪異」について解説した入門書。王権・政治・祭祀・信仰・寺社・都市・村・生活・暮らしなど多様な視点から「怪異」とそれに対する人々のいとなみを読み解いたもの。 （四六判・全 445 頁） 編者　東アジア恠異学会 共著者　大江篤・榎村寛之・佐々木聡・山田明広・化野燐・ほか 15 名 本人担当部分　第二部「道教と神降ろし」（245 頁～269 頁） 道教において神降ろしを伴う技法や儀礼を取り上げ、その実施法や効能について解説した文章。六朝初の茅山における神降ろしから現在の台湾の道教儀礼に至るまでに見られる神降ろしに関わる儀礼・技法を、神を降ろして憑依させるものと神を儀礼の場に招き迎えるものとに分けて通史的に概観し、これを通して、道教の修行者である道士は、決してシャーマンではなく、複雑で高度な技法を駆使して神と人とを媒介するものに過ぎないと結論付けている。
4.台湾で日本人を祀る鬼（クイ）から神（シン）への現代人類学	共著	2022 年 令和 4 年 3 月	慶應義塾大学出版会	慶應義塾大学東アジア研究所における高橋産業経済研究財団支援学術プロジェクト「慰霊供養と神格化から見る台湾人の歴史認識―民衆史学の構築をめざして」（2018 年度～2020 年度）の研究報告論文集。 （A５判・全 384 頁） 編者　三尾裕子 共著者　◎三尾裕子・藤野陽平・原英子・山田明広・五十嵐真子・ほか 4 名 本人担当部分　第 3 部第五章「第五章　廟神の出自により儀礼に差異は見られるか――台湾の日本神を祀る廟と中華神を祀る廟における儀礼・祭祀の比較」（171 頁～212 頁） 日本神を祀る廟での儀礼・祭祀と中華系の神を祀る廟での儀礼・祭祀を比較し、両者の間に差異が見られるかどうか検討した文章。道教儀礼と道教儀礼以外の儀礼・祭祀に分けて検討し、台湾の廟における儀礼や祭祀は、廟神が日本神であることにより、見かけ上、差異が見られることもあるが、基本的には台湾での従来の方式・習俗に則って行われ、根本から変わることはない、また、日本神を祀る廟での儀礼・祭祀における差異は、多くの場合、日本人によってあるいは台湾人が日本人を意識することによってもたらされたと結論づける。

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（学術論文） 1. 台湾道教の異常死者救済儀礼	単著	2015 年 平成27年8月	アジア遊学（勉誠出版）第 187 号「怪異を媒介するもの」、249 頁～258 頁	台湾道教で、縊死、溺死、難産死などの異常と認められる死因により人が亡くなった場合に行われる「抽楹放索」、「転水藏」、「血湖」などといった特殊な儀礼について、本人が台湾で現地調査を行い入手した漢文体による文字資料と画像・映像資料にもとづき考察した論文。最初に、通常死の場合に行われる死者救済儀礼はいかなるものか検討した後、異常死者救済儀礼のうち「抽楹放索」、「転水藏」を取り上げ、その実施法を具体的に描写することで、その意義や効能について考察した。
2. 台湾鹿港地域の道教式功徳儀礼について （査読付）	単著	2016 年 平成28年3月	関西大学中国文学会紀要（関西大学中国文学会）第 37 号、297 頁～317 頁	本人が 2013 年 9 月 6 日に台湾彰化県鹿港鎮にて道教式功徳儀礼を調査したその報告論文。まず、調査した功徳儀礼の基本データおよび儀礼のプログラムを提示し、その後、提示したプログラムの順に従って功徳儀礼を構成する各科儀についてその実施方法や効果、意義、使用された文書などを叙述し、最後に、ここまでの考察および本人のこれまでの経験を踏まえて台湾中部地域の道教式功徳儀礼の特徴であると言えそうなことを提示した。
3. 道教実践者としての李白―李白の詩を通しての考察―	単著	2016年 平成28年3月	奈良教育大学 国文 研究と教育（奈良教育大学国文学会）第 39 号、19 頁～31 頁	盛唐の詩の大家・李白が道教信者としていかなる道教的実践を行い、それは彼の漢詩の中ではどのように表現されているのか、李白の漢詩を分析することにより考察した論文。まず、李白の事績について述べ、それから、李白の漢詩の分析を通じて李白が授籙、煉丹服餌、存思といった道教的実践を行っていたことを提示し、最後に、これまでの考察を踏まえて、李白が天宝三年に長安の宮廷から放逐されたという挫折経験は、彼の道教信仰の上で、また詩作および人生の上で、大きなターニングポイントとなる出来事であったと結論付けた。
4. 大学での漢文教育における問題点（１）―学生側の問題点：何が学生の漢文読解の妨げになっているか―	単著	2016年 平成28年5月	教育ＰＲＯ（株式会社ＥＲＰ）第 46 巻 10 号、14 頁～15 頁	大学の授業で学生が漢文学を学習するに当たって、何が学生の理解の妨げになっているか、本人のこれまでの大学における漢文教育経験を踏まえて述べた論文。考察の対象を訓点付きの漢文を読解する場合のみに絞り、その場合、書き下し文から現代語へと翻訳するのが学生にとって最も困難であるとし、その上で、その原因は①漢文の読みと字義に対する知識の不足、②漢文の文法に対する理解の不足、③日本語の古典文法に対する理解の不足の三点にあるとして、各点について詳細に論じた。
5. 大学での漢文教育における問題点（２）―教員側の問題点：いかにして学生に漢文読解力を身に付けさせるべきか―	単著	2016年 平成28年5月	教育ＰＲＯ（株式会社ＥＲＰ）第 46 巻 11 号、14 頁～15 頁	学生が漢文学を学習するに当たって困難を覚える原因として①漢文の読みと字義に対する知識の不足、②漢文の文法に対する理解の不足、③日本語の古典文法に対する理解の不足の三要素が考えられるとした上で、教員はこれらの問題を解決して学生に漢文読解力を身に付けさせるために授業ではどのように取り組むべきか、また、学生に漢文に興味を持たせ継続的に学習させるにはどうすべきか、本人のこれまでの大学における漢文教育経験を踏まえて述べた論文。

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
6. 台湾道教打城科儀についての初歩的考察	単著	2017年 平成29年9月	奈良学園大学紀要（奈良学園大学）、第7集、97～109頁	台湾道教の死者救済儀礼を構成する儀式の一つで、亡魂を地獄より直接的に救い出すことを目的として行われる「打城」という儀式について、本人が台湾で現地調査を行い入手した漢文体による文字資料と画像・映像資料にもとづき考察した論文。台湾道教の「打城科儀」の実施される条件や使用される糊紙製の地獄の城、科儀の内容、構成といった基礎的事項について考察を加え、さらに台南地域のものと高雄・屏東地域のものとを相互に比較することで地域的差異という点についても検討を加えた。
7. 台湾道教的救済异常死者的仪式――以台南地区的对缢死者及溺水死者等的仪式为主 （査読付き）	単著	2018年 平成30年6月	『道教学刊』(社会科学文献出版社）第 2 期、274～291 頁	台湾道教の異常死者救済儀礼について、縊死者救済儀礼と溺水死者救済儀礼を例として考察した論文。まず、何が異常死に当たるか定義づけした後、筆者が台南地域で調査した縊死者救済儀礼と溺水死者救済儀礼の事例を用いて、それぞれの儀礼の実施方法や特徴などを確認し、その後、なぜこれらの儀礼は各死者が生じた現場で行わなければならないのかということについて、儀礼を行った道士たちに対する聞き取りや彼らが持っている漢文により書かれた科儀書および漢文体の筆記小説の読解などによって検討した。
8. 台湾北部淡水地区の烏頭道士の功徳儀礼 （査読付き）	単著	2021年 令和3年4月	東西学術研究所紀要（関西大学東西学術研究所)、第 54 輯、141～158 頁	台湾新北市淡水鎮にて調査した道教式功徳儀礼（死者救済儀礼）を取り上げ、その構成および内容について、本人が台湾で現地調査を行い入手した文字資料と画像・映像資料にもとづき考察した論文。同地区の烏頭道士が行う功徳儀礼のプログラム構成を示した上で各科儀の実施方法を適宜台湾南部地域のものと比較しつつ描写することを通して、淡水地区の烏頭道士による道教式功徳儀礼の特質と独自性について明らかにした。

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（その他） 〔国際会議等発表〕 1. 台灣道教的救濟異常死者的儀式――以台南地區的對縊死者及溺水死者的儀式為主	―	2016 年 平成 28 年 7 月	中国人民大学-羅格斯大学首届国際道教文化前沿論壇 （於中国・湖南省陽光大酒店）	縊死者救済儀礼と溺水死者救済儀礼を例に台湾道教の異常死者救済儀礼について考察した中国語による研究発表。まず、何が異常死に当たるか定義づけした後、筆者が台南地域で調査した縊死者救済儀礼と溺水死者救済儀礼の事例を用いて、それぞれの儀礼の実施方法や特徴などを確認し、その後、なぜこれらの儀礼は各死者が生じた現場で行わなければならないのかということについて、儀礼を行った道士たちに対する聞き取りや彼らが持っている科儀書、筆記小説などによって検討した。発表時間20分、討論時間10分。
2. 福建晉江地區的王爺信仰之初步探討	―	2017 年 平成 29 年 10 月	2017臺灣王爺信仰文化國際學術研討會 （於台湾文化部文化資産局文化資産保存研究中心）	2011年12月27日～2012年1月2日に福建泉州地域の寺廟や宗祠などについて現地調査を行ったが、その際に調査したもののうち王爺廟および王爺信仰に関するものを抽出し考察を加えることで、当該地域の王爺信仰の特徴を描き出そうとした中国語による研究発表。福建泉州地域のいくつかの村落では観音信仰と王爺信仰が結合しているかと思われる祭祀が行われていること、および台湾では今なお行われている送王船の伝統が多くの廟において断絶してしまっていることを指摘した。発表時間20分、討論時間20分。
3. 臺灣道教打城科儀之地方性差異――以臺南地區與高雄･屏東地區為例	―	2018年 平成30年10月	道教与地方文化国際学術研討会 （於中国・浙江大学）	台湾道教の死者救済儀礼を構成する儀式の一つで、亡魂を地獄より直接的に救い出すことを目的として行われる「打城」という儀式について、本人が台湾で現地調査を行い入手した漢文体による文字資料と画像・映像資料にもとづき考察した中国語による研究発表。台湾道教の「打城科儀」の実施される条件や使用される糊紙製の地獄の城、科儀の内容、構成といった基礎的事項について考察を加え、さらに台南地域のものと高雄・屏東地域のものとを相互に比較することで地域的差異という点についても検討を加えた。発表時間20分、討論時間30分。
4. “Are There Any Differences in the Rites due to the Difference of the Spirits Origins of temples?: Comparison of the Rituals between Temples of Japanese Spirits and Temples of Chinese Spirits in Taiwan”	―	2019年 令和元年7月	The 2nd Annual Conference of the EASSSR（East Asian Society for the Scientific Study of Religion：東アジア宗教社会学会） （於北海道大学）	台湾の日本人神を祀る廟で行われる道教儀礼と中華系の神を祀る廟で行われる道教儀礼との間に見られる差異について、本人がこれまで行ってきたフィールドワークにもとづきつつ考察した英語による研究発表。日本人神を祀る廟で行われる道教儀礼の事例として 2018 年 8 月に屏東県枋寮東龍宮にて調査した普度法会の事例を取り上げ、これと一般的な普度法会を比較することで、道教儀礼は日本人神を祀る廟で行われようと、中華系の神を祀る廟で行われようと、いずれにおいても変わらないが、東龍宮は宮主が道士であるなど特殊であるため、いくらか相違が生じたという結論に達した。慶應義塾大学東アジア研究所における高橋産業経済研究財団支援学術プロジェクト「慰霊供養と神格化から見る台湾人の歴史認識―民衆史学の構築をめざして」による研究成果の一部であり、本プロジェクトの中間報告と位置付け得るものである。発表時間 20 分、討論時間 30 分

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
5. 臺灣南部道教打城科儀之初步探討--以臺南地區與高雄·屏東地區為例	―	2019 年 令和元年9月	老子道文化学術研討会 （於中国・安徽省渦陽県）	台湾道教の死者救済儀礼を構成する儀式の一つで、亡魂を地獄より直接的に救い出すことを目的として行われる「打城」という儀式について、本人が台湾で現地調査を行い入手した漢文体による文字資料と画像・映像資料にもとづき考察した中国語による研究発表。まず、「打城科儀」の実施される条件や使用される糊紙製の地獄の城といった基礎的事項について検討し、次に、台南地域と高雄・屏東地域それぞれの地域の打城科儀の内容および構成を分析し、最後に両者を相互に比較することで、打城科儀の地域的差異について考察した。発表時間 20 分、討論時間 30 分。
6. 臺灣鹿港地區靈寶道壇打血盆科儀之初步探討－－以鹿港保真壇為例	―	2022年 令和4年6月	臺灣民俗學研討會：常與非常―疫情下的民俗研究 （於台湾・中山医学大学、オンライン参加）	台湾鹿港地域の道教式死者救済儀礼のうち、流血死者や難産死者が出た場合にのみ特別に行われる「打血盆」という儀式について、本人が台湾で現地調査を行い入手した漢文体による文字資料と画像・映像資料にもとづき考察した中国語による研究発表。まず、「打血盆」を実施した鹿港保真壇について紹介した後、本人が調査した事例にもとづきつつ「打血盆」が実施される条件や状況等を確認し、続いて、台南地域と高雄・屏東地域のものと比較しながら鹿港地域の「打血盆」の構成について検討し、最後に鹿港地域の「打血盆」の特徴について考察した。発表時間 20 分、討論時間 10 分。
7. 台灣道教王醮的本質和特徵―透過針對王醮特有的科儀和文檢以及其地方性差異的分析之討論	―	2022年 令和4年11月	代遠天長：南鯤鯓代天府（1662～）360大圓周·代巡信仰國際論壇 （於台湾・南鯤鯓代天府、オンライン参加）	台湾の道教儀礼のうち、疫病払いを目的として行われる「王醮（禳災祈安醮）」について、本人が台湾で現地調査を行い入手した漢文体による文字資料と画像・映像資料にもとづき考察した中国語による研究発表。台南地域の王醮と高雄・屏東地域の王醮の両者を取り上げ、まず各地域の王醮特有の科儀や文検を列挙するとともにその内容を分析し、その後両者を相互に比較することを通して、台湾道教の王醮の本質や特徴がいかなるものであるのか考察した。発表時間 30 分、討論時間 10 分。

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
〔国内学会発表〕 1.伝統や文化に関する教育から国際理解へ―漢字・漢文教育を例として―	―	2017年 平成29年2月	日本人間教育学会第2回大会 （於奈良学園大学）	教育によって、日本人の中華文化圏の人々に対する理解を増進させるべきことを主張した研究発表。まず、伝統や文化に関する教育と国際理解教育の現状および相互の関係性について振り返り、その上で、中華文化圏から非常に多くの観光客が日本へと来ているにも関わらず、日本人の中華文化圏の人々に対する理解が足りないため、彼らに対する対応に不適切な点があるといった問題点を指摘した。そして、旧字体や漢文といった伝統や文化に関する教育に力を入れることで、中華文化圏の人々に対する理解増大につながるのではないかと提言した。発表時間20分、討論時間10分。
2.台湾道教打城科儀についての初歩的考察	―	2017年 平成29年7月	関西大学東西学術研究所第８回研究例会 （於関西大学）	台湾道教の死者救済儀礼を構成する儀式の一つで、亡魂を地獄より直接的に救い出すことを目的として行われる「打城」という儀式について、本人が台湾で現地調査を行い入手した漢文体による文字資料と画像・映像資料にもとづき考察した研究発表。台湾道教の「打城科儀」の実施される条件や使用される糊紙製の地獄の城、科儀の内容、構成といった基礎的事項について考察を加え、さらに台南地域のものと高雄・屏東地域のものとを相互に比較することで地域的差異という点についても検討を加えた。発表時間20分、討論時間10分。
3.伝統や文化に関する教育から中華圏に対する理解へ―国語科・社会科を中心に―	―	2017年 平成29年9月	第25回日本グローバル教育学会全国研究大会 （於国際医療福祉大学・小田原キャンパス）	学校教育の場で中華圏に対する理解を促進させる教育を行うべきことを主張した研究発表。まず、中華圏から非常に多くの観光客が日本へと来ているにも関わらず、日本人の中華文化圏に対する理解が足りないため、対応に不適切な点があるといった問題点を指摘し、その上で、伝統や文化に関する教育の一環として旧字体や台湾人・香港人アイデンティティーの問題について国語科や社会科の時間に教え、中華圏に対する正しい理解へとつなげるべきことを主張した。発表時間20分、討論10分。
4.道教の血湖地獄とその救済儀礼	―	2017年 平成29年 12月	東アジア恠異学会第114回定例研究会 （於園田学園女子大学）	道教の数ある地獄の中でも、主としてお産により亡くなった女性の亡魂が囚禁されると考えられている「血湖」とその救済儀礼について考察した研究発表。まず、道教の血湖地獄がいかなるものであるのか、仏教の血盆地獄と比較しつつ概観し、その後、主として現在の台湾で行われているものを例として、そこから救済するための儀礼はいかなるものであり、通常死の場合の儀礼とはいかなる違いが見られるのか、また地域によりいかなる違いが見られるのかといったことについて考察した。

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
〔翻訳〕 1.産難の予防、禳除と抜度―台湾南部と泉州地区に見られる道教科法を主として―	単訳	2015 年 平成 27 年 3 月	東アジア海域文化の生成と展開―〈東方地中海〉としての理解―（風響社）、299 頁～357 頁	原著者　謝聰輝 原題　「產難的預防、禳除與拔度：以南臺灣與泉州地區所見道教科法為主」 台湾師範大学教授・謝聰輝氏が著した中国語の論文を日本語に翻訳し、漢文文献や漢文体による儀礼書からの引用文については書き下し文に改めたもの。中国や台湾に伝わる女性の難産予防に関わる種々の儀礼やまじない、宗教医療について、主として文献を用いて詳細に分析するとともに、併せて、現今なお実施されている「血湖」と呼ばれる難産関連の道教儀礼について、台湾南部と泉州地区における現地調査を踏まえて仔細に論じている。
2.現代上海道教の宮觀および道士についての簡單な紹介	単訳	2015 年 平成 27 年 6 月	東方宗教（日本道教学会）第 125 号、127 頁～132 頁	原著者　姚树良 原題　「当代上海道教宫观、道士现状简介」 2014 年 11 月 8 日に開催された日本道教学会第 65 回大会において、上海市道教教会副会長・姚樹良氏により行われた中国語による講演の原稿を日本語に翻訳したもの。最初に文化大革命以降の中国道教の状況について紹介するとともに、中国道教の教派について説明し、その上で、上海の道教の現況について、宮観、儀礼、道士の養成方法、宮観と民衆とのかかわり、布教などといった側面から紹介されている。
〔研究報告〕 1.台湾道教の縊死者および溺死者救済儀礼に関する二、三の考察―台南地域を例として―	単著	2016 年 平成 28 年 9 月	奈良学園大学紀要（奈良学園大学）第 5 集、213 頁～219 頁	台湾道教の異常死者救済儀礼について、縊死者救済儀礼と溺水死者救済儀礼を例として考察した研究報告。まず、何が異常死に当たるか定義づけした後、筆者が台南地域で調査した縊死者救済儀礼と溺水死者救済儀礼の事例を用いて、それぞれの儀礼の実施方法や特徴などを確認し、その後、なぜこれらの儀礼は各死者が生じた現場で行わなければならないのかということについて、儀礼を行った道士たちに対する聞き取りや彼らが持っている科儀書、筆記小説などによって検討した。
2.伝統や文化に関する教育から中華圏に対する理解へ―国語科・社会科を中心に―	単著	2018 年 平成 30 年 3 月	奈良学園大学紀要（奈良学園大学）第 8 集、149 頁～154 頁	学校教育の場で中華圏に対する理解を促進させる教育を行うべきことを主張した研究報告。まず、中華圏から非常に多くの観光客が日本へと来ているにも関わらず、日本人の中華文化圏に対する理解が足りないため、対応に不適切な点があるといった問題点を指摘し、その上で、伝統や文化に関する教育の一環として旧字体や台湾人・香港人アイデンティティーの問題について国語科や社会科の時間に教え、中華圏に対する正しい理解へとつなげるべきことを主張した。

別記様式第４号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　研　究　業　績　書

2024 年　4 月　1 日

氏名　　石原　由貴子

研　究　分　野	研究内容のキーワード
幼児教育	幼児教育・幼児理解・絵本・教員養成

教　育　上　の　能　力　に　関　す　る　事　項

事項	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例 ・幼小接続でおスタートカリキュラムの作成	平成 17 年～現在に至る	幼児期から児童期の発達の特性を踏まえ、地域の小学校との連携を図りながら教育課程を見直し、改善を重ね実践してきた。（大和郡山市立郡山西・平和・北・片桐・昭和・矢田南幼稚園で実践。現在はその指導をする。）
・学校評価を生かした保育内容の改善と実践	平成元年～令和 3 年	年度末に教育評価を評議員、教員、保護者と行い、教育課程や保育内容が具体的かつ有効であったか評価し、見直しと改善を重ねた。
・幼児理解に基づいた保育方法の探求	平成元年～令和 3 年	ひとりひとりの心もちに寄り添い、特性や発達に応じたきめ細やかな保育を展開してきた。また、主体的・対話的な保育を心がけ、充実した保育内容を考案した。
2　作成した教科書，教材 ・教育実習の手引（大和郡山市立幼稚園）	平成 28 年	幼稚園教育実習生の手引。実習の内容や日程、幼稚園教育の目標、幼稚園教育要領に基づいた保育内容の具体的な内容や幼児の姿、幼児を理解する視点等についてまとめ、令和 3 年まで使用した。
・実習の手引（奈良学園大学・共著）	令和 4 年	幼稚園教育実習、保育所保育実習、施設実習について、実習の日程と内容、教育実習の意義や目的、幼児教育全般についてまとめた。令和 5 年度より使用。
3　教育上の能力に関する大学等の評価 ・大和郡山市教育委員会からの評価	令和 2 年	園運営及び教育課程編成、保育内容の創造、若手教員への指導について高い評価を得ることができた。
・奈良学園大学学生授業アンケート	令和 3 年 令和 4 年	講義内容、話し方、要点の説明や明確化等について 4.8 程度で高評価を得ている。 講義内容では、実際の保育の様子がよく分かる等、内容の理解につながるとの評価を受ける。
4　実務の経験を有する者についての特記事項 ・教育実習に対する指導	平成元年～令和 4 年 3 月	多くの実習生を受け入れ、担任として、また、教頭・園長として指導や講話を行った。 ・幼児理解について ・学級経営について ・指導案作成について ・実際保育について ・配慮が必要な幼児について ・教師としての心構えについて ・教師のメンタルヘルスケアについて等

・教職に対する指導	令和４年～令和５年	教師の使命感や責任、やりがい、保育の面白さ等を担当する授業の中で実際の保育の様子や幼児の姿を映像等で見せながら指導してきた。
・令和３年度大和郡山市新規採用教員研修講師	令和４年１月13日	令和３年度に採用された大和郡山市の小・中の教員に対して、就学前の教育や連携の大切さ等について講話を行った。
・令和４年度大和郡山市新規採用教員研修講師	令和４年２月22日	令和４年度に大和郡山市の幼稚園・保育園・認定こども園の教員、保育士として採用される方々に、就学前教育について多くの事例を交えながら、保育を具体的にイメージできるよう講話を行った。
・大和郡山市教頭・指導教諭研修会講師	令和３年12月24日	大和郡山市の幼稚園教頭・指導教諭に対して、その職務についてや、若手教員への指導についての講話を行った。
・大和郡山市立矢田南幼稚園園内研究会講師	令和４年度	園内研究会での指導助言を行った。
・大和郡山市立郡山西幼稚園研修会講師	令和４年度	ポートフォリオ作成についての指導助言
・三郷町立西部保育園園内研究会講師	令和５年度	３歳児・４歳児・５歳児それぞれのクラスの保育について３回に分けて指導助言を行った。
・登美ヶ丘カレッジ講師	令和５年９月２日	架け橋期前半の小学校入学前につけておきたい力について、実際の保育現場での事例を通して講話を行った。（参加者：幼児の保護者、保育関係者）
５　その他		

務　上　の　実　績　に　関　す　る　事　項		
事項	年月日	概　　要
１　資格，免許 ・幼稚園教諭一種普通免許状	昭和59年３月24日	昭58幼一普第28号　（奈良県教育委員会）
・小学校教諭一種普通免許状	昭和59年３月24日	昭58小一普第221号（奈良県教育委員会）
・学校カウンセラー	令和６年２月	NO. 1582号　（日本学校教育相談学会認定）
２　特許等 なし		
３　実務の経験を有する者についての特記事項		
・奈良県放送教育研究協議会理事	令和２年４月１日 ～令和３年３月31日	幼稚園における放送教育についての指導を行うとともに、会の運営に携わった。
・大和郡山市人権教育研究会副会長	令和３年４月１日 ～令和４年３月31日	大和郡山市の人権教育に関わって、指導・助言を行うとともに、会の運営に携わった。
・大和郡山市就学指導委員	令和２年４月１日 ～令和４年３月31日	大和郡山市の就学指導に携わり、観察・助言を行った。
・大和郡山市教育委員会学校教育指導委員	令和３年４月１日 ～令和４年３月31日	教育指導員として、大和郡山市内の教職員の指導や講話を行った。また、学校教育基本方針の作成に携わった。

・日本学校教育相談学会奈良県支部運営意委員	令和２年４月１日 ～令和６年３月31日	運営意委員として、研修の企画に携わった。
・日本学校教育相談学会奈良県支部理事	令和６年４月１日 ～現在に至る	理事として、会の運営や研修の企画とうに携わっている。
４　その他		

研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項

著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書） 1 現場で役立つ保育実技 2 3 :	共著	令和５年９月	ふくろう出版	保育者を目指す学生や保育士として働き始めた方のために保育実技を紹介する実践書。 共著者：岡野聡子、小久保圭一郎、石原由貴子、ほか26名 ｐ66－ｐ70
（学術論文） 1 大和郡山市教育委員会指定研究会紀要「コミュニケ―ションの力を育む」	共著	平成26年11月	大和郡山市立郡山西幼稚園　発行	平成25・26年度大和郡山市教育委員会の指定研究園となり、幼児一人一人が様々な経験を通して自信をもって生活し「自分の思いを伝え、相手の思いを聴き、互いを分かり合おうとする」等の力を育むためにはどうすればよいかについて、実践研究した。 共著者：加奥満紀子、安井典子、上田良美、石原由貴子、ほか７名
2 保育の質を高める一方法－実践記録から“私”の保育を振り返る－	共著	平成24年３月	奈良佐保短期大学研究紀要第19号	子どもは、日々の生活の中で小さな変化や出来事に目を留め、興味・関心をもって関わろうとする。それが遊びの言動力になる。しかし、時に保育者は子どもの興味・関心（心もち）に気付かないことがある。だからこそ、子どもが気付く小さな変化や出来事に共に関わることが、子どもと共に生活する保育者の大きな役割であり、ひいては保育者の資質につながる。子どもが“たまたま”出会ったことや“たまたま”見つけたもの、つまり偶然に見つけたこと（セレンディピティ）は、保育者の受け止め方や活かし方によって、子どもにとって必要な体験や経験になっていくと考える。そのような偶然の価値を見出し、子どもの資質を磨いていくことが大切である。 共著者：和田公子、石原由貴子、藤村朱美、木下育子、三輪和子、大内菜恵子
3 幼稚園実習を通して学生の自己成長を促すルーブリックの開発と活用－実習への意識向上とスキルアップに着目して－	共著	令和５年３月	奈良学園大学紀要第15集	小さな子どもに「用語＋教育」を取り組む保育現場での実習に対して、「楽しい」だけの実習として終える学生の状況に疑念を持つ。この現状を打開するために学生の幼児教育に対する意識改革に努める必要性を強く感じる。そのために学生の現在の意識状況を知り、さらなる学びにつなげるための自己評価としてルーブリックを活用した。また、授業の遂行の仕方を振り返り、授業の再構成を図ることで学生の意識改革につながる

				ことを論じた。 共著者：間井谷容代、石原由貴子、高岡昌子、岡村季光
（その他） 1 幼児教育における栽培活動を通して育む心の研究	共著	令和 4 年度	奈良学園共同研究	学校法人奈良学園の学園内での共同研究として、奈良学園幼稚園 4 歳児を対象に植物の栽培やビオトープの生き物の生態を顕微鏡で見たり、実際に確かめたりすることを通して、幼児の知的好奇心を高めるとともに、継続して取り組むことで豊かな心が育まれることを研究した。 共著者：高岡昌子、岡村季光、石原由貴子、谷川具子
2 身近な自然体験が子どもの心に及ぼす影響 ～登美ヶ丘キャンパスの自然を活かして～	共著	令和 5 年度	奈良学園共同研究	学校法人奈良学園の学園内での共同研究として、昨年度に引き続き研究内容を深めることとした。今年度は特に、登美ヶ丘キャンパスの自然を活かし、また、幼・小・中・高で連携しながら、自然が子どもの心に及ぼす影響を実際に体験したり、アンケートで調査したりすることで研究した。 共著者：高岡昌子、岡村季光、岡野聡子藤田信子、石原由貴子、槇康二、福呂匠村山翔大
3 就学前の自然体験と後年の自己肯定感との関係について	共著	令和 6 年 3 月 7 日	日本発達心理学会第 35 回大会ポスター発表	親の養育態度に左右されない幼稚園や保育園等で体験できるような身近な自然体験が後年の自己肯定感と関係があるかどうかを調べたことをポスター発表した。（大会発表論文集 p 361 掲載） 共著者：高岡昌子、岡村季光、岡野聡子、石原由貴子

（注）

1　この書類は，学長（高等専門学校にあっては校長）及び基幹教員（大学院にあっては専任教員）について作成すること。

2　医科大学又は医学若しくは歯学に関する学部若しくは学部の学科の設置の認可を受けようとする場合，附属病院の長についてもこの書類を作成すること。

3　「研究業績等に関する事項」には，書類の作成時において未発表のものを記入しないこと。

教　育　研　究　業　績　書

令和６年３月３１日

氏名　太田　雄久

研究分野	研究内容のキーワード
教育学	教育方法(理科)・教科教育（理科）・学級経営

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
１　教育方法の実践例 特記事項なし		
２　作成した教科書，教材 特記事項なし		
３　教育上の能力に関する大学等の評価 （１）奈良学園大学人間教育学部採用に当たっての学長からの評価	平成26年７月	大阪教育大学附属天王寺小学校で理科教育を８年間担当し教育方法技術も豊かである。また大阪府下の小学校教員への指導歴も多く，理科が苦手な教員へ実験等の指導にも優れている。また，附属小学校で多くの教育実習生の指導経験もあり，本大学の教育実習指導にも力を発揮できると期待する。さらに，非常勤講師として大阪教育大学で理科教育において学生指導を担当した経験もあり，すでに非常勤であるが大学教員としての授業の経験がある。附属では担任や学年主任の経験もあり，学生指導においてもその経験を発揮できると考える。奈良学園大学の今後を支える若手研究者として期待できる。
４　実務の経験を有する者についての特記事項 （１）大阪教育大学教育学部（第二部）「理科教育法」実地講としての授業を担当	平成26年４月～平成27年３月 【4年目】	大阪教育大学教育学部（第二部）「理科教育法」において，「小学校理科授業の実際」をテーマとして，模擬授業や実践事例の紹介を通して，児童分析，教材分析，評価の観点とその方法について講義を行った。模擬授業では，リード線付きソケットを使わずに豆電球に明かりを付けることから，「見えない部分も含めて一続きの回路になっている」ことを理解させること，実践事例の紹介では，子どもの目線を動かすような課題設定や支援によって子どもの学びは深まることを指導した。学生からは，「目線が変わるだけで，ものの見方が変わることがわかった。」「自分たちが活動することで，学びがこれほど違うのかと驚きました。」などといった感想を得た。これらから，児童理解と教材分析をもとにした授業づくりの重要性を理解した学生が多数であったと言える。 （対象者：大阪教育大学３回生および４回生を中心に約６０名）

	平成27年4月～平成28年3月 【5年目】	大阪教育大学教育学部（第二部）「理科教育法」において，「小学校理科授業の実際」をテーマとして，模擬授業や実践事例の紹介を通して，児童分析，教材分析，評価の観点とその方法について講義を行った。模擬授業では，何も見ずにメダカを描かせることから，「知っているつもりを自覚させることが主体的な問題解決につながる」ことを理解させた。実践事例の紹介では，ゴムの働きの学習における子どもの目線の変化を根拠に，児童分析と評価の方法について言及した。学生からは，「教師の教材研究や児童理解がどれほど重要かを再確認できた。」「子どもに新しい視点を，教師がいかに与えるかが大切だと思った。」などの感想を得た。これらから，児童分析，教材分析，評価についての理解を深めた学生が多数であったと言える。 （対象者：大阪教育大学３回生および４回生を中心に約６０名）
	平成28年4月～平成29年3月 【6年目】	大阪教育大学教育学部（第二部）「理科教育法」において，「小学校理科授業の実際」をテーマとして，模擬授業や実践事例の紹介を通して，児童分析，教材分析，評価の観点とその方法について講義を行った。模擬授業では，何も見ずにメダカを描かせることから，「知っているつもりを自覚させることが主体的な問題解決につながる」ことを理解させた。実践事例の紹介では，子どもに観察をさせる時の指導内容を紹介し，その後子どもがかいた観察記録を紹介した。また，数名の子どもの観察記録の変容から，観察時に必要な指導方法について言及した。学生からは，「子どもの記録の何を評価するかで，子どもの記録のかきぶりがこれほど変わるのかと驚いた。」「つい，何も指導をせずに観察記録をかきなさいと伝えてしまいがちになるが，教師の指導によって子どもの学びがこれほど深まるのかと感心した。」などの感想を得た。これらから，児童分析，教材分析，評価についての理解を深めた学生が多数であったと言える。 （対象者　大阪教育大学３回生および４回生を中心に約６０名）
	平成29年4月～平成30年3月 【7年目】	大阪教育大学教育学部（第二部）「理科教育法」において，「小学校理科授業の実際」をテーマとして，模擬授業や実践事例の紹介を通して，児童分析，教材分析，評価の観点とその方法について講義を行った。模擬授業では，何も見ずにメダカを描かせることから，「知っているつもりを自覚させることが主体的な問題解決につながる」ことを理解させた。実践事例の紹介では，子どもに観察をさせる時の指導内容を紹介し，その後子どもがかいた観察記録を紹介した。また，数名の子どもの観察記録の変容から，観察時に必要な指導方法について言及した。学生からは，「体験授業を通して自分の記録の書きぶりが変わったことから，子どもの記録のかきぶりも変わることに納得した。」「どの単元でも指導者の綿密な指導計画や準備があるからこそ，子どもの学びにつながることを理解した。」などの感想を得た。これらから，児童分析，教材分析，評価についての理解を深めた学生が多数であったと言える。 （対象者　大阪教育大学３回生および４回生を中心に約６０名）

（2）伊丹市立有岡小学校での指導講師	平成26年4月～平成27年3月 【3年目】	「自ら考え意欲的に学ぶ子をめざして～自分の考えを持つための問題解決学習のあり方を考える～」という研究テーマのもとで指導を行った。年間５回（提案授業の指導講評３回，夏期研修会での研究の内容および２学期以降の授業指導案の指導１回，年度末の研究の成果と課題についての指導講評１回）の指導を行った。今年度の指導の内容は，「子ども一人一人の生活経験や学習経験によって，子どもの自然の事物・現象を見る目は決まっていること」「その決まっている目線をずらすことで，子どもの問題意識は生まれること」「思考の多様な表現方法の意味付けや価値付けを指導者が的確に行うことで，子どもの学習に対する意欲はさらに高まり，子どもが主体的な問題解決に取り組むことができるようになること」の３点である。指導の結果として，「児童の実態を詳細に記録した学習指導案が多くなったこと」「授業時の子どもの姿やノート記録をもとにした討議を行うことが定着したこと」「子どもの意見や疑問をもとに授業を進める場面が研究授業において多く見られるようになったこと」が挙げられる。 （対象者：伊丹市立有岡小学校教員約４０名）
	平成27年4月～平成28年3月 【4年目】	「自ら考え意欲的に学ぶ子をめざして～伝え合い，深め合う問題解決学習のあり方を考える～」という研究テーマのもとで指導を行った。年間５回（提案授業の指導講評３回，夏期研修会での研究の内容および２学期以降の授業指導案の指導１回，年度末の研究の成果と課題についての指導講評１回）の指導を行った。今年度の指導の内容は「子どもに伝え合い深め合わせるためには，『ホンネの問題意識』を持たせる必要があること」「子どもの意見や考えを授業のゴールに向かうように，指導者が意味付けたり価値付けたりする必要があること」の２点である。指導の結果として，「『ホンネの問題意識』を持たせるような事象の出会わせ方の工夫が多数見られたこと」「その工夫により子どもが自然と自らの伝え合うことができるようになったこと」が挙げられる。 （対象者：伊丹市立有岡小学校教員約４０名）
	平成28年4月～平成29年3月 【5年目】	「自ら考え意欲的に学ぶ子をめざして～伝え合い，深め合う問題解決学習のあり方を考える～」という研究テーマのもとで指導を行った。年間５回（提案授業の指導講評３回，夏期研修会での研究の内容および２学期以降の授業指導案の指導１回，年度末の研究発表会での指導講評１回）の指導を行った。今年度の指導は，「子どもに伝え合い深め合わせるためには，『ホンネの問題意識』を持たせる必要があること」「子どもの意見や考えを授業のゴールに向かうように，指導者が意味付けたり価値付けたりする必要があること」「その意味付けや価値付けを板書などでどのように可視化するかということ」「伝え合い深め合えるツールの活用法」の４点である。指導の成果として，年度末の研究発表会で，板書やホワイトボードを思考の可視化のためのツールとして活用した生活科の授業，「ホンネの問題意識」を誘発する理科の授業，各グループの実験データを根拠に深め合う理科の授業を公開することができたことが挙げられる。 （対象者：伊丹市立有岡小学校教員約４０名）

	平成29年4月～平成30年3月 【6年目】	「自ら考え意欲的に学ぶ子をめざして～伝え合い，深め合う問題解決学習のあり方を考える～」という研究テーマのもとで指導を行った。年間５回（提案授業の指導講評５回）の指導を行った。今年度の指導は,「子どもが主体的に伝え合い深め合えるような環境構成の仕方」「子どもの意見や考えを授業のゴールに向かうように，指導者が意味付けたり価値付けたりする必要があること」の２点である。指導の成果として，内容の系統性をふまえた「学習マップ」を作成できたことや，発達段階や学習内容に応じたグループ学習を実践できたことが挙げられる。 （対象者：伊丹市立有岡小学校教員約４０名）
	平成30年4月～平成31年3月 【7年目】	自ら考え意欲的に学ぶ子をめざして～伝え合い，深め合う問題解決学習のあり方を考える～」という研究テーマのもとで指導を行った。年間６回（提案授業の指導講評６回）の指導を行った。今年度の指導は,「子どもが主体的に問題解決や課題解決を行うことができる授業デザインのあり方」「子どもが自ら問題解決や課題解決に向かえる教師の形成的評価のあり方」の２点である。指導の成果としては，昨年度の成果として挙げられた学習マップを子どもの学びの自覚化を促進させるものに改編できたこと，子どもの気付きや考えをつなぐ教師の発言のあり方について教職員全員で学び合えたことが挙げられる。 （対象者：伊丹市立有岡小学校教員約４０名）
	平成31年4月～令和2年3月 【8年目】	自ら考え意欲的に学ぶ子をめざして～伝え合い，深め合う問題解決学習のあり方を考える～」という研究テーマのもとで指導を行った。年間７回（提案授業の指導講評６回，夏季研修会での講演１回）の指導を行った。今年度の指導は,「有岡小学校での過去の理科・生活科での研究成果を活かした授業デザイン」である。指導の成果としては，これまでの研究の成果と課題を分析することで，有岡小学校が目指す「主体的・対話的で深い学びによる授業改善」の視点を教職員全員で共通理解できたことが挙げられる。 （対象者：伊丹市立有岡小学校教員約４０名）
	令和2年4月～令和3年3月 【9年目】	「自ら考え意欲的に学ぶ子をめざして～伝え合い，深め合う問題解決学習のあり方を考える～」という研究テーマのもとで指導を行った。コロナ禍ということもあり，本年度は研究授業の指導案の指導という形態となった。年間を通じて６本の指導案の指導を，主としてメールで行った。 （対象者：伊丹市立有岡小学校教員約４０名）

	令和３年４月～令和４年３月 【9年目】	「自ら考え意欲的に学ぶ子をめざして～伝え合い，深め合う問題解決学習のあり方を考える～」という研究テーマのもとで指導を行った。年間５回（提案授業の指導講評３回，夏季研修会での講演１回，伊丹市教育委員会指定の研究発表会での指導助言）の指導を行った。今年度の指導内容は，「子どもが意欲的に学ぶ問題解決の在り方」である。指導の成果としては，これまでの研究の成果と課題を分析し，且つ OODA ループ的に問題解決の過程を捉えることで，有岡小学校が目指す「問題解決的な学習の在り方」を教職員全員で考えられたことが挙げられる。 （対象者：伊丹市立有岡小学校教員約４０名）
（３）大阪府下の小学校教員の自由研究指導力向上のための研修の指導助言	平成26年6月 【2年目】	大阪府教育センター主催の「自由研究指導力向上研修」で講話を行った。講話の内容は「自由研究の指導につながる理科の授業づくり」である。講話の目的は，日々の理科の授業内容を充実させることで，子どもが質の高い自由研究を行うことを論じた。研修後「子どもの素朴な見方や考え方の分析の重要性」「日々の授業で問題解決の道筋を子どもにたどらせることを繰り返すことが自由研究の質の向上につながること」の２つを参会者が実感した。 （対象者：大阪府下小学校教員約３０名）
（４）大阪教育大学教育学部「教職入門」実地講師	平成26年7月	大阪教育大学教育学部「教職入門」において，「理科を教える教師としての資質」をテーマとして，理科教師として学ぶこと，教育実習生を指導して感じたことを話した。さらに理科の目標内容とそのための授業づくりおよび実践事例についての講義を行った。特に，授業づくりおよび実践例では，小学校理科で取り扱う教材を学生一人一人に使用させ模擬授業を体験させた。その体験をもとに，実際の授業での子どもの様子を写真で紹介したり，ノート記録をもとに評価基準や評価方法を紹介したりした。指導の結果，「現場経験のある先生の授業は参考になる」「もっと実際の授業を受けて学びたい」「子どもの思考を姿やノート記録から教師が的確に見取り評価することがどれだけ重要かを実感した」などの声が多数挙がった。 （受講者：大阪教育大学１回生約６０名）
（５）教育課題研修指導者海外派遣プログラム事前研修	平成26年8月	和泉市立国府小学校教諭として，独立行政法人教員研修センター主催の平成２６年度教育課題研修指導者海外派遣プログラム事前研修に参加した。研修派遣先は，フィンランドである。派遣団の研究テーマは「ＰＩＳＡ型学力の育成について」である。その中でも「科学的リテラシーを育成するための理科授業のデザイン」の研修を進める班に所属することとなった。本事前研修では，フィンランドの教育システムや現在の課題のみならず，日本の教育システムと比較しつつ視察するべき理科教育の項目をまとめた。さらに，研修報告書のまとめ方などの講義を受けた。

（６）教育課題研修指導者海外派遣プログラム 海外研修参加 （独立行政法人教員研修センター主催）	平成 26 年 10 月	平成２６年１０月１４～２５日の間，和泉市立国府小学校教諭として，「ＰＩＳＡ型学力の育成について」をテーマに，フィンランドでの海外研修に参加した。現地での主な研修先は，国家教育局，ユバスキュラ大学附属学校園，ヘルシンキ大学附属学校園および教員養成実習校など，計１２カ所の機関および学校園である。研修先では，主に理科の授業見学と授業担当教員へのインタビューを行った。本研修で明らかになったことは，日本の学習指導要領は世界でも誇れるすばらしい物であること，フィンランドでのＩＣＴ活用の授業のレベルが高いこと，ＩＣＴに頼りすぎて本来授業で大切にすべき教材分析や板書，支援が十分に行われていないことなどが明らかになった。
（７）伊丹市立有岡小学校初任者研修講師	平成27年9月	伊丹市立有岡小学校において,「理科室の環境整備と授業づくりの基本」というテーマで，平成27年度に採用された初任者に対して，理科室の環境整備，安全面の指導，授業づくりについて指導した。特に，安全面の指導では，中村重太の「自作 hazards drawing による児童・生徒の加熱実験操作に関する安全意識調査」で使用された図を用いて，安全指導が必要な部分を指摘させた。また，授業づくりの基本では，リード線付きのソケットを使用せずに豆電球に明かりを付ける活動から，絶縁体の価値，リード線付きソケットの構造と豆電球の構造の関連性について講義した。結果,「指導者として見えていないものへの安全意識も持つことが大切であることがわかった」「指導者が教材について深く理解することが子どもを引きつける授業に繋がることがわかった」などの感想を得られた。 （対象者：伊丹市立有岡小学校新任教員４名）
（８）「保幼小接続期モデルカリキュラム（第２期）」検証のための幼稚園公開保育の指導講師	平成28年2月	伊丹市立こうのいけ幼稚園において行われた「保幼小接続期モデルカリキュラム（第２期）」アプローチカリキュラムに基づいた公開保育及び研究討議における指導講話を行った。指導の内容としては,「子どもの多様な気付きを誘発したり，思いや願いに向けて子どもがすぐに働きかけたりすることができる環境構成の重要性」「子どもの行動や発言他者とつなげる支援の重要性」の２点である。これらを公開保育で見られた具体的な事例を根拠として述べた。指導の結果として,「生活科の学びは保育園や幼稚園のそれと繋がっており，保育から学んでいかなければならないと実感した小学校教員が増えたこと」「小学校での学びを見据えた保育が必要であると考えた保育園や幼稚園の教員が多数見られた」ことが挙げられる。 （対象者：伊丹市内の小学校教員，公立および私立幼稚園教職員，保育所職員，こども園職員　約７０名）

（9）八尾市立八尾小学校での指導講師	平成28年4月～平成29年3月【1年目】	「アクティブ・ラーニングの実現に向けて」というテーマをもとに指導を行った。年間５回（夏季研修での指導講話１回，研究授業の事前指導及び事後指導を３回，年度末の研究の成果と課題についての指導講話１回）の指導を，理科と算数科を中心に行った。指導の内容としては，子どもの思考が働くきっかけである課題設定の重要性，課題設定のための教師の教材分析と内容の系統性の分析の２点である。指導の結果として,「教材の特性や内容の系統性を踏まえた課題設定を授業のきっかけとして提示する授業が増加したこと」「展開部分での子どもへの形成的評価の必要性に気付く教員が出てきたこと」が挙げられる。 （対象者：八尾市立八尾小学校教員約４０名）
	平成29年4月～平成30年3月【2年目】	「アクティブ・ラーニングの実現に向けて」というテーマをもとに指導を行った。年間７回（年度初めの指導講話１回, 各学年の研究授業の指導講話６回）の指導を，理科と算数科を中心に行った。指導の内容としては，子どもの思考をつなぎ拡げる指導者の役割，子どもの思考が表出するノートやワークシートの活用法の２点である。指導の結果として,「内容ではなく学び方を教える重要性」や「ノート記録の形成的評価やそれを考察部分で活用することの重要性」に気付く教員が出てきたことが挙げられる。 （対象者：八尾市立八尾小学校教員約４０名）
	平成30年4月～平成31年3月【3年目】	「子どもたちの考えをつなぎ・深める授業のあり方～自己の学びを見通し，振りかえることを大切にして～」というテーマをもとに指導を行った。年間６回（各学年の研究授業の指導講話６回）の指導を行った。指導の内容としては，子どもの主体的な学びを保証する授業デザインについて，子どもの思考をつなげる形成的評価のあり方の２つである。指導の結果として，本時レベルだけでなく単元レベルでの授業分析が授業等議会で多く発言されたこと，教師のつなぐ発言や子どもに繰り返し発言を求める教師の姿が授業内で多く見られたことが挙げられる。 （対象者：八尾市立八尾小学校教員約４０名）
(10) 第４９回全国小学校理科研究大会大阪大会分科会指導講師	平成 28 年 11 月	堺市立浜寺石津小学校で行われた，第４９回全国小学校理科研究大会大阪大会の代４学年分科会において，研究授業３本と実践報告２本の指導講評を行った。指導の内容としては，季節による動植物のくらしでは，季節ごとの気温や日照時間の変化と動植物のくらしを関連付ける指導の在り方について述べた。また，空気や温度変化など目に見えないものを扱う単元では，それらをイメージ図等で可視化しながら学習を進めていくことの重要性について述べた。参会者からは，グラフ化やサーモグラフィ画像など，可視化することの効果を感じられる実践発表や指導であったので，大変勉強になった。」「地域ごとによる夏の気温の上がり方の違いもあり，大阪府内と他の地域での学習のさせ方の違いを知ることができ，今後の指導の参考になった。」などという意見が多数挙がった。 （対象者　第４９回全国小学校理科研究大会大阪大会 第４学年分科会 参会者 約４０名）

(11) 公私立幼稚園・こども園・保育所（園）共同研究会講師	平成29年1月 【1年目】	伊丹市立中央公民館で行われた第４回公私立幼稚園・こども園・保育所（園）共同研究会において，「次期学習指導要領に向けた就学前教育と小学校教育の滑らかな接続について」という演題で講演を行った。講演の内容として，伊丹市立有岡小学校で行われた生活科の授業をビデオで流し，対象授業を根拠として，子どもの学びの環境構成のあり方について講義をした。また，参会者にもグループ討議を行ってもらい，所属する校園の違いによる環境構成の考え方の違いから，保幼小の３校園の接続を念頭に置いた環境構成のあり方について考えてもらった。講演の成果として,「幼稚園や保育園の保育の実態を踏まえた生活科の授業づくりの重要性を実感した。」「小学校への接続や生活科と保育の系統性について改めて考えるいい機会となった。」という保育士や幼小教員の振り返りから，保幼小の接続期において，それぞれの校園での連携の重要性について気付いた保育士や教員が多数いたことが挙げられる。 （対象者：伊丹市内の小学校教員，公立および私立幼稚園教職員，保育所職員，こども園職員　約７０名）
	平成30年2月 【2年目】	伊丹市立中央公民館で行われた第５回公私立幼稚園・こども園・保育所（園）共同研究会において，「就学前教育と小学校教育の滑らかな接続について～幼児期の終わりまでに育ってほしい姿～」という演題で講演を行った。講演の内容として，伊丹市立有岡小学校で行われた理科や生活科の授業実践から小学校教育での環境構成の有効性を論じると共に，保幼小の教育を滑らかに接続するために必要な条件や取り組みについて講義をした。また，参会者にもグループ討議を行ってもらい，所属する校園の違いによる環境構成の考え方の違いから，保幼小の３校園の接続を念頭に置いた環境構成のあり方について考えてもらった。「時間の無い中でも幼保の保育について学んで行かねばならないと感じた。」「幼稚園で行っている環境構成が小学校でも効果的であることを知って，さらに充実した実践を行っていこうと思うことができた。」という保育士や幼小教員の振り返りから，参会した保育士や教員によって学びのある会になったことが伺える。 （対象者：伊丹市内の小学校教員，公立および私立幼稚園教職員，保育所職員，こども園職員　約７０名）
	令和4年1月	伊丹市教育委員会指定 令和 3 年度伊丹市立有岡小学校研究発表会において,「子どもが主体的に学び深め合う問題解決的な授業」という演題で講演を行った。講演の内容として，平成 29 年に告示された「小学校学習指導要領」やそれの各教科等の解説編の内容と令和 3 年度の有岡小学校の授業実践，登壇者の過去の授業実践などを根拠にしながら，これからの問題解決的な授業の在り方について言及した。(対象者：伊丹市立有岡小学校教職員，伊丹市内の学校教職員，伊丹市外の学校教職員，約２００名。伊丹市内外の教職員はオンラインでの参加。)

(13) 伊丹市立ありおか幼稚園園内研究会指導講師	平成29年3月	「育ちと学びをなめらかにつなげる幼小接続～自然科学の分野に視点をあてて，遊びの中で学びを深めていくための環境構成を探る～」という研究テーマのもとで指導を行った。指導の内容としては,「保育の学びと生活科・理科の学びの関連」「生活科・理科の環境構成から見る保育の環境構成の意義」の２点である。指導の結果として,「保育と小学校教育の関連に気付いた教員が出てきたこと」「教員が現在行っている保育実践の意味や価値に気付けたこと」が挙げられる。 （対象者：伊丹市立ありおか幼稚園教員６名）
(14) 八尾市立亀井小学校での指導講師	平成 30 年 11 月	八尾市立亀井小学校において，理科の研究指導を行った。研究授業の指導講評の他，子どもの「ホンネの問題意識を生み出す授業デザイン」をテーマとして講演を行った。 （対象者：八尾市立亀井小学校教職員約 40 名）
	平成31年4月～令和 4 年 3 月	八尾市立亀井小学校において，指導講師として授業研究の指導に携わった。研究テーマは「子どもの『かく力』『伝える力』の育成」である。年間６回（各学年の研究授業の指導講話６回）の指導を行った。指導の内容としては，子どもの対話の質を上げる手立てのあり方と，子どものノート記録の評価の在り方の２点である。指導の結果として，子どもの学びの記録の多様性を認めたり，対話の質を高める協働的な学びの在り方について学校全体で研究を行ったりすることができるようになった。 （対象者：八尾市立亀井小学校教員約４０名）
	令和 4 年 4 月～令和 6 年 3 月	八尾市立亀井小学校において，指導講師として授業研究の指導に携わった。研究テーマは「よりよく問題解決しようとする児童の育成」である。年間 10 回（各学年の研究授業の指導講話 6 回，教員研修 4 回）の指導を行った。指導の内容としては，子どもの主体的な学びを保障する教師の関わり方と環境構成である。指導の結果として，教師が子どもの前で話す時間が減少し，子ども中心の学び合う時間が大幅に増えるような授業が多くなった。 （対象者：八尾市立亀井小学校教員約４０名）
(15) 第 27 回大阪府小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会研究大会中河内大会の事前の研究指導講師	平成30年9月～令和 2 年 3 月	平成31年10月31日に八尾市立高安小学校で実施される第27回大阪府小学校生活科･総合的な学習教育研究協議大会中河内大会の総論，および授業研究の指導を行っている。平成30年度は「主体的・対話的で深い学びを目指す授業づくり」についての講演を 2 回，総論の内容指導を 2 回，研究授業の指導講評を１回行った。
(16) 八尾市立曙川小学校での指導講師	令和３年５月	八尾市立曙川小学校において,「新学習指導要領を踏まえた授業づくり」という内容で，同校教職員をｐ対象とした研修を行った。主体的な学び，教科横断的な学びの２つをキーワードにしながら，講師の過去の授業実践等の事例をもとに，今年度の授業づくりの在り方について言及した。 （対象者：八尾市立曙川小学校教職員約４０名）
(17) 堺市立金岡北中学校校区小中教職員夏季合同研修会の指導講師	令和３年７月	堺市立新金岡小学校において,「GIGA スクール構想，校内の ICT 教育の推進に向けて」というテーマの下で小中学校教職員向けの研修を行った。具体的には，小学校を中心としたプログラミング教育ポータル「スクラッチ」やそれを利用した授業実践例の紹介，また最先端技術を活用した指導の在り方について講義した。

		（対象者：堺市立金岡北中学校区の小中教職員約８０名）
(18) 八尾市立高美小学校での指導講師	令和３年８月	八尾市立高美小学校において,「これから求められる小学校の授業実践」という内容で，同校教職員をｐ対象とした研修を行った。具体的には，子どもの問題場面の把握には個々に差があることや，算数科での具体的な問題場面を子どもの立場で捉えなおすことを通して，今年度の授業づくりの在り方を考えることができた。 （対象者：八尾市立高美小学校教職員約３０名）
(19) 伊丹市立荻野小学校での指導講師	令和４年１月	１年生の生活科の研究授業についての指導を行った。授業の実際を,「学習意欲に繋がる感覚」や「授業実践サイクル」，OODA ループなどと関連付けながら，子どもが具体的な活動や体験に没頭しながら気付きを深めていく授業の在り方について言及した。 （対象者：伊丹市立荻野小学校教職員約３０名）
(20) 大阪市小学校教育研究会 第３８回総合研究発表会２年次発表(理科)での指導講師	令和５年２月	大阪市小学校教育研究会 第３８回総合研究発表会２年次発表(理科)において,「地球」領域の研究授業の指導講評を行った。特に,「問題意識の醸成」の場面での指導の在り方やその場面を OODA ループで捉えていくことの重要性について言及した。 （対象者:大阪市小学校教育研究会 第３８回総合研究発表会２年次発表(理科)参加者約１００名）
(21) 河内長野市小学校教育研究会理科部会指導講師	令和５年６月～12 月	河内長野市小学校教育研究会理科部会において，授業づくりの講話と研究授業の指導助言を行った。指導の内容としては，教え込みの授業からの脱却について，児童の疑問を生かした課題設定等である。特に，子どもの学びを保障する環境構成や教師の関わり方の重要性について言及した。 （対象者：河内長野市小学校教育研究会理科部会会員約３０名）
(22) 八尾市立亀井小学校研究発表会指導講師	令和６年２月	八尾市立亀井小学校で行われた研究発表会において，指導助言を行った。特に，子どもの主体的な学びを保障するための教師の出どころについて，公開授業の様子を根拠にしながら指導を行った。 （対象者：大阪府下の小中学校教員約１００名）
５　その他 (１)畿央大学教育学部における非常勤講師としての教育実績	平成31年４月～令和３年３月	畿央大学現教育学部の非常勤講師として,「教育実習指導」（専門科目，３年次配当，通年，必修２単位）を担当した。主に，教育実習前の模擬授業の指導を担当した。教育実習を控えた学生に授業づくりの考え方や学習指導案の書き方，板書計画の立て方など教育実習に臨むにあたって必要な資質・能力の向上に寄与した。
	令和３年９月～令和４年３月	畿央大学現教育学部の非常勤講師として,「生活科概論」（専門科目，１年次配当，半期，必修２単位）を担当した。主に，生活科の目標や内容，評価の在り方，具体的な活動や体験の意義等について,『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説生活編』をテキストに使いながら講義を行った。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1　資格，免許 （1）小学校教諭１種免許状 （2）中学校教諭１種免許状家庭 （3）高等学校教諭１種免許状家庭 （4）小学校教諭専修免許状	 平成14年3月 平成14年3月 平成14年3月 平成29年3月	 平１３小１第２３６７号（大阪府教育委員会） 平１３中１第２４７４号（大阪府教育委員会） 平１３高１第２６３３号（大阪府教育委員会） 平２８小専第１３号（大阪府教育委員会）
2　特許等 特記事項なし		
3　実務の経験を有する者について特記事項 特記事項なし		
4　その他 特記事項なし		

研究業績等に関する事項				
著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書） 1．科学的な見方や考え方を育む理科授業	単著	平成 26 年 12 月	株式会社ＥＲＰ	小学校理科の目標である「科学的な見方や考え方を育む」ための理科授業づくりについて述べた。具体的な授業づくりの視点として，「児童理解」「教材分析」「単元目標の具体化」の３つをキーワードとして取り上げた。「児童理解」については，子どもの先行経験と内容の系統性をもとに，子どもが「知っていること」「知っているつもりになっていること」「全く知らないこと」の分析を行う「診断的評価」の重要性を述べた。「教材分析」は，教材がもつ単元目標に迫ることのできることのできる特質や価値を分析する目を養うことを述べた。さらに指導計画のなかに「形成的評価」をいかし，児童のつまずきを発見しそれを指導の改善に活かすことを主張した。「目標の具体化」については，「統合的な評価」を行うために目標達成に至った子どもの発言やノート記録を具体化することを述べた。３つのキーワードをもとにした小学校３年生「電気の通り道」，５年生「天気の変化」など６年生までの授業実践例を述べた。 Ａ５判　全５５頁

２.人間教育を視点にした教職入門	共著	平成 26 年 12 月	大学教育出版	人間教育に視点を当てて，教師を目指す学生に教育学の第一歩として，教育の目的や内容や学校組織について論じたものである。 Ｂ５判　２８０頁 編者：中田正浩 共著者：中田正浩，鎌田首治朗，松田智子，中田律子，金山憲正，瀧明知恵子，長居勘治， 本人担当部分（１０頁） 第６章第２節「小学校の学級経営」(p.１７２～p.１８０）の部分を単著 小学校は６歳から１２歳までと，担当する児童の成長及び発達の幅が広い。その発達に応じた特徴を把握し，段階に応じた学級指導について，１年から６年まで具体的に述べた。また，小学校学級担任の一日の仕事とその経営ポイントについて具体的に述べた。さらに，学校教育目標から学級教育目標を立てる手立てについて説明し，そのモデルとし６年生の例を示した。最後に PDCA サイクルで実践する学級経営の評価の重要性を論じた 本人担当部分（１０頁） 第７章第１節「小学校の生徒指導」（ｐ．２１２～ｐ．２２２）部分を単著 小学校という児童の発達年齢上，生徒指導は保護者及び地域の人々との連携なくしては，達成できない。また思春期の早期発達により，小学校高学年への対応は思春期初期の独特のプライドや自尊感情を傷つけないようにしつつも，毅然とした対応する必要性を述べた。小学校低学年・中学年・高学年の生徒指導のポイントを述べた。生徒指導の体罰・不登校・いじめなどが小学校でどのように解決するか方策を示唆した。また小１プロブレムや中１ギャップへ等への対応には接続する幼稚園・中学校との連携が，重要であることも述べた
３.シリーズ新時代の学びを創る５ 理科　指導の理論と実践	共著	平成 29 年 8 月	あいり出版	新学習指導要領で求められる理科の指導や授業の在り方について，大学生や現役教員に向けて，理論と実践から論じたものである。 Ａ５判　２９８頁 編者：石川聡子 共著者：石川聡子，秋吉博之，畦浩二，平田豊城，太田雄久，仲矢史雄，川上雅之他１４名 本人担当部分（１０頁） 第９章「小学校の実践事例」第２節「３年生『ゴムの働き』」（ｐ．１６４～ｐ．１７２）の部分を単著 ３年生「ゴムの働き」の実践事例をもとに，新学習指導要領で求められる理科の授業づくりの在り方について言及した。具体的には，これまでの小学校理科教育で求められる不易の部分にあたる児童理解，教材研究などは，これまで通り大切にすべきであることを述べた。それと同時に，子どもが学ぶ内容以上に，学習に使うツールや環境構成など，子どもの学び方をどのように構造化するかという流行にあたる部分についても事例を通して述べた。
著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要

(学術論文) １．多面的に観察させることで，子どもの科学的な見方や考え方を育む	単著	平成 26 年 10 月	株式会社ＥＲＰ ｐ２４～ｐ２７	理科学習においては，子どものこれまでの先行経験によって，子どもの自然の事物・現象についての見方は一面的になる傾向が強い。そのためには単元導入前に「診断的評価」を行う必要がある。この子どもの見方は無意識的なものであるため，一面的な見方を変容するには，指導者の指導および支援が必要になる。また，その変容や指導の成果を確認するために，指導の全体計画に「形成的評価」を適宜設定しなければいけない。３年生の「植物の体のつくり」「昆虫の体のつくり」での子どもの観察記録の変容を例に挙げ，このような変容に至った指導者の指導や支援及び目標と評価について述べた。さらには，観察記録の変容を指導者が的確に価値付けたり意味付けたりすることで子どもにフィールドバックするなど，「指導と評価の一体化」を図ることにより，子どもの観察する視点を多面的・科学的なものに変容させることができることを述べた。さらに，評価を教師の指導改善に役立てる重要性についても論じた。
２．理科教育と人間教育－自然の事物・現象についての視点を変えることを通して－	単著	平成 26 年 12 月	人間教育学研究第２号 （人間教育学会） ｐ８１～ｐ８８	人間教育とは，子ども一人ひとりが個性的で主体的な存在として成長していくことを援助する教育である。この教育のための授業づくりの視点として，子どもの内面世界に注目し，授業実践を行うことである。理科教育で求められることは①主体的な問題解決を重視することである。特に小学校では子どもの発達段階を考慮して身近な自然現象を対象とし子どもが自ら問題を発見し，見通しをもった観察・実験などを通して心を動かしながら問題解決の能力を育てることである。②言語力を重視することである。観察やレポートを作成する際に，視点を明確にして事象の差異や共通点を捉えて報告することは，人間としての基本的思考力育成となる。さらに比較や分類あるいは関連付けて思考すると言った「生きる力」の基本となる考え方を理科教育は育てる。③自然体験・科学体験の充実である。子どものこれらの体験不足が，人間としての成長に少なからず影響を与えている。体験を通し科学的知識の定着を図るだけでなく，学習
				を基に自己の日常生活を振り返り，生活に活用することができれば学習の意義は深まる。上記の視点で，理科という教科を学ぶ意義と人間教育について，具体的な単元をあげながら目標や内容，そして評価について実践事例をもとにして論じた。具体的には，６年生「水溶液の性質」で「粒子の結合の変化」をとらえさせるために，単元を通して自分の考えを図化して学習を進めさせた。考察の際に，図と比べさせ考察させることで，目には見えない「粒子の結合の変化」とらえることができるようにした。３年生「ゴムの働き」では，ゴムの伸びによって変化するゴムが持つエネルギーをとらえさせるため，決められた場所に車を止めるゲームを設定し，ゴムの伸びと車の進む距離の関係をドットシールでグラフ用紙に記録させた。完成した１次関数のグラフから「ゴムの伸びと車の進む距離にはきまりがある」ことに気付かせた。

３．子どもの目の付けどころをもとにした小学校理科の授業づくりに関する一考察	単著	平成 27 年 9 月	奈良学園大学紀要 第３集 ｐ１６９～ｐ１７６	見る人が自然の事物・現象の何を見るかによって，その捉え方は変わる。また，同じ部分を異なる向きから見るかによっても，そのとらえ方は変わる。小学校理科の学習において，子どもの目の付け所を変えるような手立てを行うことは，自然の事物・現象を理解させたり見方を深めたりすることに非常に有効であると考えられる。このような想定の下で，小学３年生の「植物育ちとつくり」の実践事例をもとにして小学校理科の授業において子どもの目の付け所を変える手立てを行った。その手立てが子どもの自然の事物・現象の理解の深まりや見方の変容に効果的であったかを，子どものノート記録を根拠として論じた。授業実践を通して，指導者が観察の仕方を綿密に根気強く指導し続ける必要があると同時に，子どもの観察記録をもとに，その目の付け所を的確に意味付けたり価値付けたりする必要があることが明らかになった。また，このような指導を継続的に行うことで，子どもは自身の学び方のよさに気付くとともに，達成感を感じ，理科の学習に対しての自信を持つようになることが明らかになった。
４．小学校理科教材「メダカ」の価値とその学習で獲得させたい「生命」についての見方や概念	単著	平成 27 年 12 月	人間教育学研究第３号 （人間教育学会） ｐ１１５～ｐ１２１	前の指導要領の改訂によって，小学校理科の内容のうち，「動物の誕生」が選択から必修に変更された。その前の改訂時に選択になったのにもかかわらず，すぐに必修に戻されたことは，本内容には子どもに「生命」についての見方や考え方を養うための価値があると考えられる。このような考えのもとで，過去の教科書と現行の教科書の記述を分析することによって，「動物の誕生」の内容が持つ教育的な価値について論じた。教科書の分析から，子どもに獲得させたい「生命」についての見方や考え方は，メダカの雌雄によるひれの形の違いの持つ意味を理解し，受精卵の育ちを観察し，さらにはメダカを継続的に何世代にもわたって飼育するという体験を通して獲得される「生命の連続性」とであることが明らかとなった。また，「動物の誕生」の内容が持つ価値は，雌雄のひれの形の違いや受精卵の育ちという内容そのものが「生命の連続性」を意味していることであることが明らかとなった。
５．子どもの感性を育てる小学校理科授業の実践とその効果―小学校第５学年「電流の働き」の学習より―	単著	平成 29 年 3 月	平成 28 年度大阪教育大学大学院教育学研究科実践学校教育専攻 修士論文　全３３頁	これまでの日本の理科教育では，子どもが自然に働きかけたり自然から感じ取ったりすることは重要視されてきた。その根拠として，日置（2005）が論じている，我が国の理科教育のねらいは「子どもが素朴に自然を見つめて，自然に働きかけて，そこから得られた情報と自らの経験をもとにして，自分の考えをつくっていくこと」であること，「子ども独自の素朴な考え方をとりわけ重視しているので，理科の基盤には，子どもが自分で感じたことや考えたことが存在している」ことの２点を挙げることができる。また，平成 28 年 12 月の次期学習指導要領の改訂にむけての答申においても，育てたい子どもの姿として，子どもが豊かな感性を働かせながら新たな価値を創り出すことが明記されている。これらのことから，小学校理科で子どもの感性を育む授業を構想，実践することで，その効果を検

				証した。子どもの感性を育む授業を構想する前に，授業実践を行う子どものこれまでの自然体験と遊びの経験について，質問紙による調査を行った。その結果，授業実践を行う単元「電流の働き」の内容に関わる「乾電池を使ったおもちゃで遊んだことがある」「じ石を使ったおもちゃで遊んだことがある」の項目では，50%以上の子どもが「わりと経験がある」「かなり経験がある」ということが明らかとなった。一方で，「全く経験が無い」「あまり経験がない」子どもが，それぞれ 3.2%，9.7%いることも明らかとなった。質問紙調査の結果を受け，これまでの遊びの経験の差を埋めるために，導入部分で全員が電磁石で鉄を引きつけるという場を設定した。そして，その後の一連の問題解決において，森本（2013）による「対話的な授業を進めるための教師が取っている行動」により，指導者が子どもの表出させた感性を意味付けたり価値付けたりすることを繰り返し行うという授業を構想し，実践した。授業プロトコルの分析から，指導者が子どもの感性を意味付けたり価値付けたりすることを繰り返し行うことで，子どもは問題解決への見通しを持つことができるようになったり，実感を伴った理解へ至ることができるようになったりすることが明らかとなった。 この結果から，指導者が子どもの感性を意味付けたり価値付けたりすることで，子どもが「実感を伴った理解」に至るとともに，このような指導を繰り返し行うことで子どもの感性を育むことができるという知見が得られた。
６．理科の見方・考え方を働かせる小学校理科の授業づくりの一考察	単著	平成 29 年 9 月	奈良学園大学紀要第 7 集 ｐ１５～ｐ２２	平成 29 年 3 月に，新しい『小学校学習指導要領』が，同年 6 月に新しい『小学校学習指導要領解説理科編』が文部科学省より公示された。今回の改訂により，理科の目標が大きく変化した。これまで養う対象であった「見方や考え方」が，働かせる対象である「見方・考え方」となり，実際の授業実践に少なからず影響を与えるものと思われる。そこで，本稿では，現行の指導要領下で実践された授業を，新しい指導要領の考え方で分析し直し，新しい指導要領下での小学校理科の授業づくりについて分析を行った。その結果，これまでの実践の全てを変える必要はなく，子どもが「理科の見方・考え方」を働かせられるような教材や状況を，どのように作るかが重要であることが示唆された。
７．子どもの感性を育てる小学校理科授業の実践とその効果の検証－小学校第５学年「電流の働き」の実践より－	共著	平成 30 年 7 月	理科教育学研究第 59 号 1 巻（日本理科教育学会）ｐ１～ｐ１０	研究の目的は，児童の感性を育てる小学校理科の授業を構想・実践し，その効果を検証することである。研究の方法として，これまでの児童の実態を把握し，授業実践を行った。質問紙調査から，児童の自然体験と遊びの経験が明らかとなった。特に，本研究の授業実践の対象である「電流の働き」の内容に関わる「乾電池を使ったおもちゃで遊んだことがある」「じ石を使ったおもちゃで遊んだことがある」の項目では，50%以上の児童が「わりと経験がある」「かなり経験がある」と回答した。その一方で，「全く経験が無い」「あまり経験がない」と回答した児童は，それぞれ 3.2%，

				9.7%であった。この児童の実態を踏まえて，児童の感性を育てる理科授業を構想した。その特徴として，次の２点が挙げられる。１つ目は，これまでの遊びの経験の差を埋めるために，導入部分で全員が電磁石で鉄を引きつけるという場を設定することである。2 つ目は，その後の問題解決の過程において，指導者が児童の感性を意味付けたり価値付けたりすることを繰り返し行うことである。実践した授業のプロトコルの分析から，指導者が児童の感性を意味付けたり価値付けたりする支援を繰り返し行うことで，児童は問題解決への見通しを持つことができたり，「実感を伴った理解」へ至ったりすることが明らかとなった。本授業実践を通して，指導者の児童の感性に対する意味付けや価値付けを繰り返し行うことで，児童の感性を育てることができるという知見が得られた。 ※平成 28 年度大阪教育大学大学院教育学研究科実践学校教育専攻修士論文を『理科教育学研究』への投稿用に一部を改編した。 共著者：太田雄久，粟生義紀，秋吉博之
８．子どもの感性を育てる小学校理科授業の提案	共著	平成 31 年 2 月	理科の教育 2019 年 2 月号（東洋館出版社）	『理科教育学研究』第 59 号 1 巻に掲載された「子どもの感性を育てる小学校理科授業の実践とその効果の検証－小学校第５学年「電流の働き」の実践より－」で取り上げた「対話的な授業を進めるための教師が取っている行動」（森本，2013）が子どもの感性を育てる効果があることを具体の実践事例を根拠に論じた。また，このような実践事例が新学習指導要領で求められている主体的・対話的で深い学びの授業提案であることも合わせて論じた。 共著者：太田雄久，粟生義紀，秋吉博之
９．理科の見方を働かせる小学校理科授業の提案－時間的な視点で捉える状況を作る－	単著	平成 31 年 3 月	奈良学園大学紀要 第 10 集 ｐ１～ｐ８	本論文の目的は，「時間的な視点で捉える」という「理科の見方」を子どもが働かせる状況を指導者が作り出す授業を構想，実践し，その授業で表出した子どものノート記録を分析することで，実践した授業において子どもが「時間的な視点で捉える」という「理科の見方」を働かせることができたかを検証することである。指導の手立てとして「4 コマ漫画の枠」を使った授業を実践し子どものノート記録を分析した結果，「4 コマ漫画の枠」を使うことで，「時間的な視点で捉える」という「理科の見方」を働かせる状況を作ることができることが明らかとなった。その一方で，自然の事物・現象についてより細かな時間枠で捉えるミクロ的な視点を働かせる必要性や効果的に「4 コマ漫画の枠」を使った学習ができる単元が他にもあるのかを検証する必要があることも示唆された。

１０．小学校教育で求められる授業実践についての一考察－生活科と幼稚園教育の比較から－	単著	令和 2 年 3 月	奈良学園大学紀要 第 12 集 ｐ１４５～ｐ１５０	本論文の目的は，小学校での生活科の授業実践を取り上げ，その実践と幼稚園の教育との共通点を示すことで，新学習指導要領で求められる小学校教育での学校段階等間の接続を踏まえた授業実践のポイントを考察することである。小学校生活科の授業実践 1 つと幼稚園での保育実践 1 つの比較から，①掲示物を活用して，子ども自身が学びを自覚化できるようにするとともに，子ども同士の学びの共有化を図ること，②掲示物は，子ども全員の目に入るところに効果的に配置すること，③教師は教えるのではなく，子ども自らが学びを創ったり進めたりすることができるように形成的評価を繰り返し行うことの 3 点が，小学校の教師と幼稚園の教師の共通の行為であることが明らかとなった。また，これらの行為は，新しい小学校学習指導要領で求められる授業実践におけるポイントになることも示唆された。
著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
㈜学会発表㈜ 1．子どもの目のつけどころを意識した理科の授業	－	平成 25 年 6 月	「ＮＥＷ　ＥＤＵＣＡＴＩＯＮ　ＥＸＰＯ」 （大阪マーチャンダイズマート）	「小学校の理科教育に求められること」をテーマに開催された。個々の生活経験や学習経験によって，子どもの自然の事物・現象を見る目は決まっており，その目線をずらすことで，問題意識は生まれることについて授業実践をもとに述べた。実践例は，３年生「植物の体のつくり」である。発表では，チューリップの絵を描かせたときに，ほとんどの子どもは横向きに書くことを例に挙げ，観察する子どもの視線の向きを植物の上から，葉の裏側から，土の中へと変える手立てが，植物の体のつくりやその工夫についての実感を伴って理解につながることを述べた。 担当部分：具体的な指導事例の提示 共同発表者　村山哲哉
２．子どもの思考力を育成する理科の授業～子どもの目のつけ所を意識して～	－	平成 25 年 8 月	第３回村山理科教育セミナー （大阪市立苗代小学校）	大阪市，堺市，大阪教育大学附属小学校教員を中心にした理科教育の研究会である。発表内容は子どもの生活経験や学習経験の違いによって，子ども一人一人の自然の事物・現象への見方や感じ方が異なること，仮設設定や考察時にこの違いを指導者が適切に意味づけたり価値づけたりしながら対話的に授業を進めることで，科学的な思考力を育成するという考え方のもとで実践した具体例を述べた。
３．理科教育と命の教育	－	平成 26 年 8 月	第１回人間教育学会 （奈良学園大学）	理科の「Ｂ生命」の内容を学習することを通して，小学校道徳の目標の解説にある「自他の生命の尊さ」を自覚できるきっかけを作ることを目的として実践した。実践した単元は，５年生「植物の発芽と成長」ある。明らかになったことは，理科の授業を通して「自然を愛する心情を育てる」こと，「実感を伴った理解を図る」ことができれば，「自他の生命の尊

				さ」を自覚できるきっかけを作ることができ，理科と道徳教育連携を図る授業の一案としての提案である。
４．理科教育と和文化	－	平成 26 年 11 月	第 11 回　和文化教育学会 （東京都武蔵村山市）	天気の言い伝えである観天望気を，５年生「天気の変化」の単元で詳しく学習することを通して，天気を決定づける要因について実感を伴って理解させることを目的として実践した内容を発表した。具体的な内容としては，単元の終末に，教科書で紹介されている観天望気を調べる活動を設定し，観天望気を成立させる要因を探る活動，さらには，オリジナル観天望気を作り，その信頼性を調べる活動を設定した。そして，その活動を設定することで，子どもの天気の変化についての見方や考え方を科学的なものにしようとした授業実践の一案として提案した。
５．子どもの視点の分析をもとにした小学校理科の授業開発とその実践	－	平成 28 年 3 月	日本教師学学会第 17 回大会 （奈良学園大学）	小学校理科授業において，この視点を動かすことで，子どもは「ホンネの問題意識」を持つことができ，主体的に問題解決の活動に取り組むようになると考え，授業実践を行った。実践の分析から，子どもの視点を動かす手立てを行うことは，子どもが実感を伴って理解すること，科学的な見方や考え方に変容することにつながることが明らかとなった。
６．子どもの感性を育む支援のあり方～子どもの自然体験や遊びの経験をふまえて～	－	平成 28 年 8 月	日本理科教育学会第 66 回全国大会 （信州大学）	子どもの自然体験や遊びの経験の違いにより，子どもの自然に対する感じ方や目の付け所に違いが出るという前提のもと，子ども一人一人の感じ方や目の付け所を効果的に価値付けたり意味付けたりして，子どもの感性を育もうとする授業を実践して，その効果を検証した。授業実践を通した検証から，ども一人一人の感じ方や目の付け所を効果的に価値付けたり意味付けたりすることで，子どもの感性が育むことにつながるという知見が得られた。 担当部分：研究代表者として発表を行う。 共同発表者　秋吉博之，粟生義紀 発表抄録：p. ２５６
７．子どもの感性を活用した小学校理科授業の実践とその効果～小学校第５学年「電流の働き」の学習より～	－	平成 28 年 11 月	平成 28 年度日本理科教育学会近畿支部大会大阪大会 （大阪教育大学）	文部科学省（2011）は，感性に関する指導を行う際に「豊かな表現，より論理的で的確な表現を通して互いに交流する」ことに留意することを示している。そこで，対話的な学びの場で指導者が子どもの感性を指導に活用する授業を構想，実践し，その効果を検証した。授業実践による検証から，指導者が子どもの感性を活用することで，子どもは「実感を伴った理解」へ至ることが明らかとなった。 担当部分：研究代表者として発表を行う。 共同発表者　秋吉博之，粟生義紀 発表抄録：p. ３７

８．子どもの感性を育てる小学校理科授業の実践とその効果～小学校第５学年「電流の働き」の学習より～	―	平成 29 年 8 月	日本理科教育学会第 67 回全国大会 （福岡教育大学）	これまでの日本の理科教育では，子どもが自然に働きかけたり自然から感じ取ったりすることは重要視されてきた。その根拠として，日置（2005）が論じている，我が国の理科教育のねらいは「子どもが素朴に自然を見つめて，自然に働きかけて，そこから得られた情報と自らの経験をもとにして，自分の考えをつくっていくこと」であること，「子ども独自の素朴な考え方をとりわけ重視しているので，理科の基盤には，子どもが自分で感じたことや考えたことが存在している」ことの２点を挙げることができる。また，平成 28 年 12 月の次期学習指導要領の改訂にむけての答申においても，育てたい子どもの姿として，子どもが豊かな感性を働かせながら新たな価値を創り出すことが明記されている。これらのことから，小学校理科で子どもの感性を育む授業を構想，実践することで，その効果を検証した。授業実践の検証から，森本（2013）による「対話的な授業を進めるための教師が取っている行動」により，指導者が子どもの表出させた感性を意味付けたり価値付けたりすることを繰り返し行うことで，子どもの感性を育てることができるという知見が得られた。 担当部分：研究代表者として発表を行う。 共同発表者　秋吉博之，粟生義紀 発表抄録：p. ３８５

別記様式第４号（その２）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　研　究　業　績　書

令和　6年3月　31日

氏名　　オチャンテ・カルロス

研究分野	研究内容のキーワード
人文社会学，外国語教育	外国語教育，第二言語習得，バイリンガル教育，異文化教育

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
1　教育方法の実践例		
(1) ICTを生かした「英会話、英語I、英語II、時事英語」の実践	平成23年4月～29年3	主に TPR 指導法や ICT 教育（電子黒板、タブレット）を生かして英語への関心を高めた。留学生と日本人の共通科目のため混在クラスで、多国籍の特性を生かす活動を実践した。(環太平洋大学・英会話、英語Ｉ 英語II、時事英語)
(2) 問題・課題解決型授業の展開「Introduction to Digital Media (英語), 時事英語、異文化コミュニケーション論」	平成23年4月～29年3月	英語をツール用いて与えられた課題（プロジェクト、議論）学生同士で取り組む授業の展開。学生同士で積極的に英語を使って、プレゼンテーション能力や議論（ディスカッション）能力を身に着く授業を目指した。
(3) 振り返りを伴った小テストの実施「英会話、英語Ｉ、英語ＩＩ、」	平成23年4月～現在に至る	学習強化を目指すため、「ウォーミングアップ」活動として小テストを用いた。語学においての習得したボキャブラリーや文法の確認を行い、教科のこまめな評価、学生の成績はもとより、振り返りで意欲の向上につながった。
(4) eラーニングを活かした授業の展開（時事英語、英会話、外国語の理解、外国語科の指導法）	平成25年4月～現在に至る	・「※Google for Education」を用いて授業内の教材の配布、課題の作成、出題や回収を行った。グーグルアプリケーションの連帯性を活用し学生と教材やデータを共有した。 ・「※Socrative」というアプリケーションを使い、授業でオンラインクイズやオンラインアンケートを取った。学生が自分のスマートフォンを使用し授業のまとめをオンラインで共有し参加型学習が実践され、よりインタラクティブな学習環境が可能になった。 （環太平洋大学・時事英語、異文化コミュニケーション論 ） ※Google for Education https://edu.google.com/intl/ja/?modal_active=none ※Socrative　https://www.socrative.com/
(6) 4技能を活かした小学校英語強化クラス編成	平成30年4月～平成31年3月まで	奈良学園大学人間教育学部の小学校教職課程対象学生へ英語 4技能を活かしたエクステンションクラス担当。次期学習指導要領で必要とされる主体的な学びや会話中心活動をもとに小学校英語科指導授業を展開。
(7) 小学校外国語指導の主体的・対話的授業づくり	令和元年4月～現在に至る	奈良学園大学人間教育学部の小学校教職課程対象学生へ英語運用力としてクラスルームイングリッシュやフォニックスなどを扱い，聞くこと・話すこと〈やり取り・発表〉・読むこと・書くこと」に関する知識を指導し，理論的，実践的なアウトプットができるように配慮した主体的・対話的な授業を展開。
(8) 小学校外国語活動の指導法における授業導入の工夫	令和元年9月～現在に至る	小学校英語科の役割と意義、学習指導要領で求められている内容・発音・リズム・クラスルームイングリッシュなどの英語力を向上させ、指導案作成，授業の導入部分で意欲付をするアイデアを身につける。
2　作成した教科書・教材 (1) Google Apps for Educationでの教材作成	平成26年4月～現在に至る	「Google for education」を用いて、インターネットでクラスマネジメント（課題配布・提出や評価など）を行った。授業のオンラインアンケートを行い授業のフィードバックを図った。 ・教材や宿題の文書作成に「Google Docs」用いた。 ・授業で扱った映像などのデータを「Google Classroom」で共有することによって復習や欠席者の学習に役立った。 ・授業内容のリフレクションペーパーなどのレポートやアンケート作成に「Google Forms」を用いた。 ・授業の内容を「Google Slides」で表示し、データを「Google Classroom」で共有した。 （環太平洋大学次世代教育学部国際教育学科「時事英語」、「異文化コミュニケーション論」、「国際教育基礎」、で使用）
3 教育上の能力に関する大学等の評価 (1) 環太平洋大学学生授業評価ア	平成 28 年 7	「総合的に授業は満足でき、受講を後輩に進めたい」の項目では

ンケート「英会話I. II」	月	90%以上の肯定的な評価を得た。
４ 実務の経験を有する者についての特記事項		
1「伊賀の方言講座」第１回講	平成 24 年 10 月	「様々な人々が暮らす国際都市伊賀市」のテーマで講演した。ニューカマーの言語教育（英語と日本語）と異文化教育を話した。
2「多文化共生推進セミナー」研修会講師	平成 26 年 3 月	日本在住外国人の実態にふれ、英語及び日本語獲得の現状を含め、多文化共生においての課題をまとめて話した。（伊賀市主催）
3「岡山市立香和中学校人権教育研修」講演	平成 27 年 9 月 25 日	テーマは「日本人とは何かを問いかけ自己文化と海外の文化を見つめなおす」
7「マイノリティとキャリア」講演	平成 28 年 12 月 22 日	日本における在日外国人の進学問題や就職・進路選択の課題についての講演。 （京都外国語大学・ピカ☆イチ Project 採択団体主催）
4「そうなん？！世界のいろんな物語」言語活動講師	平成 29 年 8 月 27 日	小学生３０名を対象に日本語・英語でペルー民族に関連した物語の絵本の読み聞かせを行いました。
5「SIFA Multi-cultural Festival」講師	平成 30 年 6 月 24 日	小学生を対象に日本語・英語によるペルー民族紹介を担当。 主催：（公益財団法人吹田市国際交流協会（sifa)
6「地球村ぷらすペルー」講師	平成 30 年 7 月 8 日	国際理解の一環として吹田市国際交流協会にて、ペルーの文化と日系の歴史について講演を実施。 主催：（公益財団法人吹田市国際交流協会（sifa))
7 「日本で働く南米の人々の思い」講師	平成 30 年 7 月 26 日	日本における外国人労働者の実態と子どもの教育についての講演。奈良県第５７回県外教学習会。
8 「SIFA 子ども国際理解プログラム」	平成 30 年 12 月 23 日	小学校生を対象に外国語活動を使った国際理解活動の実施。公益財団法人吹田市国際交流協会（SIFA)。
9 「外国人児童生徒教育講座」講師	平成 30 年 12 月 25 日	外国にルーツのある子どもの教育と言語習得の実態についての講演。三重県伊賀市教育研究センター。
10 「外国人児童母語継承支援活動」講師	平成 31 年 1 月 26 日	外国にルーツのある児童の母語継承を支援する言語活動の講師。(公財）箕面市国際交流協会（MAFGA）
11「第34回「みのお市民人権フォーラム」**講演**	令和１年12月8日	第６分科会「何が変わるの？「外国人材」の受け入れ ～多文化な地域づくりのこれから ～ 」箕面市国際交流協会（MAFGA）
12「パネルディスカッション、やさしい日本語」パネリスト	令和12年19日	「外国人の暮らしとやさしい日本語の実態」一橋大学大学院社会学研究科
13 「外国にルーツある子どもの学習サポート活動」コーディネータ	令和２年～現在に至る	伊賀市人権生活環境部多文化共生課主催
14 京都外国語大学外国語学部スペイン語学科ゲストティーチャー	令和３年～令和５年	京都外国語大学外国語学部スペイン語学科の授業「スペイン語園の基礎知識」でラテンアメリカの言語と文化についての講師担当
14 兵庫教育大学大学院学校教育研究科ゲストティーチャー	令和５年～現在に至る	兵庫教育大学大学院学校教育研究科の授業「国際理解教育I」、「世界の教育」で海外の教育の実態、日本における外国にルーツある子どもの教育実態について講師担当
15 国際シンポジウム及び講演の通訳（英語、日本語）	令和５年4月15日	「ケアリングサイエンス理論」ジュリー・ワトソン特別講演、奈良学園大学保健医療学部
５ その他		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
１ 資格，免許		
（1）中学校教諭一種免許状	平成18年3月	外国語（イスパニア語）京都府教育委員会（平17中一第1275号）
（2）高等学校教諭一種免許状	平成18年3月	外国語（イスパニア語）京都府教育委員会（平17高一第1987号）
（3）中学校教諭一種免許状	平成20年3月	外国語（英語）三重県教育委員会（平19中一第323号）
（4）高等学校教諭一種免許状	平成20年3月	外国語（英語）三重県教育委員会（平19高一第583号）
３ 実務の経験を有する者についての特記事項		

（1）大学オープンキャンパスの英語公開授業	平成 25 年～27 年	環太平洋大学のオープンキャンパスにて、「英語コミュニケーション」についての公開授業を行った。
（2）環太平洋大学開催の外国語活動イベント「イングリッシュ・キッズ」の講師	平成 26 年～29年 (年2回)	幼児・小学校生対象の英語を用いた体を動かすゲームや歌の講師。楽しく活動しつつ、英語に親しみ発音や単語や語順に慣れ親しむゲームを紹介した。
（3）留学生による初等・中等学校支援事業への参加：支援モデル	平成 26 年～29 年3月	公立小中学校における言語支援活動（英語）を担当。環太平洋大学に留学中のアジア諸国の学生を地域（岡山県の岡山市、赤岩市、瀬

の構築（学術研究助成金事業、挑戦的萌芽研究）		戸内市）の公立学校で英語を使った言語支援の活動や国際理解支援の活動を行った。研究代表者：江原智子、共同研究者 井上聡、アンソニー・ウォルシュ、長野真澄、小嶋隆宏、オチャンテ・カルロス
⑷　環太平洋大学開催の英語村（イングリッシュ・キャンプ）イベントの指導	平成26年～29年（年２回）	児童・生徒を対象に英語活動（ゲームやワークショップ）の講師を務めた。学生スタッフの研修企画及び英語活動の指導を担当。
⑸　キャンパス内のイングリッシュ・ゾンの設営及び運営	平成26年4月～29年3月	オール・イングリッシュで学生同士をスタッフが交流できる、英語を活かせる空間・場の設営、運営を担当。（環太平洋大学）
(6) 環太平洋大学ICT研修会	平成28年7月	学内における英語教育指導方法と Google apps for education を活用する研修を担当。（語学講師対象）
４　その他		
⑴　国際交流センター員	平成23年～4月～29年3月	学内の国際交流イベント企画、海外研修、留学学生の事前研修担当。TOEIC テスト監督。
⑵ 英語スピーチコンテスト審査員	平成24年2月	大学で、高校生対象の英語スピーチコンテストを行い、その審査員を担当して、受賞者を決定し助言を行った。
⑶　教職課程委員会員	平成24年4月～26年3月	英語免許取得学生の介護等体験や教育実習への事前説明担当、教育実習事前事後指導や実習学校訪問の企画を行う。
⑷　学術研究支援委員会における英語チェック修正	平成25年4月～29年3月	大学紀要における論文の英語タイトル、概要の英語チェックを担当し、修正を指導した。
⑸　FD 委員会員	平成27年4月～28年3月	学内の FD では特に英語科指導授業を公開して研修を行った。
⑹　大学 HP の英語版の校正。	平成27年9月	大学の英語版ホームページのチェックと校正（http://www.ipu-japan.ac.jp/global/spanish/index.html）
(7) 奈良学園大学社会・国際連携センター員	令和１年4月～現在に至る	「国際交流記録文集」の編集、海外大学と交流会の企画、文化交流参加学生の指導を担当。

研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行年月	出版社又は発行雑誌等の名称	概　要
1 岡山県におけるニューカマーの子どもの教育実態－総社市の調査を元に－	単著	平成24年3月	環太平洋大学 紀 要 2013 年第 7 号 pp205-211	岡山県のニューカマー数が著しい総社市を調査の対象にし、小学校と中学校に通う日系のブラジル人やペルー人の教育実態を調べた。調査では日本語の習得問題が存在し、日本語力が十分に身についていない子供が少なくないことが分かった。
2 外国語活動による小学生のコミュニケーションに対する動機づけの変化	共著	平成24年3月	環太平洋大学紀要第6号（pp183–190）	小学生を対象に異文化活動を通した外国語活動を実施した内容。コミュニケーションに対する動機づけを高める英語活動の内容と指導方法について論じた。 共著者：川崎由花、オチャンテ・カルロス 担当部分：実践的な異文化体験は小学校外国語活動においてどのような役割を果たすのかを量的調査を得て、分析し、執筆　pp185－188
3 外国人高校生を応援する仕組みづくりへの挑戦	共著	平成25年2月	ボランティア学研究 Vol.14 （12 頁	本論は外国にルーツをもつ若者が設立した NPO の活動実践 から後輩を応援することの意義を考察しながら、同じ境遇

4 英語課外クラスにおける活動事例報告 ― EFL 環境において英語学習への気づきを高める試み ―	共著	平成26年3月	環太平洋大学研究紀要 第 8 号（pp.203-210）	TOEIC の英語内容を分析し、効果的な対策指導法を論じた。英語多読教材や ICT を用いて効率化と向上を図った実践的な研究を提案。英語科の課外活動において効果があり、ICT 活用と英語科の内容と ICT 活用を関連付けて論じた。 共著者：オチャンテ・カルロス、小嶋隆宏、江原智子、 担当部分：英語指導内容に、ICT 教育を活かした事例を考察し、どのような学習内容が成果として出現したかを論じ執筆。pp208－210
7 ESL クラスにおける T.A.プログラム導入の必要性–環太平洋大学の調査を基に–	共著	平成26年3月	環太平洋大学紀要第 8 号（pp：193-200）	ESL（第二言語としての英語）科目で T.A.を活用し、会話中心の英語内容の効率化及び英語力向上との関連を調査。量的調査において T.A.の役割が授業内容の円滑な理解につながることが見られた。 共著者：オチャンテ・カルロス、アンソニー・ウォルシュ 担当部分：第二言語としての英語指導にティーチャー補助者（T.A.）が英語学習者にどのような支援が可能であり、学習者からの内容的アプローチについても論じ執筆。pp194－198
8 ESL クラスにおける E-ラーニングの取り組みに関する報告書 ― 環太平洋大学でウェブ 2.0 導入の取り組み―を基に ―	共著	平成27年3月	環太平洋大学研究紀要 第 9 号（pp.207-213）	ICT・メディアリテラシーの導入実践例を分析。「Google for Education」を活用しメディアリテラシーの向上と英語実践内容として文書作成や課題発表をデジタルな方法で行った。英語をツールとして情報リテラシー指導を行うとクロスカリキュラムな効果が見られた。 共著者：オチャンテ・カルロス、グジョン・ルック 担当部分：第二言語としての英語においてメディアリテラシーを扱った英語活動の実践例をあげ、どのような学習効果が得られるかについて執筆。pp207－209
9 言語学習におけるラーニング・スペースの重要性 －日本と香港の事例を基に－	共著	平成27年3月	環太平洋大学紀要第 9 号（pp.135-140)	英語の4 領域すべてにおける効果的な学修への ICT・メディアリテラシーの導入実践例を日本とアジアで比較分析した。「Google for Education」を活用した英語学習において主体的な学びが実践できるラーニング・スペースの重要性を考察した。 共著者：オチャンテ・カルロス、グジョン・ルック 担当部分：英語における主体的な学びにおけるラーニングスペースの役割について、具体例を挙げながら指導と効果について執筆。pp135－137
10　留学生による学校支援ボランティアの取り組み ― 小学校における国際交流と言語少数派児童に対する学習支援 ―	共著	平成30年3月	環太平洋大紀要第 12 号（301-306）	留学生に学校支援ボランティアへの参加を促し，留学生が地域社会と関わる機会の拡大を図っている。その主な活動内容は，小学校における国際交流活動と，言語少数派児童に対する学習支援であり，活動目的は，（1）留学生が自らの持つ知識や能力を活かして地域社会に貢献すること，（2）留学生自身の成長の機会とすること，の２点である。活動においては，大学が窓口となって，地域の教育委員会及び各学校と，留学生を繋ぐ役割を果たすとともに，留学生が円滑に活動できるように後方からの支援を行った。 共著者：長野 真澄、江原 智子、ウォルシュ アンソニー 担当部分：小学校における国際交流活動について考察を執筆。pp302-303

11 公立学校における英語活動と異文化交流の取り組み	共著	平成30年6月	奈良学園大学人間教育学部ジャーナル第1巻第4号（pp.105-112)	中学校の教科英語に大学の留学生が言語支援活動を行い、動機づけの変化を調べた研究。英語力が高いアジアの留学生は、自国の文化を生かした活動を取り入れることで、中学生に英語を通した異文化理解が実現させた。 共著者：オチャンテ・カルロス、アンソニー・ウォルシュ 担当部分： 言語支援の公立中学校の対象英語クラスに指導法と評価についてのアンケート調査を行い、その英語レベル情報の回収、分析と考察を執筆。
12 実践的な英語を扱うカリキュラムへの取り組み ー大学生のためのデジタル・メディア入門ー	共著	平成28年3月	環太平洋大学紀要第10集（pp.151-157)	メディアリテラシーとプロジェクト学習を扱った英語教育の成果をまとめた。 メディアを発信する方法としてブログ _ デイア入門ー _ ロジェクト型学習法を論じた。 _ 共著者：オチャンテ・カルロス、グジョン・ルック _ 担当部分：情報リテラシーと英語教育を取り組んだクロスカリキュラム的で教 _ 科横断的な指導法の成果の質的調査によ
13 留学経験者クラスの運営に関する考察　ー学生および教職員に対する調査結果ー	共著	平成29年3月	環太平洋大学紀要第11号（pp.133-137)	海外への語学留学で獲得した英語能力を維持するための英語指導法をまとめた。英語の4技能を活かした英語活動を通して、小学校高学年の学習発達段階に応じた適切な指導法を考察した。 共著者：村上一三、オチャンテ・カルロス、グジョン・ルック、ウォルシュ・アンソニー 担当部分：留学帰国者の語学能力維持のための小学校英語指導実践例とクラスのレベル分けのマネジメントについて執筆。pp135－136
14「カトリック教会における多言語・多文化環境の実態ー三重県伊賀市の事例ー」	共著	平成29年9月	奈良学園大学紀要第7集 pp.167-177	日本のカトリック教会にニューカマーがやってきてからどのように変化したのかを論じる。ニューカマーの増加によって多民族化した教会ではミサなどの行事が多言語で行われるなど様々な対応と支援が行われている。本論文で対象にした伊賀市カトリック教会はこれまで多文化共生を課題に発展したケースであり、成功例でもある。 著者： オチャンテ 村井 ロサメルセデス
15 アンケートと授業見学を基にした小学校の英語教科化に向けた現状ー大学での指導法の授業のためにー	共著	平成30年7月	奈良学園大学人間教育学部ジャーナル第1巻第5号（pp.141-146)	小学校 3・4年生の「外国語活動」、5・6年生の「外国語」の移行期間の実態を踏まえ、次期学習指導要領までに、学校で準備する課題が何であるかを論じた。 共著者：オチャンテ・カルロス、熊田岐子 担当部分：小学校「外国語活動」の実態を調査実施。また公立中学校において英

				語に対する意識調査を実施。アンケートの回収、分析及び考察した。pp143-146
16 小学校英語教科における問題解決的な学習法	単著	平成30年9月	奈良学園大学人間教育学部ジャーナル第1巻第7号（pp.239-245)	大学英語学習で行った問題解決型の授業「Project Based Learning」を紹介し、小学校の英語指導法に応用を試みた。５・６年生が扱う英語の学習に問題解決と ICT 教育の活用により「主体的な学び」が実現できると仮定した授業指導案とその評価方法について提案した。

17 小学校英語教科におけるＩＣＴを活かした指導法	共著	平成30年9月	奈良学園大学紀要第９集（pp.193-199)	小学校英語科指導法の充実化を図るための方策を具体的に提案した。まず指導と評価の一体化を図る指導案の在り方ついて論じた。また新学習指導要領で育てる資質能力について論じた。さらに小学校の ICT の実情把握視察を行い、教員のメディアリテラシー能力によって英語指導における ICT 運用が異なることが分かった。 共著者：オチャンテ・カルロス、グジョン・ルック 担当部分：新学習指導要領で求められる資質能力について、公立小学校の外国語活動においての ICT 運用の実態と成果について執筆。 pp193－196
18 小学校英語教科指導法における絵本の読み聞かせの有効性	単著	平成30年12月	奈良学園大学人間教育学部ジャーナル第2巻第 1 号（pp.27-33)	小学校英語科における児童文学と絵本の読み聞かせの有効性を調べ、大学の英語エクステンションクラスで模擬授業の指導を行った。対象学生に質的な調査を行った結果、児童文学教材と教科書の連帯を用いた授業作りが有効的な英語活動につながることが分かった。リーディング指導及び指導案作成のプロセスは本稿で考察した。pp.27-33
19 小学校における外国語指導法の取り組みI	単著	平成31年2月	奈良学園大学人間教育学部ジャーナル第2巻第 2 号（pp.75-82）	英語専科教員と外国語指導助手（ALT）の協力を得て著者とともに指導や授業作りなどの提案に関わった。本稿ではその取り組みを述べ、専科教員と外国語指導助手の役割を挙げ、将来的に英語指導にあたる学級担任の移行期間においての英語準備も述べる。本稿では、小学校英語授業の具体的な実際を分析し、その目標と指導と評価を一体として捉え、その振り返りである評価に視点を当てて、小学校での英語科指導法の充実化を図ることを目的とする。
20 英会話授業における「自尊感情を高める共有体験」に関する調査	共著	平成31年3月	奈良学園大学紀要第10 集（pp.1-7)	本稿では、英語スピーキングと定め、他者とのコミュニケーションにおける英語スピーキング不安を検証した。考案した項目を因子分析した結果、ペアワーク、グループワークにおいては「肯定承認」、「安心」、「忌避クラス発表においては「肯定承認」，「不得意」の構造を見いだした。さらに，英語スピーキング不安，対人不安傾向，自尊感情，自己受容，他者受容との関連を検討し，他者からのフィードバックが得られるグループワークが有効である可能性が示唆された。 著者：熊田岐子，岡村季光，オチャンテ・カルロス
21　書籍「新しい視点からの教育社会学」	共著	令和4年9月出版	大学教育出版	コラム①「オンライン授業の可能性」28ページ担当 著者：住本克彦
22　書籍「ペルーから日本へのデカセギ30年史」	共著	令和6年2月出版	インパクト出版会	第７章、ペルー人の移民当事者の生活を分析し、移民先での暮らしや家庭での課題などを考察した。文化継承、アイデンティティなどの移民当事者の様々な側面について考察した。p. 160 日本語版、スペイン語版とも発行 著者：ハイメ・タカシ・タカハシ、エドゥアルド・アサト、樋口直人、小波津ホセ、オチャンテ・村井・ロサ・タルセデ

（その他） 教員免許更新講座講師２コマ担当 英語指導法資料	単独	平成24年～29年毎年実施	環太平洋大学 A4 判10 頁	ス、稲葉奈々子 英語科指導法に異文化理解や ICT 教育の導入を扱ったテーマを中心に講座を実施した。毎年40 人が受講した。

［注］

１ 最近１０年間の教育活動、研究活動について作成すること。

２「教育活動」については各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については就任年月日順に記入すること。

３「研究活動」については、下記の点に留意すること。

① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入すること。

② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付すこと。

③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載すること。

④ 最近１０年間に著書･論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておくこと。

⑤ 芸術分野や体育実技等の分野を担当する教員については、著書・論文等以外の競技会、展覧会または演奏会等での発表のうち、特に顕著な業績と認められるものについても記載すること。このほか、専門分野の特性を考慮し、顕著な業績と認められるものがある場合もこれに含めてもよい。

別記様式第４号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　研　究　業　績　書

2024年5月7日

氏名　田　中　　紀　子

研究分野	研究内容のキーワード
数学教育，数学教育史，数学史	理数探究，問題作り，特別科学教育学級，確率論史，和算

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
1　教育方法の実践例	2010年4月- 2023年3月 2013年4月- 2014年3月 2014年4月- 2015年3月 2015年4月- 2016年3月 2016年4月- 2017年3月 2017年4月- 2018年3月 2018年4月- 2019年3月 2018年4月- 2019年3月 2019年4月- 2020年3月 2023年4月- 2024年3月	愛知県立岡崎高等学校，愛知県立豊田西高等学校，愛知県立旭丘高等学校の３校でスーパーサイエンスハイスクール事業に従事. 科学研究費奨励研究25913004「思考力・判断力・表現力を育む数学教育の実践的研究―協働学習・課題研究の取り組み―」研究代表者 科学研究費奨励研究26913004「協働学習や問題作り活動など多様な学びの形態による創造性を育む数学教育の研究」研究代表者 科学研究費奨励研究15H00279「協働学習や問題作り活動などの学びの形態のよさとその評価に関する実践的研究」研究代表者 科学研究費奨励研究16H00290「協働学習や問題作り活動の教育課程におけるモデル化とそのアセスメント」研究代表者 科学研究費奨励研究17H00283「数学の発見や構築時の視座に立つ授業と主体性自由性を包括する問題作り活動やその評価」研究代表者 科学研究費奨励研究18H00235「数学の深い学びに繋がる授業や問題作り活動の在り方とその評価」研究代表者 京都大学数理解析研究所長期研究員「Making Problem -Asking the students to make up Problem-」 科学研究費奨励研究19H00224「問題解決サイクルにおける問題作りの評価の位置付けや現象の数学的表現について」研究代表者 奈良学園大学共同研究「生徒を主体とする探究活動初期における教員の指導力の向上」
2　作成した教科書，教材	2017年8月 2019年3月 2022年3月 2021年4月- 2022年3月 2013年-現在	アクティブラーニングを位置づけた高校数学の授業プラン（明治図書）吉田明史編著,15名分担執筆，「コンパスを使わない作図にチャレンジしよう！」「4人グループで問題をつくって発表しよう！」pp50-61 平成30年版学習指導要領改訂のポイント(明治図書）吉田明史編著，18名分担執筆，課題学習（数学Ⅲ），数学Ⅱ・指数関数・対数関数における「主体的・対話的で深い学び」の具体例pp40-43,pp58-63 文部科学省検定済教科書高等学校数学科用（啓林館）数学I,Ⅱ,Ⅲ,数学A,B,C[新編,数学,深進][共著](執筆担当部分：数学A「第3章　数学と人間の活動」，数学B「第3章　数学と社会生活」，数学C「第4章　数学的な表現の工夫」，とくに新編シリーズ数学A pp130，新編シリーズ数学B pp110-113，pp118-120，pp126-127，数学シリーズ数学B pp116-125，　深進シリーズ数学B pp109-113) 文部科学省「指導と評価の一体化」のための学習指導評価に関する参考資料　高等学校　理数　作成協力（課題研究の取組を記述pp80-90) 教科書傍用問題集アドバンス，教科書傍用問題集アドバンスプラス（啓林館）［編著者：高校数学研究会/啓林館編集部　共著］

3　教育上の能力に関する大学等の評価	2020年2月 2023年3月	第11回教育実践懸賞論文奨励賞（日本教育会） 第13回教育実践顕彰論文奨励賞（日本教育会）
	2024年3月	数学科教育法Ⅱ～Ⅳ・教職実践演習・教育実習事前事後指導の生徒授業評価は学内平均を上回り良
4　実務の経験を有する者についての特記事項	2013年 2016年 2018年 2013年 2015年 2015年 2016年 2021年 2022年 2022年8月 2022年12月 2023年 2023年 2020年－現在	名古屋大学数学教育セミナー第41回講師「思考力・表現力を育む数学教育の実践的研究」 名古屋大学数学教育セミナー第48回講師「協働学習や問題作り活動とそのアセスメント―楽しみを見出し自ら学ぶ子どもの育成―」 名古屋大学数学教育セミナー第54回講師「数学の深い学びに繋がる授業や問題作り活動の在り方とその評価―数学III微分積分法における実践事例を通して―」 筑波大学附属駒場高等学校主催SSH岡山数学科教員研修会「愛知県立豊田西高等学校SSH数学の取組」 第1回RLA研究会「協働学習や問題作り活動など多様な学びの形態による創造性を育む数学教育の研究」招待講演（沖縄県立普天間高等学校） 文部科学省地（知）の拠点整備事業（COC事業）「多様な学びの形態による創造性を育む数学教育」招待講演（四日市大学） 島根県教育委員会事業「夢実現進学チャレンジセミナー」授業実践・講演 日本数学教育学会第103回大会（埼玉大会）高校部会シンポジスト 日本数学教育学会第104回大会（島根大会）全体会シンポジスト SAME算数・数学教員のための情報サイト(日本数学検定協会)「理数探究での教員の役割とは？生徒の課題解決力を育成するためのアプローチ」掲載(8月25日) 読売新聞特集記事「教育ルネサンス」課題研究(数学)の取組掲載(12月22日朝刊) 令和5年度徳島県高等学校教育研究会数学学会講演「高等学校における探究活動について」 奈良学園大学アカデミックインターンシップ講師 日本学生科学賞（応用数学分野）中央審査委員
5　その他	2008年-2020年 2015年-2016年 2018年 2021年 2019年－現在 2021年－現在 2023年－現在	名古屋大学数学教育セミナー 名古屋大学確率論セミナー 京都大学数理解析研究所長期研究員 文部科学省　評価基準評価方法等の工夫改善に関する調査研究協力者 日本数学教育学会実践研究推進部高等学校部会委員 日本数学会基礎論・歴史運営委員 関孝和数学研究所研究員

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1　資格，免許	1996年3月31日 1996年3月31日	高等学校教諭専修免許状(数学)取得 中学校教諭専修免許状(数学)取得
2　特許等		

3　実務の経験を有する者についての特記事項	2014年 2015年 2016年 2016年 2017年 2018年 2019年 2021年 2021年 2022年 2023年8月 2023年12月 2023年 2010年-2023年3月 2024年 2021年－現在 2021年－現在 2023年－現在 2023年－現在	MAA Math Fest「Making Problem」「What is NORISHIRO?」（Portland USA）口頭発表 MAA Math Fest100, Making Problem―Asking the students to Make up Problem―（WashingtonD.C. USA）口頭発表 AMS-MAA Joint Meetings, Making-Problem - Asking the students to Make up Problem- and its Assessment （Seattle USA）口頭発表 国際数学教育会議ICME13（24-31 July 2016）, MAKING PROBLEM-ASKING THE STUDENTS TO MAKE UP PROBLEM-（Hamburg）口頭発表 Paul Lévyの自叙伝的な手記，日本数学会2017年年会（数学史）（首都大学東京） 国際数学者会議ICM2018, CREATING PROBLEM - ASKING STUDENTS TO CREATE NEW PROBLEMS-AND ITS ASSESSMENT(Rio de Janeiro)ポスター発表 課題研究の充実に向けて，日本科学教育学会第43回年会，口頭発表 国際数学教育会議ICME14, RESEARCH PROBLEMS AND ASSESSMENT BY STUDENTS(Shanghai)口頭発表 RIMS数学ソフトウェア発表「高校生の日常における数学的視点 - ICT を活用した高校数学の個人探究学習 -」 RIMS数学ソフトウェア発表「Python を利用した数学コンテスト問題への対応-科学の甲子園全国大会の生徒解答事例-」 RIMS数学ソフトウェア発表「生徒による生徒のためのプログラミング講義 - 数理科学部における取組 -」 RIMS数学ソフトウェア発表「高等学校の課題研究における数学ソフトウェアの利用について」 第32回数学史シンポジウム「不規則な運動に対する確率論的表現についての一考察」共同発表 スーパーサイエンスハイスクール（ＳＳＨ）事業に従事 第33回数学史シンポジウム「現実の現象を描く確率・統計」共同発表 数学史京都セミナー(オンライン)参加・発表 飯高Zoomセミナー参加・発表 奈良セミナー参加・発表 近畿和算セミナー参加・発表
4　その他	2012年-2023年3月 2012年 2013年 2014年 2019年 2020年 2021年 2022年	科学系部活動指導 第2回科学の甲子園優勝（愛知県立岡崎高校　参加生徒指導） 日本数学コンクール優良賞１名、奨励賞２名 算数・数学の自由研究（Rimse理数教育研究所）奨励賞１名，数学オリンピックAランク賞１名 算数・数学の自由研究（Rimse理数教育研究所）敢闘賞１名 JSEC 高校生科学技術チャレンジ 2019入選１名、算数・数学の自由研究（Rimse理数教育研究所）奨励賞１名、第 63 回愛知県統計グラフコンクール第5部銀賞，数学オリンピックAランク賞1名 JSEC高校生科学技術チャレンジ 2020優秀賞１名、SSH生徒研究発表会　ポスター発表賞，算数・数学の自由研究（Rimse理数教育研究所）奨励賞１名 科学の甲子園全国大会出場　ケニス賞スカパー賞受賞，A-lympiad最優秀賞受賞，JSEC高校生科学技術チャレンジ 2020優秀賞１名 情報オリンピックアジアパシフィク大会出場2名

研究業績等に関する事項				
著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
1アクティブラーニングを位置づけた高校数学の授業プラン	共著	2017年8月	明治図書	吉田明史編著,15名分担執筆，「コンパスを使わない作図にチャレンジしよう！」「4人グループで問題をつくって発表しよう！」，pp50-61
2平成30年版学習指導要領改訂のポイント高等学校数学	共著	2019年3月	明治図書	吉田明史編著，18名分担執筆，総ページ数133，課題学習（数学Ⅲ），数学Ⅱ・指数関数・対数関数における「主体的・対話的で深い学び」の具体例，pp40-43,pp58-63
3算数・数学授業研究ハンドブック	共著	2021年8月	東洋館出版社	日本数学教育学会編，50名分担執筆，総ページ数276，研究としての授業研究「高等学校教員の学会誌投稿事例」pp206-213
4文部科学省検定済教科書高等学校数学科用	共著	2022年	啓林館	数学I,Ⅱ,Ⅲ,数学A,B,C[新編,数学,深進][共著](執筆担当部分：数学A「第3章　数学と人間の活動」，数学B「第3章　数学と社会生活」，数学C「第4章　数学的な表現の工夫」，とくに新編シリーズ数学A pp130，新編シリーズ数学B pp110-113，pp118-120，pp126-127，数学シリーズ数学B pp116-125，　深進シリーズ数学B pp109-113)
5国立教育政策研究所「指導と評価の一体化」のための学習指導評価に関する参考資料高等学校【理数】	共著	2022年2月	東洋館出版社	文部科学省国立教育政策研究所　教育課程センター（研究協力者13名，教育課程調査官5名，編集全般7名），総ページ数126，課題研究における生徒指導事例を評価の視点で記述，pp80-90
（学術論文）				
1高等学校数学科における「問題作り」とその評価に関する実践研究(査読付)	単著	2019年11月	日本数学教育学会誌101巻第11号	執筆者６名(実践研究推進部含)，総ページ数78，「問題作り」の実践研究，pp14-23
2京都における特別科学教育学級の記録(査読付)	単著	2021年7月	京都大学数理解析研究所講究録別冊B85	長田直樹編，執筆者12名，総ページ数186，戦中にあった特別科学教育学級の調査報告，pp93-115
3京都における特別科学教育学級の授業と生徒のその後(査読付)	単著	2022年4月	京都大学数理解析研究所講究録別冊B89	長田直樹編，執筆者14名，総ページ数194，「京都における特別科学教育学級の記録」追調査，pp109-126
4宅間流妙矩集・遷式術を教育的視点で眺めて(査読付)	単著	2023年7月	京都大学数理解析研究所講究録別冊B92	小川東編，執筆者10名，総ページ数180，「宅間流妙矩集・遷式術を教育的視点で眺めて」，pp151-166
5生徒主体の協働的探究活動初期におけるファシリテーターとしての教師の役割について(素読付)	単著	2023年12月	奈良学園大学紀要第16集	奈良学園大学紀要委員会編，総ページ数208，令和5年度学校法人奈良学園共同研究助成をうけ，奈良学園中学校・高等学校の先生方の協力を得て実施，pp93-104
（その他）				
1データの分析における思考力養成	単著	2013年	日本数学教育学会論文発表会第46回秋期大会発表集録	高等学校数学I「データの分析」における数学的活動に関わる実践事例研究，pp177-178
2協働学習や問題作り活動など多様な学びの形態による創造性を育む数学教育の研究	単著	2014年	日本数学教育学会論文発表会第47回秋期大会発表集録	高等学校数学の授業内において，協働学習や問題作り活動などの学びの形態によって，生徒の創造性を育む数学教育のあり方を志向した実践研究，pp133-136
3協働学習や問題作り活動など多様な学びの形態による創造性を育む数学教育の研究―２次関数分野	単著	2015年	日本数学教育学会論文発表会第48回秋期大会発表集録	2次関数分野における「問題作り」の実践研究.pp153-156

4PAUL LEVY “INSTITUT DE FRANCE ACADEMIE DES SCIENCES TROISIEME CENTENAIRE 1666-1966”飛田武幸先生から教わったこと	単著	2015年	第26回数学史シンポジウム	第26回数学史シンポジウム(2015)津田塾大学数学・計算機科学研究所報，pp116-127
5協働学習や問題作り活動の教育課程におけるモデル化とそのアセスメント	単著	2016年	日本数学教育学会論文発表会第49回秋期大会発表集録	高等学校数学の授業内において，協働学習や問題作り活動の教育課程におけるモデル化とアセスメントについて考察した実践研究，pp137-140
6Paul Levyの自叙伝的な手記	単著	2017年	第27回数学史シンポジウム	第27回数学史シンポジウム(2016)津田塾大学数学・計算機科学研究所報，Paul Levyから飛田武幸氏に宛てて書かれたフランス語の手紙について，pp30-38
7主体性自由性を包括する「問題作り」とその評価	単著	2017年	日本数学教育学会論文発表会第50回秋期大会発表集録	高等学校数学科における「問題作り」の実践研究，pp5-8
8Paul Levyの確率論-伊藤清・飛田武幸の視点から-	単著	2018年	RIMS講究録別冊B71	研究ノート，PaulLevyの写真や手紙を掲載，pp137-151
9Paul Lévyの数学の魅力―伊藤清・飛田武幸の視点から―	単著	2018年	第28回数学史シンポジウム	第28回数学史シンポジウム(2017)津田塾大学数学・計算機科学研究所報，pp137-147
尋常小学算術における原題のない問題づくりへの一考察	単著	2018年	日本数学教育学会論文発表会第51回秋期大会発表集録	尋常小学算術に掲載されている問題づくりの問題について分類し考察したもの，pp523-526
10戦時下の特別科学組	単著	2019年	日本数学教育学会論文発表会第52回秋期大会発表集録	戦時下の特別科学組について調査し，今後の理数教育の在り方を考察したもの，pp449-452
11美しいノイズ―飛田武幸先生を偲んで―	単著	2019年	第29回数学史シンポジウム	第29回数学史シンポジウム(2019)津田塾大学数学・計算機科学研究所報，pp113-128
12問題づくりのルーツ	単著	2021年	第３１回数学史シンポジウム(2021)津田塾大学数学・計算機科学研究所報	第31回数学史シンポジウム(2021)津田塾大学数学・計算機科学研究所報43，問題づくりの問題分析，ルーツの調査，pp105-114
13高校生の日常における数学的視点 --ICTを活用した高校数学の個人探究学習--	単著	2021年	数理解析研究所講究録，2178数学ソフトウェアとその効果的教育利用に関する研究	ICTを利用した課題探究実践．高校生が日常を数学的視点でどのように捉えているか．pp135-141
14学校教育の数学的活動におけるICTの可能性	単著	2022年	日本評論社，数学文化038	日本数学協会，総ページ数142，エッセイ．特集「ICT時代の数学教育を考える」に寄稿．pp38-41
15不規則な運動に対する確率的表現についての一考察	共著	2023年	第32回数学史シンポジウム(2022)津田塾大学数学・計算機科学研究所報	第32回数学史シンポジウム(2022)津田塾大学数学・計算機科学研究所報44，田中紀子，松原望，pp47-60
16現実の現象を描く確率・統計	共著	2024年	第33回数学史シンポジウム(2023)津田塾大学数学・計算機科学研究所報	第33回数学史シンポジウム(2023)津田塾大学数学・計算機科学研究所報45，田中紀子，松原望，pp70-90
17パズルゲームで授業開き	共著	2024年	明治図書，数学教育No798	総ページ数112，特集「短時間でパットできる！パズルゲームで授業開き」西洋数学史に関わるパズルゲームで授業開き！「ガウス少年のエピソードから」，和算に関わるパズルゲームで授業開き！「神社・仏閣にある「算額」を読み解く第一歩」pp60-61,pp68-69

別記様式第４号（その２）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　研　究　業　績　書

令和　5年　3月30日

氏名　間井谷容代　　印

研究分野	研究内容のキーワード

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
1　教育方法の実践例	平成23年12月，平成24年12月，平成25年12月	奈良100年会館で、表現活動発表を指導した。
	平成25年12月	奈良市サポートセンターのクリスマス会参加。学生の表現発表を指導した。
2　作成した教科書，教材	令和5年9月	「現場で役立つ保育実技－身体・言語・音楽・造形表現からSTEAM教育を取り入れた保育実践までー」
3　教育上の能力に関する大学等の評価		授業評価の学生アンケートの評価が高く。5段階の4.5であった。自己点検の評価では進路担当を行い、就職指導には力を注いだ。学生の願いが叶い高く評価され４の評価であった。
4　実務の経験を有する者についての特記事項	平成15年9月～平成16年9月	大阪樟蔭女子大・大阪大谷大学・白鳳短期大学・大阪千代田短期大学・畿央大学で学生の実習指導を行った。
	平成20年10月～平成21年6月・9月	インターンシップに参加する学生指導を行った(畿央大学)。
	平成29年12月～平成31年2月	子育て支援(香芝市子育て支援ほっと)にて、遊びにくる保護者と子ども対象に関わり、その中には療育を受けている障害のある子どももいた。その時には学生に配慮をするように指示を入れ保護者も子ども安心して参加できるような活動を準備するように努めた。
5　その他		

職務上の実績に関する事項

事項	年月日	概要
1　資格，免許	昭和62年3月18日	保育士証（奈良県002914）
	平成28年3月1日	幼稚園教諭1種免許状 (奈良県教育委員会平二七幼一種第二四号)
	令和3年3月31日	幼稚園教諭専修免許状 （大阪府教育委員会令二幼専第一八号）
	令和6年3月15日	早期発達支援支援士（E-539号）
2　特許等	年月日	
3　実務の経験を有する者についての特記事項	昭和62年4月	香芝町立五位堂保育所　（昭和63年3月31日まで） 在職中はダウン症の園児が在籍しており、クラスの中で支援した。
	昭和63年4月	香芝町鎌田幼稚園　（平成5年3月31日まで） 在職中、ダウン症の園児が在籍。クラスでの仲間作りで取組み、保護者支援を充実させた。
	平成5年4月	香芝市立真美ケ丘東幼稚園（平成７年8月31日） 知的障害の子どもが在籍。養護学校と共に取組んだ。
	平成11年4月	香芝市立下田幼稚園（平成13年3月31日まで） 在職中は自閉症・知的障害・歩行障害の園児を担当。障害児を取り巻くクラス運営について取り組んだ。
	平成13年4月	香芝市立五位堂幼稚園（平成17年3月31日まで） 在職中は自閉症・アスペルガー症候群の園児を受け持ちクラスでの仲間作りに取組んだ。
	平成17年4月	香芝市立旭ケ丘幼稚園（平成20年3月31日まで） 在職中は広汎性発達障害・アスペルガー症候群・広汎性発達障害の疑いの園児と関わりをもった。クラスの中で障害をもつ園児と保護者を巻き込み、クラス作りに取組んだ。
	平成20年4月	香芝市立真美ヶ丘東幼稚園(平成23年3月31日まで) 在職中養護学校からの転校してきた知的障害の子どもを受け持つ。保護者と連携をしながら、保育を進めた。

事項	年月日	概要
	平成26年6月	園内研修の講師を務めた（三郷町立南畑幼稚園）。
	平成27年5月，6月，10月	クラス運営の保育内容の進め方と障害加配担当者の関わりについて指導。また子どもの発達状況を記録と本児の姿を通して話し合った。
	平成28年度（～平成29年度まで）	園内研修の講師を務めた（三郷町立南畑幼稚園）。
	平成30年12月	関西福祉科学大学保育士養成課程委員会の副委員長を務めた。
	平成31年1月，2月	奈良社会福祉院　法人職員研修保育研修講師を務めた。
	令和1年10月	奈良社会福祉院　法人職員研修保育研修講師を務めた。
	令和2年1月	郡山東保育園を認定こども園への移行手続き、書類作成を行った。
	令和2年3月5月	奈良学園大学の開講科目「保育相談」の外部講師を務めた。
	令和2年9月	保育研修講師を務めた（学校法人楠公学園あけぼの・幼保学院）。
	令和4年10月	児童発達支援事業所「ぴょんちゃんclub」立ち上げ手続き、書類作成を行った。
	令和4年8月	職員研修講師（奈良社会福祉院　中登美こども園）
	令和4年9月、10月12月	園内研修講師を務める(三郷町立西部保育園)
4　その他		特になし。

研究業績等に関する事項				
著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の	概要
（著書） 1. 「現場で役立つ保育実技－身体・言語・音楽・造形表現からSTEAM教育を取り入れた保育実践まで－」	共著	令和5年9月	ふくろう出版	保育実技の紹介の本である。レッスン1～レッスン８までの実技。説明内容が記載されている。保育実習にも役立ち、採用試験にも役立つ内容である。 分担執筆：岡野聡子（編著）間井谷容代
（学術論文） 1.本学院における表現活動発表会への取り組み(１)－2011年の実践を通して－	共著	平成24年9月	全国保育士養成協議会第51回研究大会(京都府)研究発表論文Ｐ492－493	学生たちが日頃取り組んできた表現分野を毎年12月に「表現活動表現会」と題して授業の総まとめとして行っている。担当の教科は表現Ⅳ総合Aである。その授業で制作した人形・ペープサート等を活用しながらで劇を行った。その時の様子と演じた後の感想などを含めアンケートをとり、その事をまとめた。 執筆：下清水広　岩城正幸　間井谷容代 Ⅳ結果と考察
2.近隣地域や関係機関における本学院の活動－保育者養成における協働への手掛かり－	共著	平成25年9月	全国保育士養成協議会第52回研究大会(高知県)研究発表論文Ｐ550－551	近隣の幼稚園保育園を招待して、学生たちの表現活動発表をおこなっていること、あるいは、地元の自治会主催の行事や子育て支援として活動されているサポートセンターにボランティアで劇を演じたこと、表現以外として、学園全体が取り組んでいる花いっぱい運動を学生も共に行い、花を通じて地域の人と触れ合ったことなどをまとめた。 執筆：下清水広　間井谷容代　佐々木千晶　岩城正幸 Ⅱ活動内容・Ⅲ活動状況、活動からの考察
3.幼児のごっこ遊びにおいて交わされる会話に関する一考察	共著	平成24年12月	奈良保育学院研究紀要第15号	幼児の好きなごっこ遊びを通して幼児の言葉を調査した。ごっこ遊びで交わされる会話の中で、方言が使われていたり、大人の言葉をなりきって真似ていたりする。また、あるいは赤ちゃんやキャラクターになりきる姿が見られる。その様子等を保育者の方に観察してもらいアンケート調査を各保育園・幼稚園で行った。そこで言葉と環境のつながりを事例1通してまとめた。 執筆：坂本渉　間井谷容代 P59-63（Ⅲ6～Ⅳ）
4.本学院における表現活動発表会への取り組み	共著	平成24年12月	奈良保育学院研究紀要第15号	表現活動発表で行った後のアンケートをまとめた。 表現Ⅳ総合Aで行った授業で共に一つの劇として作品を仕上げることで、学生たちの自然なつながりができた。 ここまでになるにあたり、学生自身の葛藤はあったが、互いに気持ちを寄り添わせることでいい作品へと導くことができたこと、外部評価もよく学生の自信となった。 執筆：下清水広　岩城正幸　間井谷容代　尾田敬子 P46-47（2）
5.近隣地域や関係機関における学生の活動 - 保育者養成における協働への手掛かり -	共著	平成26年12月	奈良保育学院研究紀要第16号	地域の子育て支援のサポートセンターでボランティア活動として劇を発表して、乳幼児や保護者の方と共に簡単な制作・触れ合い遊び等を取り組んだこと、また学園取り組みの「花いっぱい運動」に参加し、土作りから始め花を植え、花の世話を毎日していること、地域の人と花を通してかかわっていることなどをまとめた。 執筆：下清水広　間井谷容代　谷本一栄 P46－49Ⅲ
6.学生の保育計画力の育成に関する一考察－教育課程総論と幼稚園教育実習との関連を通して－	単著	平成26年12月	奈良保育学院研究紀要第16号	教育実習を進めていく流れとして、教育課程総論で幼稚園の歴史から計画していくことを学んだ。次にそれを実際に演習と合わせて、授業を展開してきたことをまとめた。また学生には実習にいき、どのようなことでつまずいたのか、どのようなことで注意を受けたのかを具体的にアンケートをとり、まとめた。 執筆：間井谷容代
７．地域子育て支援に取り組む実践者を対象にした教育プログラムへの参加動機	共著	平成29年1月	関西福祉科学大学総合福祉科学学会学術集会	子どもと家庭を支援する実践者と研究者の学び合いを質的に研究するとともに文献研究と実証的な量的調査研究を通して実習教育の理論的構造を明らかにすることをまとめた。実習教育では発達障害の子ども関わりについて問題としてあがり、地域子育て支援として福祉施設や専門機関等の連携の必要性についてもまとめた。 執筆：新川泰弘　宮野安治　間井谷容代　西元直美 林　龍平
８．保育者の子育てに関する一考察 - わが子の子育ての悩みに注目して -	共著	平成29年3月	奈良学園大学紀要第６号	現在保育者はどのような子育ての悩みがあるかを明らかにすることとして、保育者としてのアイデンティティ形成、パーソナリティ、職務について認識、職業観との関連について検討し、アンケート調査を行いまとめた。 執筆：岡村季光　間井谷容代　谷本一榮

著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
９．保育者の子育てに関する探索的研究	共著	平成30年5月	日本保育学会第71回大会(宮城県)	現代の保育者がどのような子育ての悩みがあるかを定量的変数との関連により検討した。また自由記述により探索的に検討を行いまとめた。その結果、子育ての負担感として「病気」に関することを始めとしたキーワードが抽出され、特に障害のある子どもの場合、子育ての負担感がさらに増大することが考えられた。 執筆：岡村季光　間井谷容代
10．保育現場における他職種との協働について①保育士の視点	共著	平成30年5月	日本保育学会第71回大会(宮城県)	保育現場で気になる子どもがいるとすぐに発達障害の疑いをかけがちである。集団生活ができないと発達検査を勧めるケースが多々増加している。関連機関と連携を持ち保育士が保育上で何らかの特別な支援が必要だと思われる子どもへの支援方法等の役割について検討し、まとめた。 執筆：間井谷容代　　宿谷仁美
11.保育領域にチーム体制を取り入れた支援について －保育者と実践を通して－	単著	令和4年3月	日本保育者養成教育学会第6回	保育領域にチーム体制を取り入れた支援方法について、某こども園で実践を行った経過を発表した。保育者と共に子どもの姿を追い、支援を続け、園内のチーム体制を含め何度も検討を行い、体制を整えてきた。結果子ども、親が安心できる職員集団へと変わってきたことを実証した。 執筆：間井谷容代
12.多様化する子育て支援のあり方について －子育て支援の現状を探る－	共著	令和4年5月	日本保育学会第75回大会	多様化する子育て支援の現代。取組み方法は様々である。それらを踏まえ再度原点を見つけるために、子育て支援の始まりを調べる。 それを知り得た後、各園、事業、センターで行われている支援内容を具体的に知る。今後、実際取り組まれている支援者である保育者、活用している保護者に調査を行う。 執筆：間井谷容代　　高橋千香子
13.保育者におけるワーク・ライフ・バランスと保育者効力感の関係	共著	令和4年5月	日本保育学会第75回大会	本研究では，子の有無別に各下位尺度間を年齢と保育者歴を統制変数としたピアソンの偏相関係数（r）で求めた。子のいない者は保育者として期待を求められる仕事をしつつ，自らの時間を確保でき，プライベートとの切り替えが図れているのに対し，子のいる者は多忙で仕事とプライベートの切り替えがうまく図れていない可能性が示唆された。図表で示した。 執筆：岡村季光　間井谷容代
14.幼稚園実習を通して学生の自己成長を促すルーブリックの開発と活用	共著	令和5年3月	奈良学園大学紀要第15号	本研究では，幼稚園実習事前事後指導でルーブリック評価を活用し、学生の実習に向けての資質向上を図る。実習事前・実習中・実習事後の3回ルーブリック評価を行い、学生が実習に対して意識を持ち取り組むように進める。その中で、保育現場が今抱える問題(保育者不足)による実習指導に対して齟齬が生じてきている。この現状を打開するために学生の資質向上に努める。 執筆：間井谷容代　石原由貴子　高岡昌子　岡村季光
15．担当制保育の理念と現実ギャップに関する研究 ―保育現場アンケート調査を通して　―	共著	令和6年3月	日本保育者養成教育学会第８回	保育所保育指針並びに幼保連携型認定こども園教育・保育要領（指針・要領）が2018年に改訂（改定）され、3歳児未満の指導計画に「緩やかな担当制」（担当制保育）「情緒的な絆を深められる」ことが示された。現場では、保育方法として乳児保育に担当制保育を取り入れ、保育者は日々模索しながら進めている。そこでどれだけ保育者が担当制保育を意識しながら実現されているのか、保育現場の協力の下、担当制保育の認知度と内容理解度について、アンケート調査を行い、理論と保育者の思いの相違に着目する。 執筆：間井谷容代　　岡村季光
16．担当制保育に対する意識調査から	共著	令和6年3月	日本保育者養成教育学会第８回	2018年に保育所保育指針の改定により、乳児保育が注目された。指針内容では「緩やかな担当制」「情緒的な絆を深められる」が記され、保育方法が話題となっている。保育方法については、担当制保育の方法や事例等も出版されている。保育者は逡巡しながら取り組んでいるようである。そこで、指針改定がどれだけ意識しながら実現されているのか、保育現場の協力の下、担当制保育の認知度と内容理解度、現在の保育体制について、アンケート調査を行った。 執筆：土谷長子　間井谷容代
（その他） 1.保育領域にチーム体制を取り入れた支援について	単著	令和3年1月	大阪教育大学大学院連合教職実践研究科高度教職開発専攻 報告書	保育領域にチーム体制を取り入れた「気になる行動をする子どもや発達障害の子どもとその保護者への支援」の構築に関する報告である。まず保育教諭の「子ども支援」「保護者支援」に対するニーズに着目しニーズをアンケート調査より具体化した。結果、困り感・情報共有が十分でないことがわかった。取組みとしてチームとしての体制を整え、保育教諭の子ども支援、保護者支援が効果的で安定したものとなるように取組み実証した。

（注）

1　この書類は，学長（高等専門学校にあっては校長）及び専任教員について作成すること。

2　医科大学又は医学若しくは歯学に関する学部若しくは学部の学科の設置の認可を受けようとする場合，附属病院の長について　もこの書類を作成すること。

3　「研究業績等に関する事項」には，書類の作成時において未発表のものを記入しないこと。

4　「氏名」は，本人が自署すること。

5　印影は，印鑑登録をしている印章により押印すること。ただし，やむを得ない事由があるときは，省略することができる。この場合において，「氏名」は，旅券にした署名と同じ文字及び書体で自署すること。

別記様式第４号（その２）

教　育　研　究　業　績　書

令和　4 年 5 月 19 日

氏名　前田　綾子　　印

研究分野	研究内容のキーワード
幼児教育	保育者論、保育内容、保育と環境、保育と人間関係　★確認

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
１　教育方法の実践例		
1）絵本を活用した言葉力育成	平成21年4月～23年3月	語彙力を増やすために、言葉とイメージを関連付けてることに絵本を活用した。保育園から図書館分室にお散歩する時間を設定し、図書館に慣れ親しませるとともに、絵本を借りる習慣をつけた。さらに地域の読書ボランティアを活用して、読み聞かせの時間を設定し多様な本に触れる機会を増やした. （尼崎市立花南保育所での実践）
2）異年齢交流遊びで良好な人間関係育成	平成23年4月～26年3月	3 歳児以上のクラスの幼児において、毎週縦割り保育の時間を設定し、遊びの教え合いを通して、少子化が進む中で兄弟のような人間関係構築し、異年齢間での振る舞い方や感情（年少への思いやりや年長への信頼）を育てた。 （尼崎市立大島保育所での実践）
3）地域住民の要望を反映した保育所経営	平成23年4月～現在に至る	保育所の評価を自己評価だけでなく、保育所関係者の評価も実施して、その資料を公開し、夜間に会議を開催して、地域住民や保護者等と話し合い、要望を受け止め、次年度の保育計画に反映した。 （所長を務めた保育所で実施）
4）発達年齢を実感するために実習時間の設定	平成26年4月～現在に至る	大学で学んだ知識と保育所実習との齟齬に戸惑う実習生が多いことから、子どもの発達について全年齢クラスに入り、具体的な子どもの姿と大学の学習が結び付くような時間を、実習の中に取り入れた。この検証を基に次年度に、新たな保育所実習のしおり作成し、武庫南保育所で使用した。 （尼崎市立大庄・武庫南保育所の実践）
２　作成した教科書・教材		
1）保育実習の手引き　単著 尼崎市立大島保育所発行	平成23年6月	保育実習に臨むにあたって保育所とはどういうところなのか、生活の流れなどを事前に理解してもらうと共に安全に対する配慮事項や、心構え、挨拶などや持ち物、保育所におけるルールなどについて具体的に記した冊子を作成。 （尼崎市大島保育所で実習生指導に使用）
2）保育所実習のしおり　　単著 尼崎市立武庫南保育所発行	平成27年6月	実習生のタイプが変わってきたことから上記内容に加えて、毎日目標を持地、振り返りをし翌日に活かすこと、わからないことや何をしたら良いのか迷うときは自分から積極的に職員に聞くことなどより、実習生としての実習に臨む態度を具体的に示した。 （尼崎市立武庫南保育所の実習生指導に使用）

３　教育上の能力に関する大学等の評価 尼崎保育福祉専門学校の学生アンケート。	令和元年６月	尼崎保育福祉専門学校　80 名を対象に講義 実習前の学生にグループワークにより、不安の軽減、積極的に実習に臨む、授業で学んだ子どもの発達を意識することを伝えた。職員への感謝の気持ちの重要性も伝えた。講義の後半は安心し質問をするなど積極的に変容した。授業評価は４点満点で 3.8。
４　実務の経験を有する者についての特記事項 1）尼崎市モデル保育所実践報告会発表	平成 27 年３月	尼崎市中央公民館 40 名参加 ★内容を簡単にテーマ等書く
2）保育内容研究会保育公開で発表	平成 28 年 11 月	尼崎市立大庄保育所 35 名参加
3）保育内容研究会実践発表会	平成 29 年２月	尼崎市中央公民館 50 名参加
4）保育内容研究会保育公開発表	平成 29 年 11 月	尼崎市立大庄保育所 35 名参加
5）尼崎市保育士専門研修講師 「尼崎の保育」の活用	平成 29 年 12 月	尼崎市青少年センターで保育士 25 人を対象に講演。保育指導課からの依頼により、保育士歴５年目から１５年目の公立保育所の保育士を対象に「尼崎市の保育」（冊子）の活用について研修をした。「尼崎の保育」には普段の保育に使える様々な資料が含まれており、その活用方法や、ミドルリーダーとしての自覚を持つことの大切さを伝える。
6）保育内容研究会実践発表会	平成 30 年２月	尼崎市中央公民館 50 名参加
7）尼崎市フォローアップ研修講師	平成 30 年 12 月	尼崎市青少年センターで保育士等 80 人対象に講演。保育指導課からの依頼により、公立保育所、法人保育園、小規模保育園の１、2 年目保育士を対象に「ふれあい遊び」の実技研修を担当する。ふれあい遊びの意義を保育所保育指針に基づき講義をし、１歳児から３歳児を対象としたふれあい遊びの実技講習をした。多くの遊びを知らなくても、１つの遊びをアレンジすることで１歳から５歳まで楽しめたりバリエーションが増えることを伝える。
8）尼崎市保育士専門研修講師 「リーダーシップ研修」	年　　月	保育指導課の依頼により、20 年目以上の保育士を対象に若い職員が増えていっている中で人材育成の手法として「コーチング」について講義をし、グループワークでリーダーとして苦労していることや今後どのように人材育成に取り組んで行きたいのかを話し合う。

5　その他 なし		
職　務　上　の　実　績　に　関　す　る　事　項		
事項	年月日	概　　要
1　資格、免許 保母資格 保育士資格登録	昭和57年3月 平成16年2月	龍谷大学短期大学部学長　二葉憲香　第747号 兵庫県知事　井戸　敏三　兵庫県-011161
2　特許等 なし		
3　実務の経験を有する者について特記事項 ・保育士としての特記事項 教育実習生の指導 各研究会等の発表	昭和59年4月 ～平成20年3月	・クラス担任として、発達に応じた集団づくりに取り組み、2歳児の事例を阪同教と兵同教で実践事例の報告をした。(平成2年7月) ・保育士3年目から毎年実習生を受け入れ、乳児や幼児における養護と教育の統合や、子どもの発達に応じた関わりについて指導をした。 ・個に応じた指導を大切にし、子どもの発達に関しての特記事項を共有するノートを作成し連携した。
・主任保育士としての特記事項	平成21年4月 ～23年3月	・尼崎市子育て支援推進委員会に所属し、今後の子育てセンターの機能や公立保育所のあり方などについて話し合う ・遊びの実践委員会として0歳児から5歳児の一人一人の遊びの発達を把握するために遊びのチェック表を作成（3歳児担当）
・所長としての特記事項	平成26年4月 -28年3月	・所長会の中の保育内容研究会、保育の質の向上推進部会、給食委員会を担当。 ・保育内容研究会担当として毎回の研究会の司会、進行、記録の確認をし、指定保育所が阪同教で発表した時（平成27年7月西宮市深津中学校）就学前部会で司会担当。 ・保育の質向上推進部会では2年間で保育所の自己評価と保護者アンケートを作成し、の実施の詳細を決定。各保育所で実施し、その結果の検討のシステムを決める。とともに防災マニュアルの作成をする。 ・給食委員会は所長の代表として2年間、調理師の代表、チーフ主任2名、管理栄養士をメンバーとして毎月の給食、おやつの反省と次々月の献立の検討をする。
	平成28年4月 -30年3月	・保育内容研究会担当 尼崎市研究指定保育所として「環境による知的好奇心を育む自然との関わり」に関して2年間職場研修を実施し、理論と実際の保育を結びつけ保育所職員が一体となって取り組む。職員をまとめ研究会冊子資料の執筆をする。また、改訂保育所保育指針の研修をし、保育内容研究会の子どもの姿の読み取りに3つの資質能力や、就学までに育てたい10の姿を取り入れ推進。
	平成29年4月 -31年3月	・オールあまっこ連絡協議会平成29年度大庄、平成30-31年度武庫地区代表として法人園地区代表所長とともに公立、法人園の年長児交流会を企画、実施する。
	平成30年4月 -31年3月	・保育内容研究会担当所長として、研究会の運営、司会、書記の確認等をする。
4　その他 なし		

研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
(著書) 「保育内容総論」 「保育の学びファーストステップ」(執筆中)	共 共	2021年9月 未定	みらい 青踏社	保育について学ぶ初心者や経験年数の浅い保育者向けに保育についての全体を学ぶテキスト 保育者養成カリキュラムの保育者論、保育原理、保育内容総論の科目の中の基本的な事柄について解説したもの。
(学術論文) 1 2 3				
(その他) 【研究紀要等】 1				
2 3 【学会発表等】 1知的好奇心を育む（1） NKYWのサイクルに注	単	令和元年5月	日本保育学会ポスター発表 (大妻女子大)	子どもが心動く環境に出会い「何んだろう」「何でだろう」という知的好奇心を抱いた時からその知的好奇心が満たされるまでの過程に着目し、何だろう（N）考えよう（K） やってみよう（Y）わかった（W）という4つ場面がサイクルとして回っていくことが知的好奇心の深まりや広がりに繋がることを論じた。 概要A4判2ページ ポスターB4サイズ8枚
2知的好奇心を育む（2）	単	令和2年5月	日本保育学会ポスター発表 (	子どもの好奇心を分類して好奇心の種類に応じた援助のあり方を論じた。 概要A4版2ページポスターパワーポイント8枚
3コロナ禍における保育実習のあり方に関する一考察	単	令和3年2月	日本乳幼児教育保育者養成学会ポスター発表	コロナ禍の中での実習指導の困難さや、実習の難しさについてや、実習指導のあり方や実習の実施についての提案を論じた。 パワーポイント１０枚